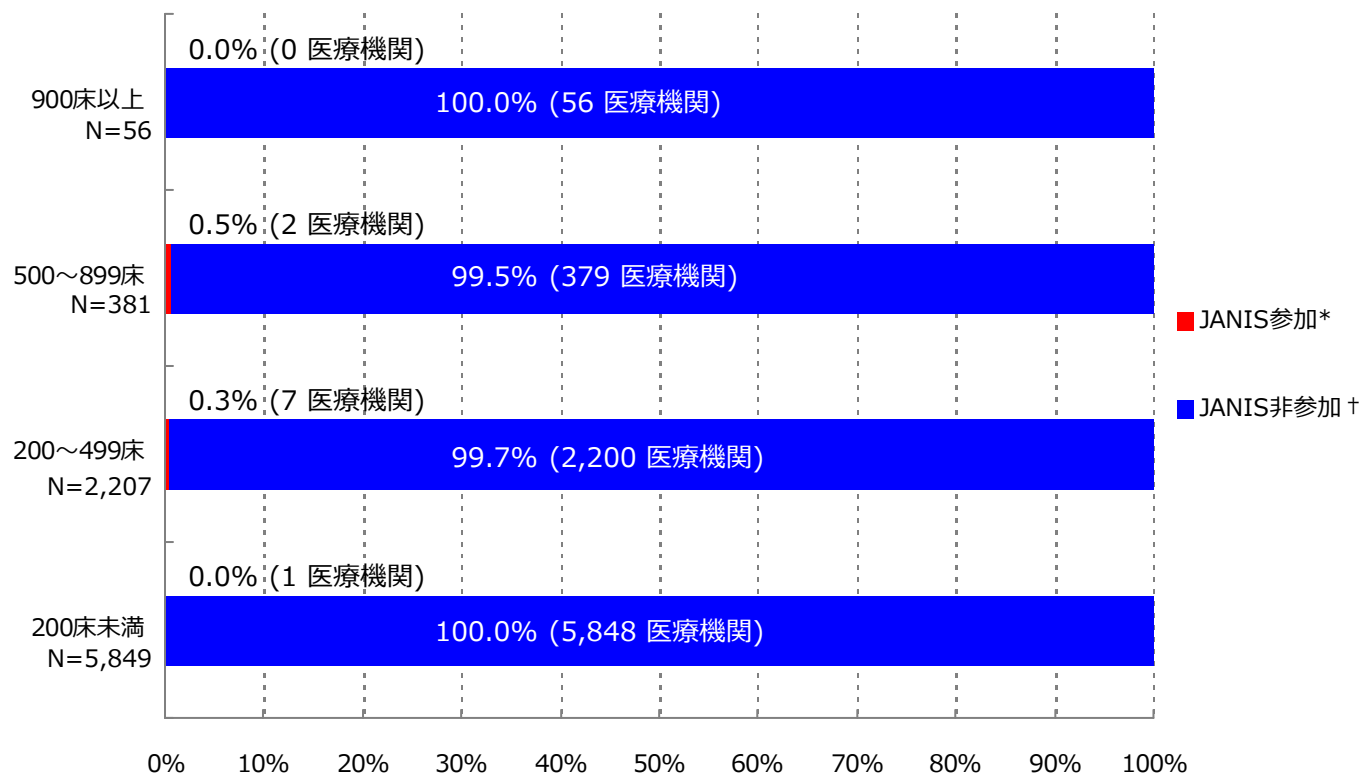


## 1. 集計対象医療機関数(10医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	2 ( 0.5% )
200～499床	2,207	7 ( 0.3% )
200床未満	5,849	1 ( 0.0% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	10 ( 0.1% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	10	2,557	1,615 (2,708)
尿検体	10	1,030	566 (800)
便検体	10	542	213 (311)
血液検体	10	2,793	505 (597)
髄液検体	8	132	2 (2)
その他	10	1,704	903 (1,449)
合計	10	8,758	3,804 (5,867)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

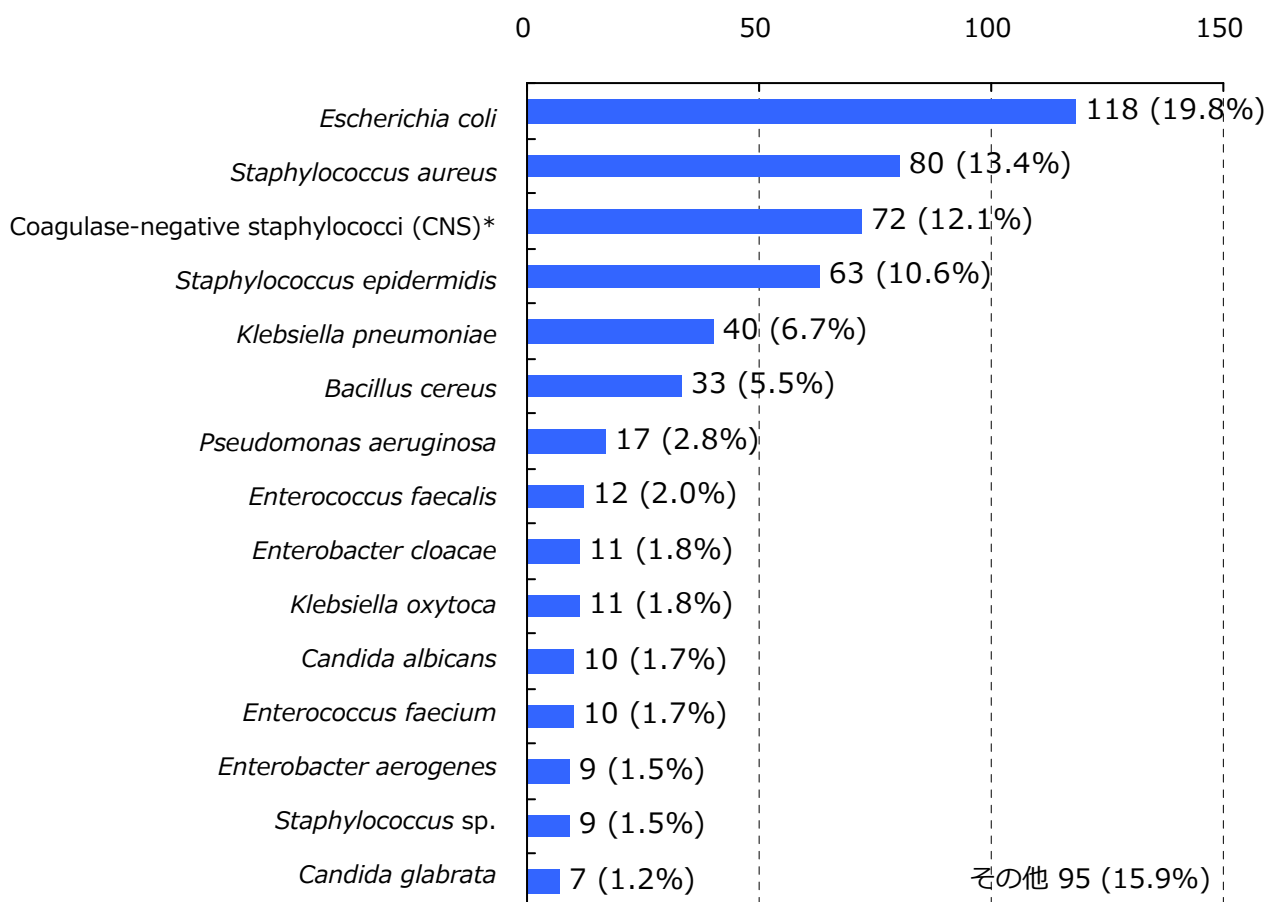
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=597)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

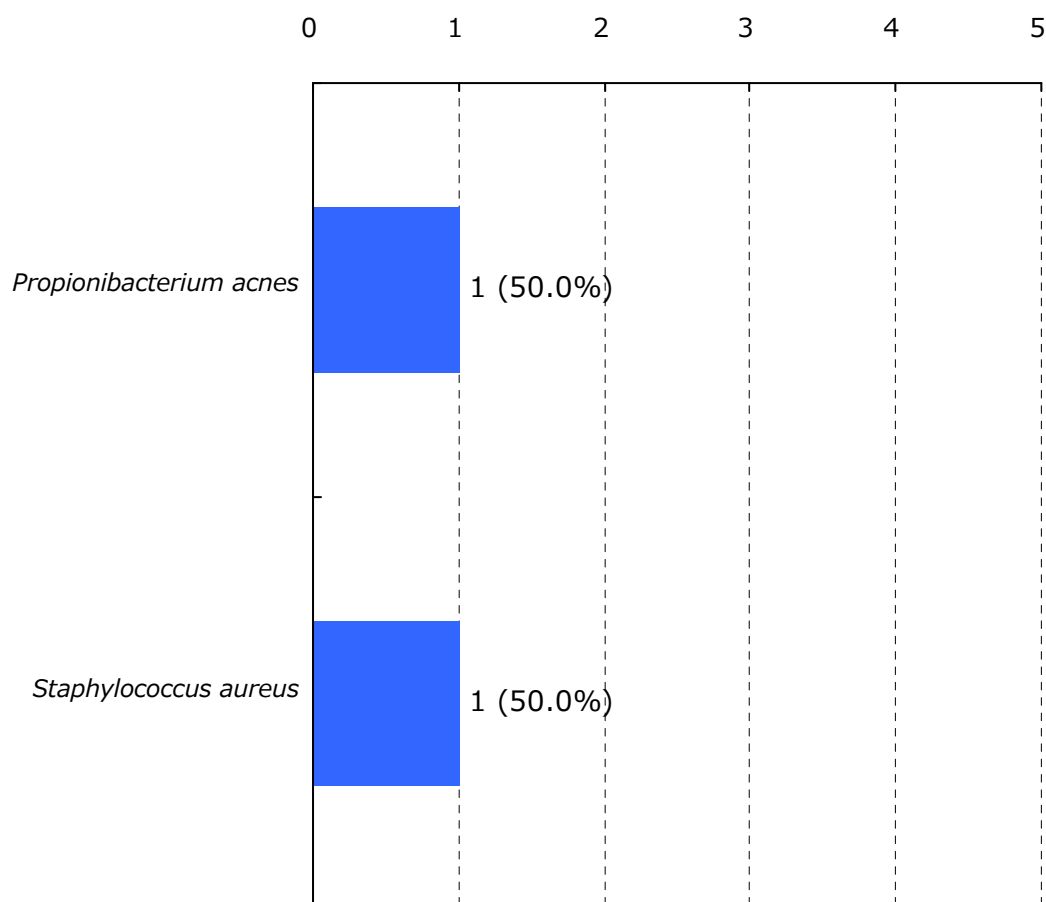
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=2)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡	集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布
検体提出患者数	3,527人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	255人 (7.23%)	4.07 8.35 15.15
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0人 (0.00%)	0.00
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	23人 (0.65%)	0.00 0.38 3.17
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	0人 (0.00%)	0.00
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	7人 (0.20%)	0.00 0.00 0.76
カルバペネム耐性緑膿菌	24人 (0.68%)	0.00 0.45 4.42
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	6人 (0.17%)	0.00 0.05 0.64
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	59人 (1.67%)	0.00 1.43 4.97
フルオロキノロン耐性大腸菌	95人 (2.69%)	0.00 2.81 6.08

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

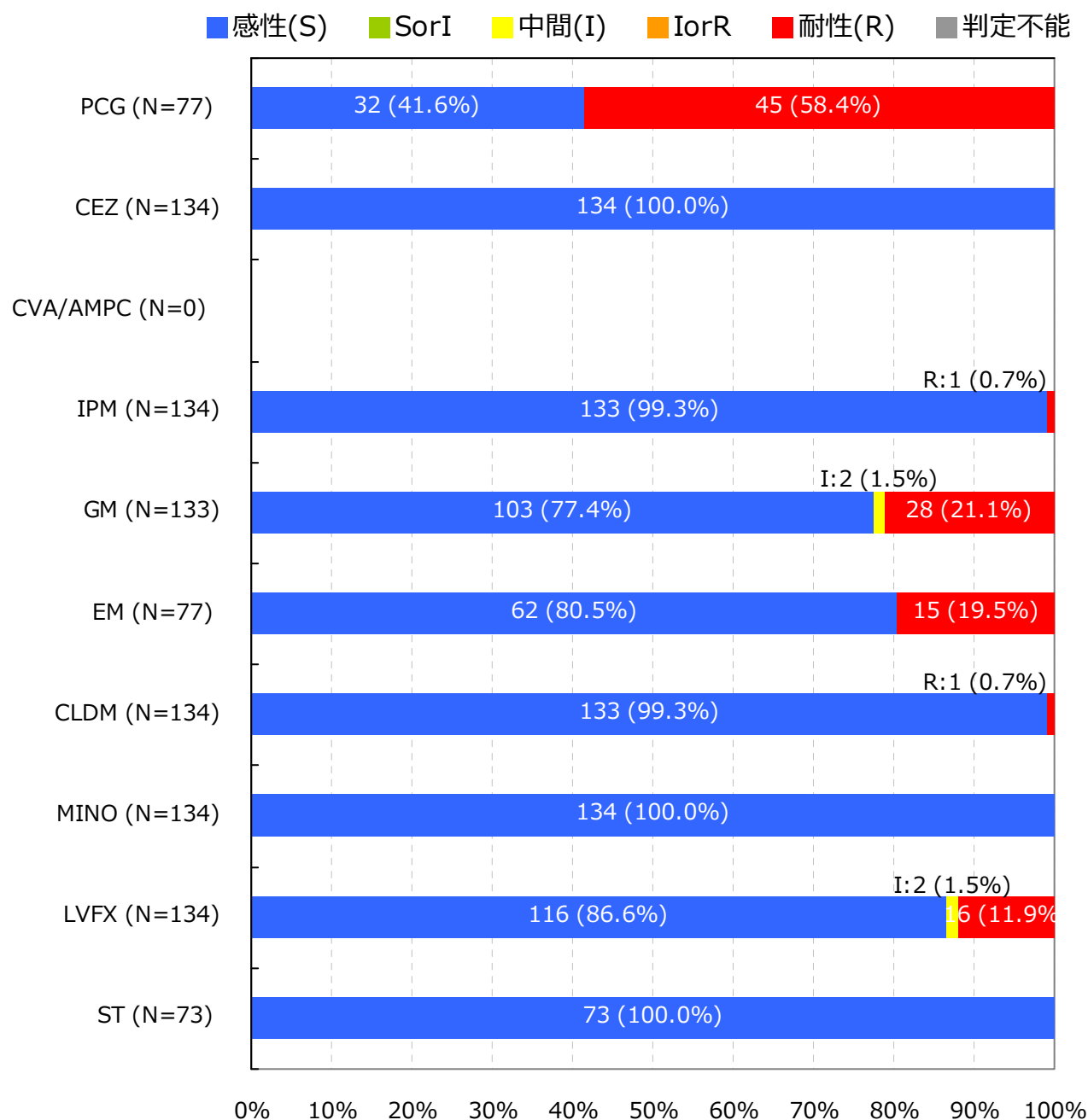
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

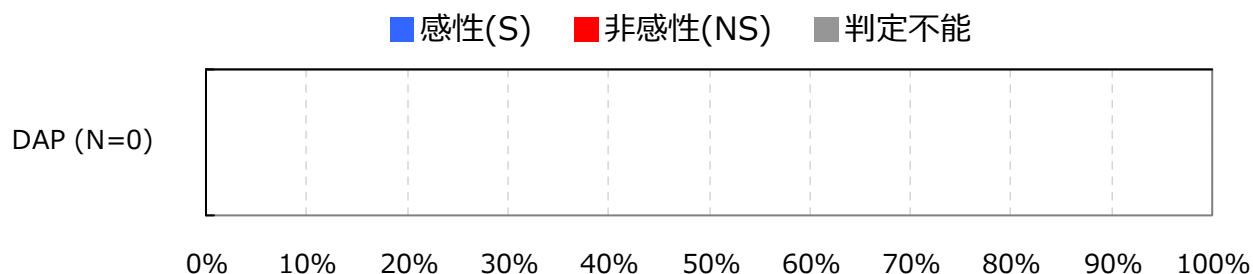
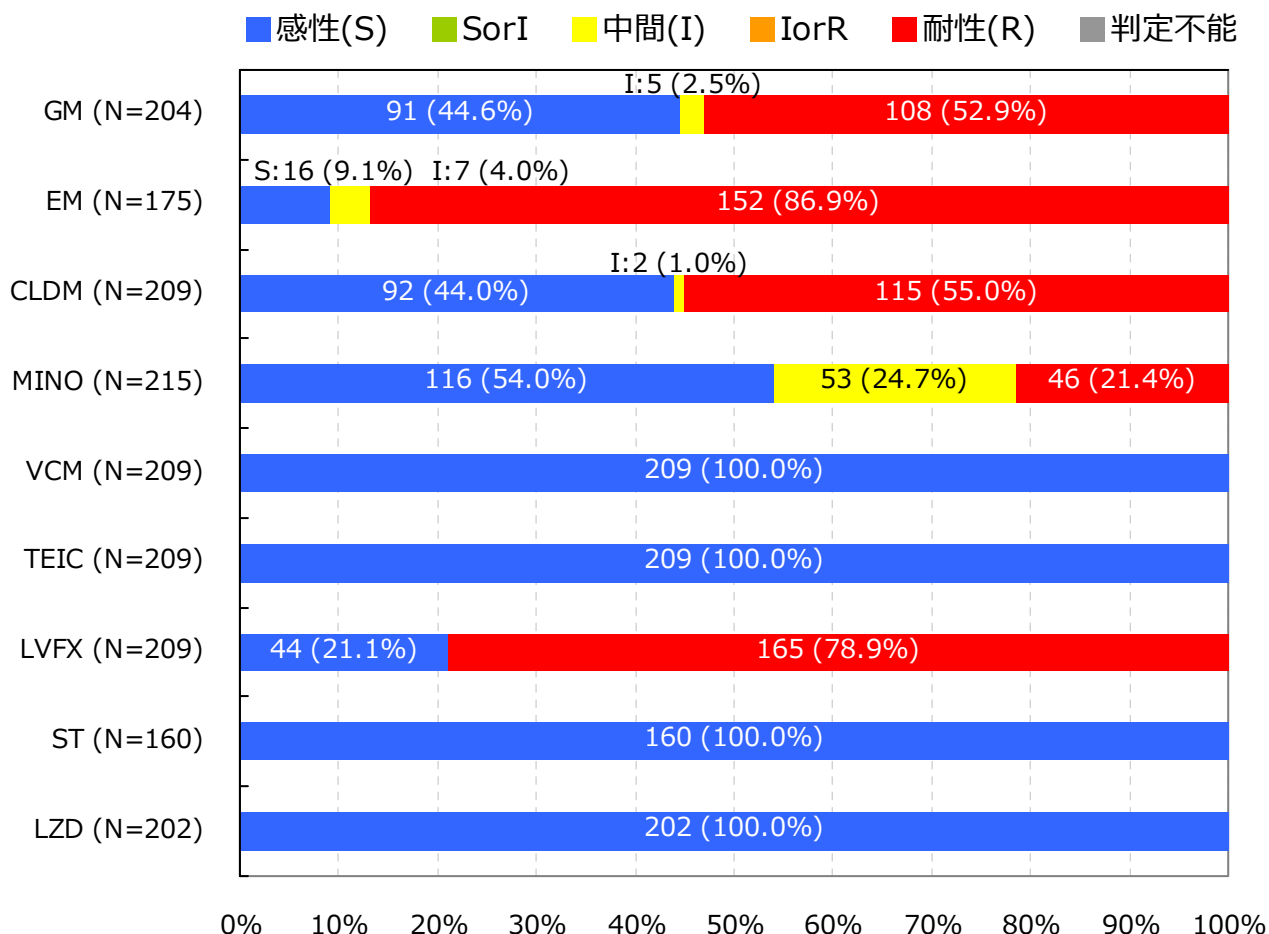
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

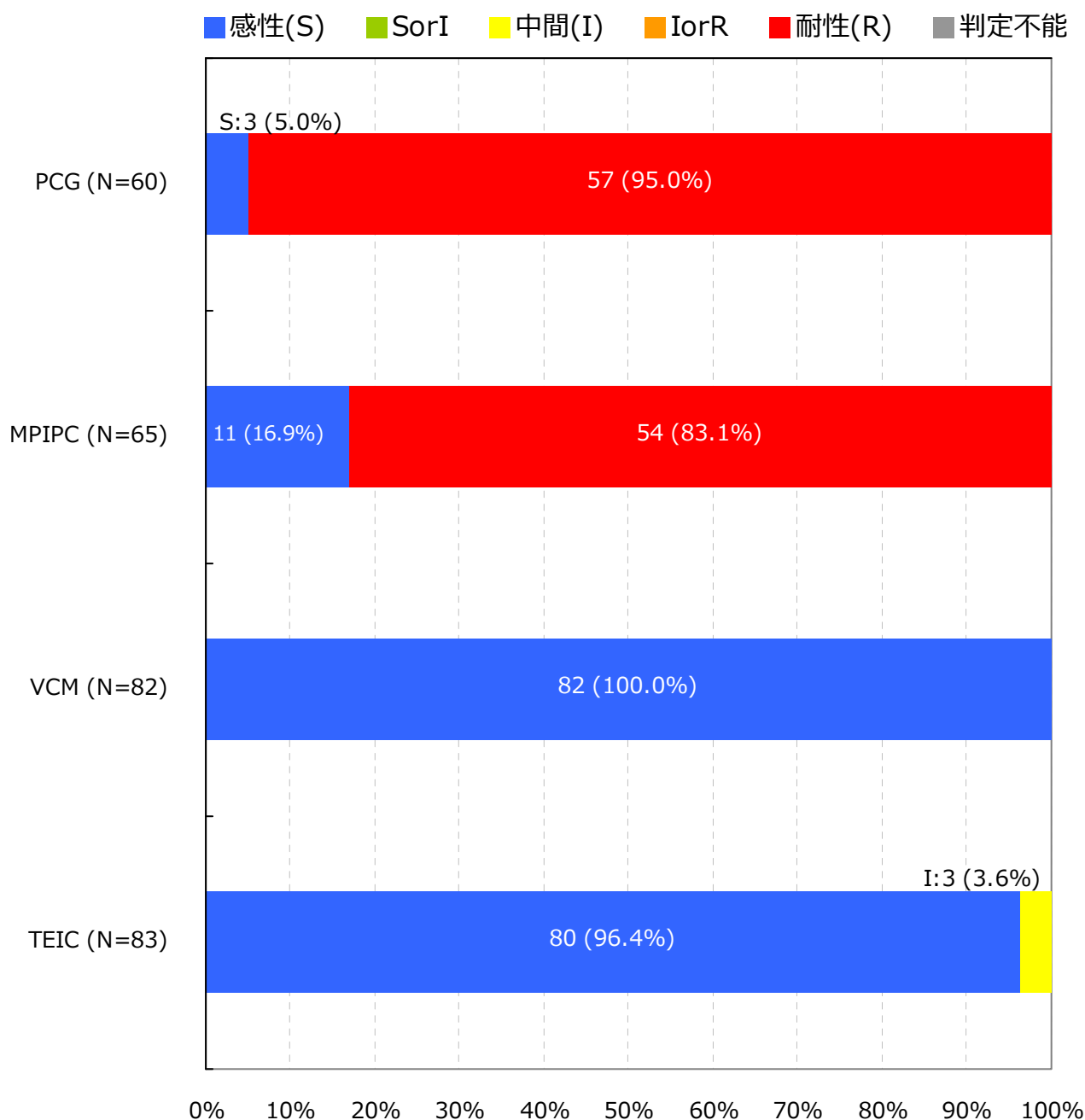
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

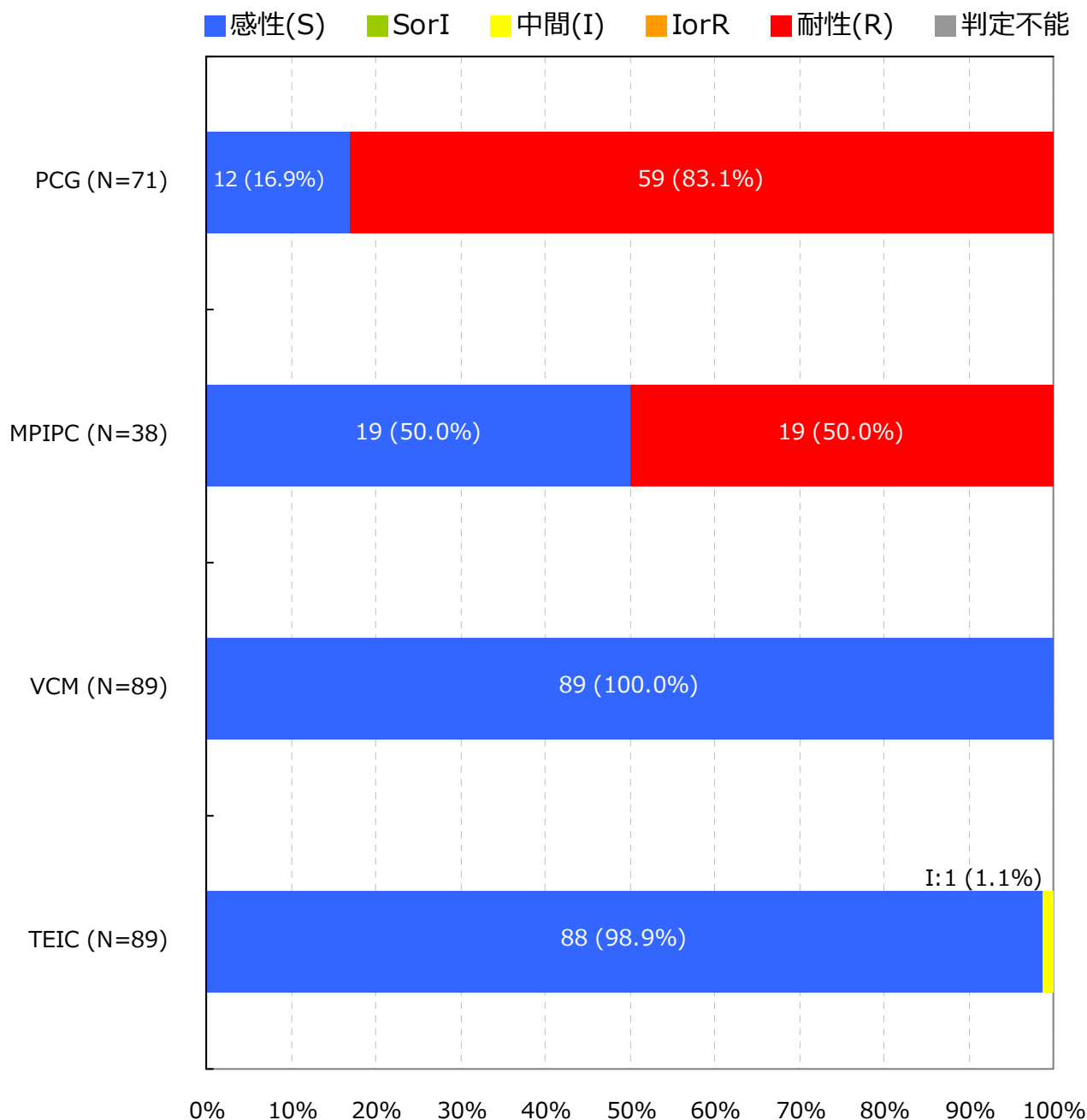
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †

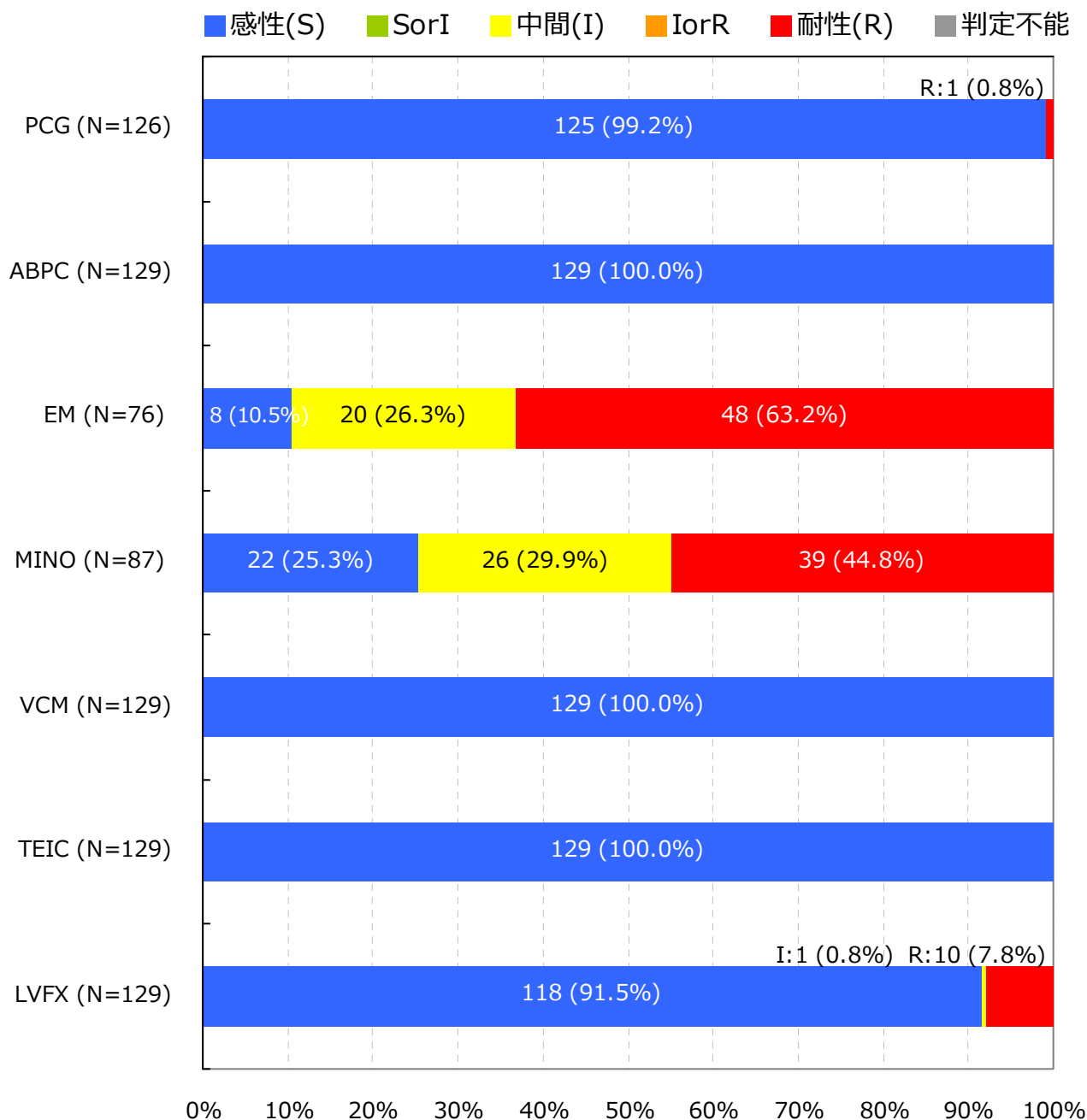


入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

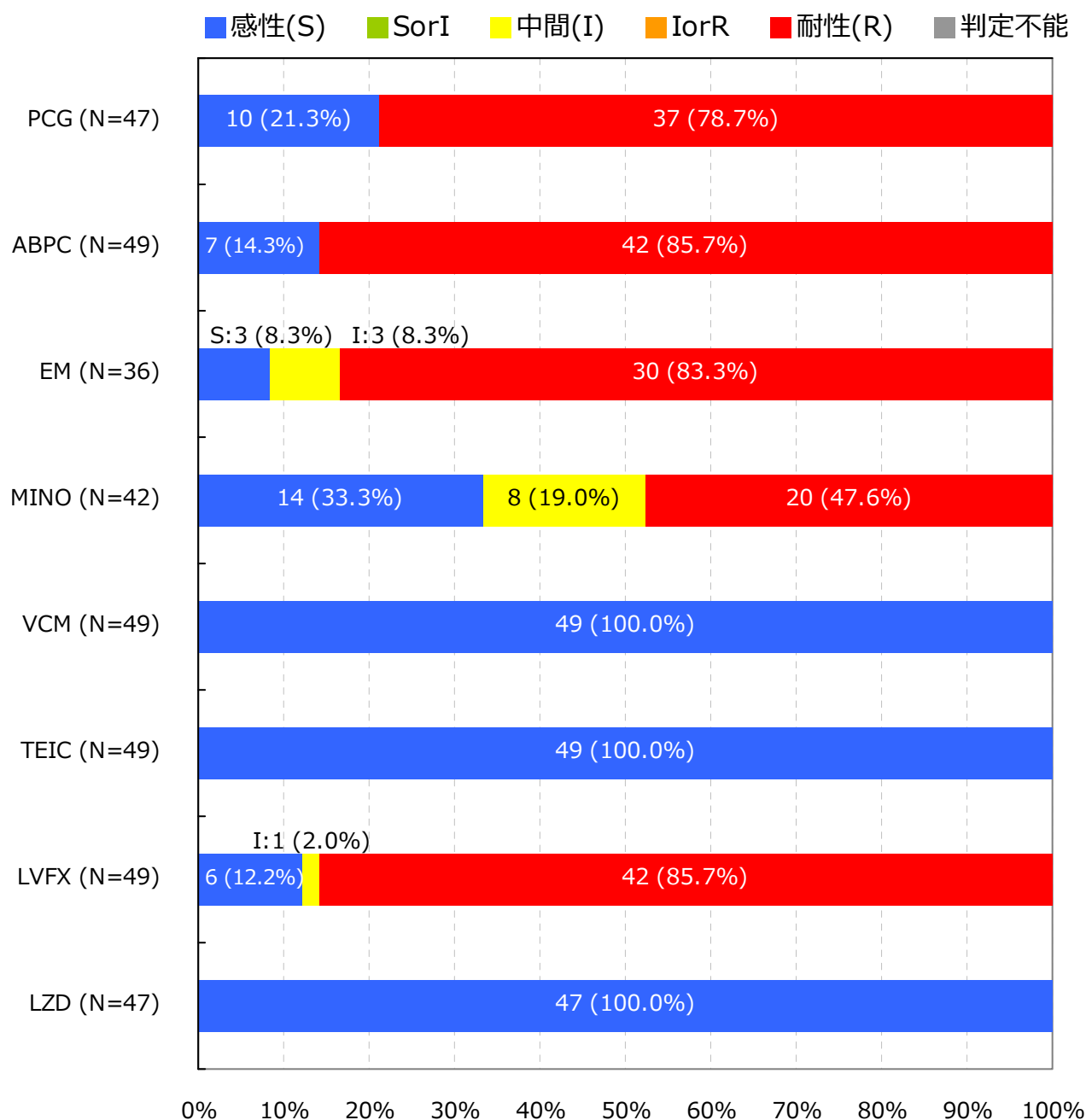
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(鳥取県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

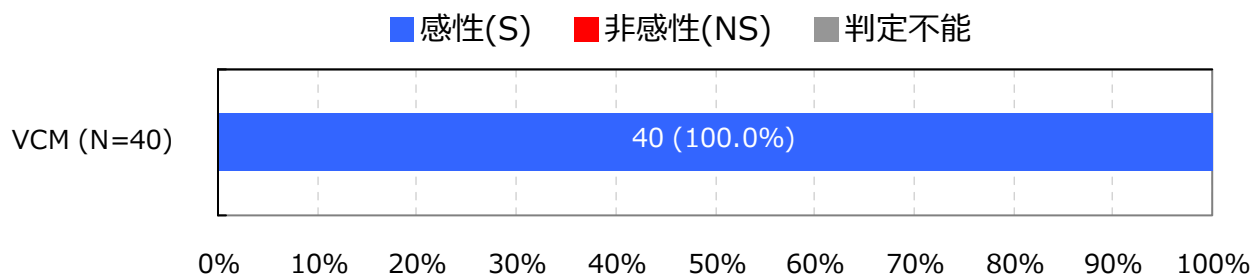
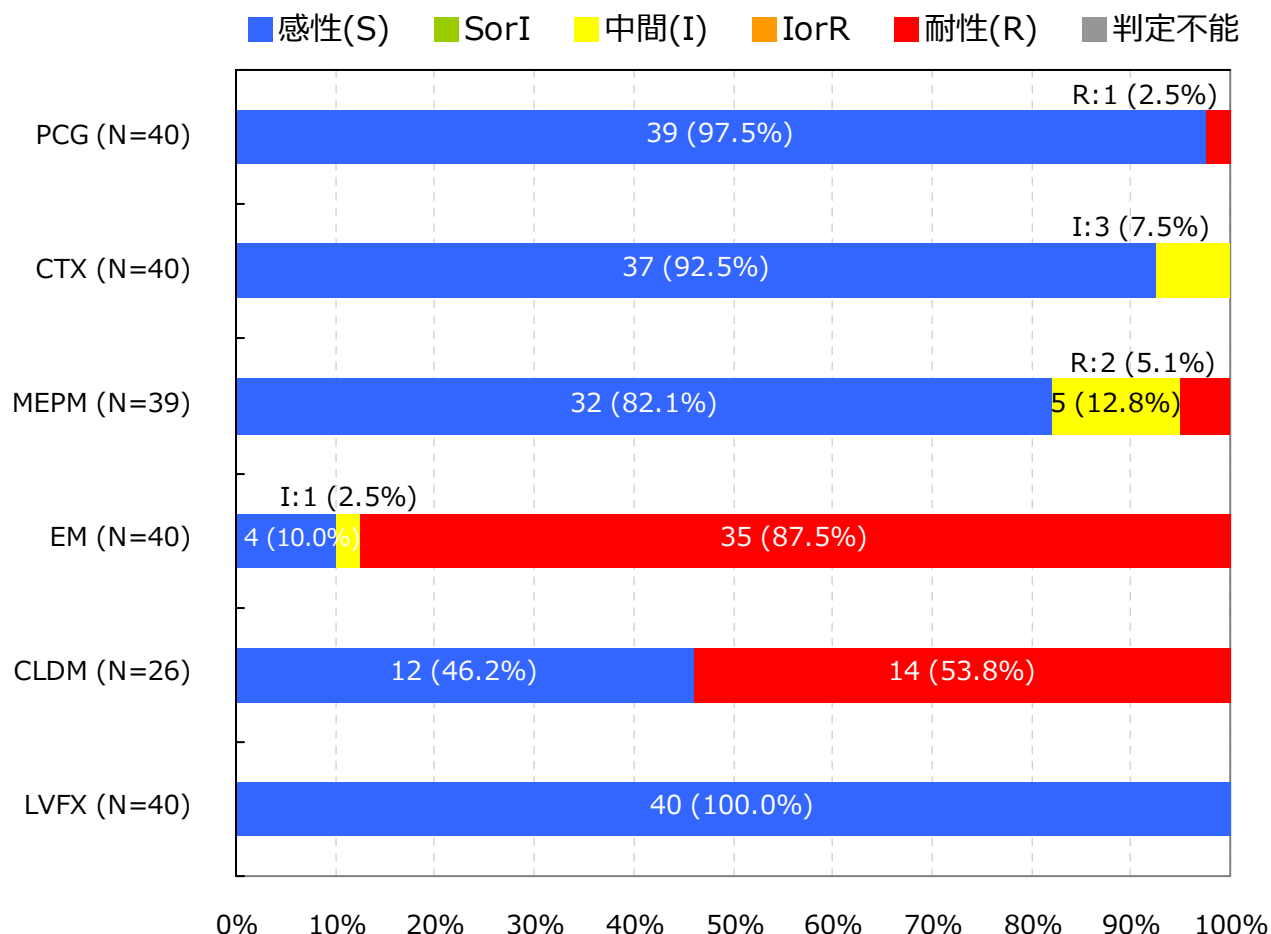
報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

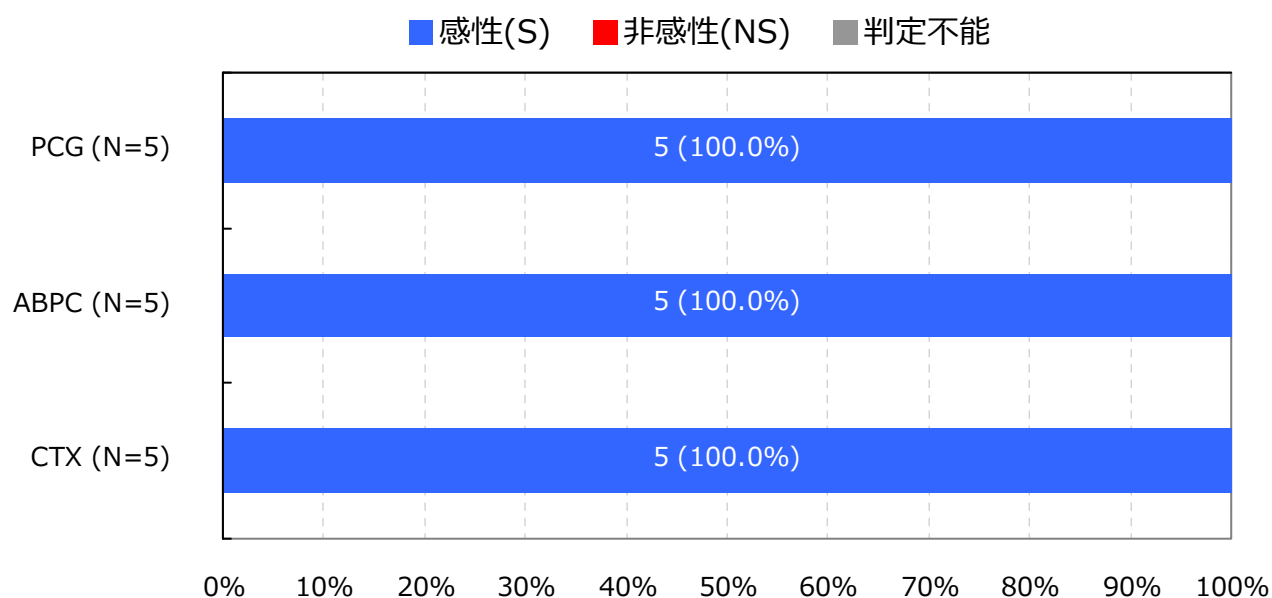
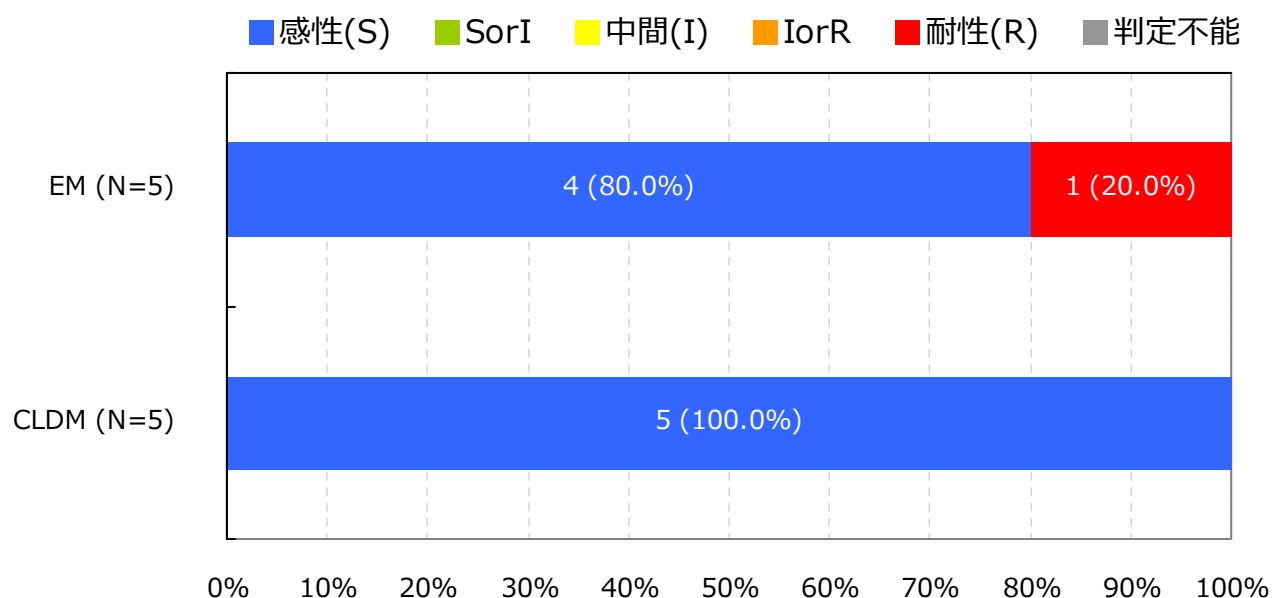
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

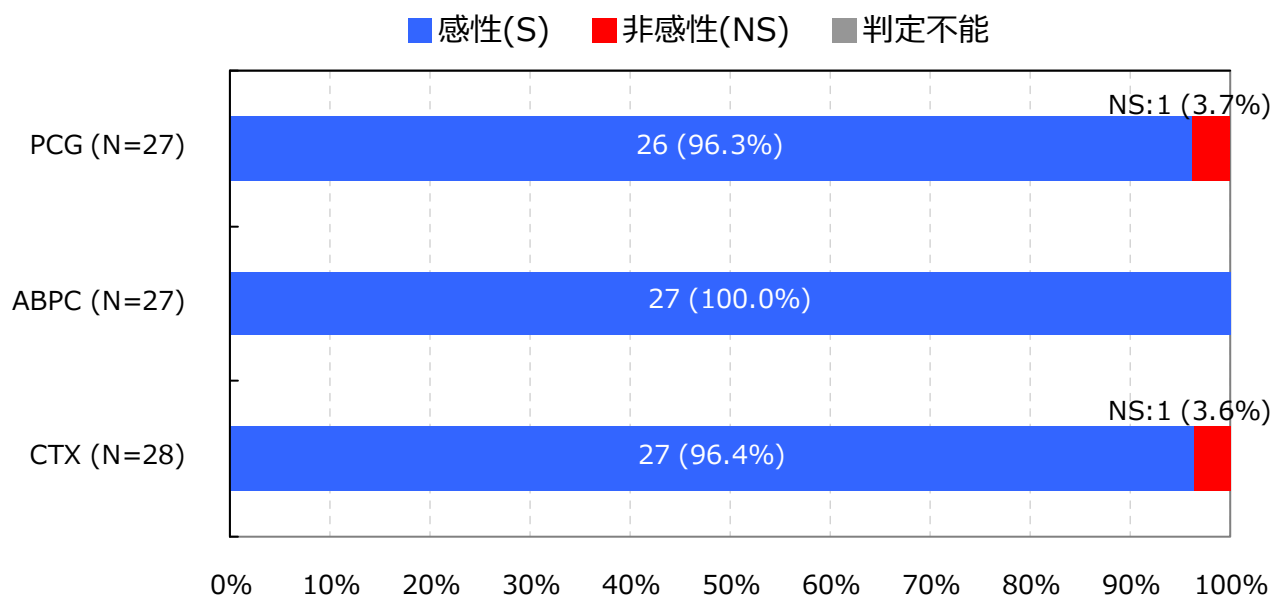
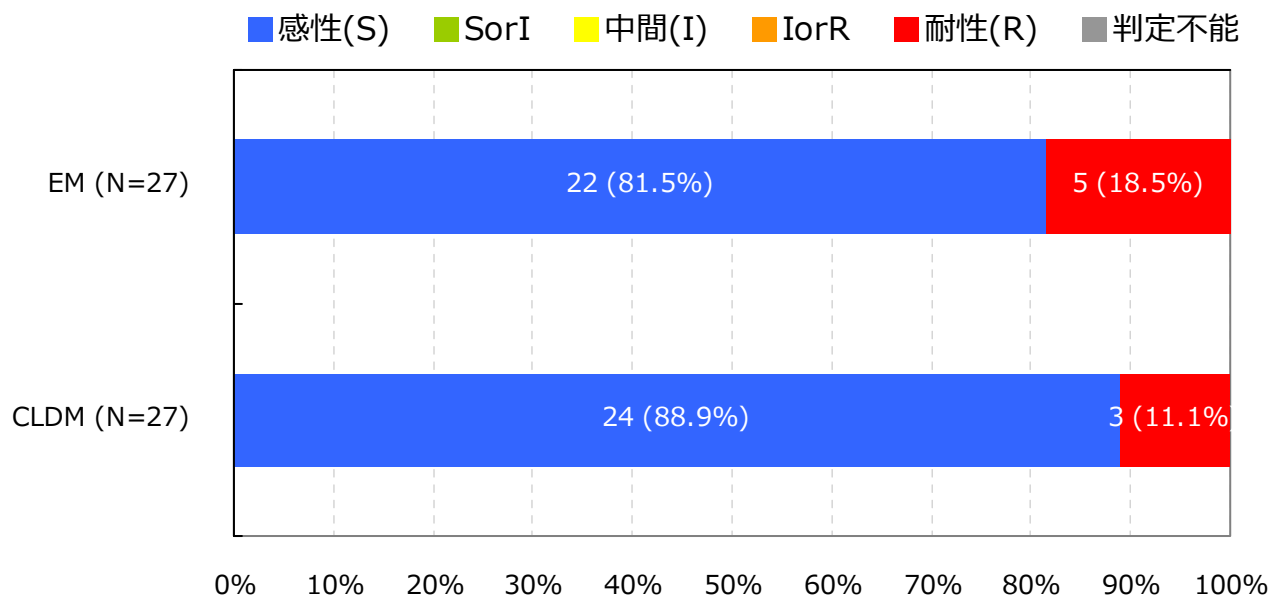
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

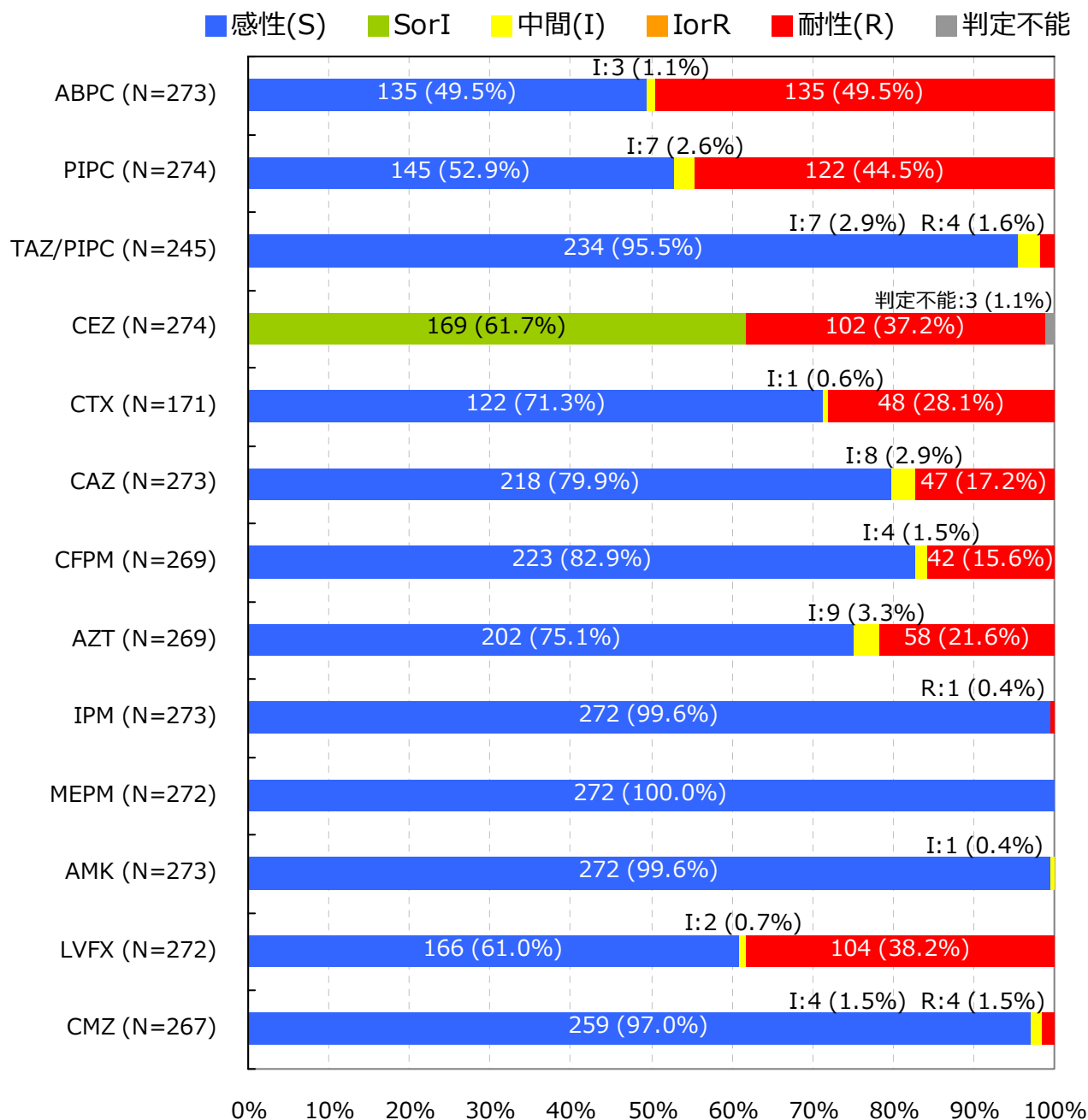
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

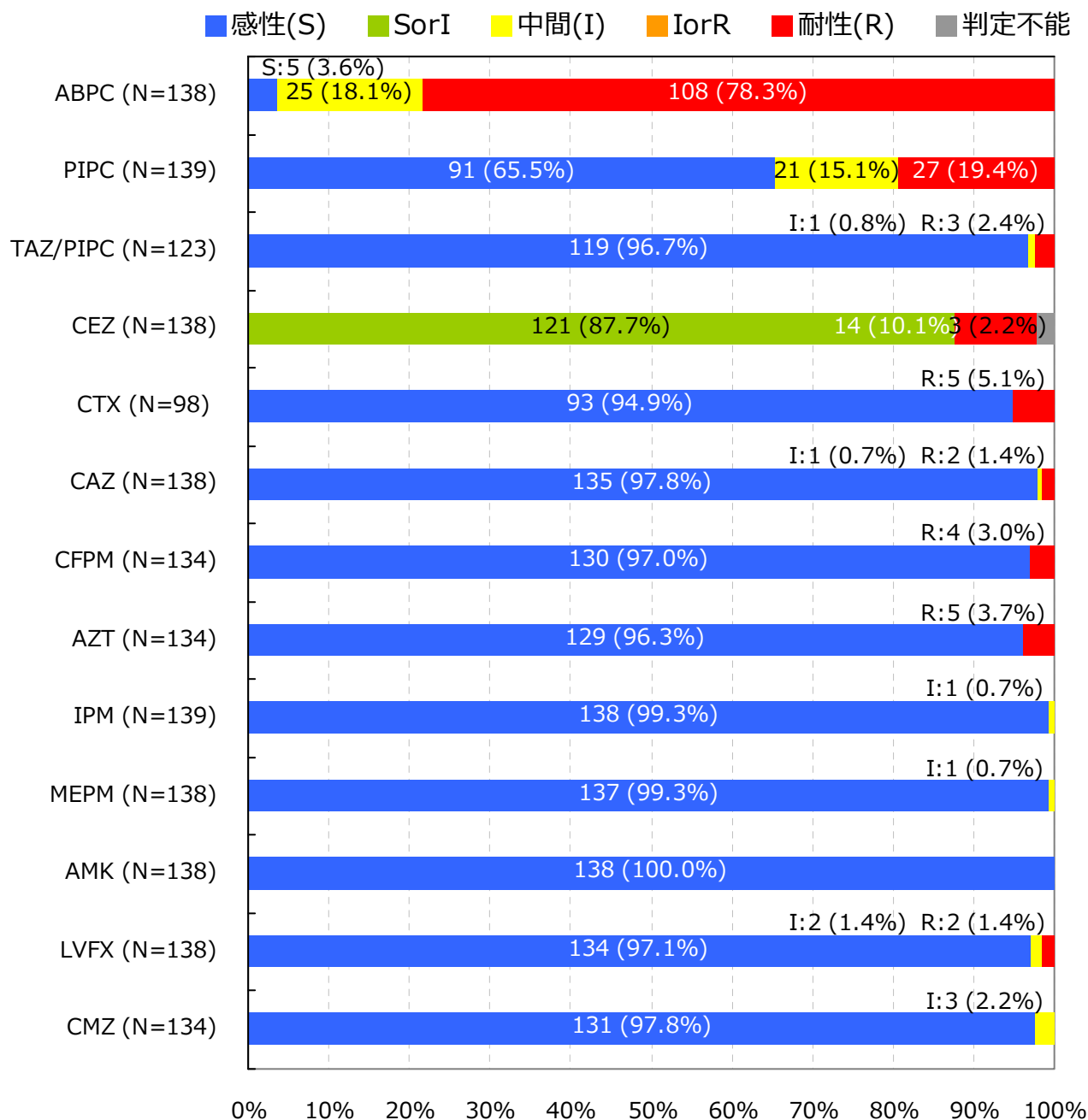
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

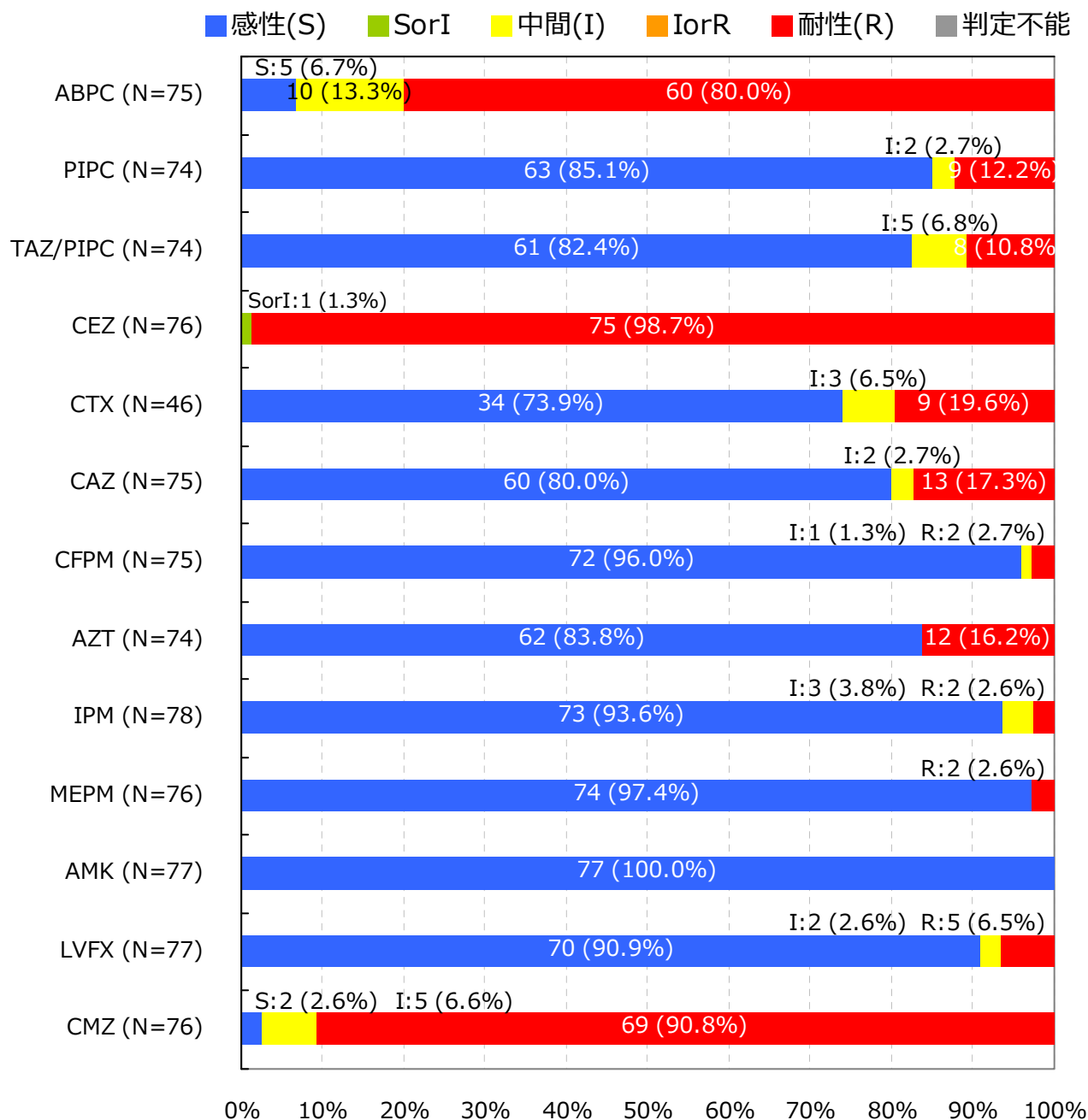
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

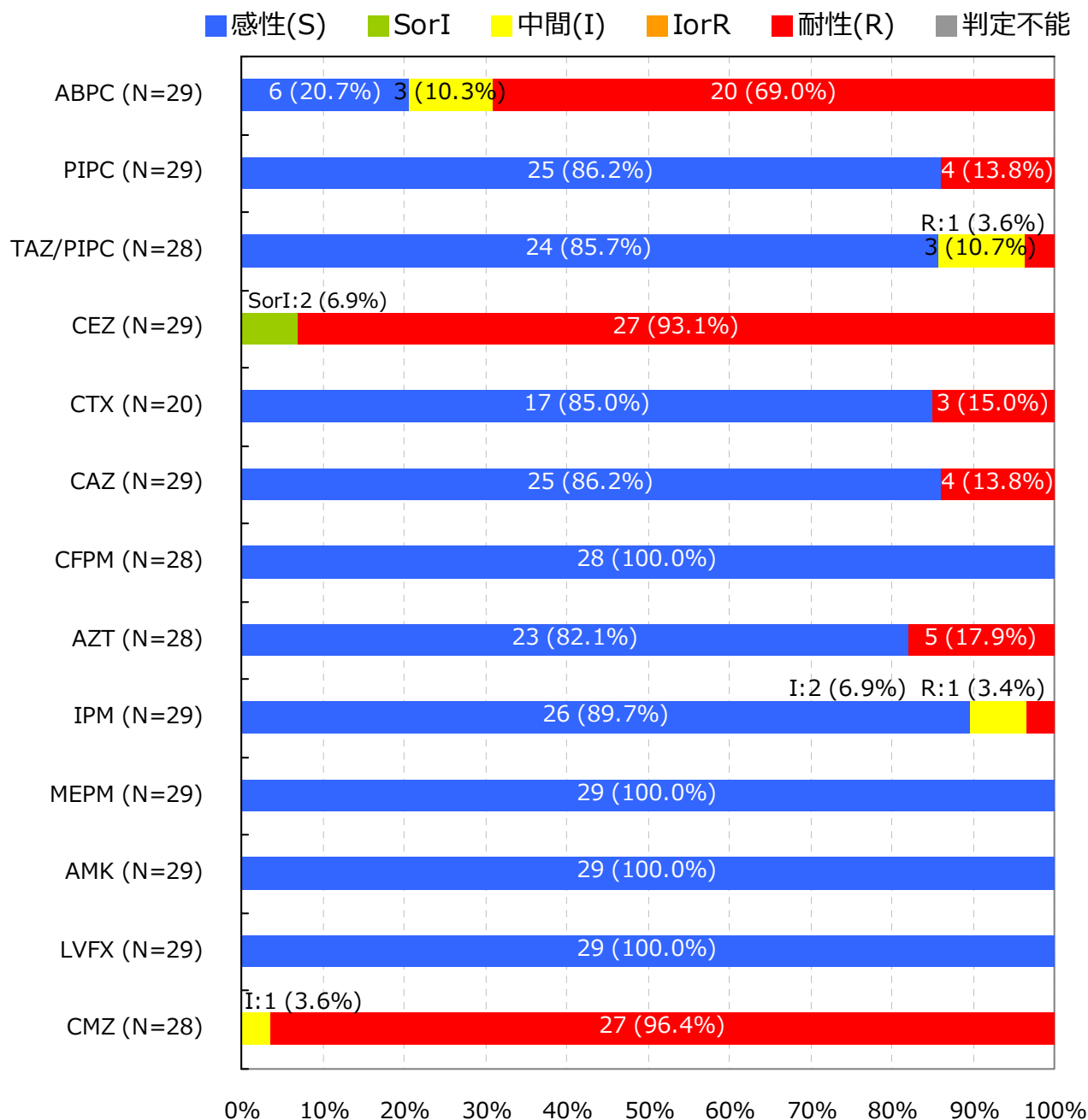
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

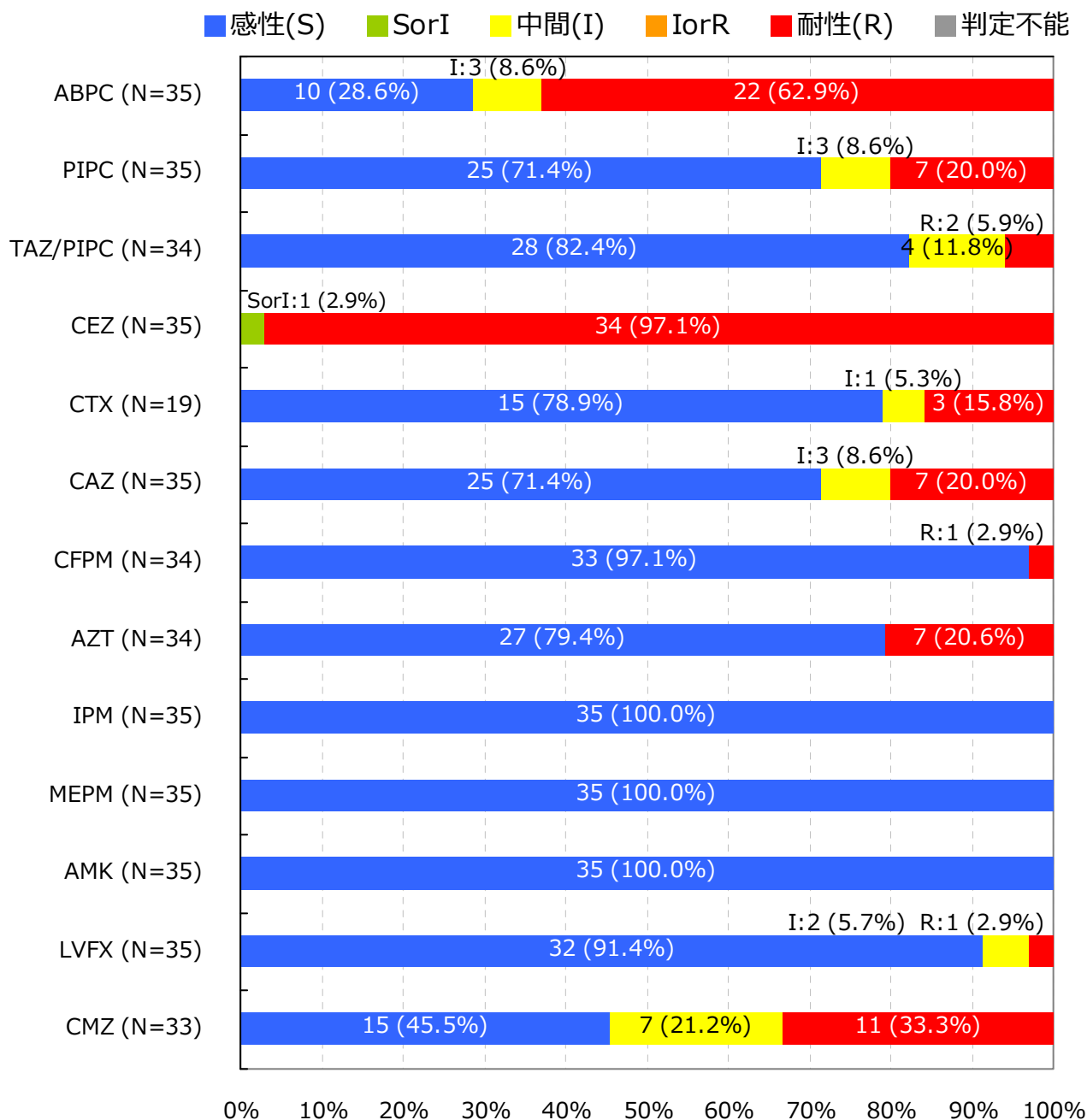
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

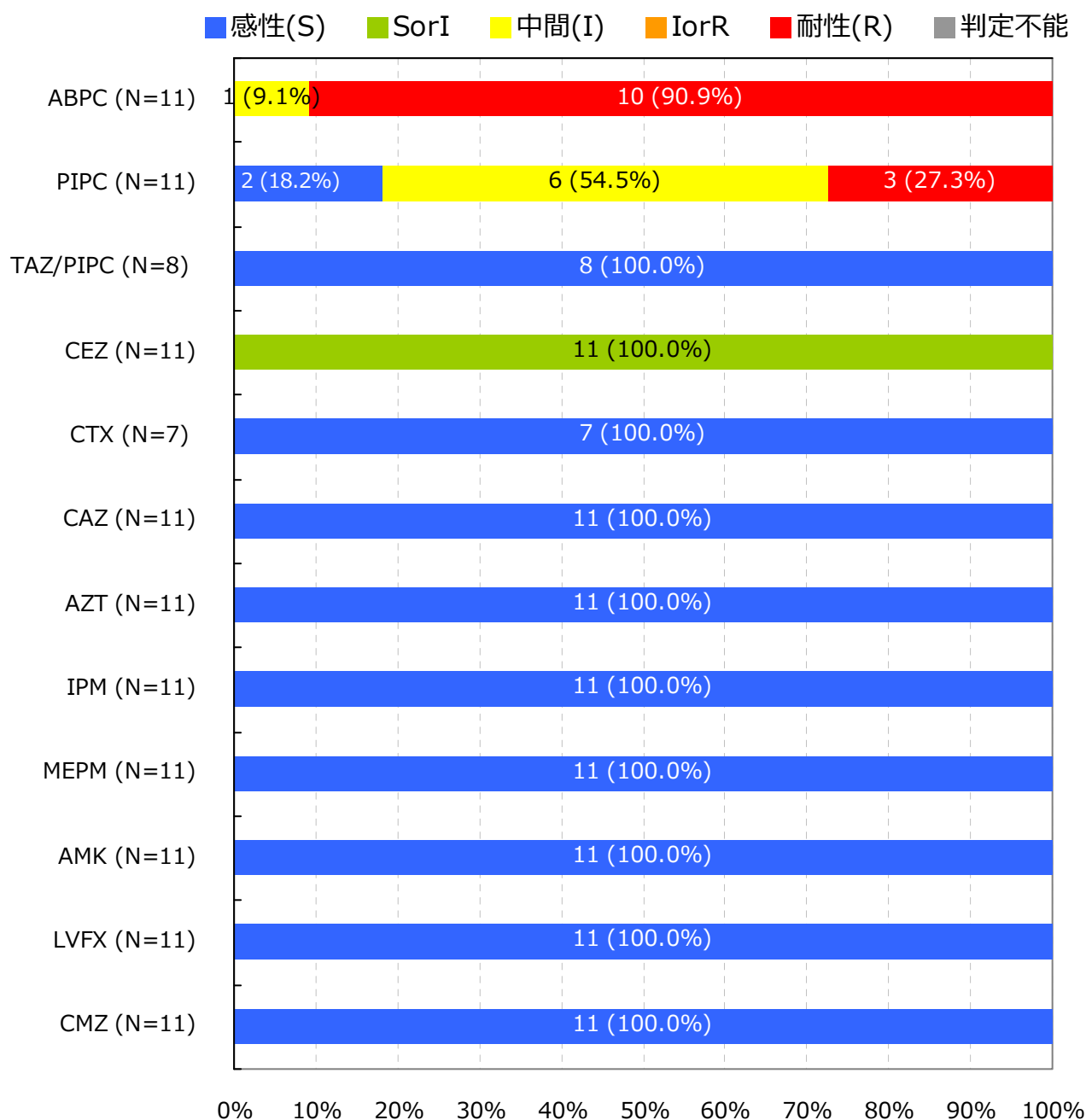
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

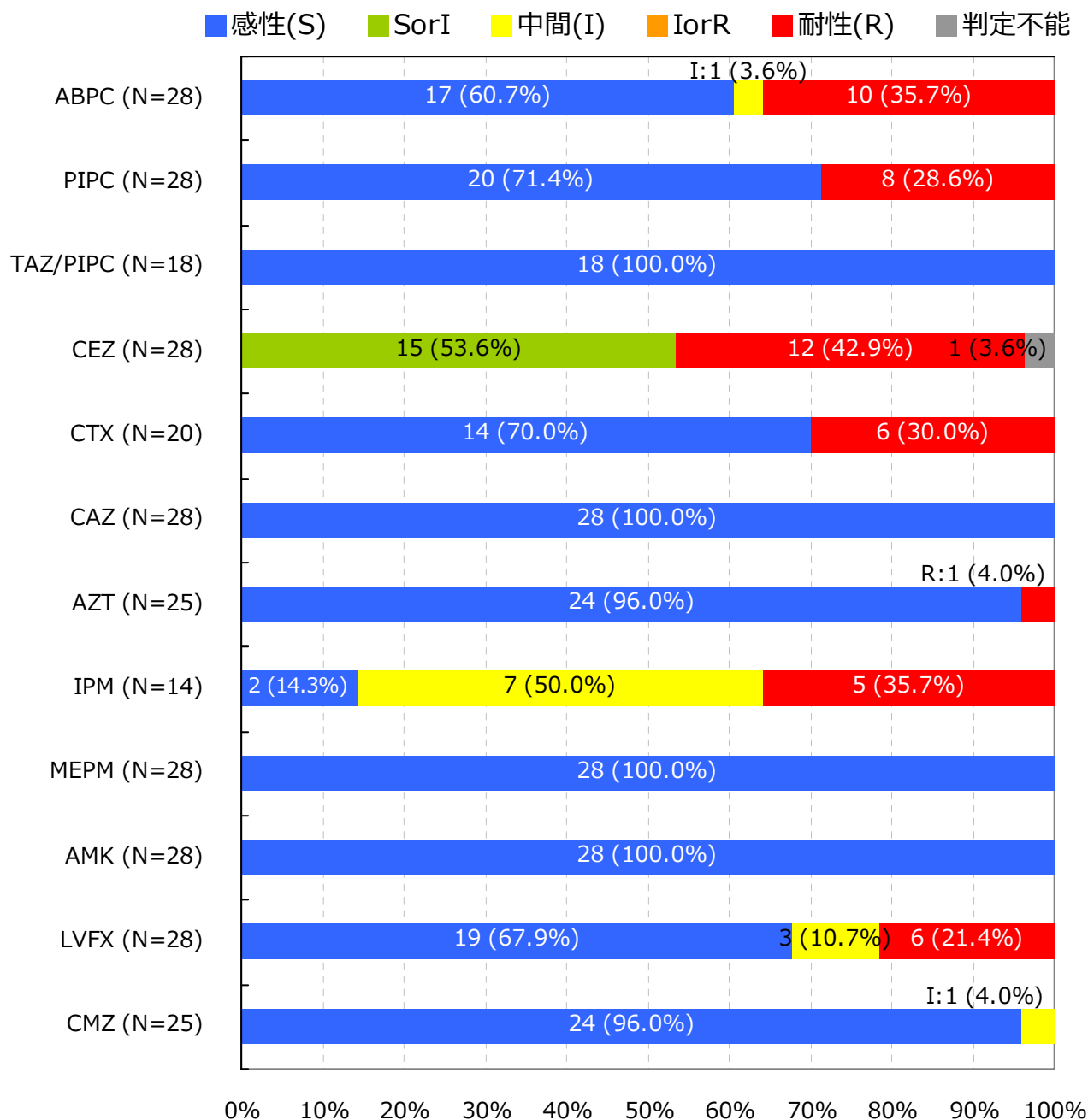
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

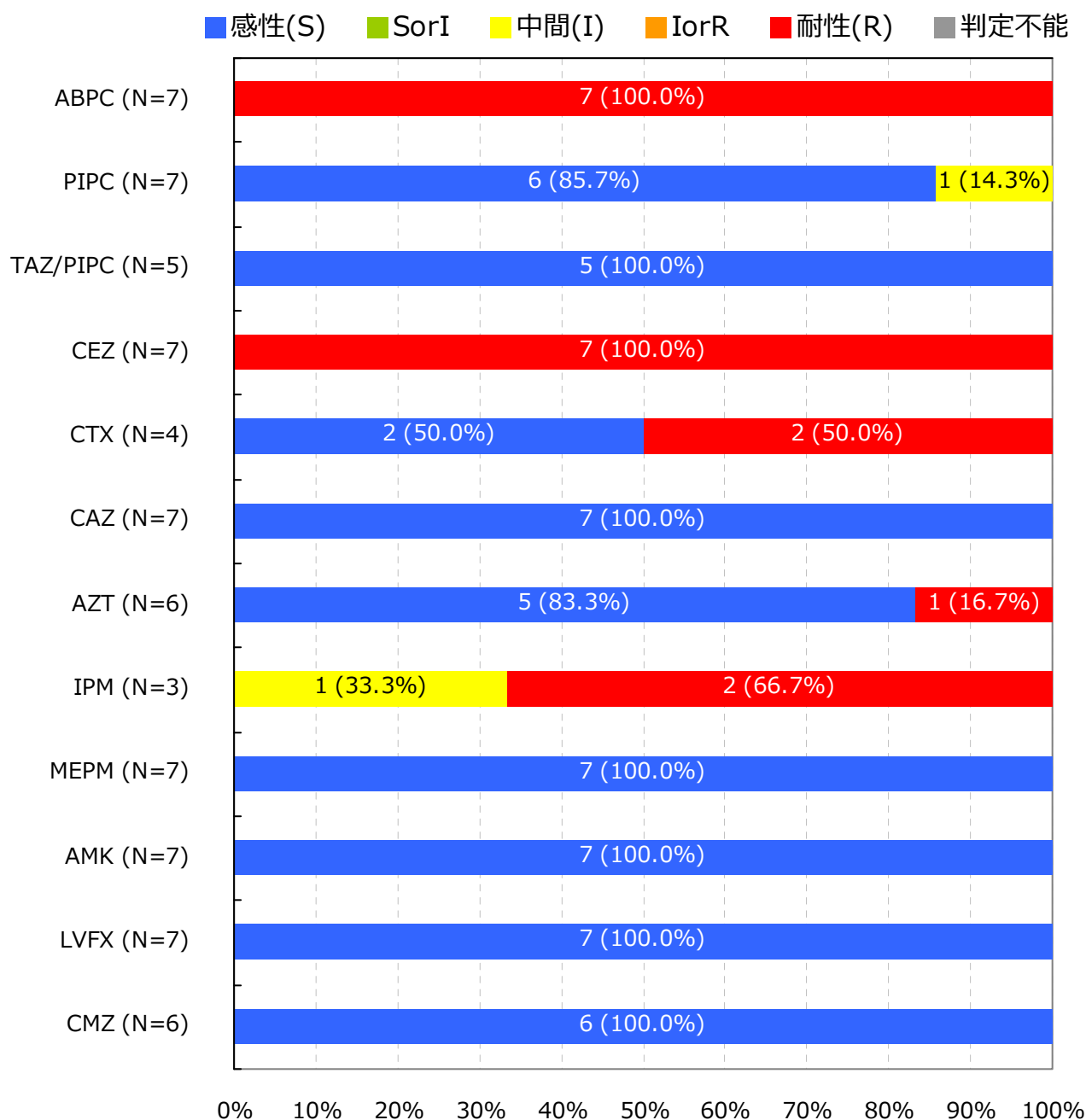
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

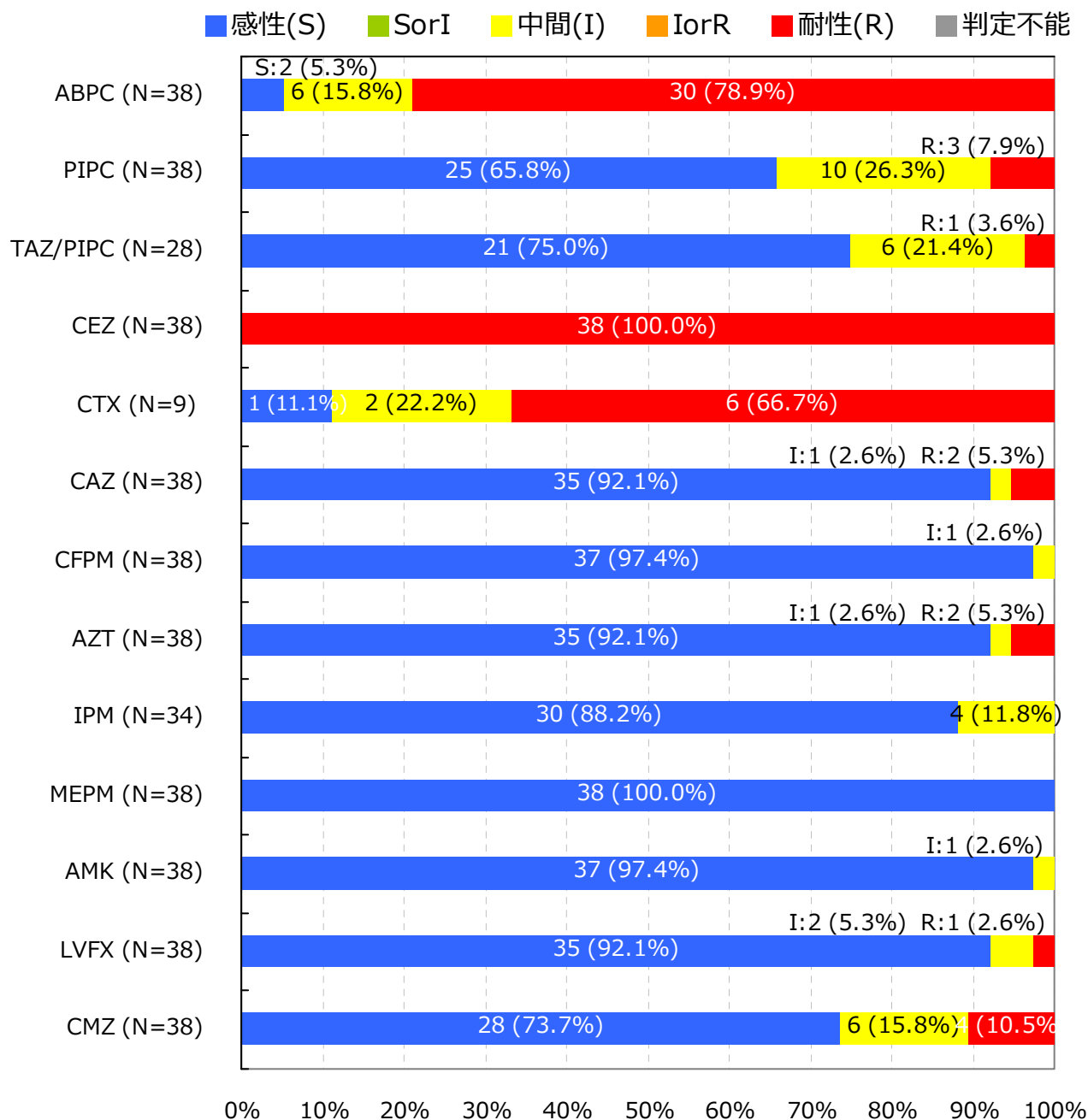
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

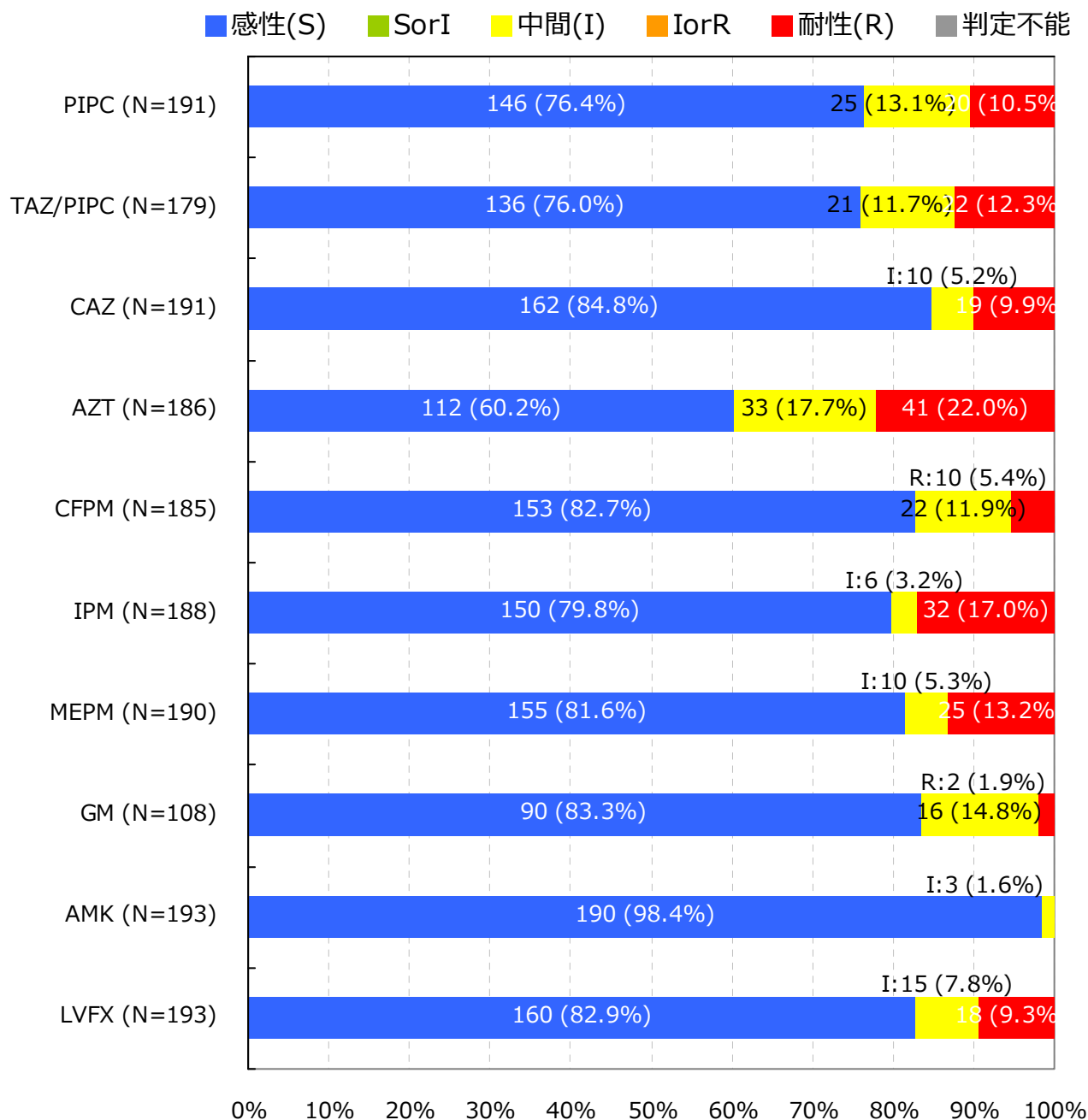
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

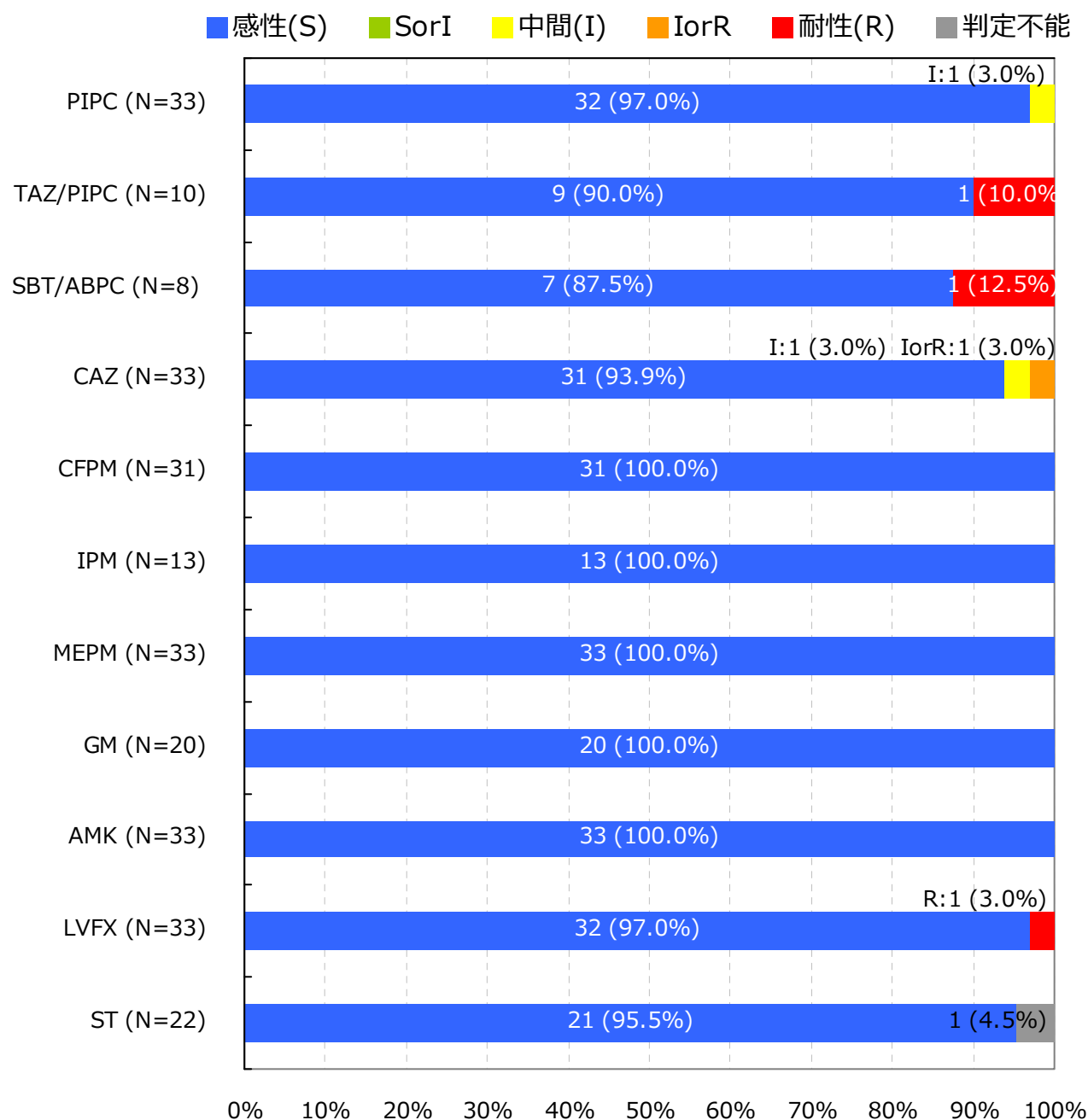
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

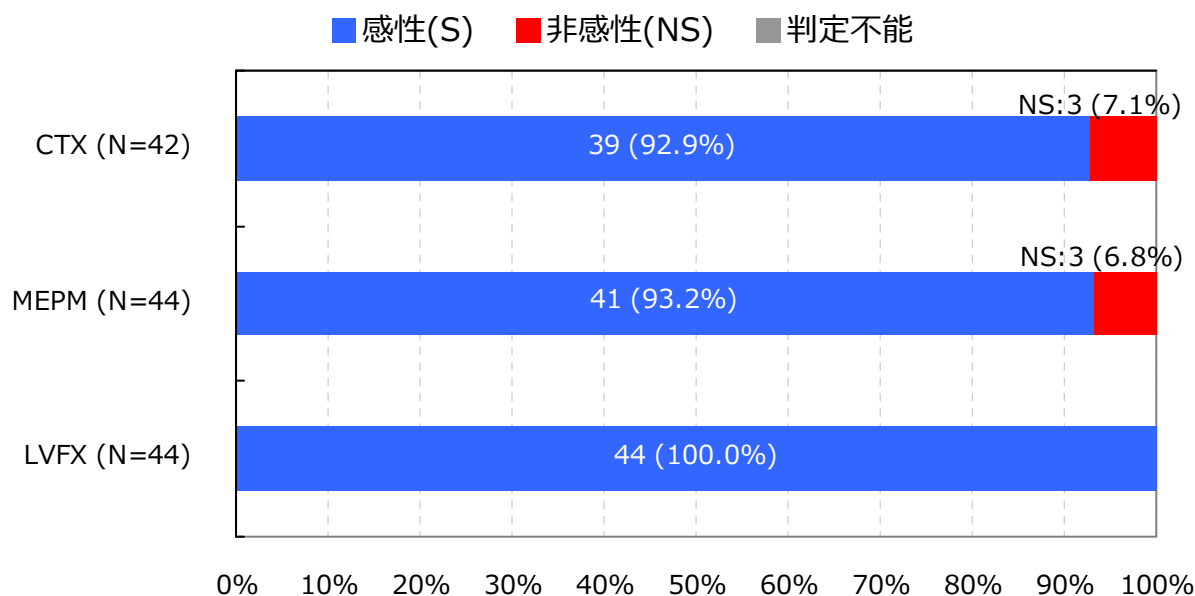
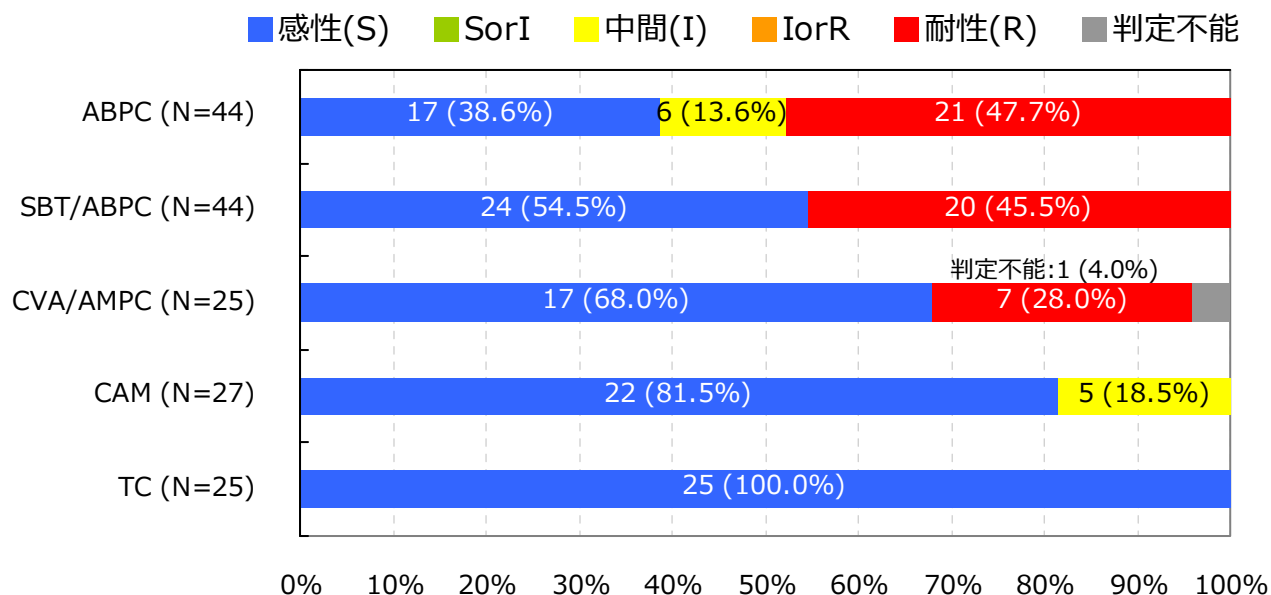
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

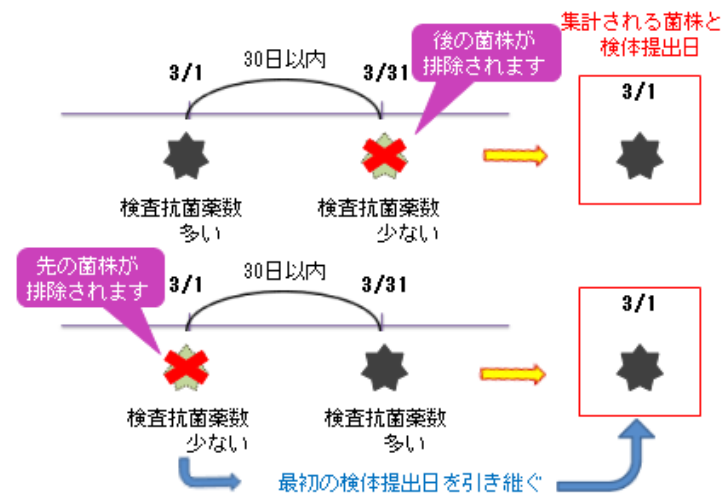
30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

例)

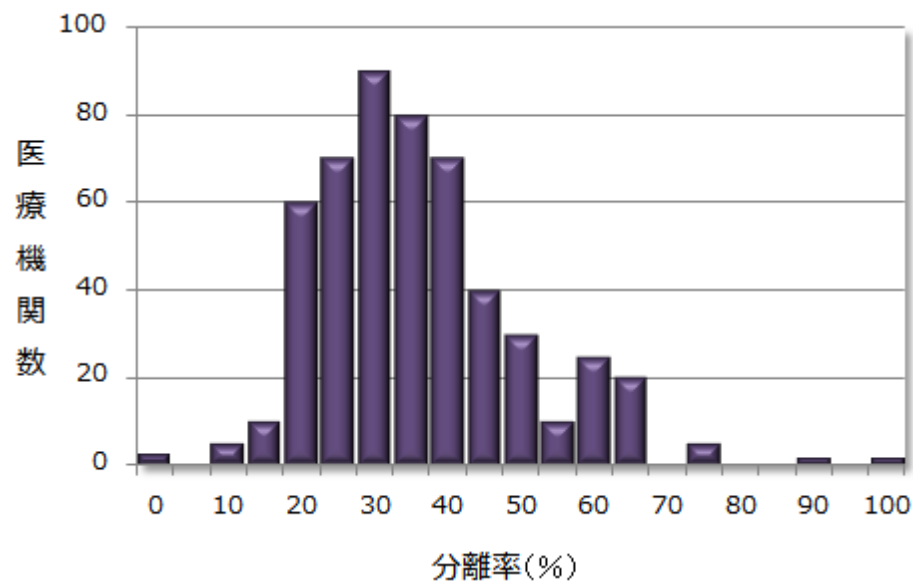
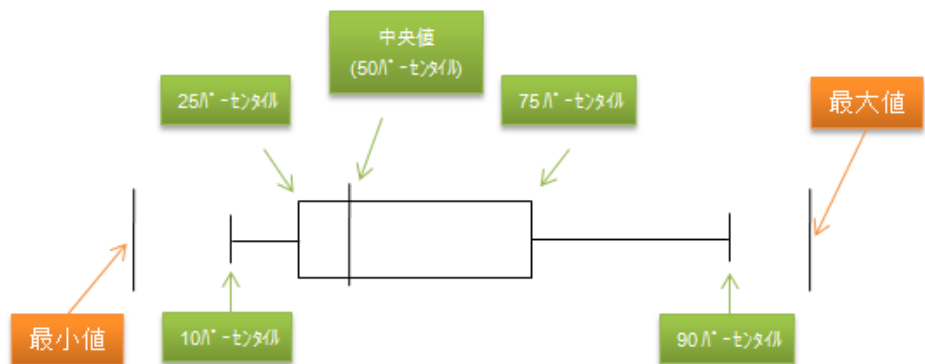




### 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

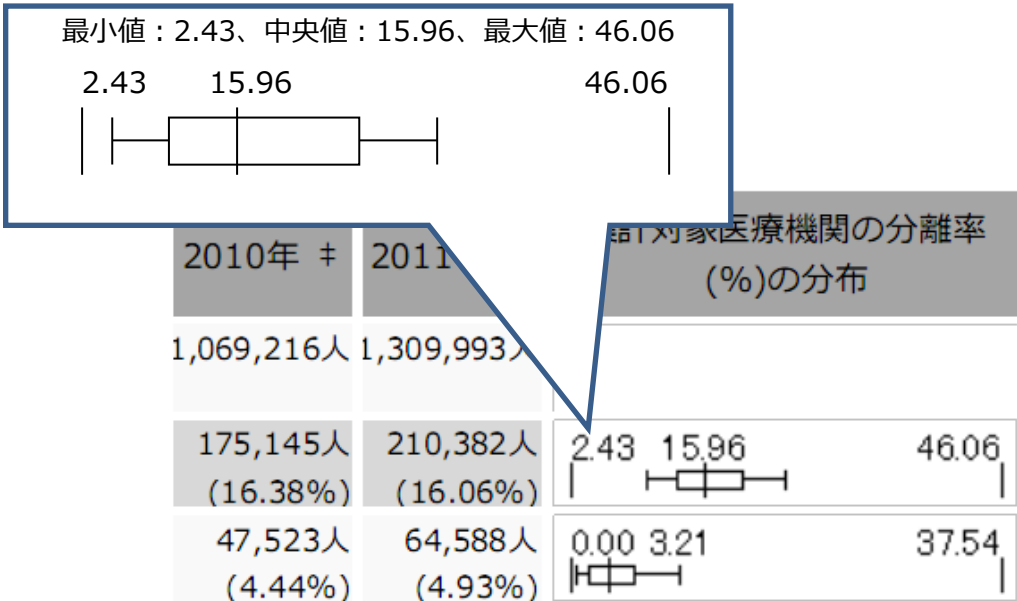
#### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

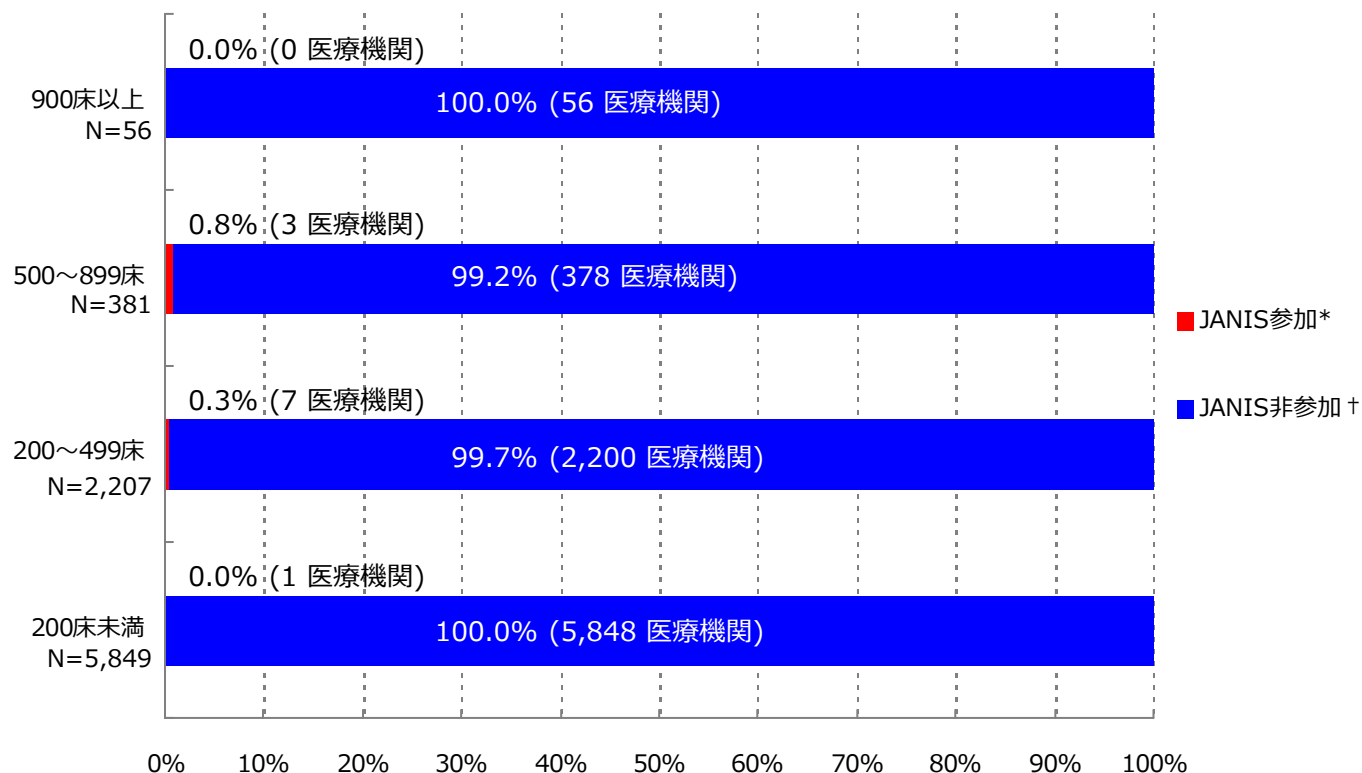


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

#### 2. 公開情報の箱ひげ図



## 1. 集計対象医療機関数(11医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	3 ( 0.8% )
200～499床	2,207	7 ( 0.3% )
200床未満	5,849	1 ( 0.0% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	11 ( 0.1% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	11	2,780	2,028 (4,541)
尿検体	11	1,331	817 (1,129)
便検体	11	831	398 (709)
血液検体	11	2,808	454 (513)
髄液検体	9	133	10 (11)
その他	11	2,123	1,072 (1,681)
合計	11	10,006	4,779 (8,584)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

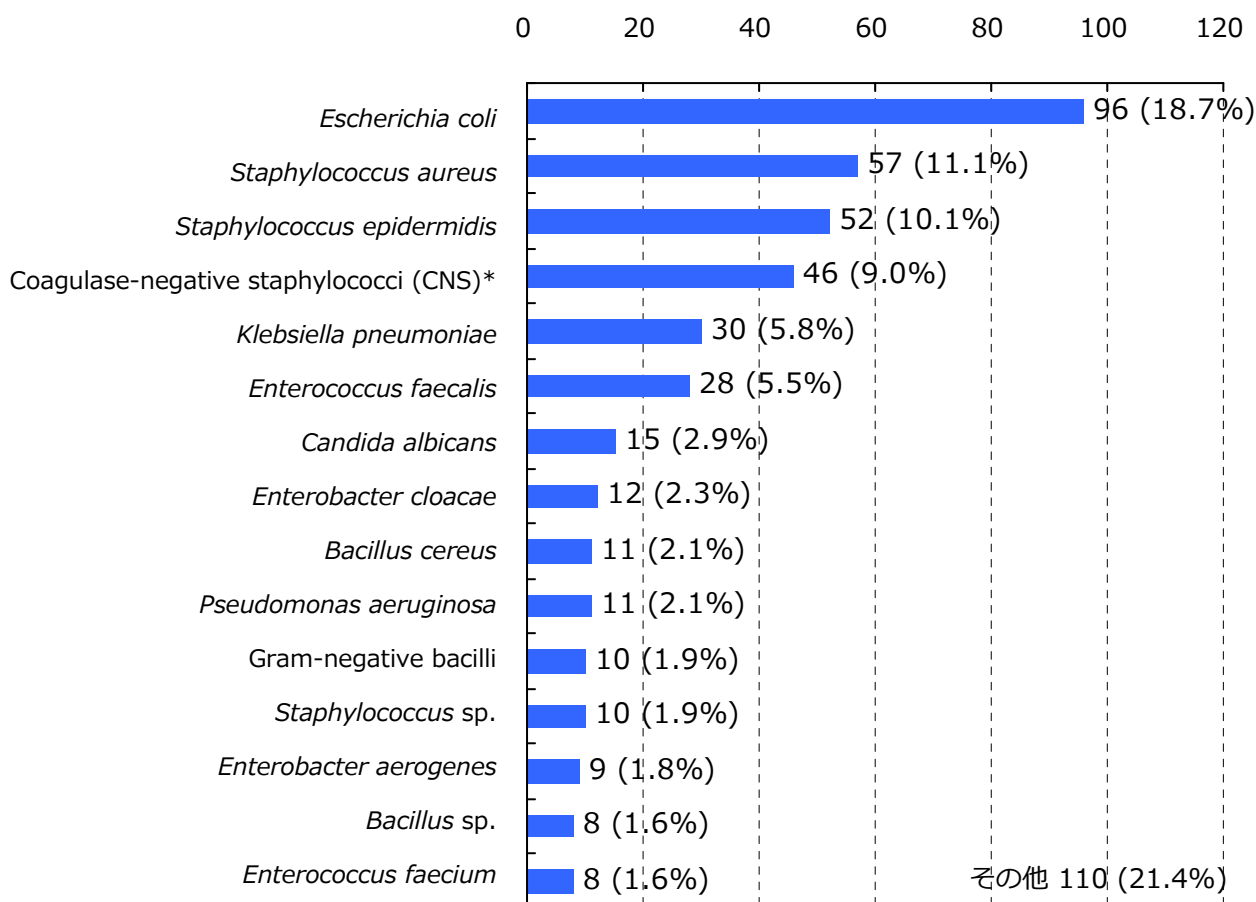
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=513)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

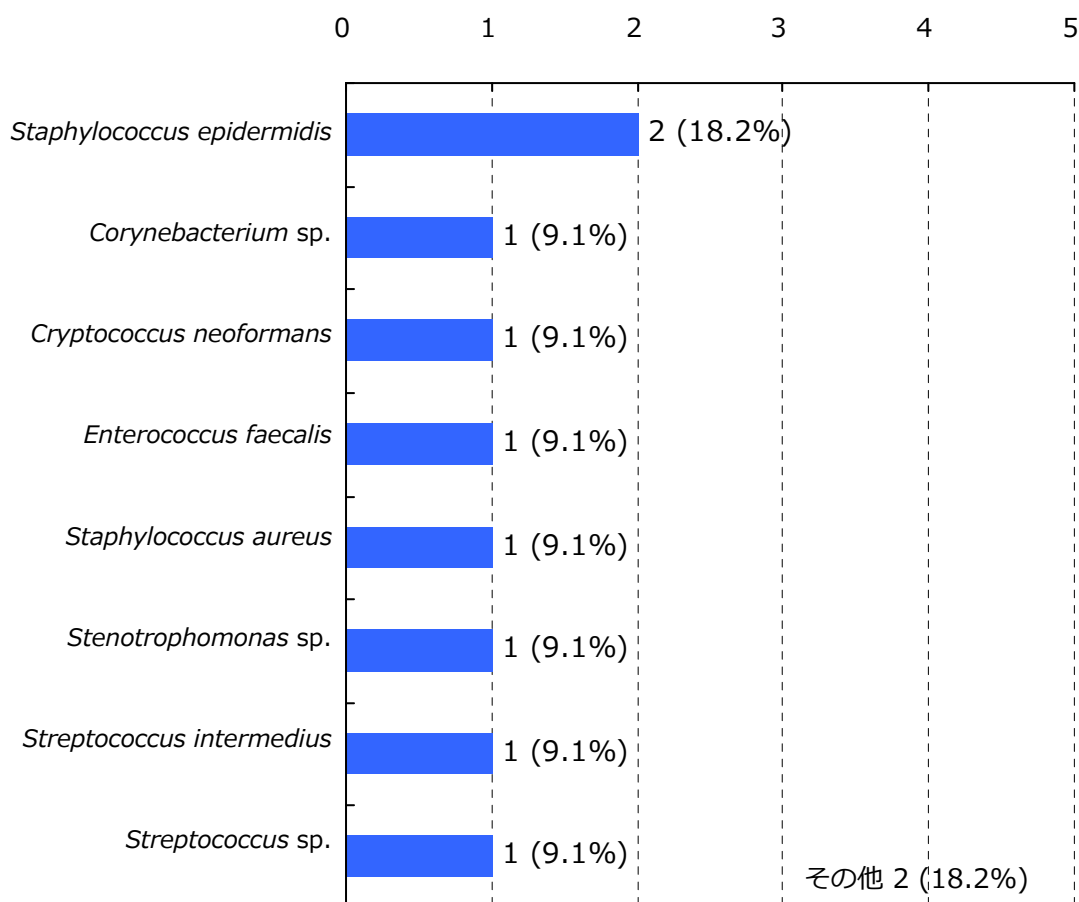
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 髄液検体分離菌 (N=11)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

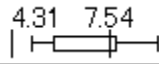


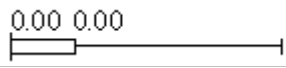



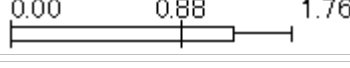

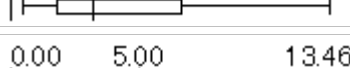

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 ‡	集計対象医療機関の 分離率 ¶(%)の分布
検体提出患者数	3,678人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	258人 (7.01%)	4.31 7.54 15.69 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	1人 (0.03%)	0.00 0.00 0.36 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	7人 (0.19%)	0.00 0.00 1.67 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	0人 (0.00%)	0.00 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	18人 (0.49%)	0.00 0.00 1.08 
カルバペネム耐性緑膿菌	34人 (0.92%)	0.00 0.88 1.76 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	6人 (0.16%)	0.00 0.00 0.72 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	110人 (2.99%)	0.00 2.95 12.42 
フルオロキノロン耐性大腸菌	186人 (5.06%)	0.00 5.00 13.46 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

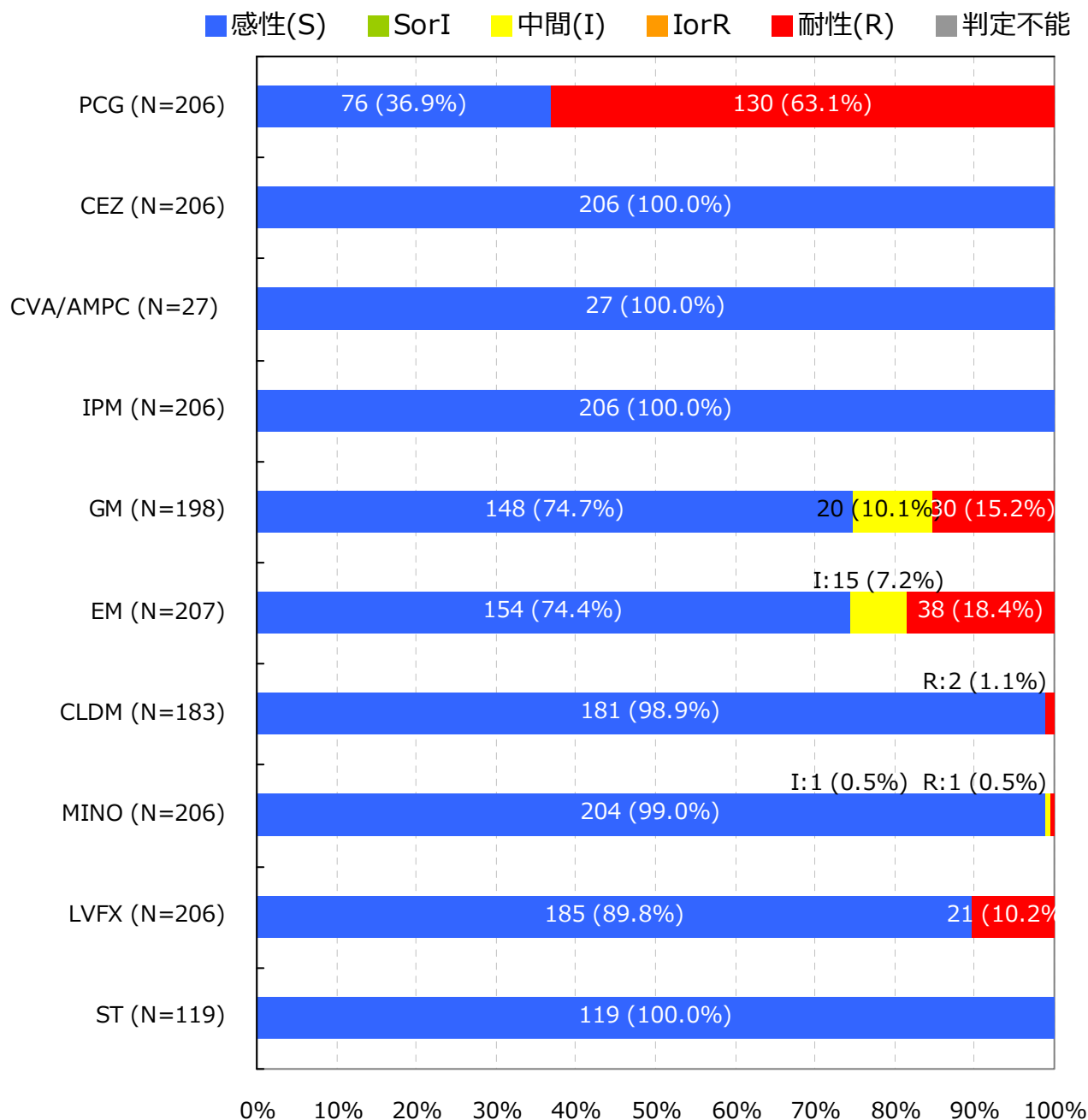
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

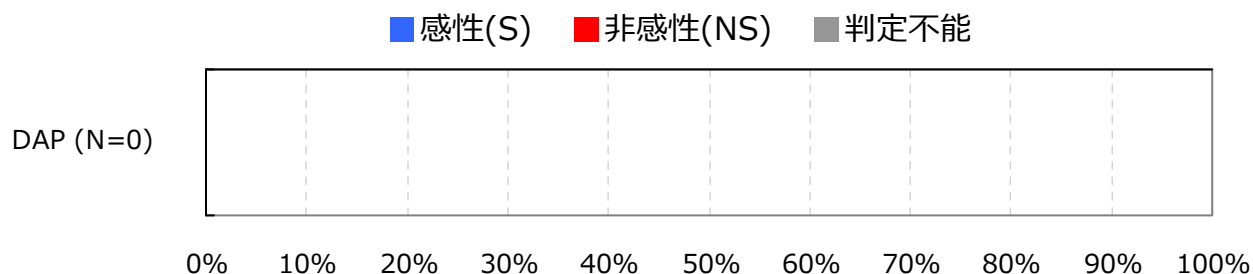
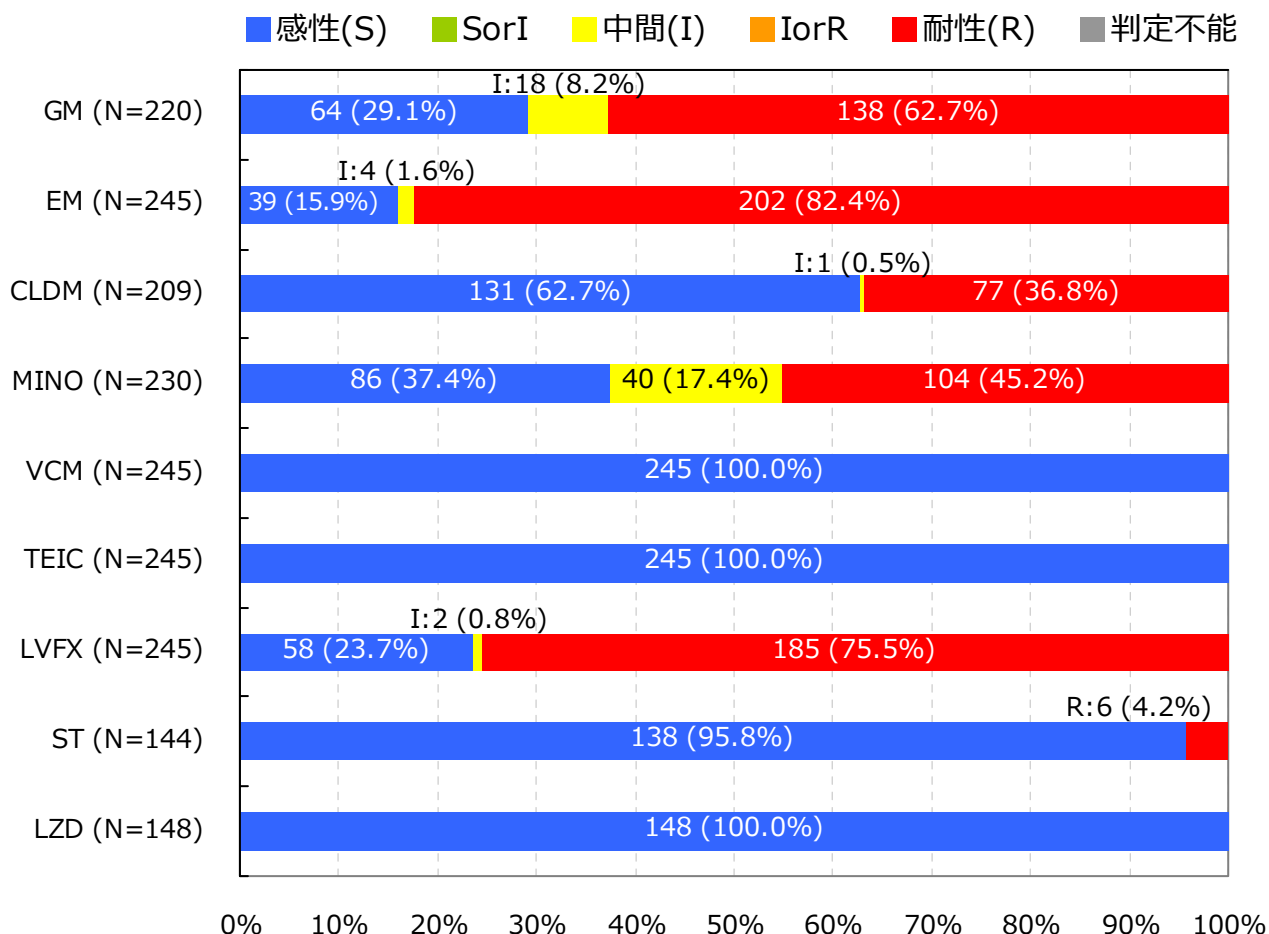
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

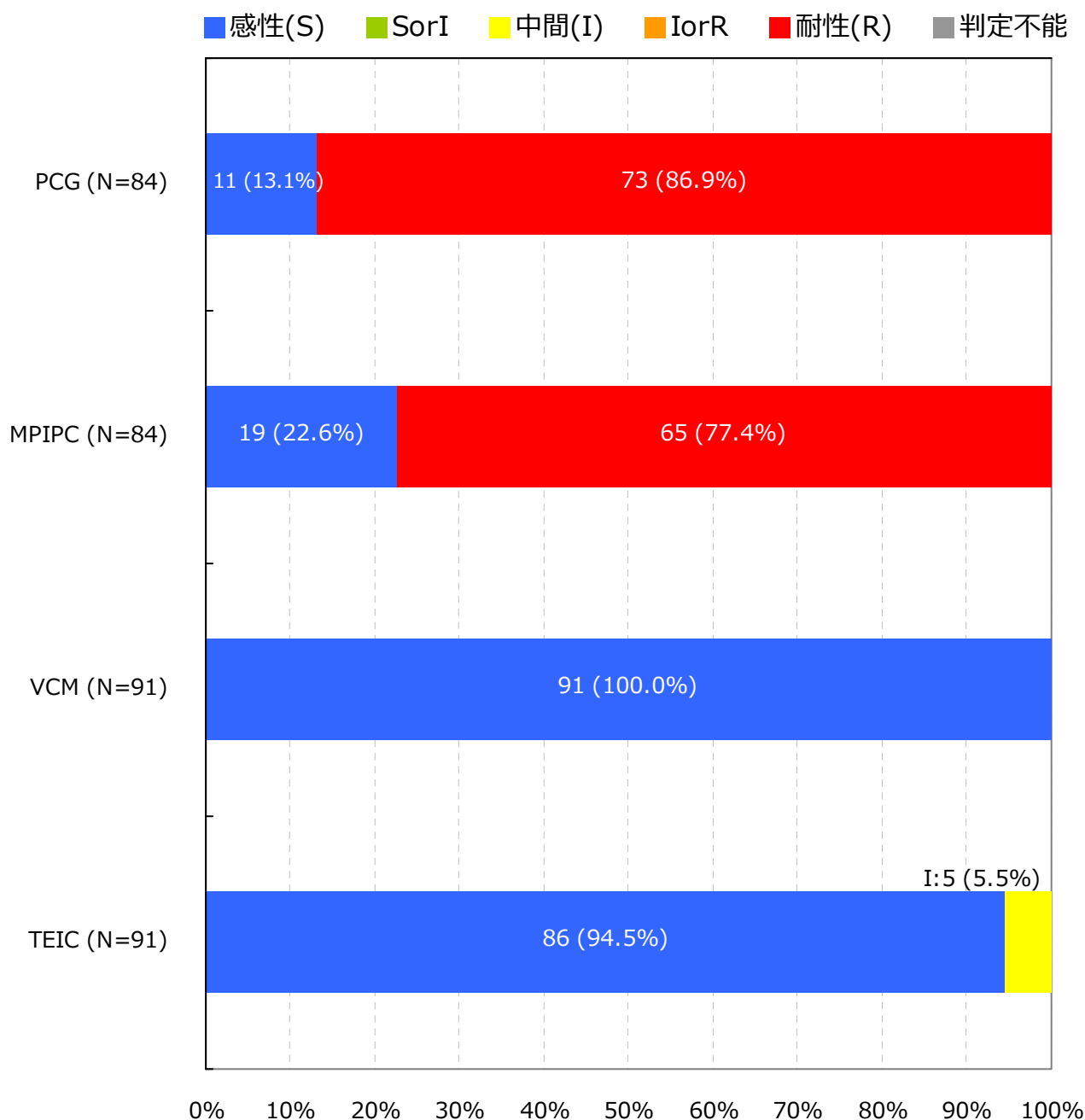
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

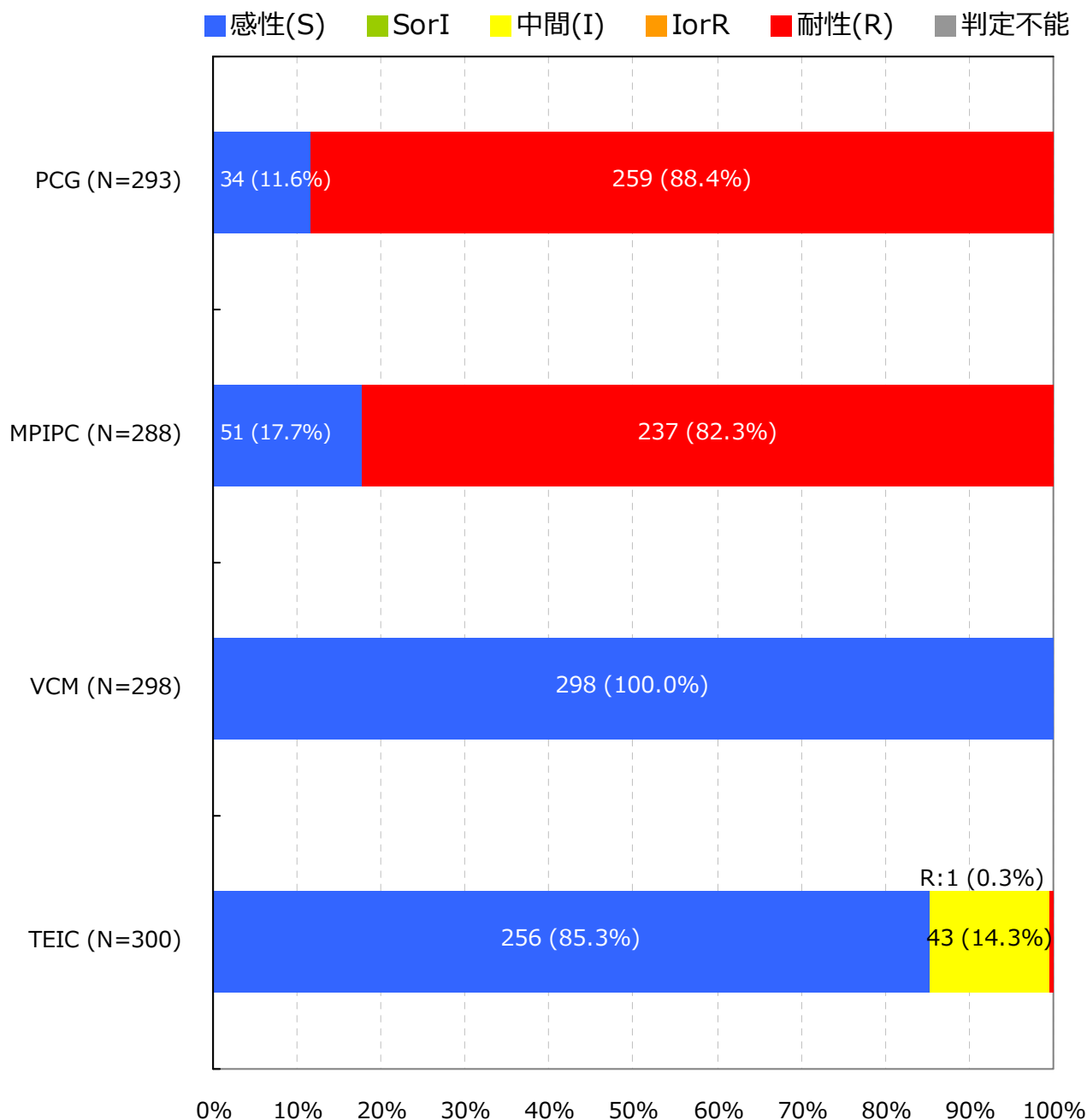
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



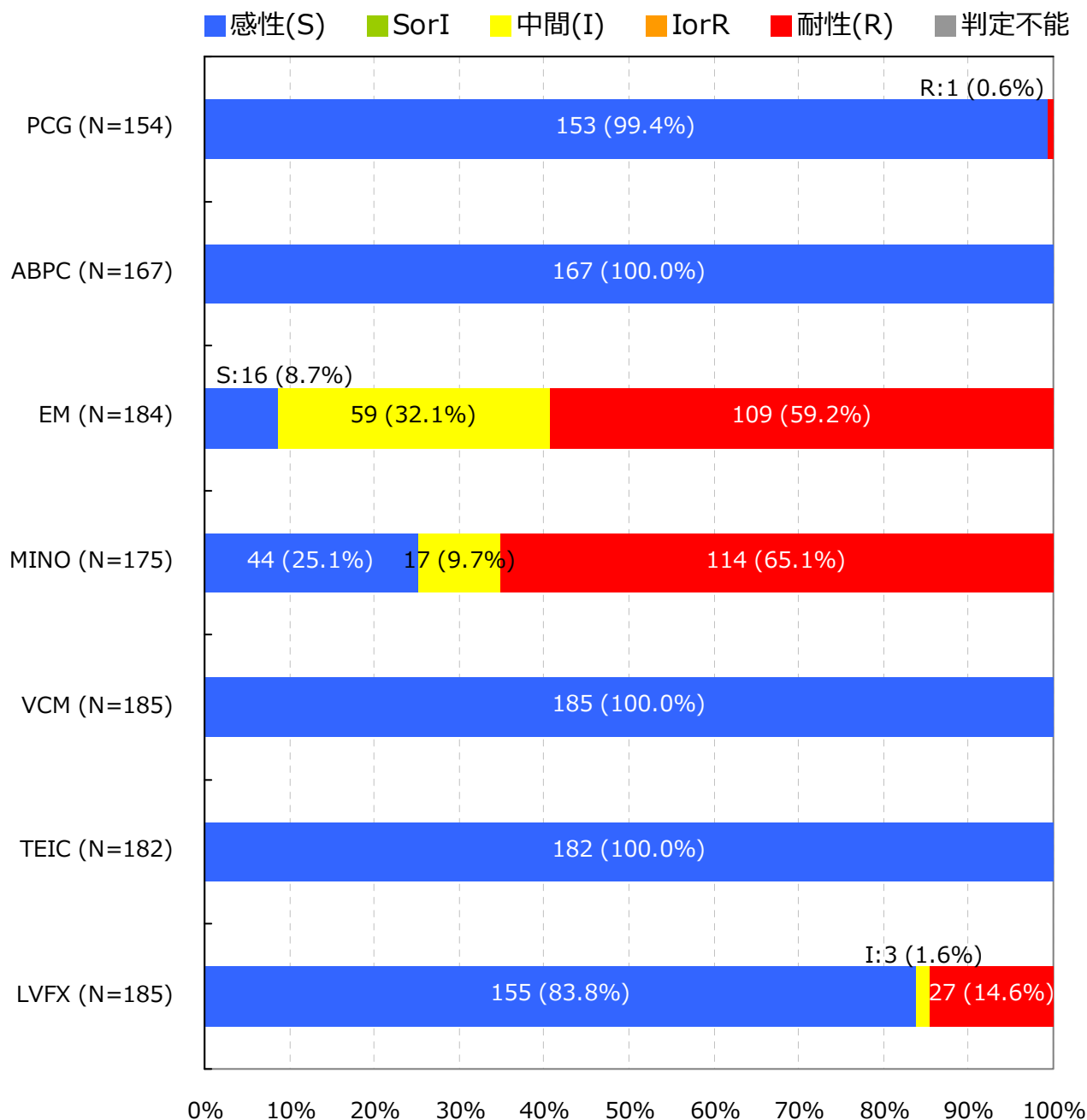
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312: *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

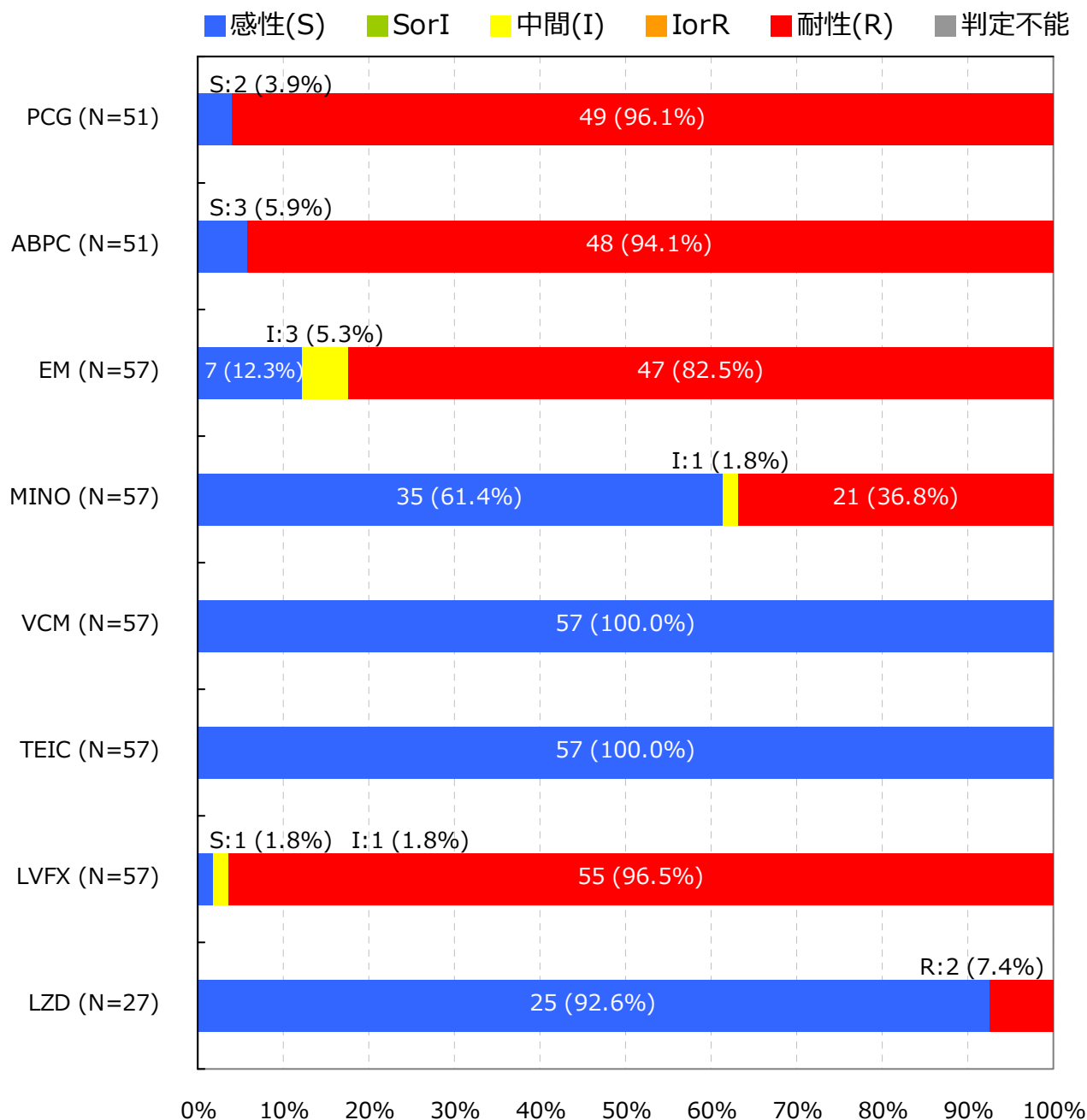
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

(島根県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

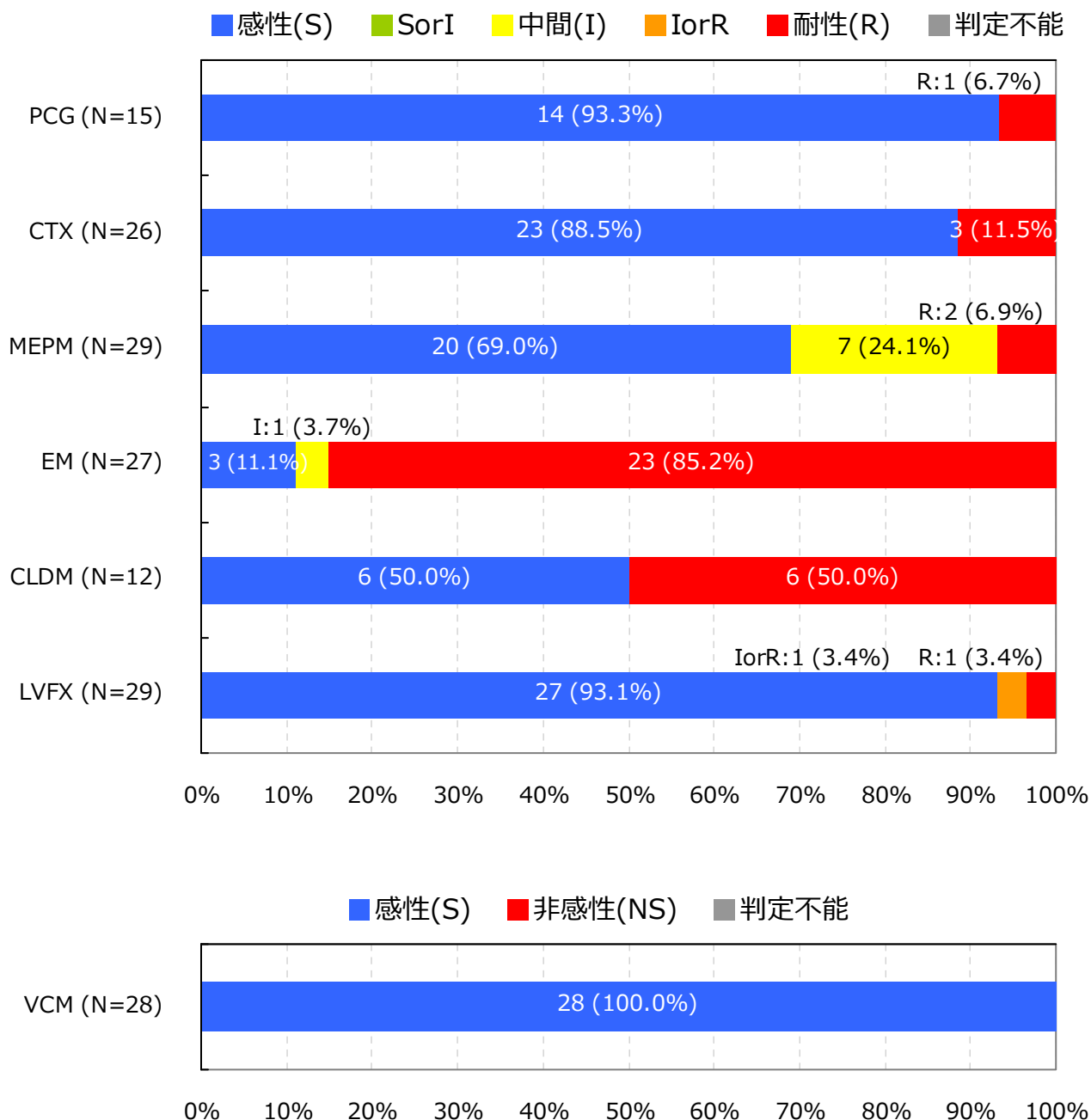
報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

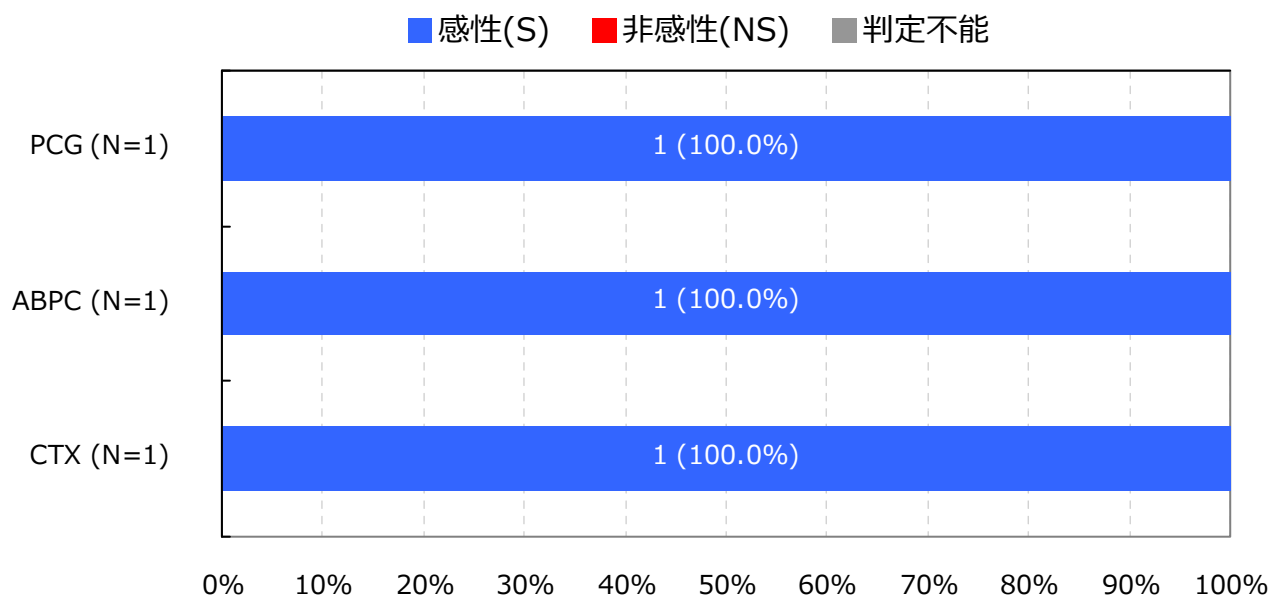
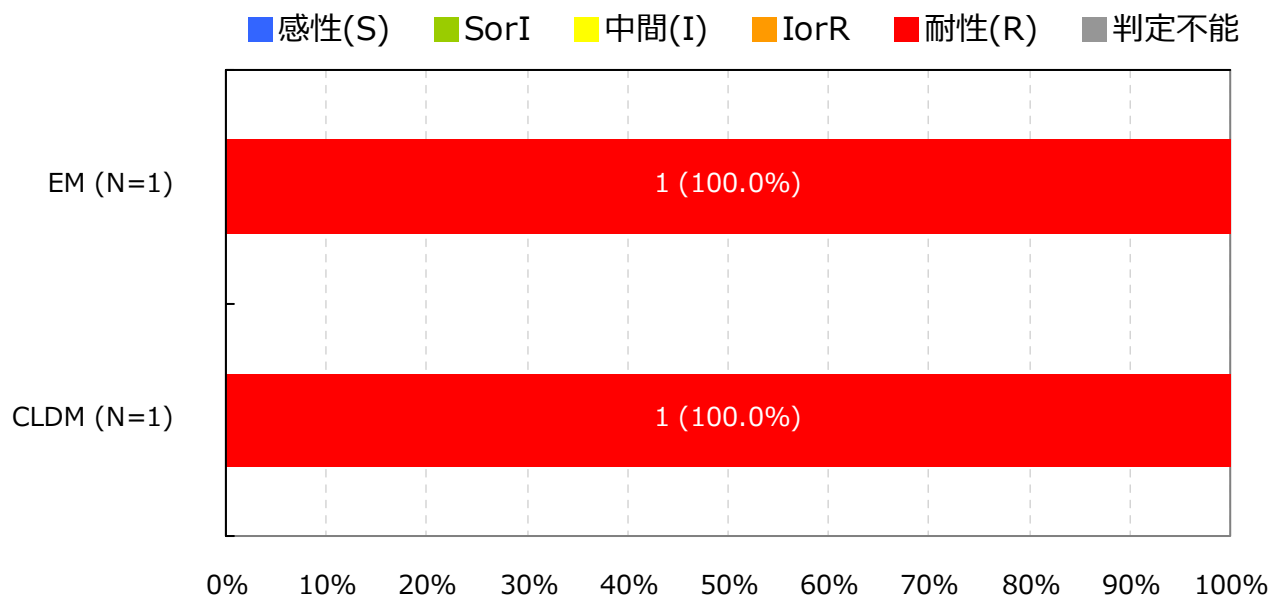
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

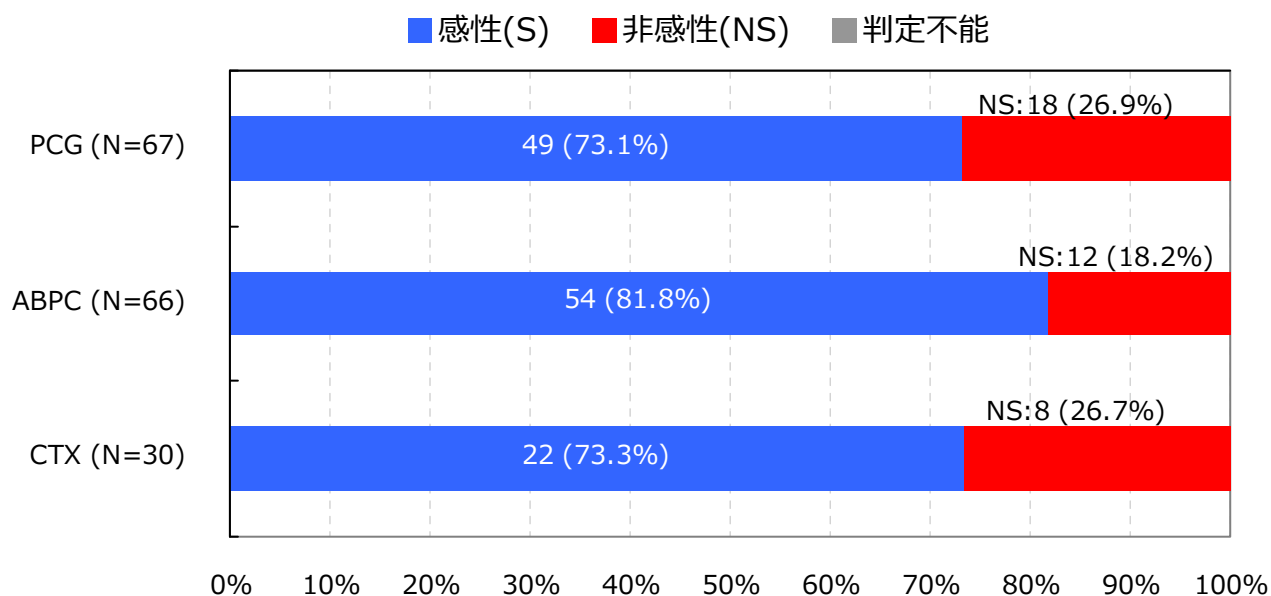
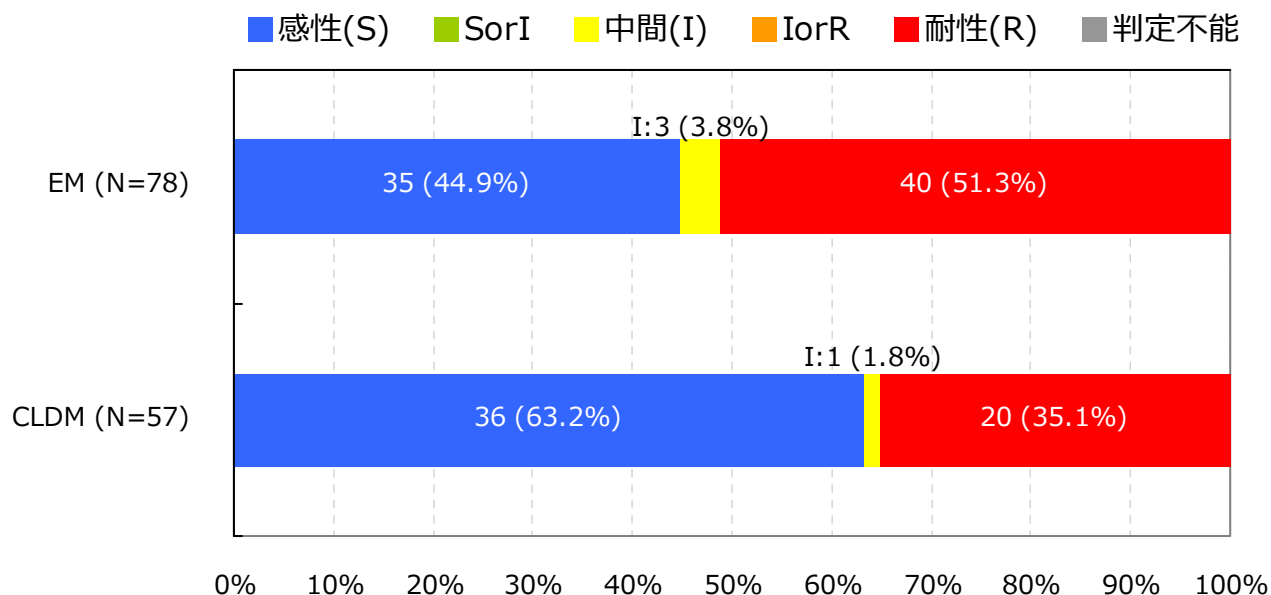
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

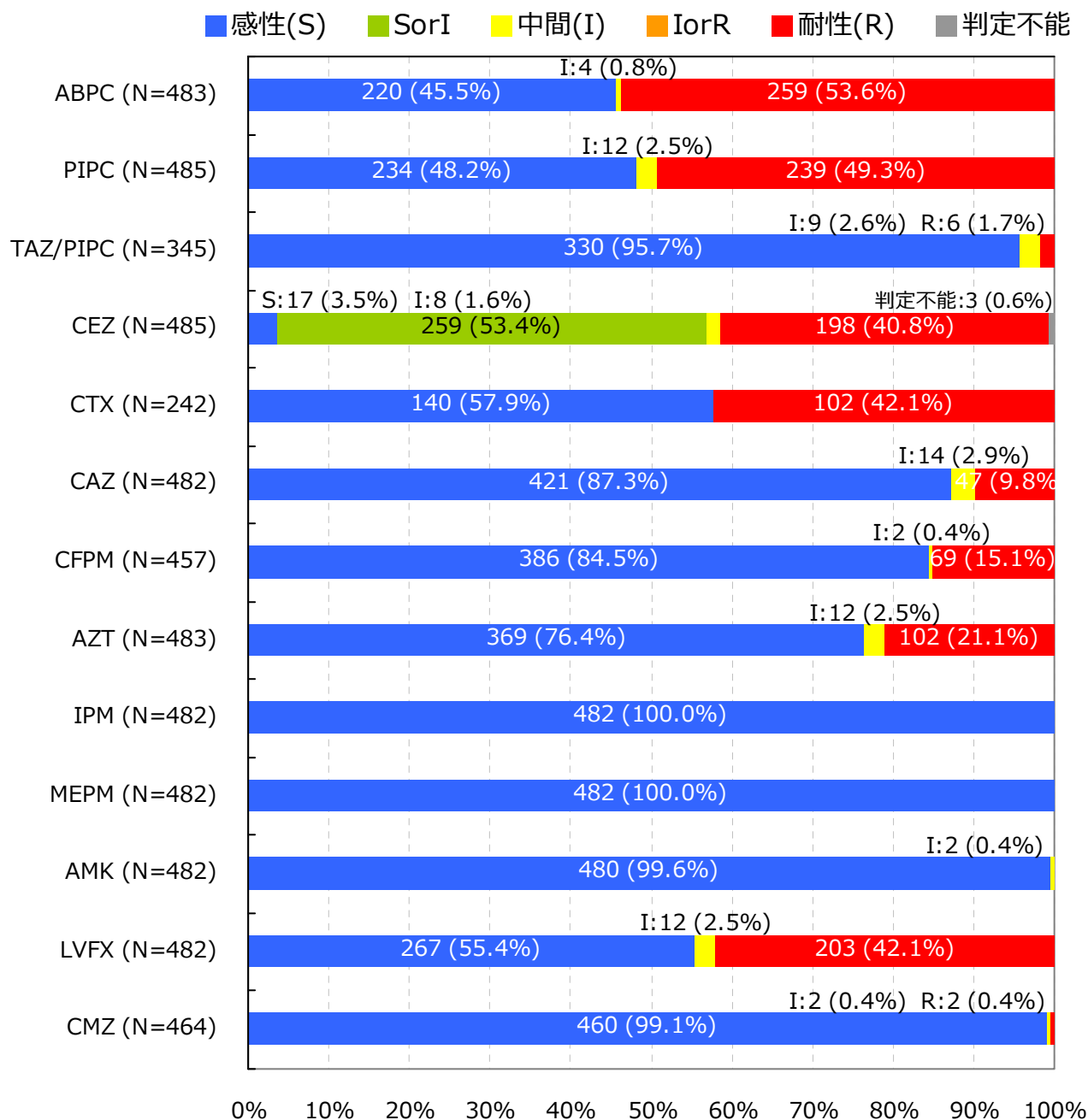
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

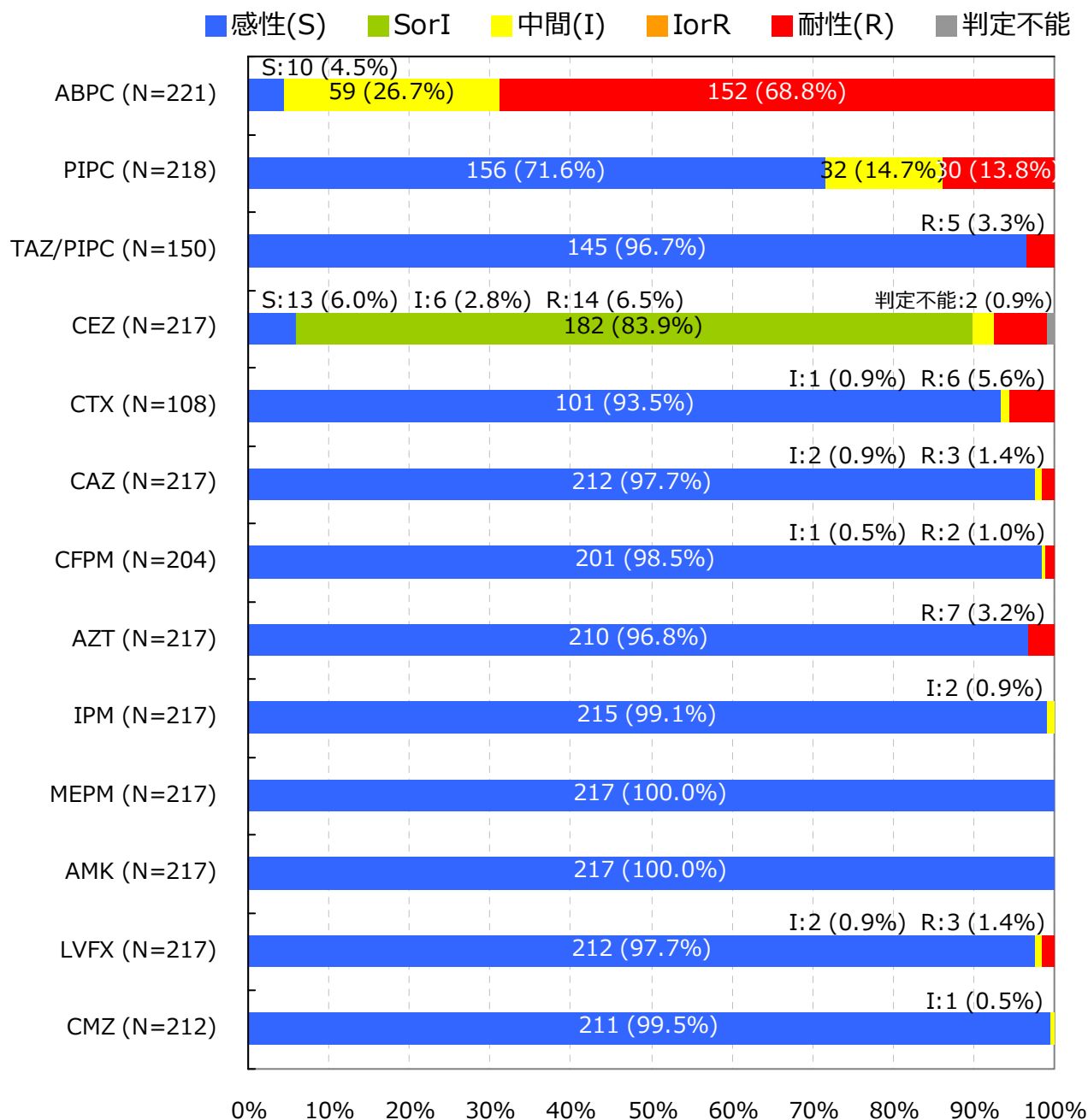
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

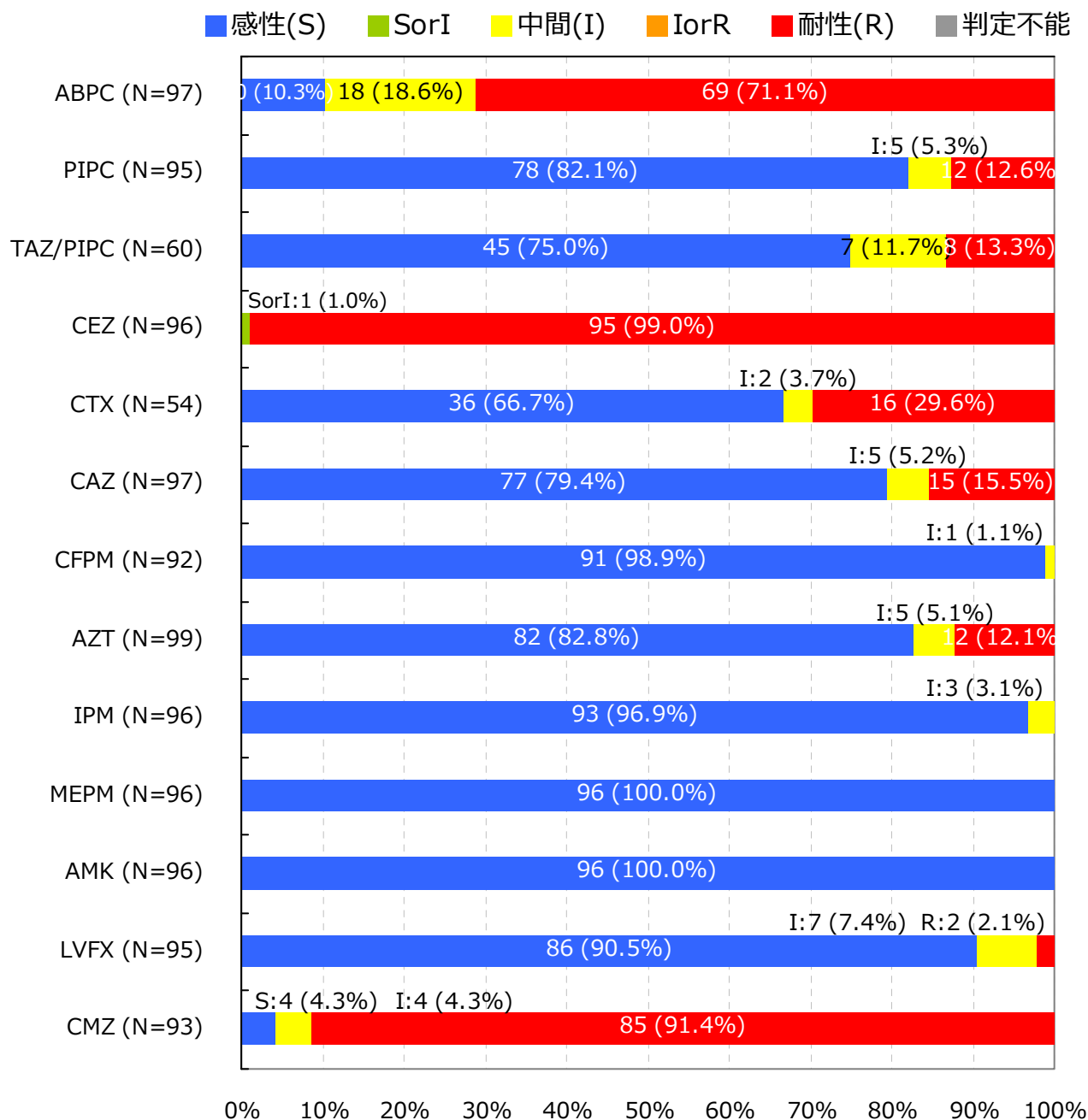
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

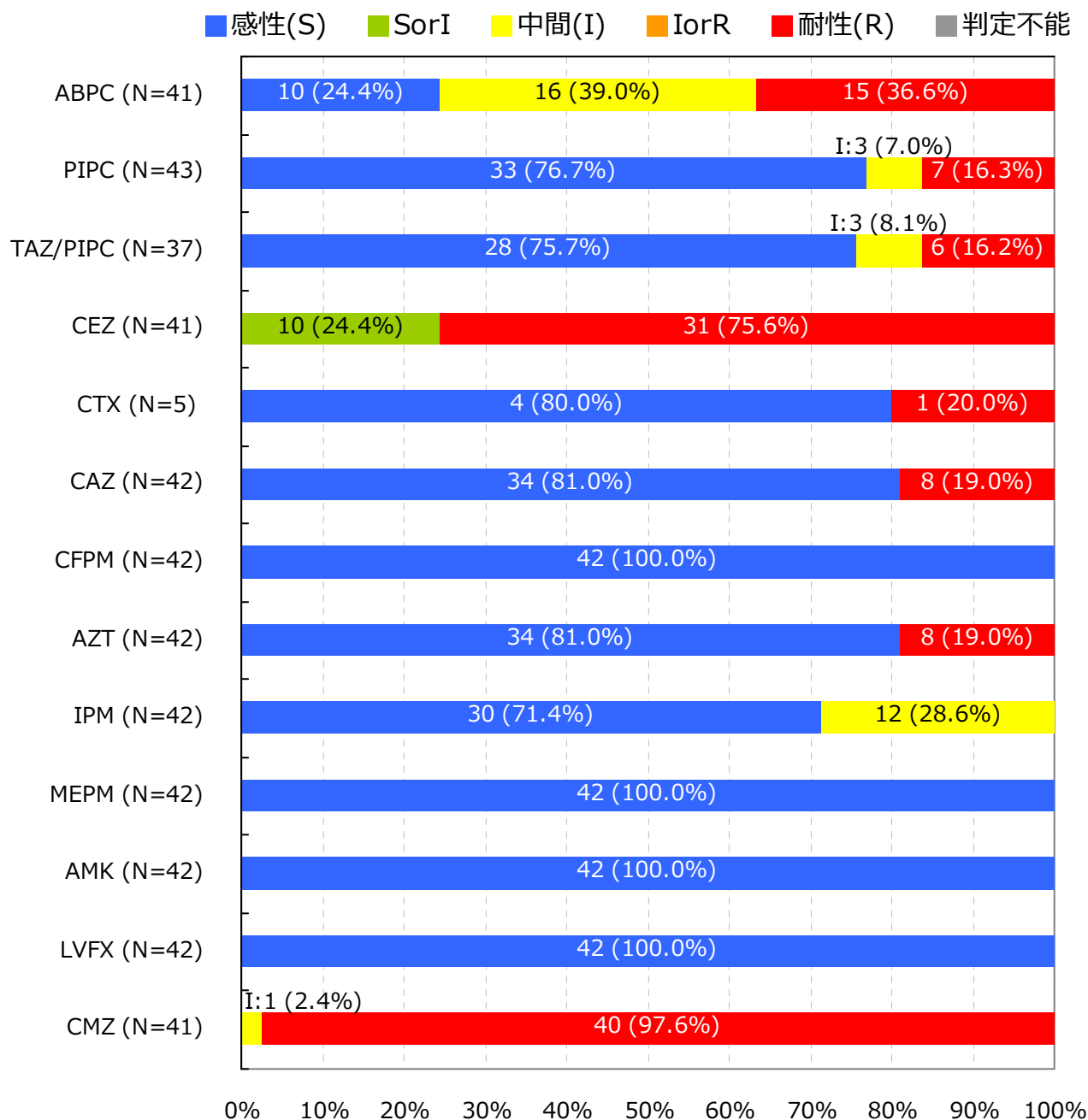
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

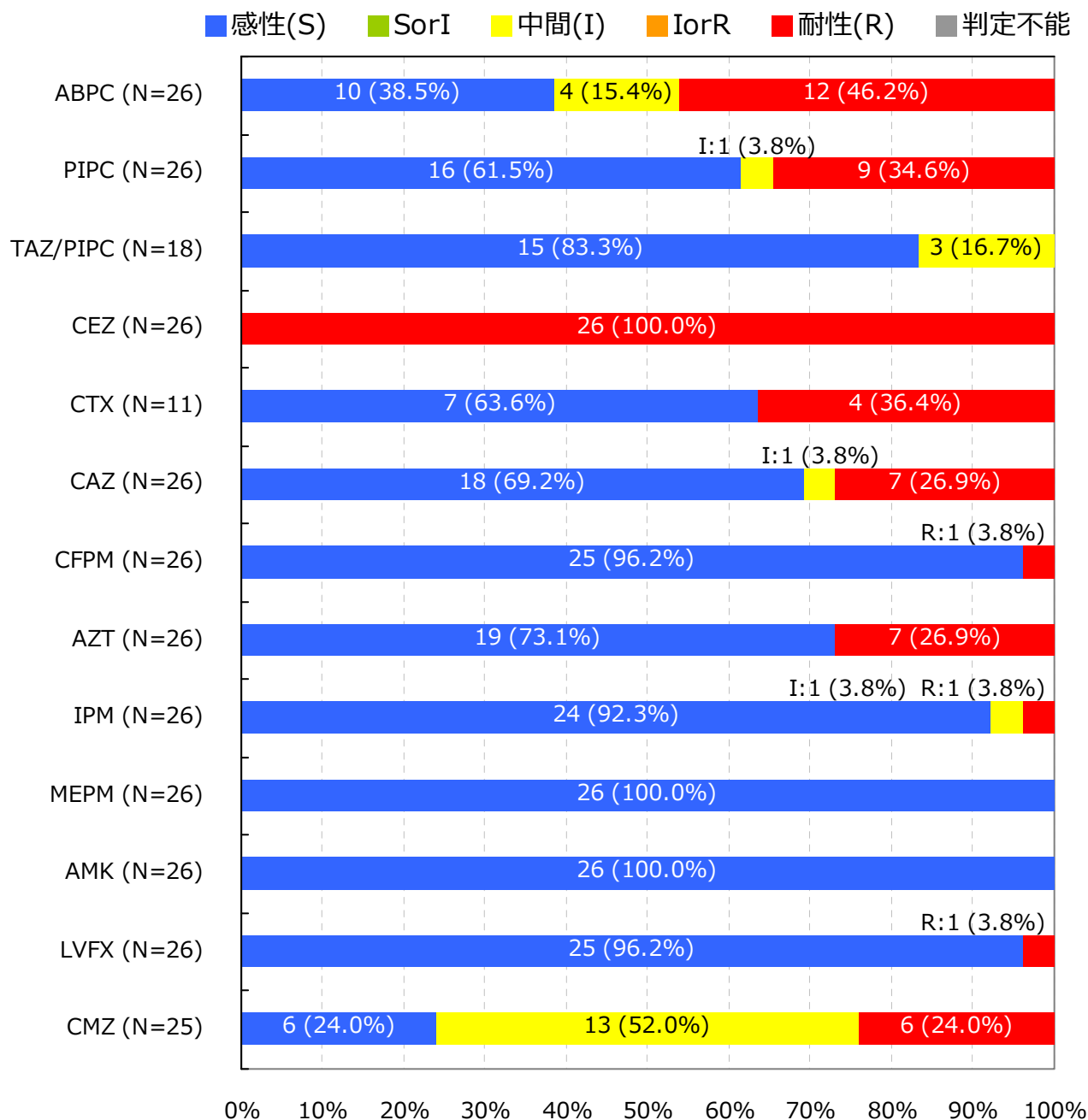
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

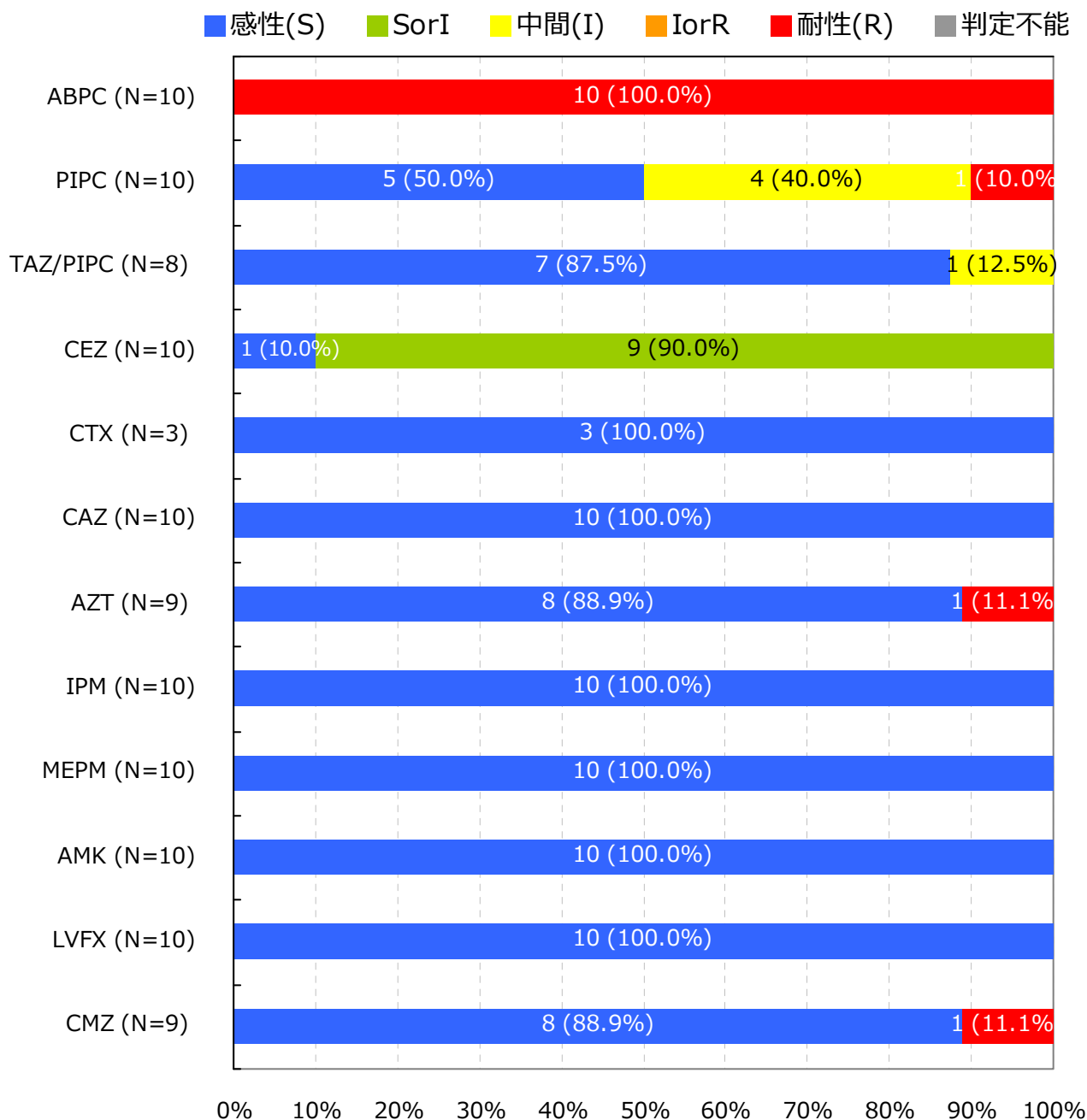
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

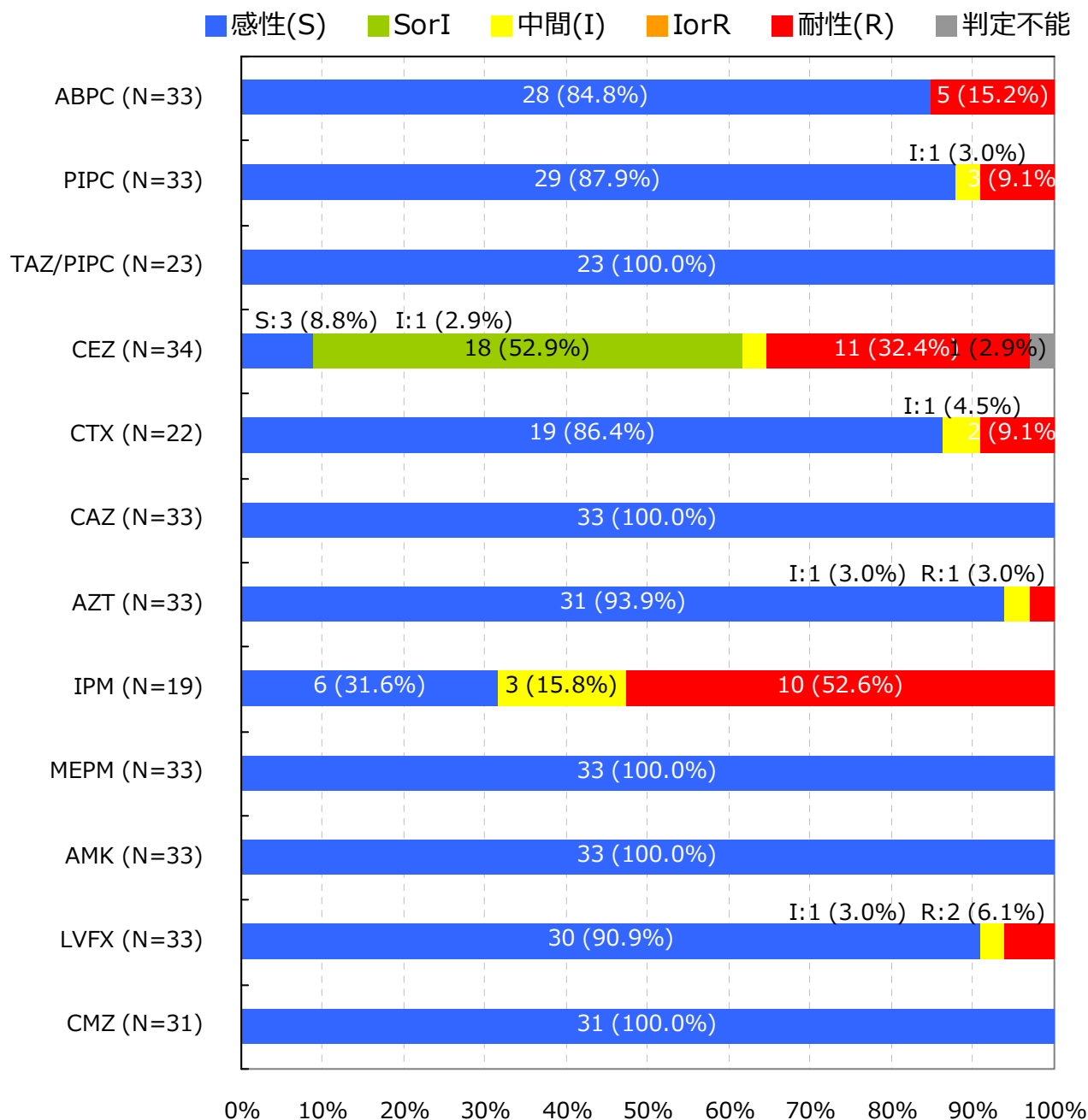
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

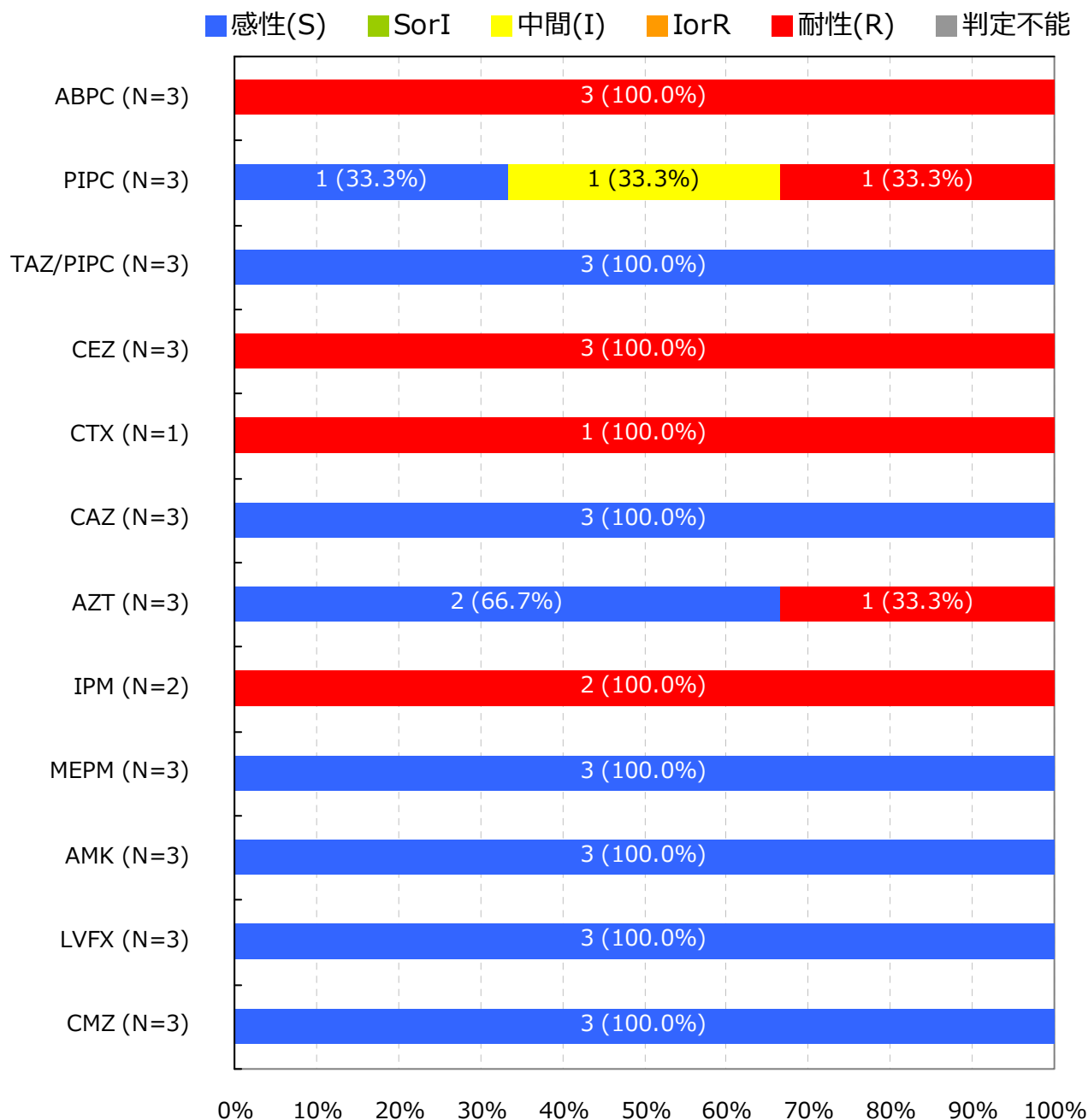
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

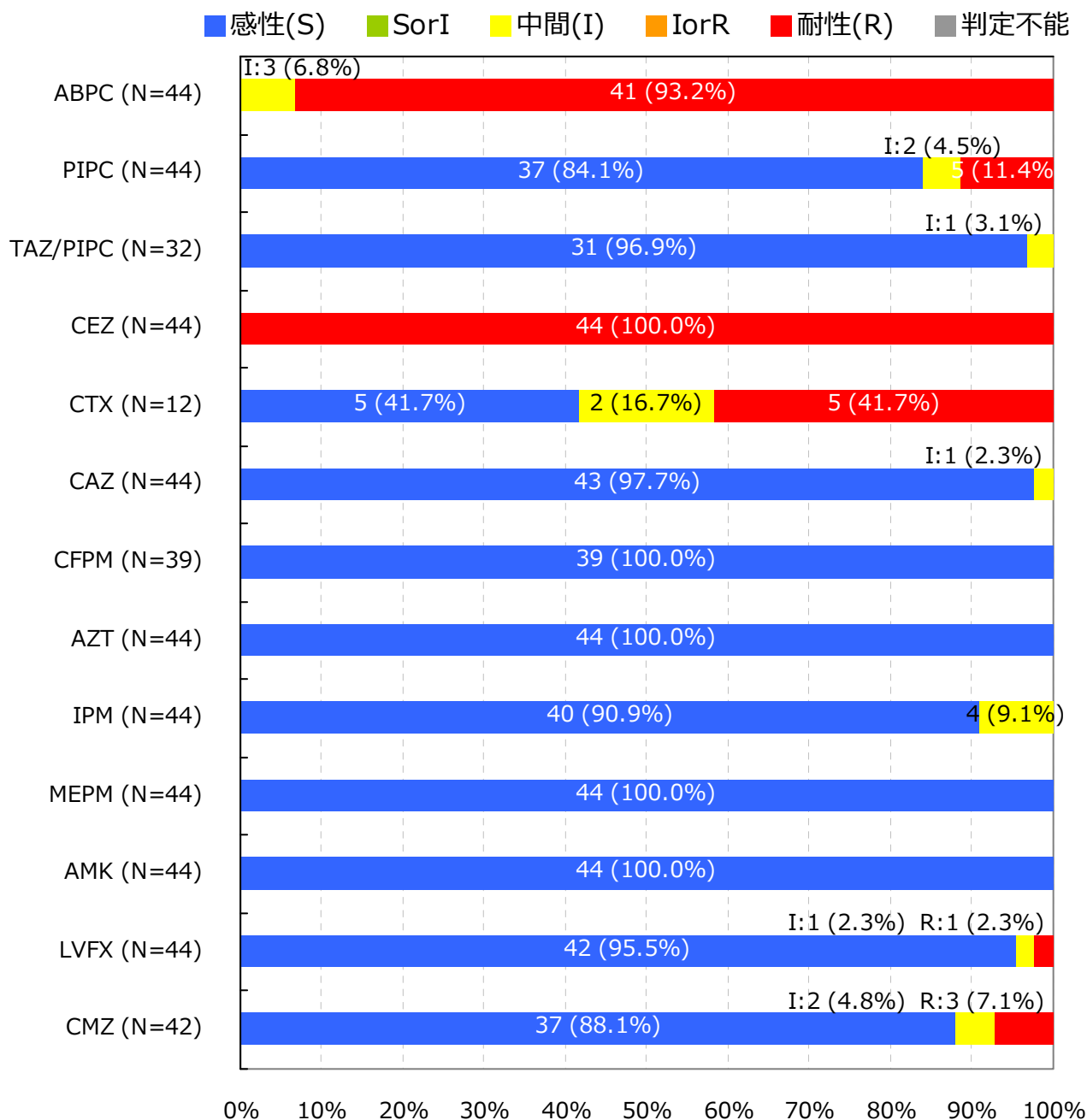
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

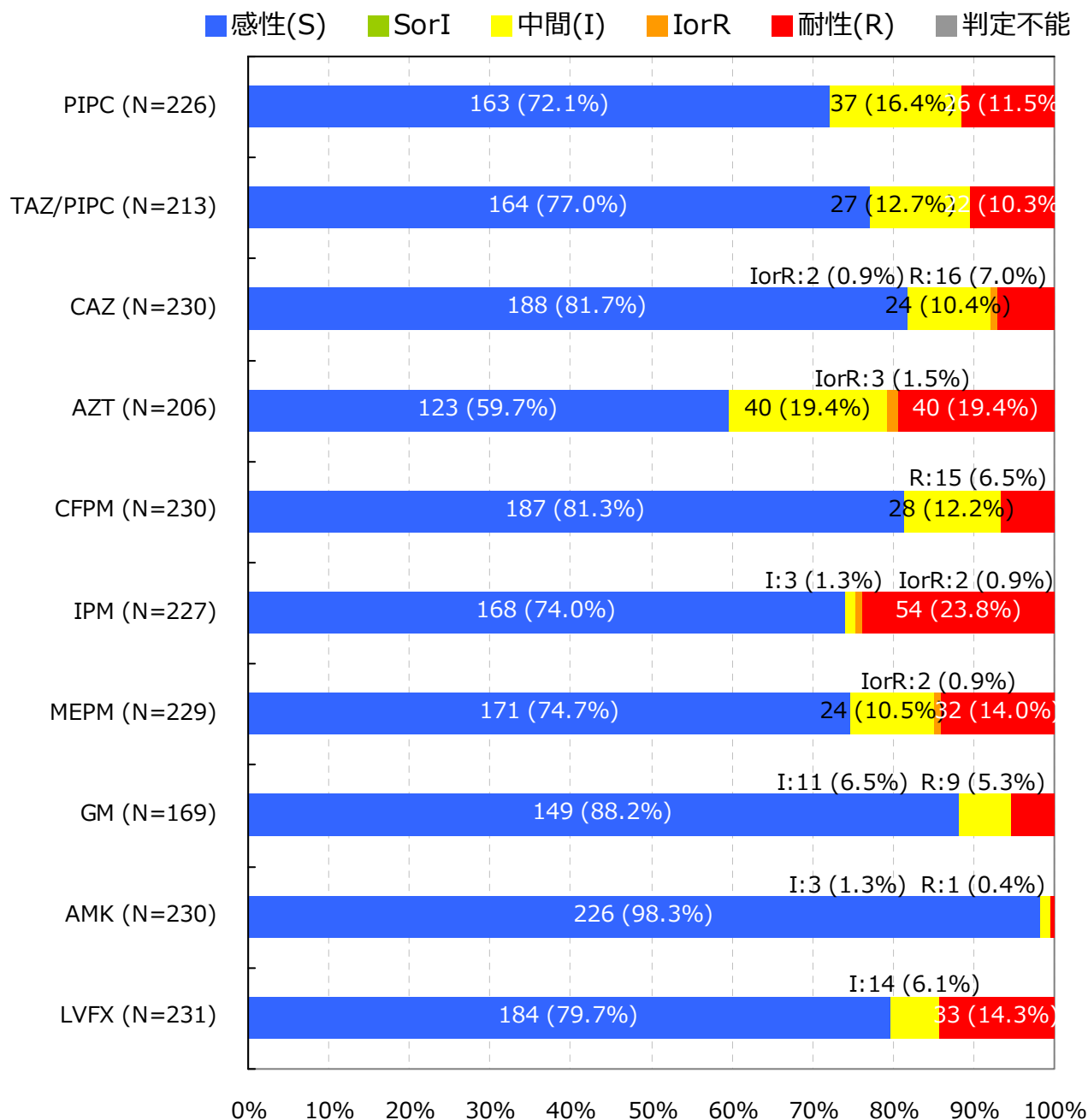
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

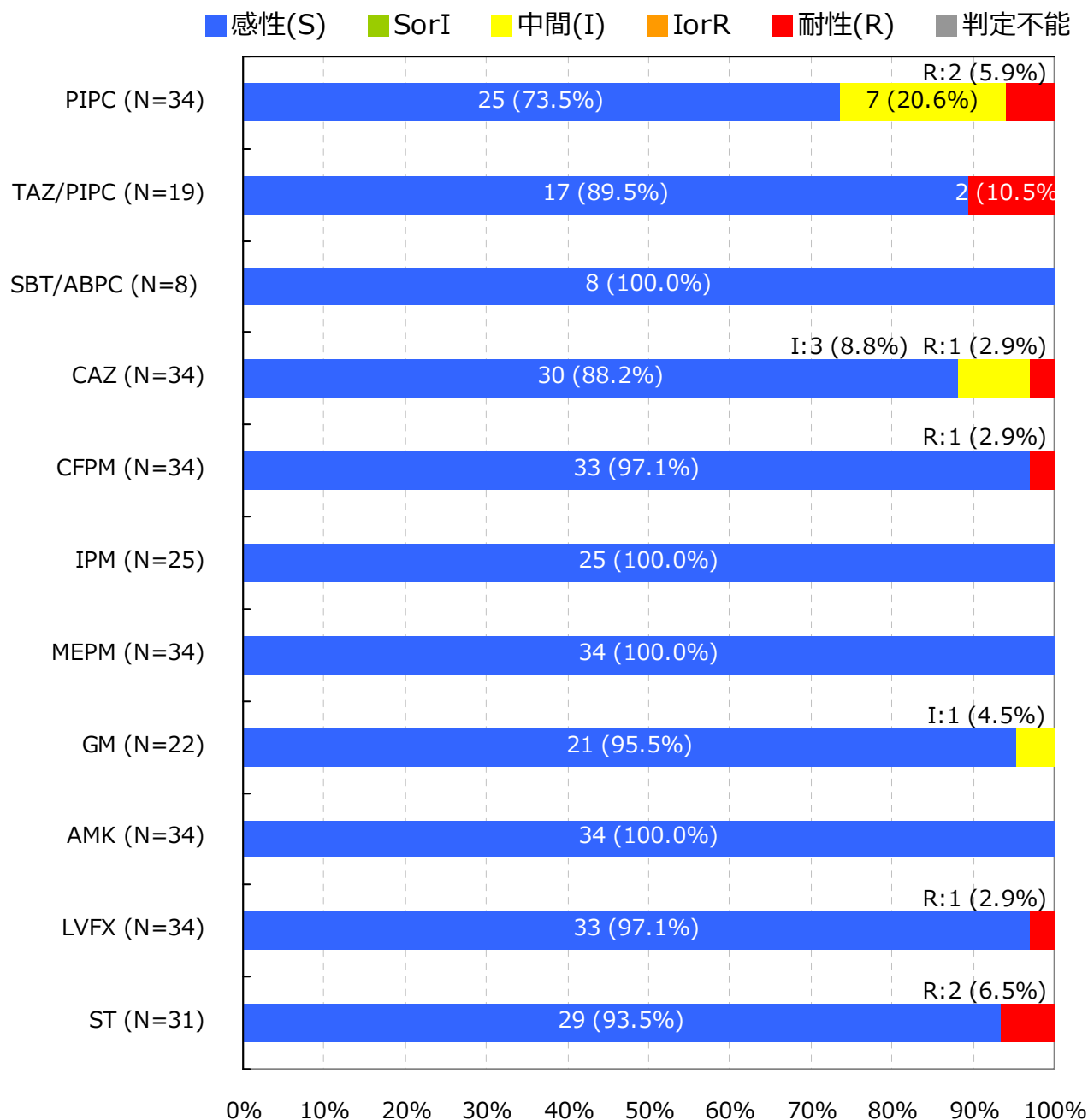
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

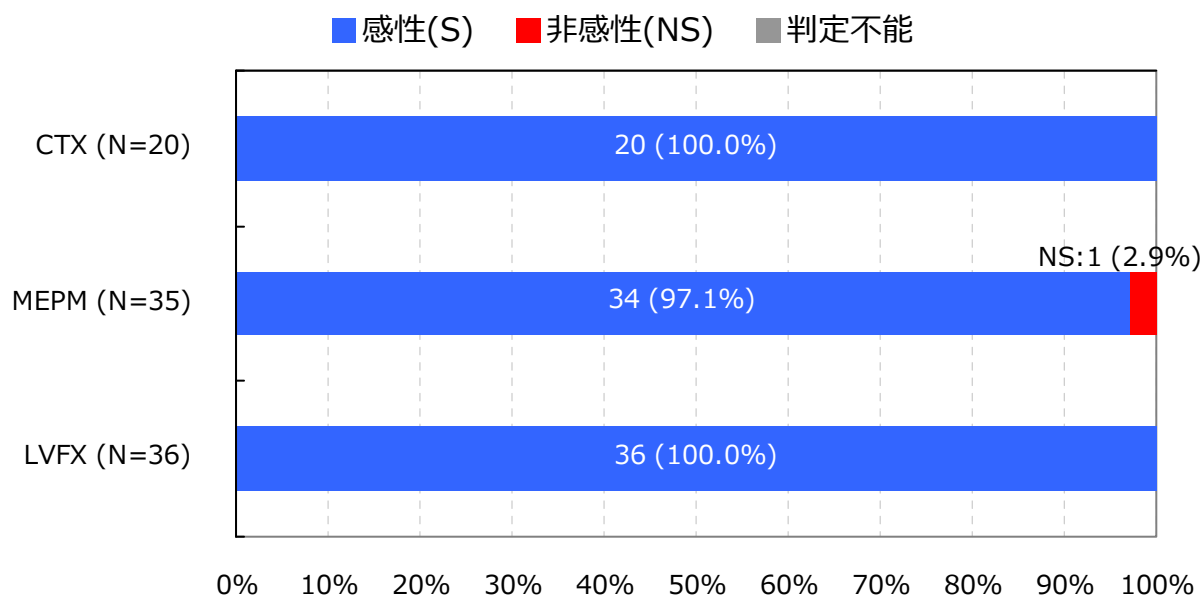
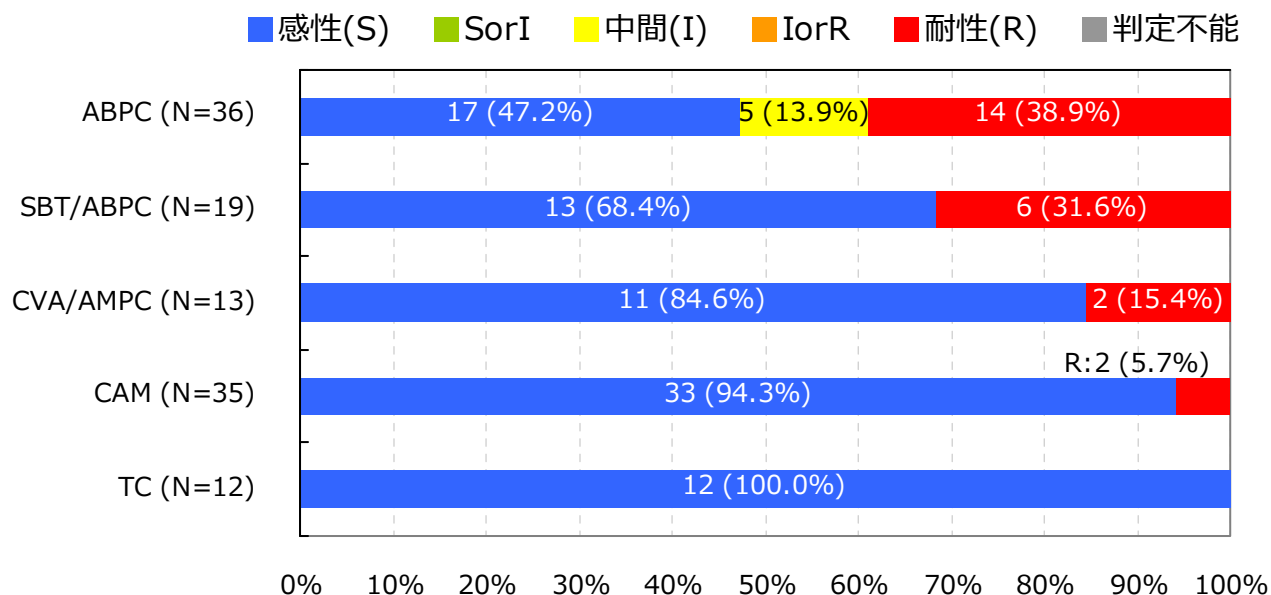
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

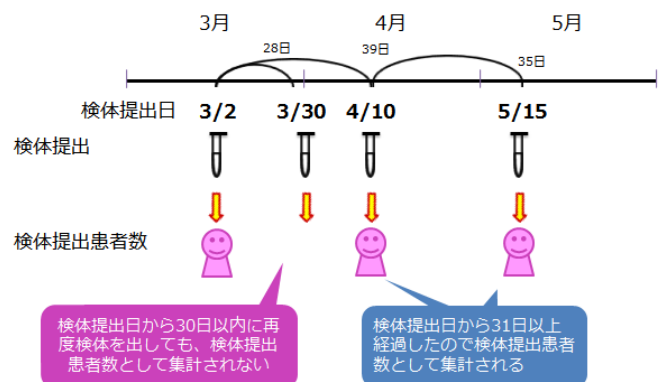
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

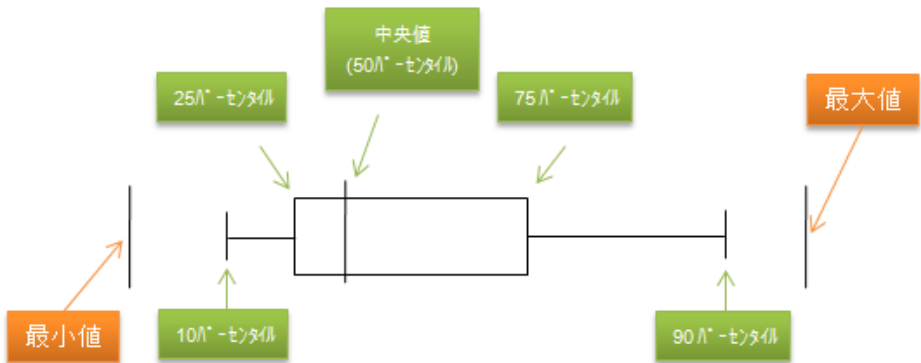
例)



# 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

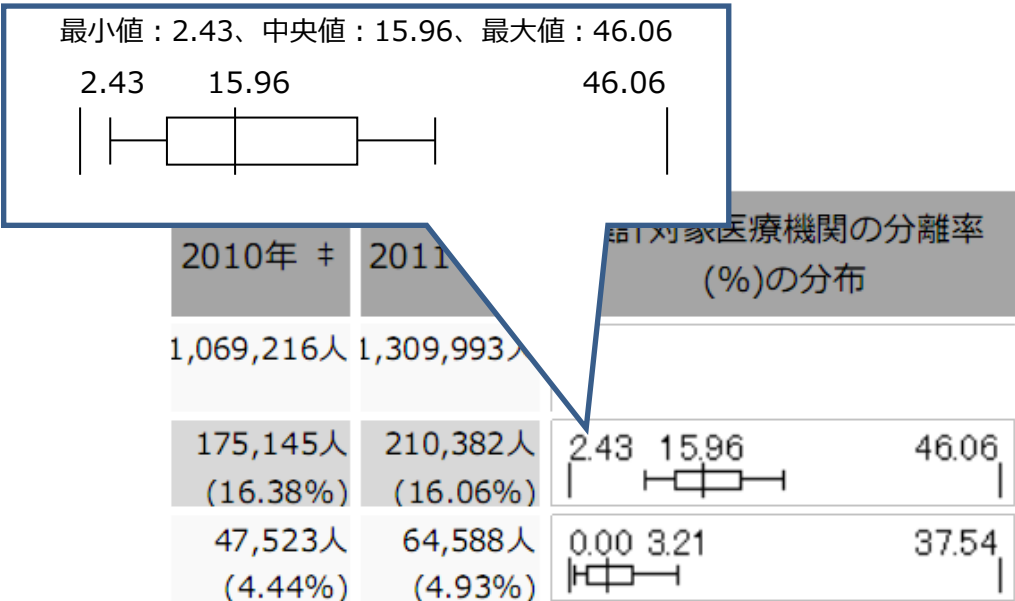
## 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



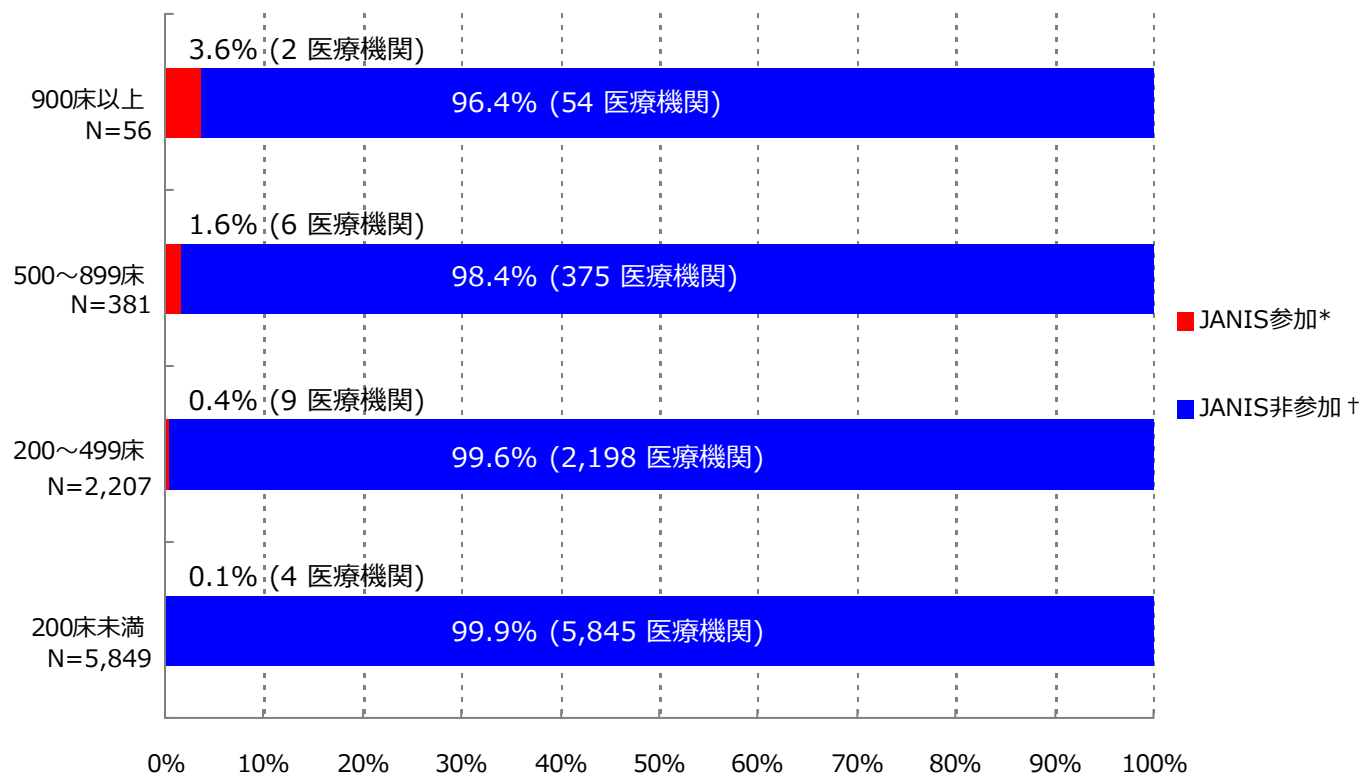
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

## 2. 公開情報の箱ひげ図





## 1. 集計対象医療機関数(21医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	2 ( 3.6% )
500～899床	381	6 ( 1.6% )
200～499床	2,207	9 ( 0.4% )
200床未満	5,849	4 ( 0.1% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	21 ( 0.2% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	21	10,201	7,214 (17,886)
尿検体	21	3,896	2,253 (3,596)
便検体	20	5,027	1,859 (4,388)
血液検体	21	11,867	1,413 (1,759)
髄液検体	16	279	13 (15)
その他	21	7,917	3,616 (6,393)
合計	21	39,187	16,368 (34,037)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

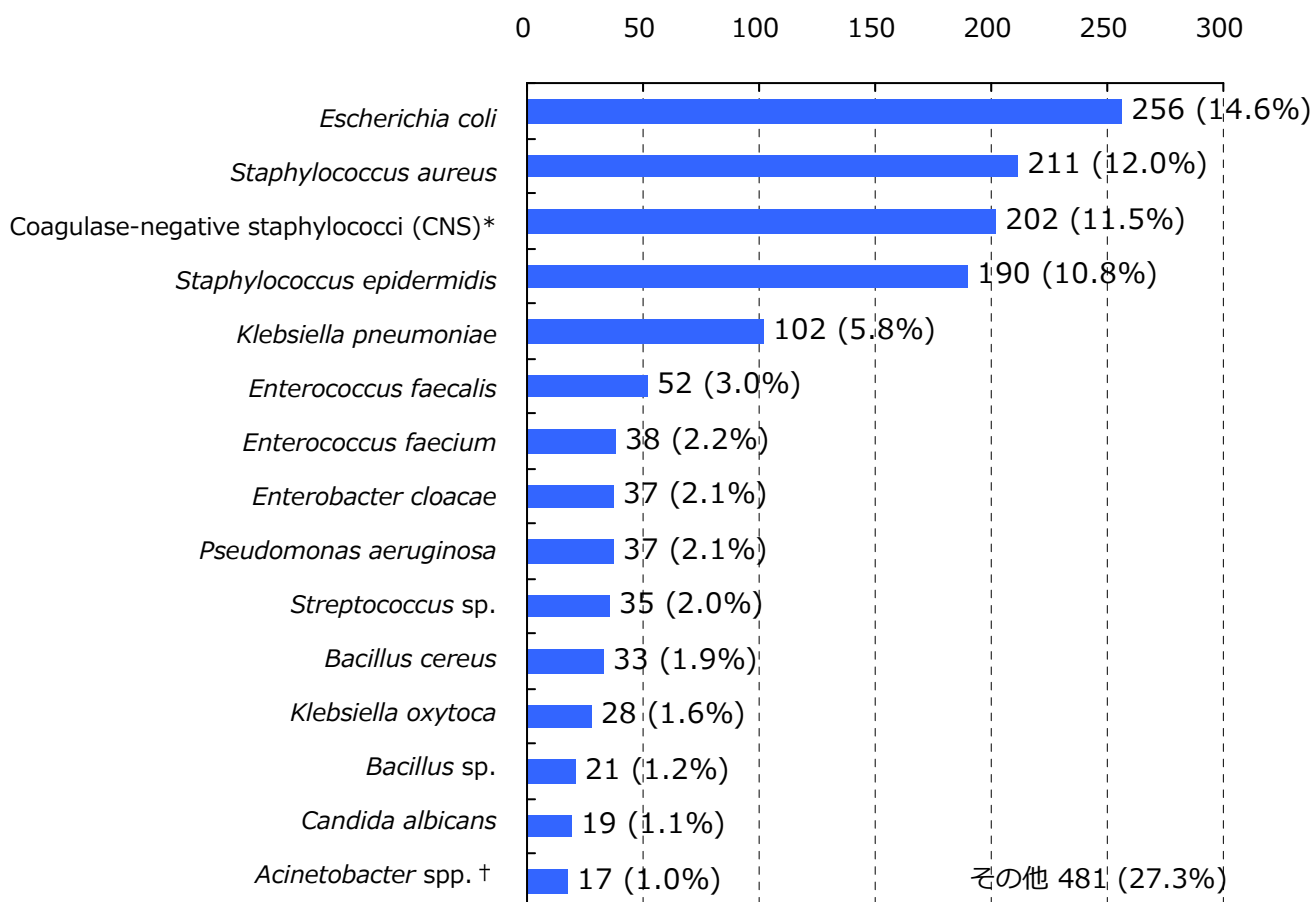
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=1,759)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

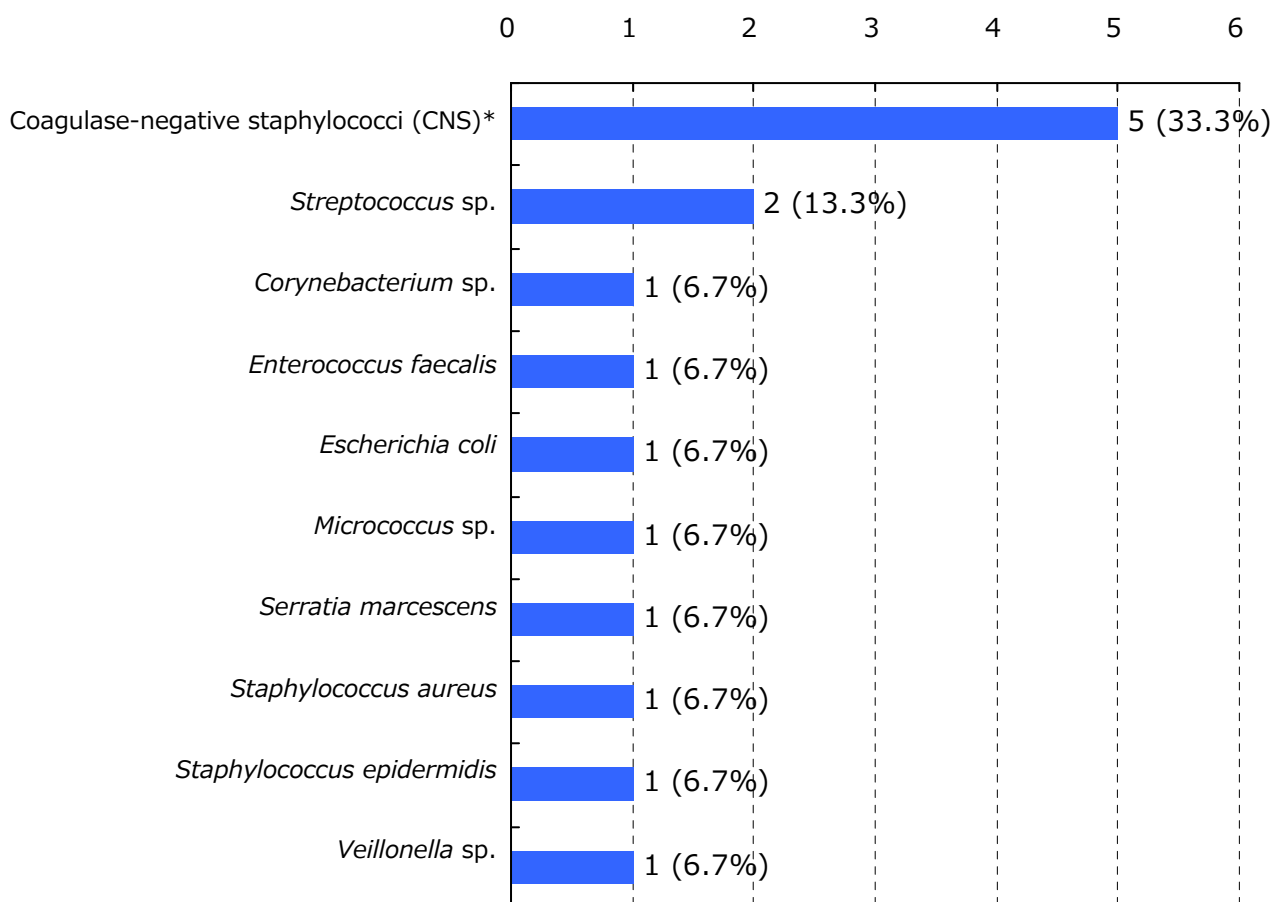
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

髄液検体分離菌 (N=15)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

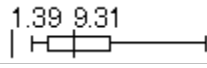

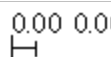
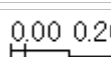
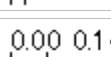

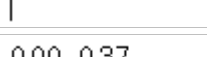
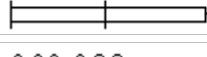
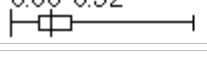
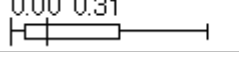
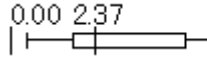
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

：JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡	集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布
検体提出患者数	12,706人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	1,110人 (8.74%)	1.39 9.31 45.60 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	23人 (0.18%)	0.00 0.00 4.06 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	80人 (0.63%)	0.00 0.20 4.91 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	26人 (0.20%)	0.00 0.14 1.35 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	68人 (0.54%)	0.00 0.37 1.35 
カルバペネム耐性緑膿菌	173人 (1.36%)	0.00 0.92 7.67 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	74人 (0.58%)	0.00 0.31 2.84 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	344人 (2.71%)	0.00 2.37 9.76 
フルオロキノロン耐性大腸菌	652人 (5.13%)	2.18 5.47 22.76 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

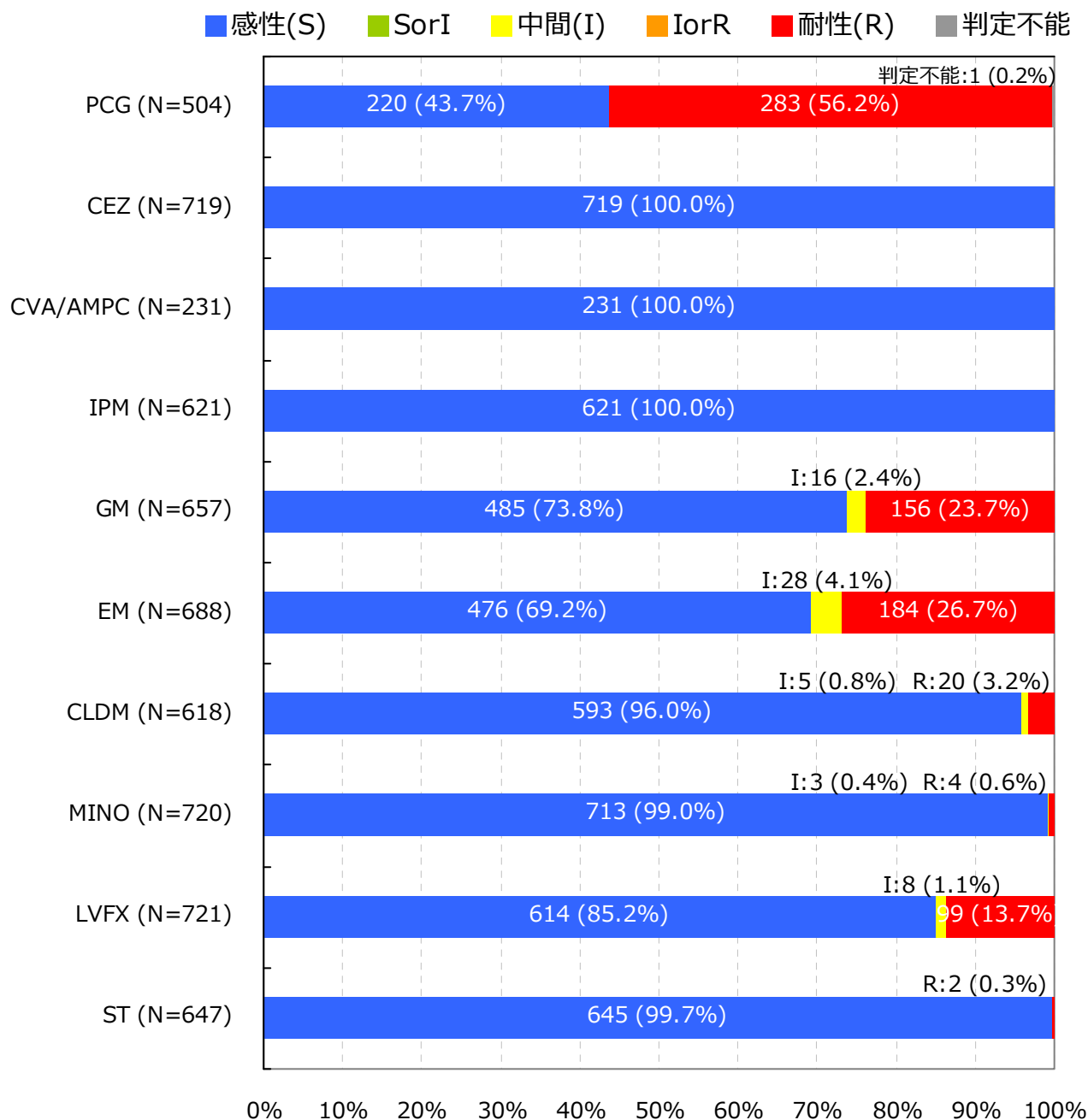
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

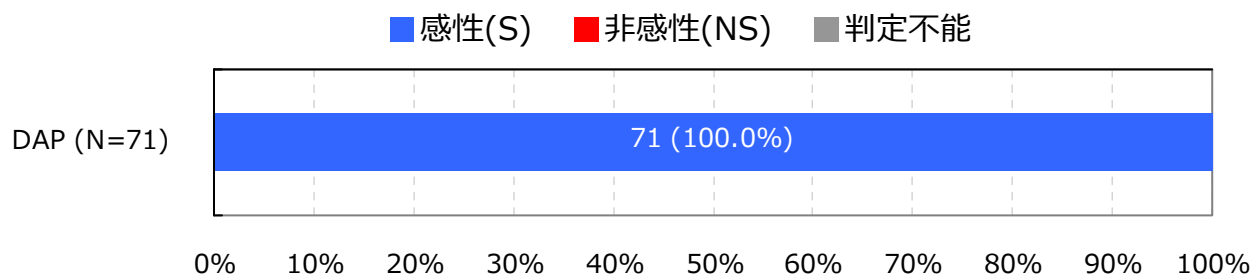
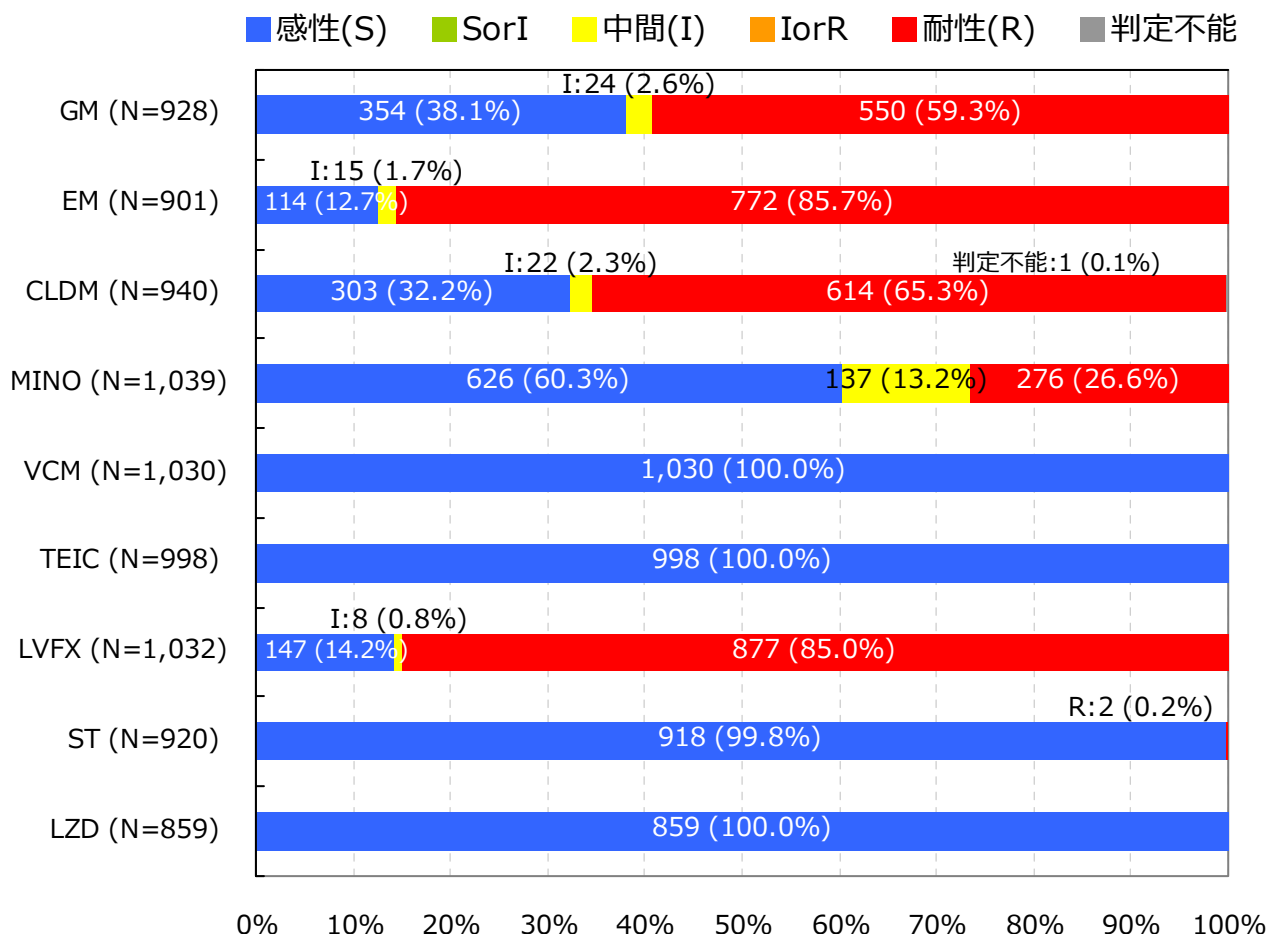
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

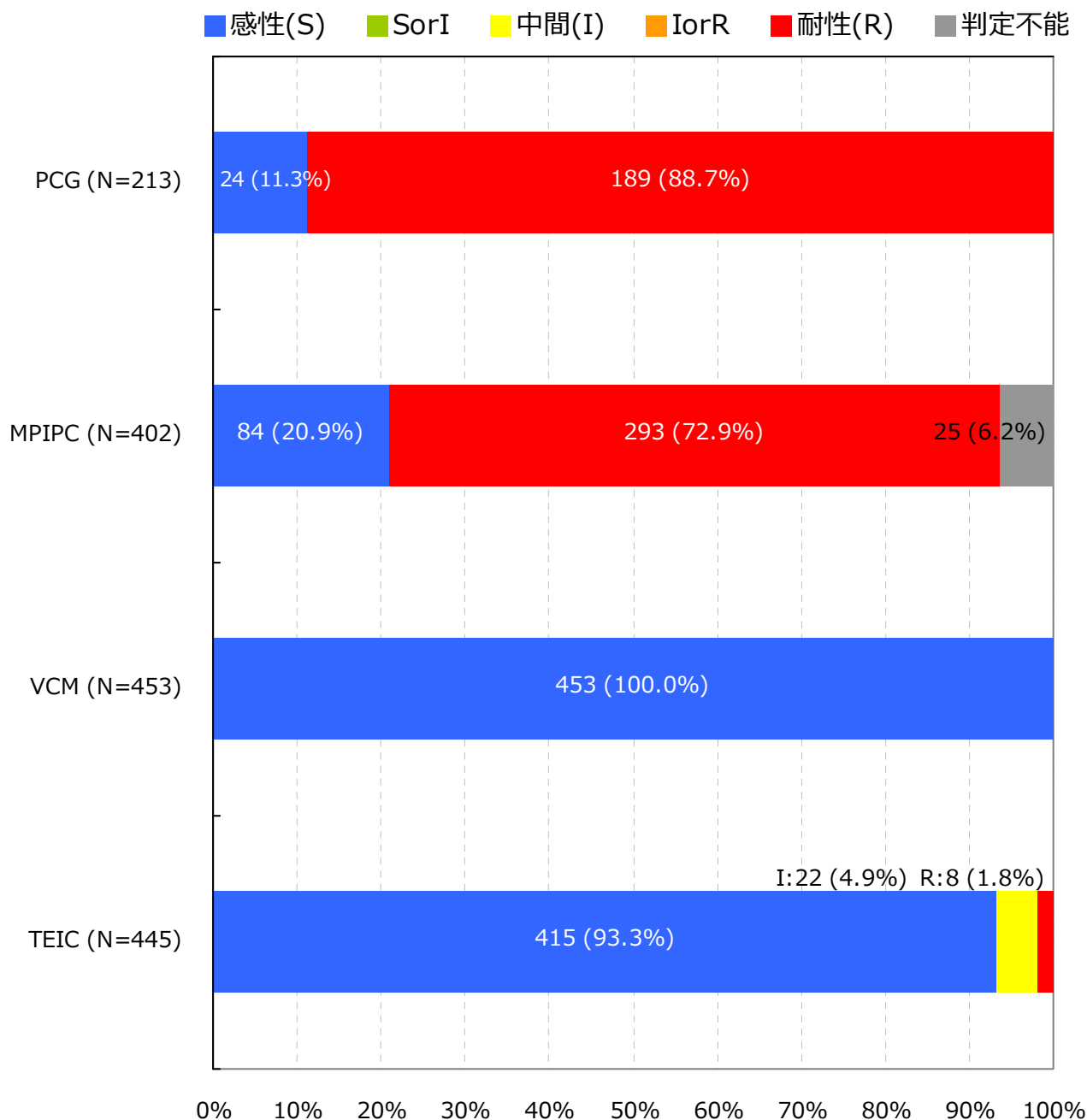
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

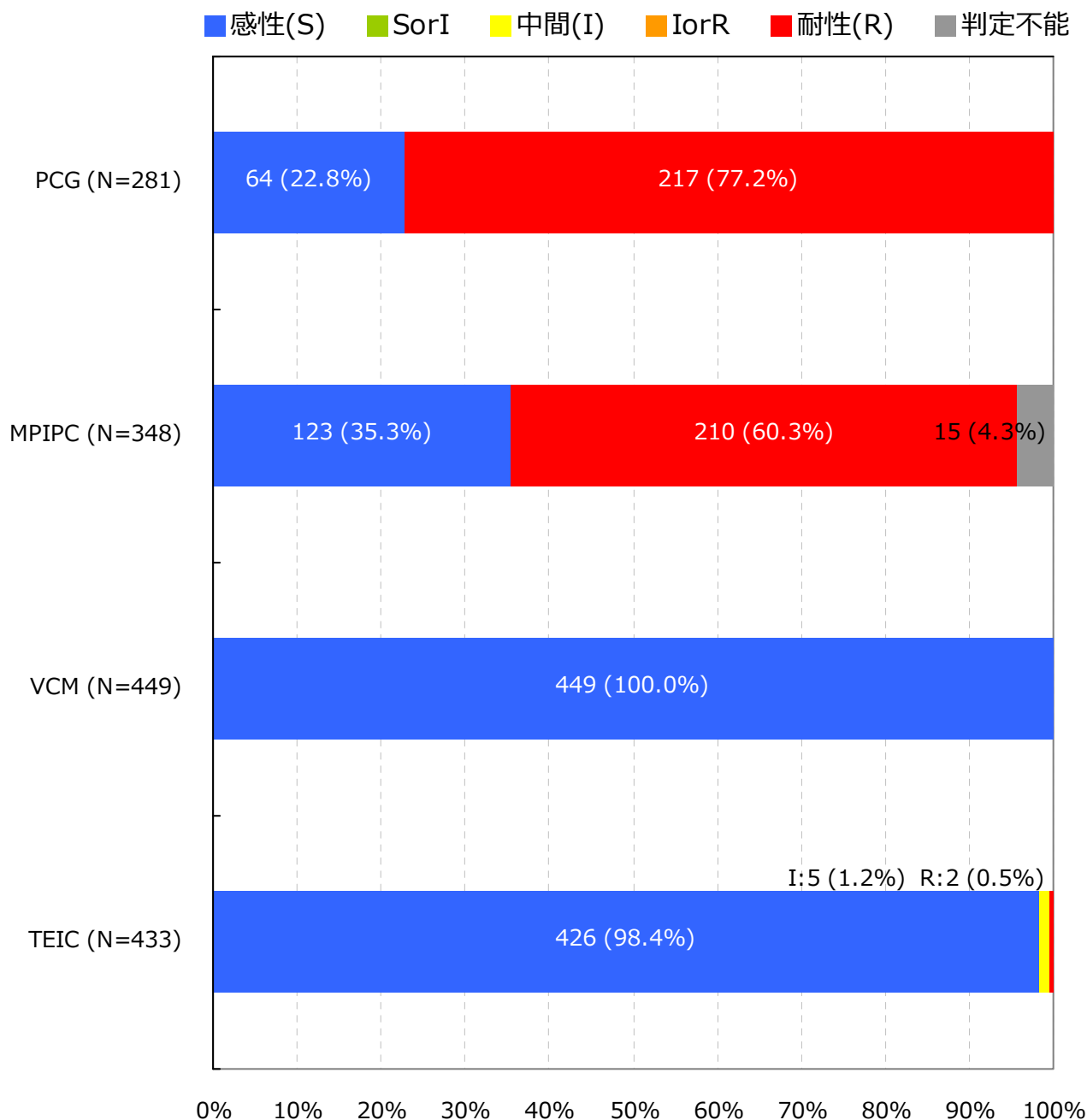
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1312と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



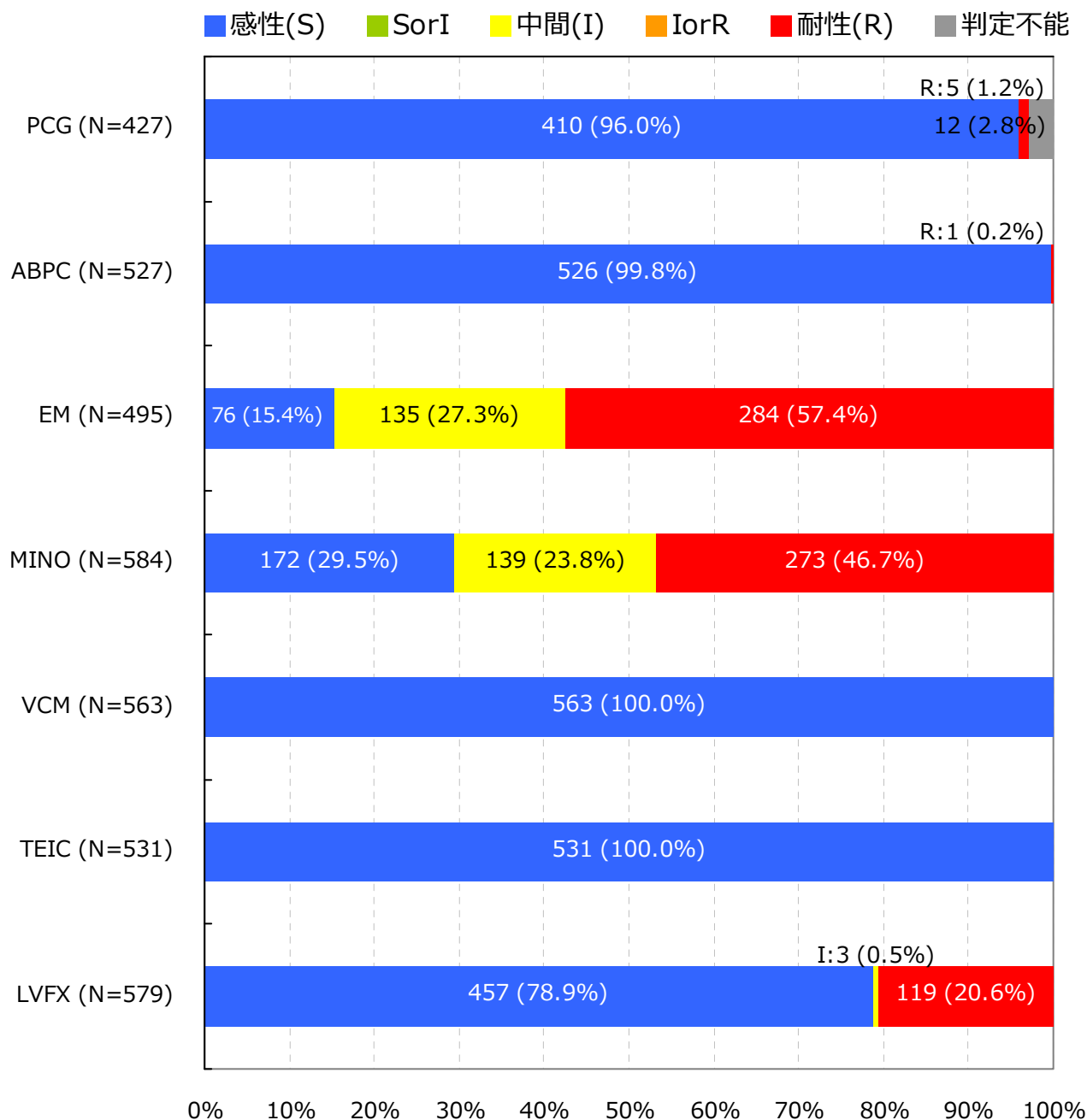
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312: *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

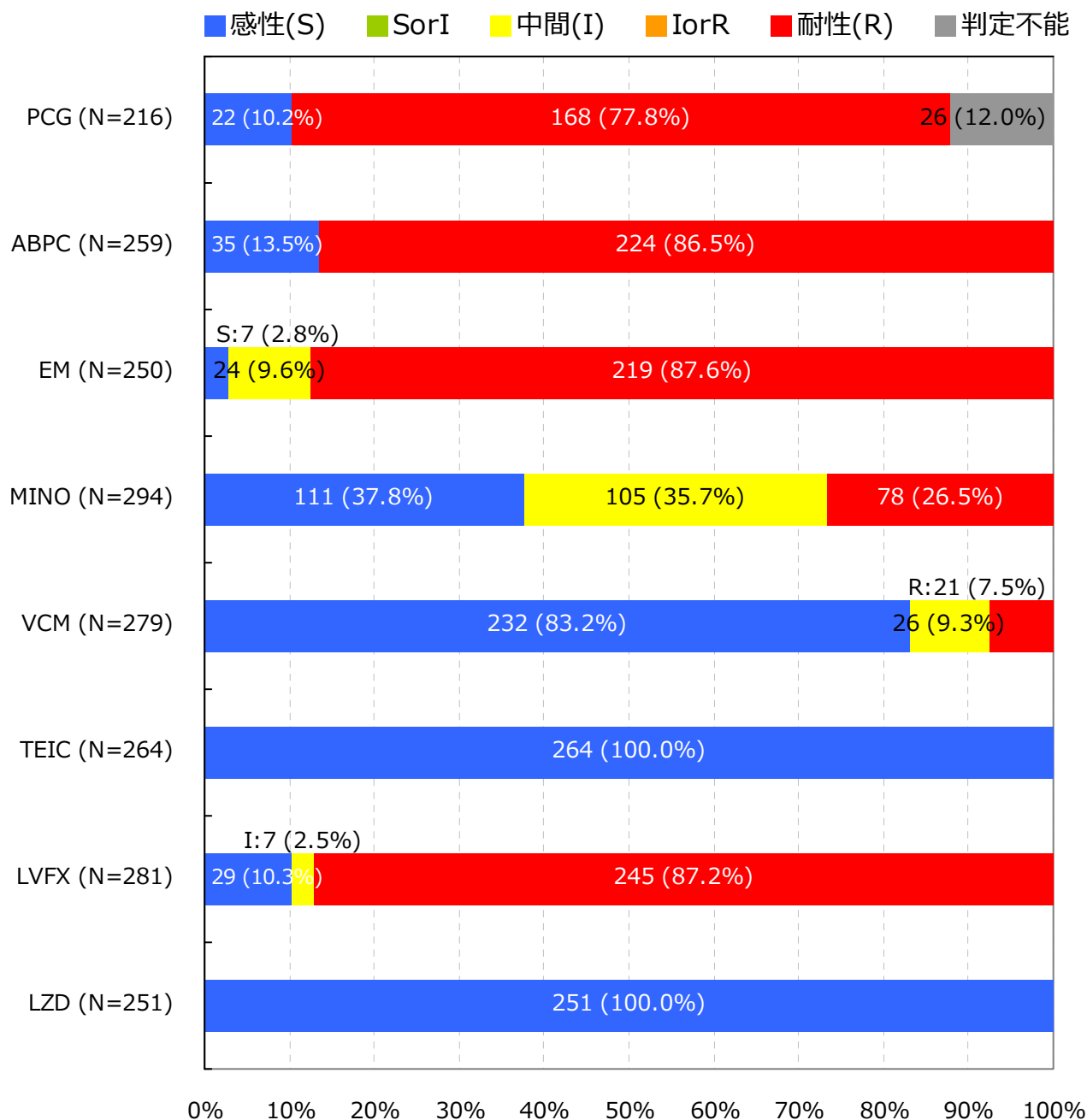
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(岡山県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

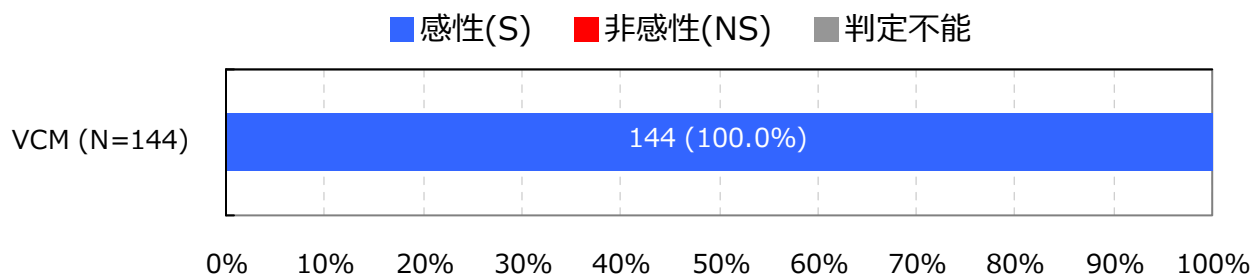
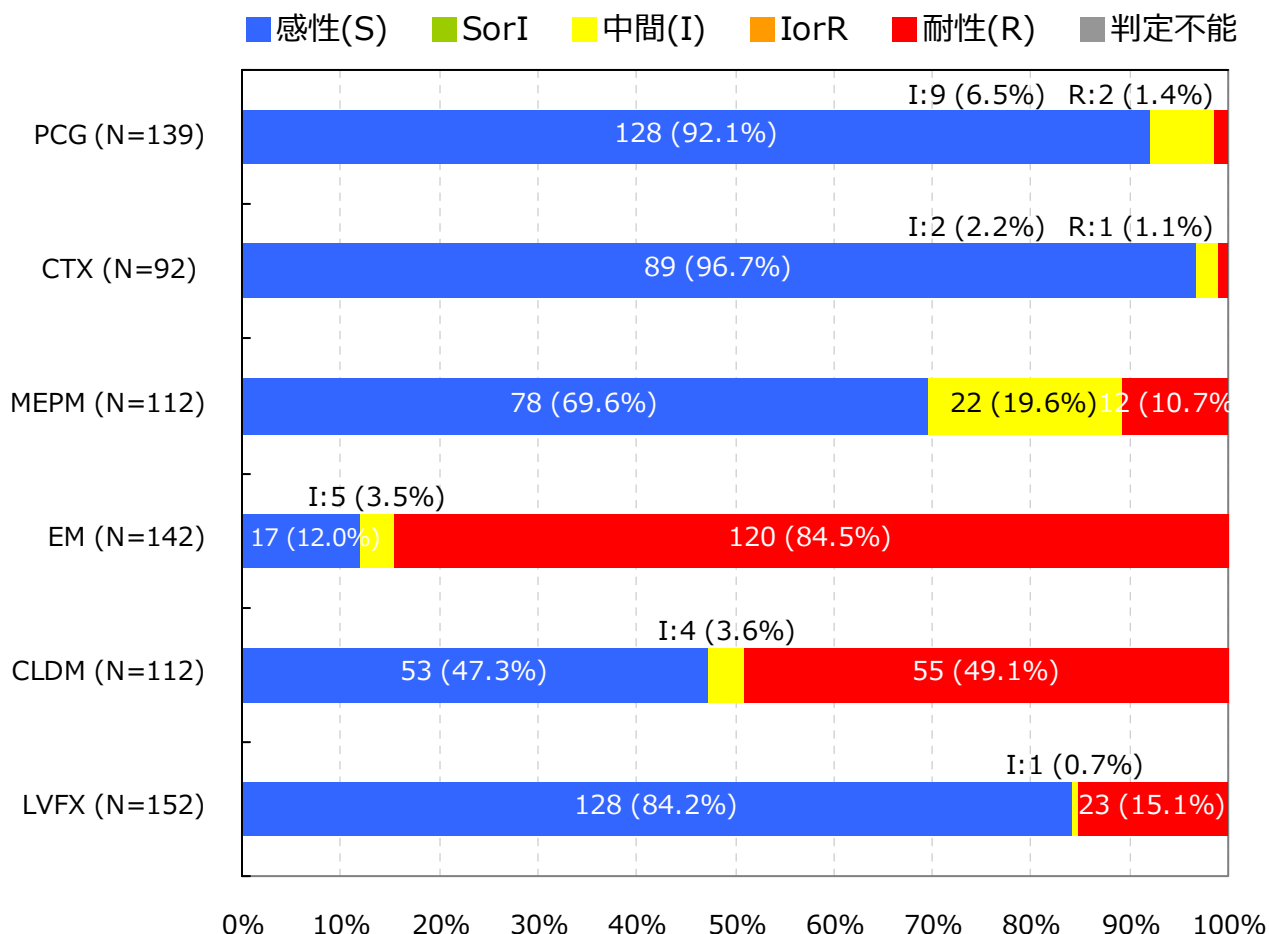
報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

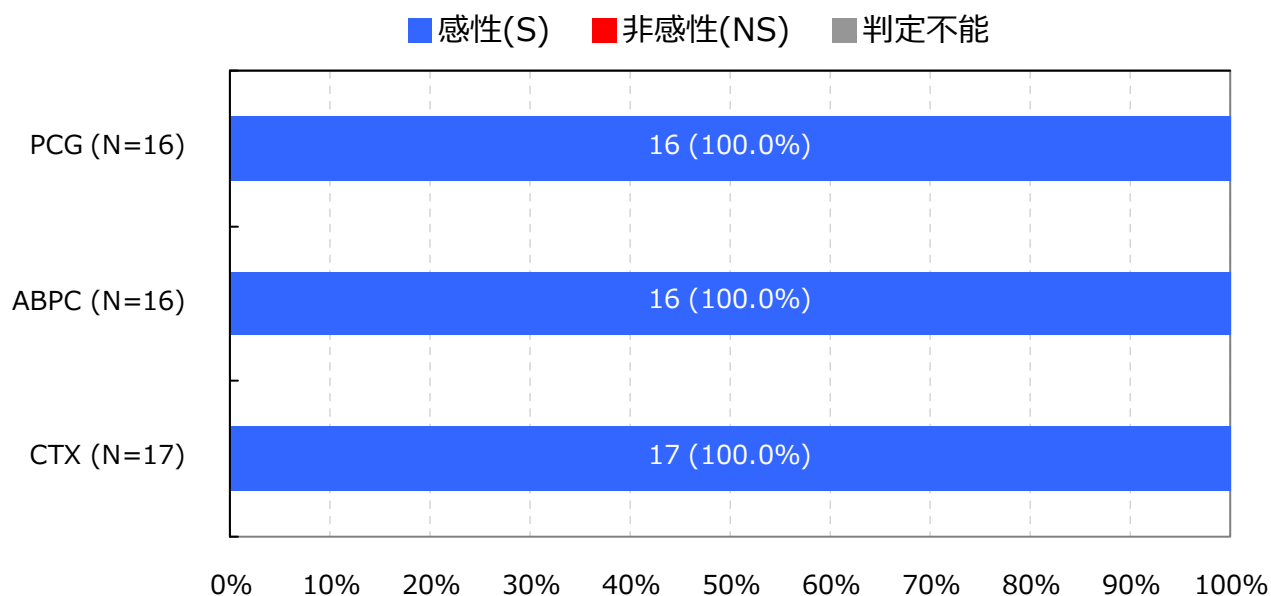
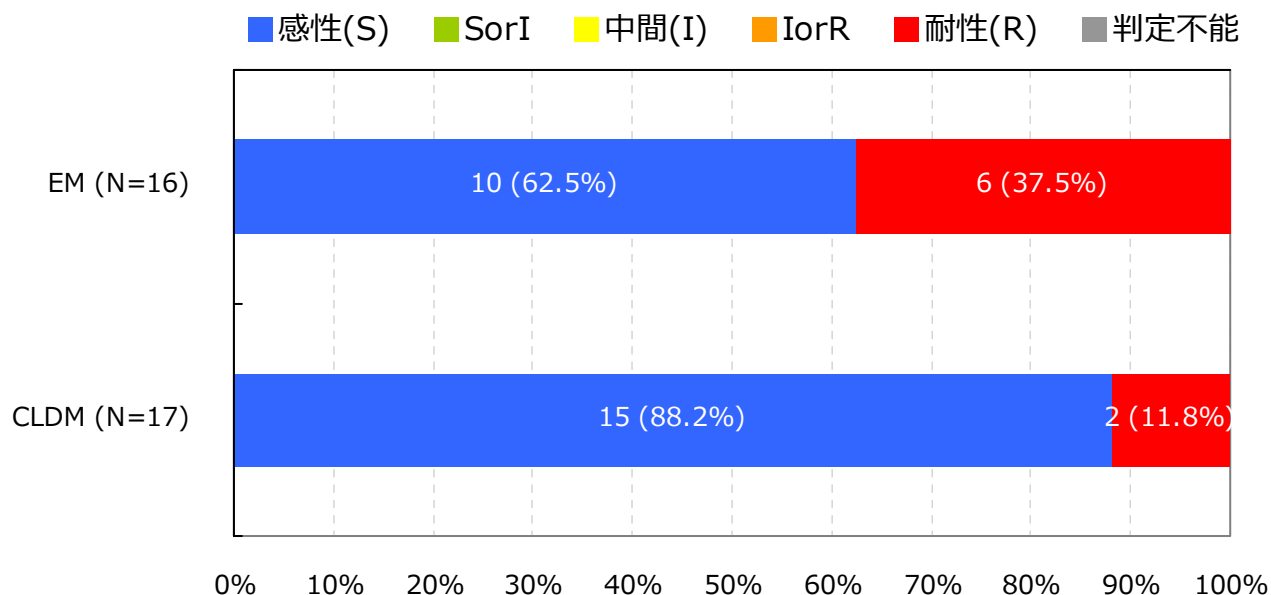
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

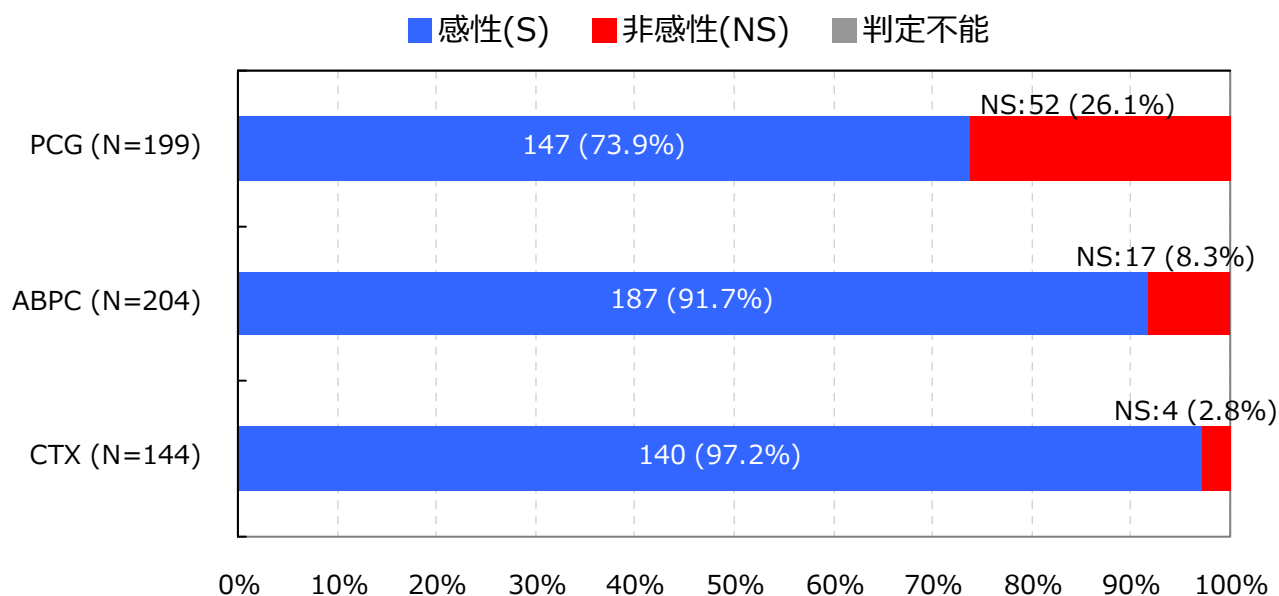
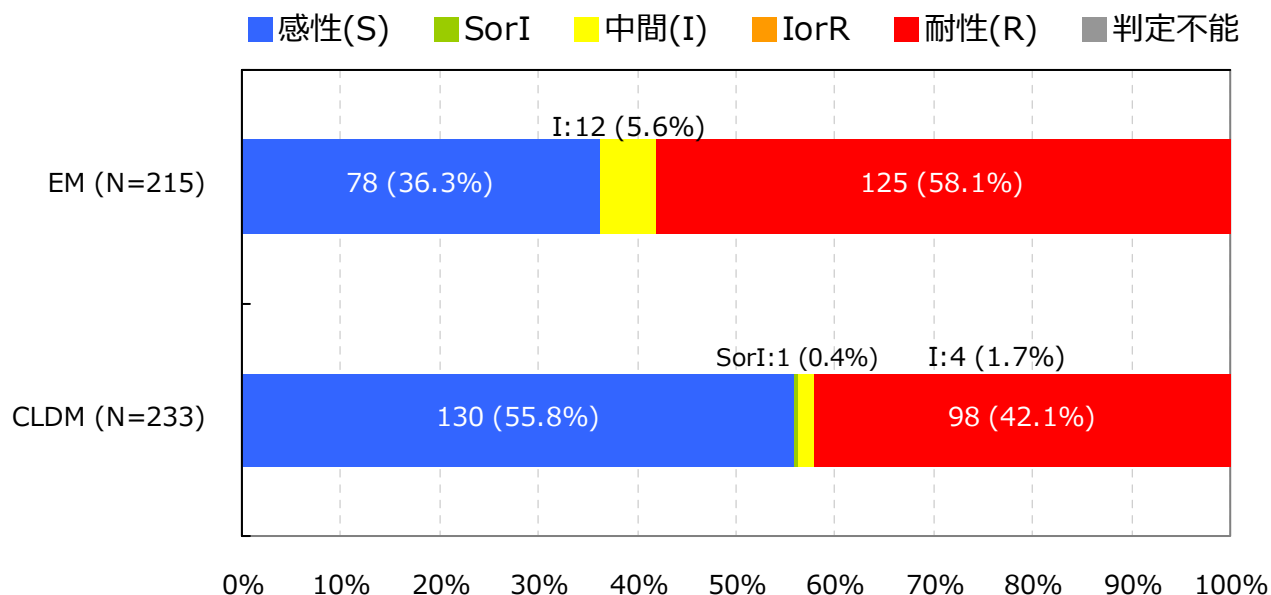
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

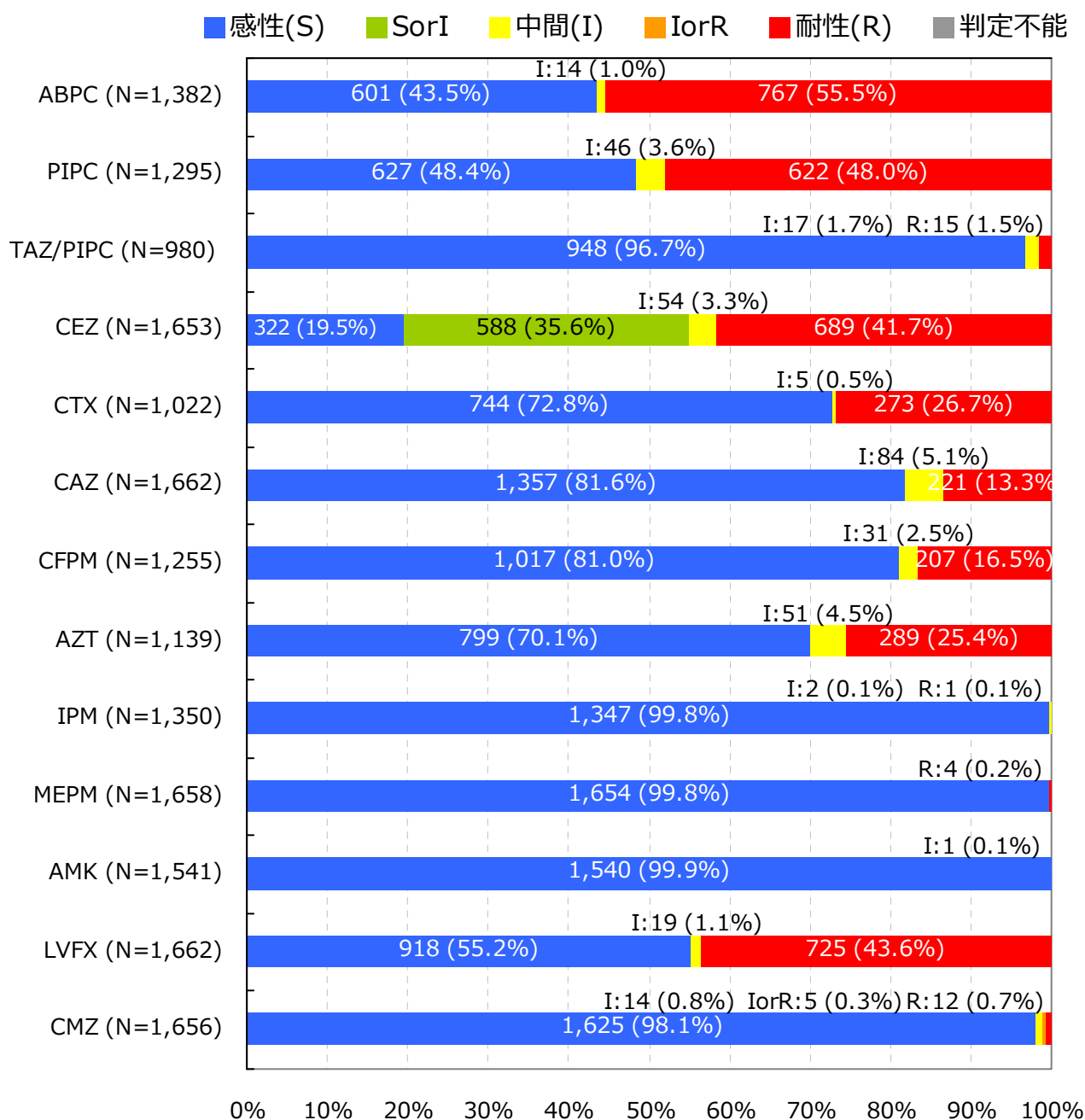
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

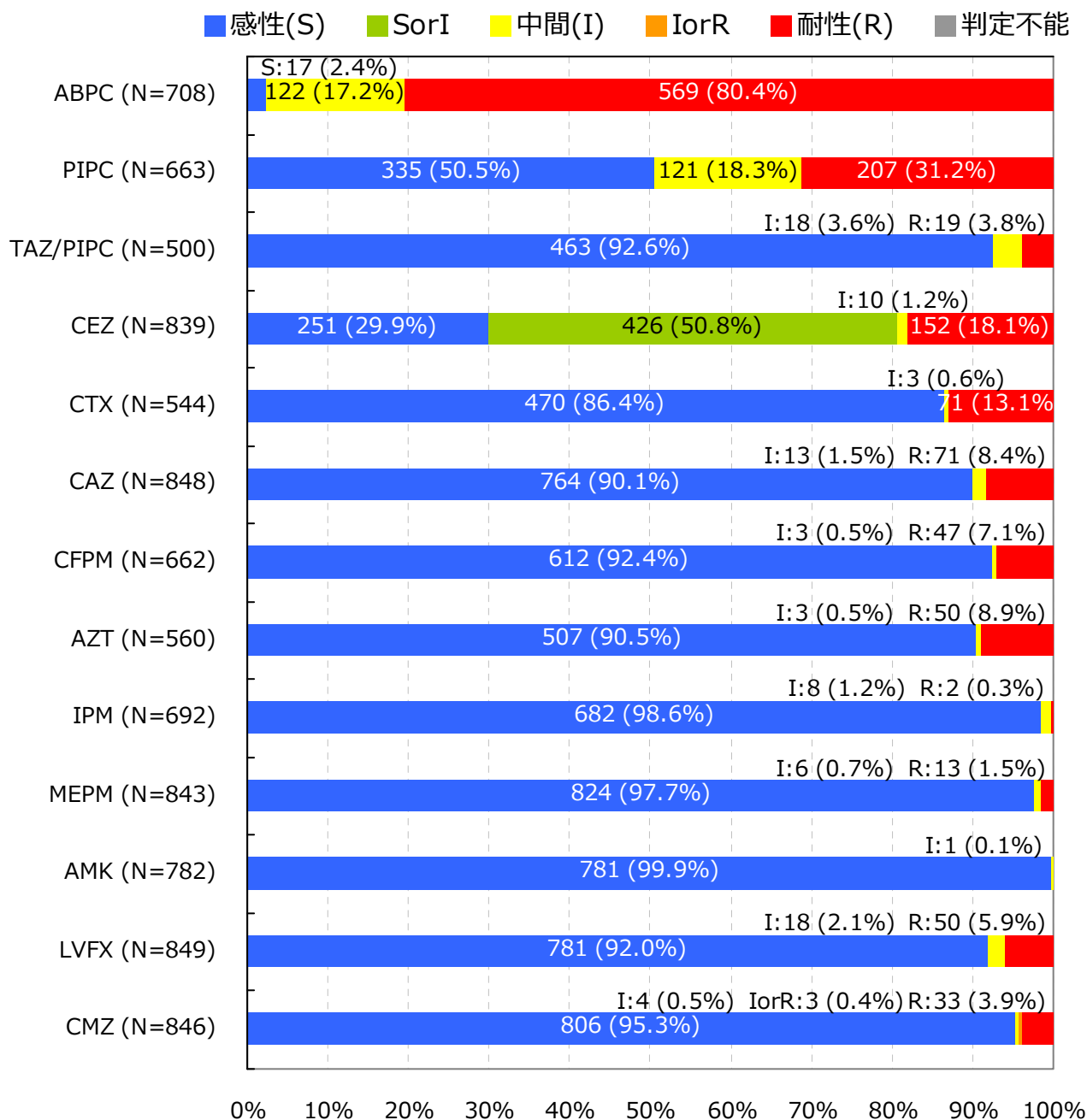
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2001～2007と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

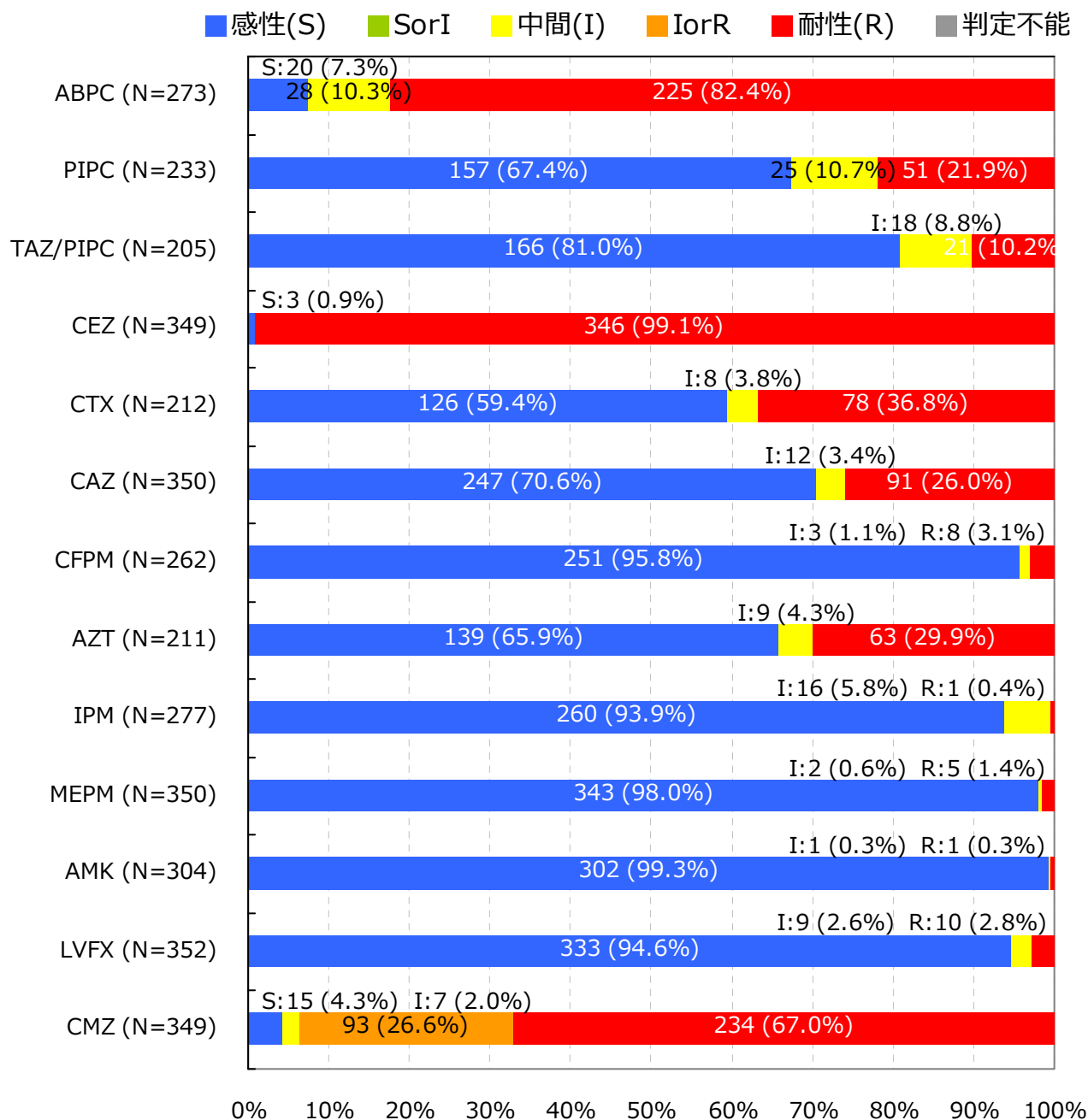
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

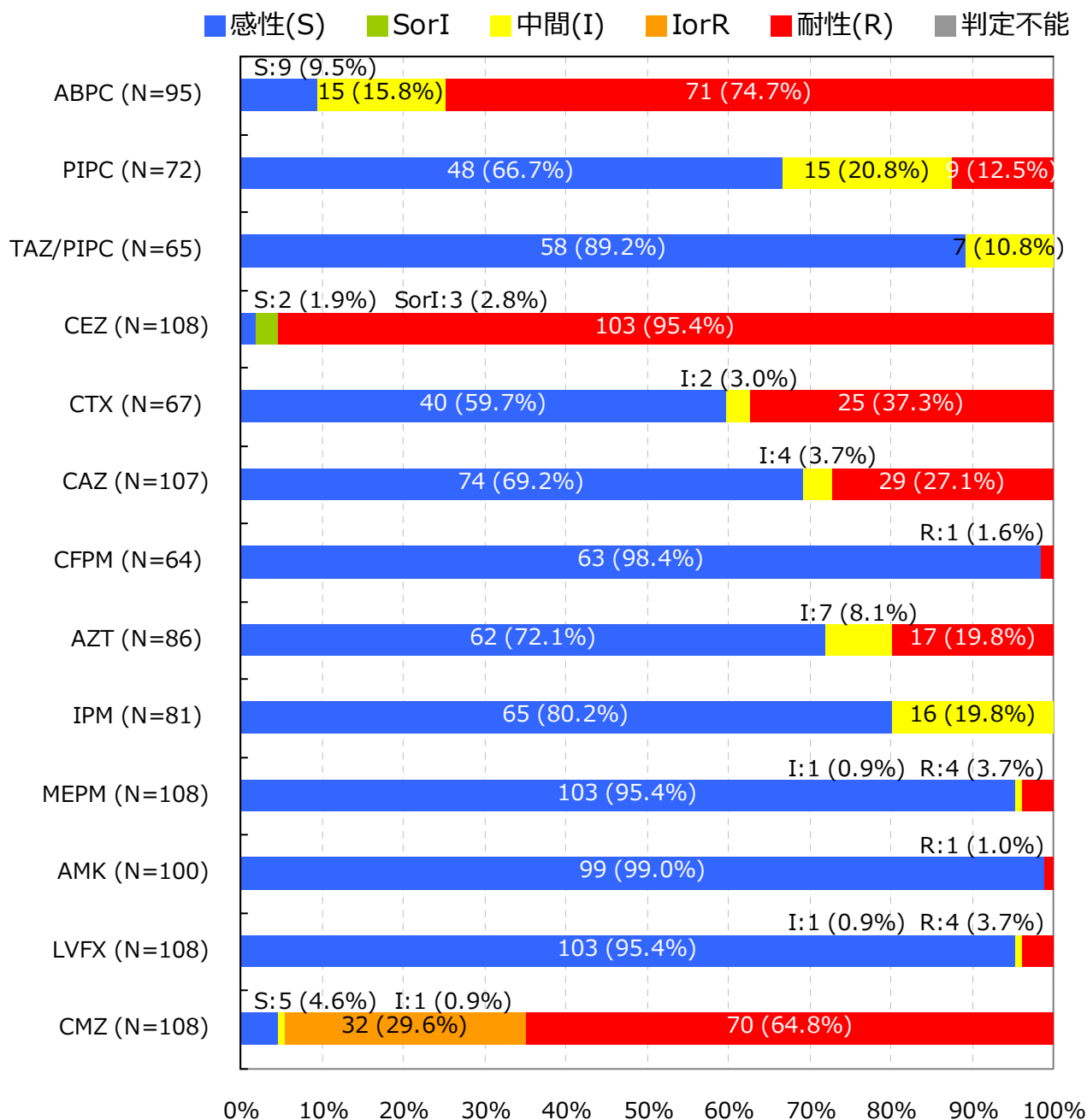
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

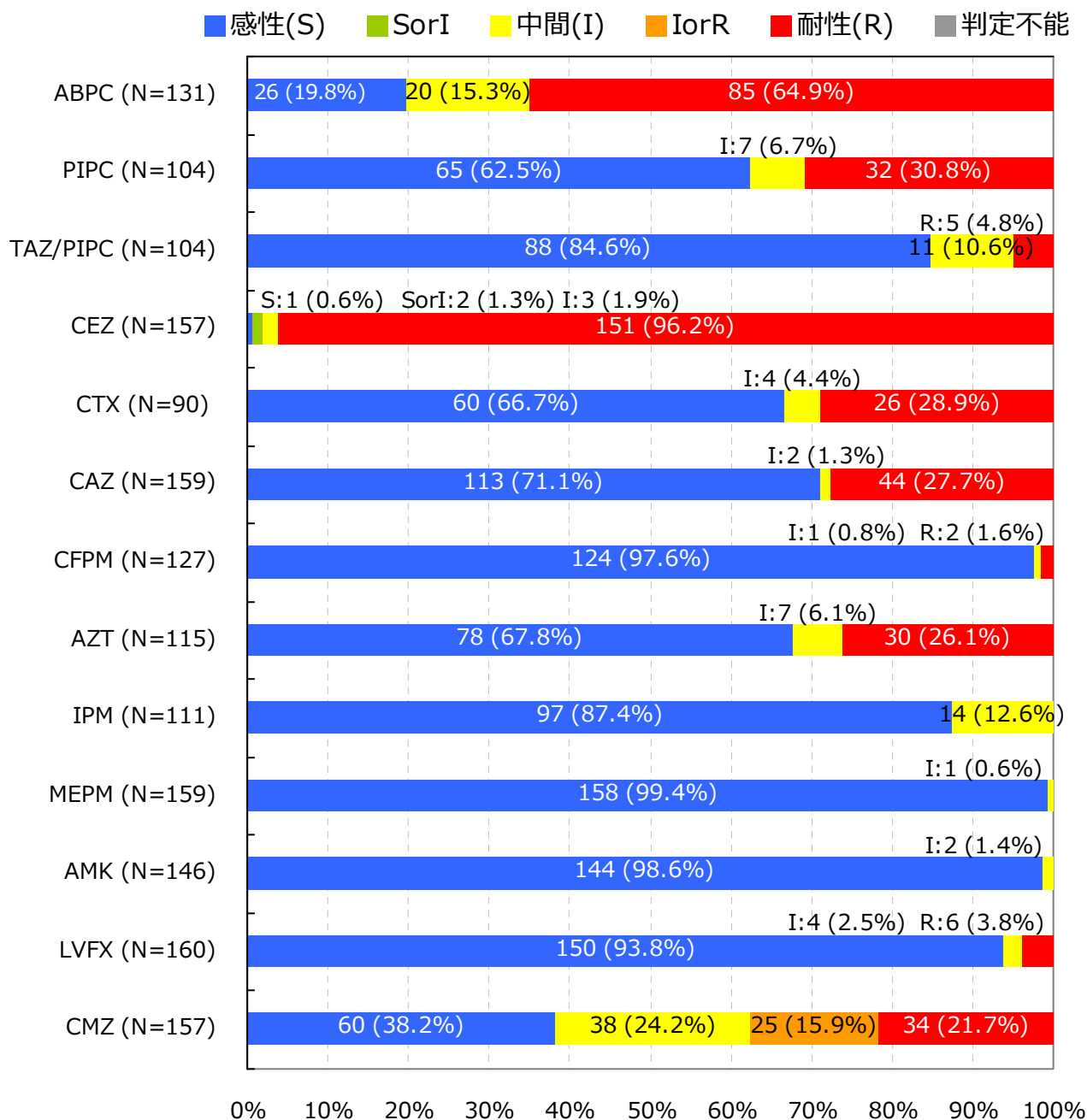
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

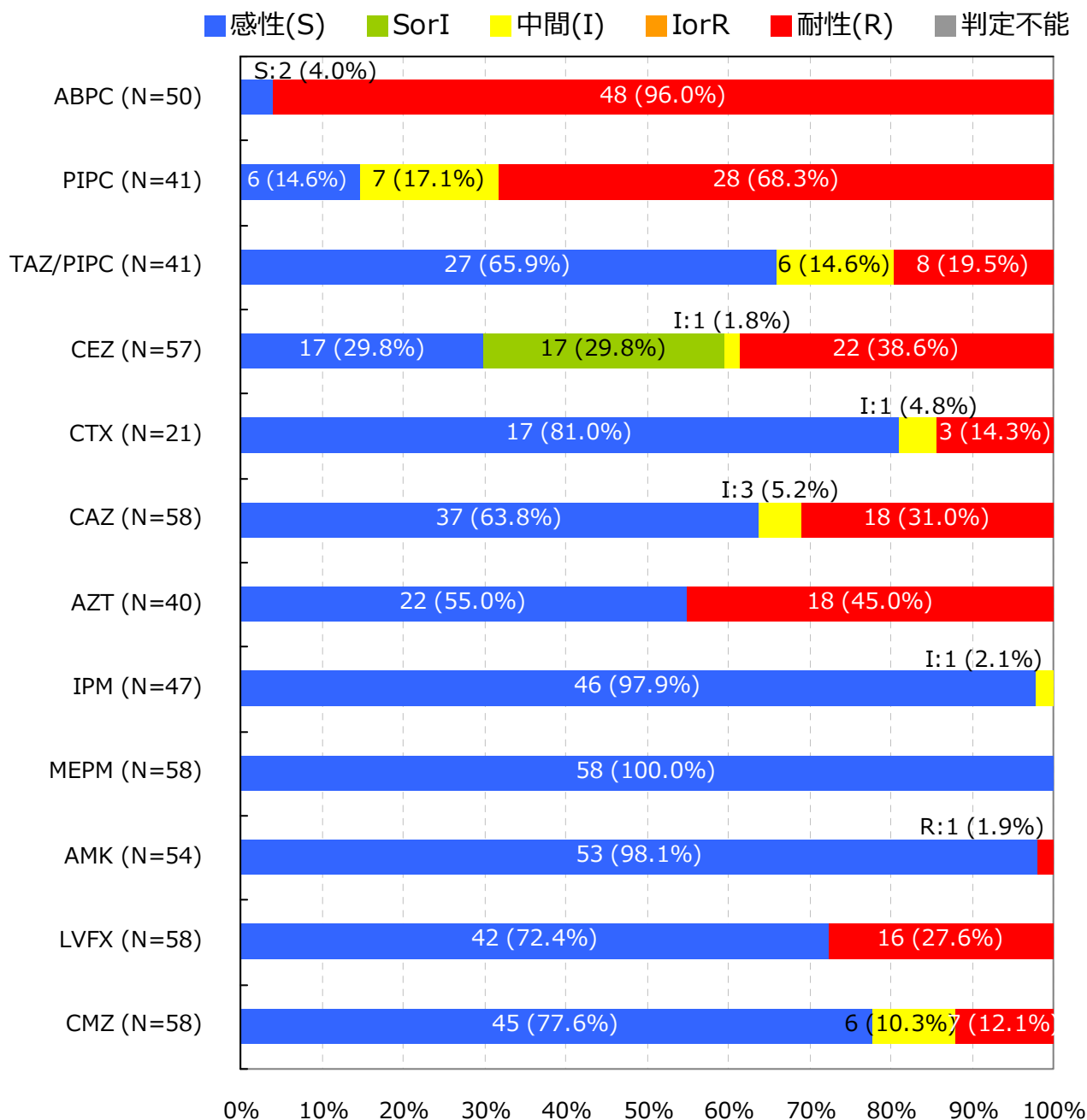
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

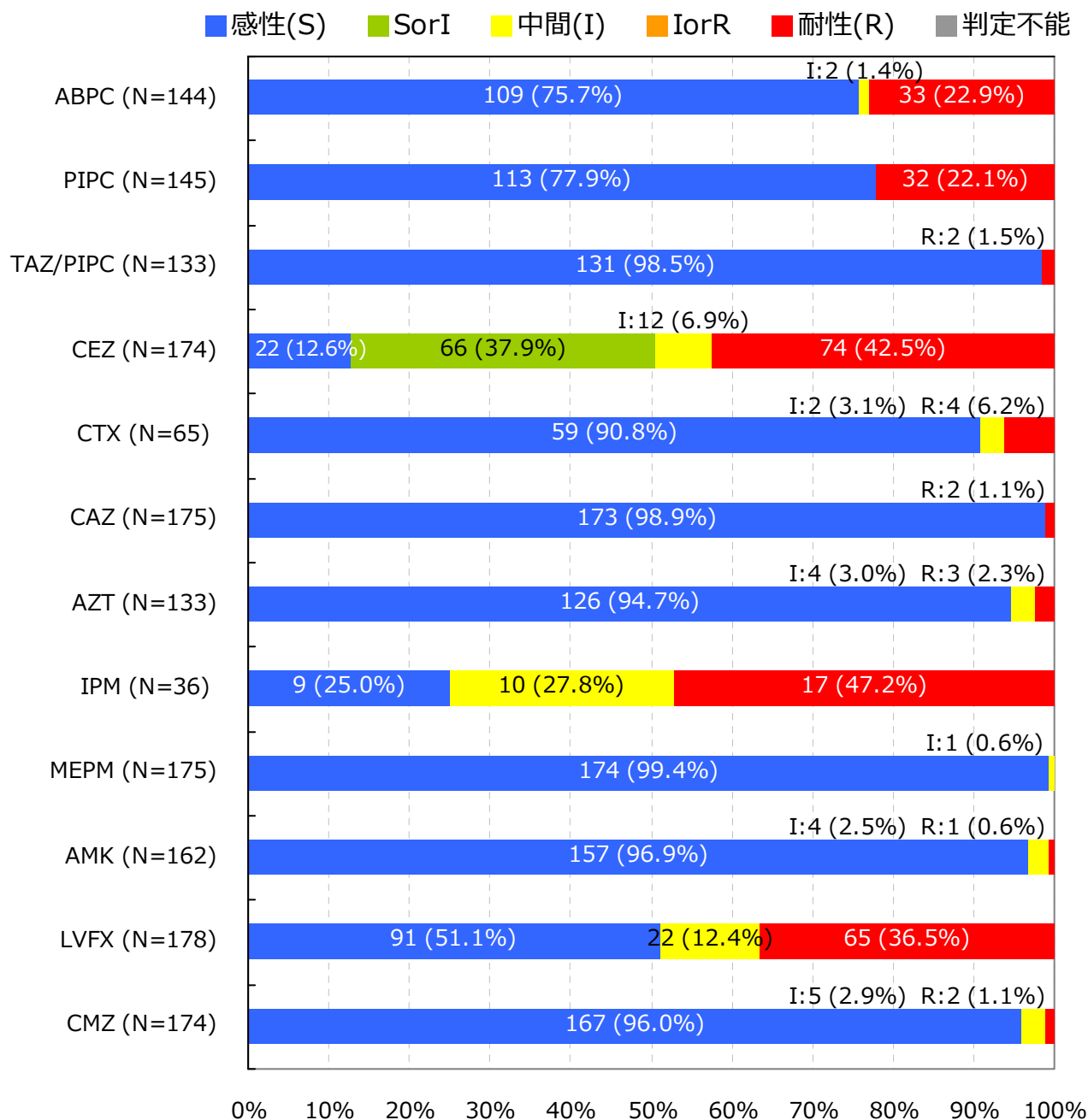
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

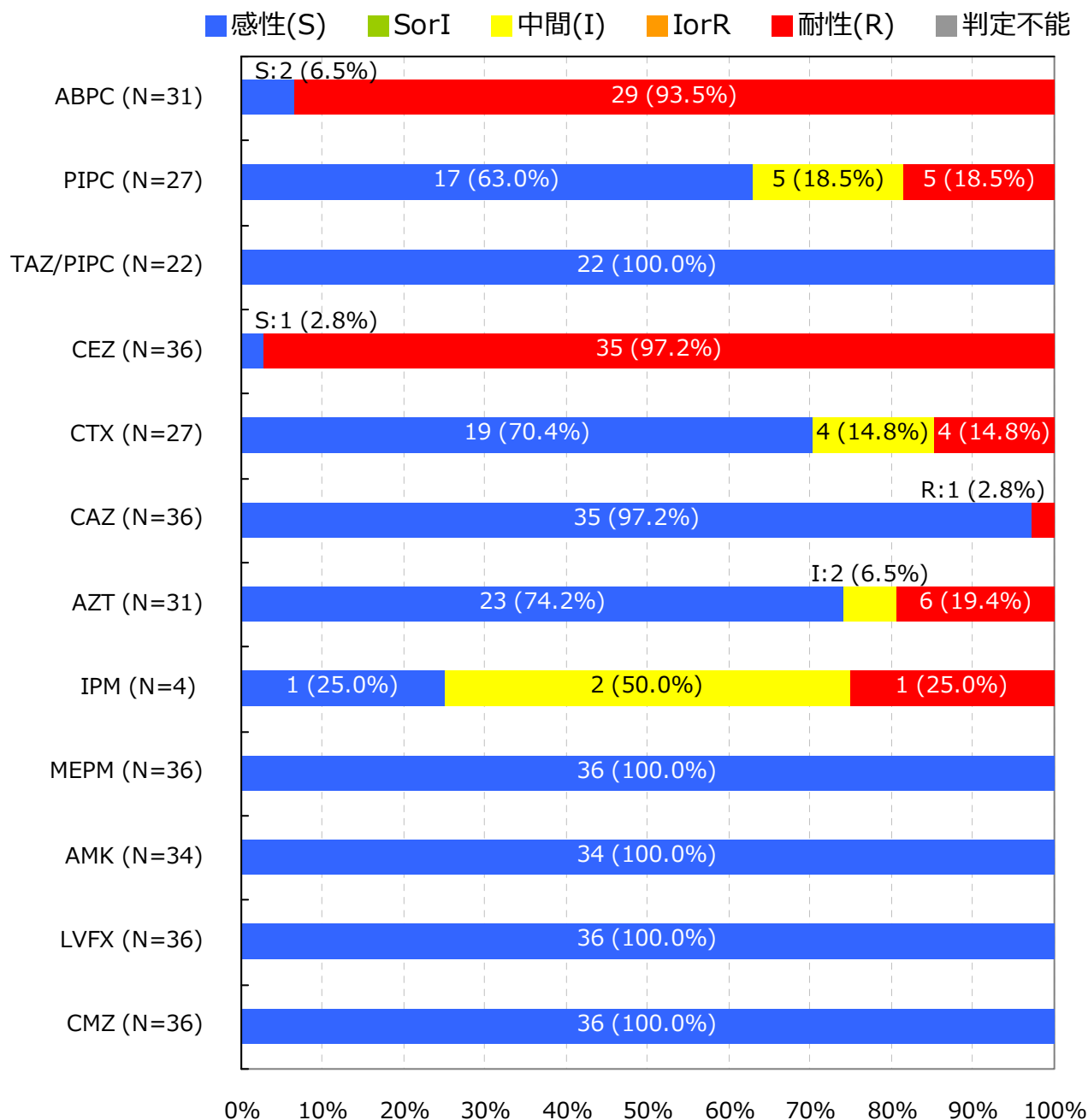
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

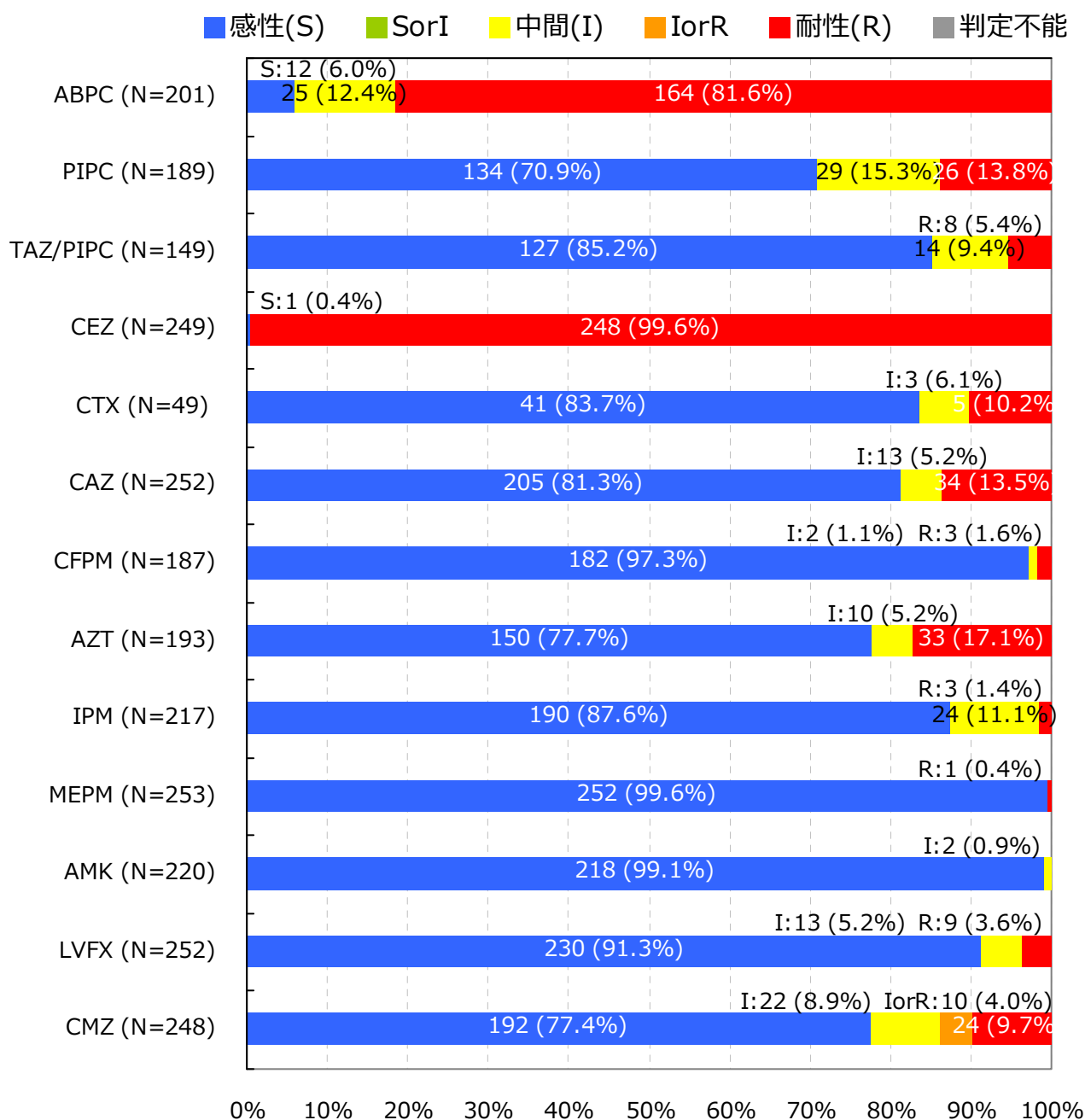
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

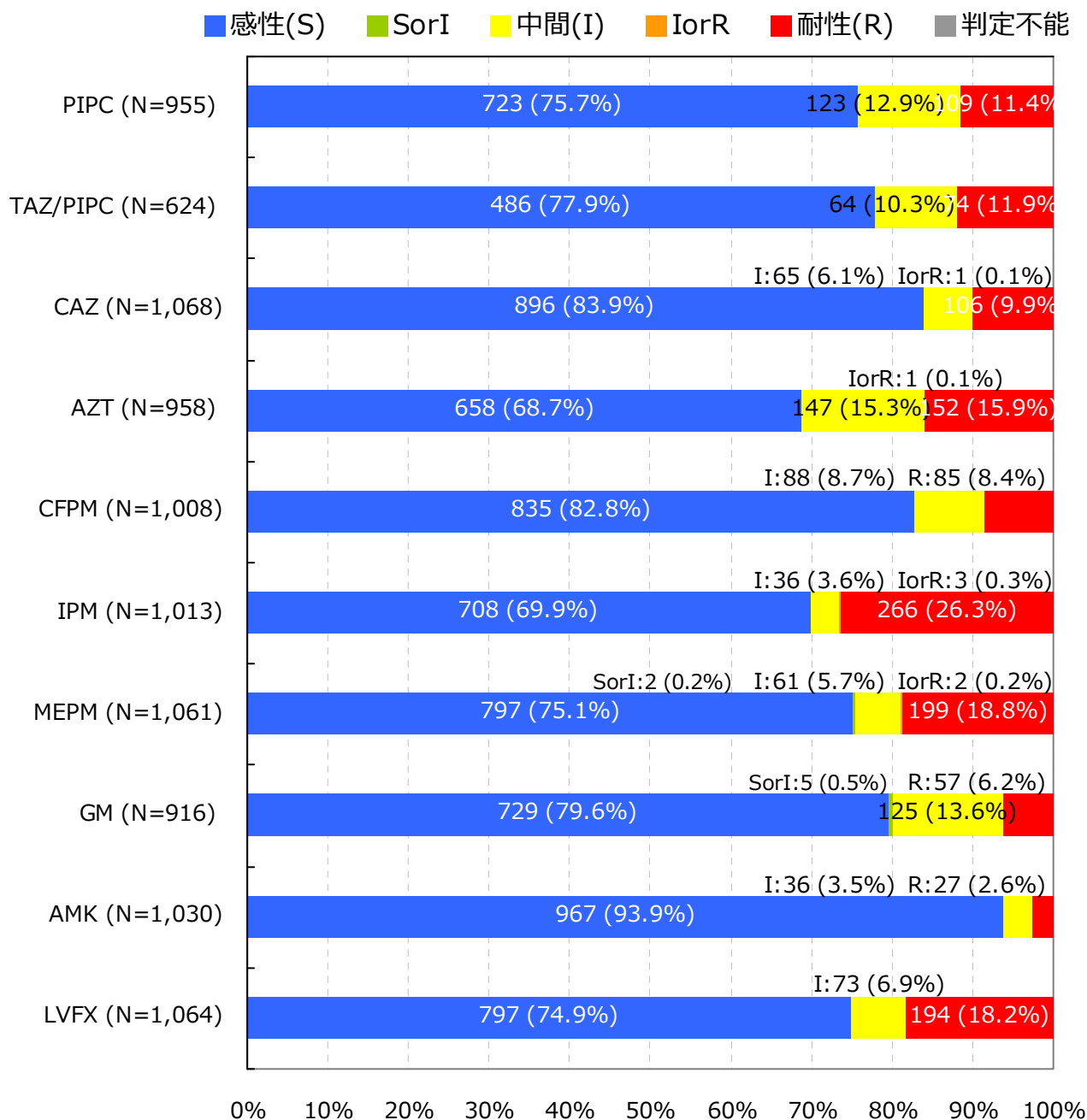
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

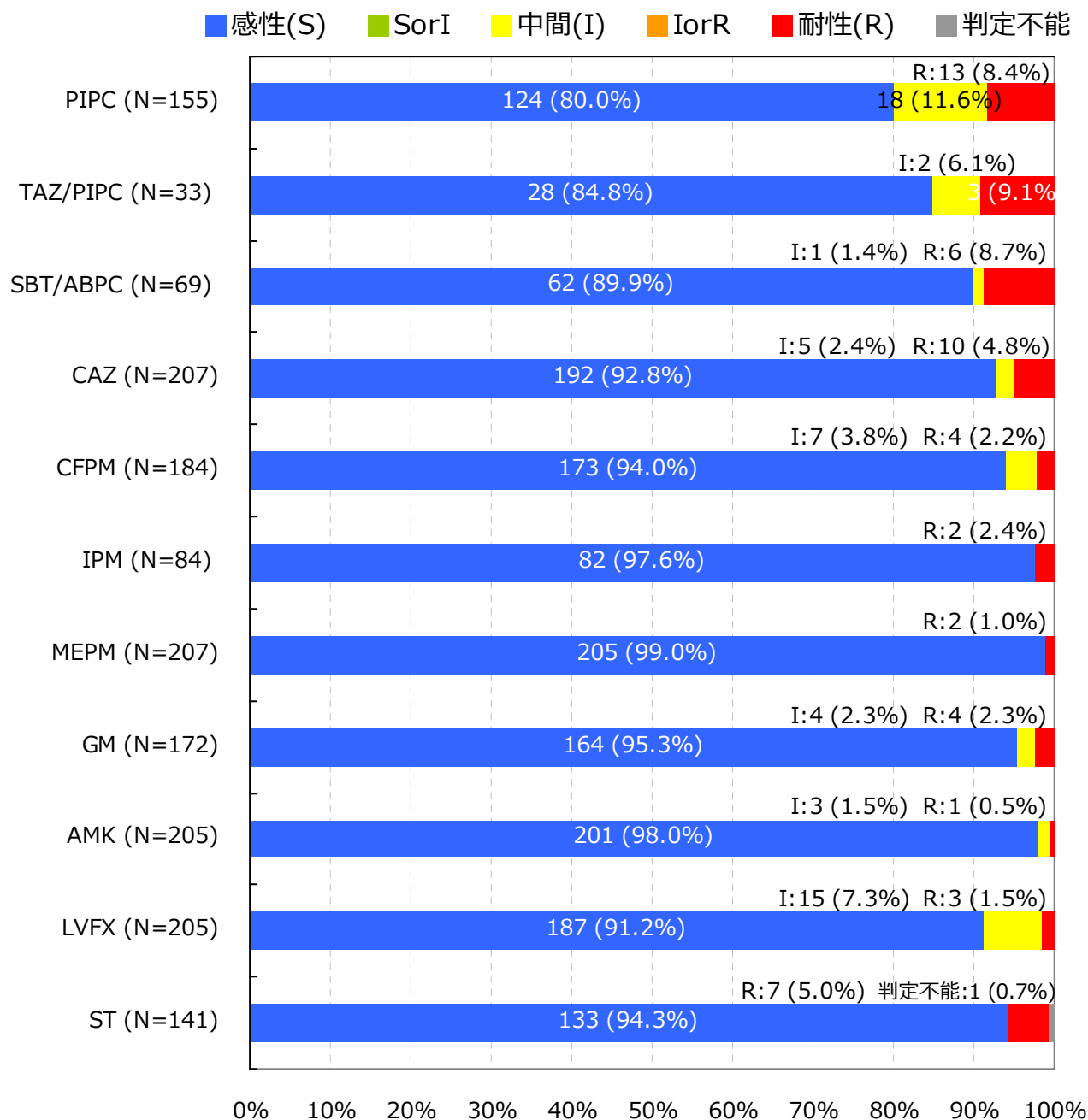
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

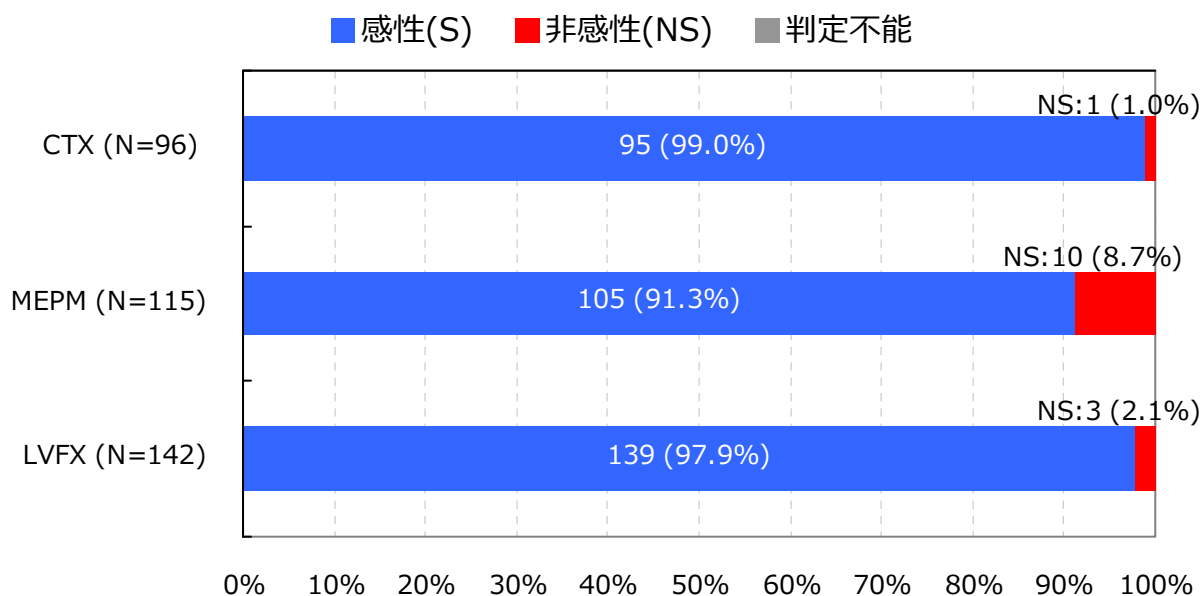
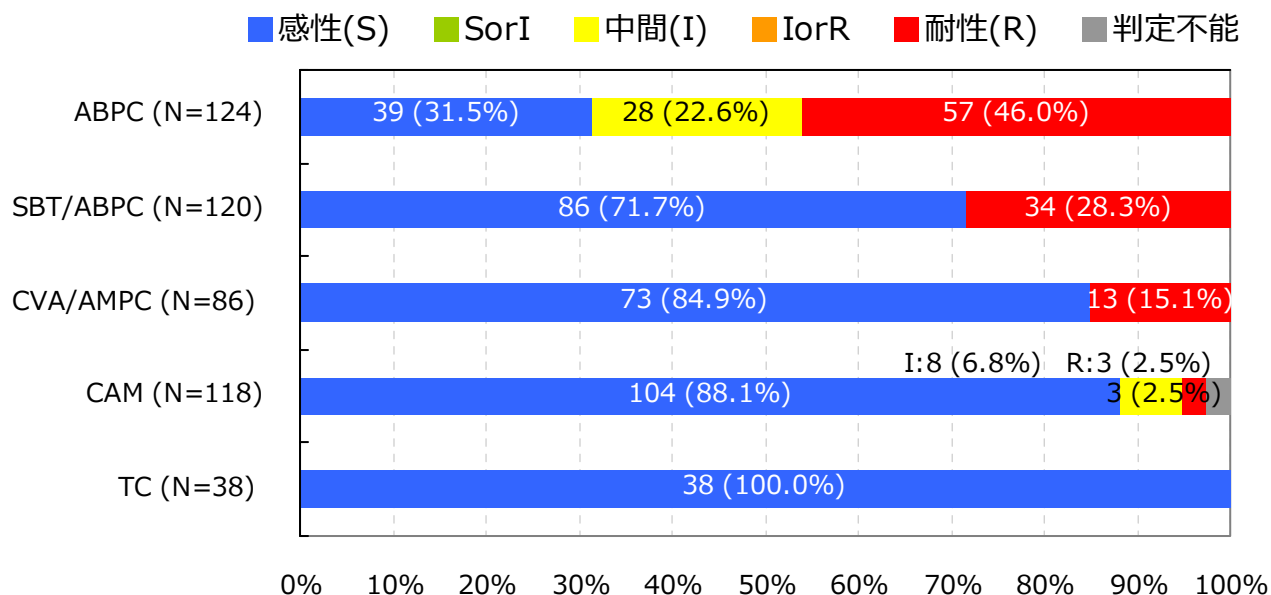
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
 抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

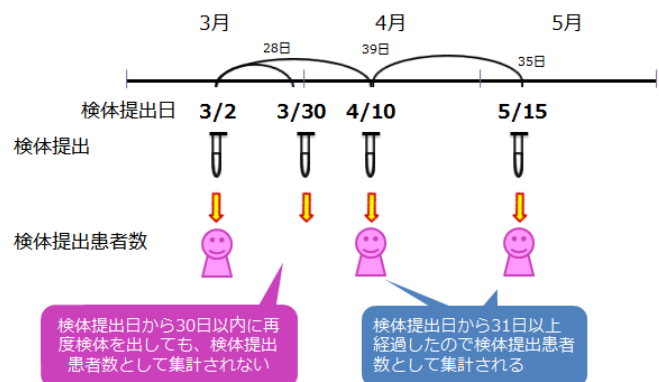
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

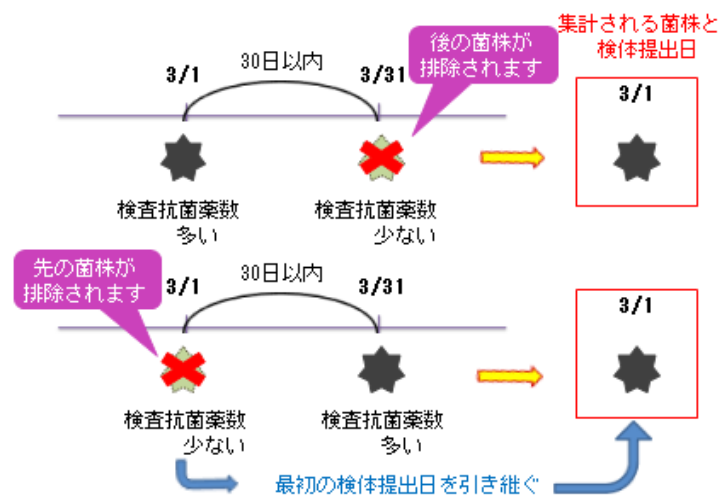
30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

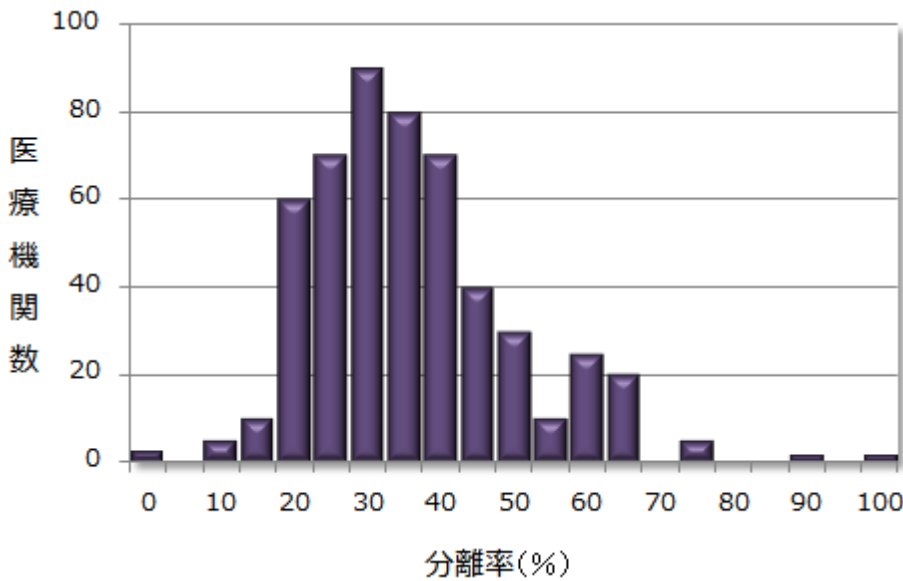
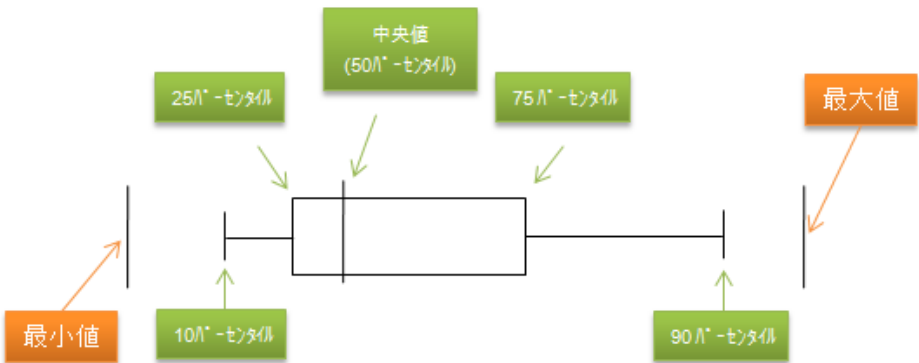
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

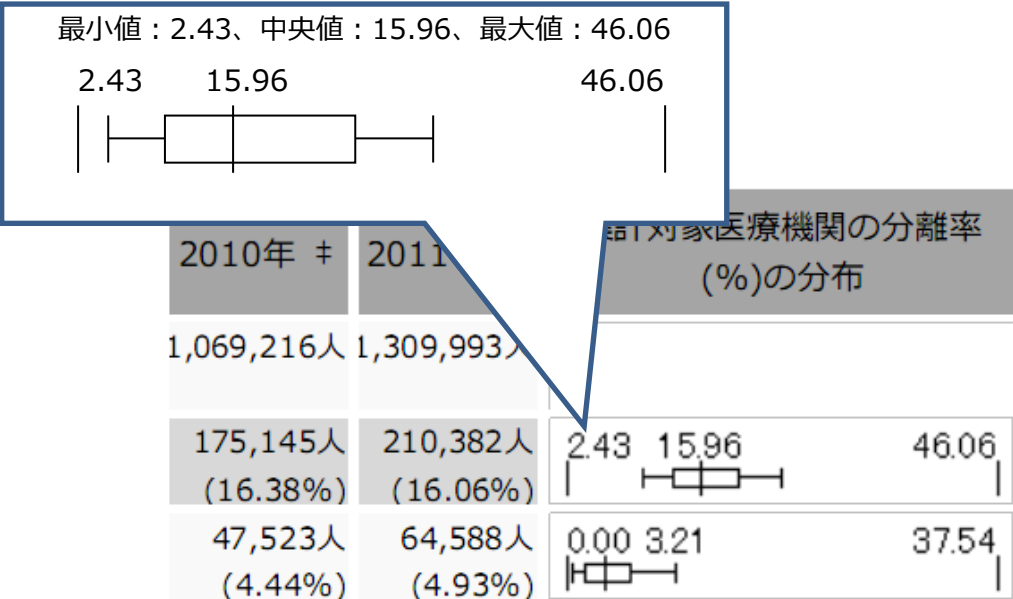
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

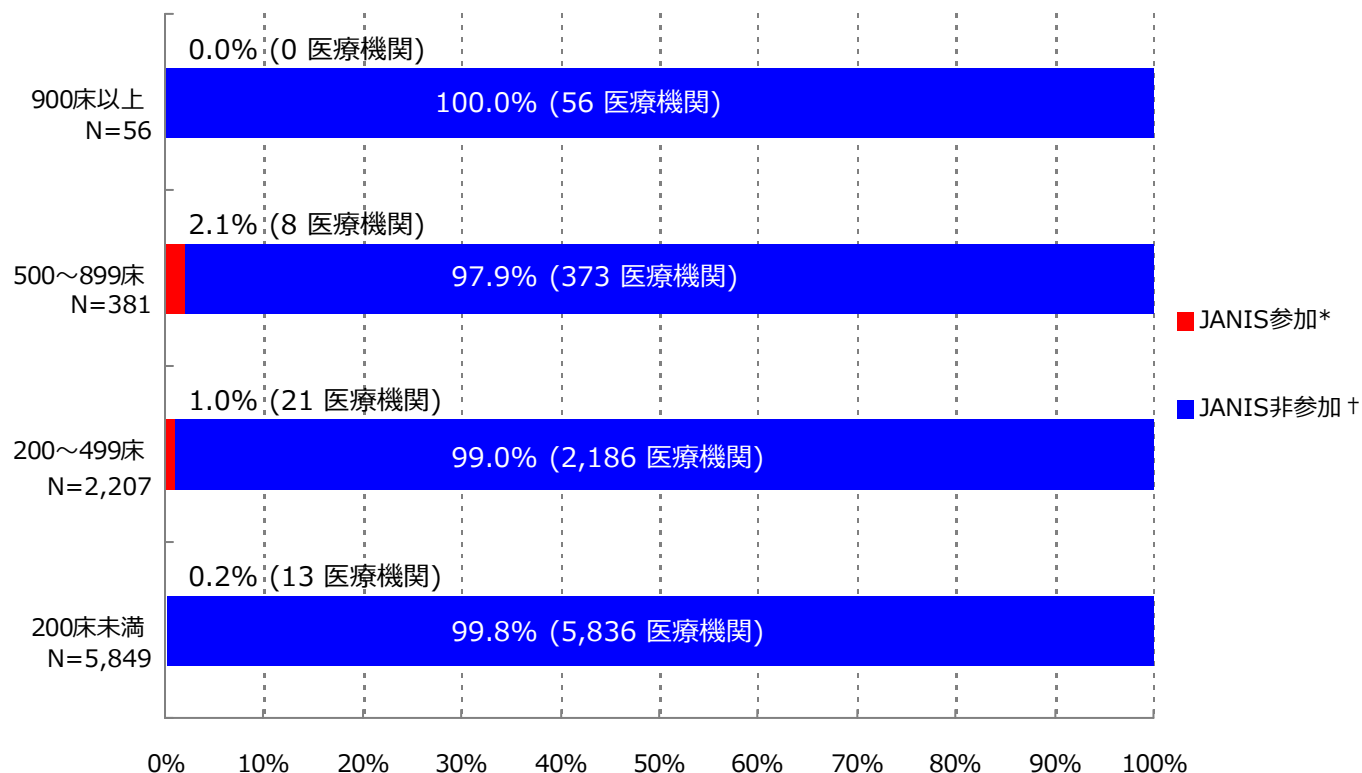


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図



## 1. 集計対象医療機関数(42医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	8 ( 2.1% )
200～499床	2,207	21 ( 1.0% )
200床未満	5,849	13 ( 0.2% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	42 ( 0.5% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	41	11,044	7,640 (14,124)
尿検体	40	6,197	3,047 (4,557)
便検体	39	4,431	2,973 (5,087)
血液検体	41	11,801	1,403 (1,590)
髄液検体	25	266	17 (20)
その他	41	7,735	3,930 (7,015)
合計	41	41,474	19,010 (32,393)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

403(髄液)

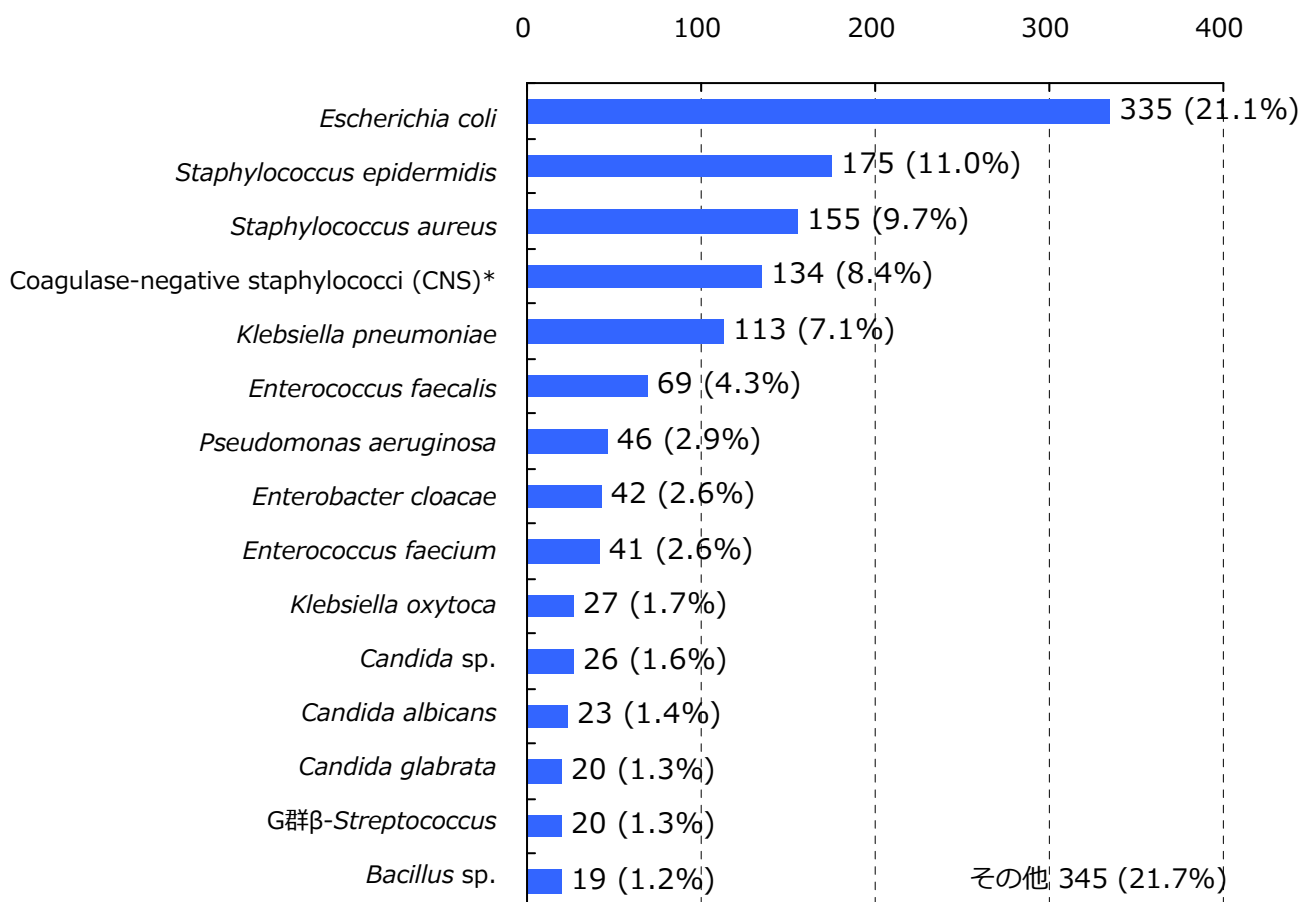
その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=1,590)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

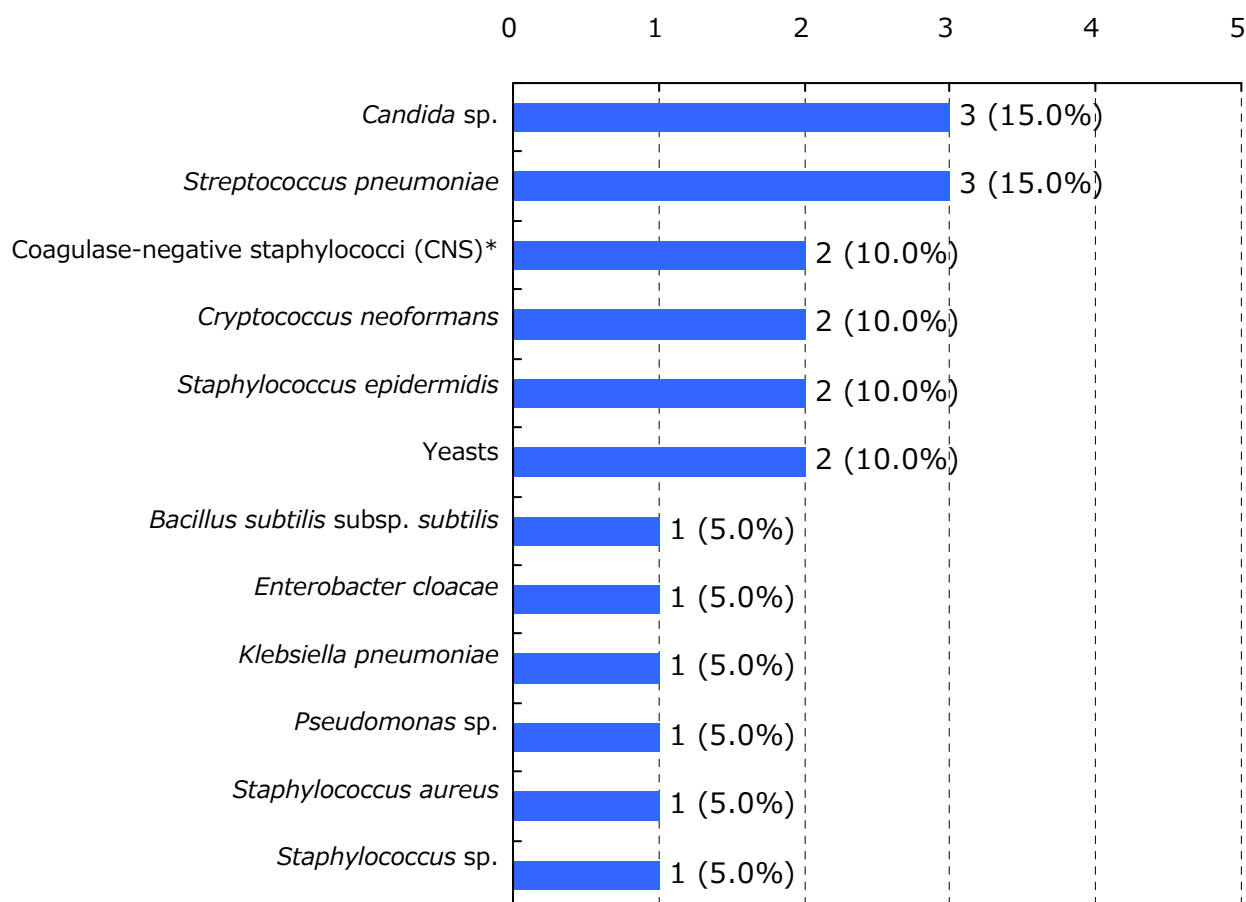
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 髄液検体分離菌 (N=20)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 ‡	集計対象医療機関の 分離率 ¶(%)の分布
検体提出患者数	14,389人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	1,027人 (7.14%)	0.00 7.88 41.18   H
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	1人 (0.01%)	0.00 0.00 0.44 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	49人 (0.34%)	0.00 0.09 1.79   H
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	14人 (0.10%)	0.00 0.00 0.94   H
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	77人 (0.54%)	0.00 0.26 4.57   H
カルバペネム耐性緑膿菌	96人 (0.67%)	0.00 0.43 7.58   H
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	52人 (0.36%)	0.00 0.00 5.05   H
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	392人 (2.72%)	0.00 3.03 11.30   H
フルオロキノロン耐性大腸菌	598人 (4.16%)	0.00 5.33 30.00   H

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

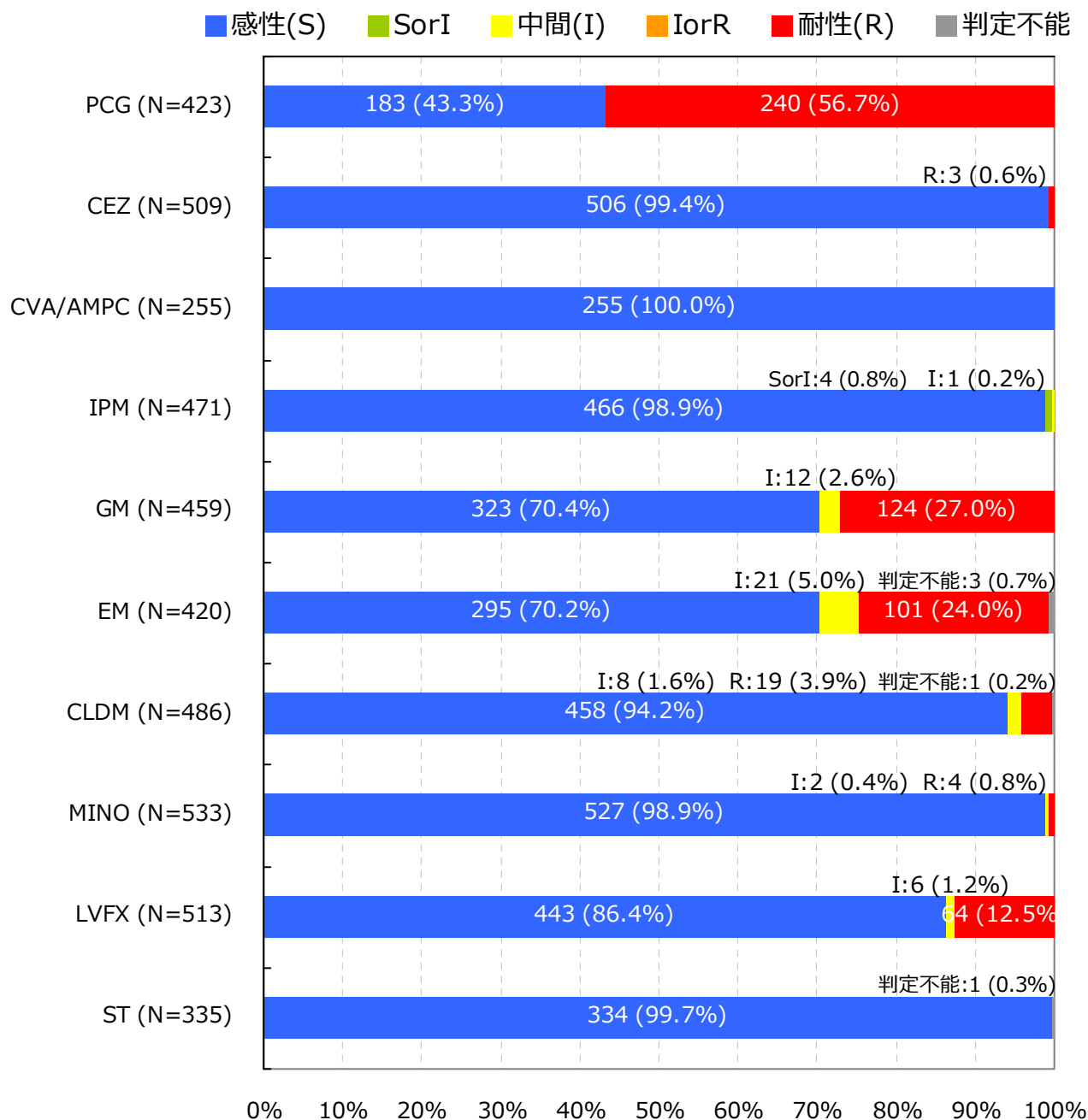
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

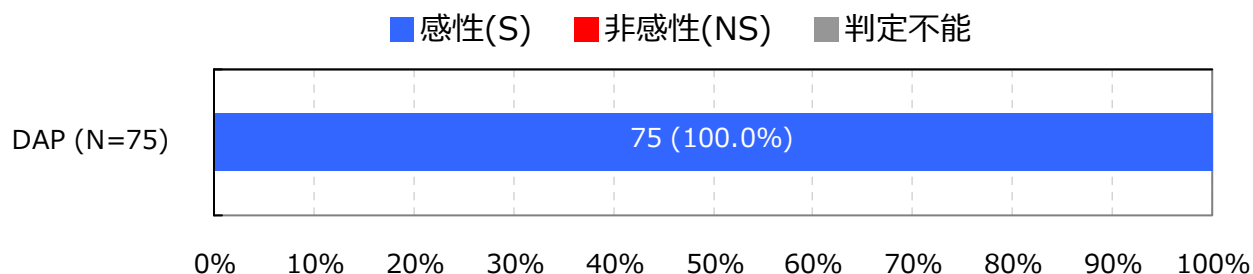
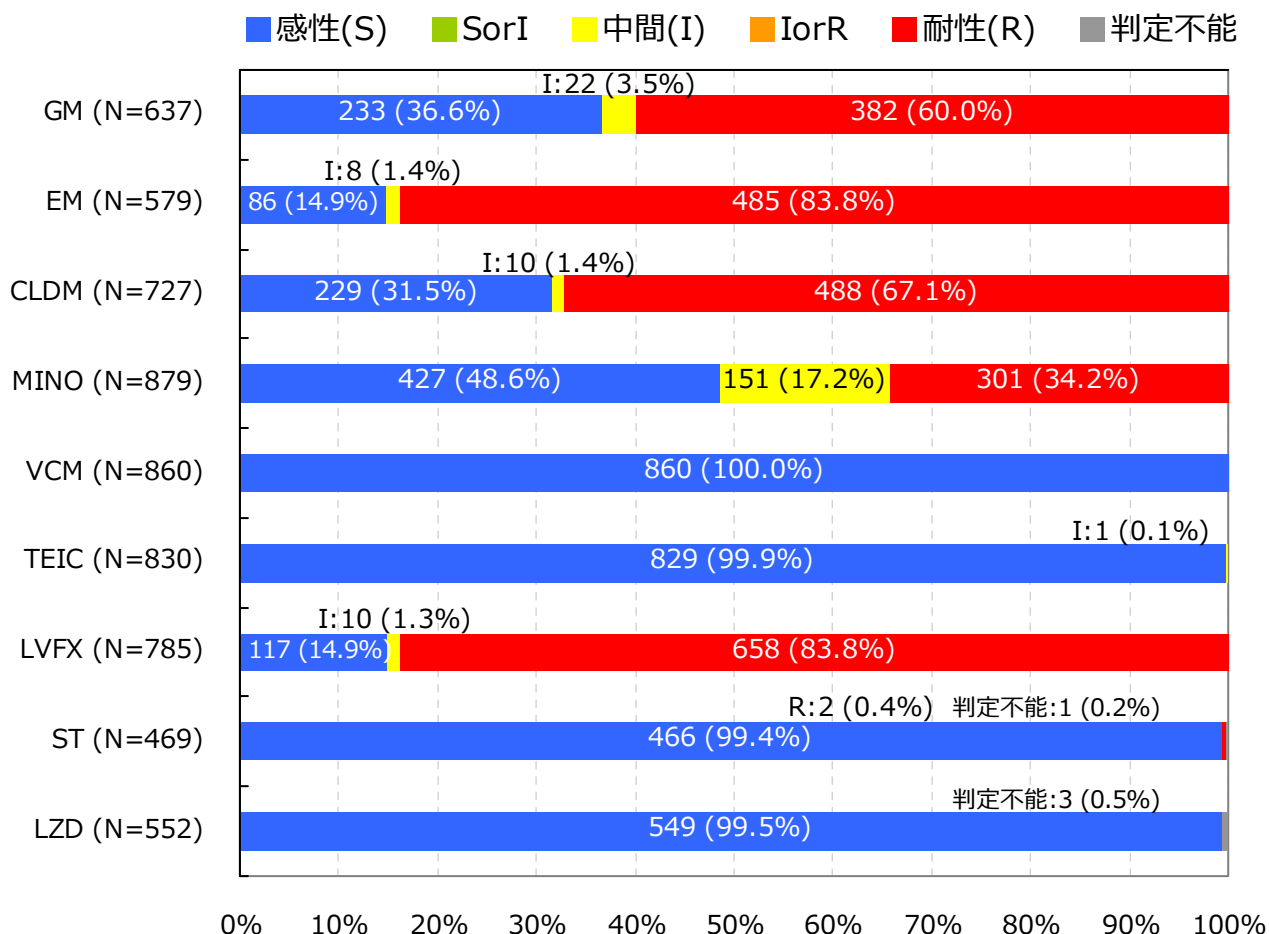
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

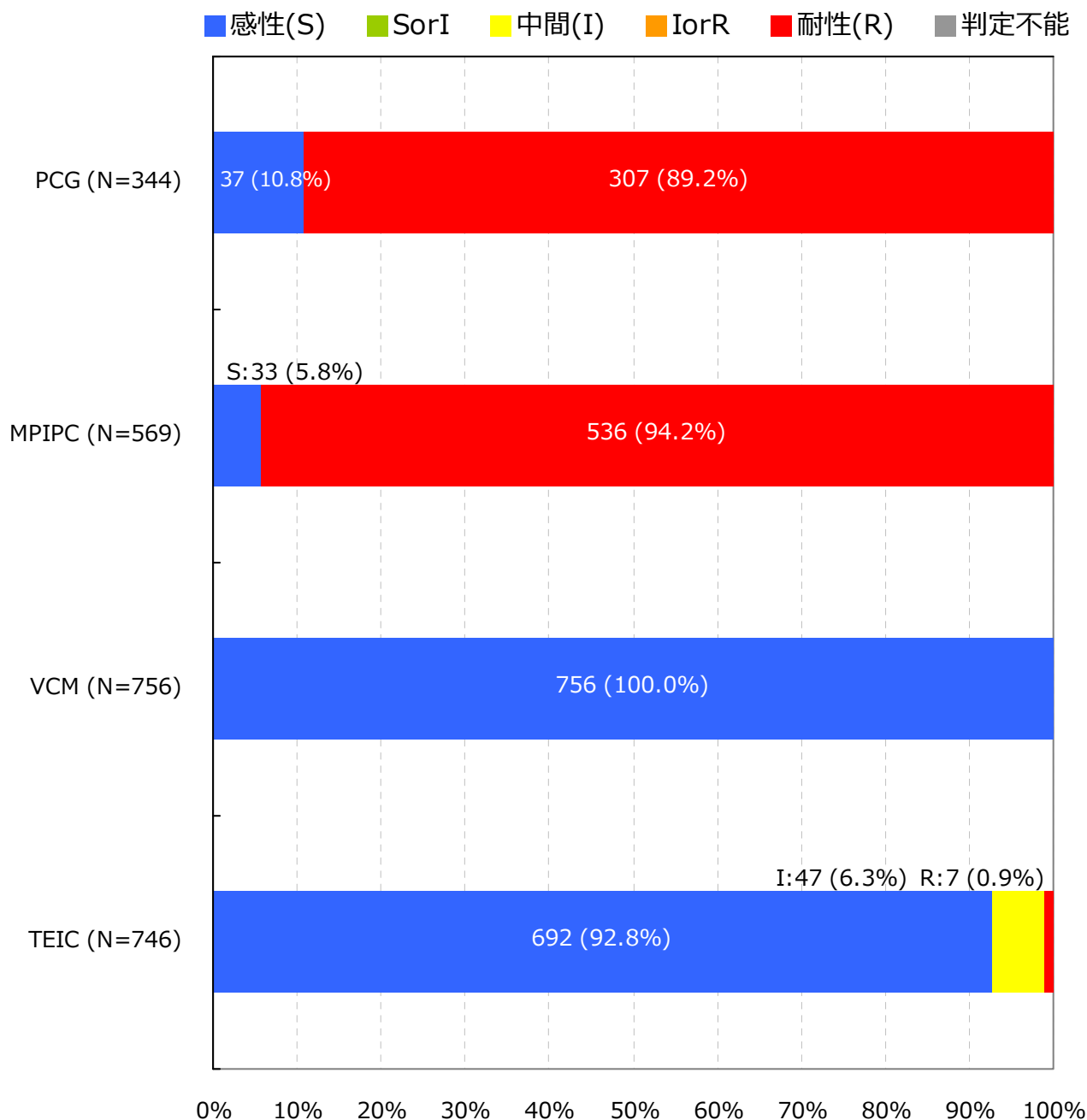
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

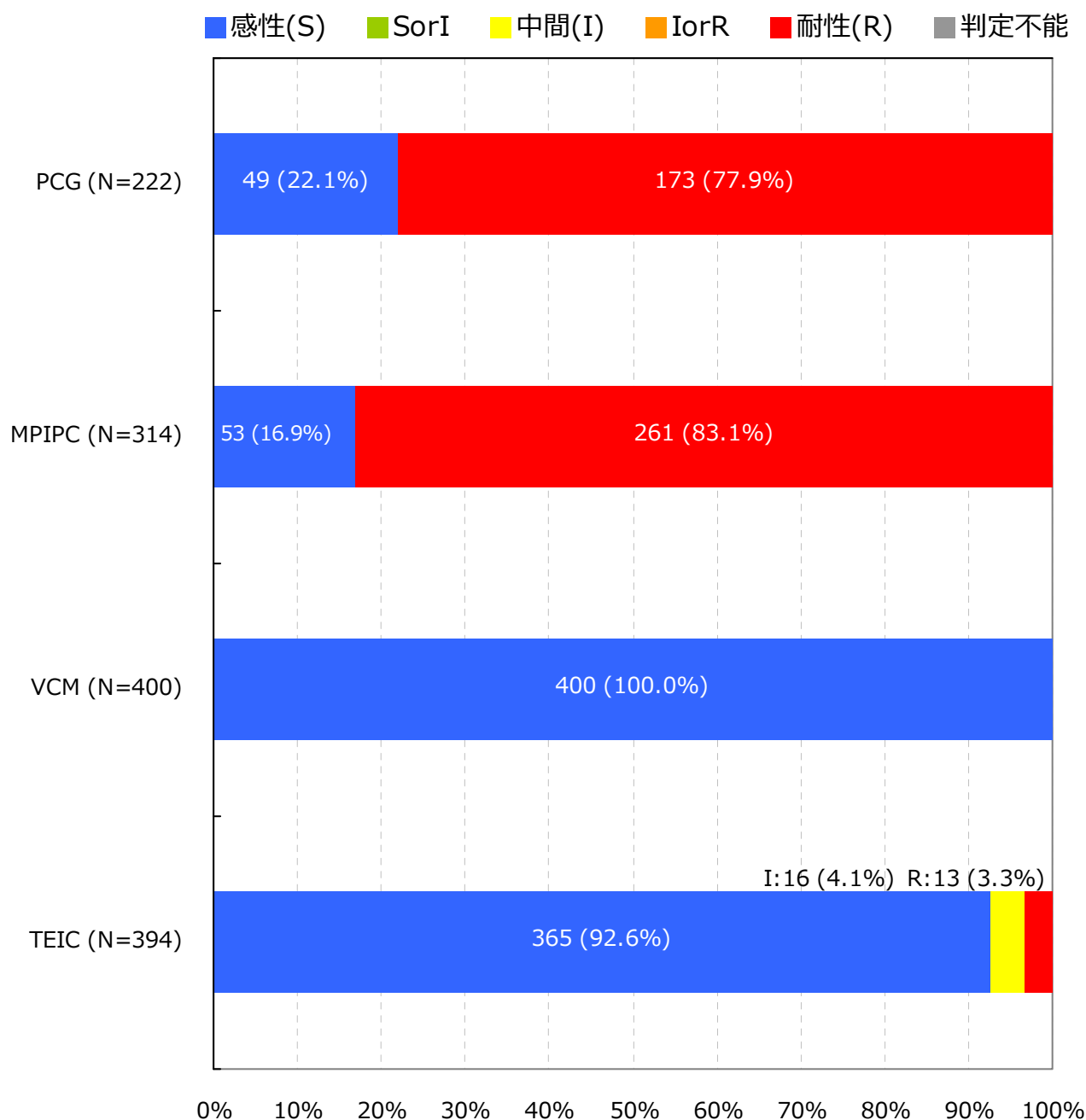
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1312と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

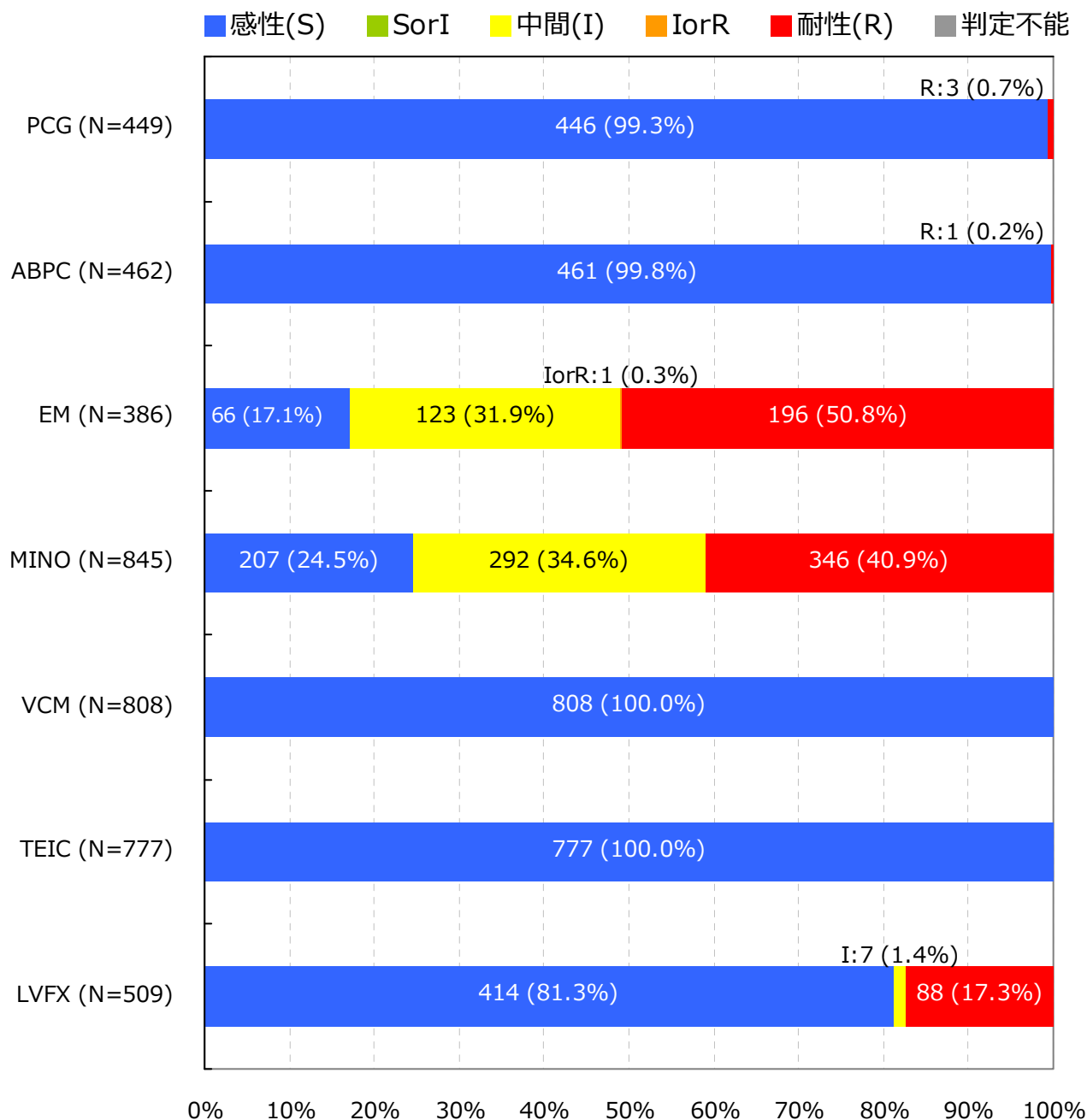
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

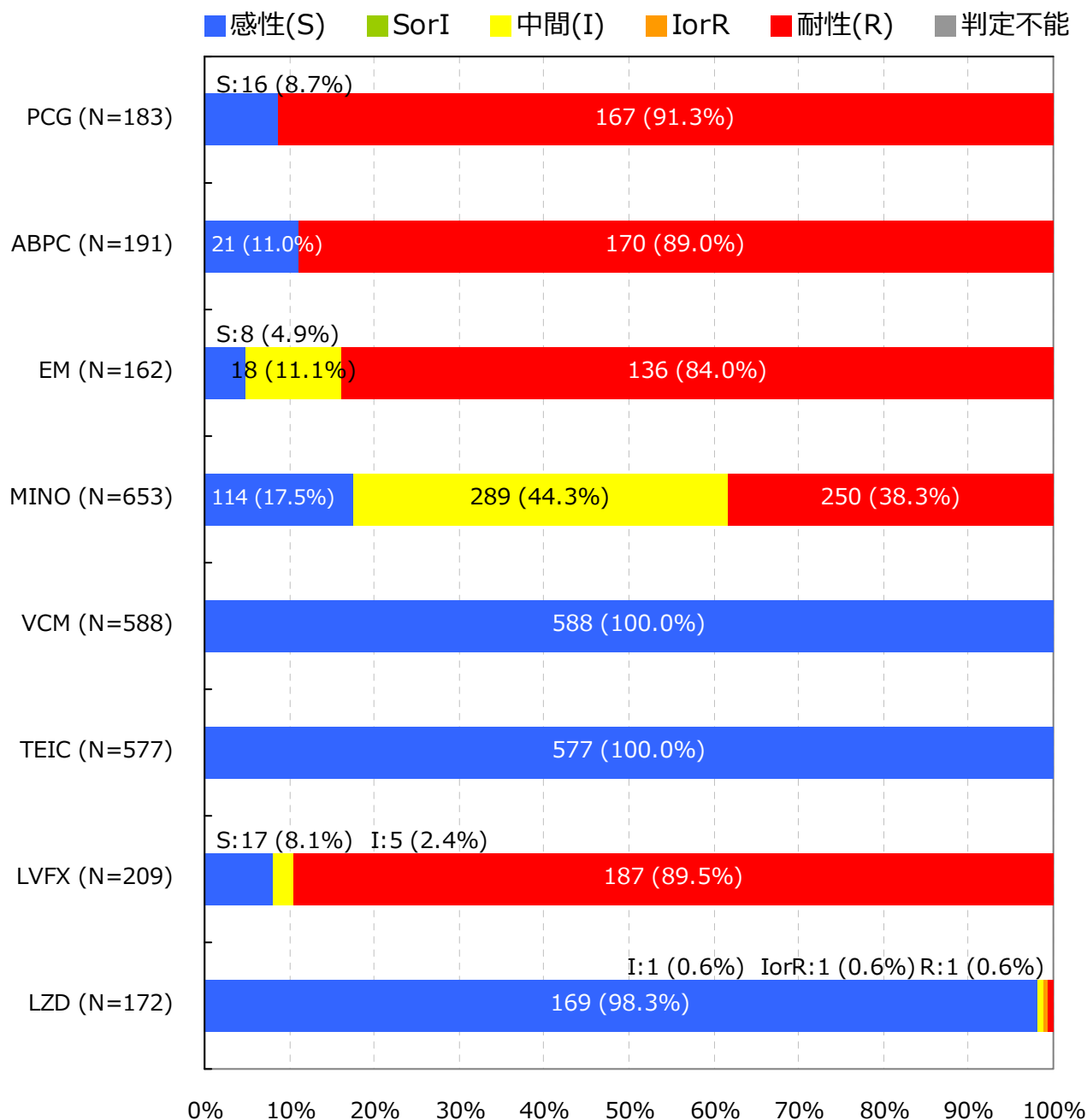
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

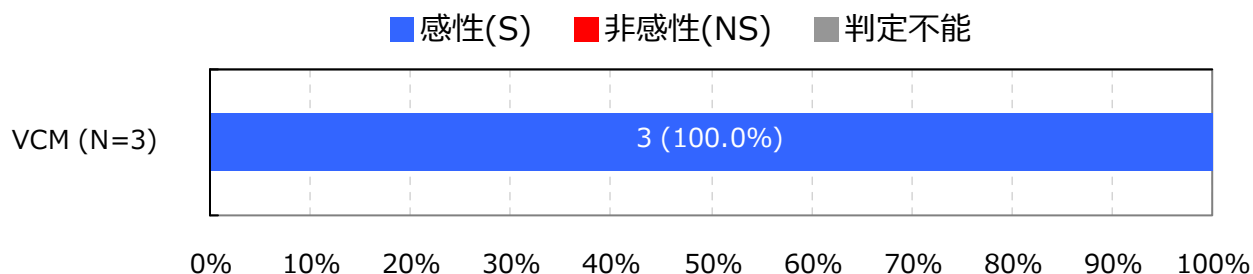
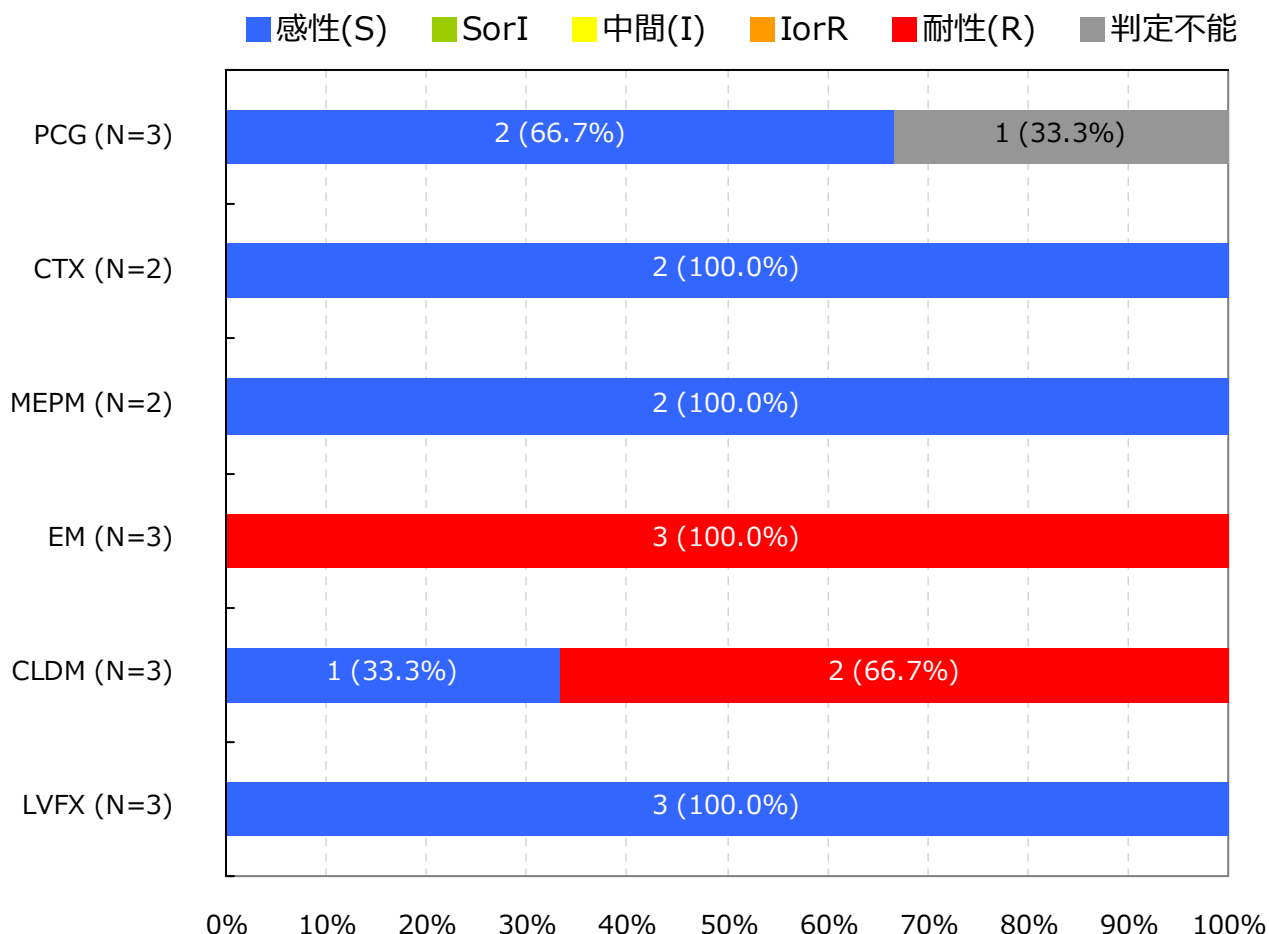
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

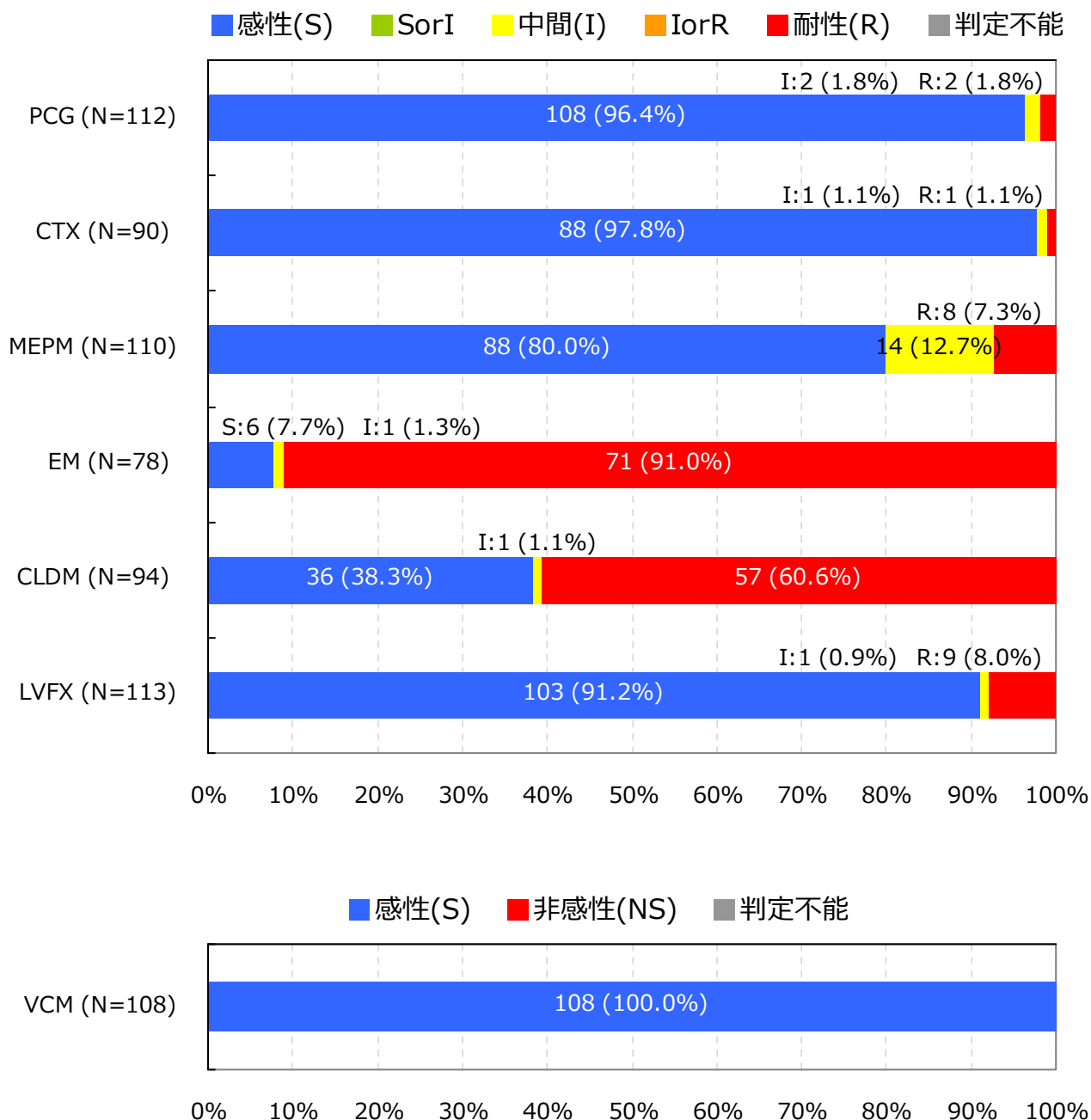
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

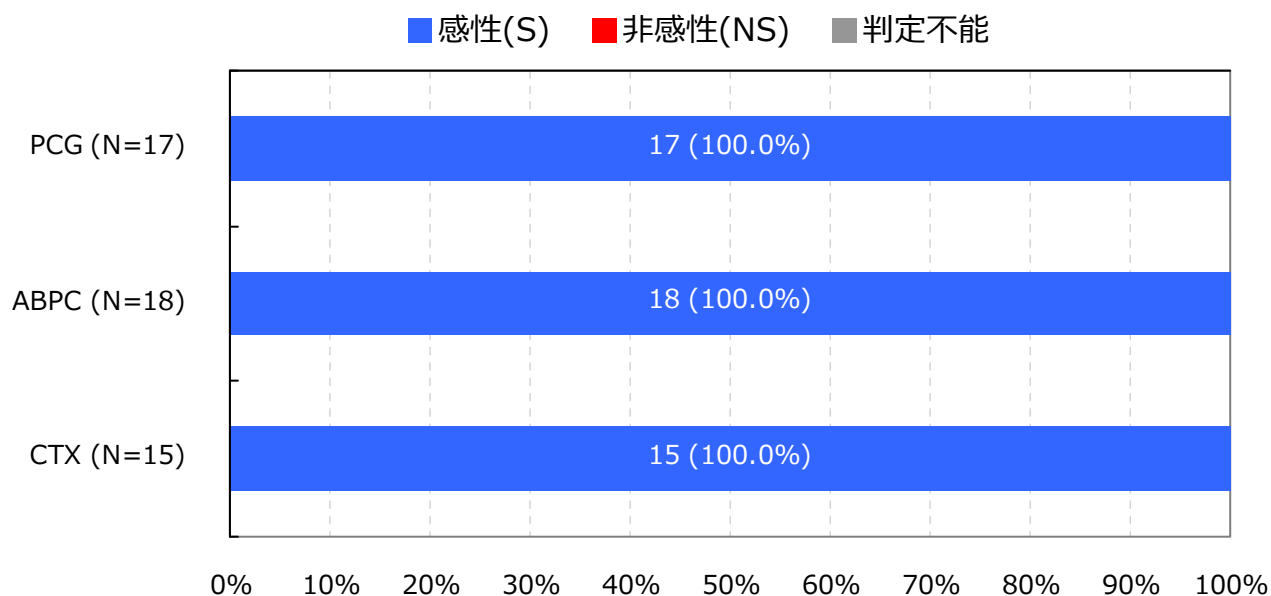
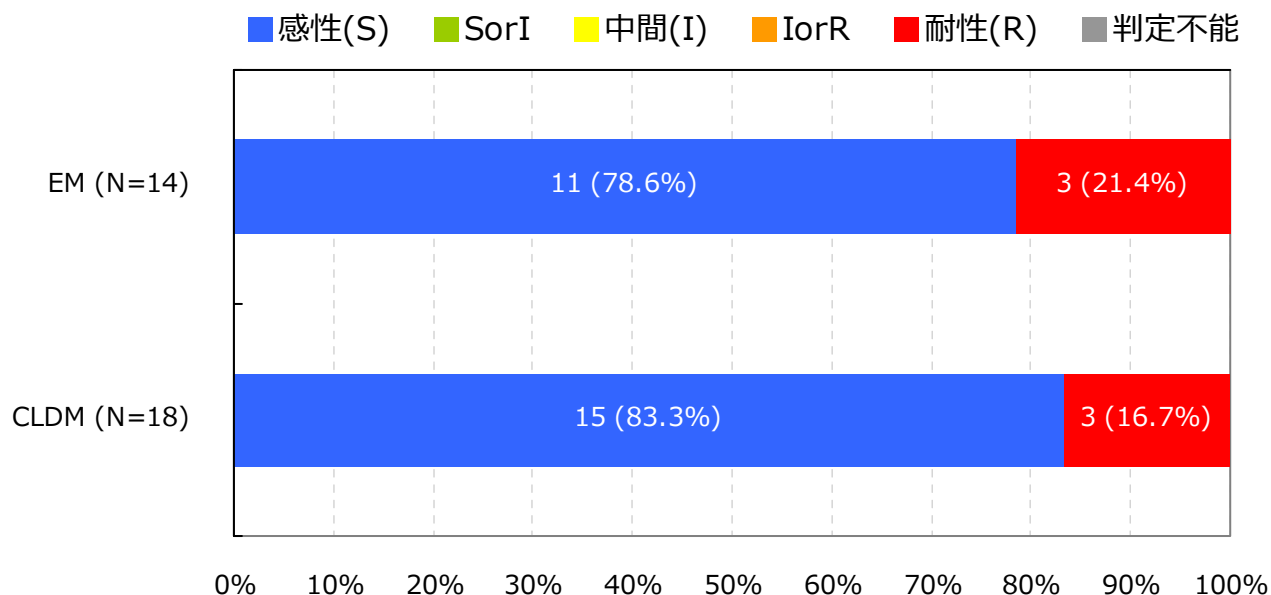
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

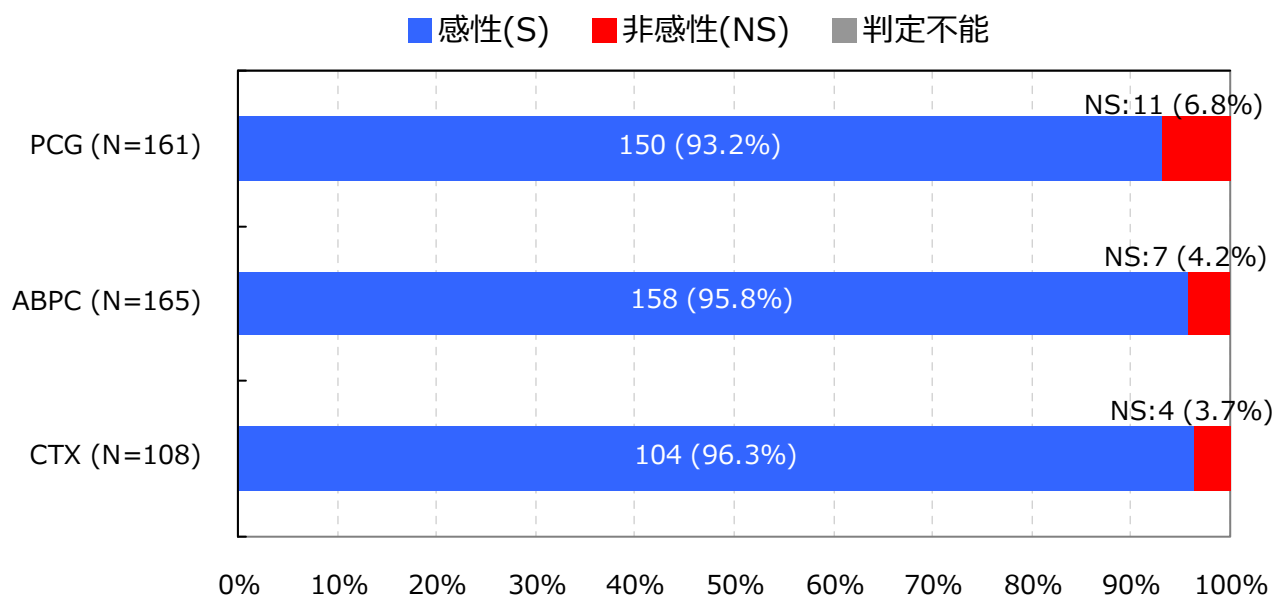
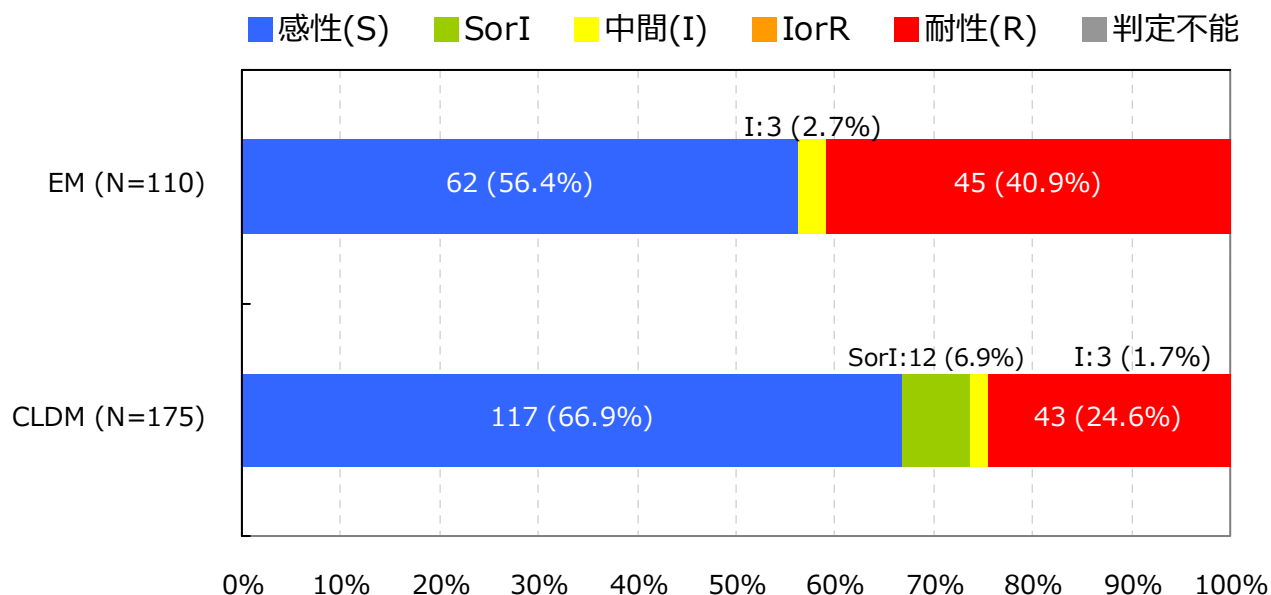
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

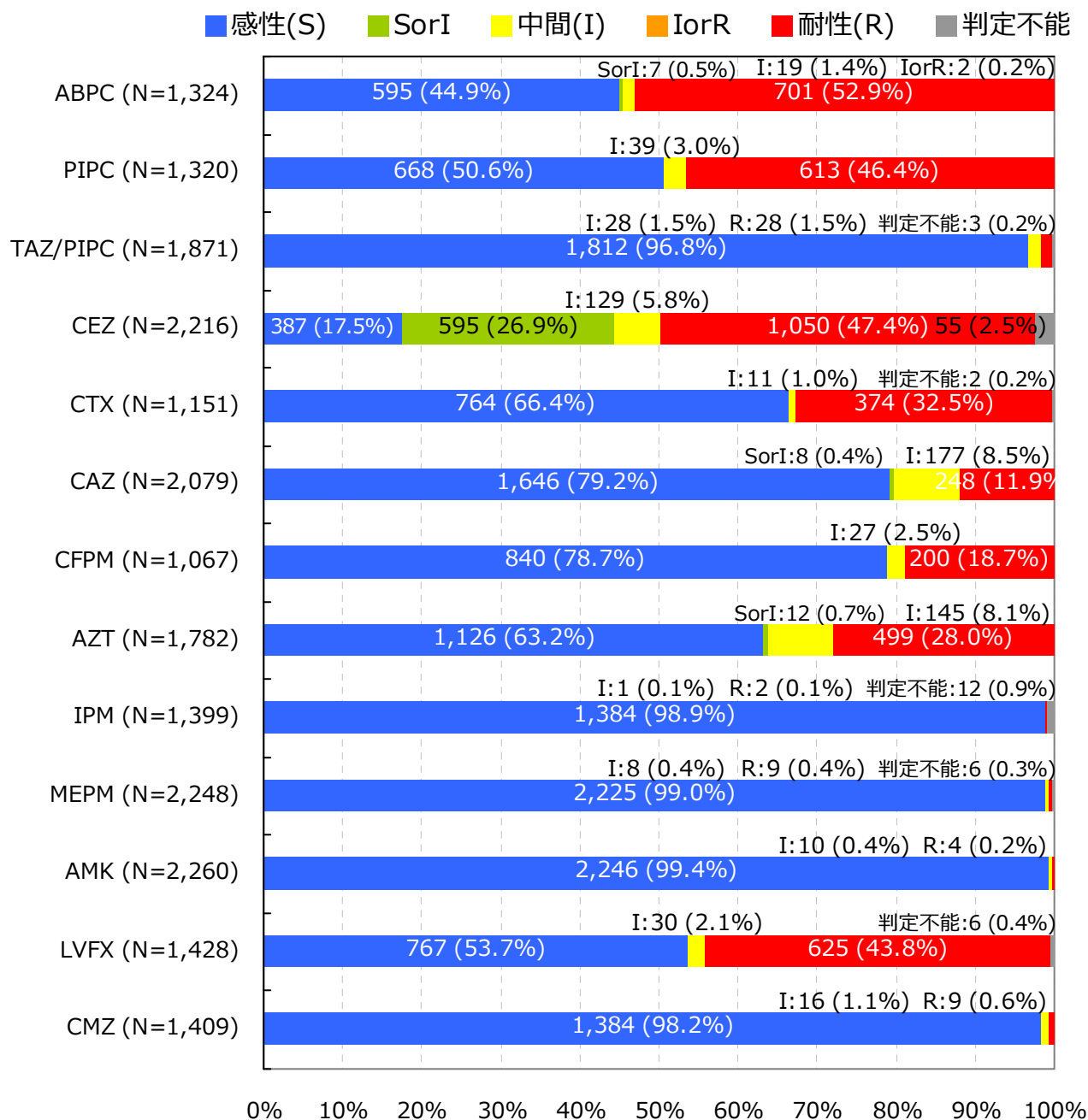
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

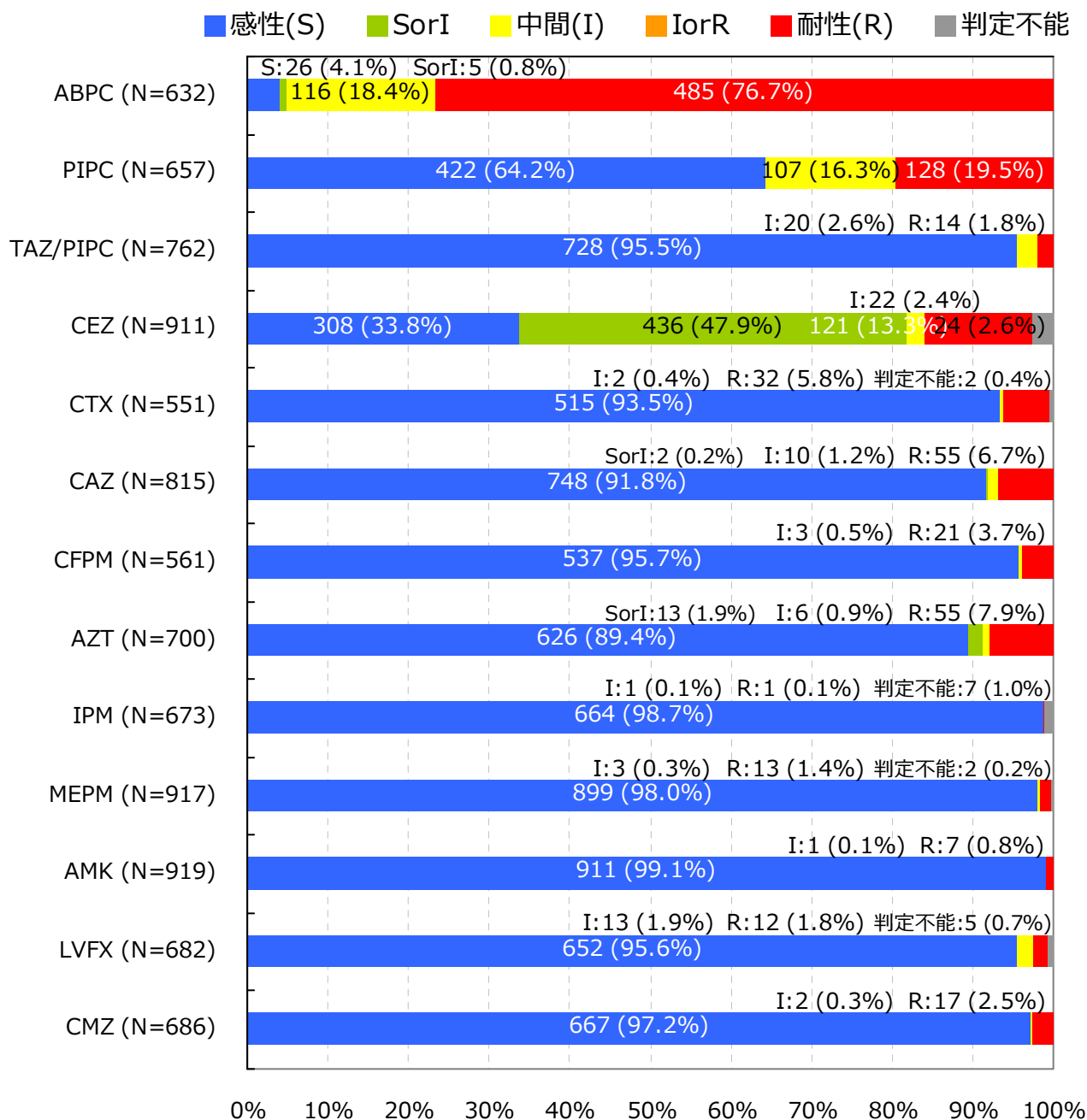
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

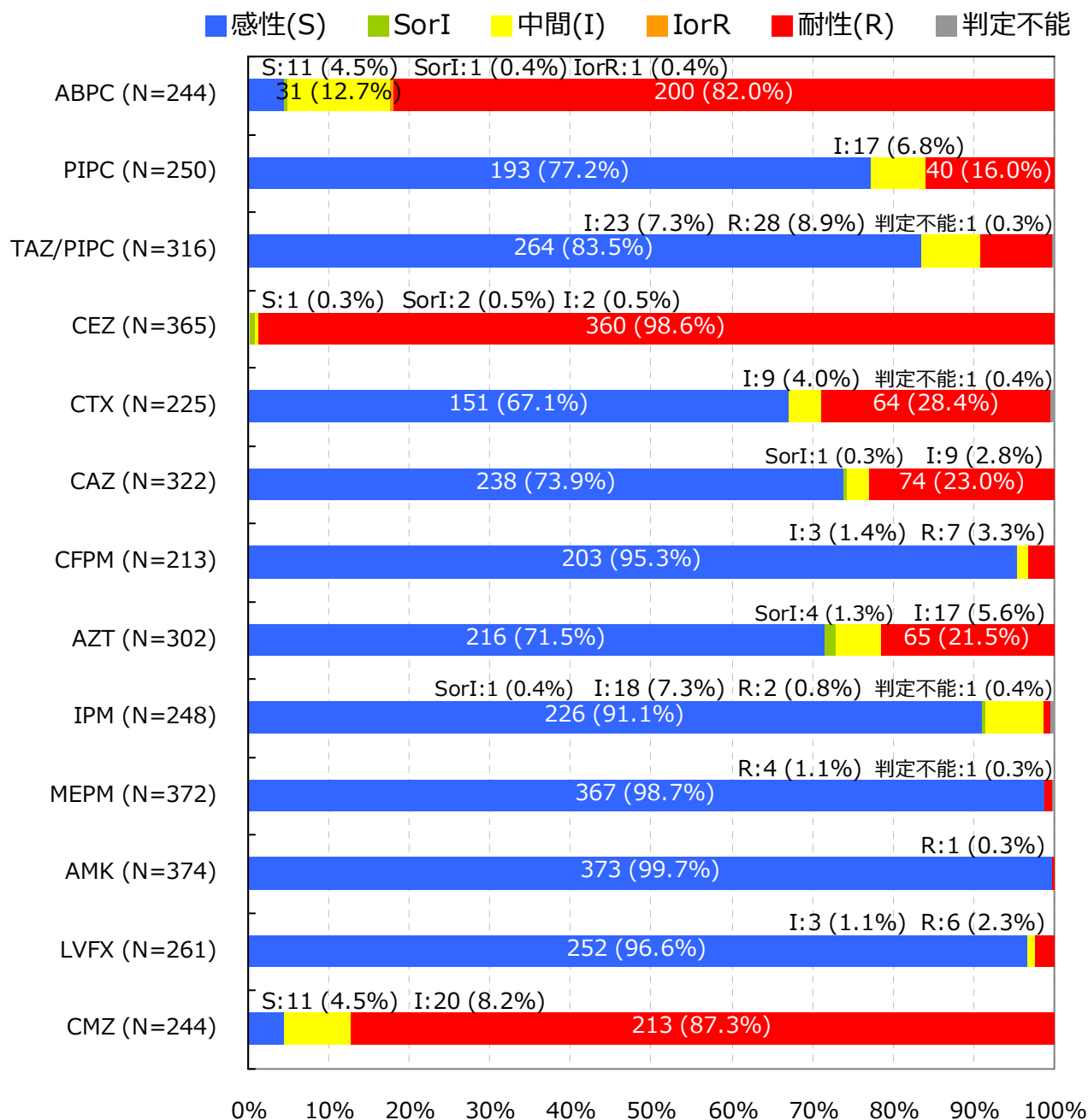
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

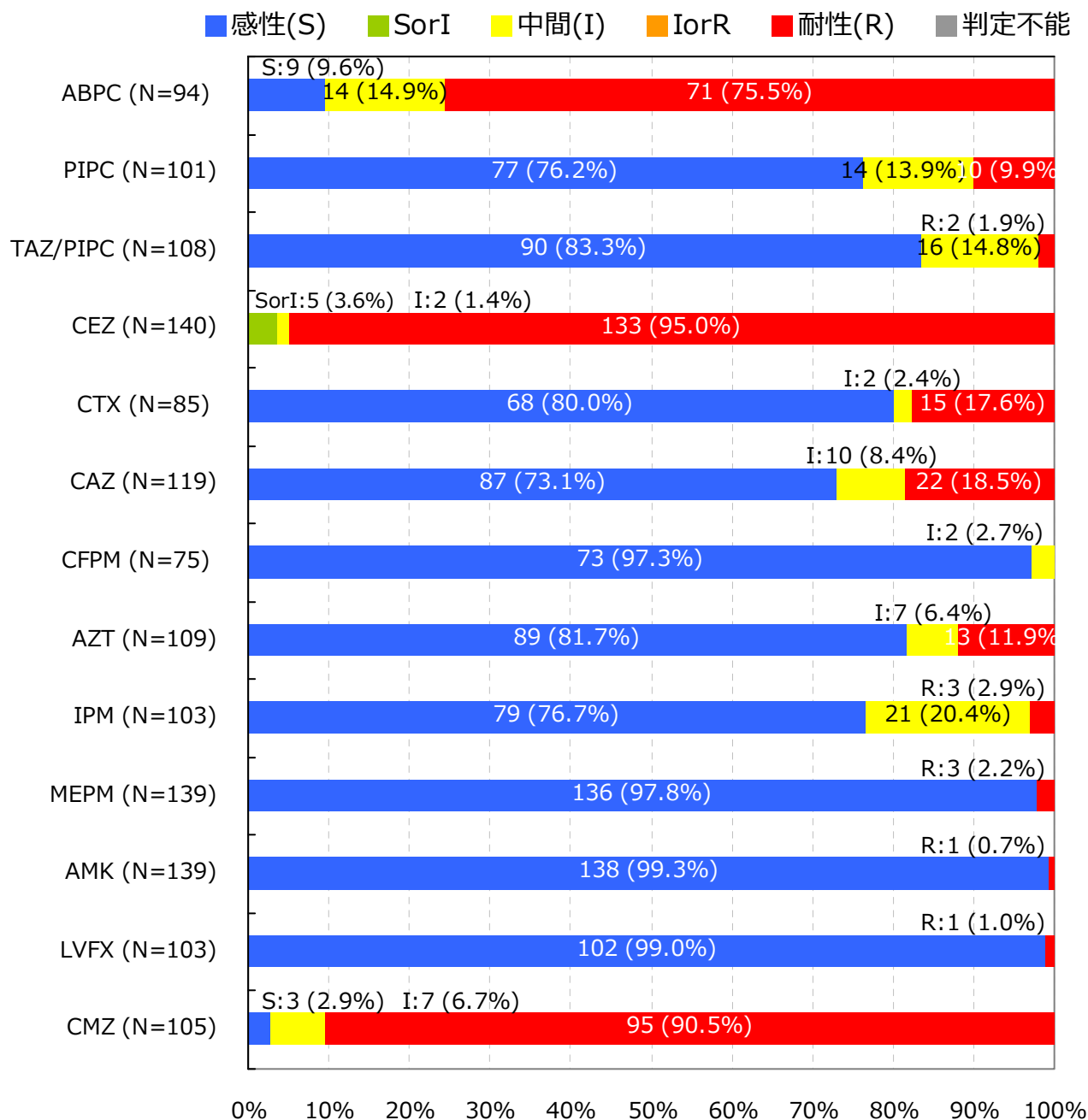
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

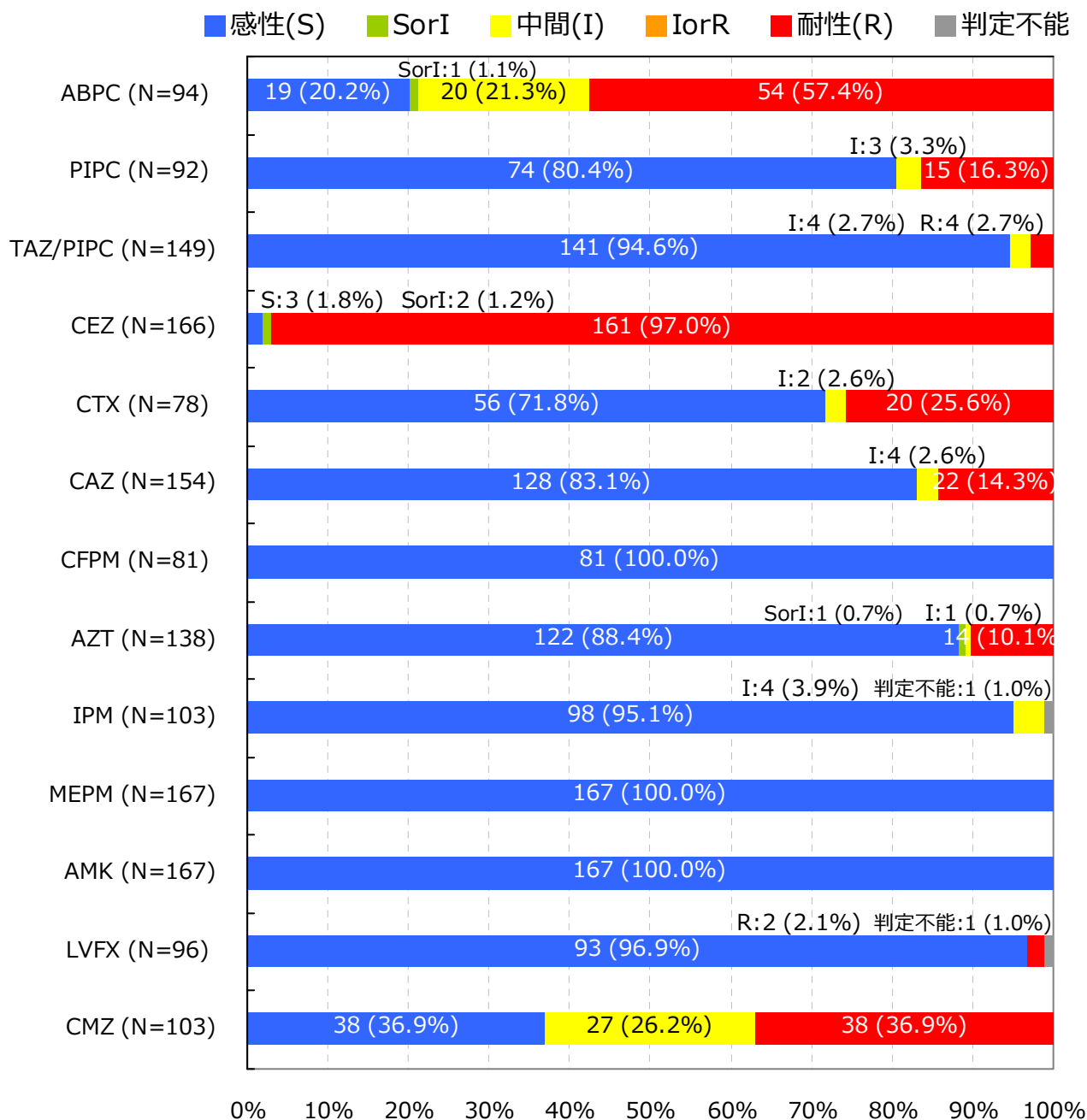
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

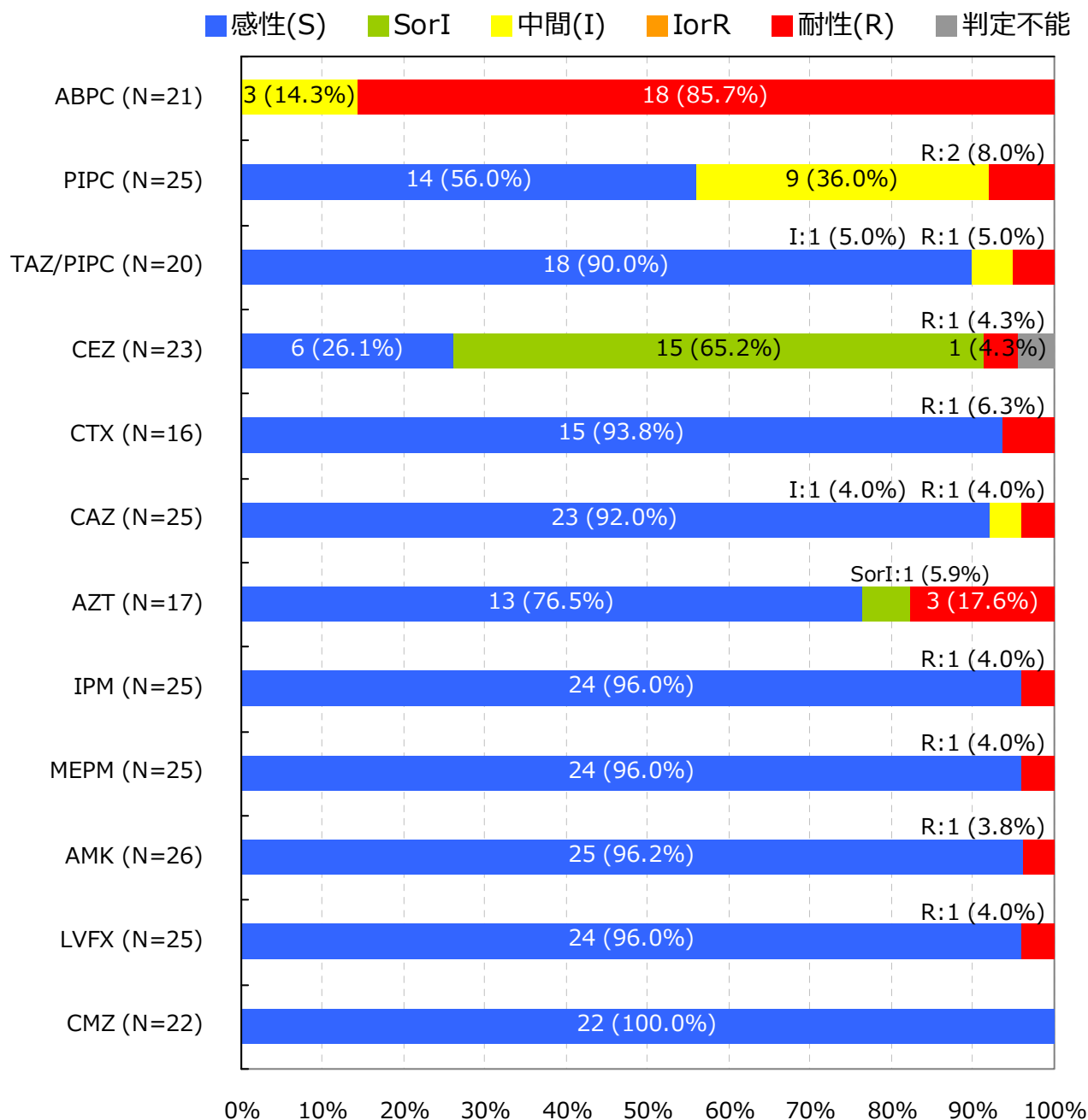
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

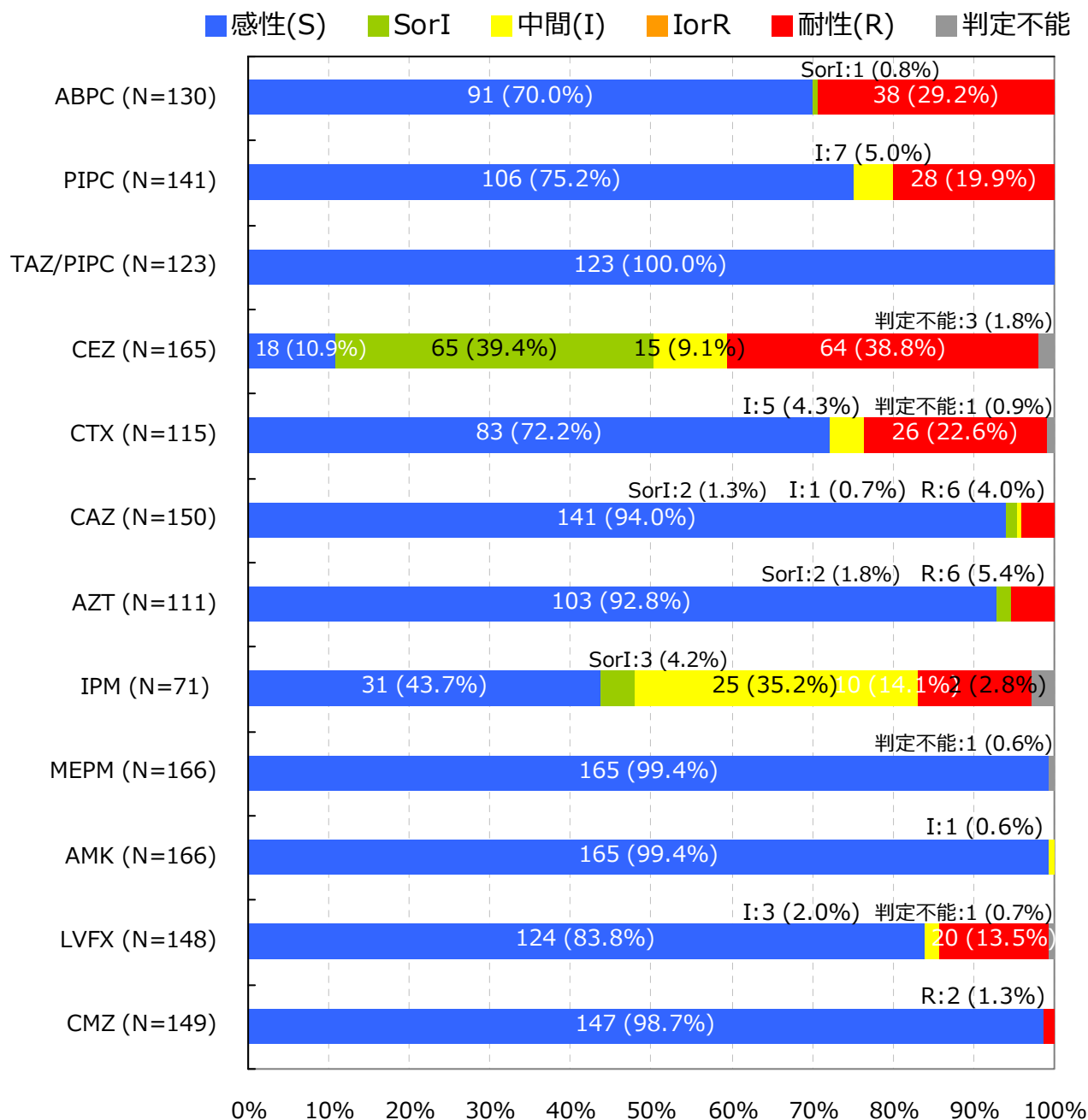
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

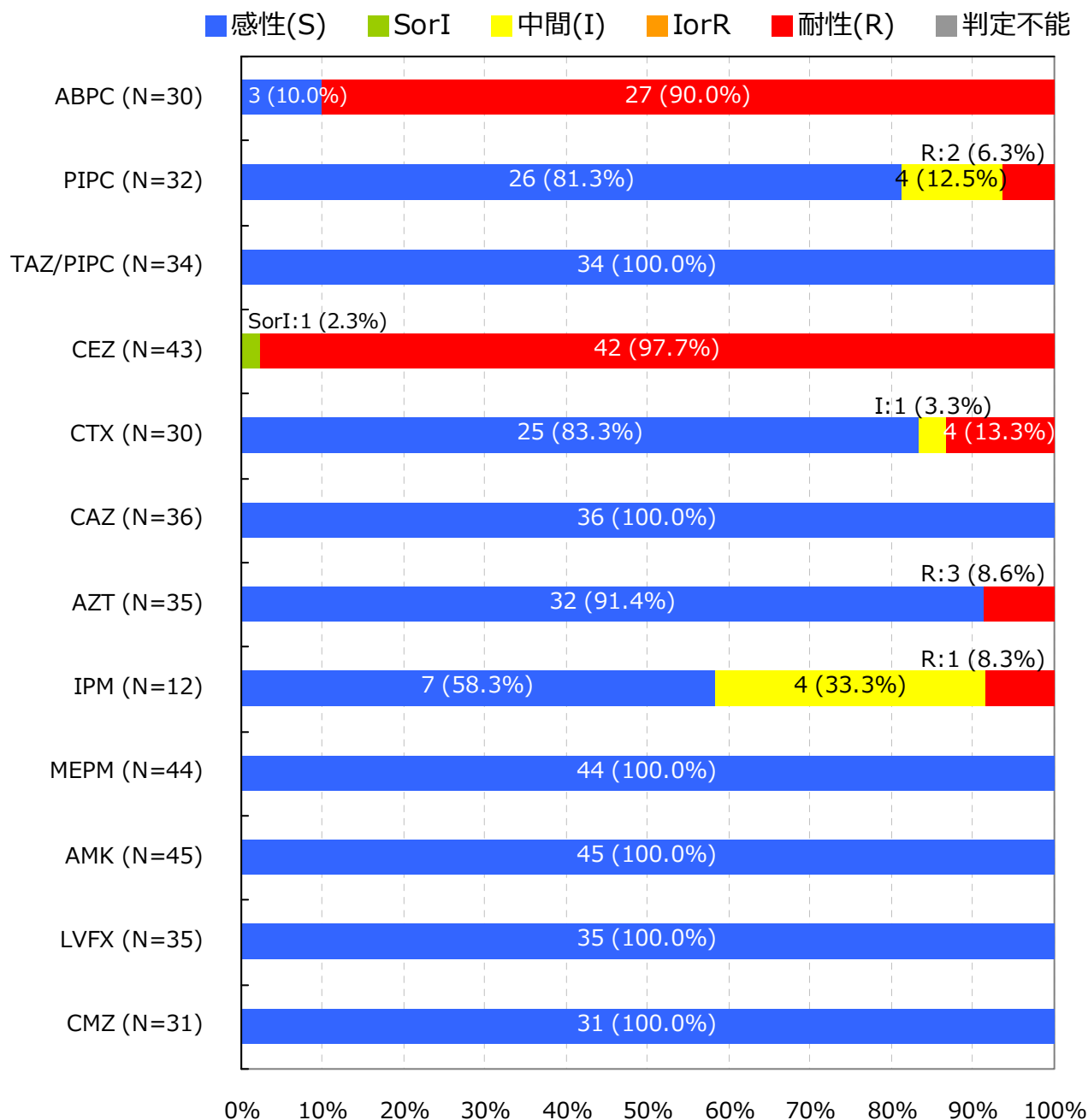
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

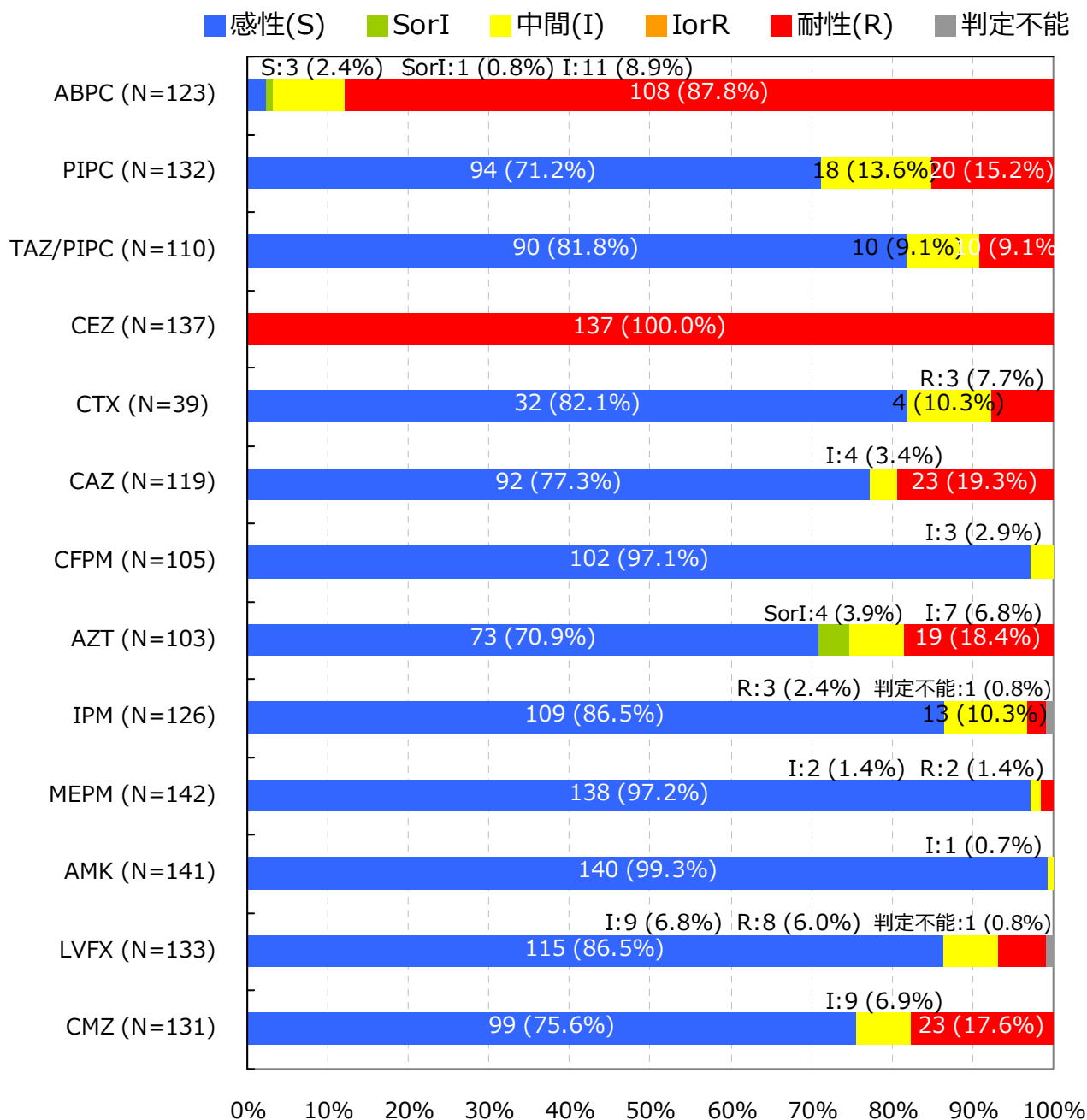
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

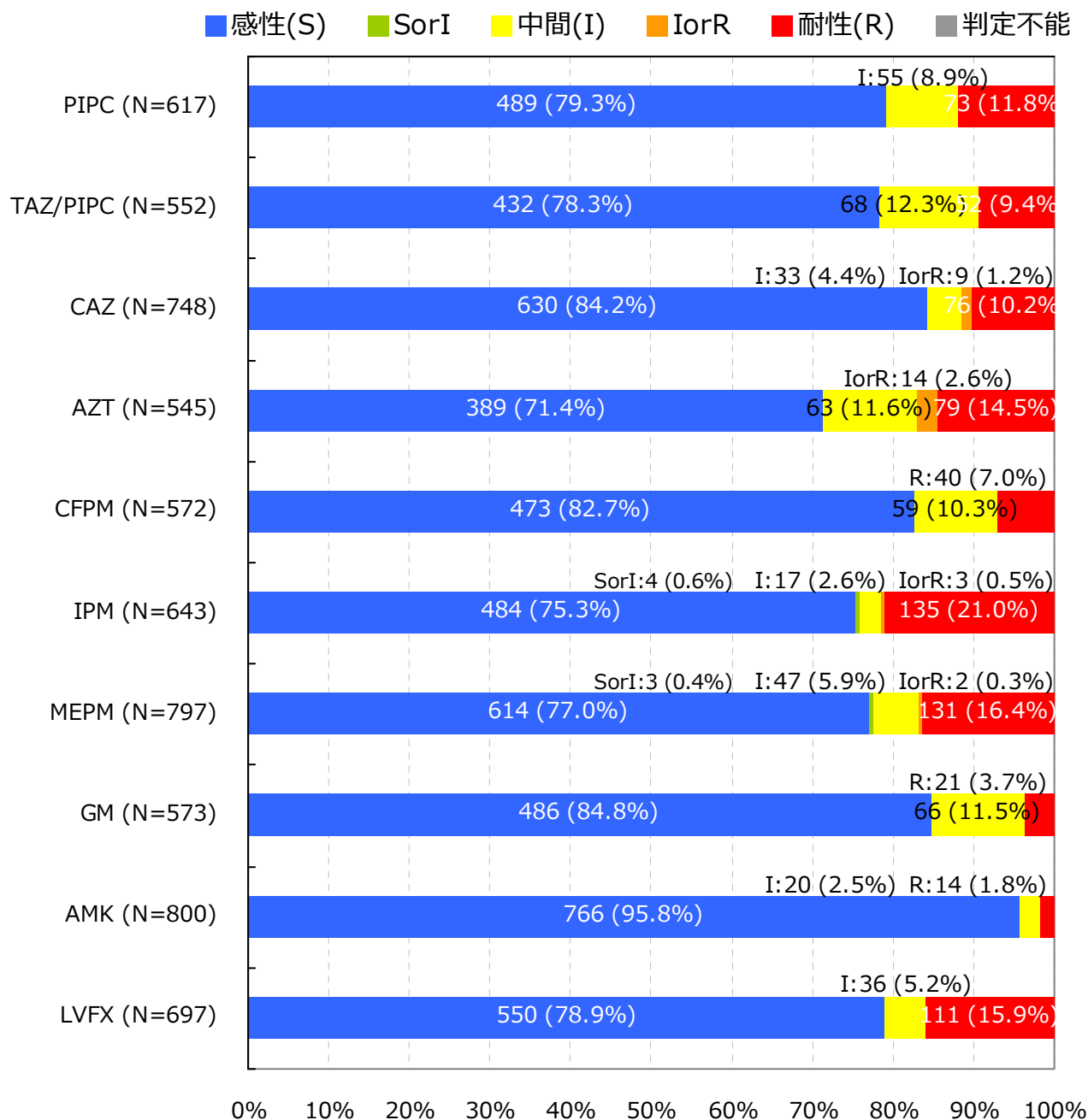
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

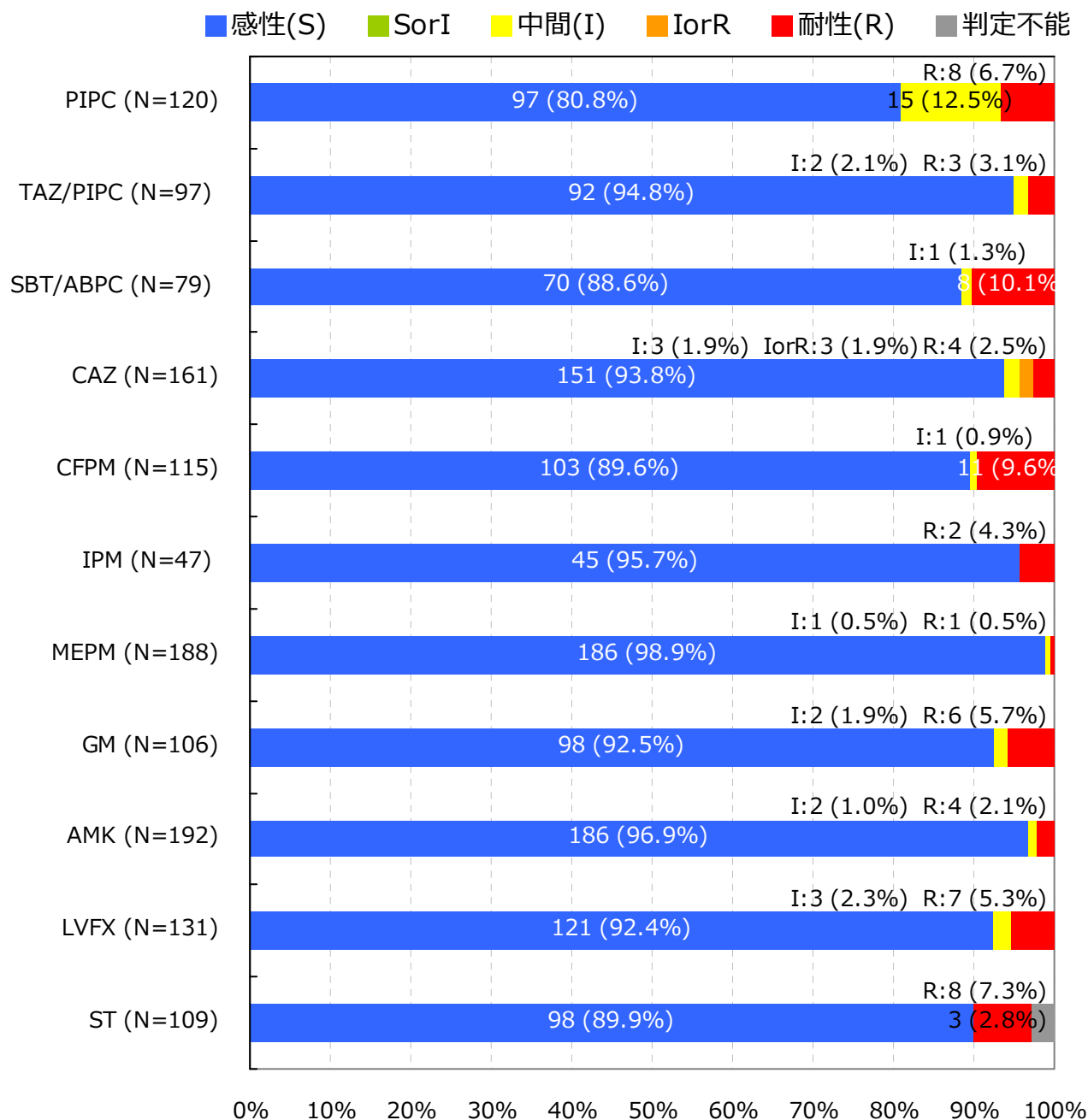
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

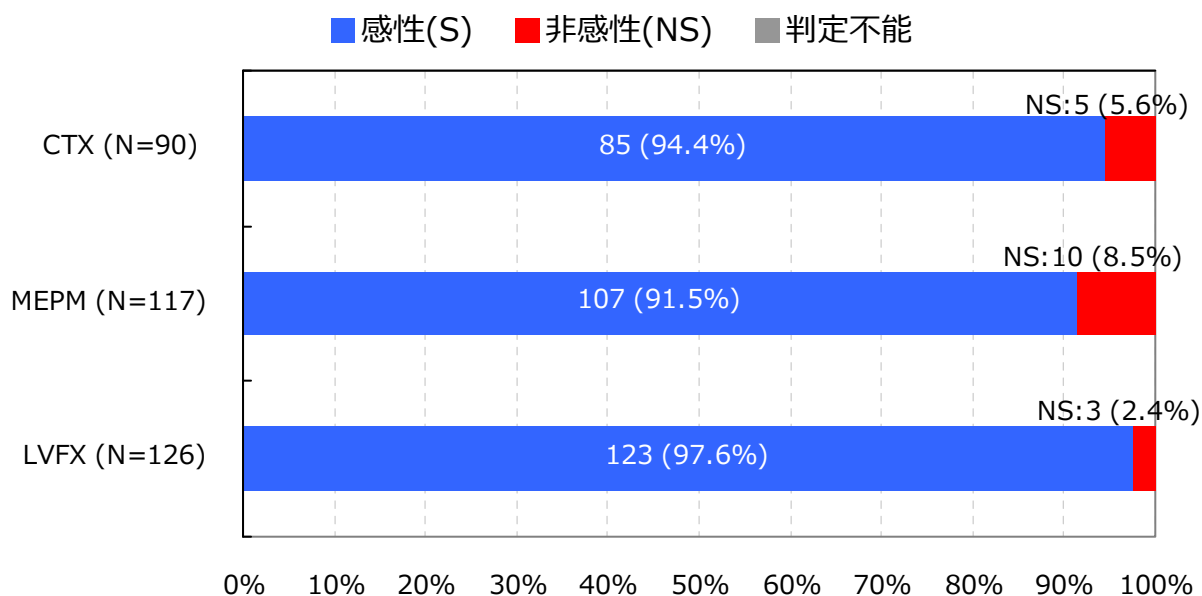
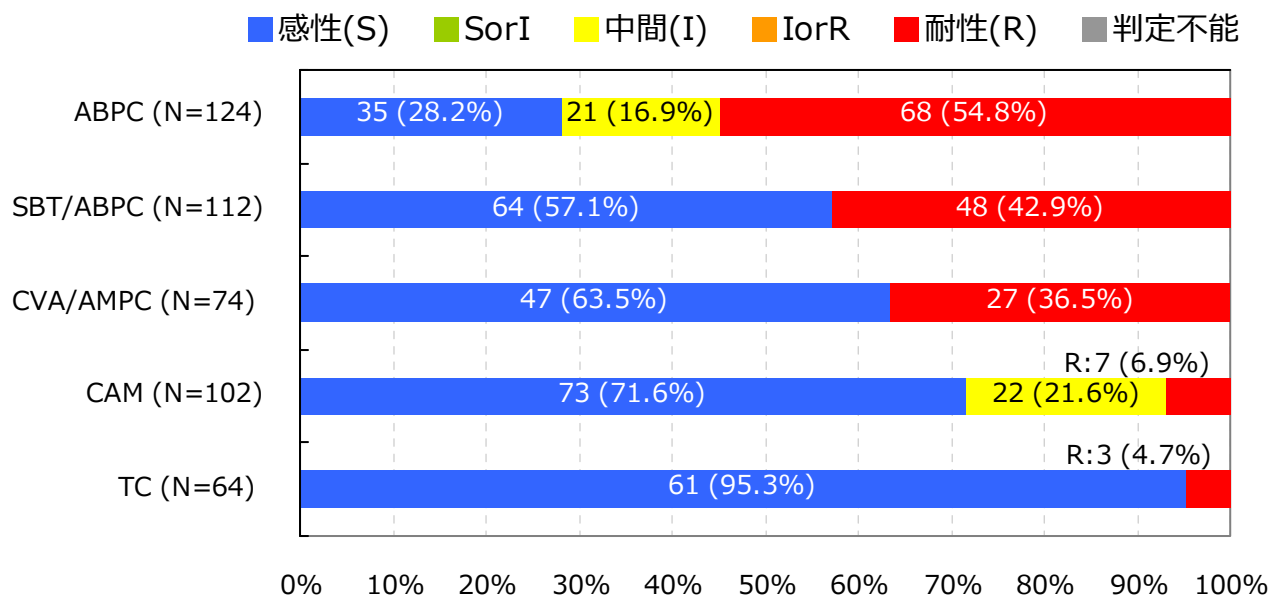
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

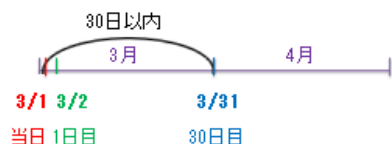
薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

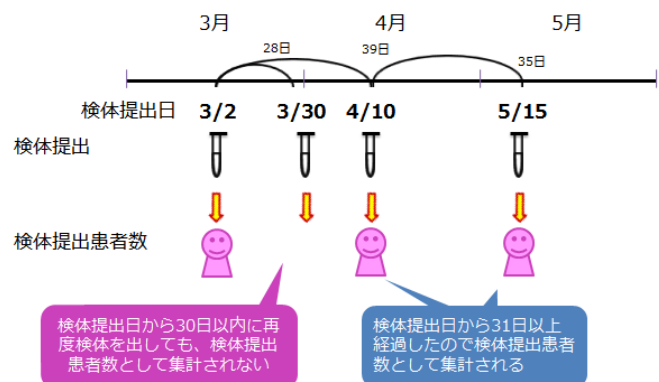
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

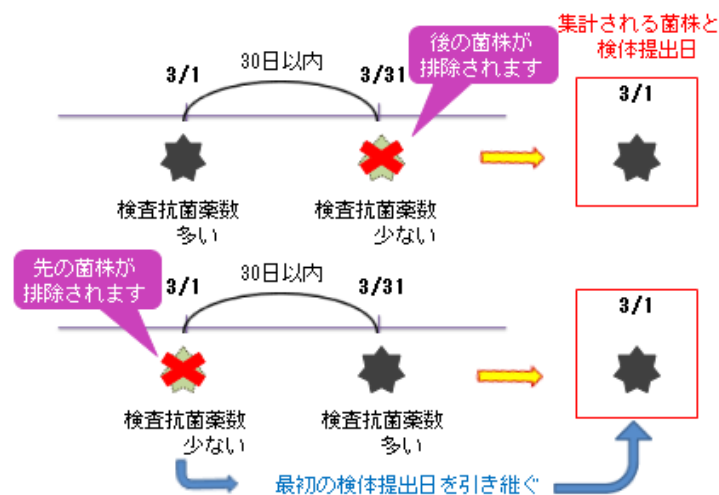
30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

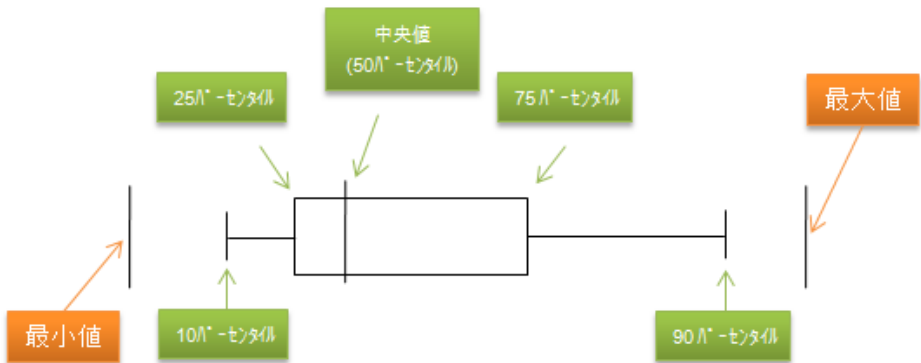
例)



# 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

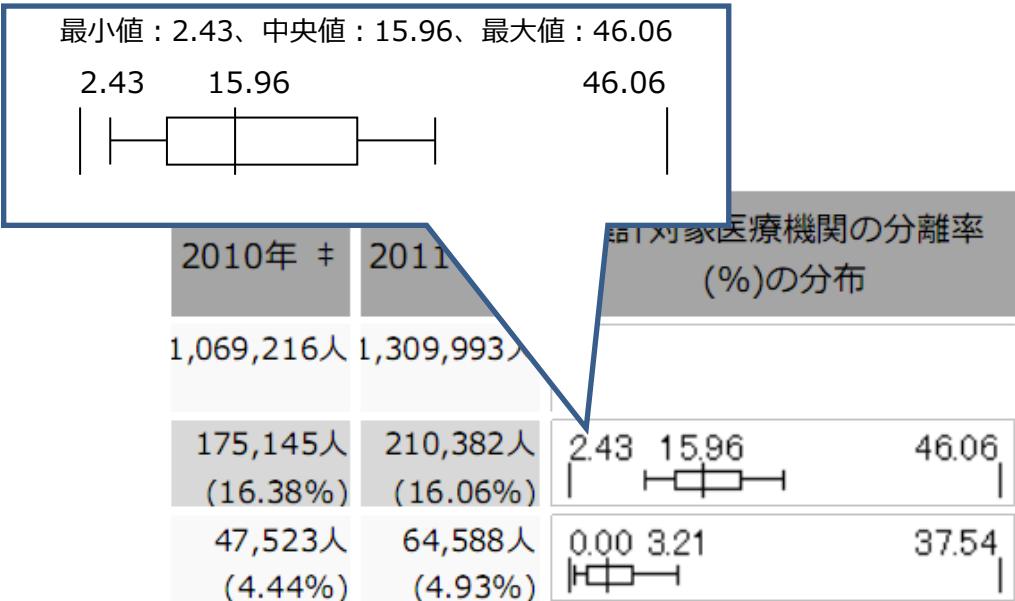
## 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

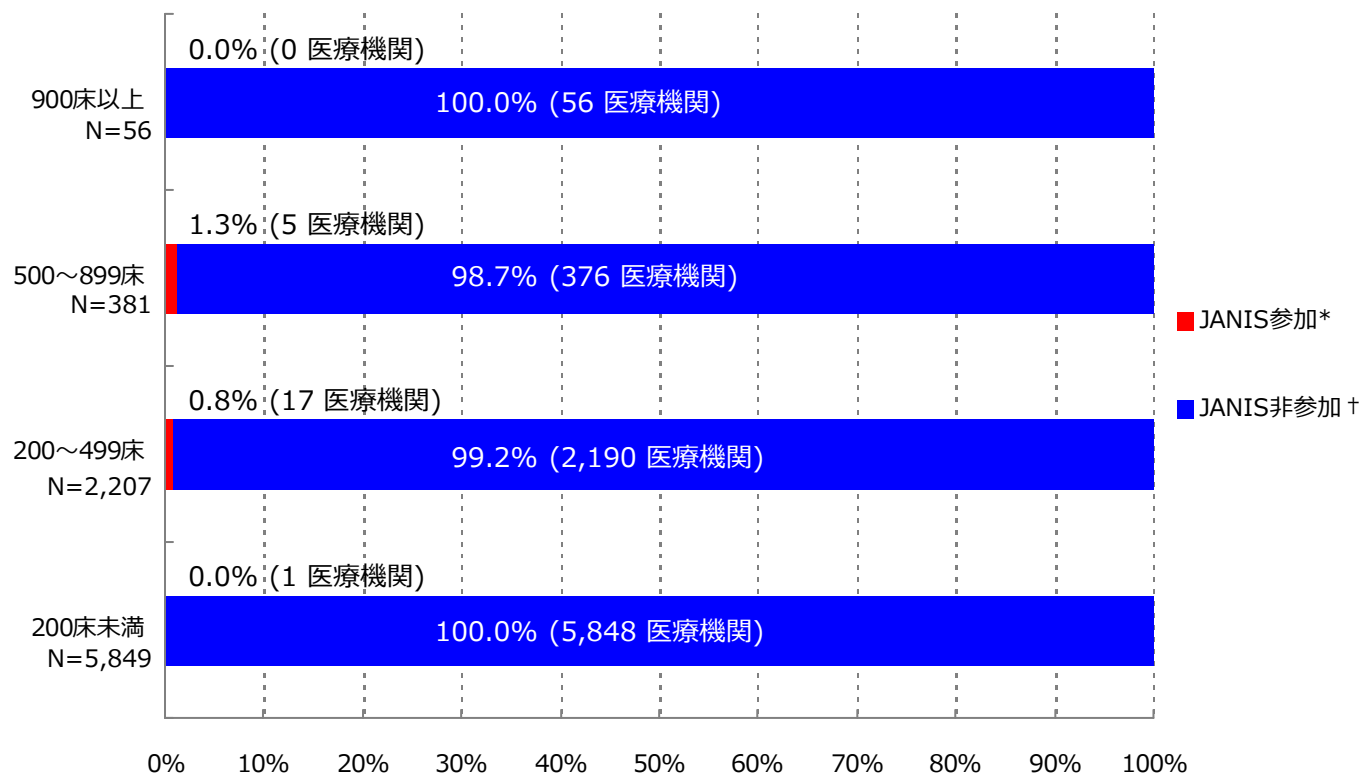


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

## 2. 公開情報の箱ひげ図



## 1. 集計対象医療機関数(23医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	5 ( 1.3% )
200～499床	2,207	17 ( 0.8% )
200床未満	5,849	1 ( 0.0% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	23 ( 0.3% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	23	7,254	5,144 (11,446)
尿検体	23	3,186	1,694 (2,669)
便検体	23	1,835	755 (1,084)
血液検体	22	3,751	688 (773)
髄液検体	14	132	29 (30)
その他	23	4,257	2,169 (3,949)
合計	23	20,415	10,479 (19,951)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

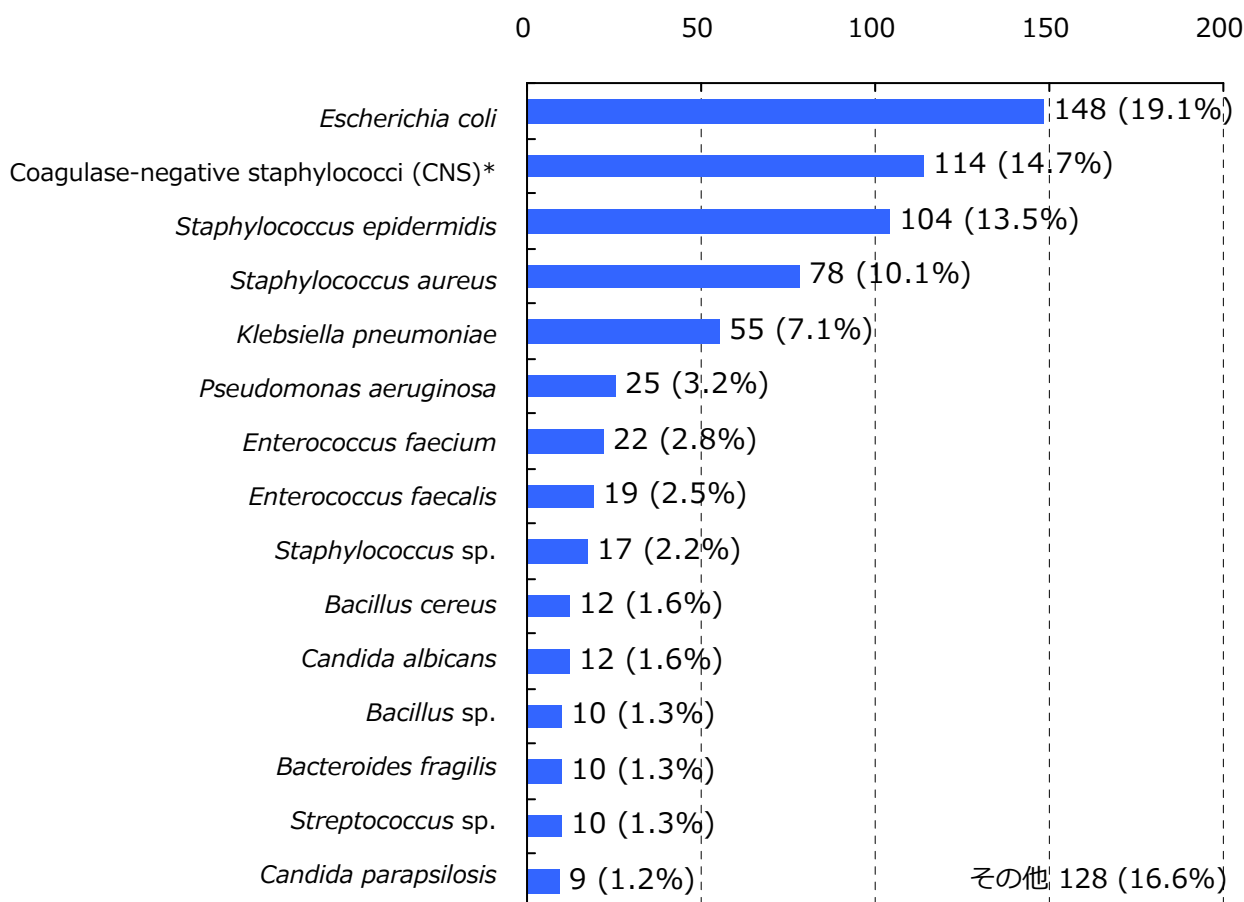
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=773)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

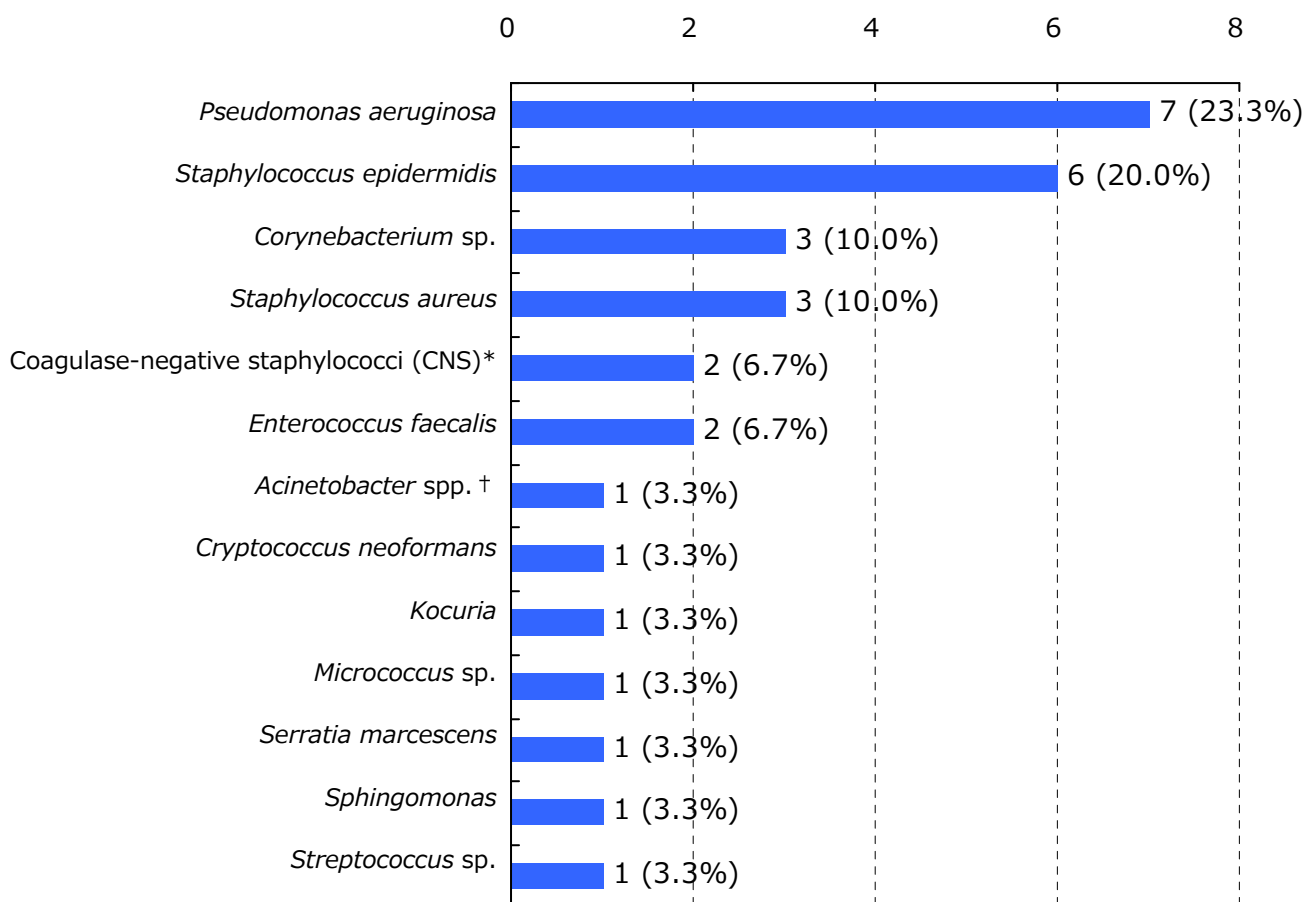
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 髄液検体分離菌 (N=30)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡	集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布
検体提出患者数	8,688人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	833人 (9.59%)	4.05 9.71 20.46
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	1人 (0.01%)	0.00 0.00 0.14
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	75人 (0.86%)	0.00 0.28 3.58
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	4人 (0.05%)	0.00 0.00 0.83
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	5人 (0.06%)	0.00 0.00 2.65
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	43人 (0.49%)	0.00 0.54 2.48
カルバペネム耐性緑膿菌	101人 (1.16%)	0.00 0.88 6.91
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	19人 (0.22%)	0.00 0.00 0.65
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	269人 (3.10%)	0.00 3.07 11.65
フルオロキノロン耐性大腸菌	483人 (5.56%)	0.00 5.18 29.63

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

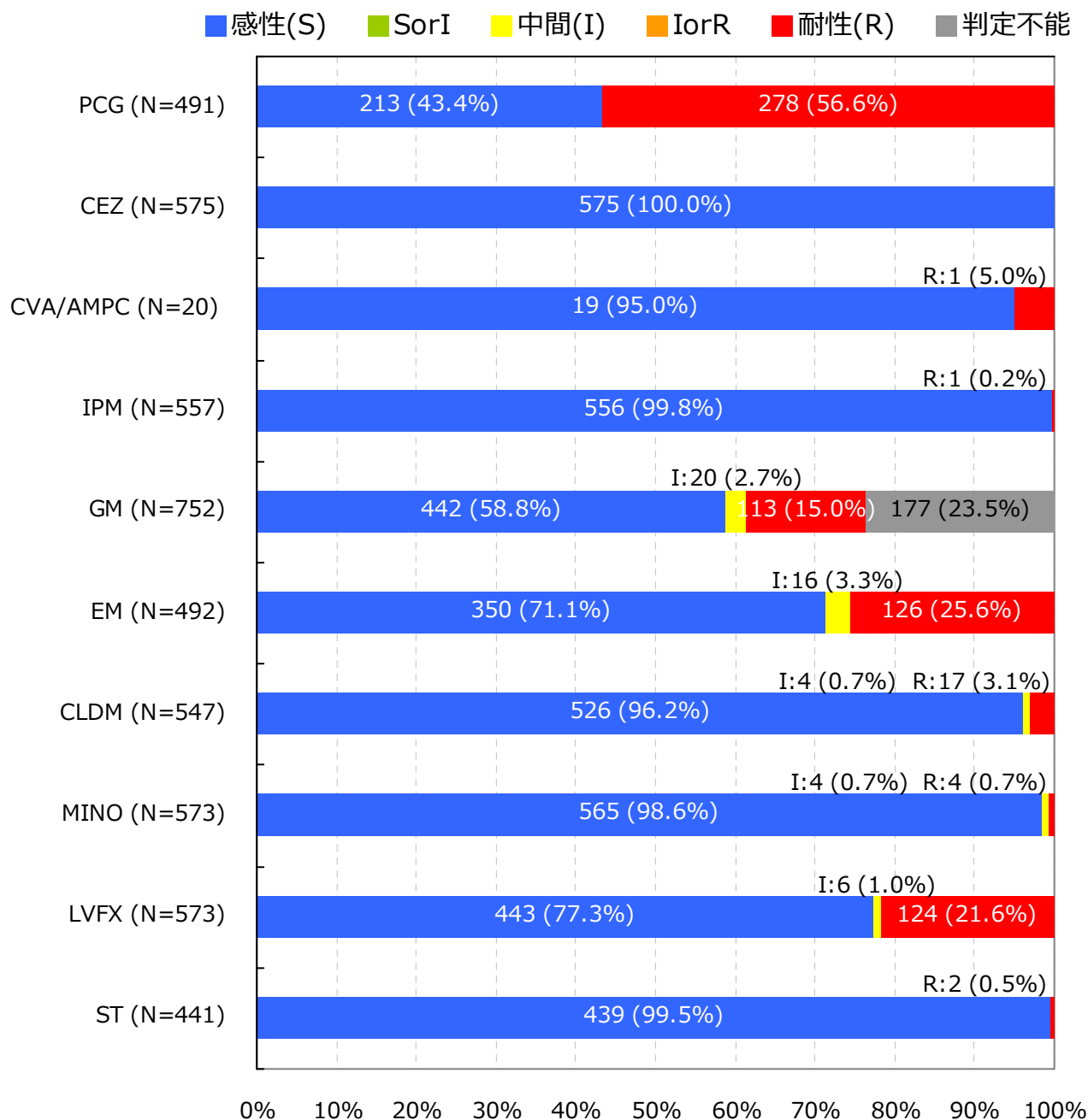
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

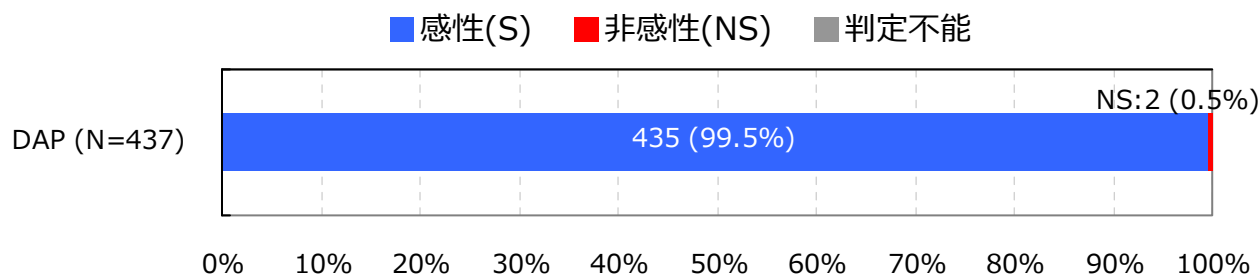
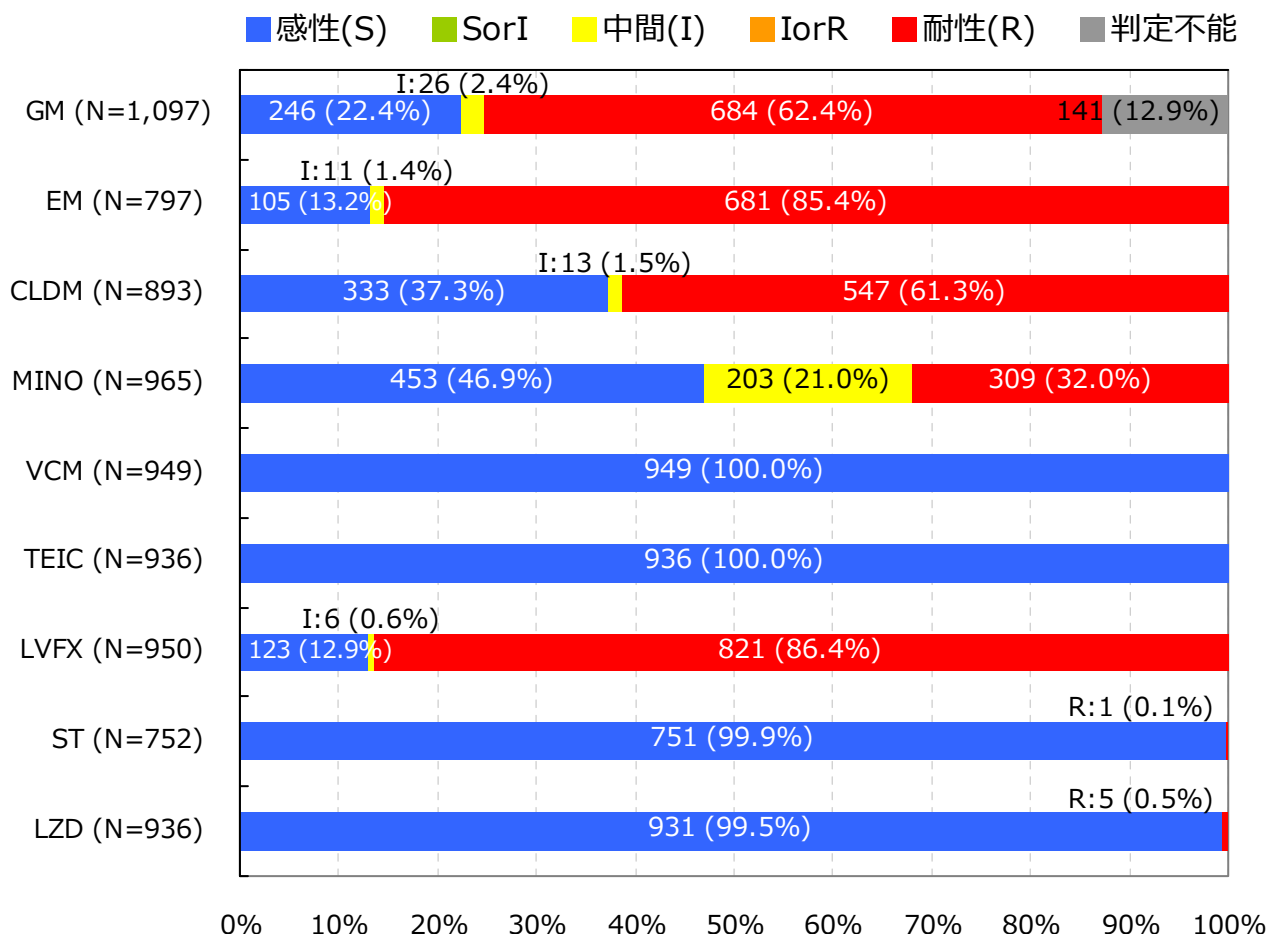
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

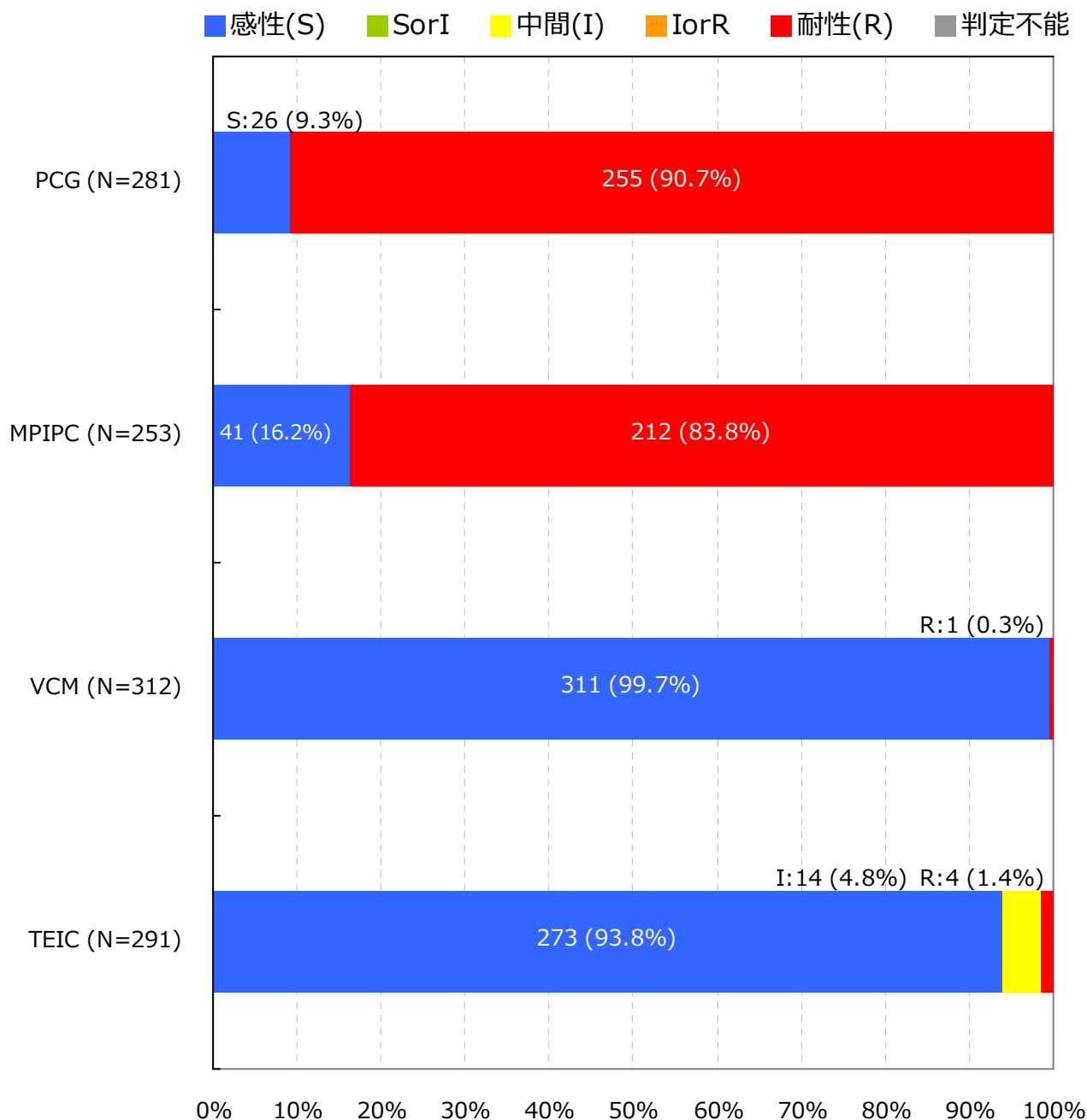
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

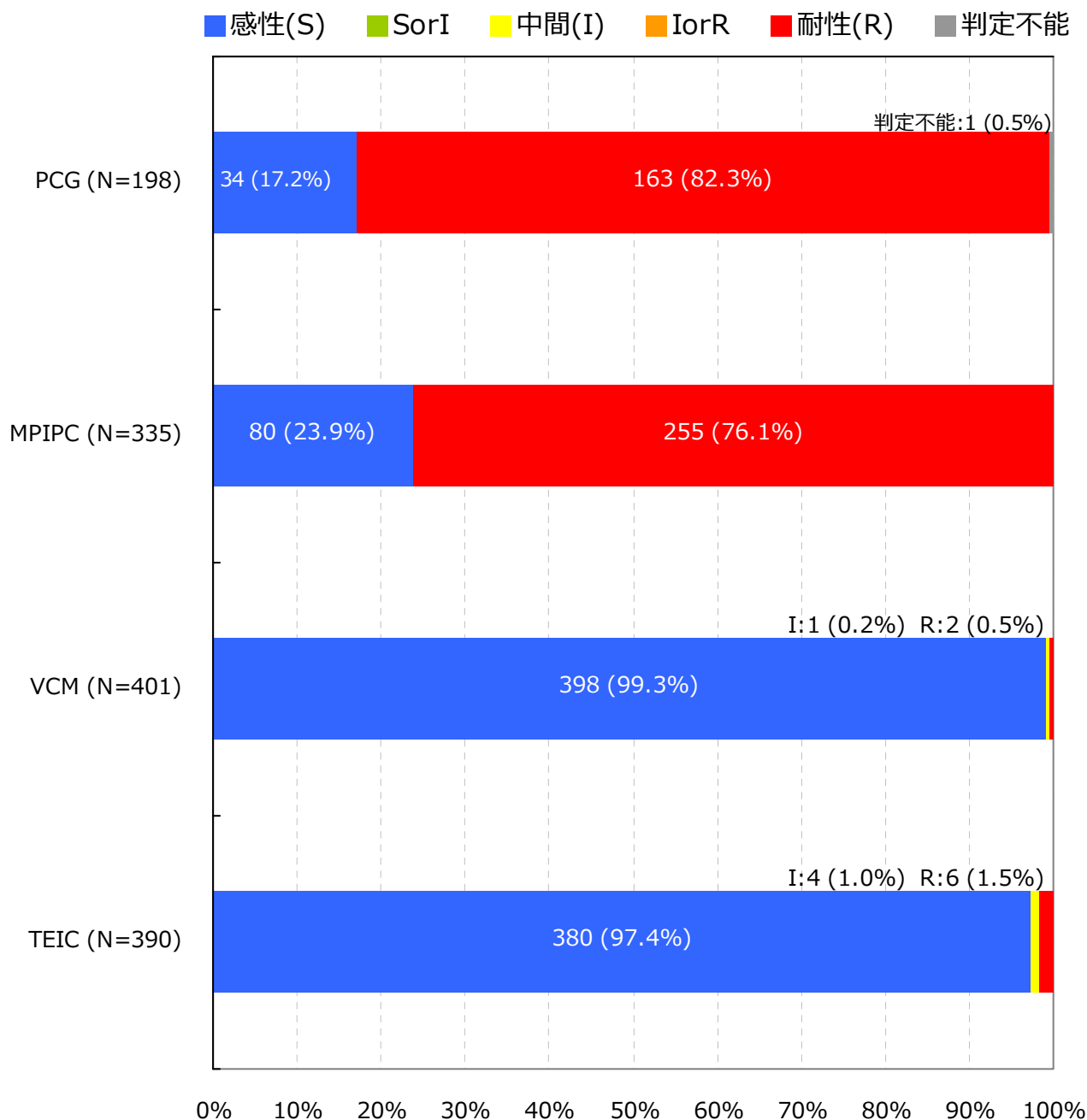
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1312と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



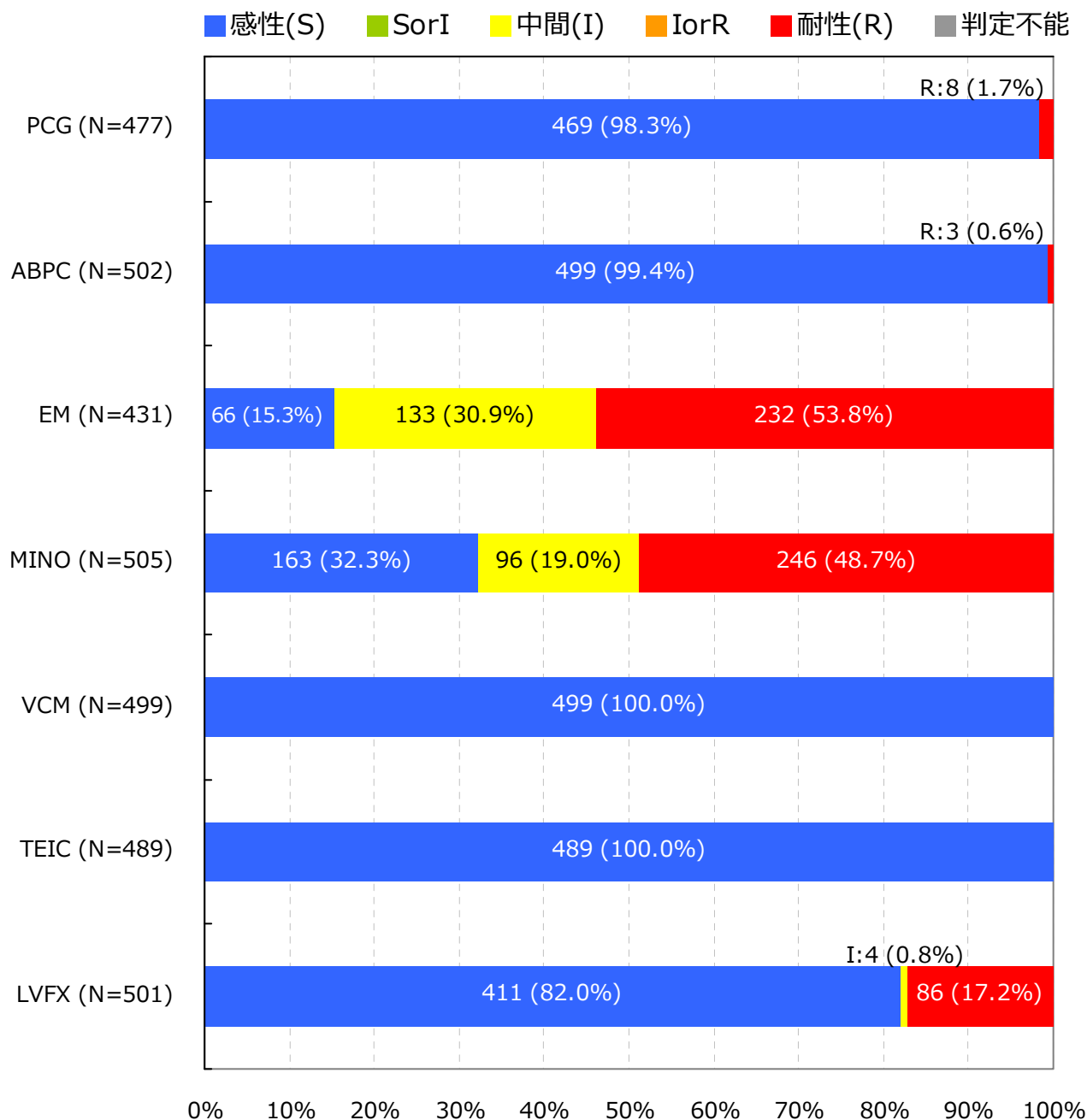
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312: *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

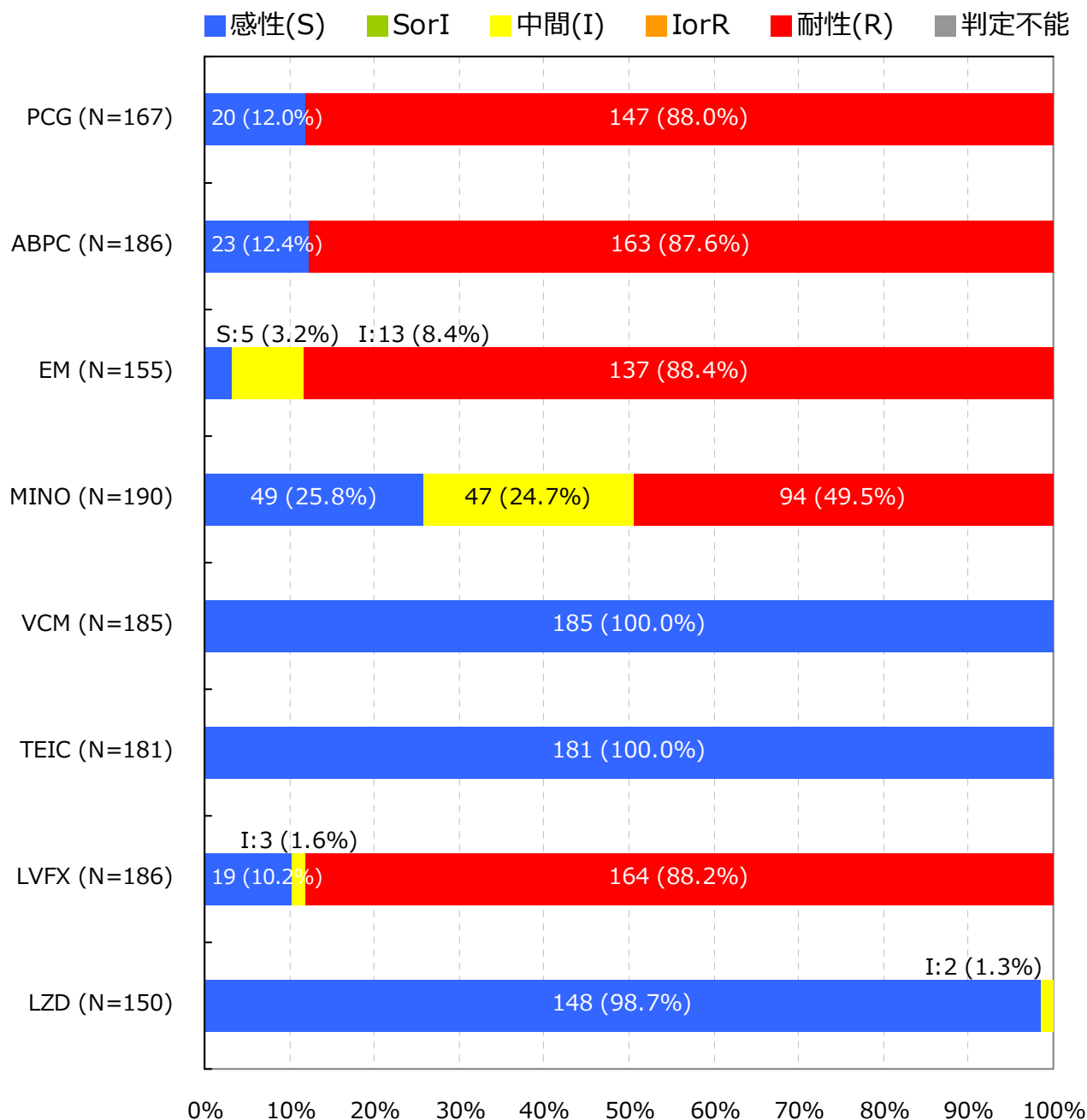
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(山口県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

報告はありませんでした

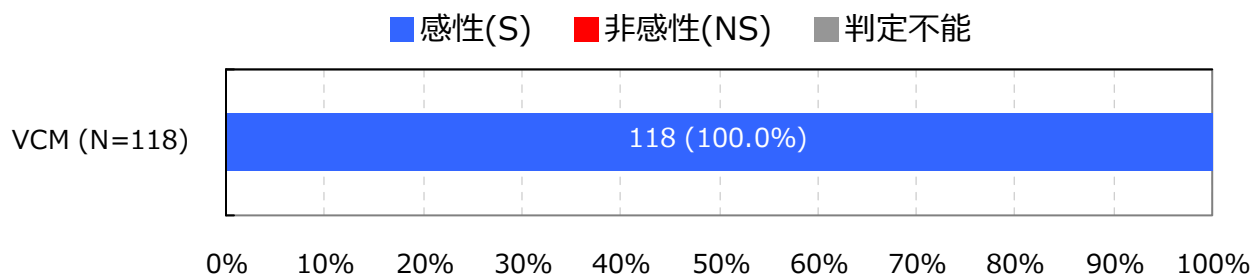
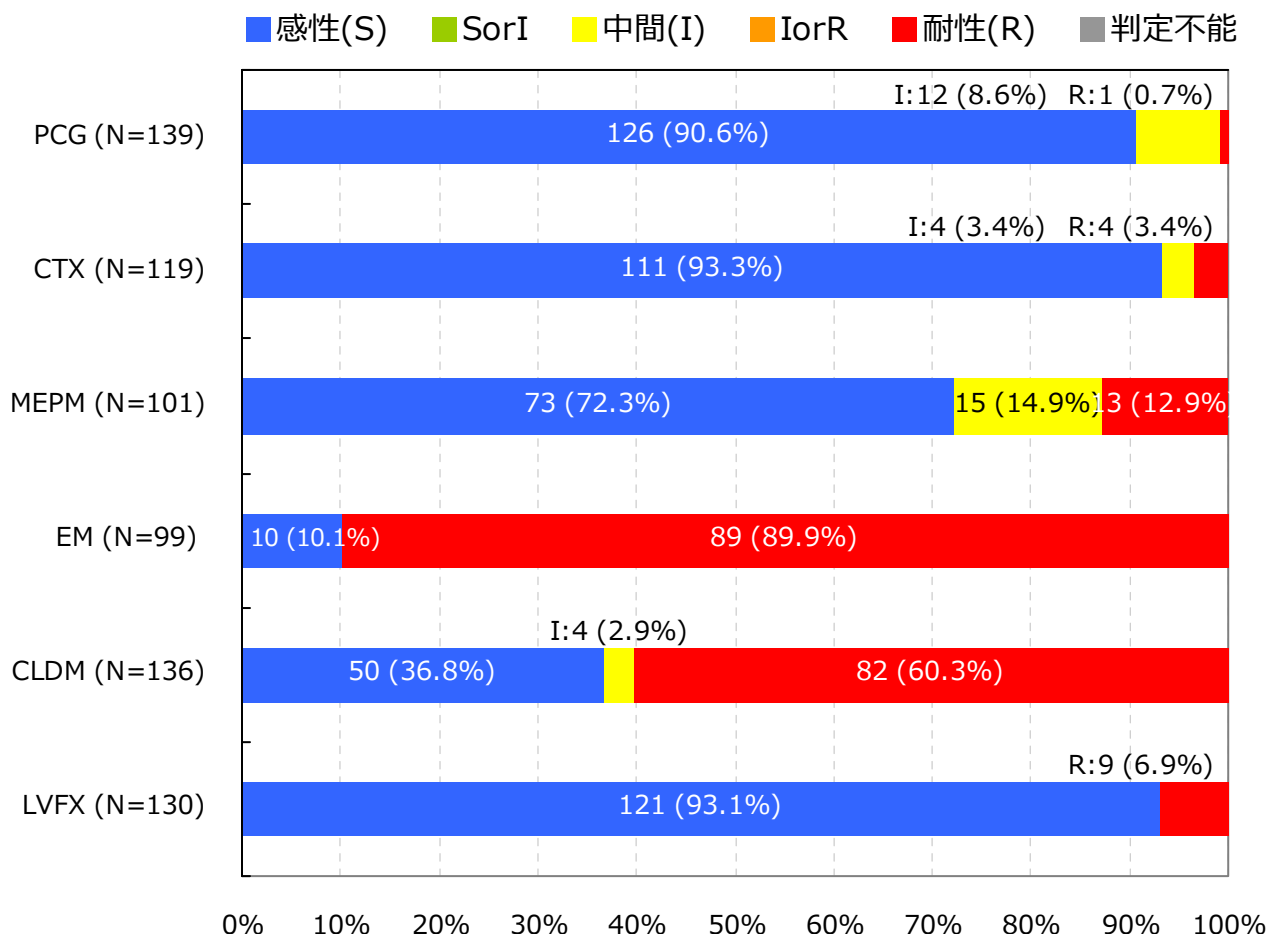
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

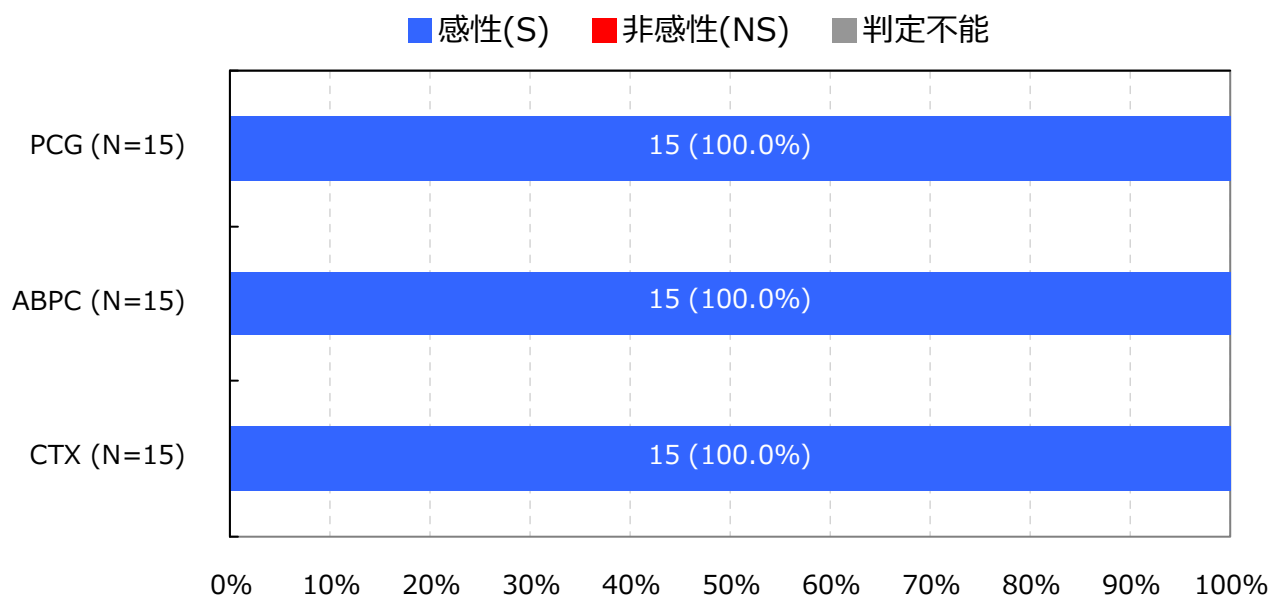
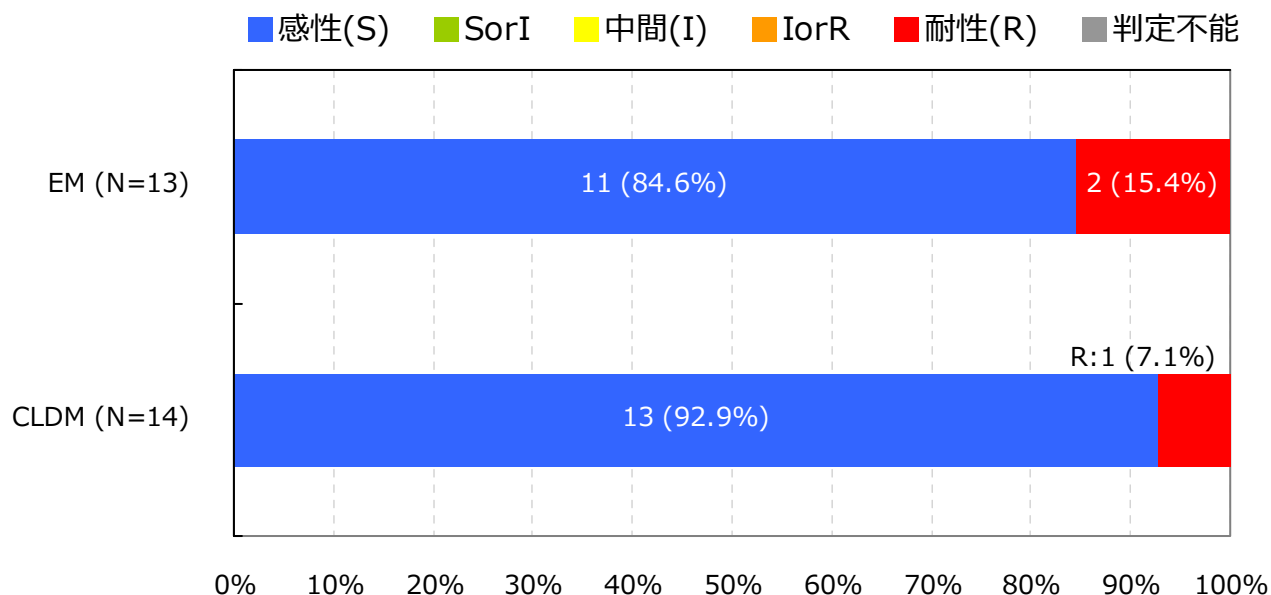
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

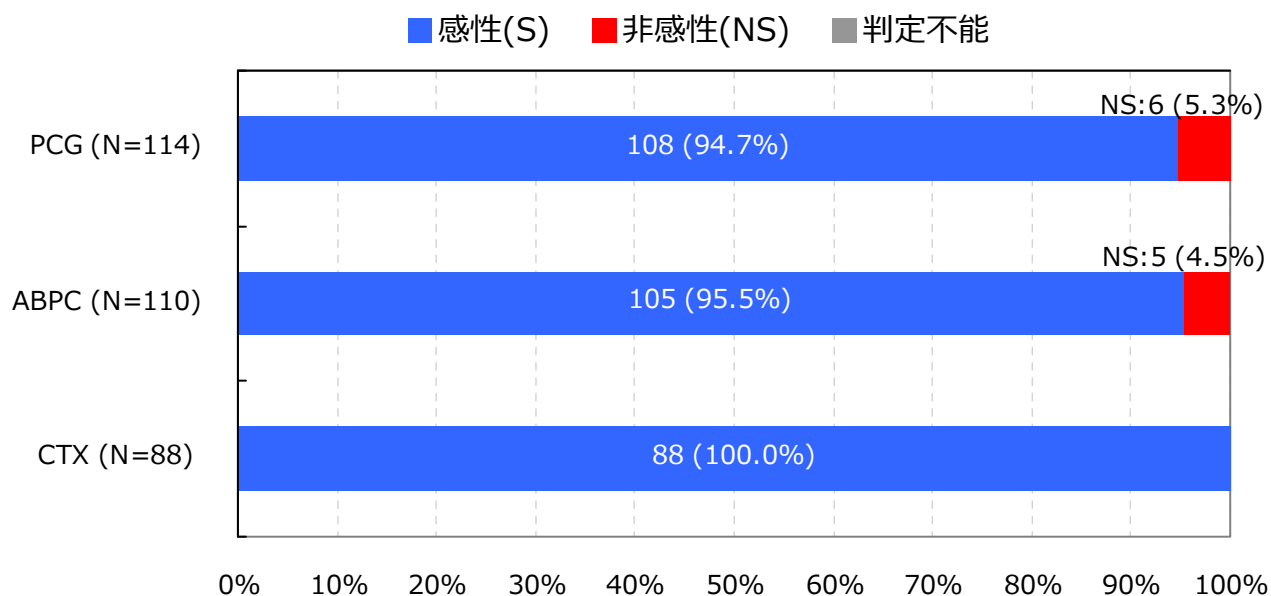
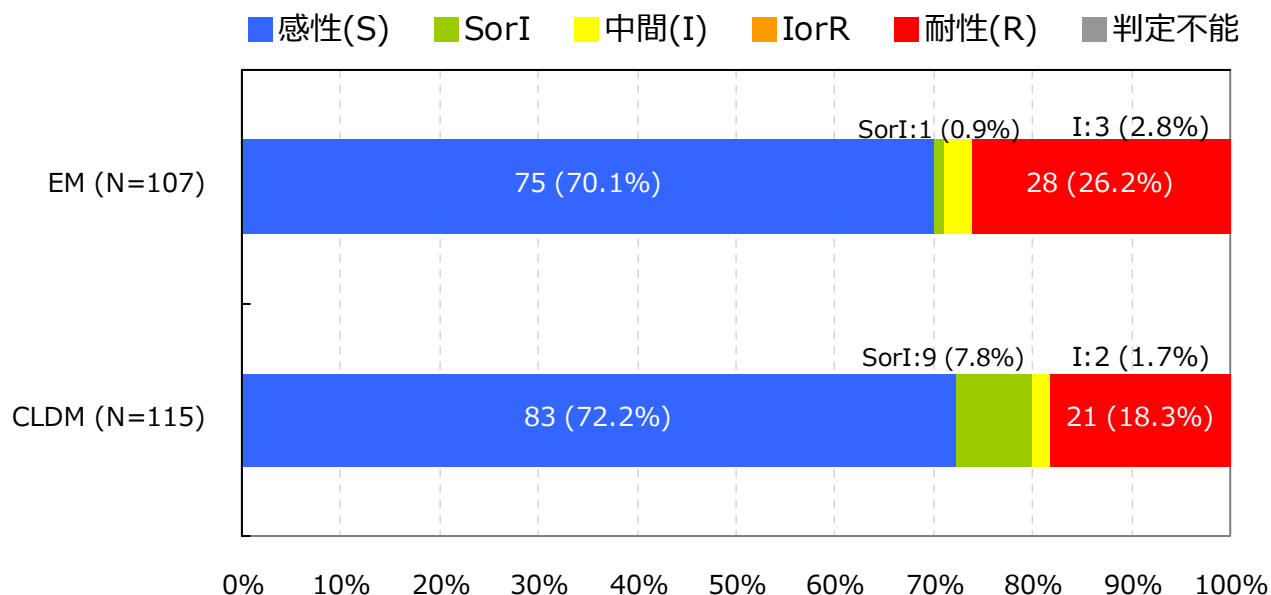
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

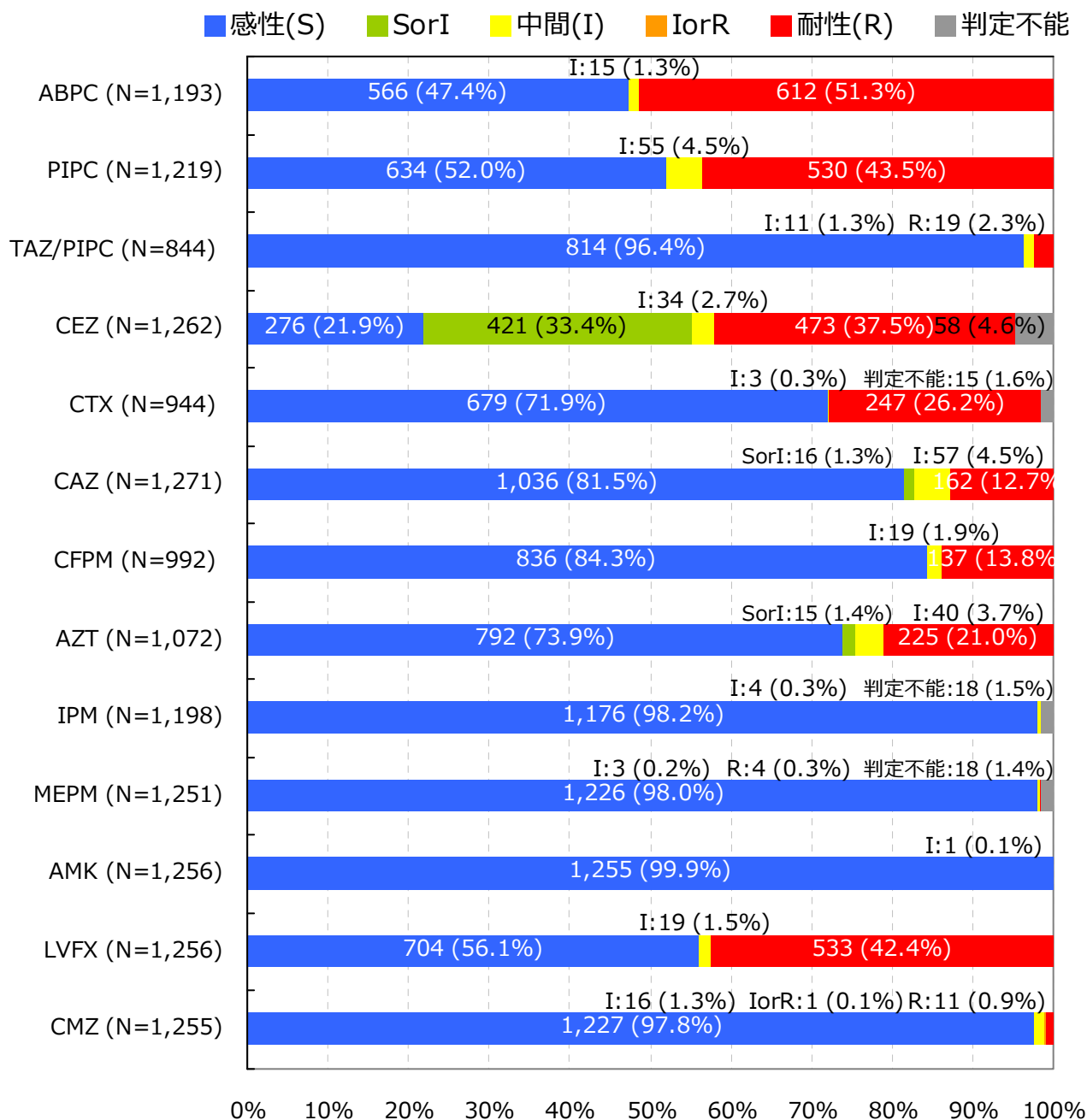
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

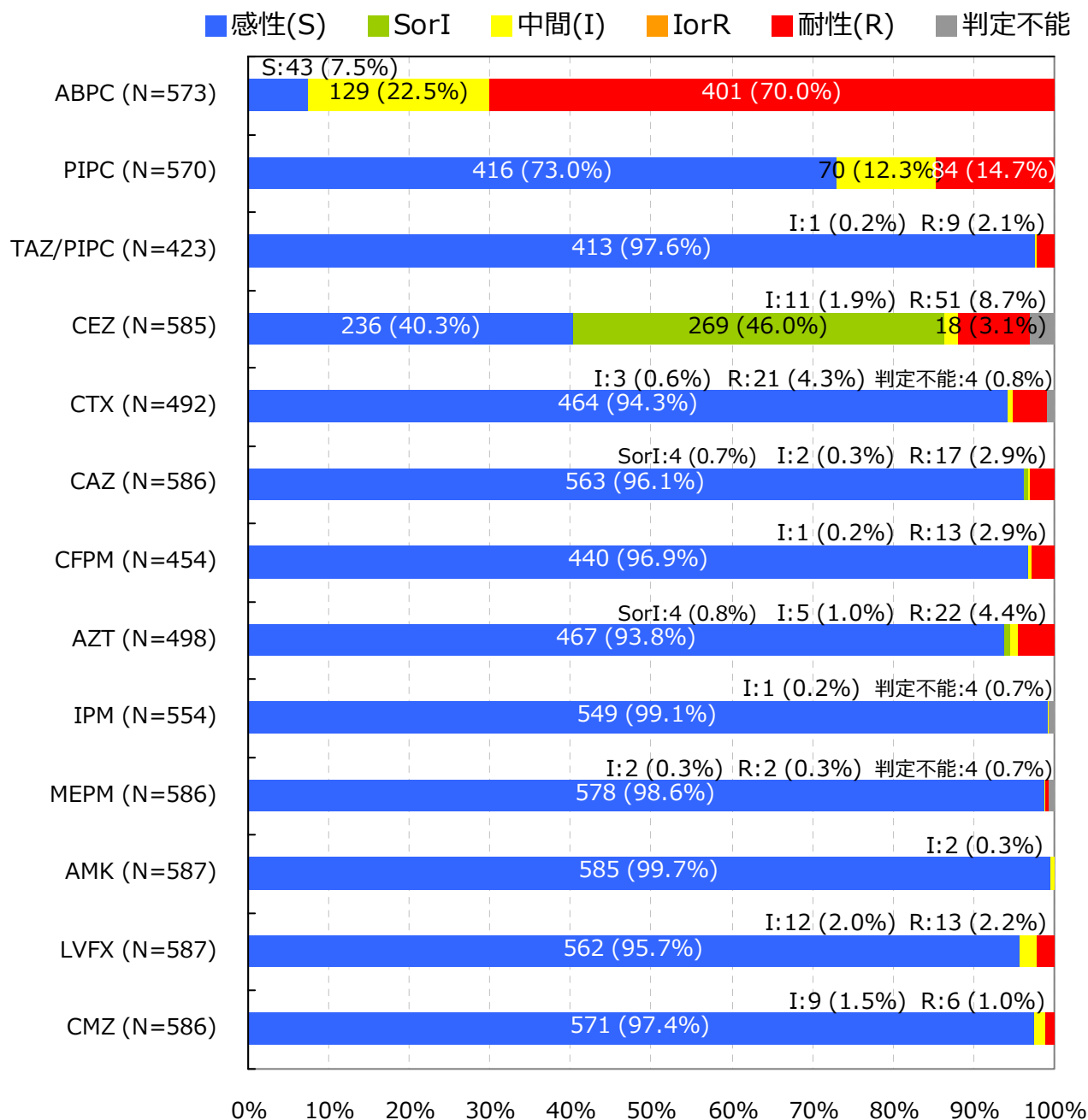
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

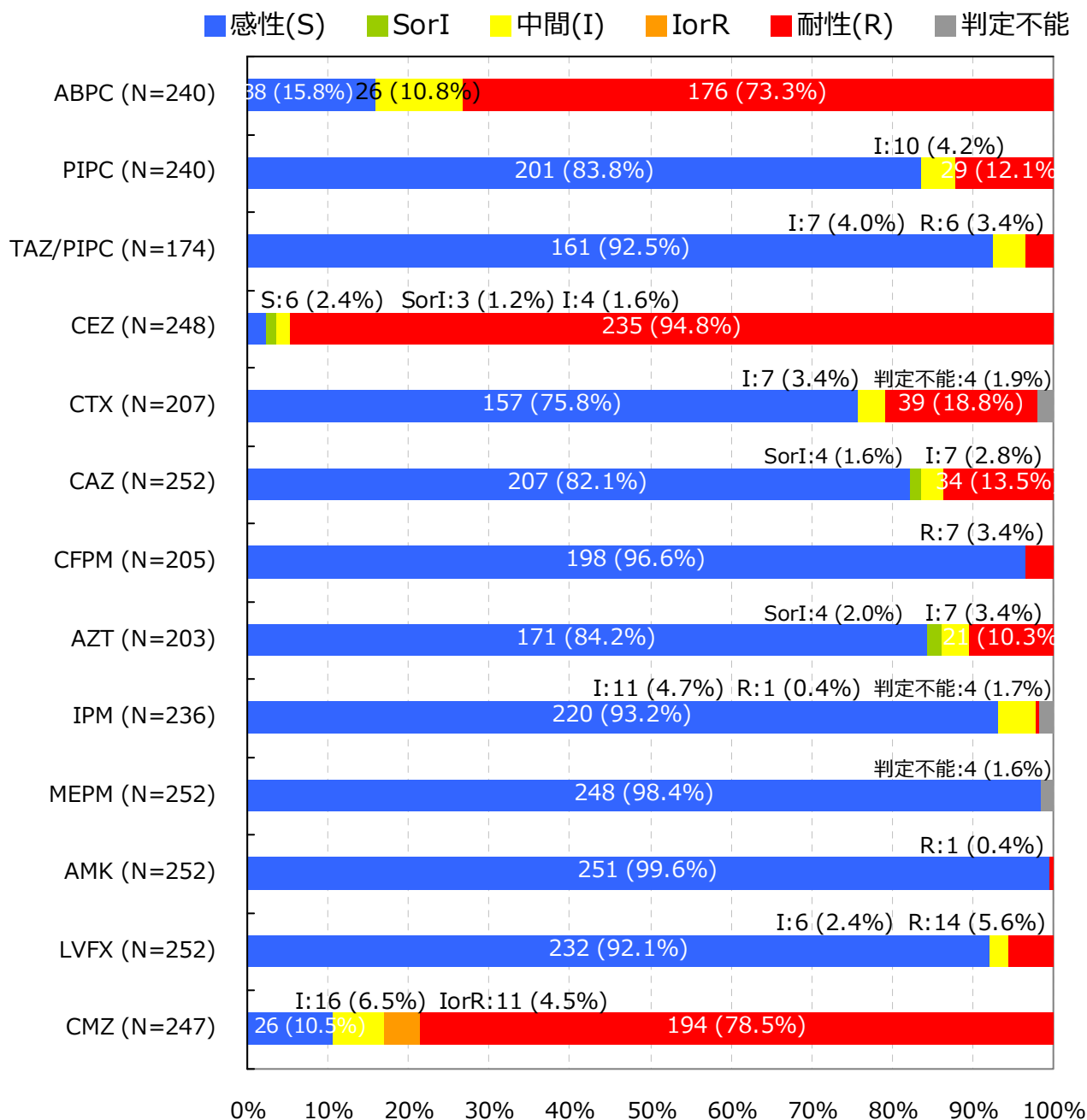
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

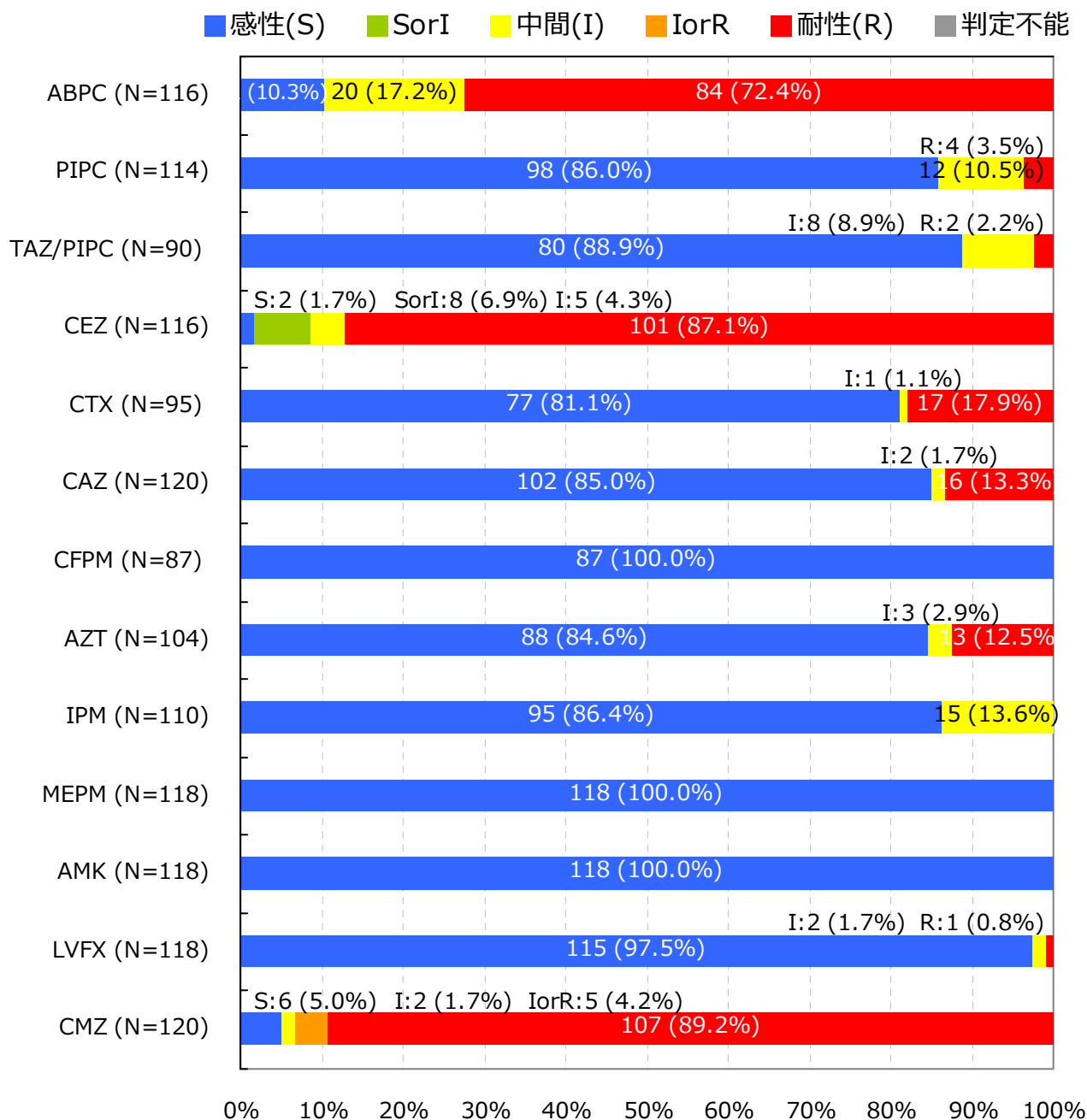
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

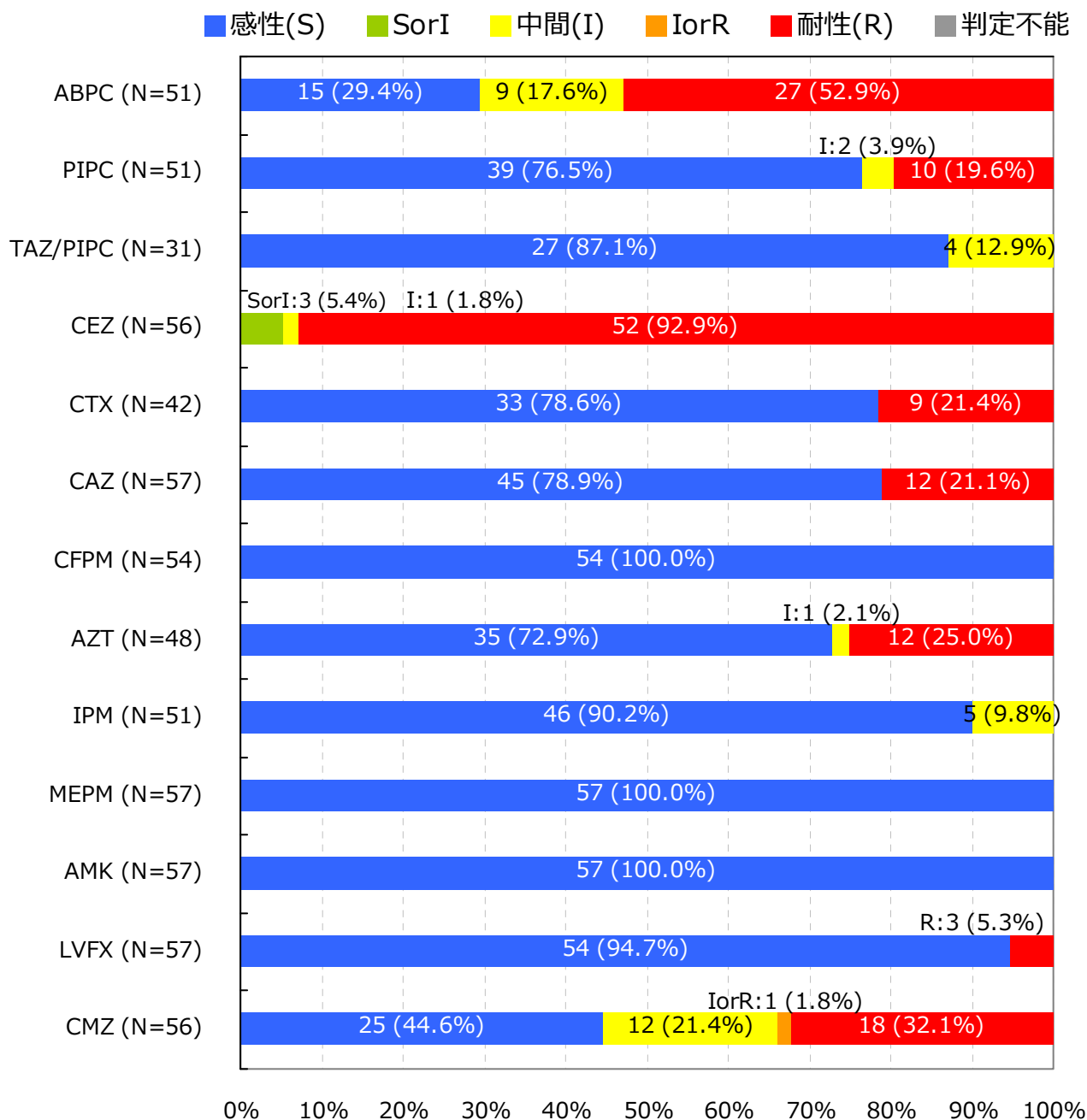
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

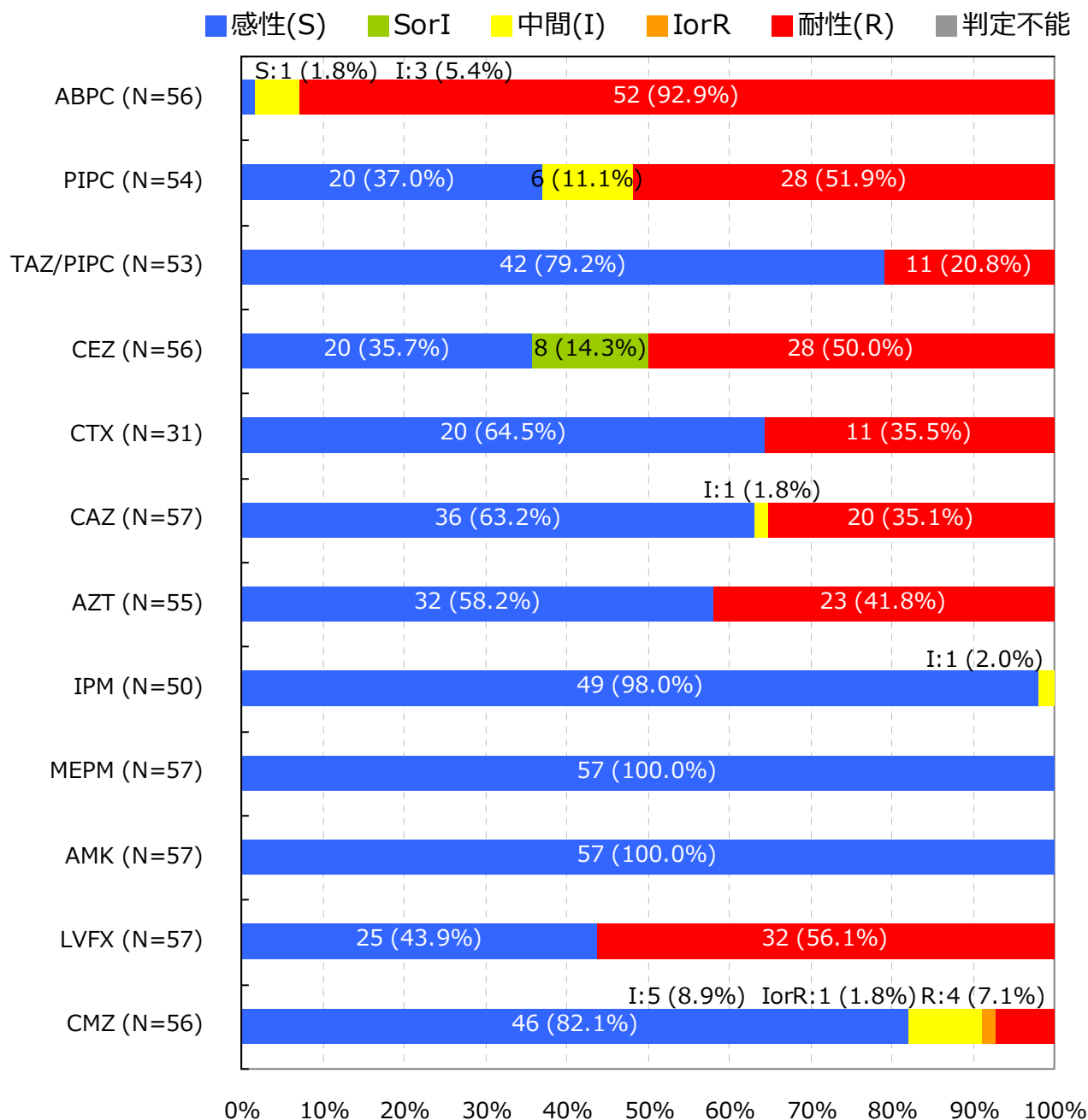
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

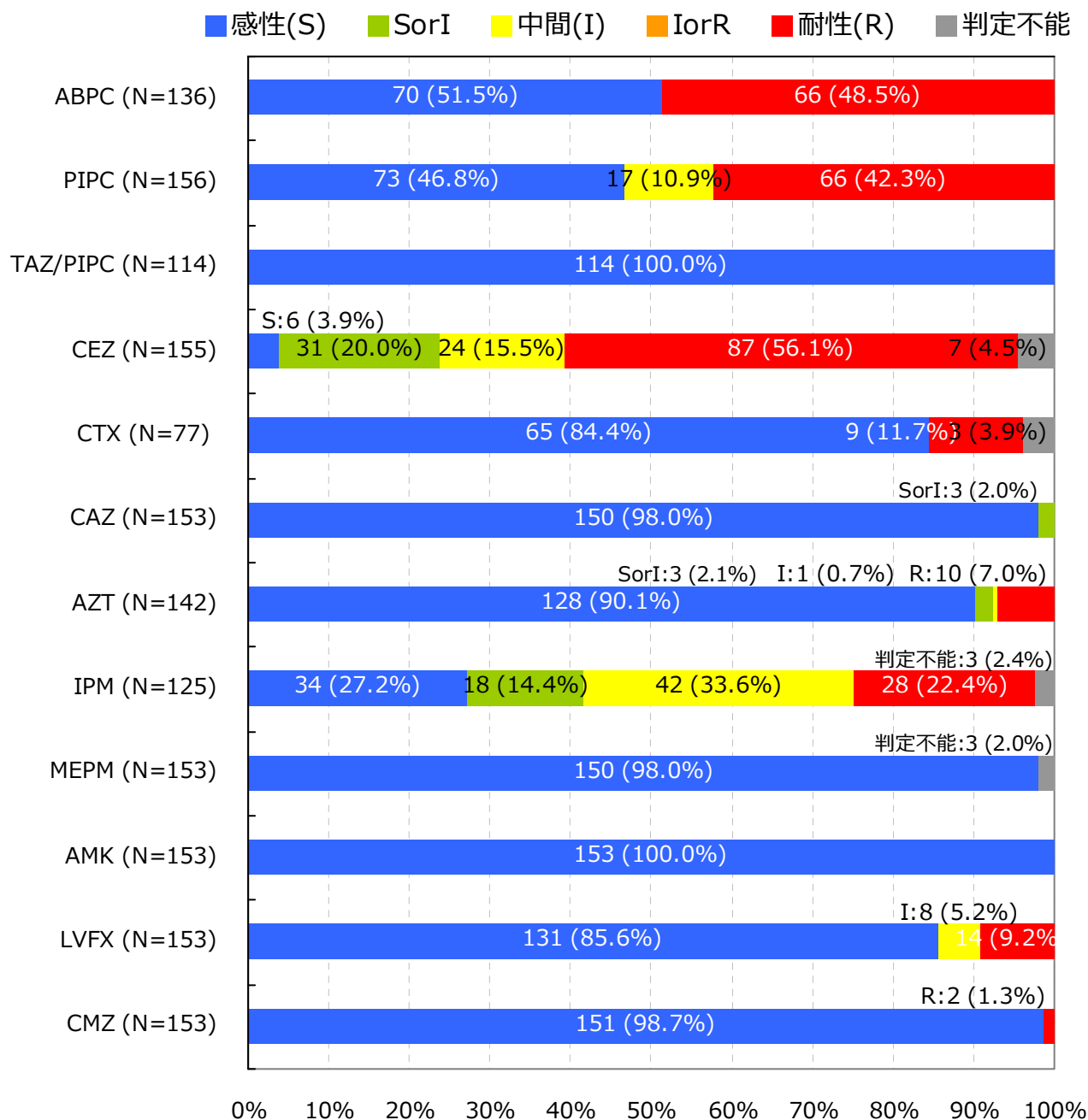
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

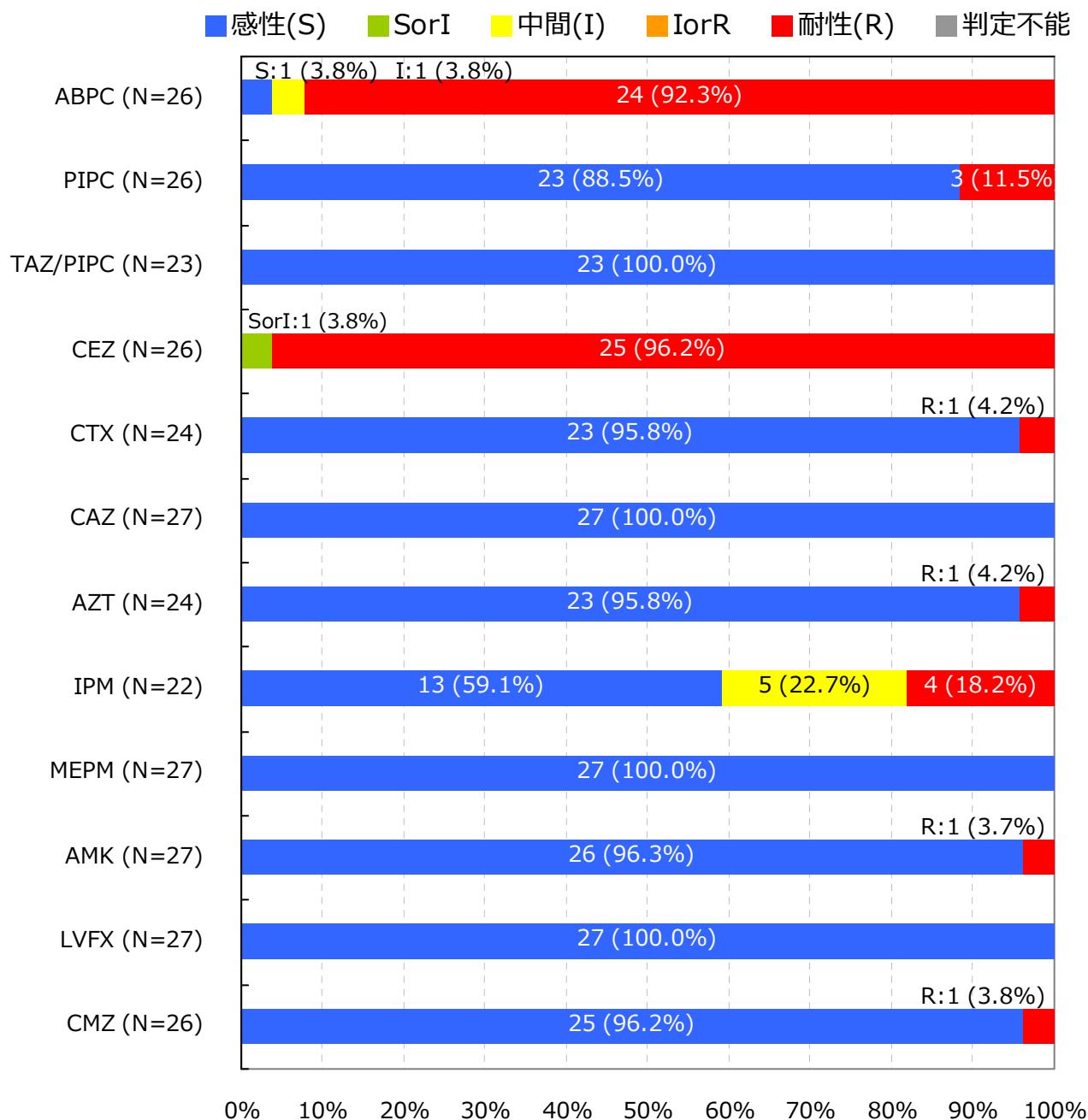
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

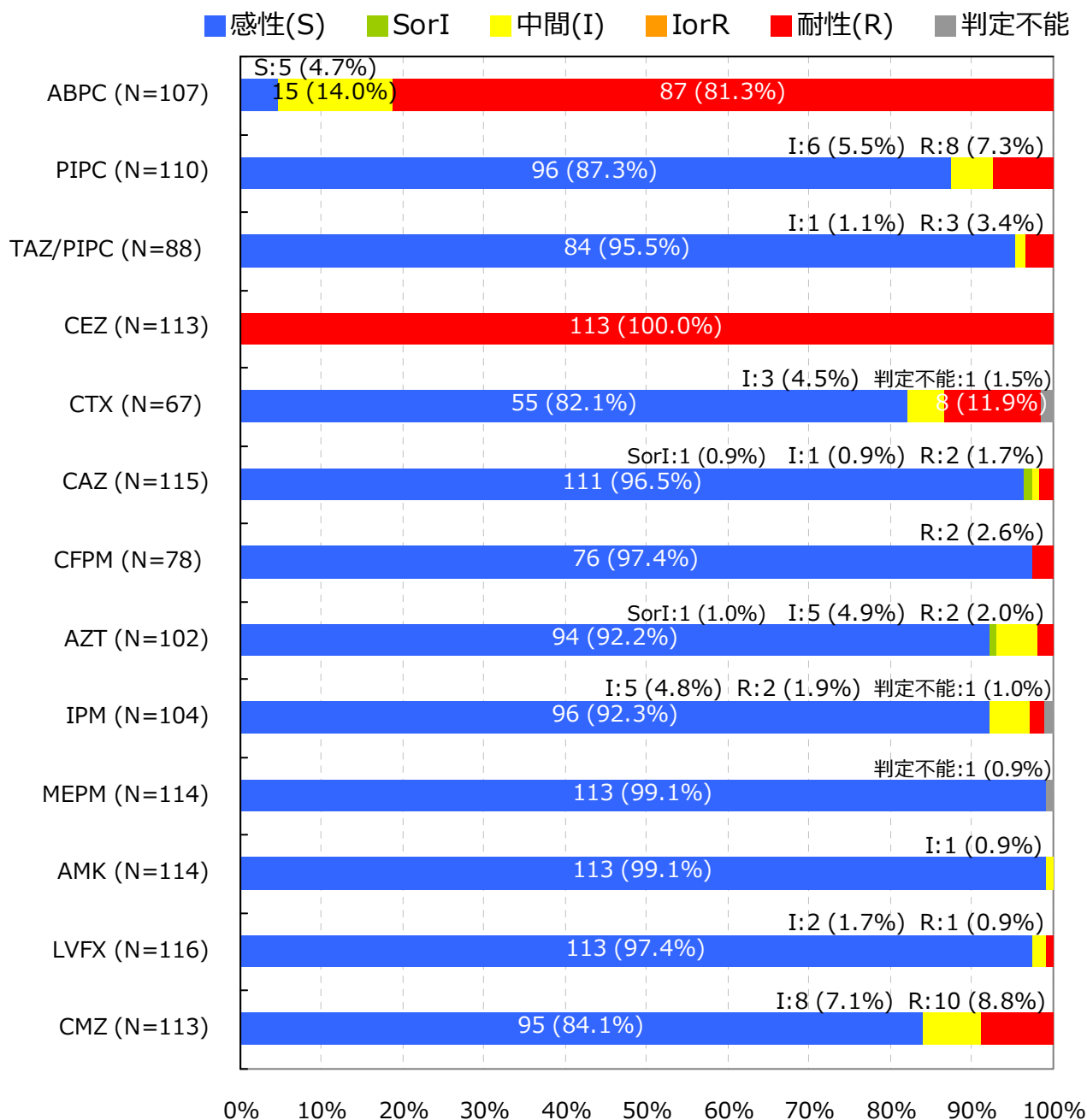
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

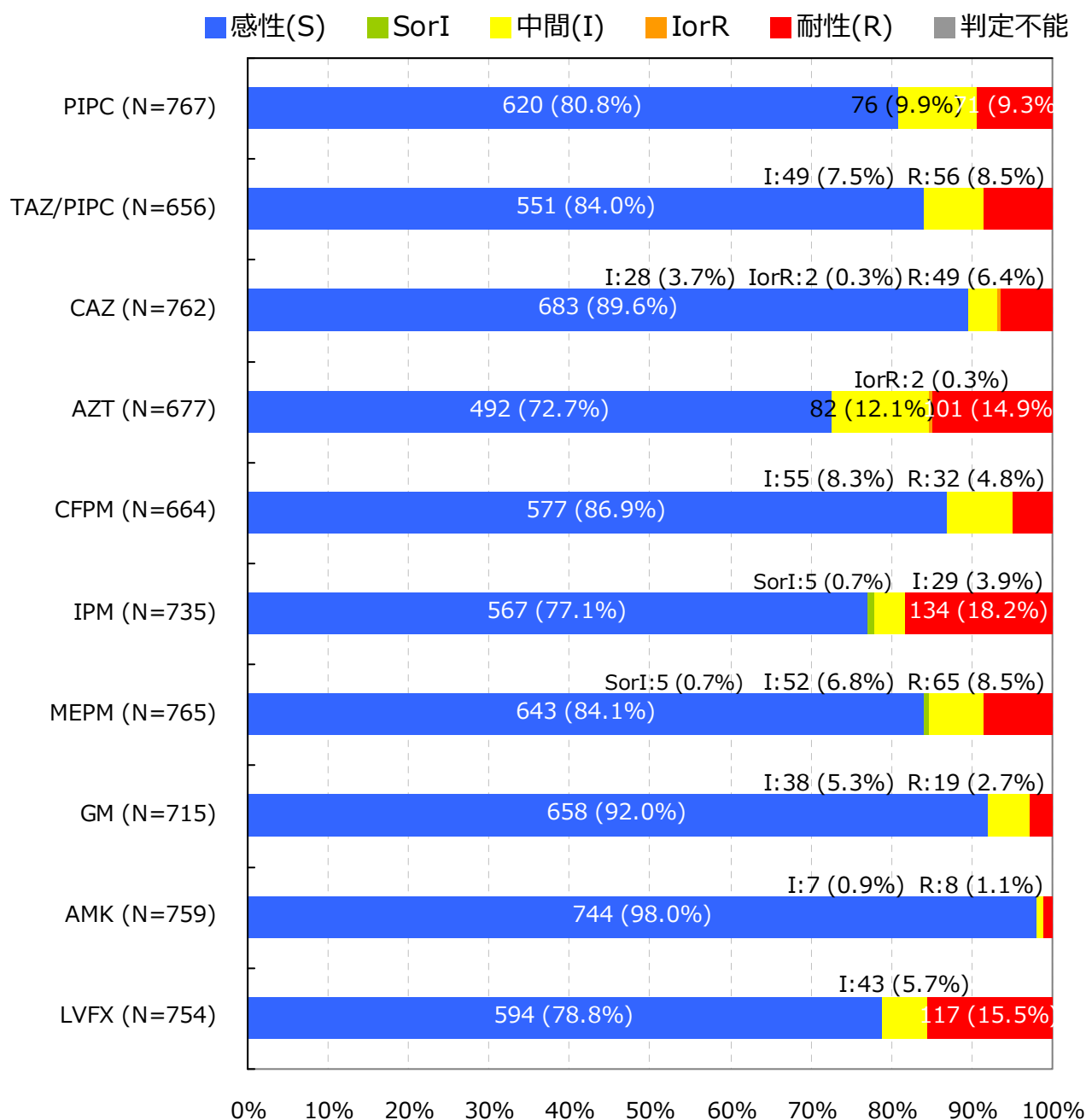
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

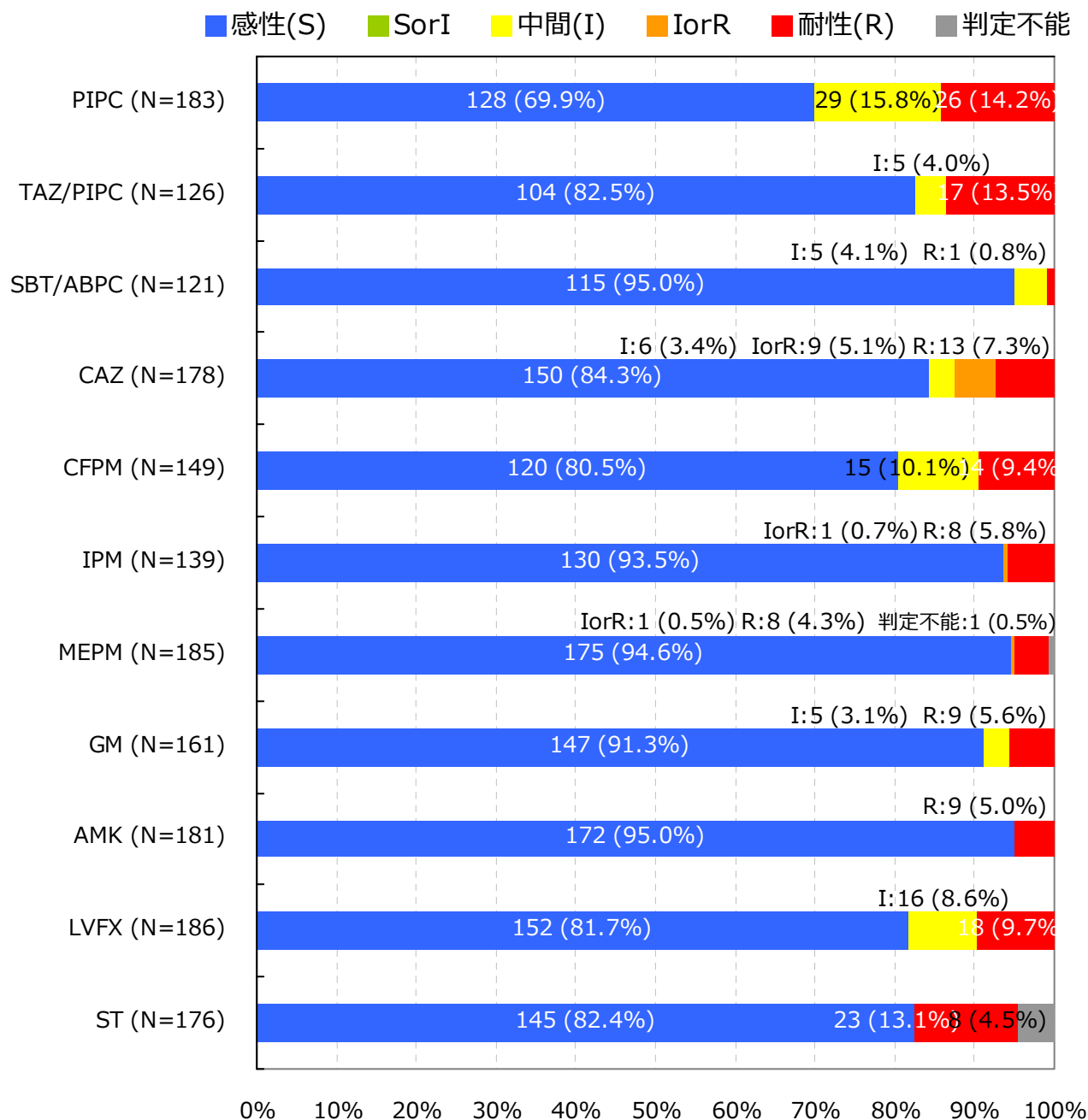
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

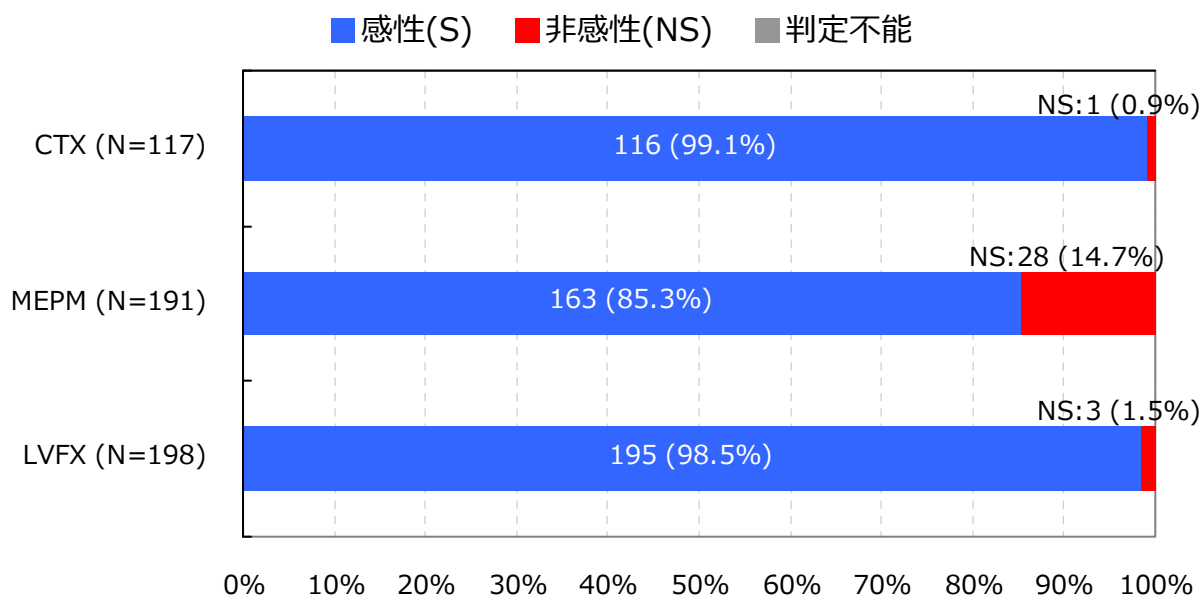
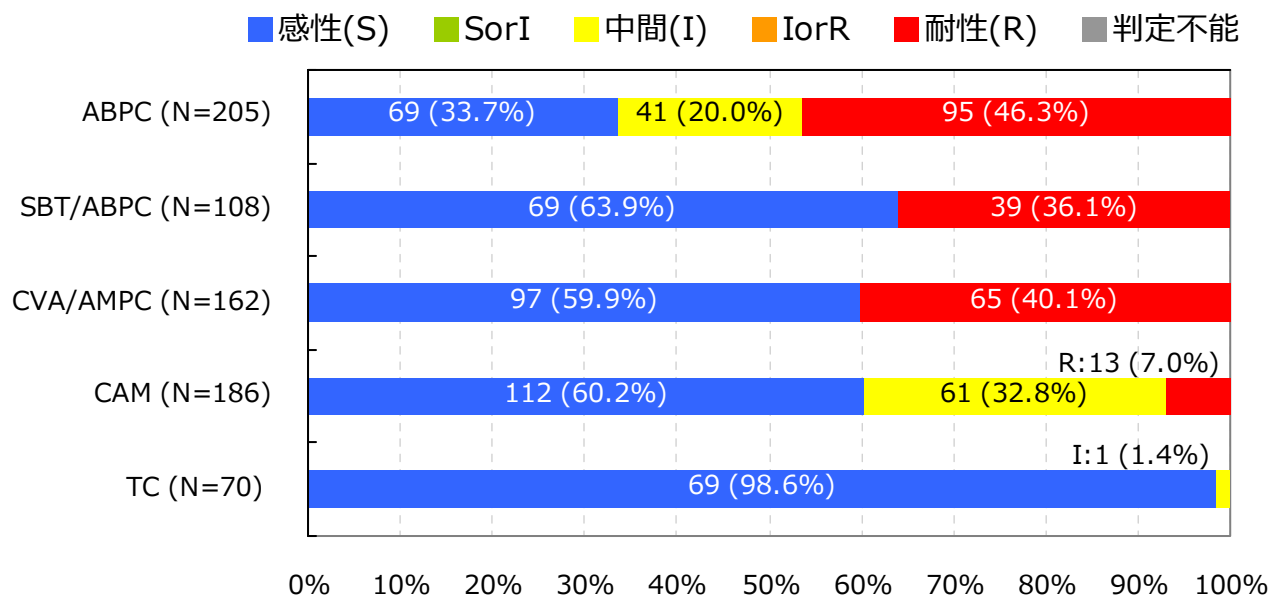
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。



## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

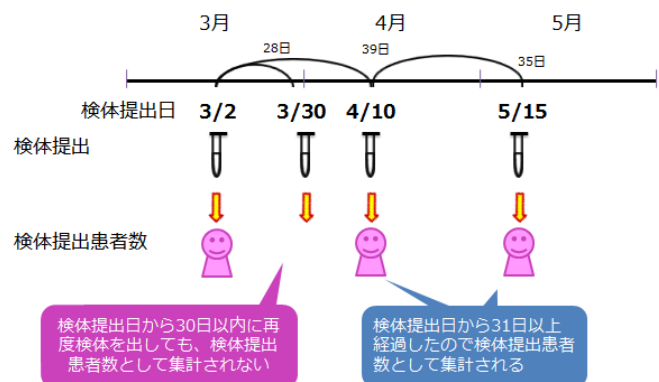
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

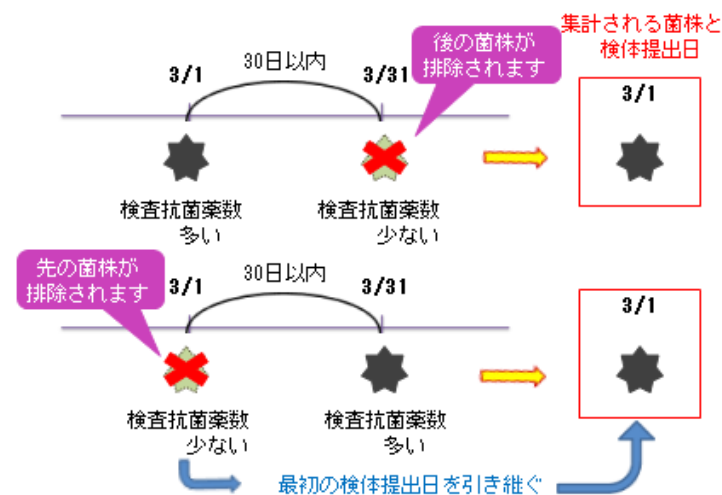
30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

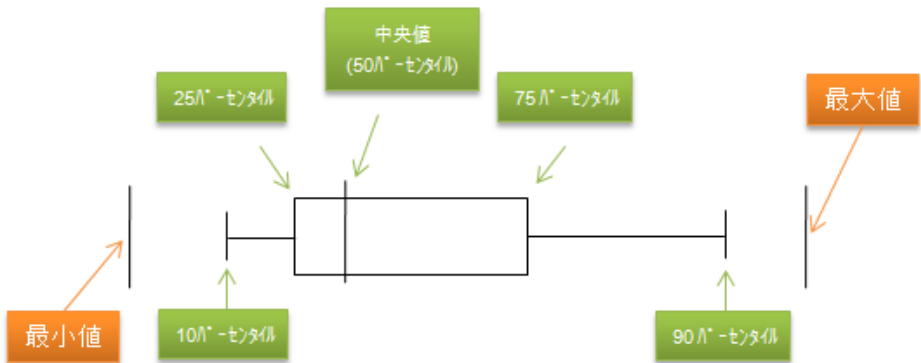
例)



# 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

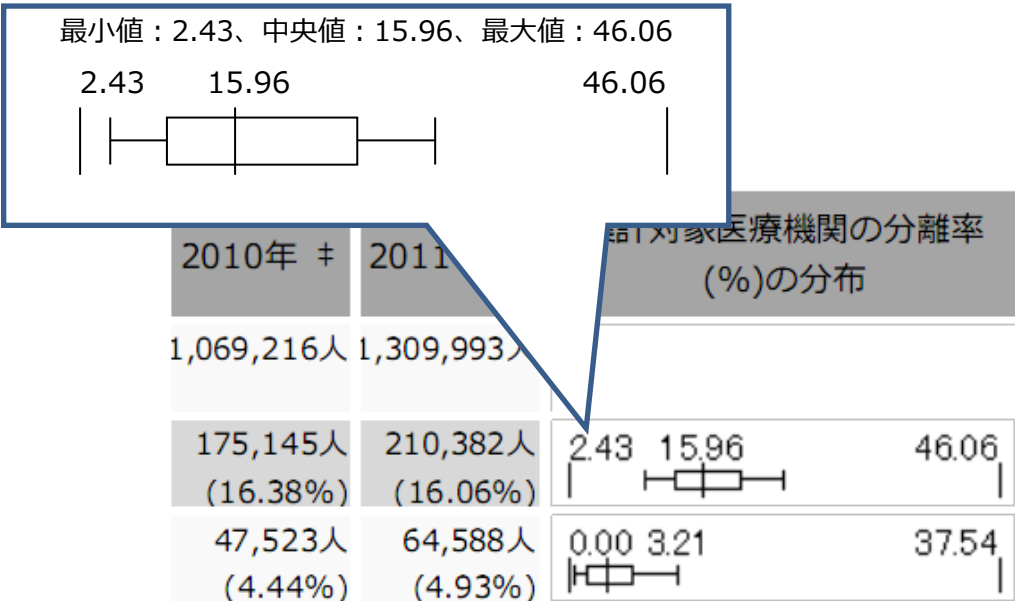
## 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

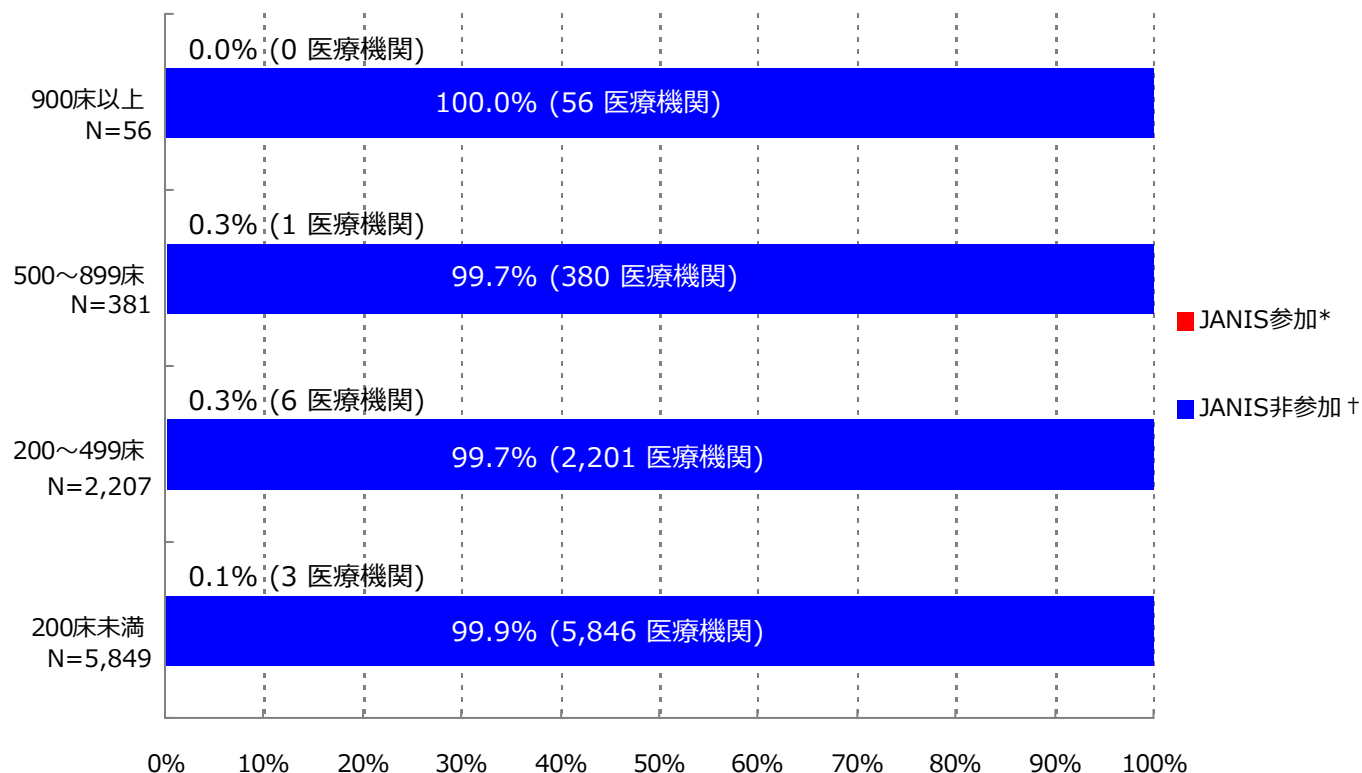


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

## 2. 公開情報の箱ひげ図



## 1. 集計対象医療機関数(10医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	1 ( 0.3% )
200～499床	2,207	6 ( 0.3% )
200床未満	5,849	3 ( 0.1% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	10 ( 0.1% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	10	2,507	1,620 (3,783)
尿検体	10	886	526 (824)
便検体	10	588	458 (1,189)
血液検体	10	2,520	443 (481)
髄液検体	9	89	9 (9)
その他	10	2,135	1,096 (1,904)
合計	10	8,725	4,152 (8,190)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

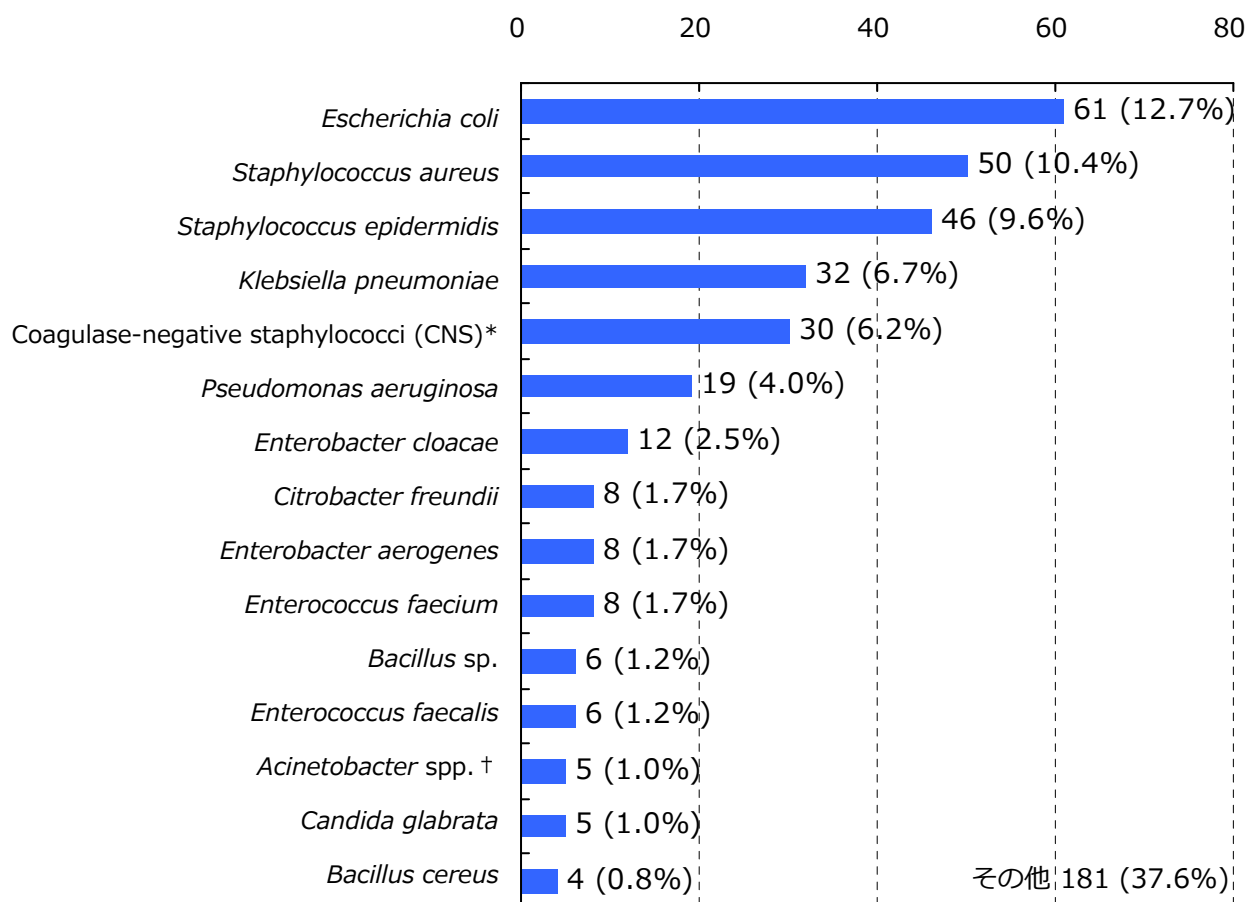
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=481)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

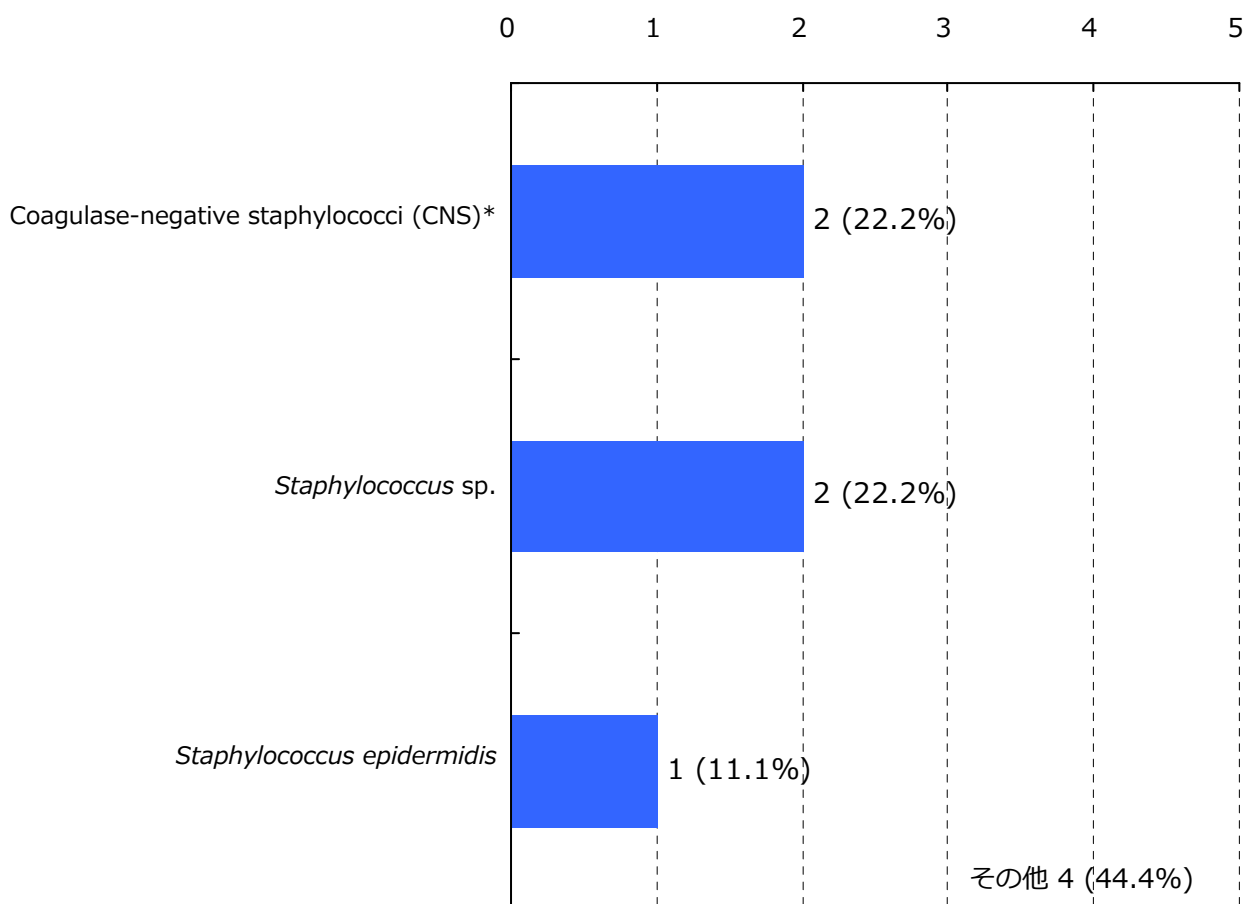
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=9)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

： JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 ‡	集計対象医療機関の 分離率 ¶ (%) の分布
検体提出患者数	3,529人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	211人 (5.98%)	4.41 6.12 9.02
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0人 (0.00%)	0.00
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	13人 (0.37%)	0.00 0.35 0.78
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	2人 (0.06%)	0.00 0.00 0.19
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	15人 (0.43%)	0.00 0.14 1.34
カルバペネム耐性緑膿菌	19人 (0.54%)	0.00 0.70 1.30
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	7人 (0.20%)	0.00 0.08 0.78
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	59人 (1.67%)	0.00 1.61 5.19
フルオロキノロン耐性大腸菌	121人 (3.43%)	0.00 3.69 7.79

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

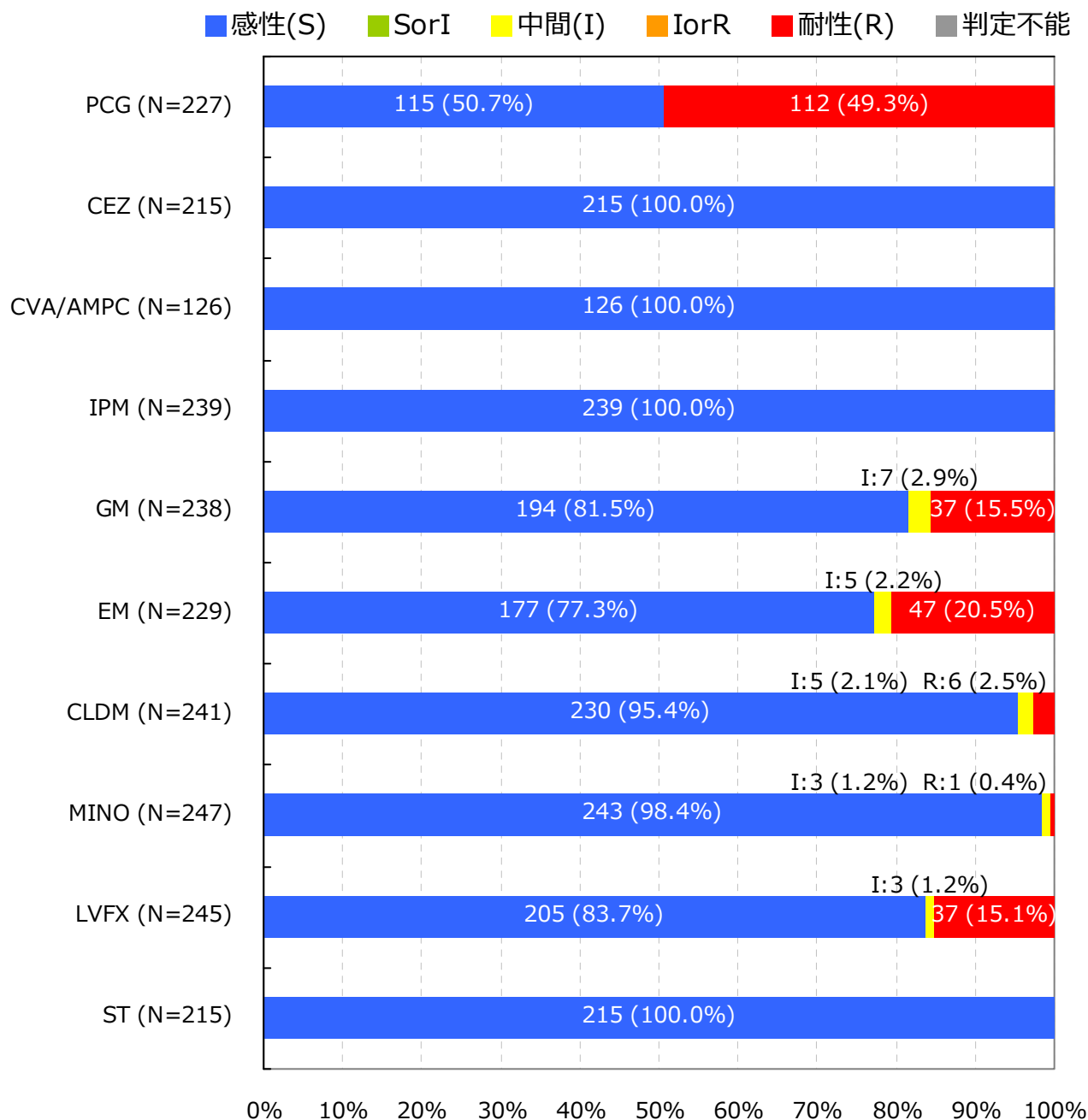
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

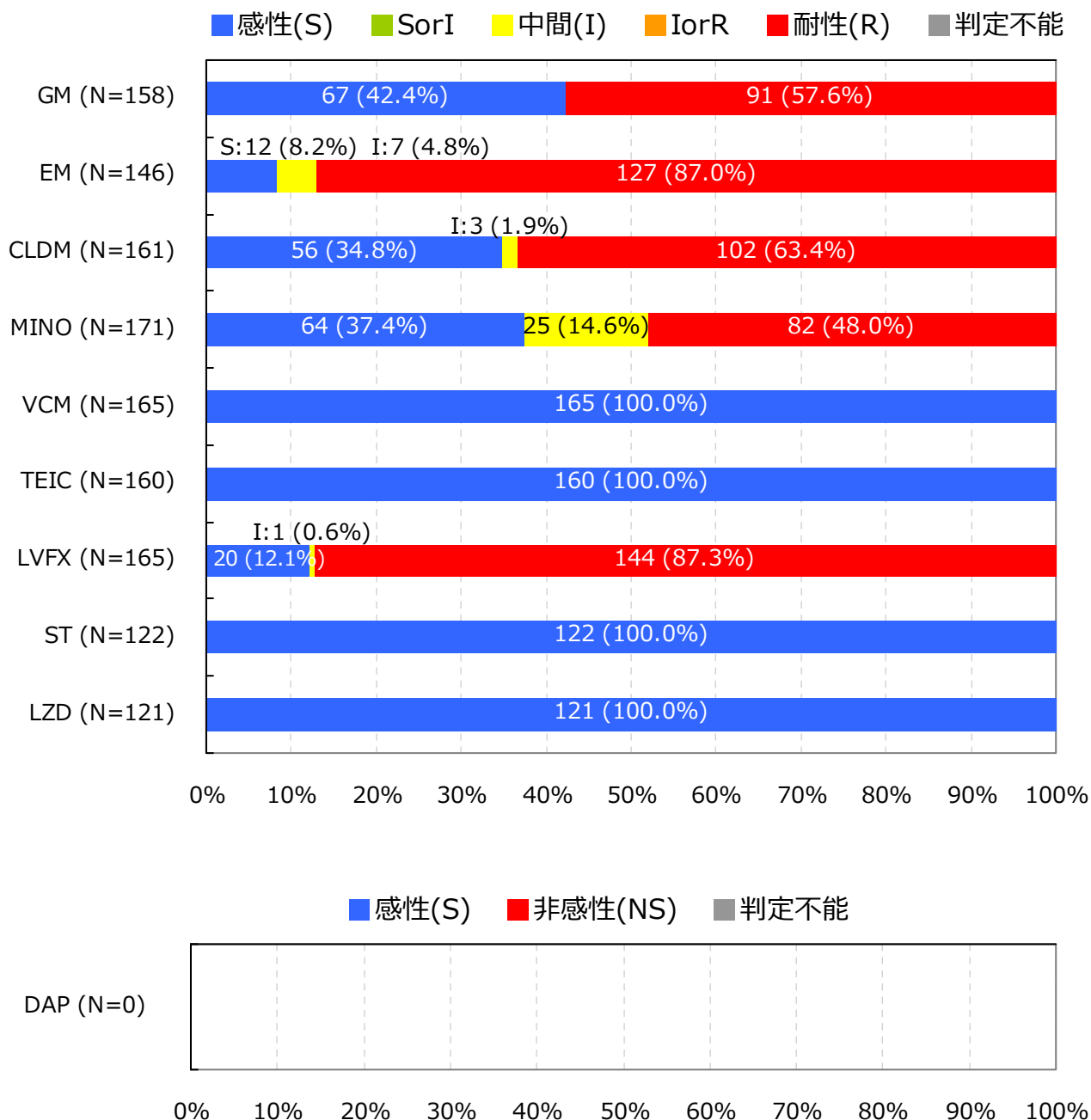
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

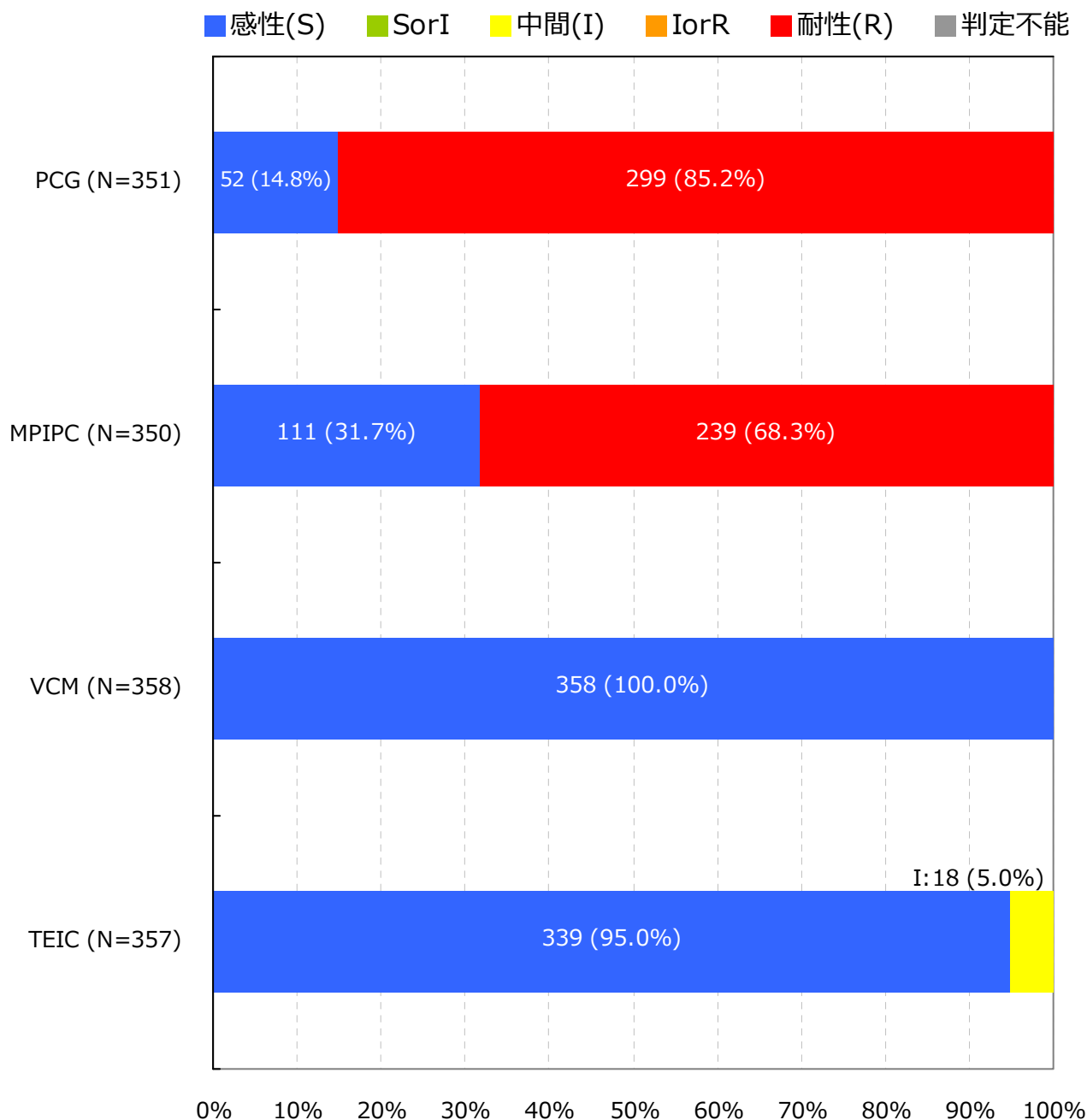
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

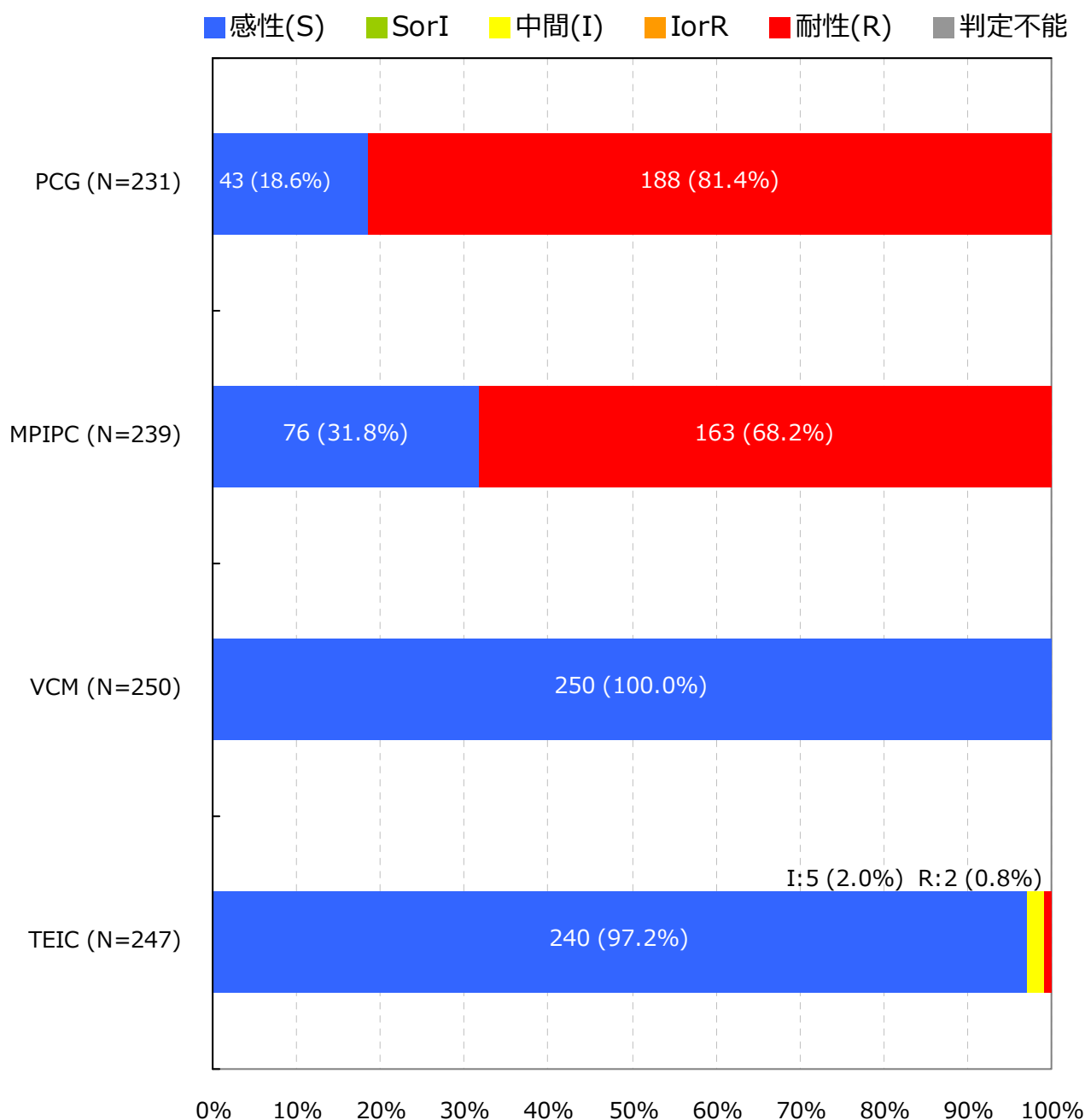
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



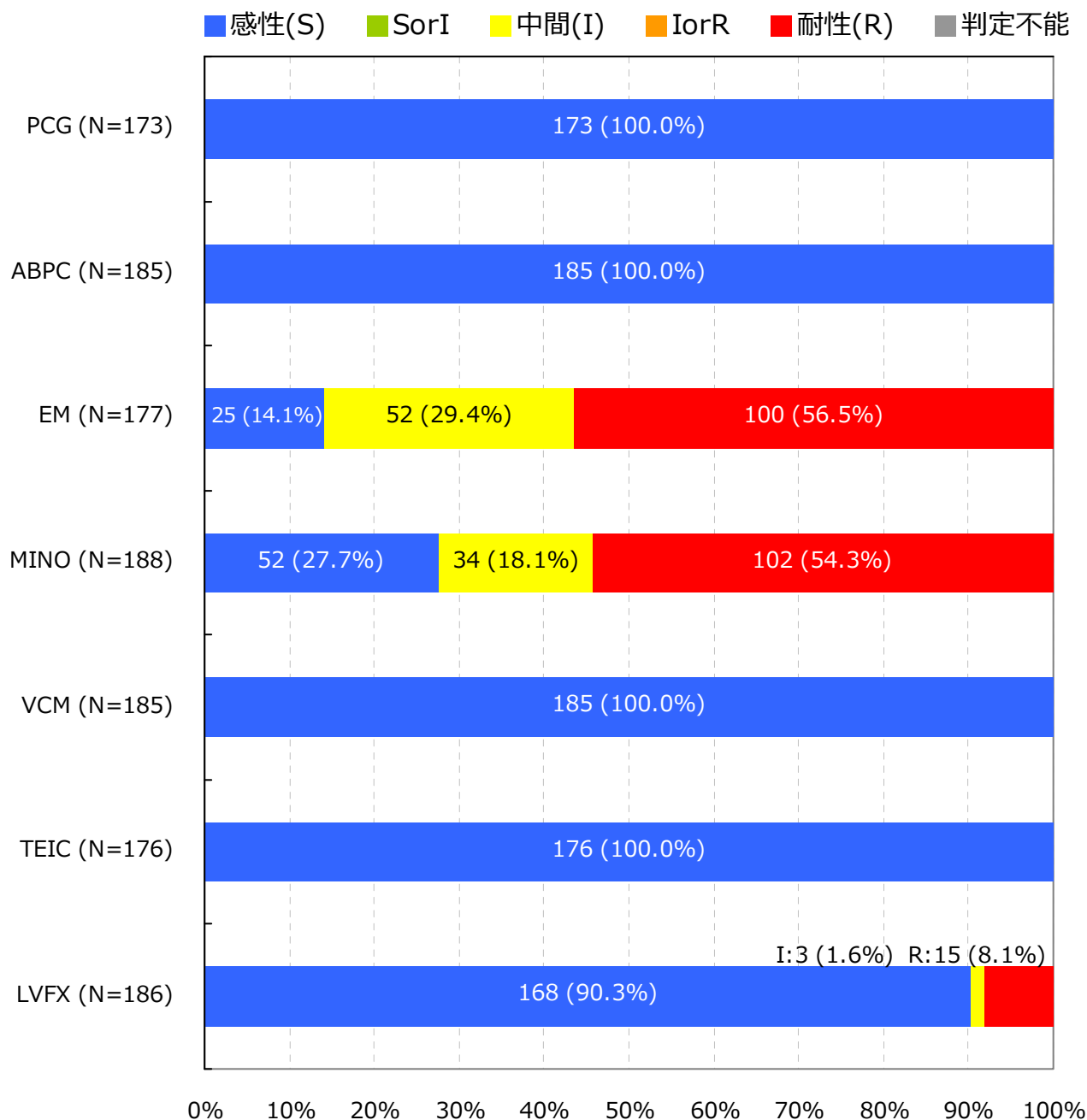
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312: *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

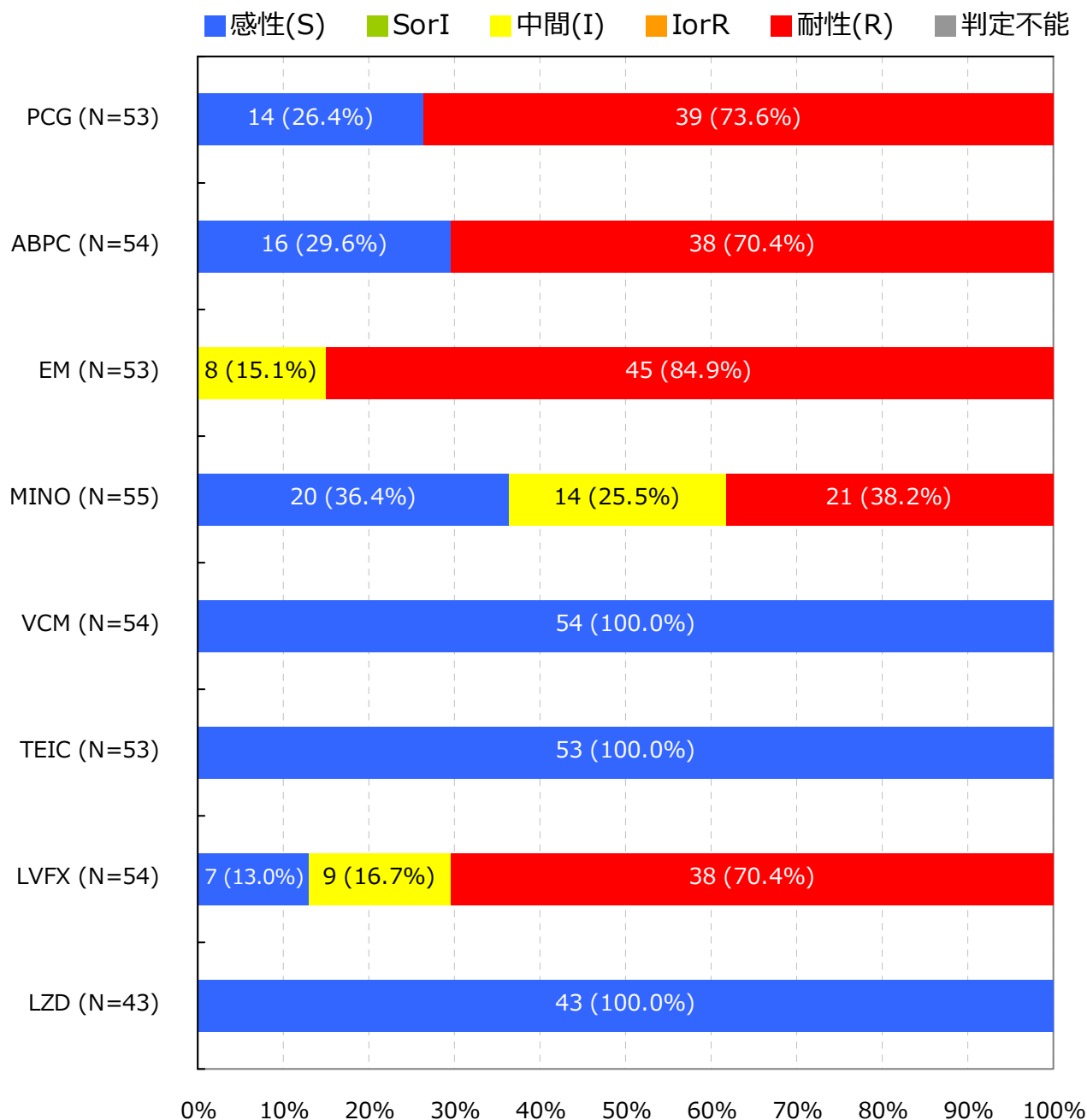
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(徳島県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

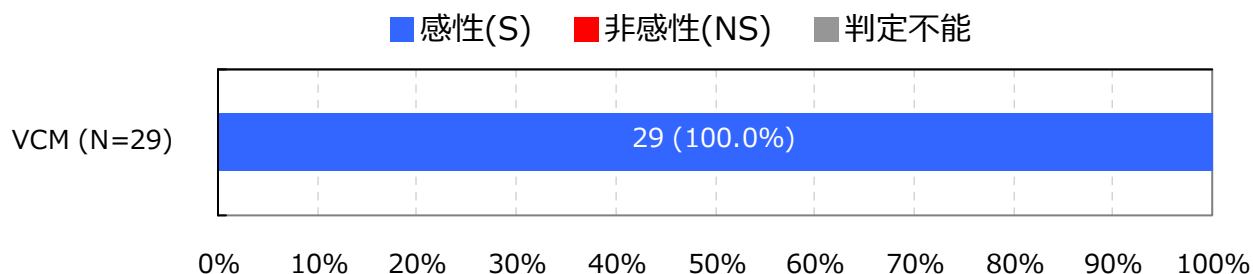
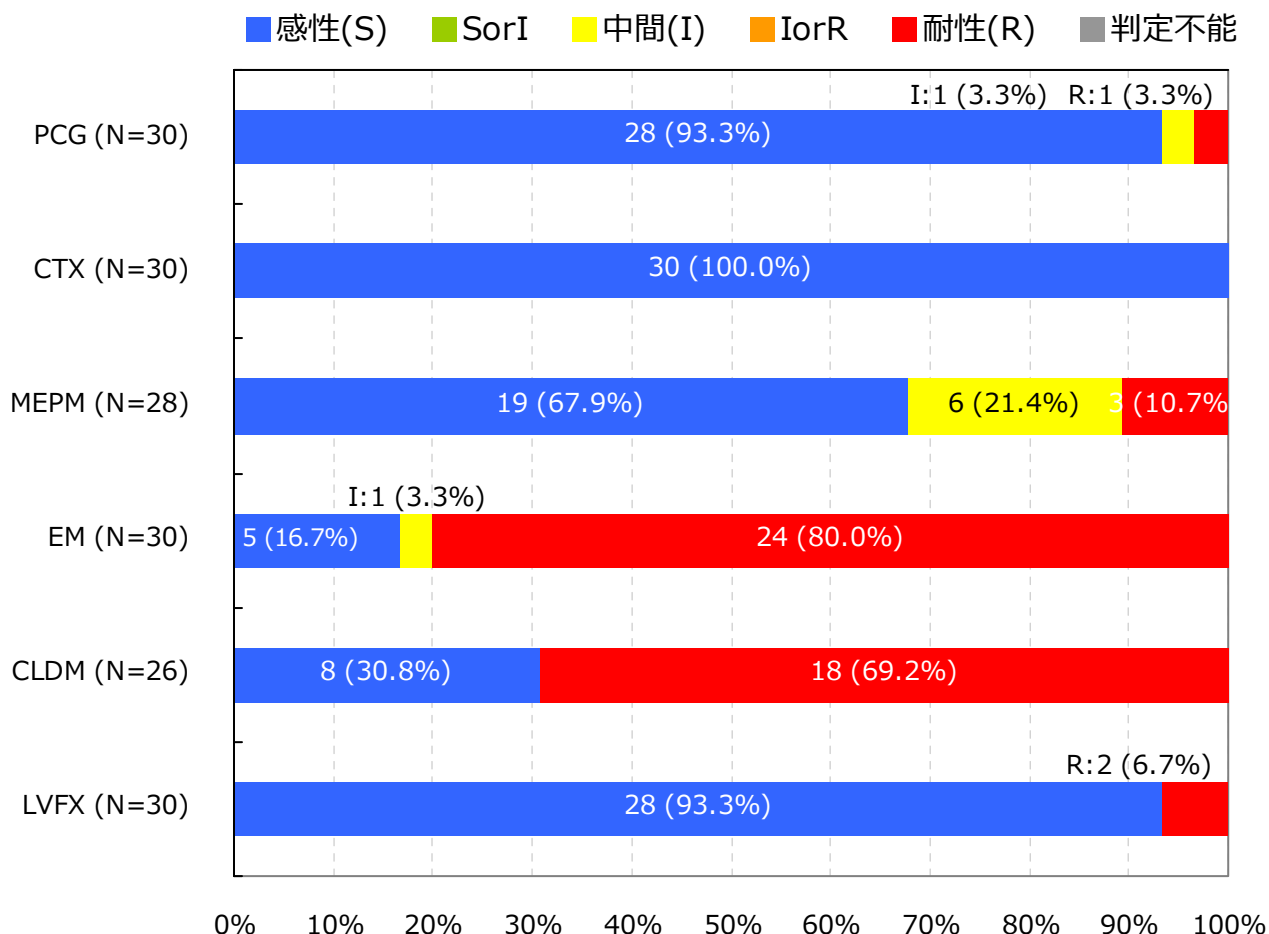
報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

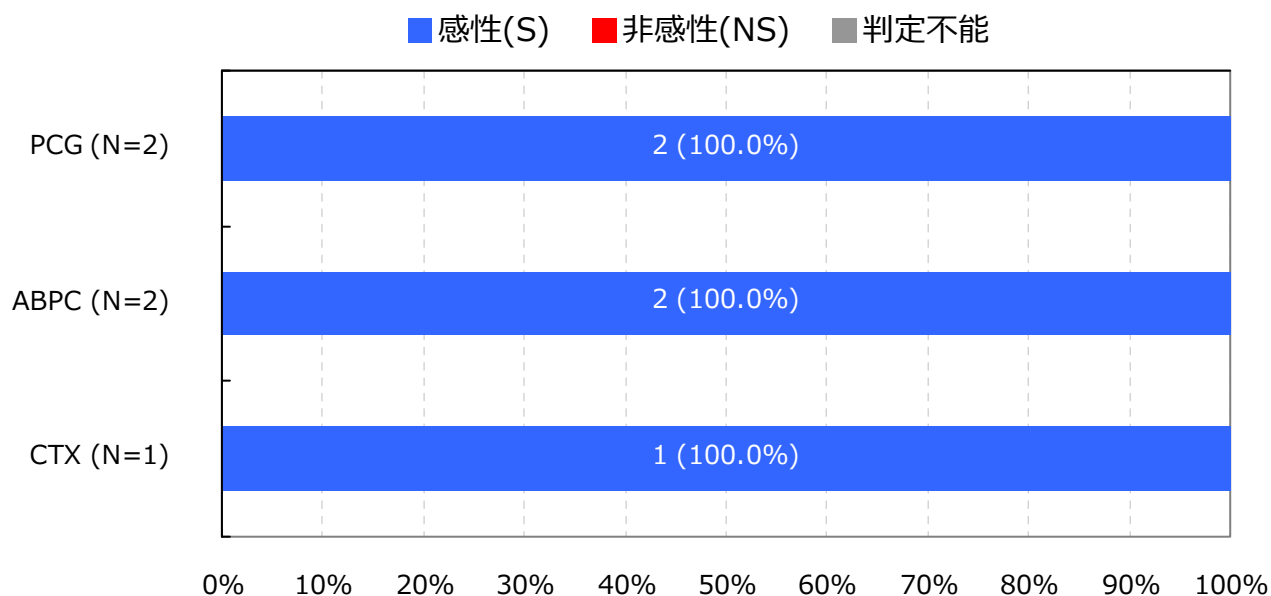
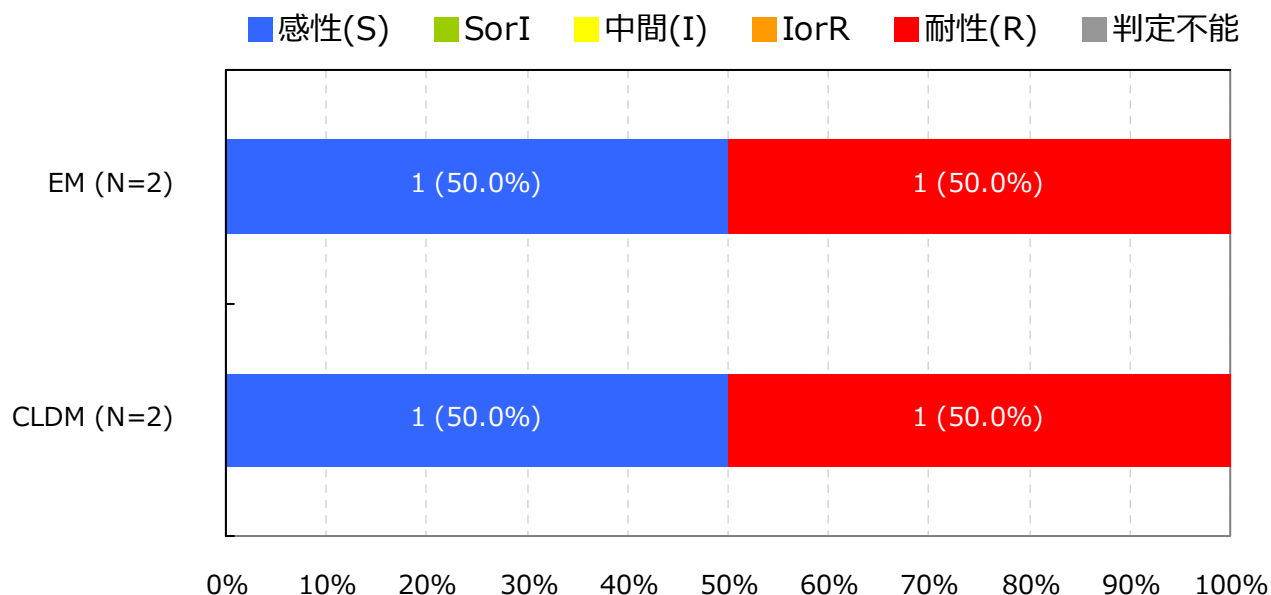
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

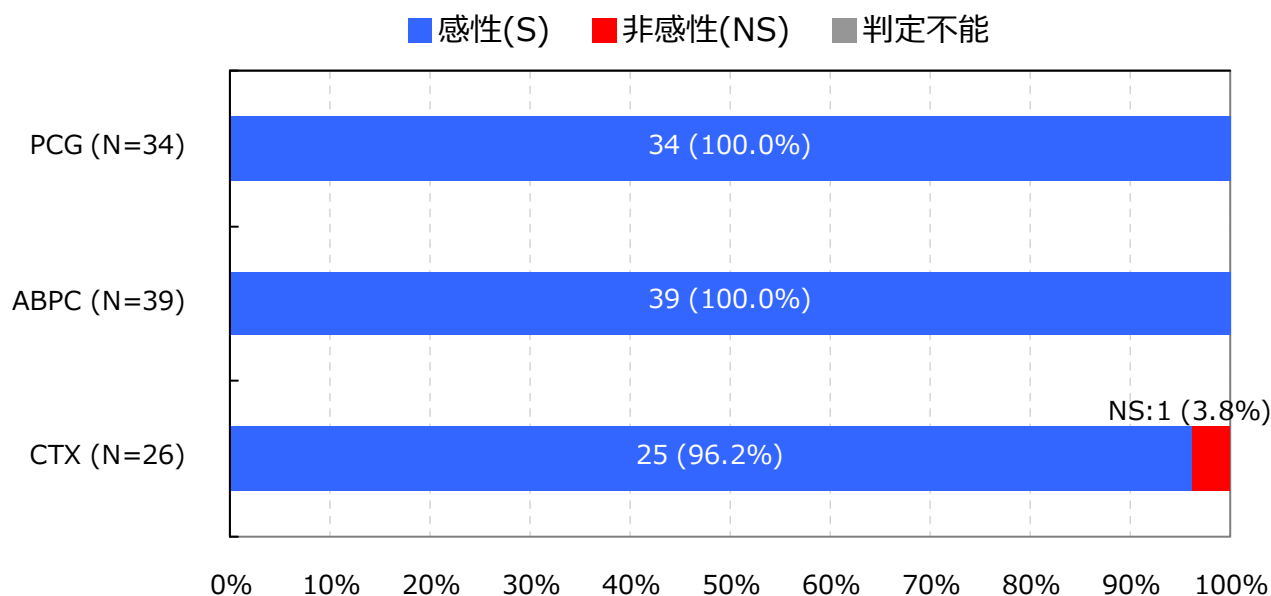
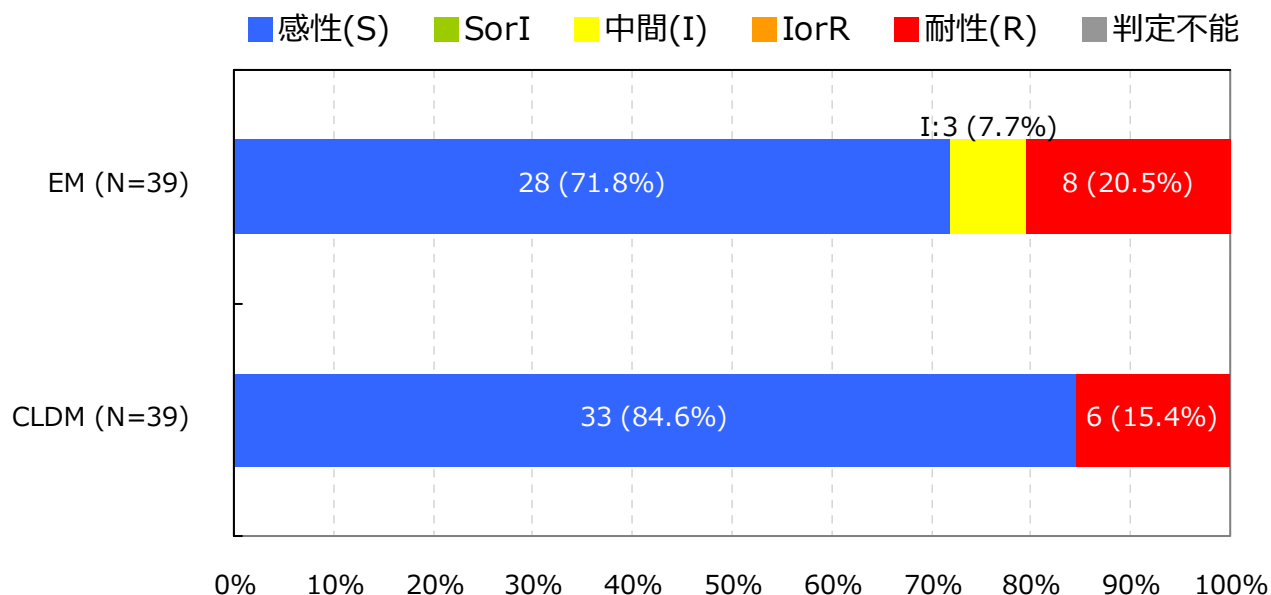
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

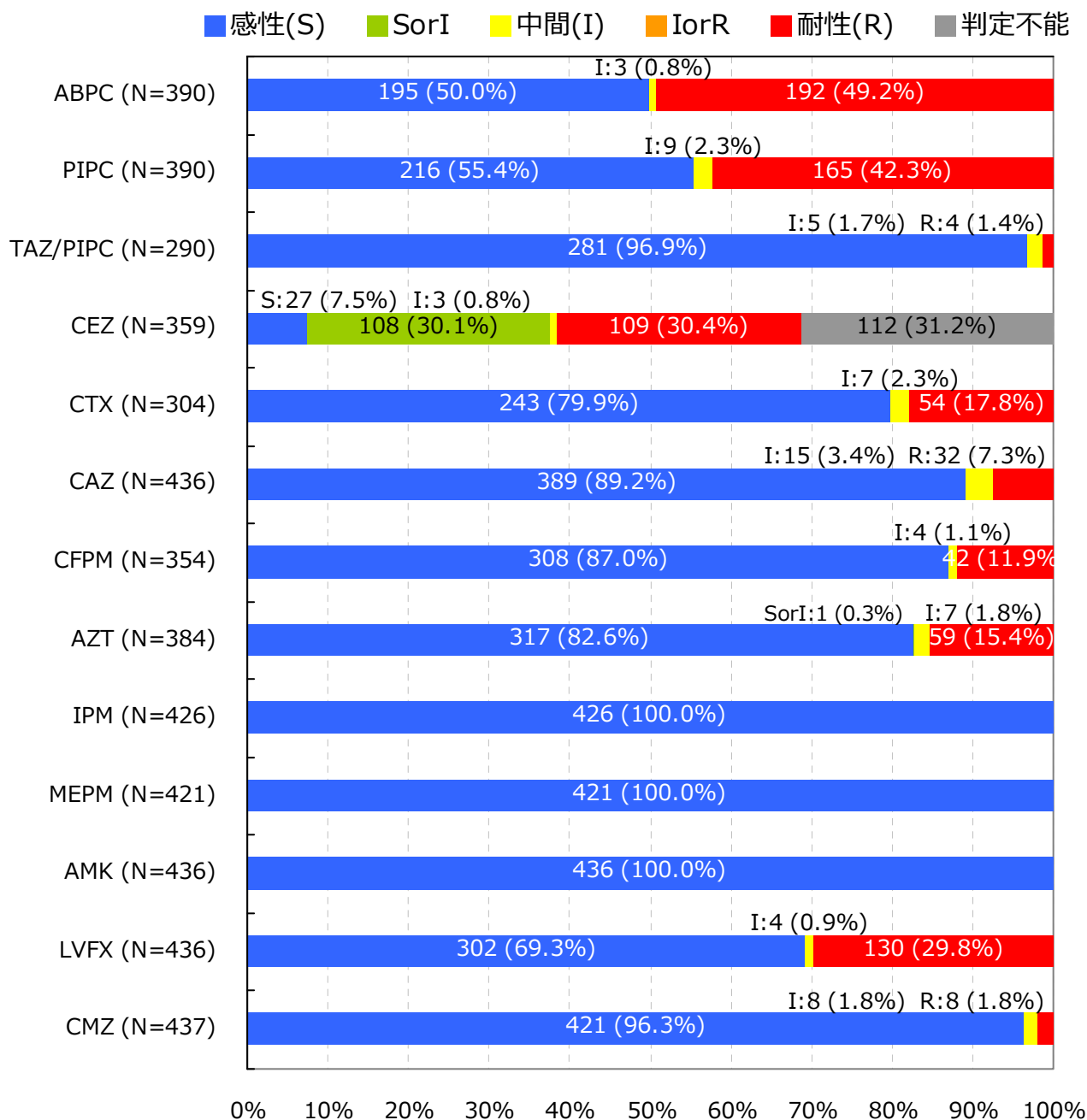
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

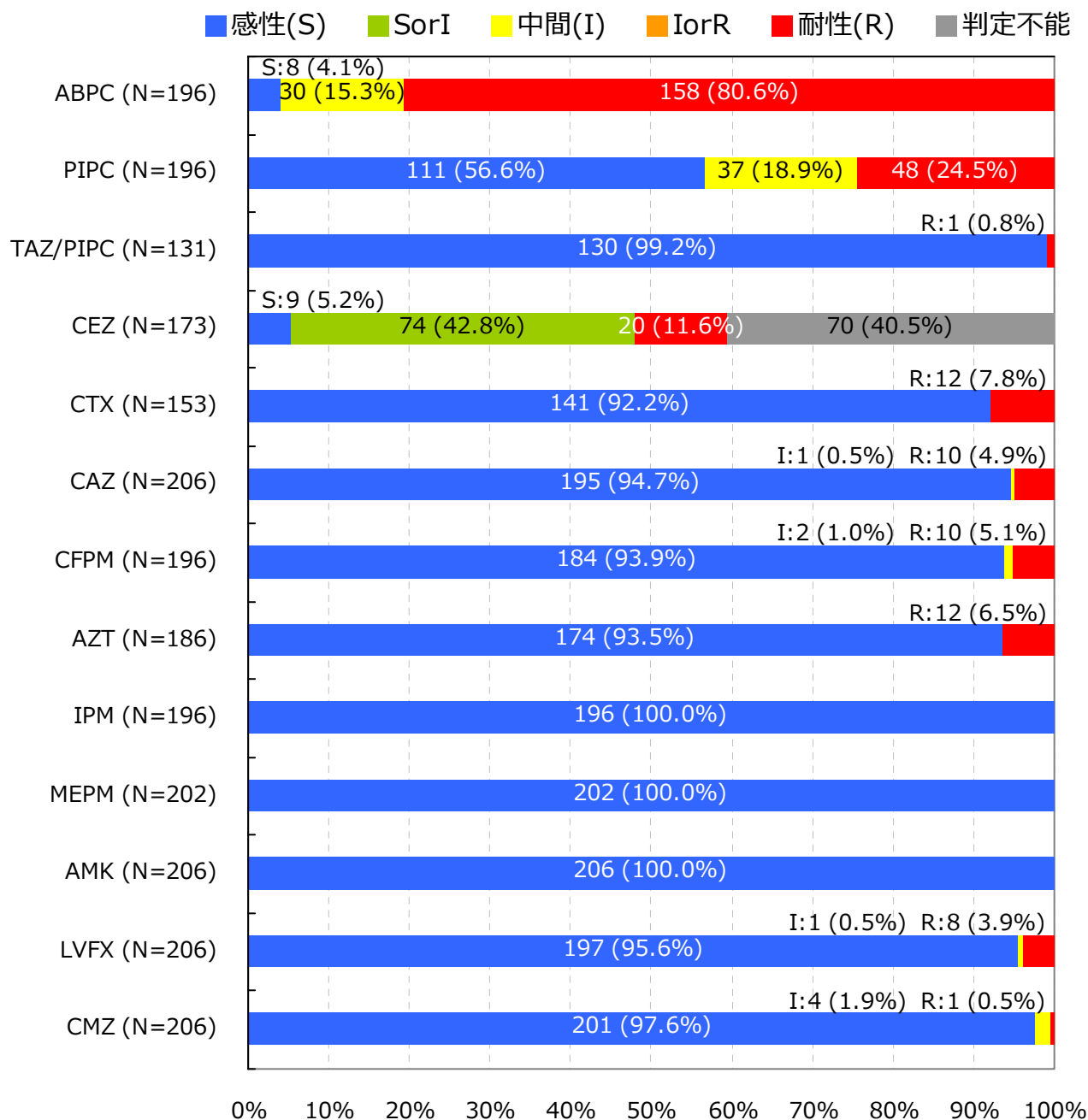
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

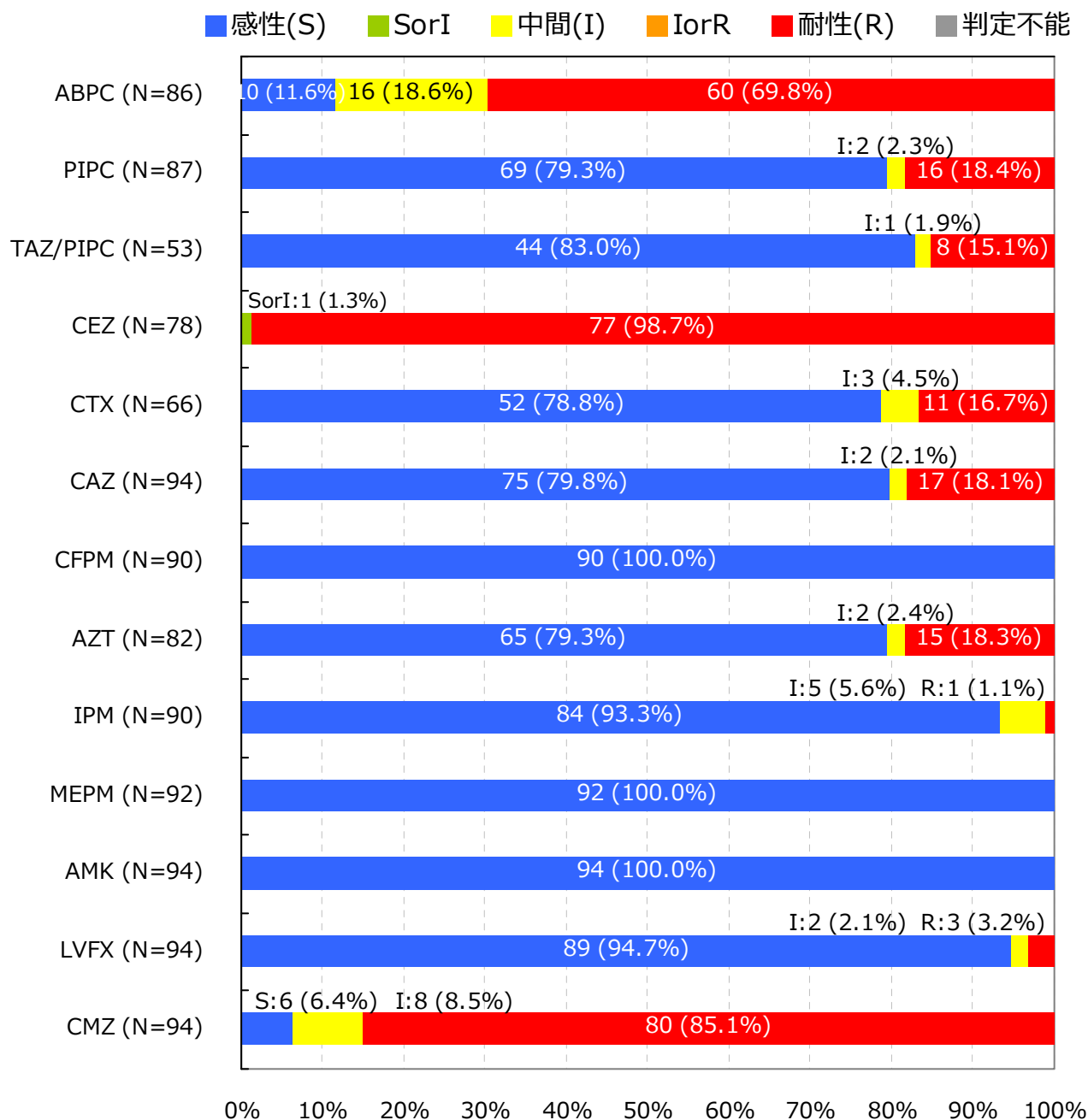
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

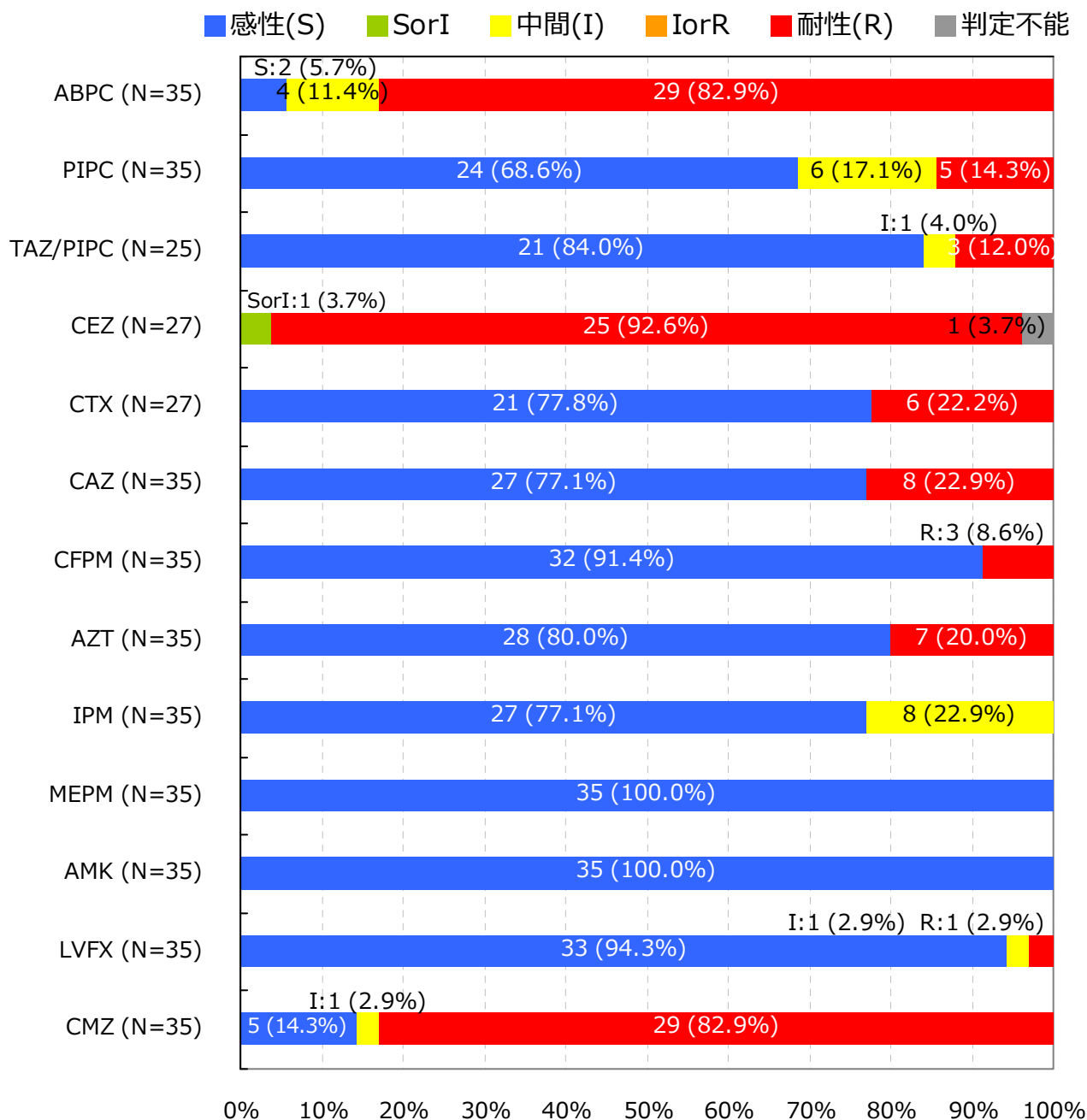
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

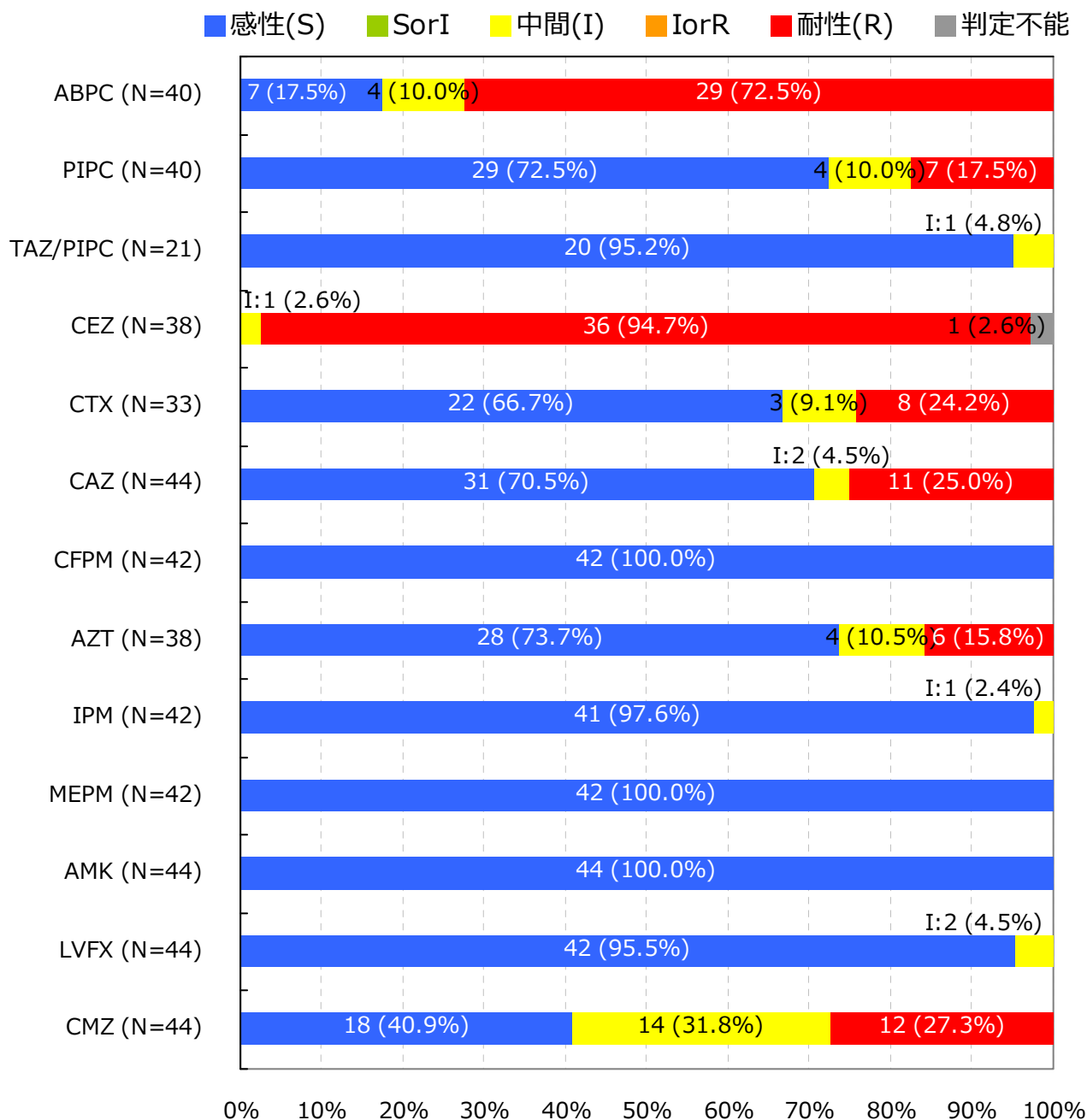
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

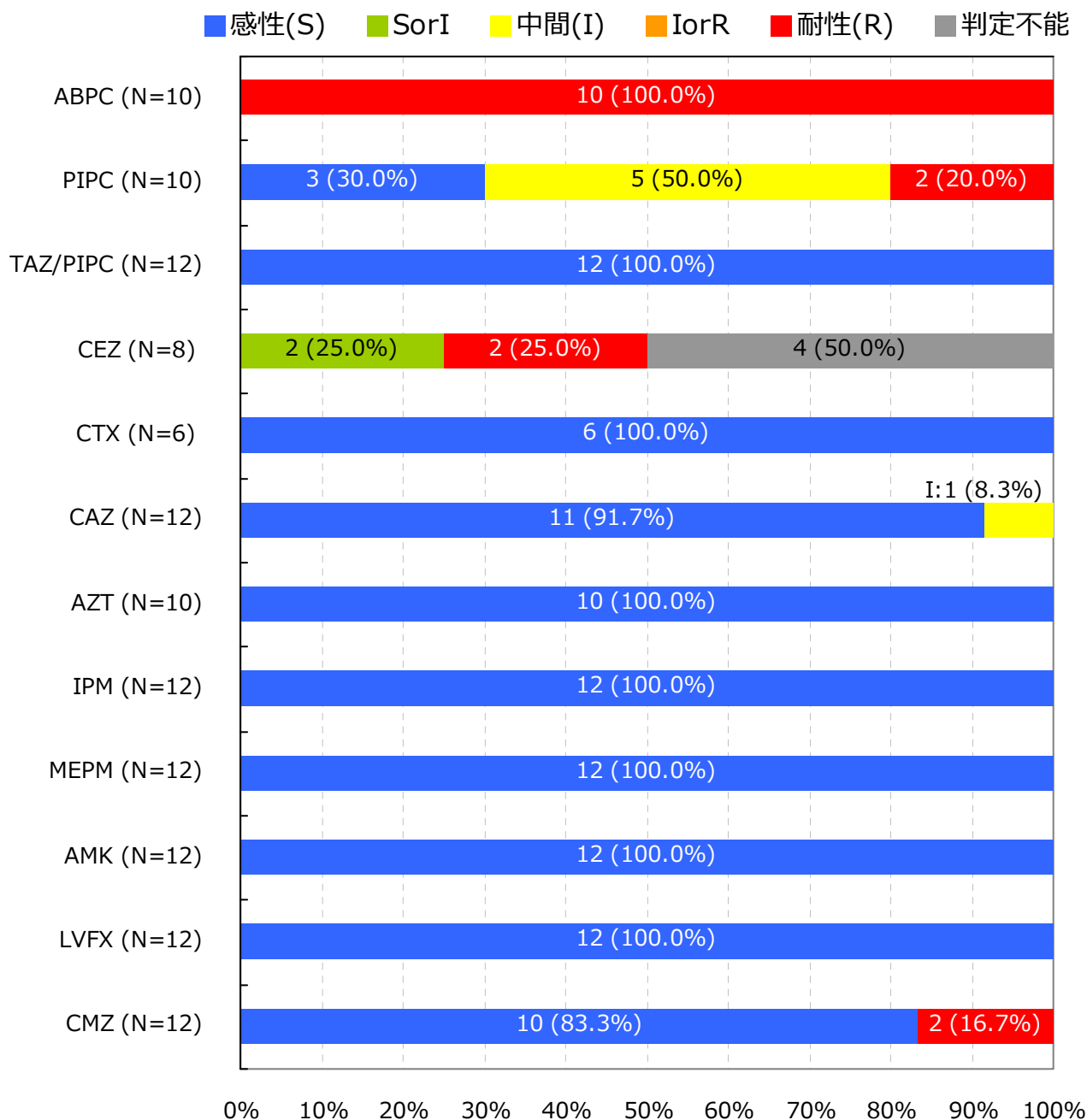
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

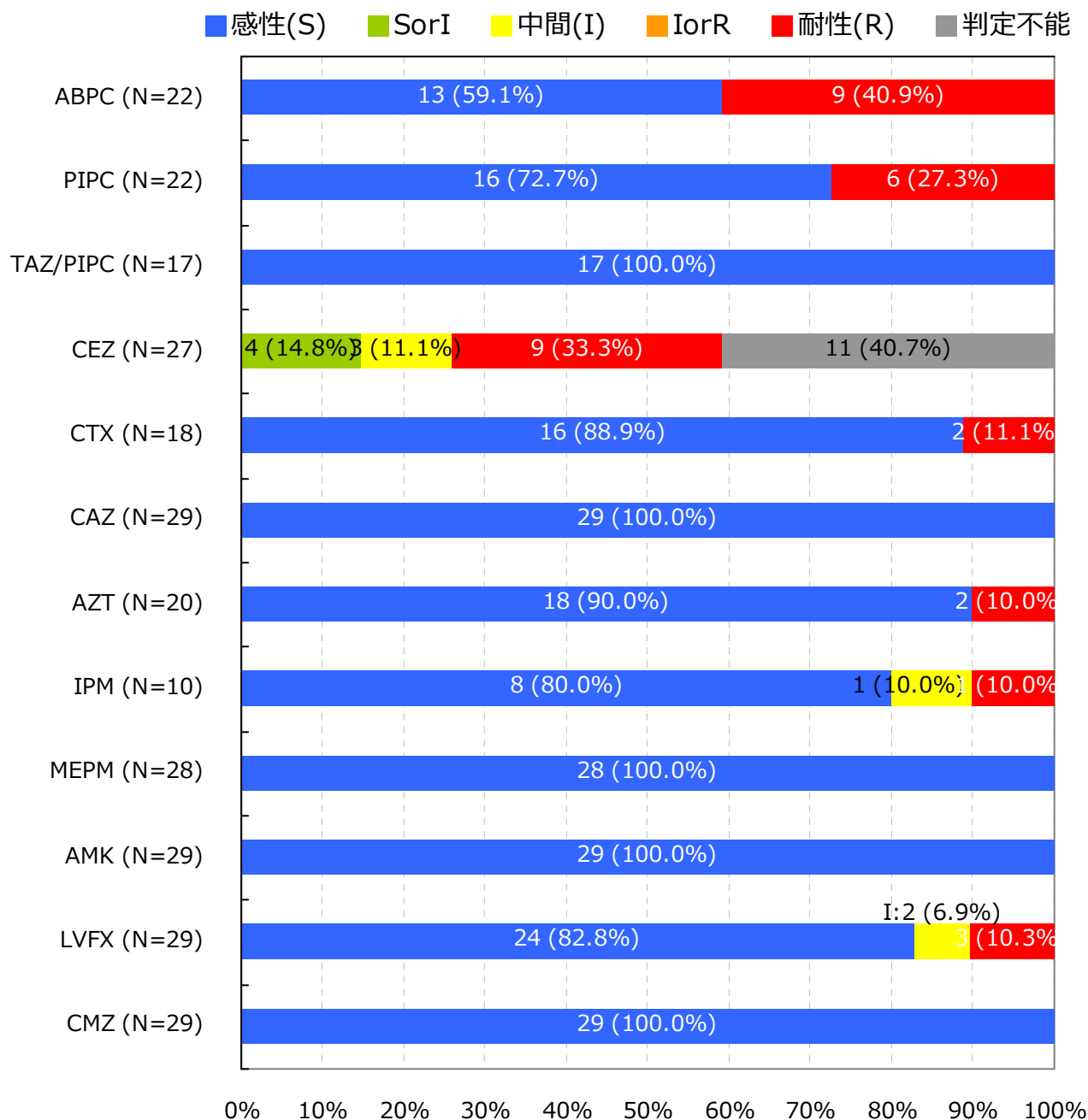
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

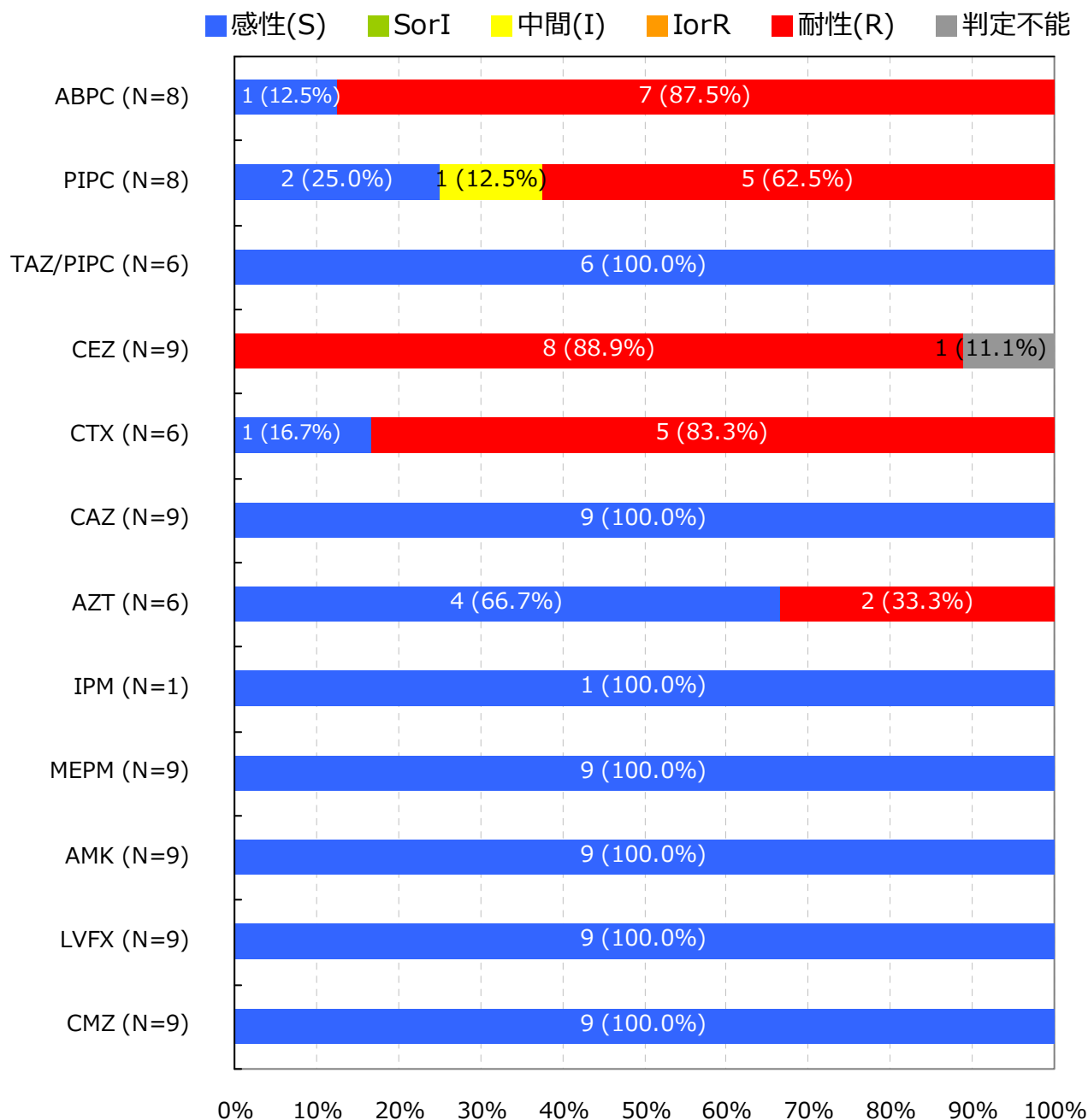
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

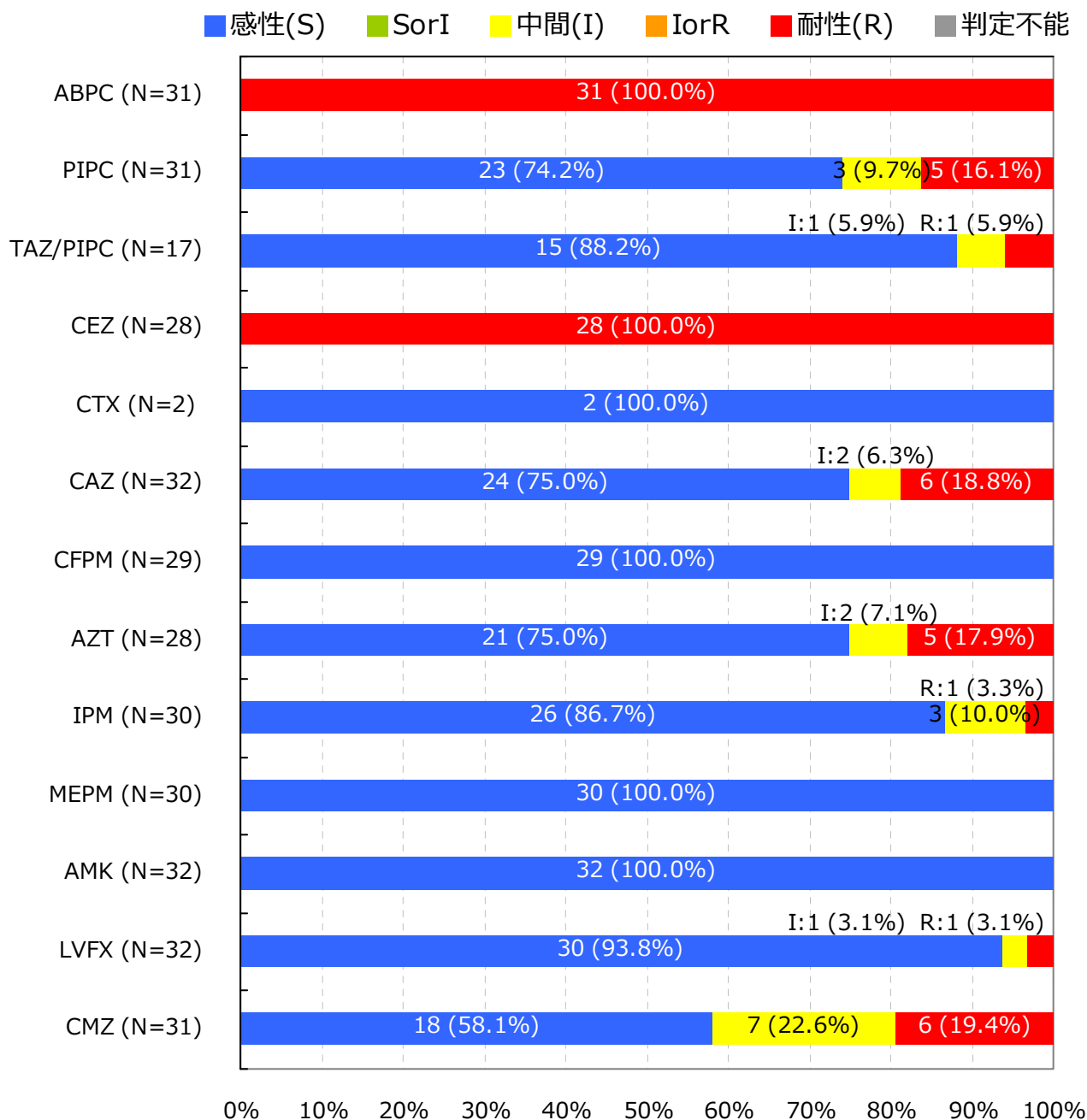
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

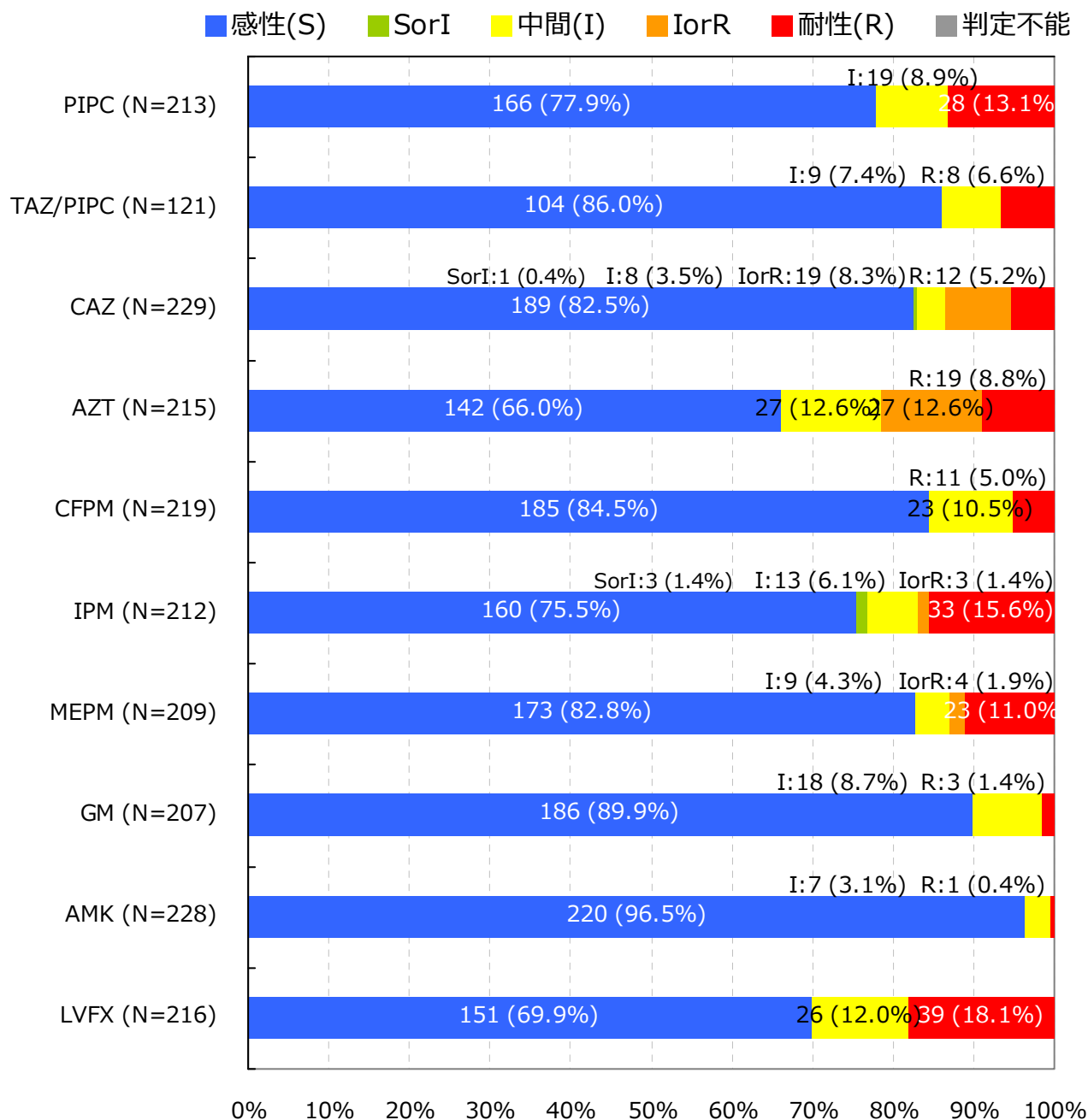
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

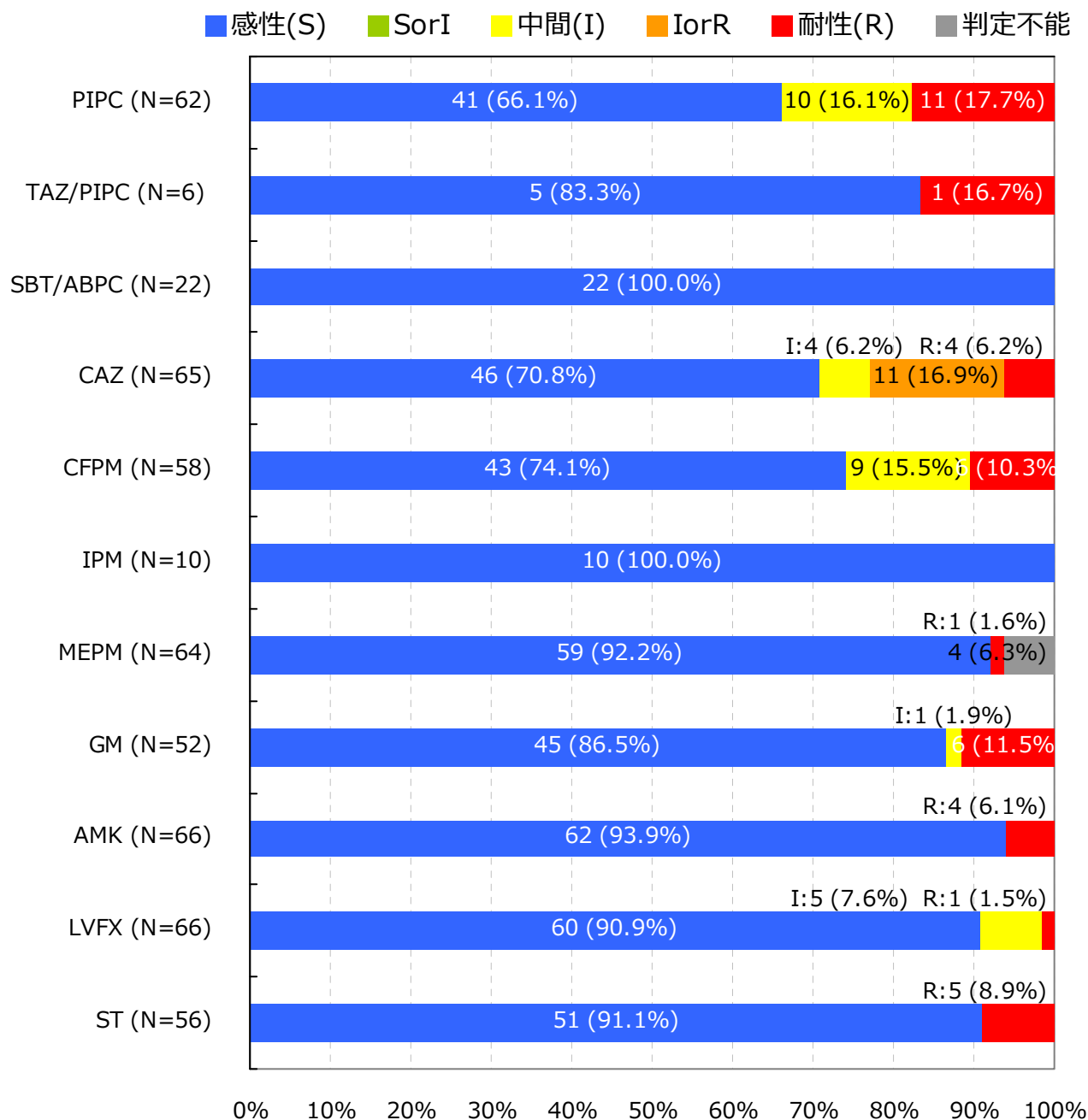
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

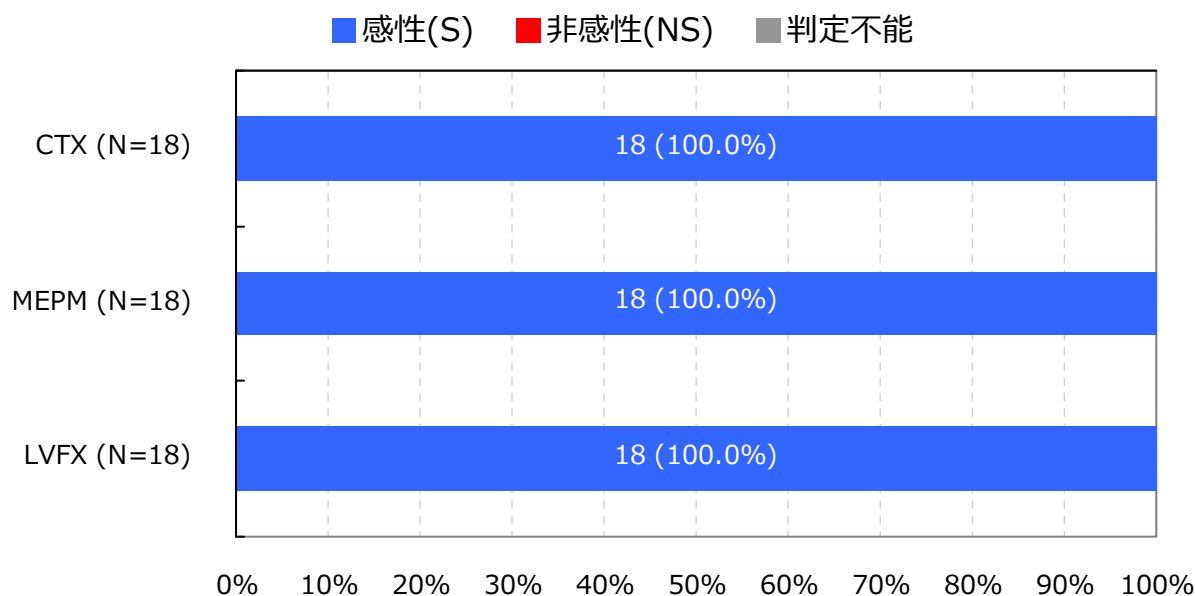
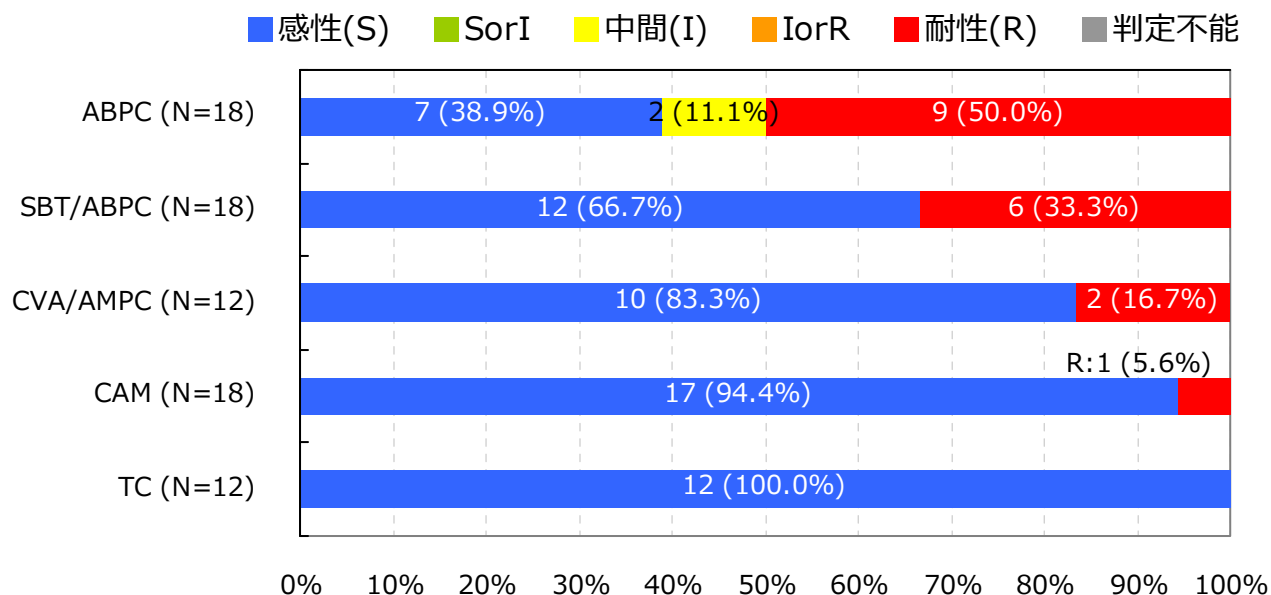
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

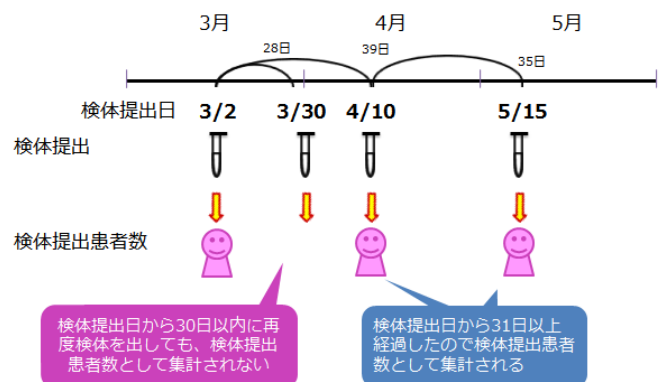
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

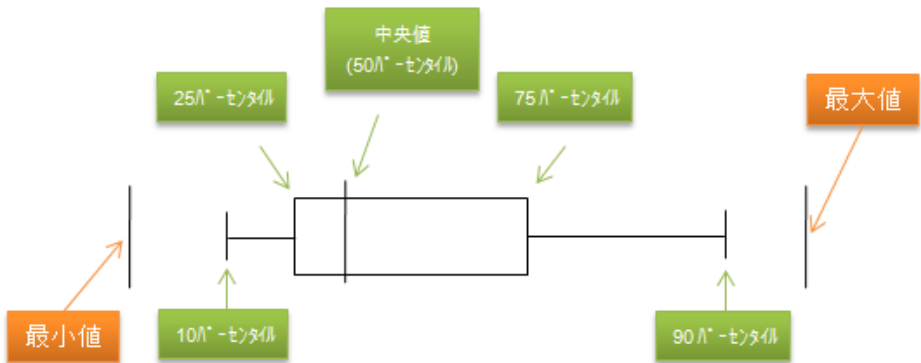
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

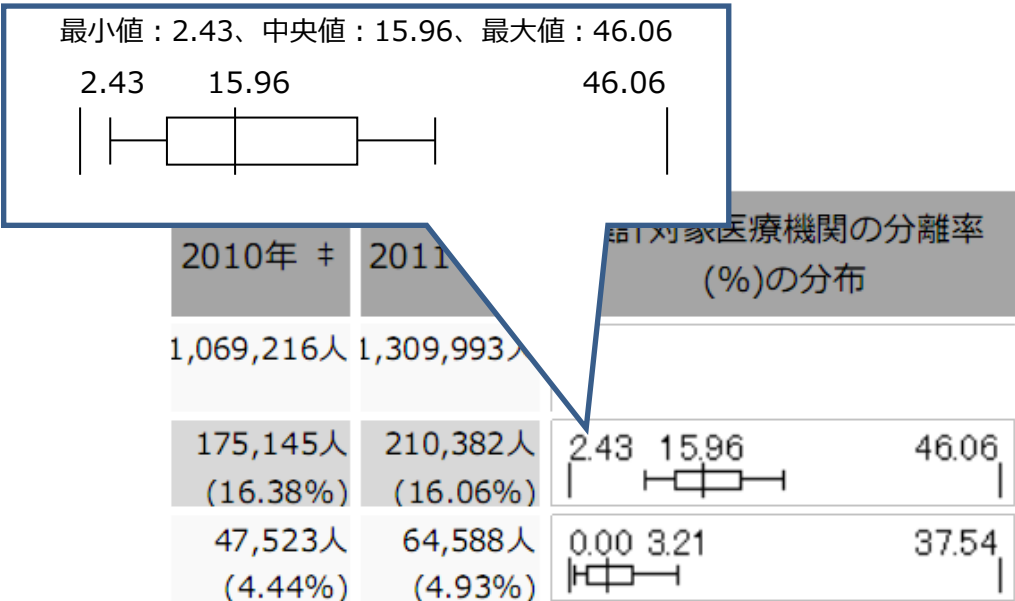
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



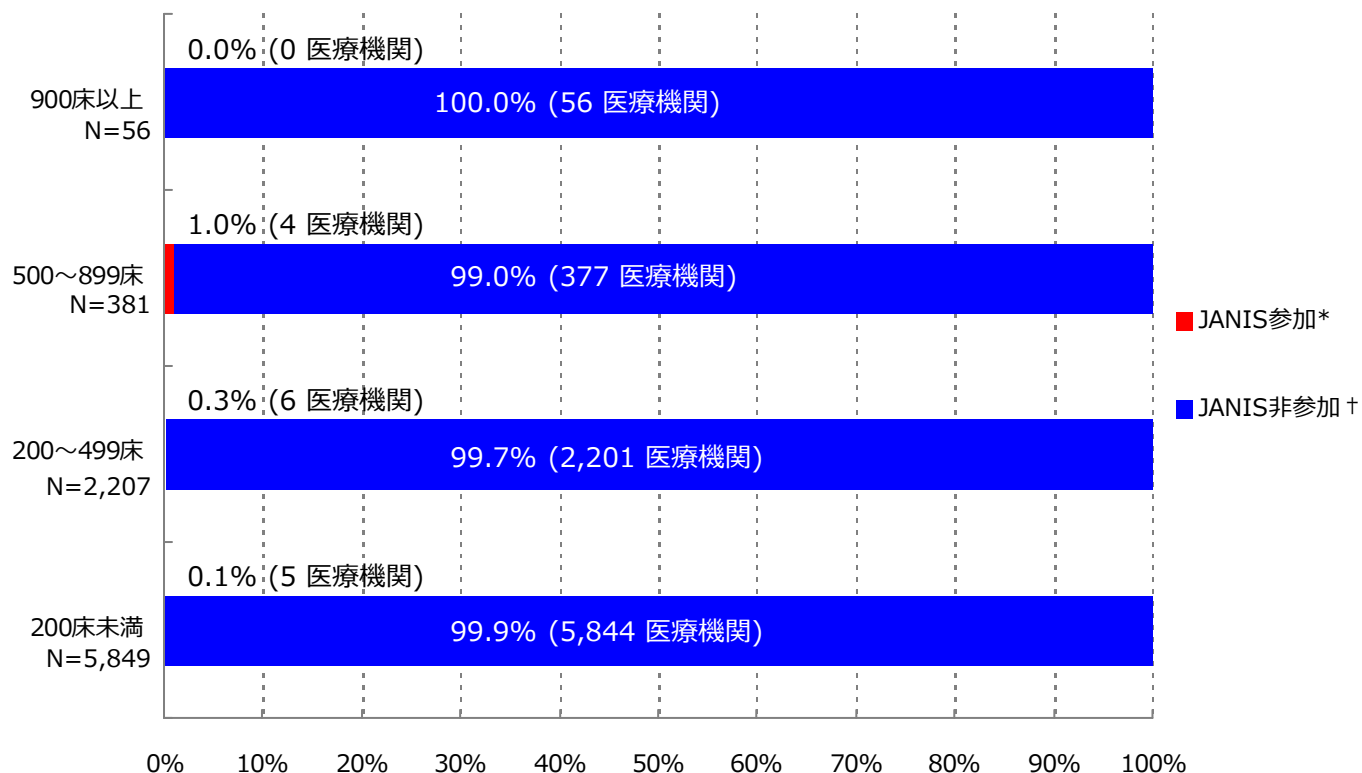
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図





## 1. 集計対象医療機関数(15医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	4 ( 1.0% )
200～499床	2,207	6 ( 0.3% )
200床未満	5,849	5 ( 0.1% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	15 ( 0.2% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	15	5,666	3,165 (5,535)
尿検体	15	2,555	1,243 (1,904)
便検体	15	1,361	757 (1,413)
血液検体	15	5,729	664 (730)
髄液検体	11	164	6 (7)
その他	15	3,285	1,415 (2,534)
合計	15	18,760	7,250 (12,123)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

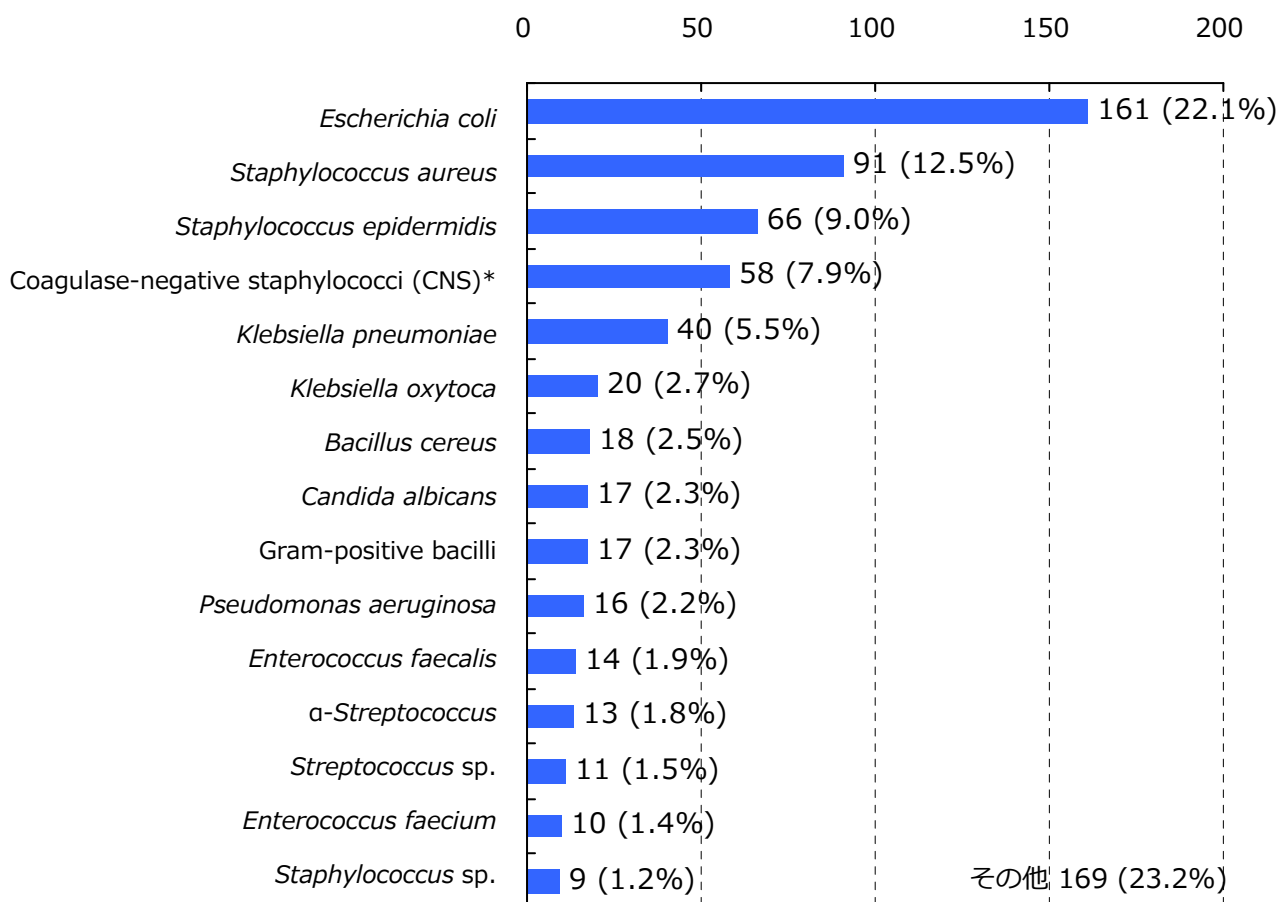
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=730)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

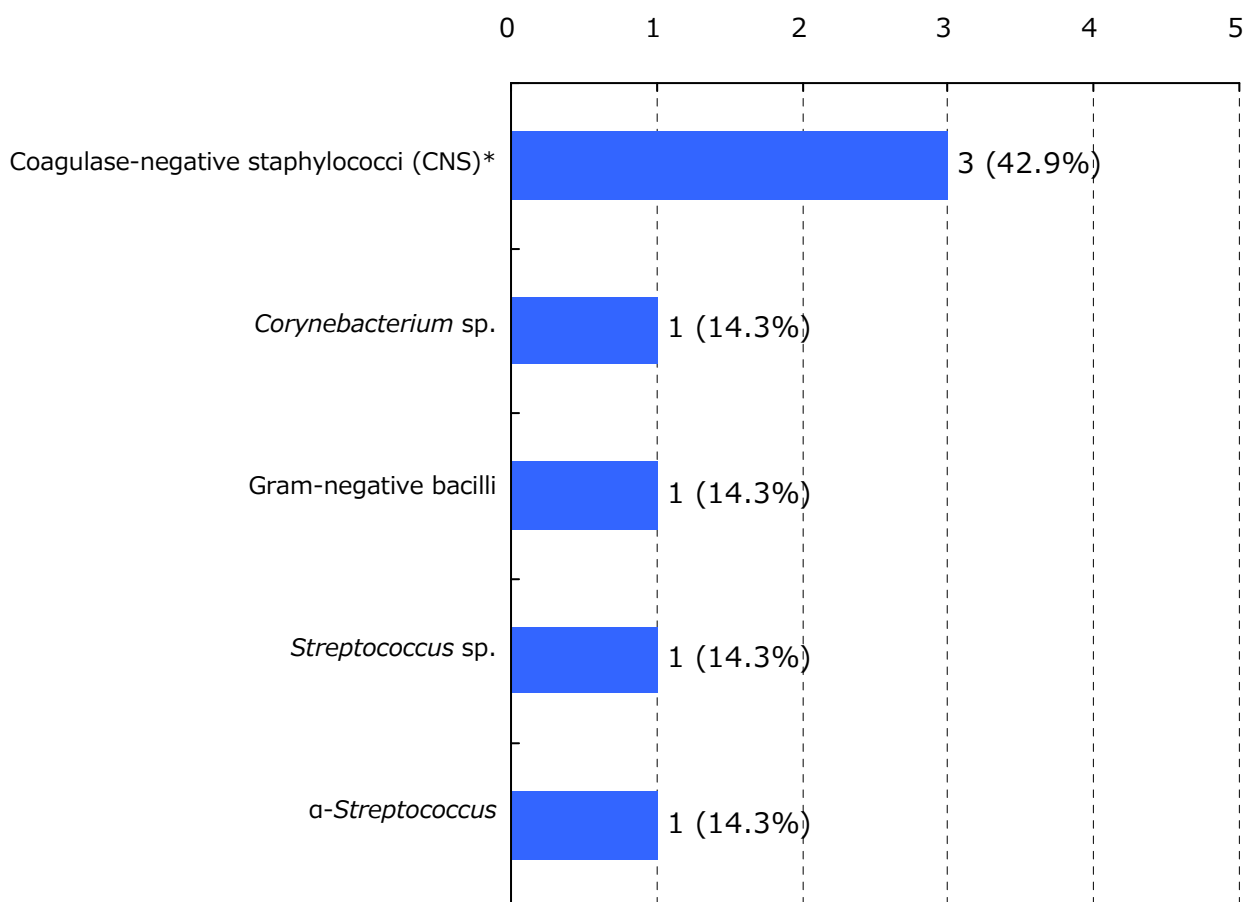
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 髄液検体分離菌 (N=7)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

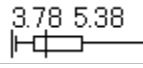


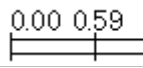


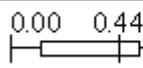
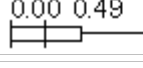
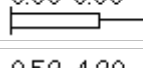
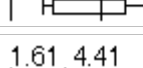

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率‡	集計対象医療機関の 分離率¶(%)の分布
検体提出患者数	6,759人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	442人 (6.54%)	3.78 5.38 19.46 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0人 (0.00%)	0.00 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	66人 (0.98%)	0.00 0.59 2.42 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	6人 (0.09%)	0.00 0.00 1.57 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	30人 (0.44%)	0.00 0.44 1.40 
カルバペネム耐性緑膿菌	54人 (0.80%)	0.00 0.49 4.86 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	24人 (0.36%)	0.00 0.00 0.96 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	241人 (3.57%)	0.52 4.20 14.59 
フルオロキノロン耐性大腸菌	322人 (4.76%)	1.61 4.41 19.46 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

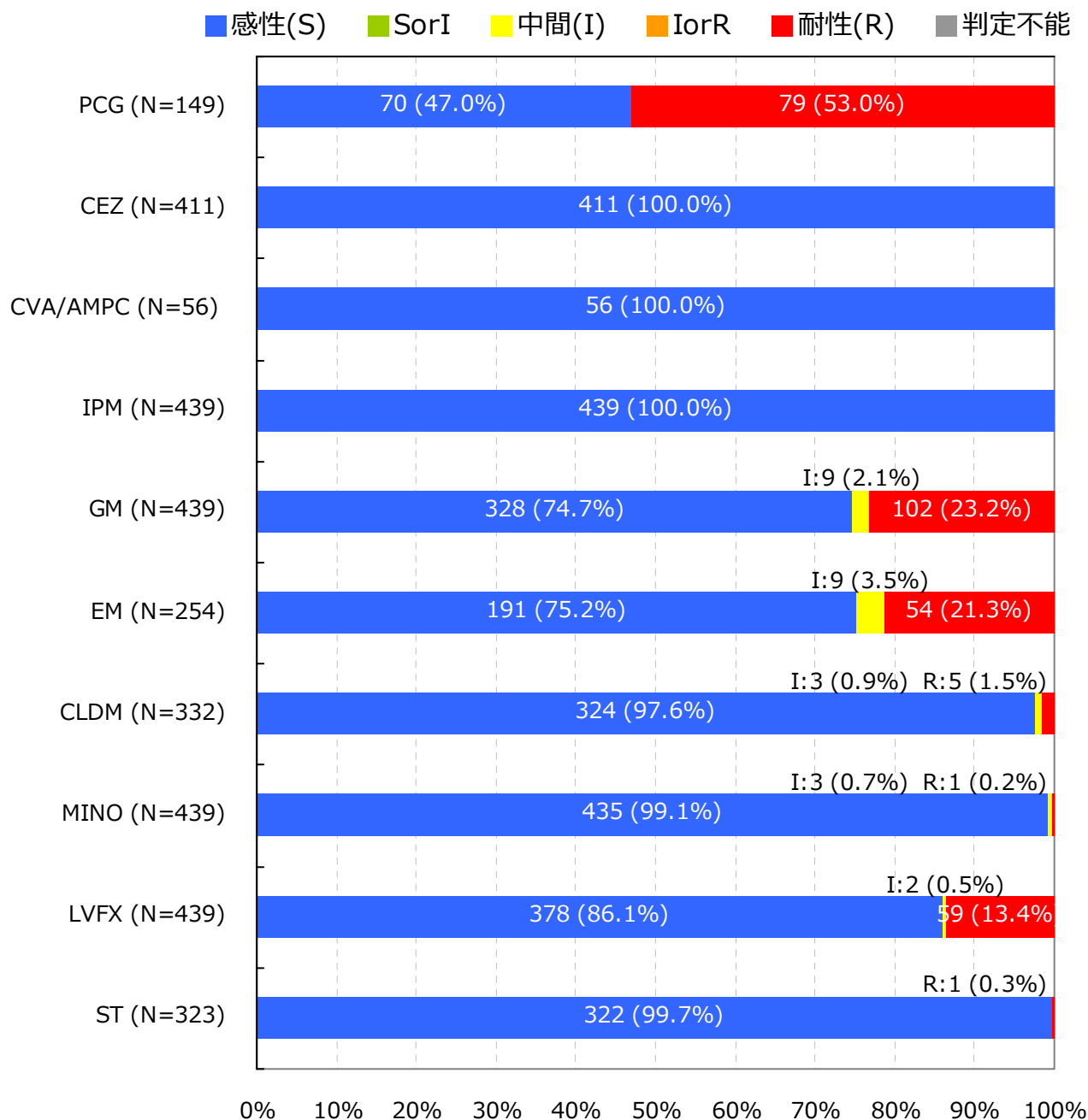
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

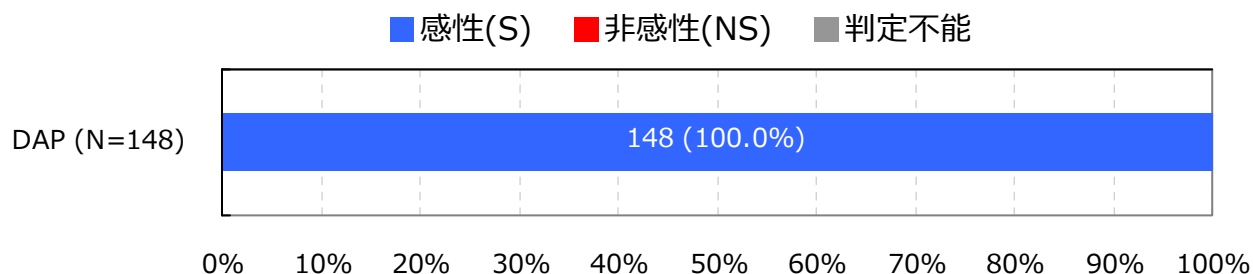
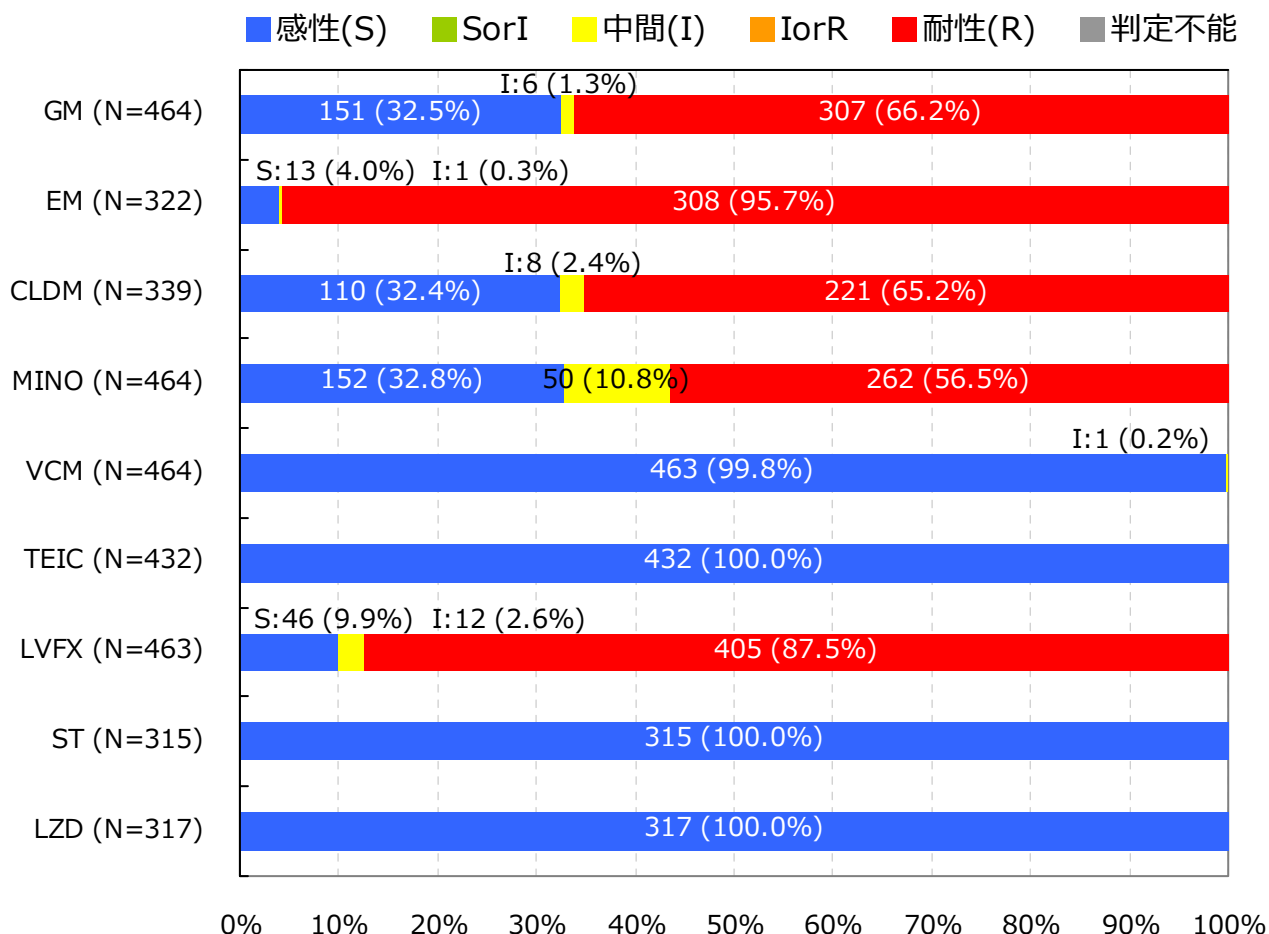
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

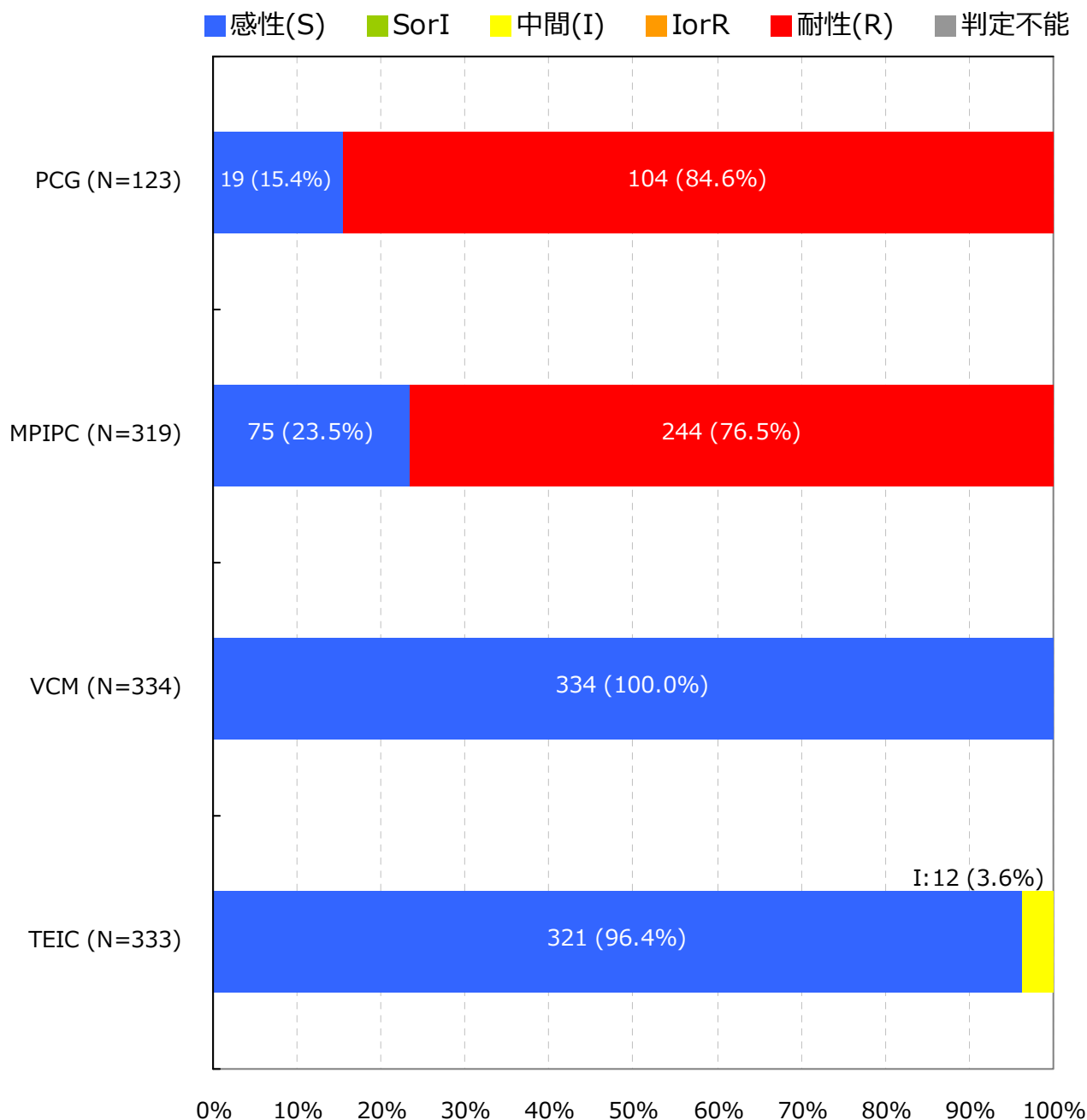
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

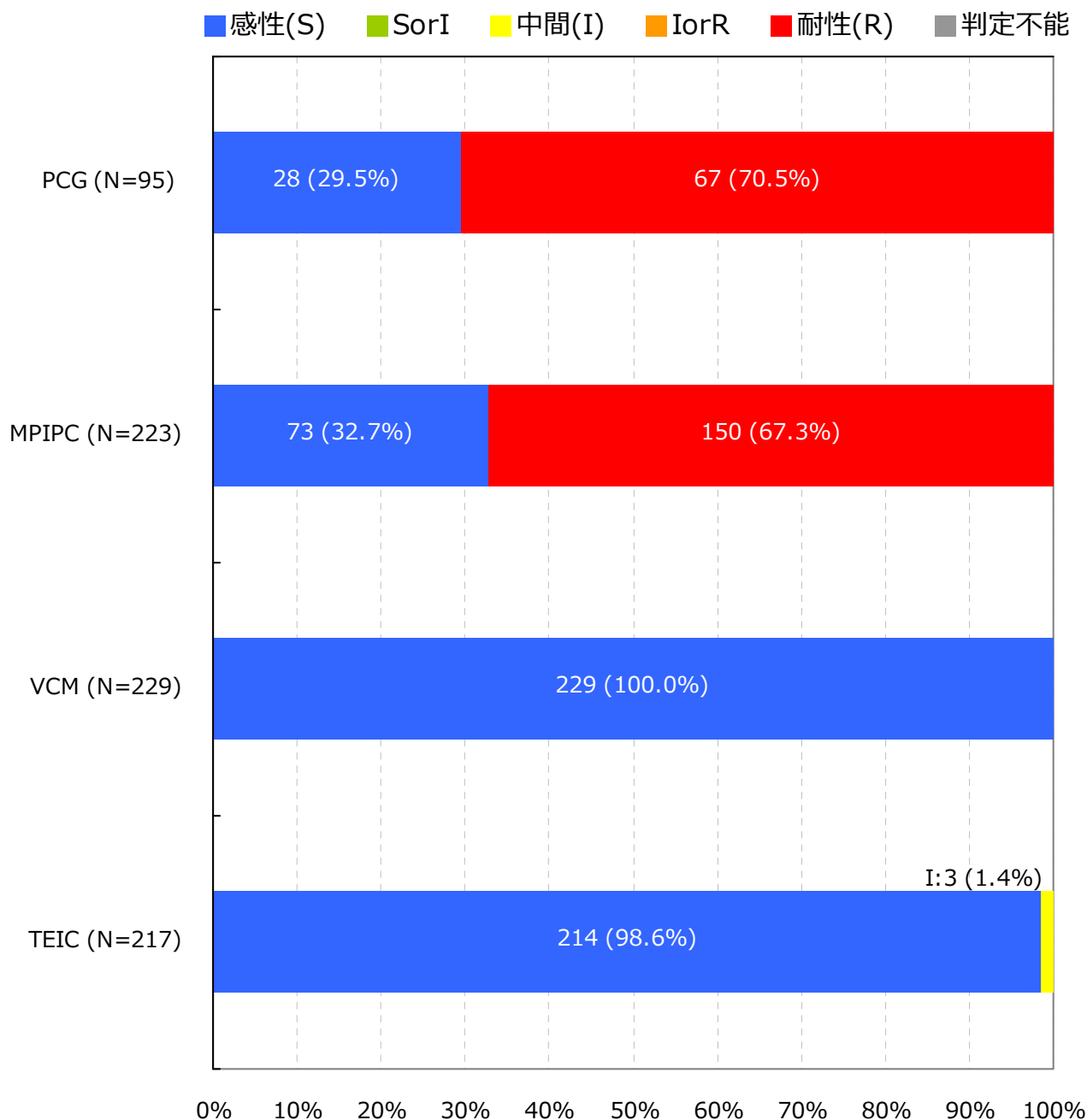
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



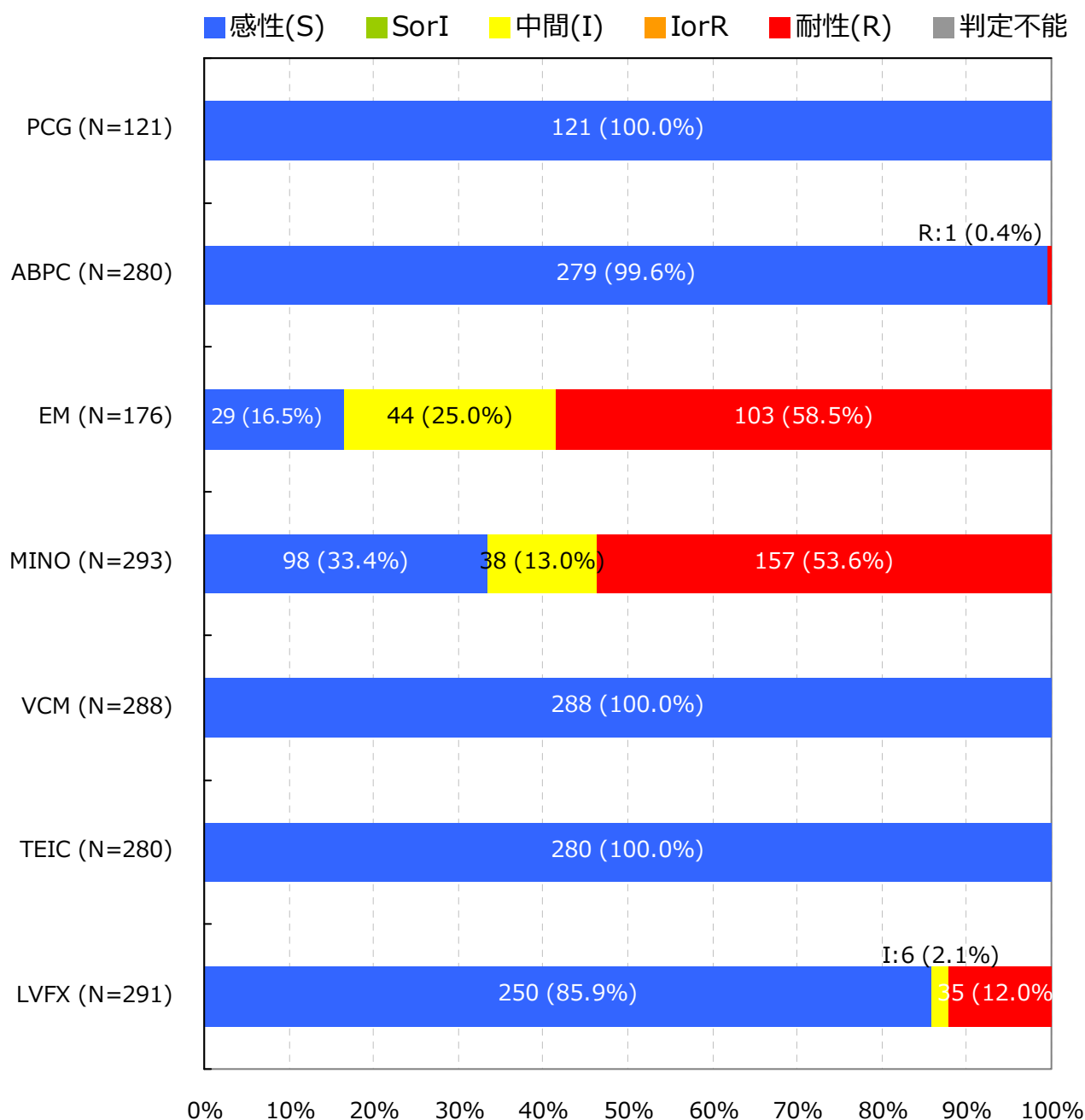
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

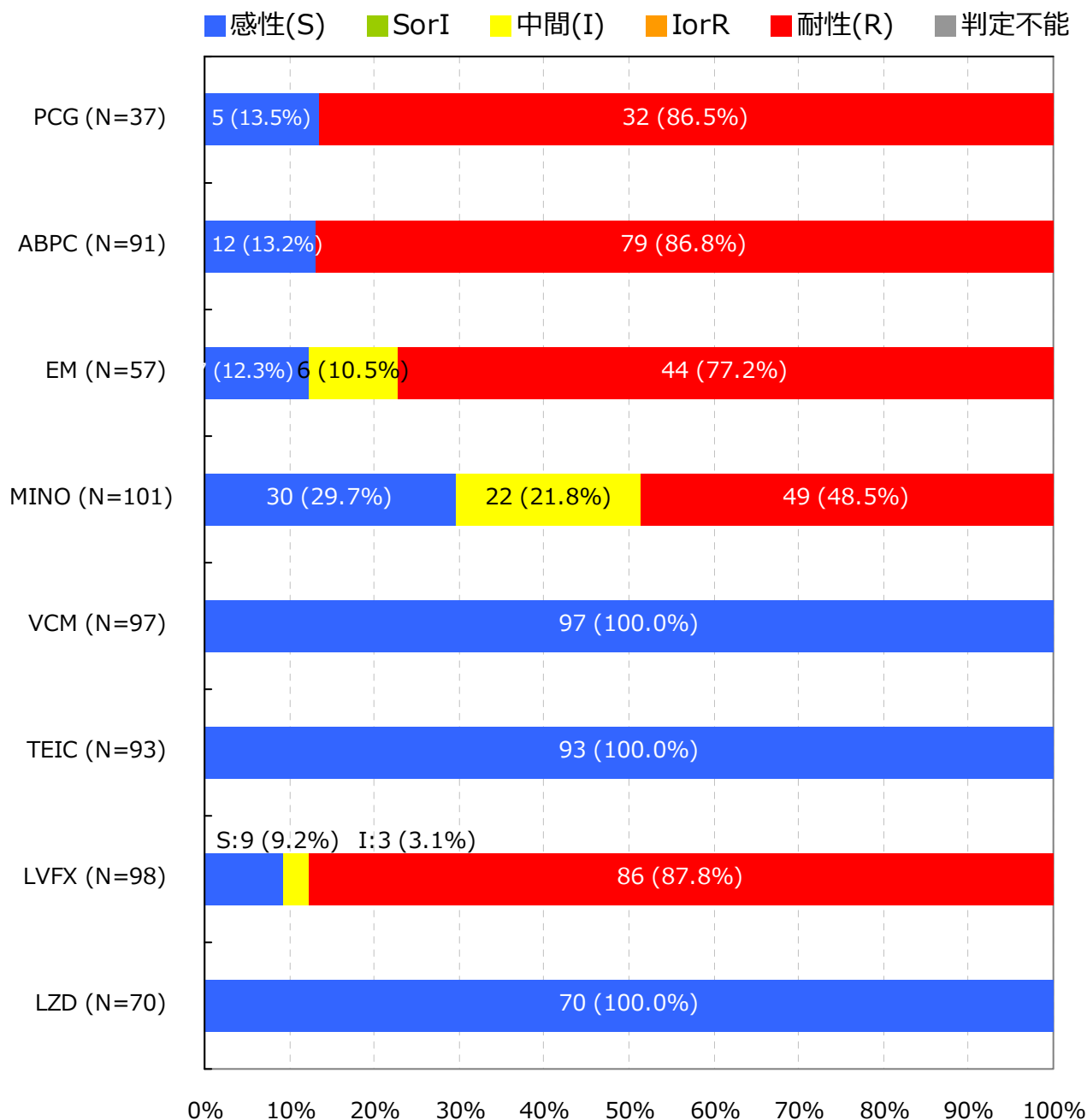
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(香川県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

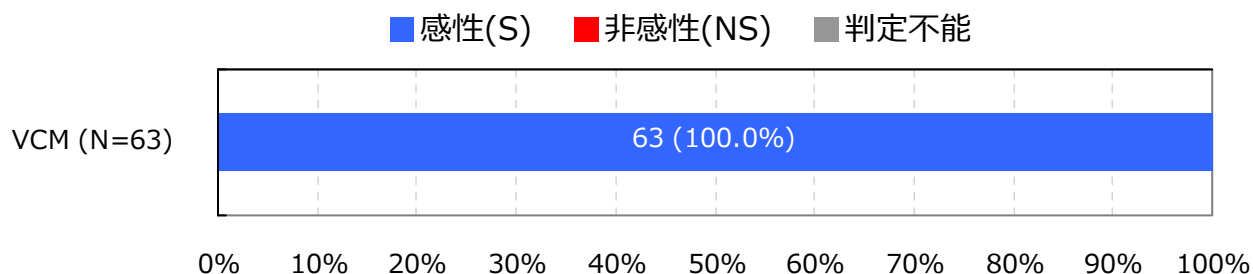
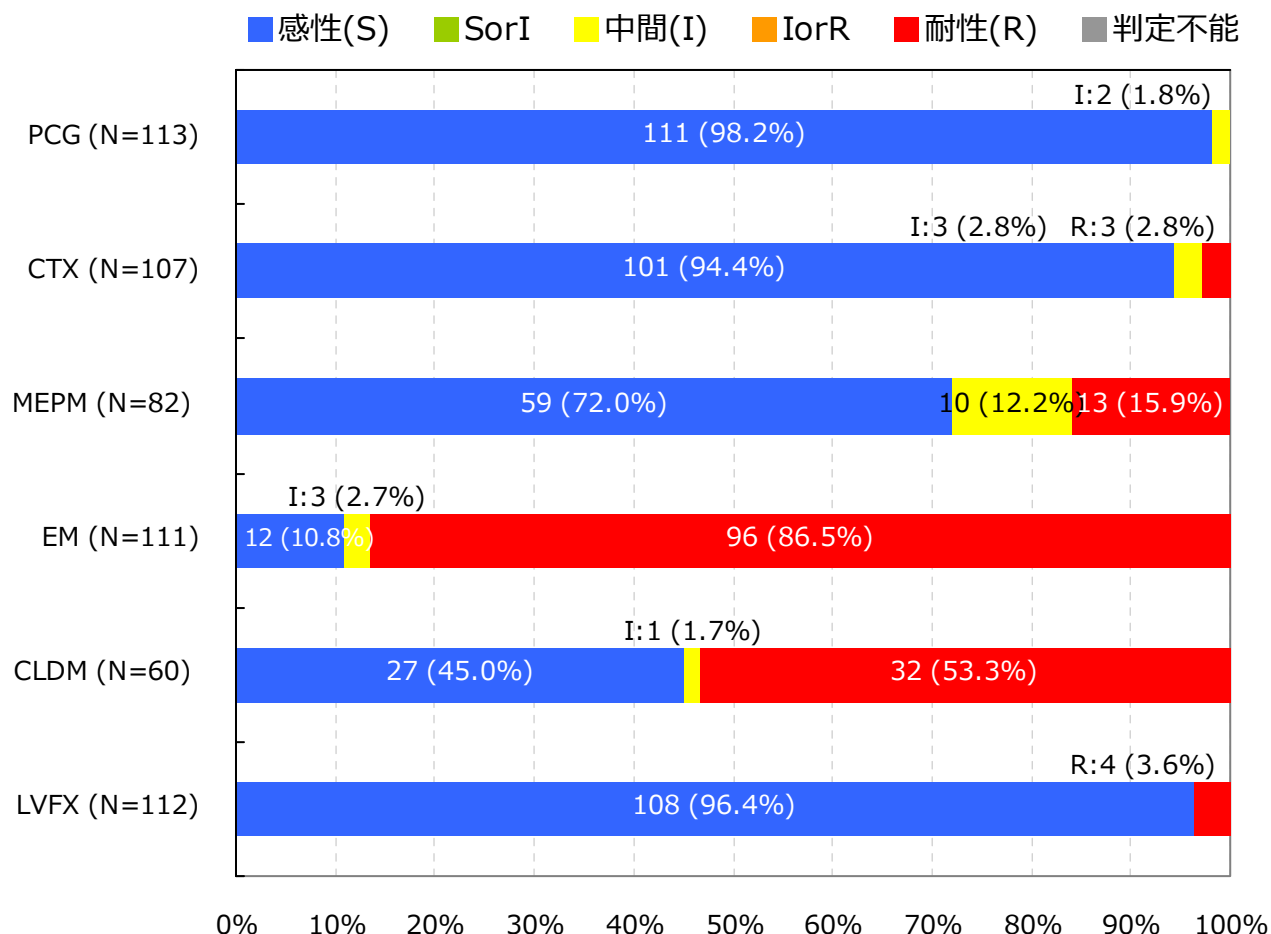
報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

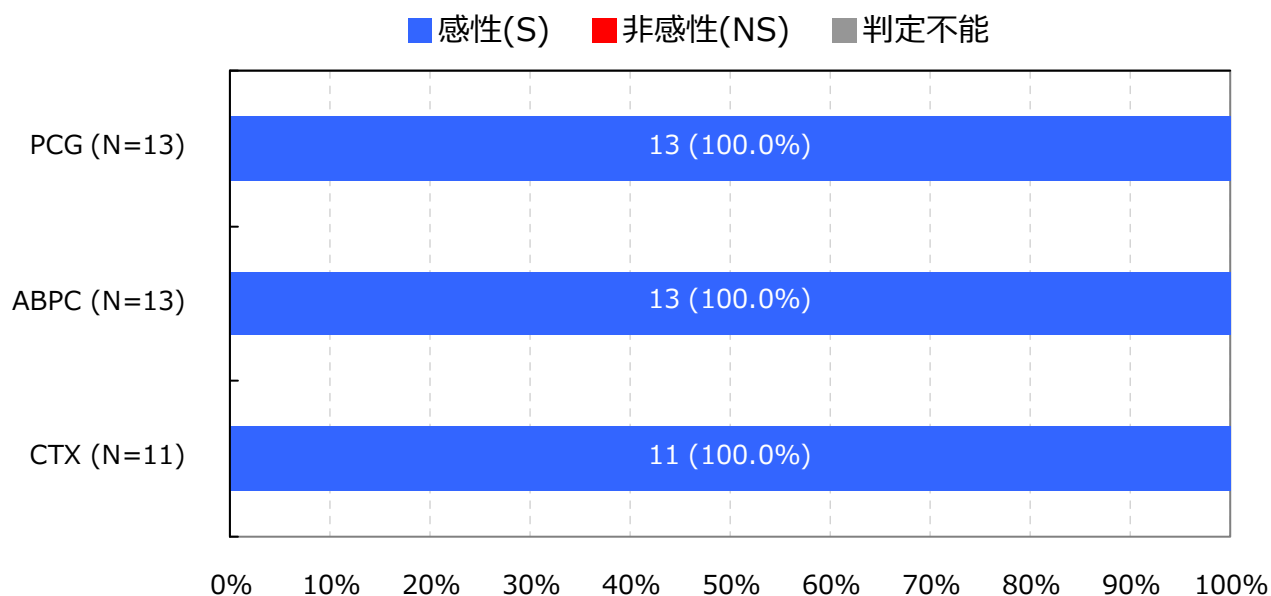
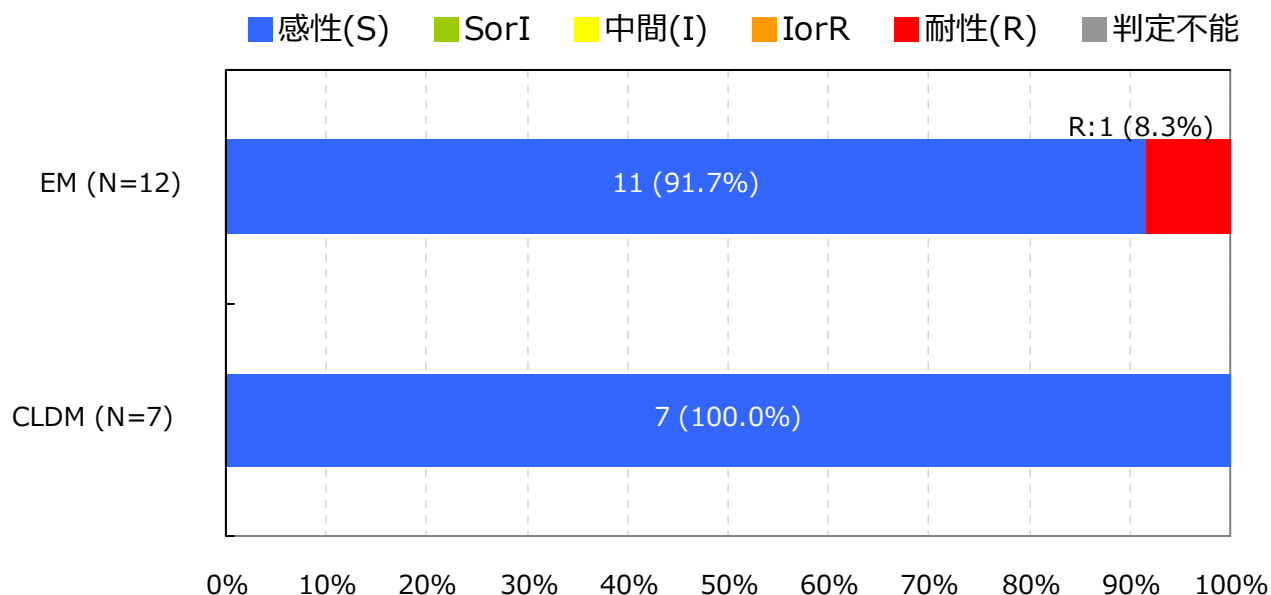
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

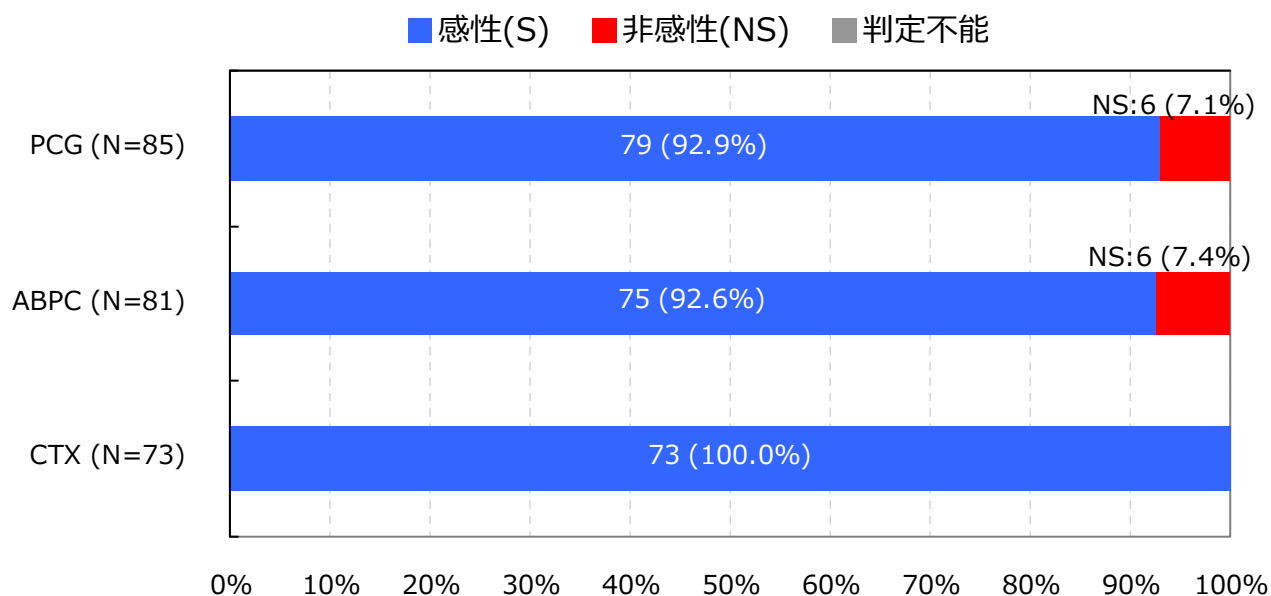
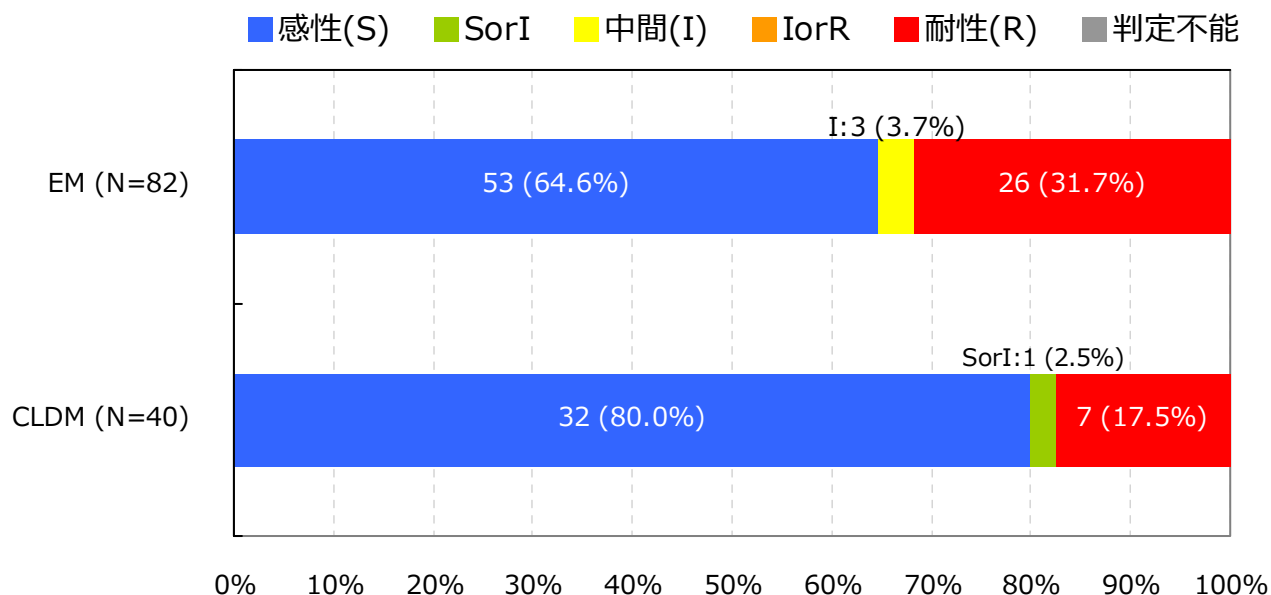
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

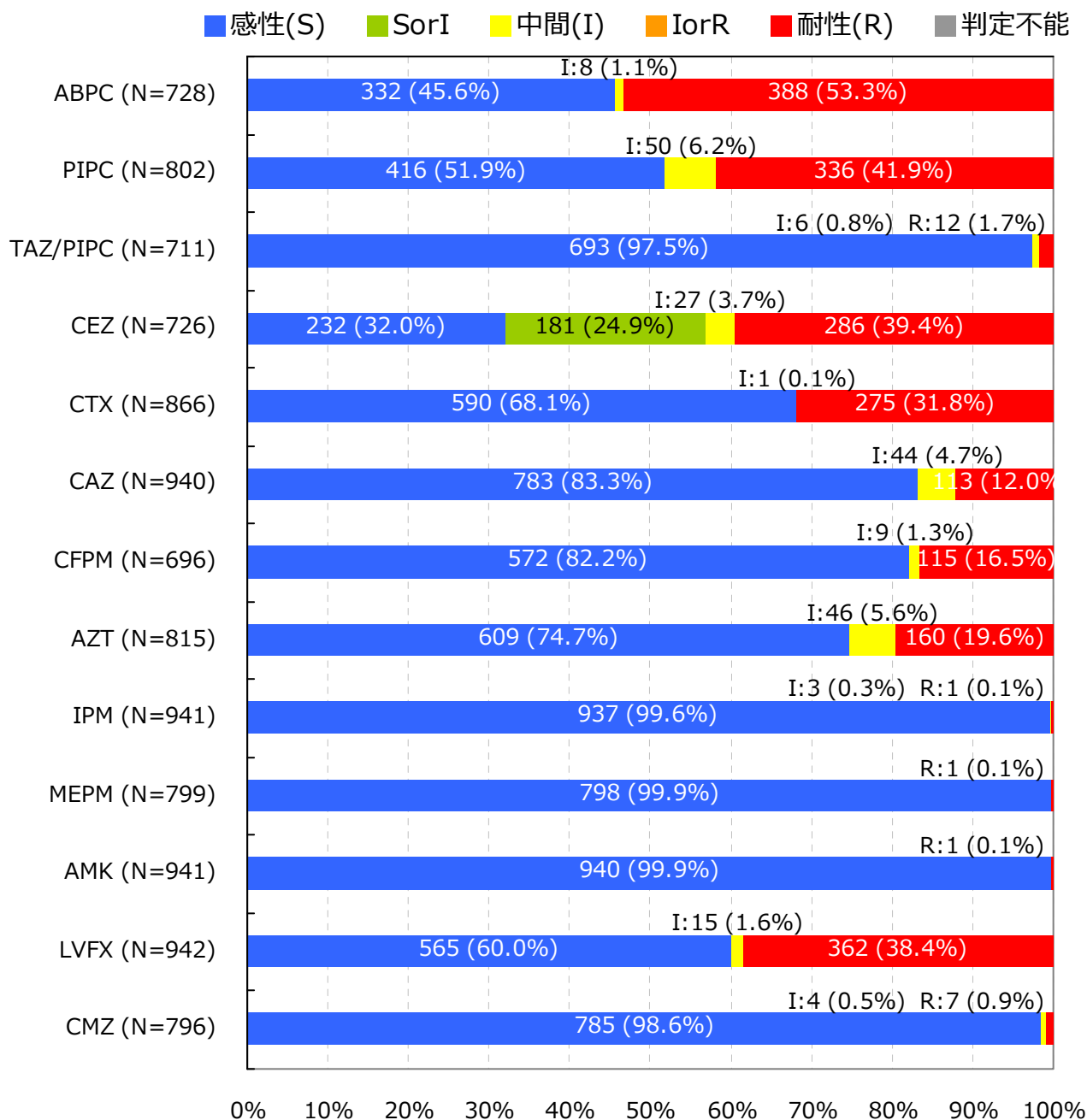
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

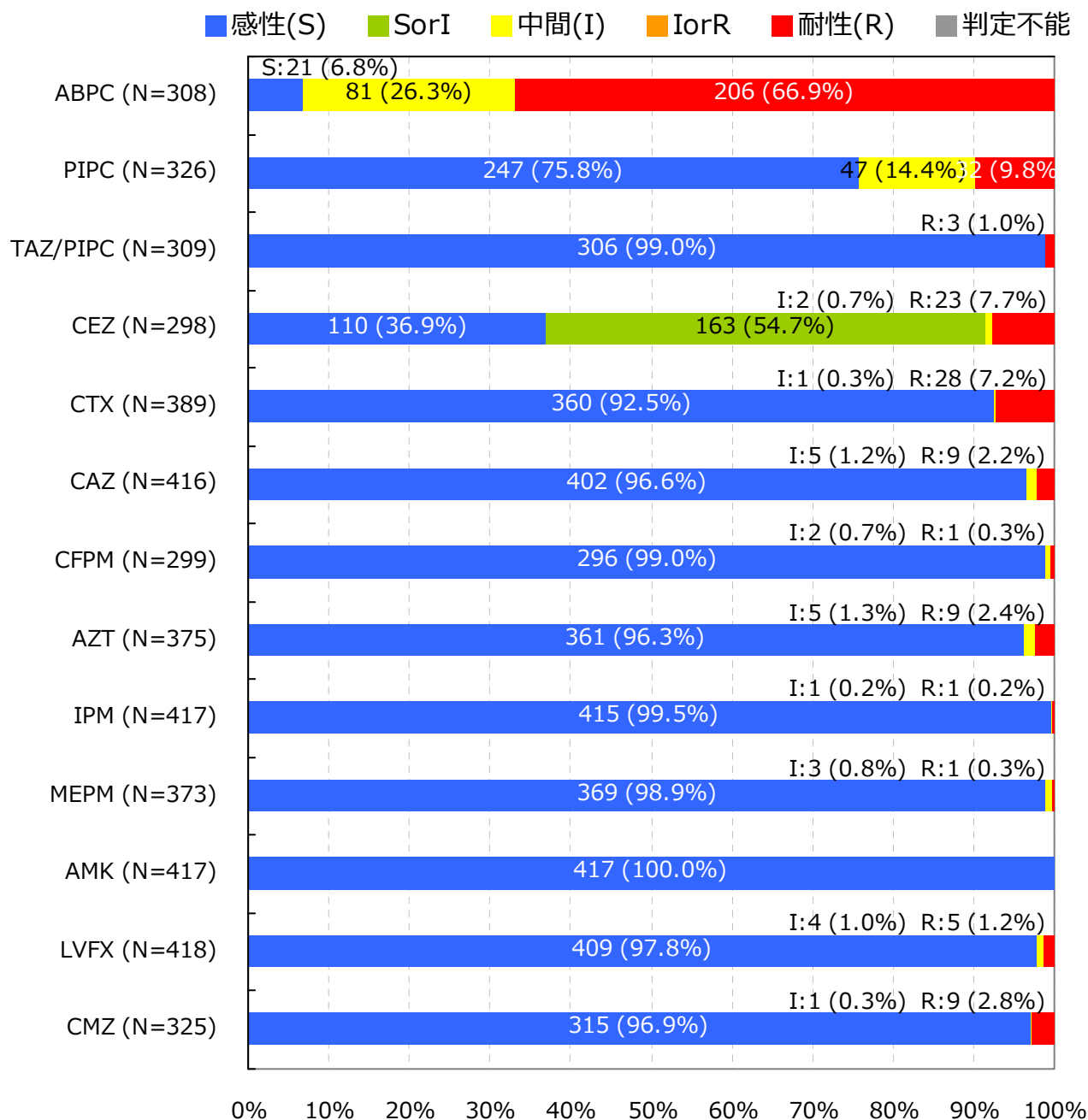
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

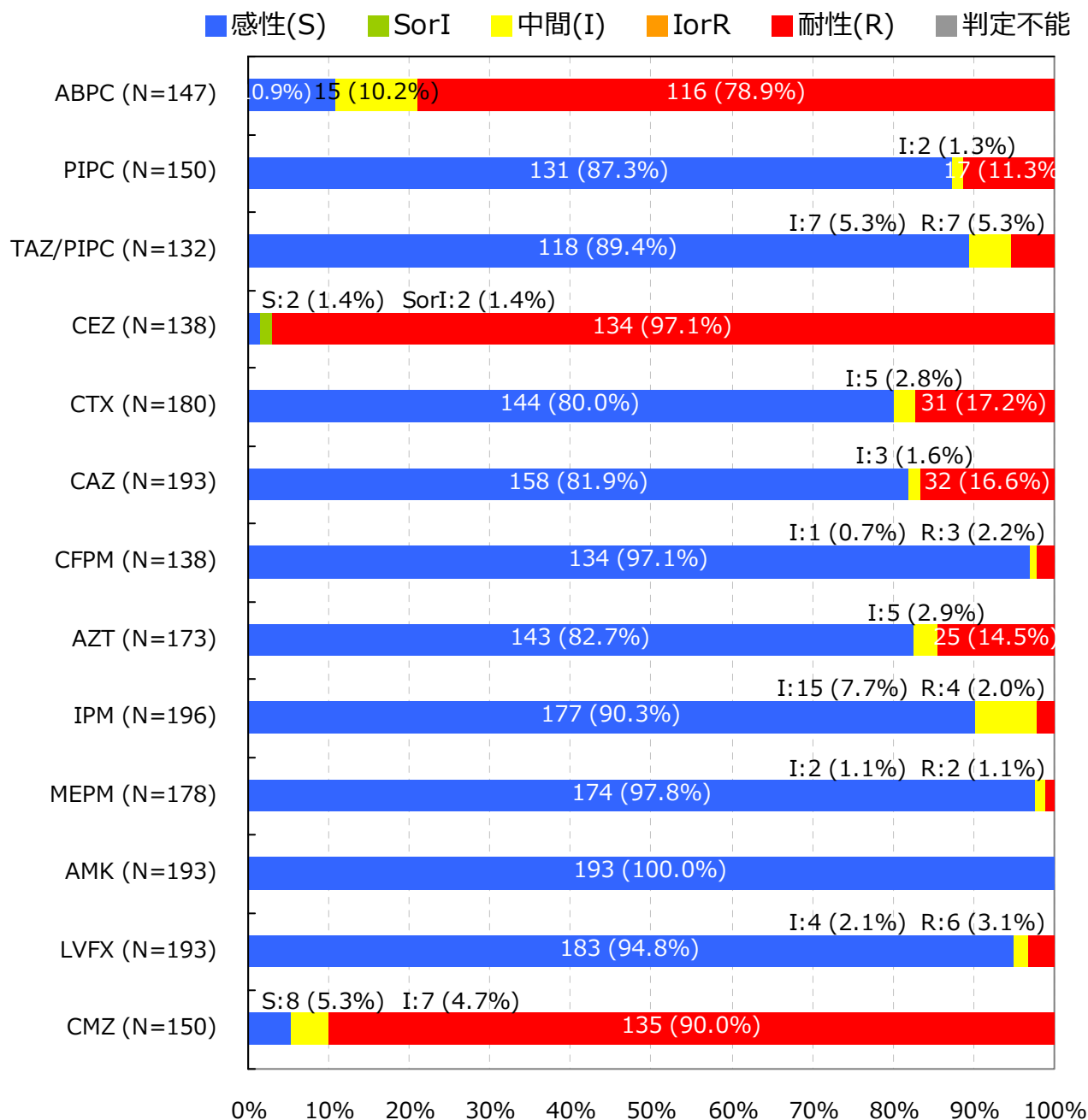
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

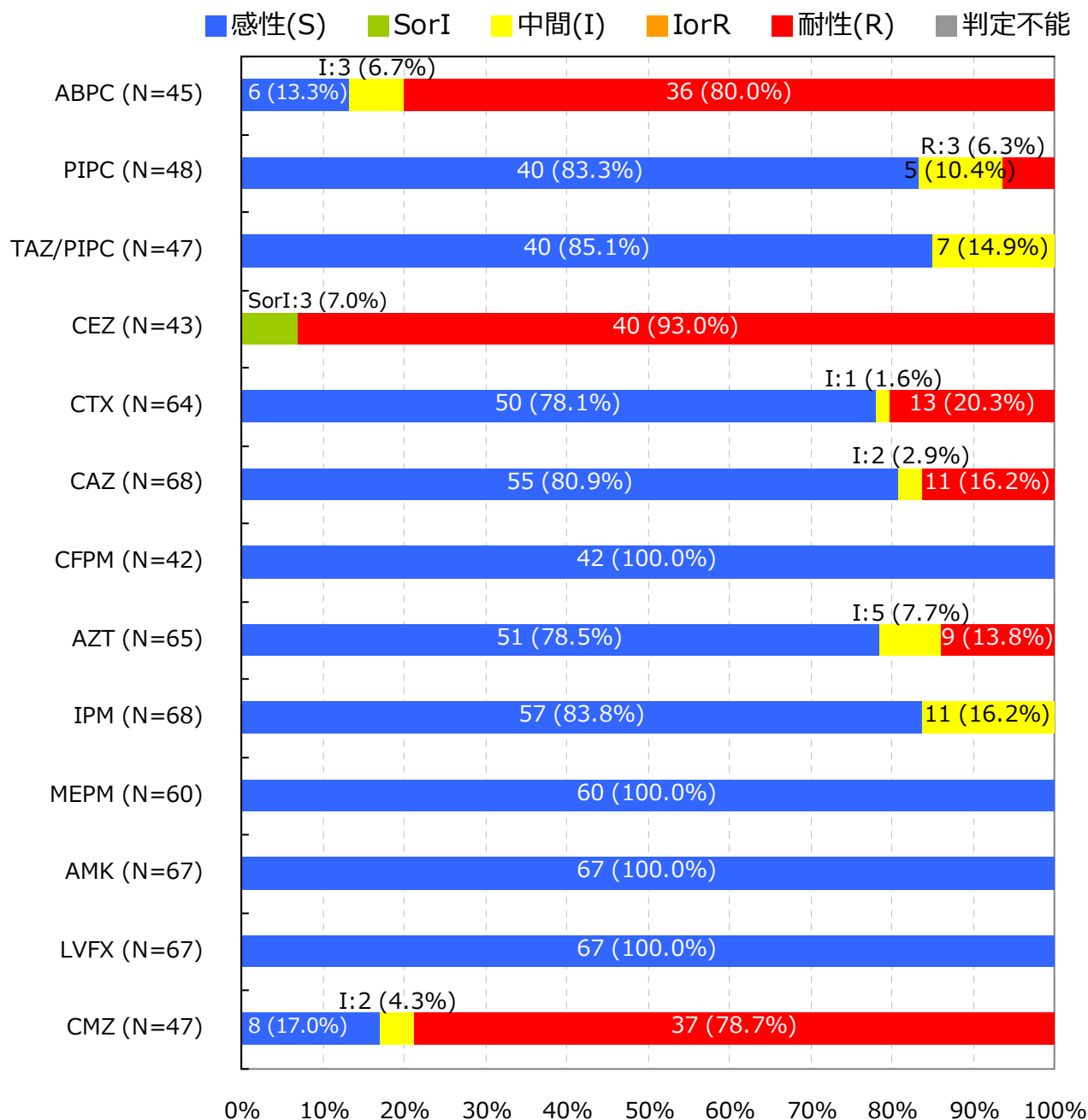
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

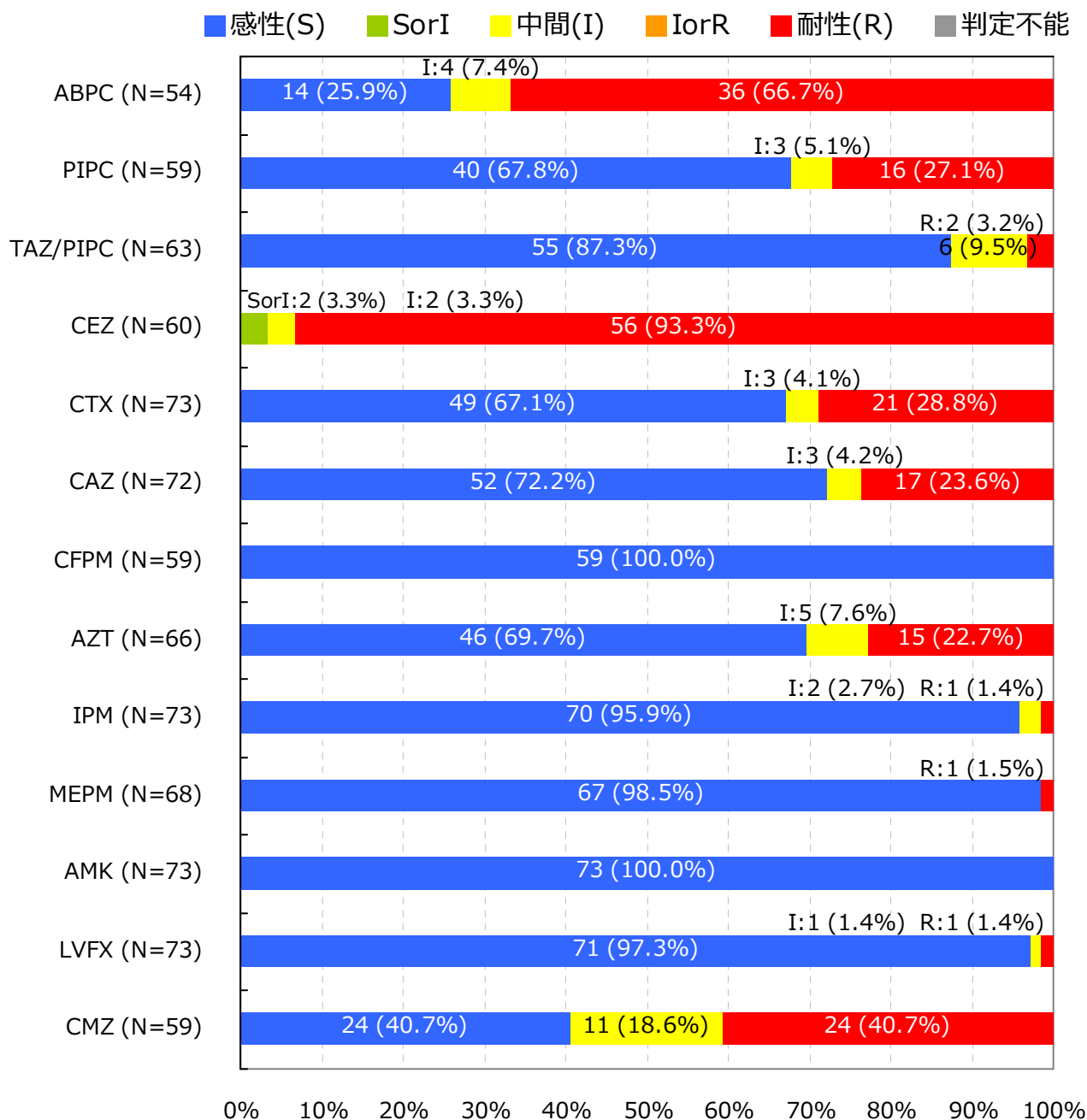
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

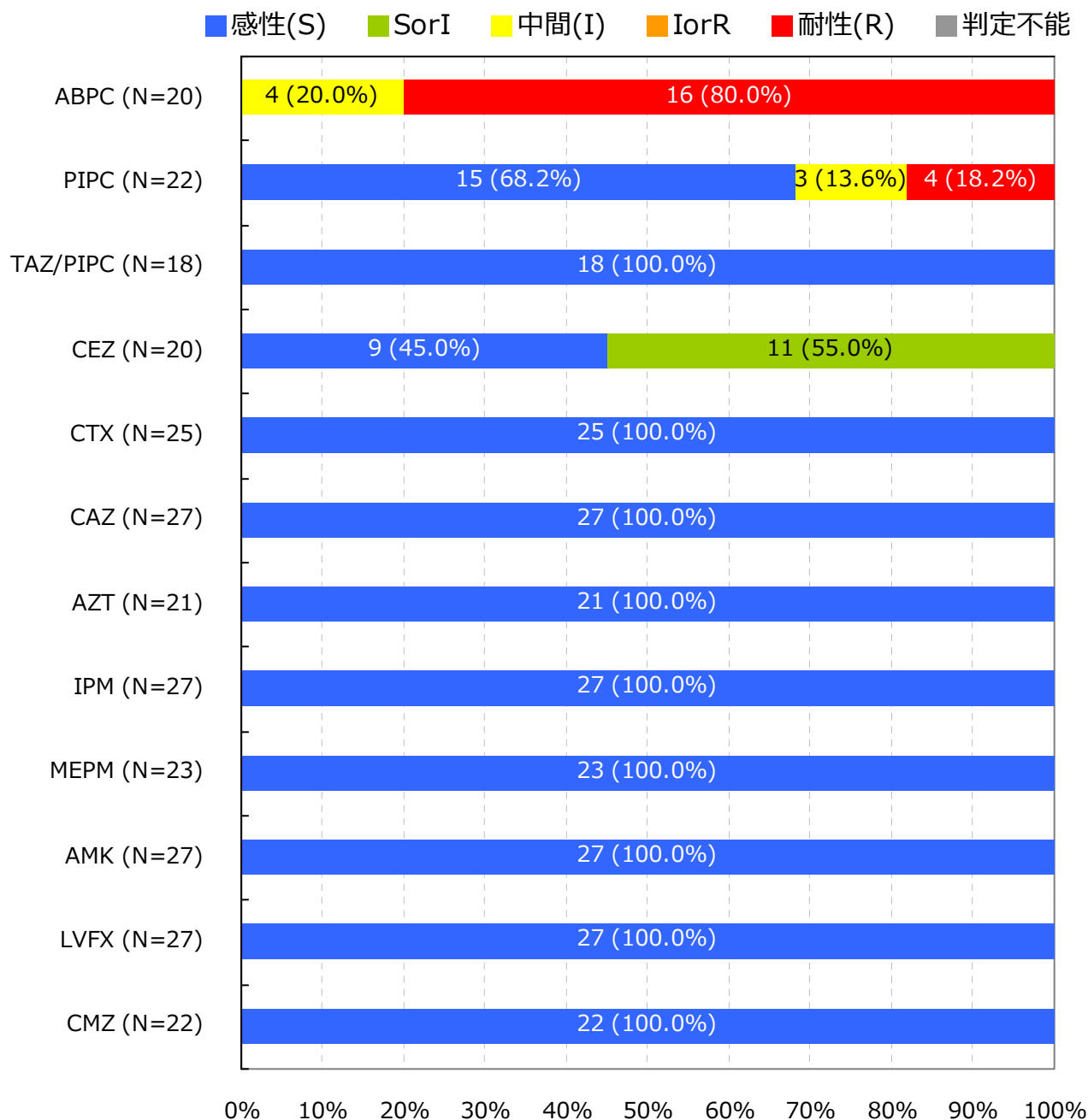
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

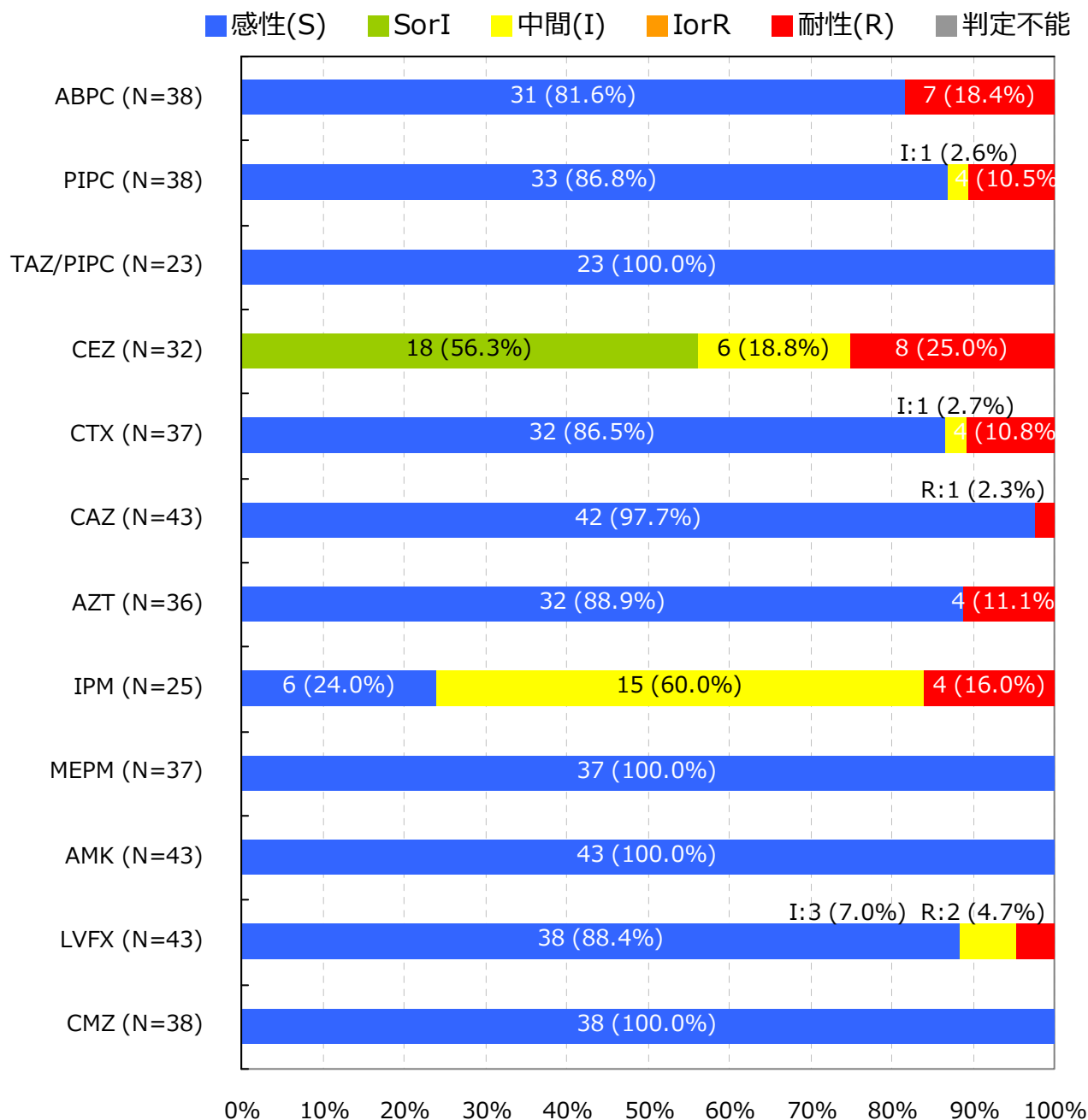
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

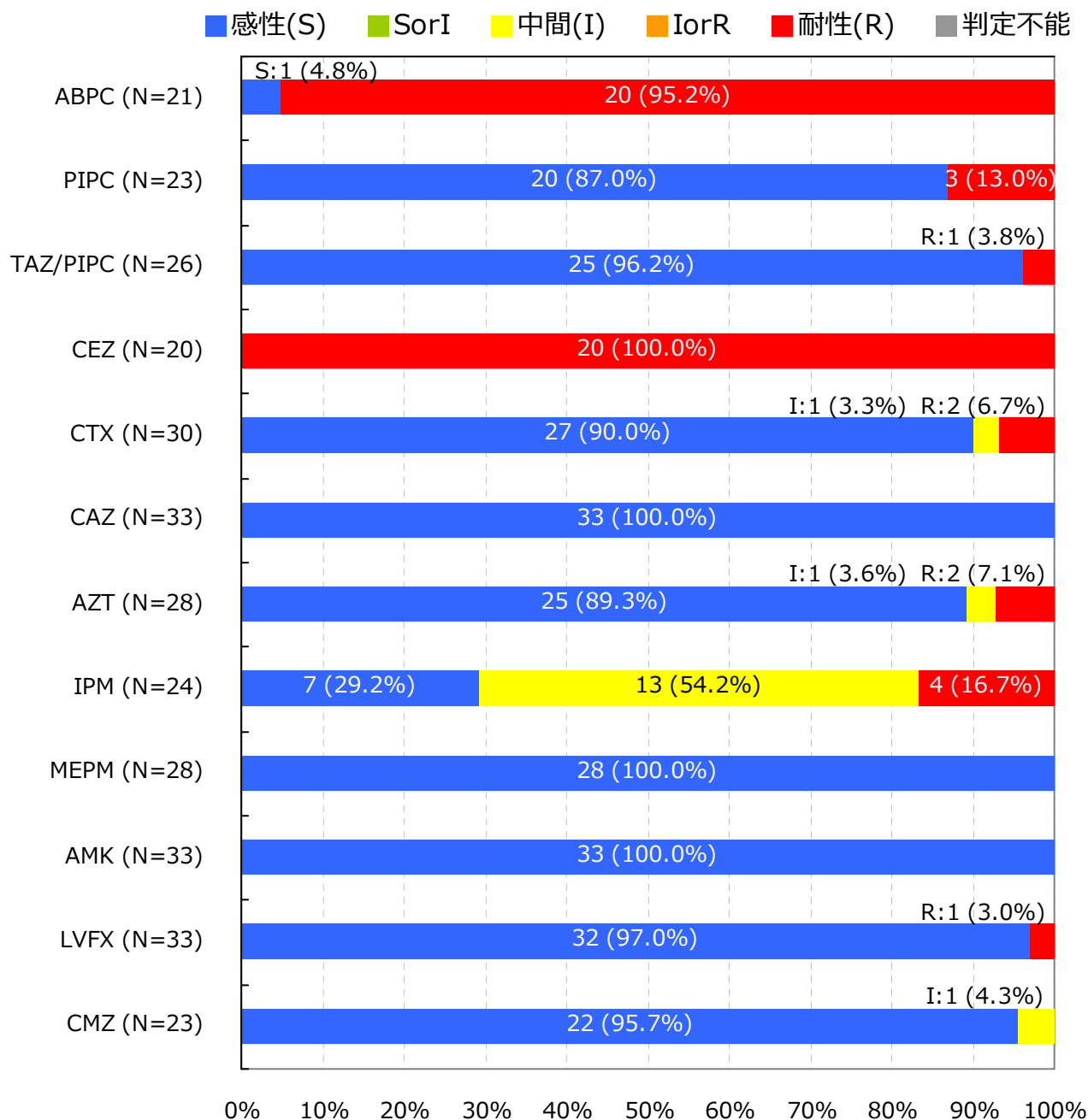
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

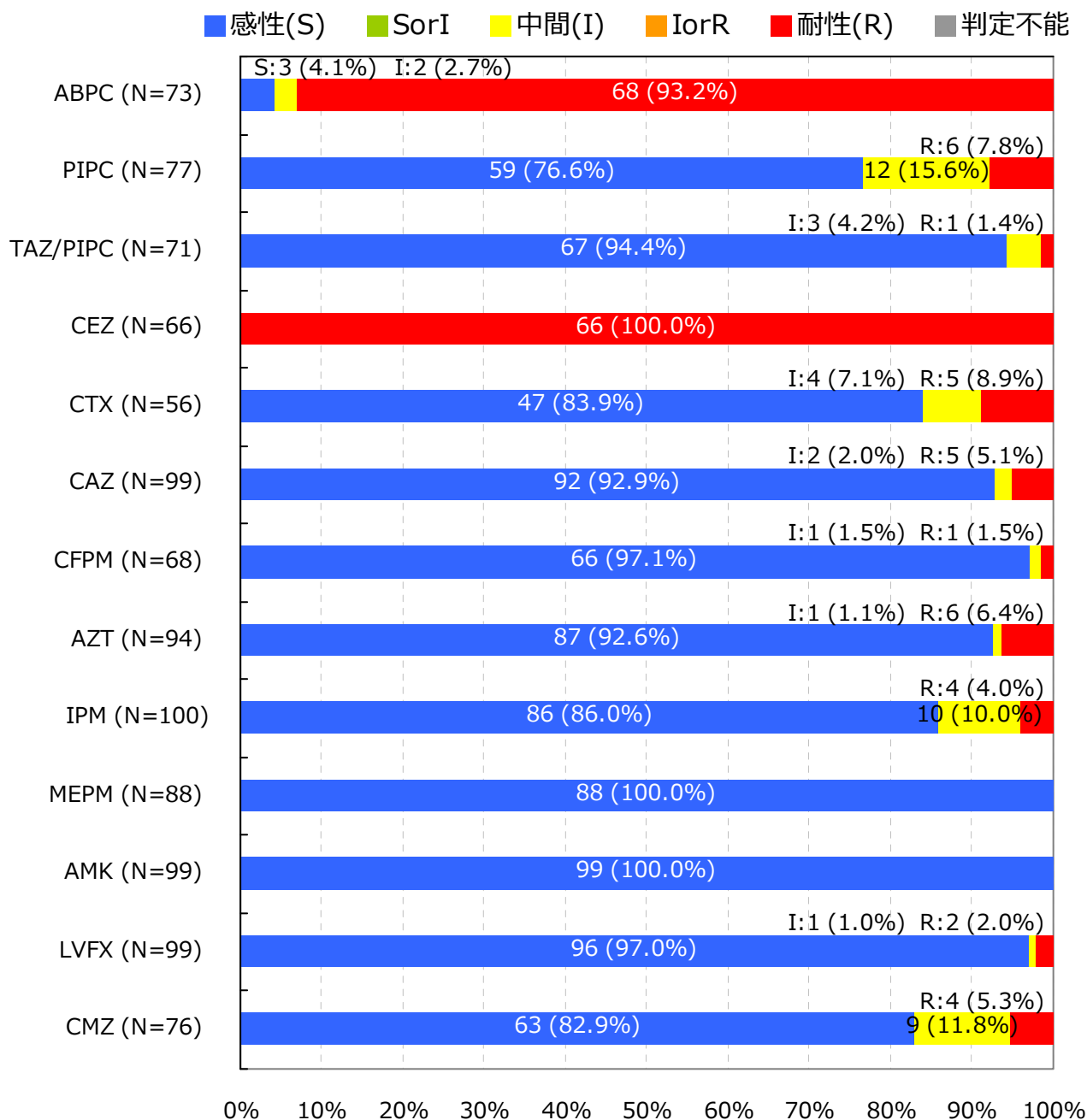
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

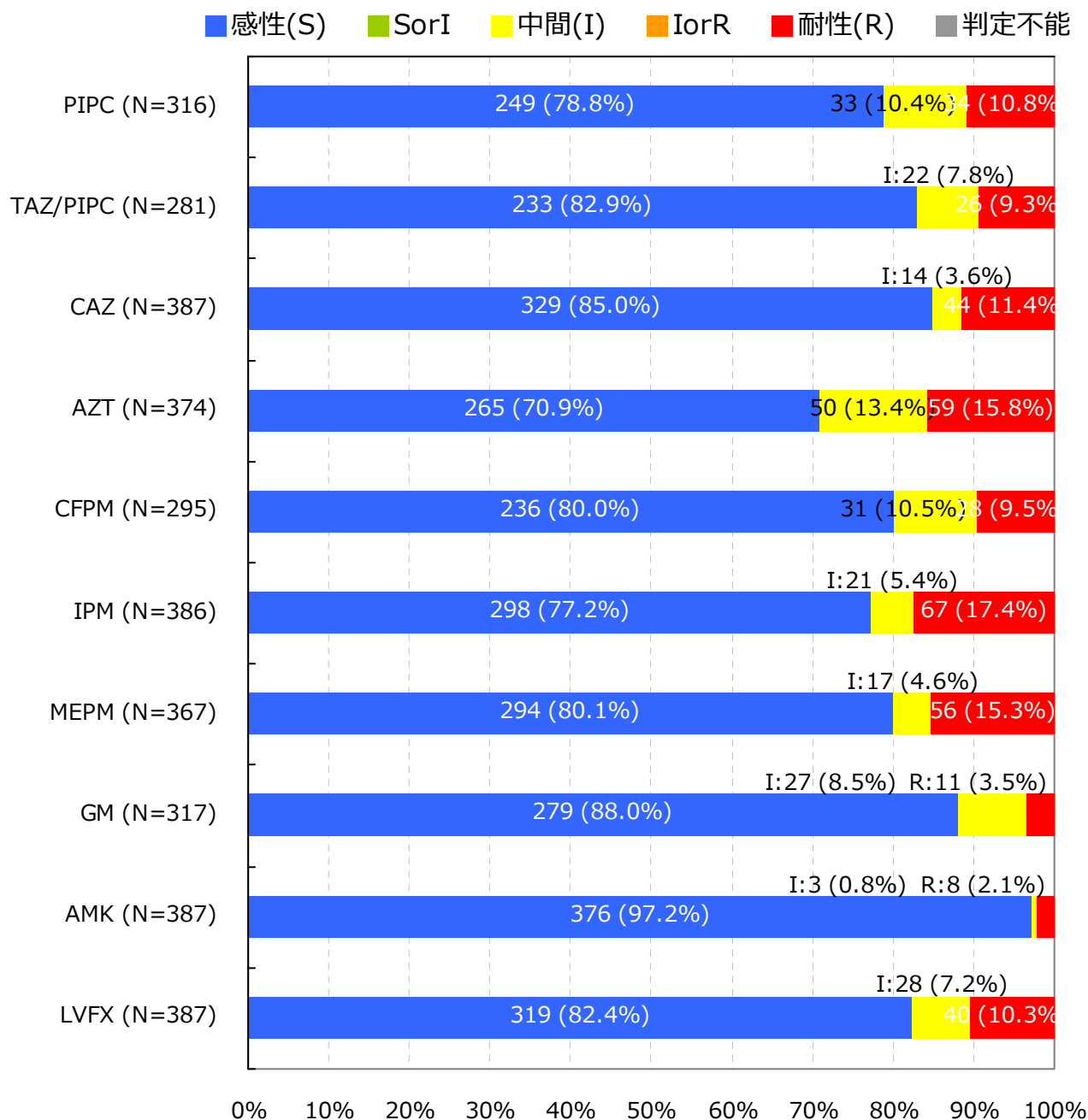
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

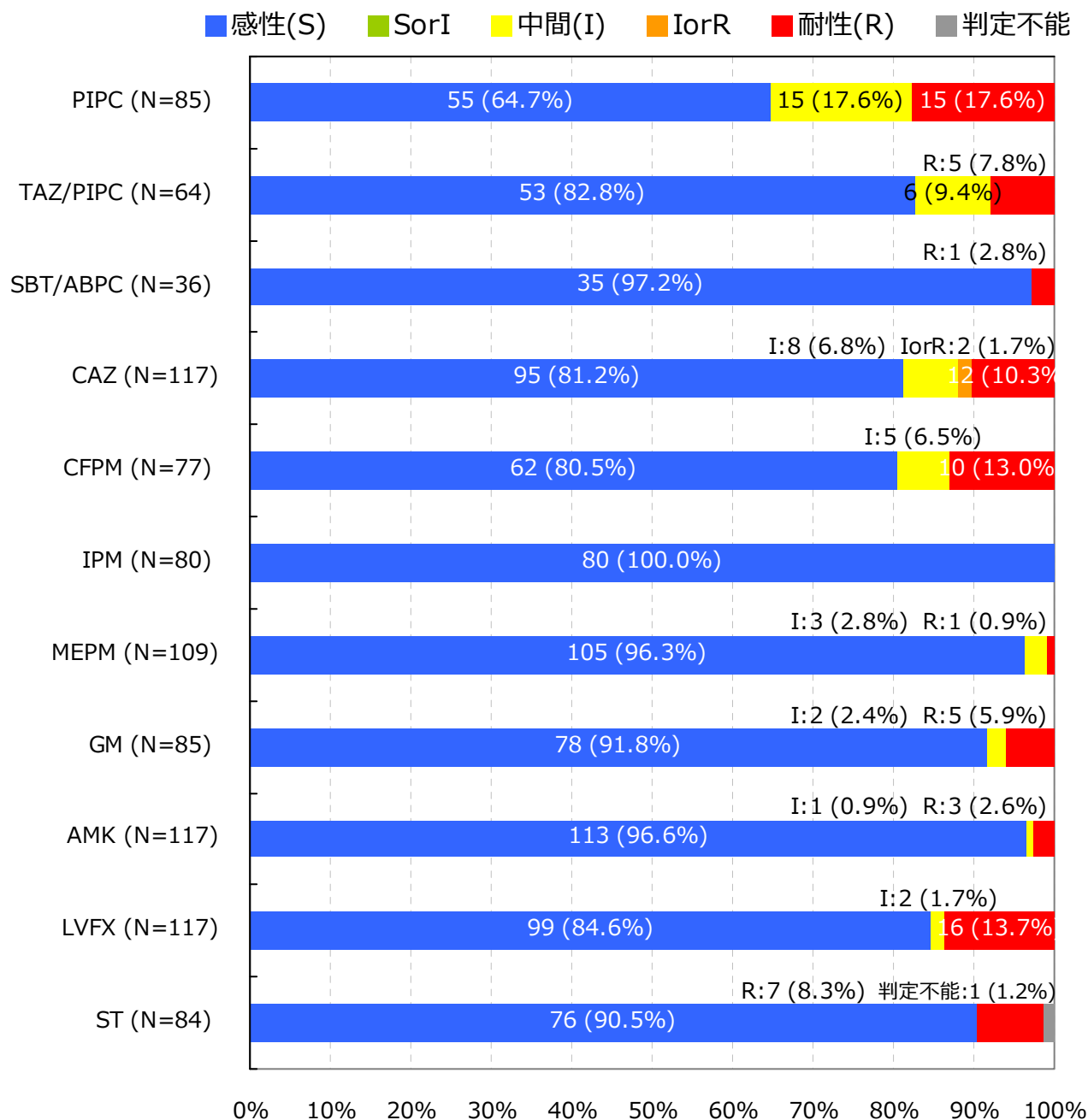
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

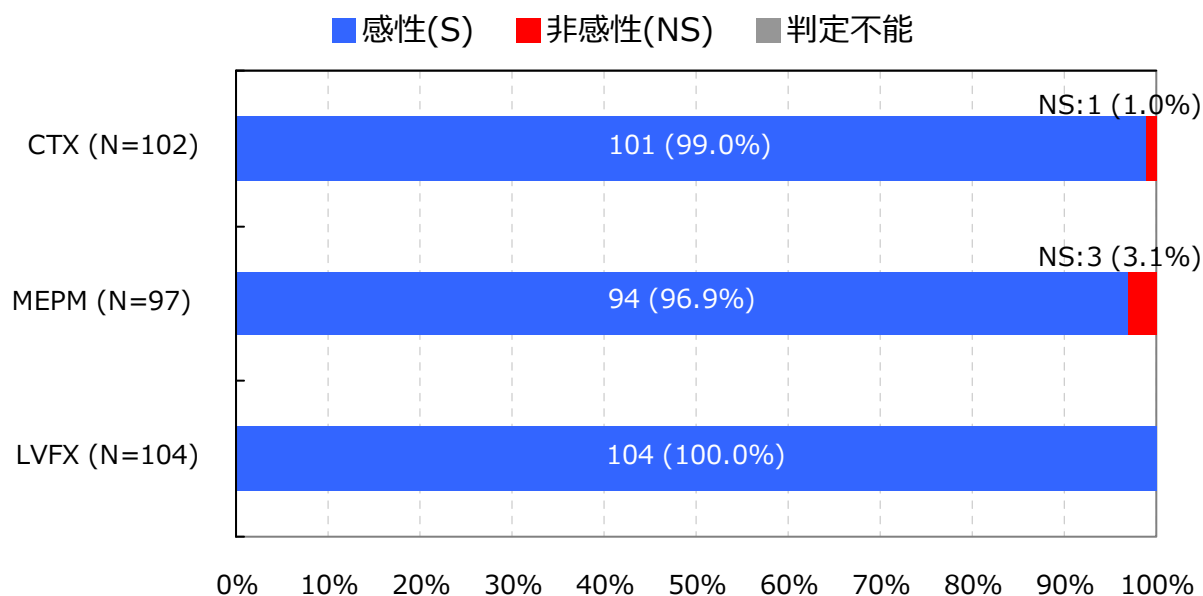
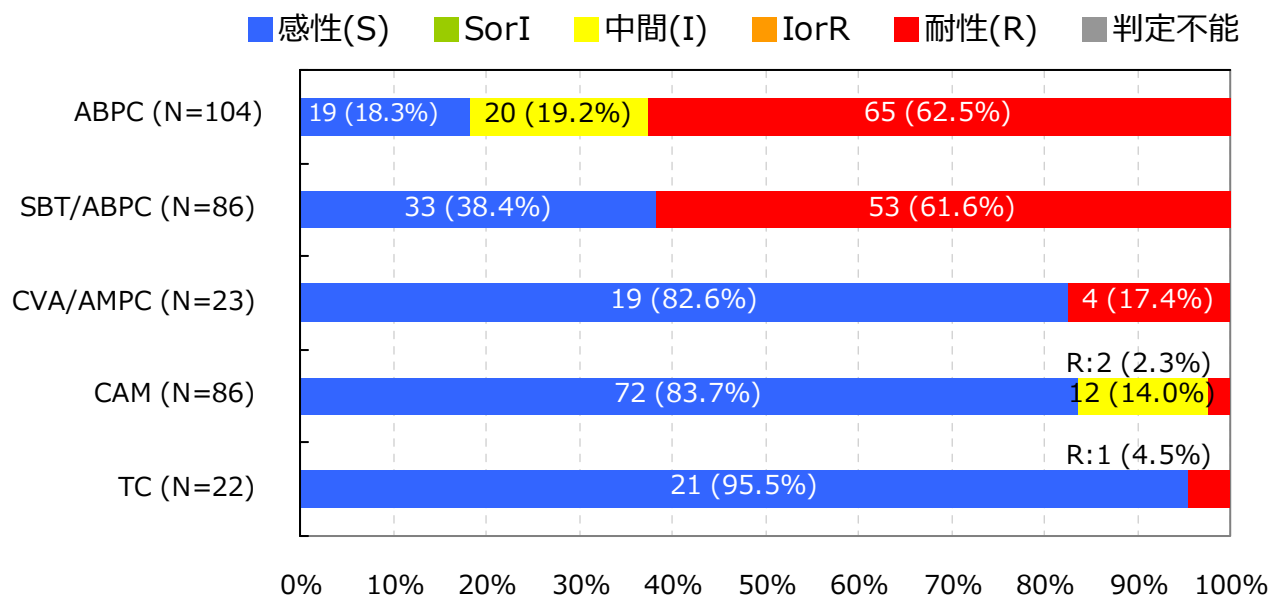
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

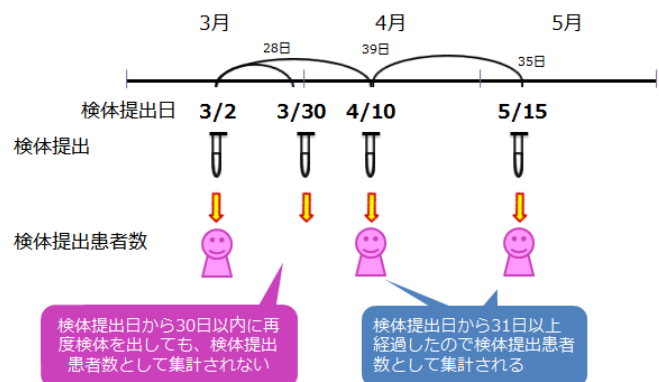
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

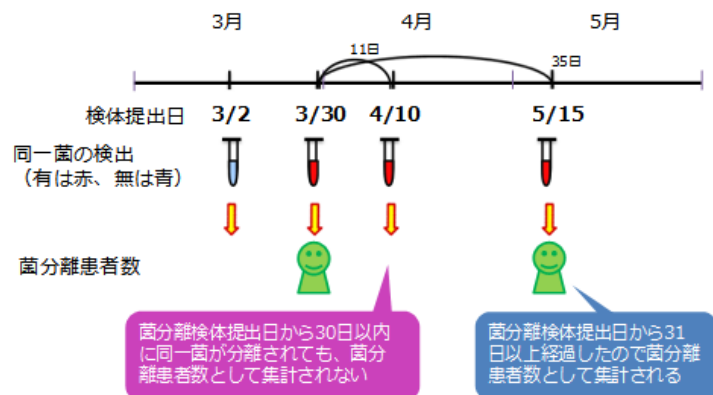
例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

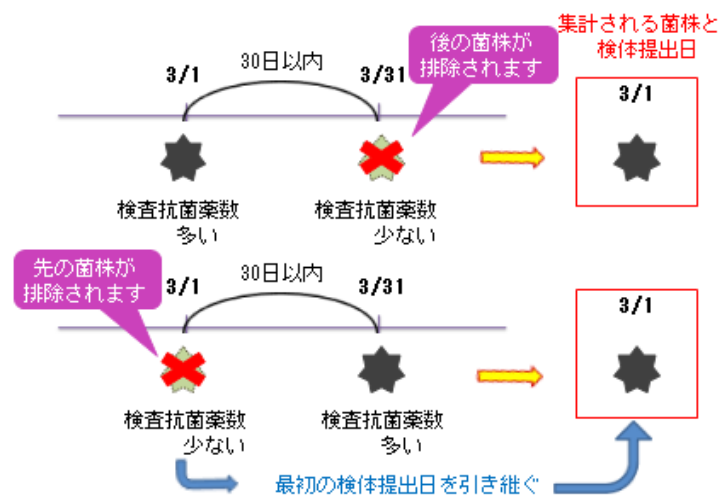
30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

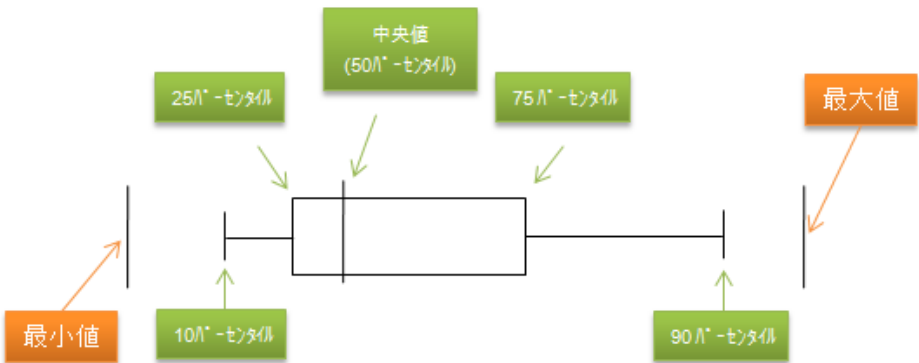
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

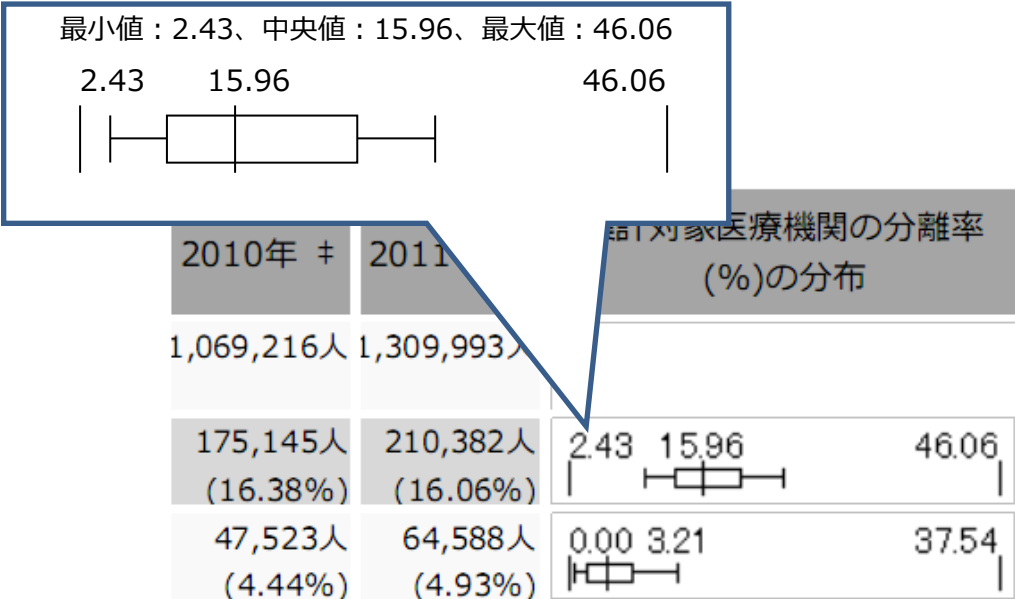
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

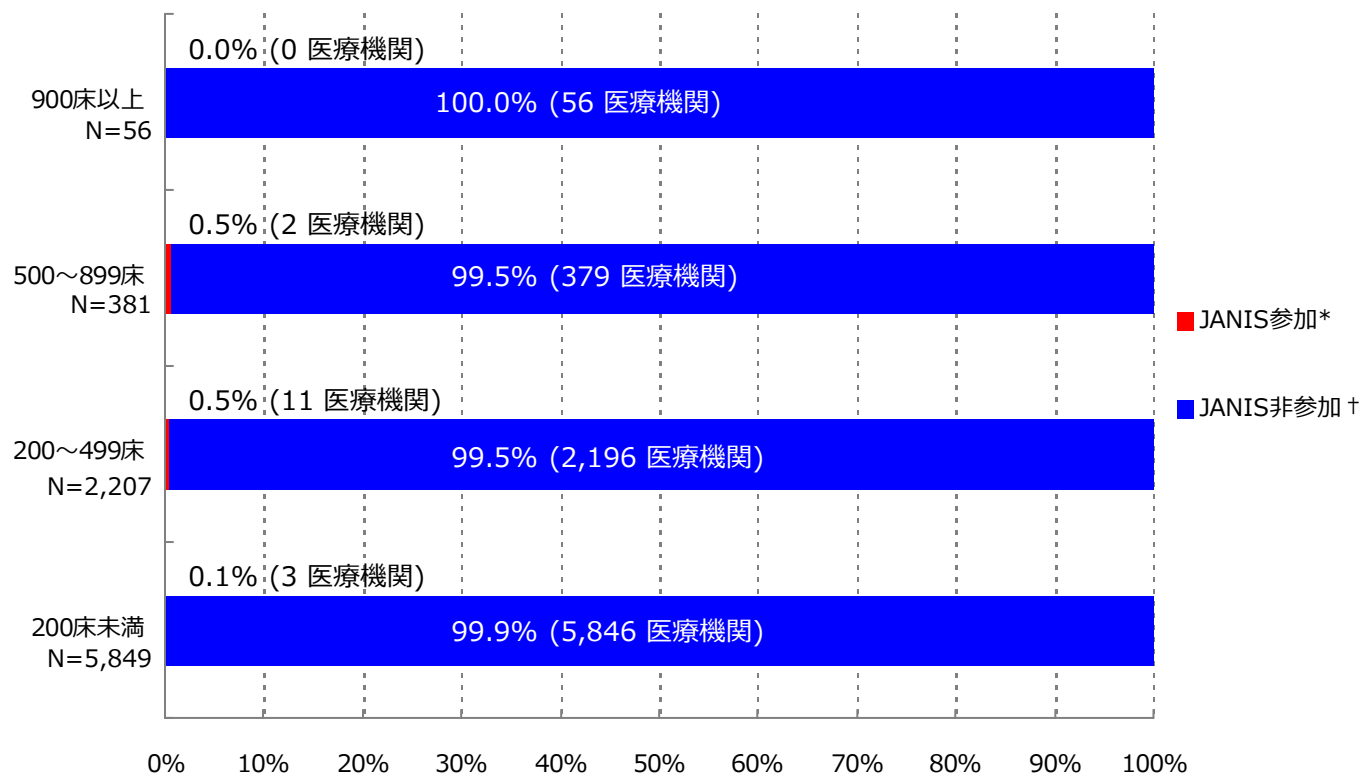


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図



## 1. 集計対象医療機関数(16医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	2 ( 0.5% )
200～499床	2,207	11 ( 0.5% )
200床未満	5,849	3 ( 0.1% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	16 ( 0.2% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	15	2,935	1,917 (3,957)
尿検体	15	925	585 (830)
便検体	15	414	233 (451)
血液検体	15	2,947	401 (427)
髄液検体	10	48	2 (2)
その他	15	1,609	884 (1,441)
合計	15	8,878	4,022 (7,108)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

403(髄液)

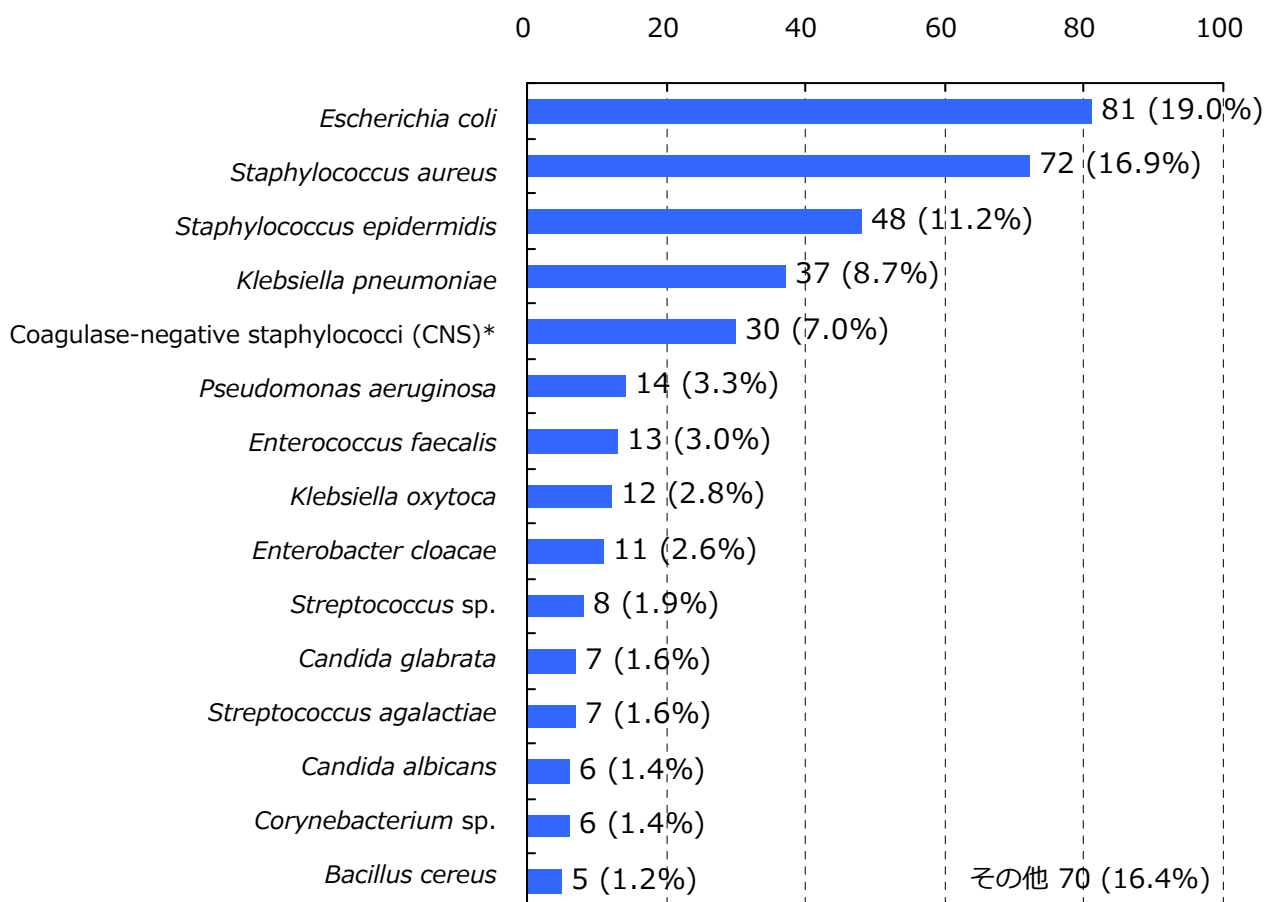
その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=427)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

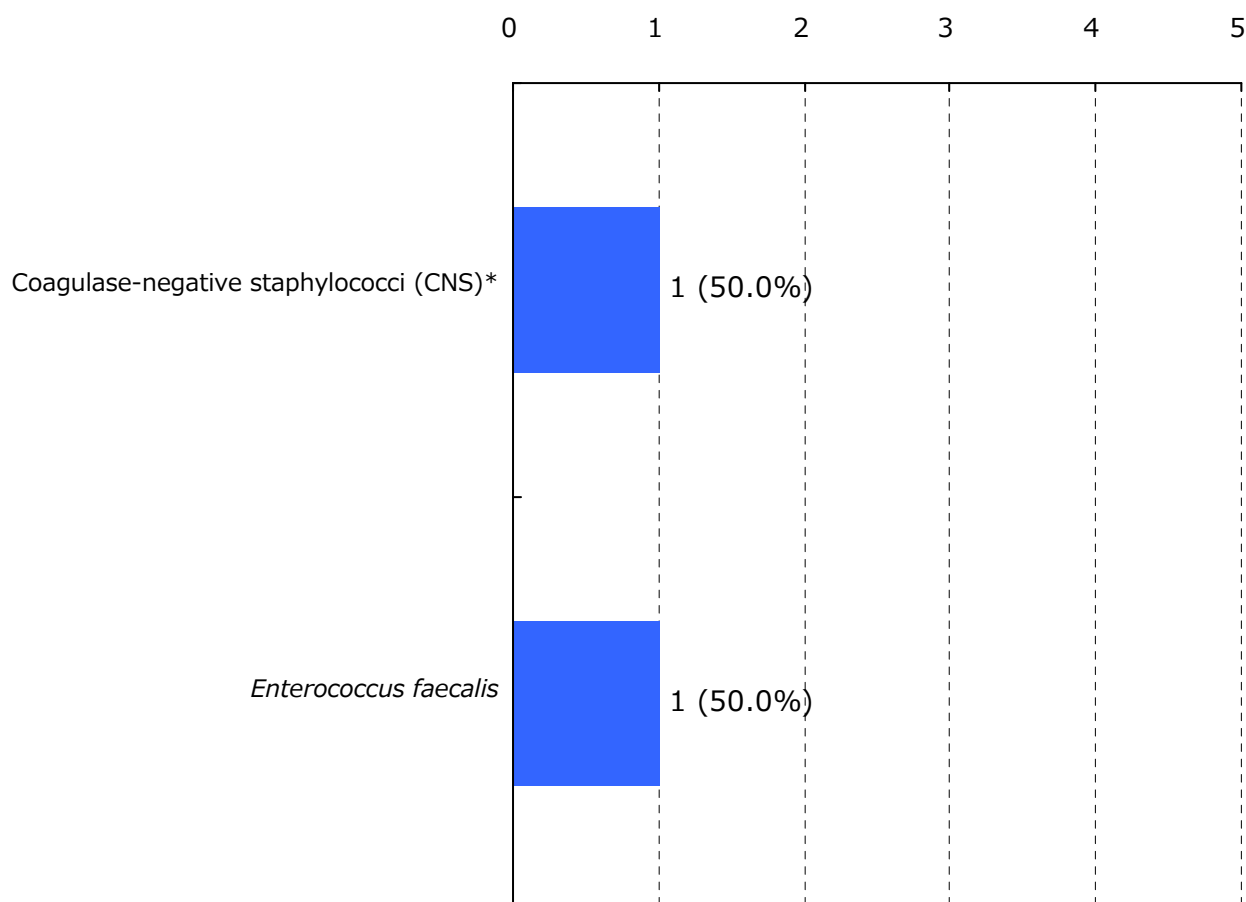
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=2)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 ‡	集計対象医療機関の 分離率 ¶(%)の分布
検体提出患者数	4,181人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	235人 (5.62%)	2.14 6.49 16.18
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	0人 (0.00%)	0.00
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	14人 (0.33%)	0.00 0.00 1.32
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	14人 (0.33%)	0.00 0.00 2.08
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	36人 (0.86%)	0.00 0.32 3.78
カルバペネム耐性緑膿菌	43人 (1.03%)	0.00 0.84 5.15
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	5人 (0.12%)	0.00 0.00 1.64
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	77人 (1.84%)	0.00 1.14 7.05
フルオロキノロン耐性大腸菌	134人 (3.20%)	0.00 3.20 8.81

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

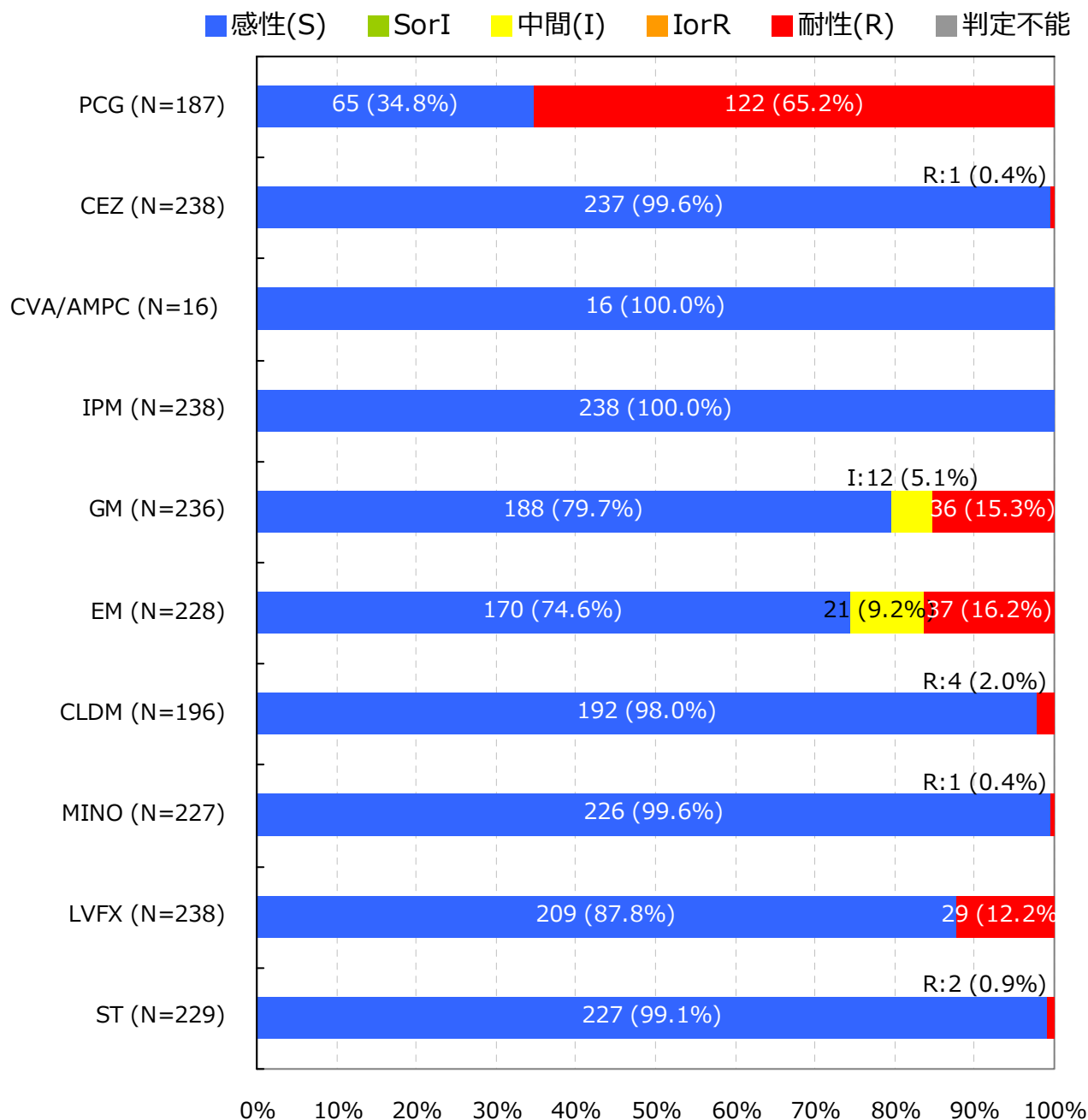
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

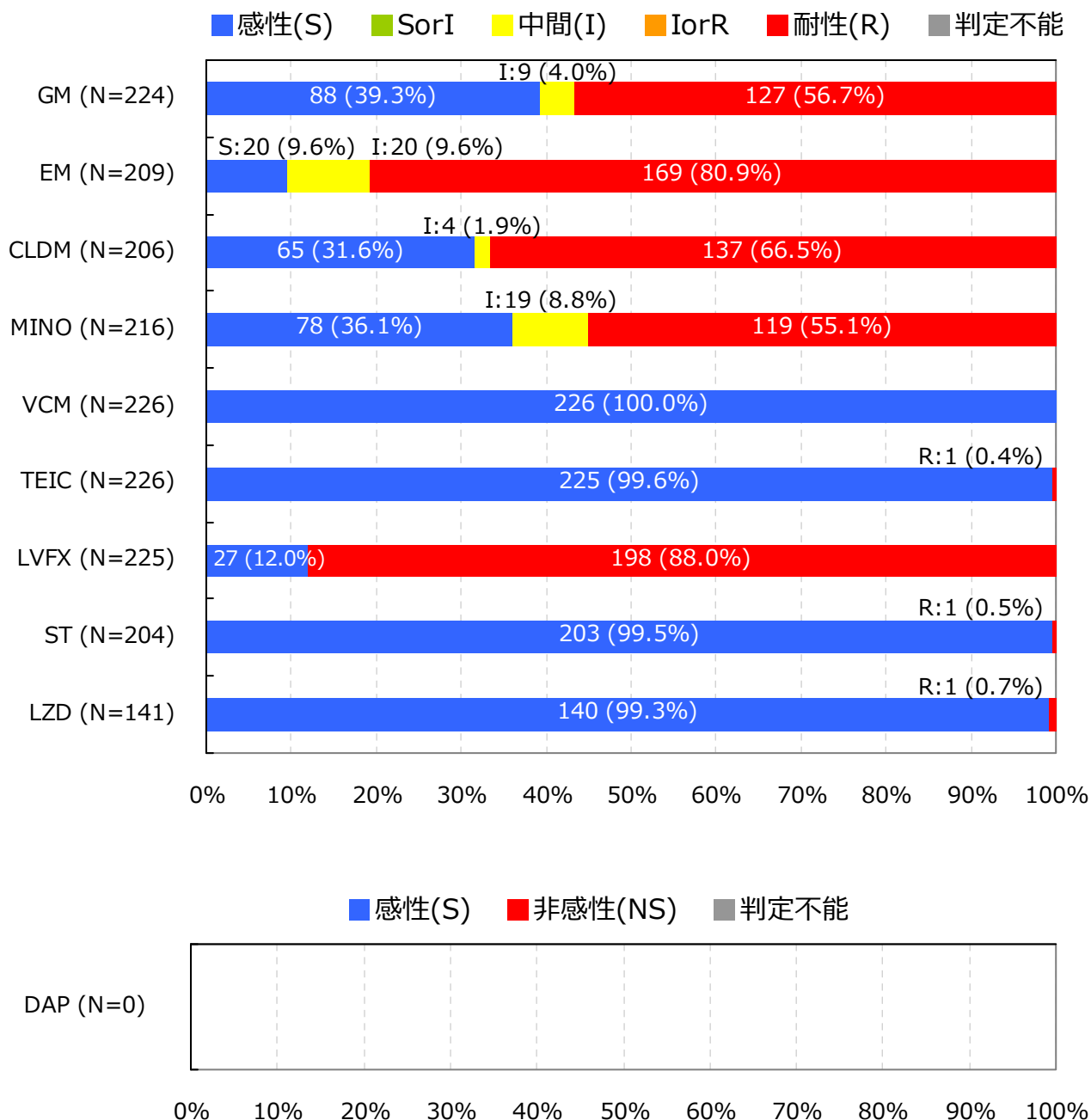
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

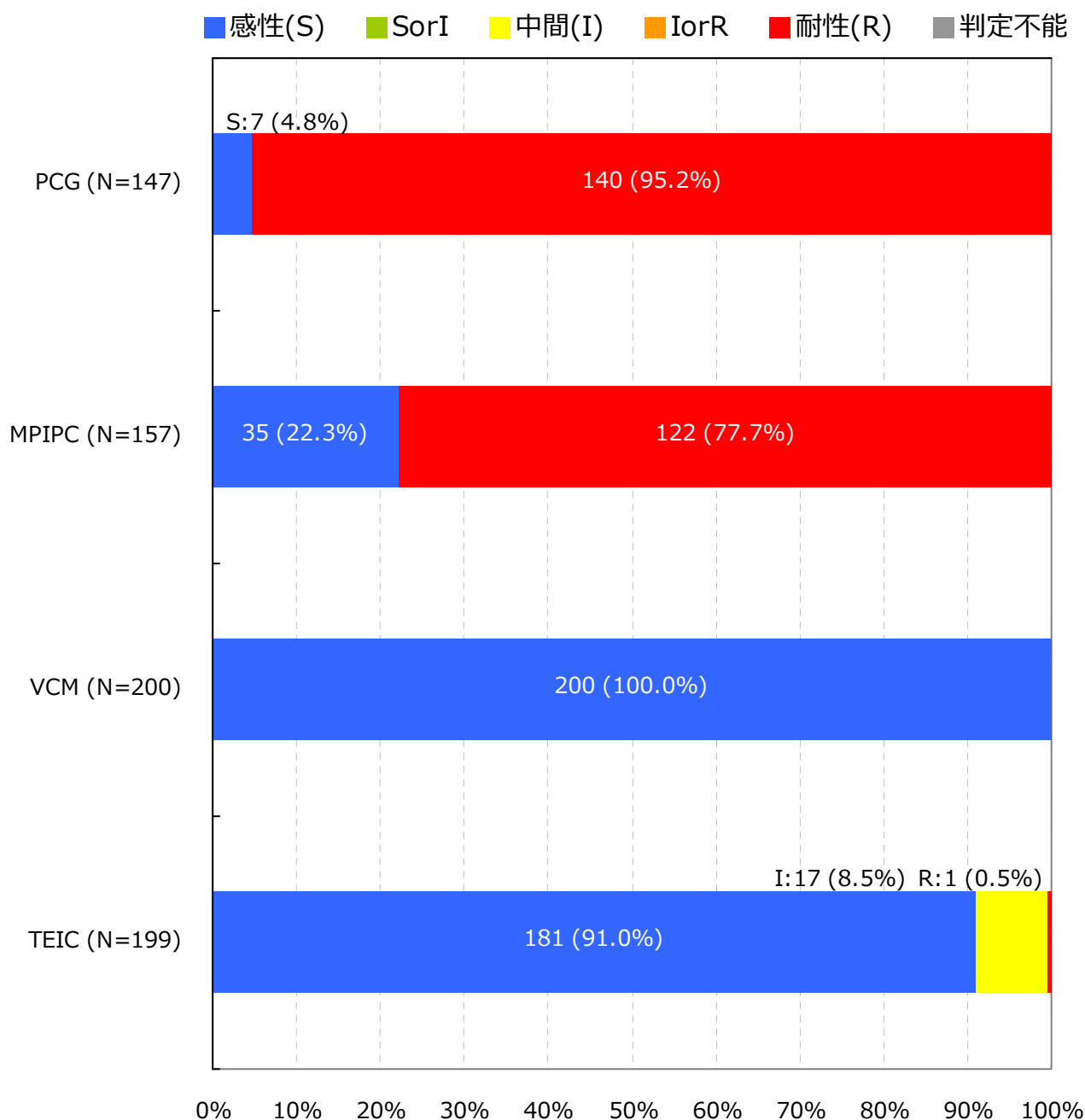
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

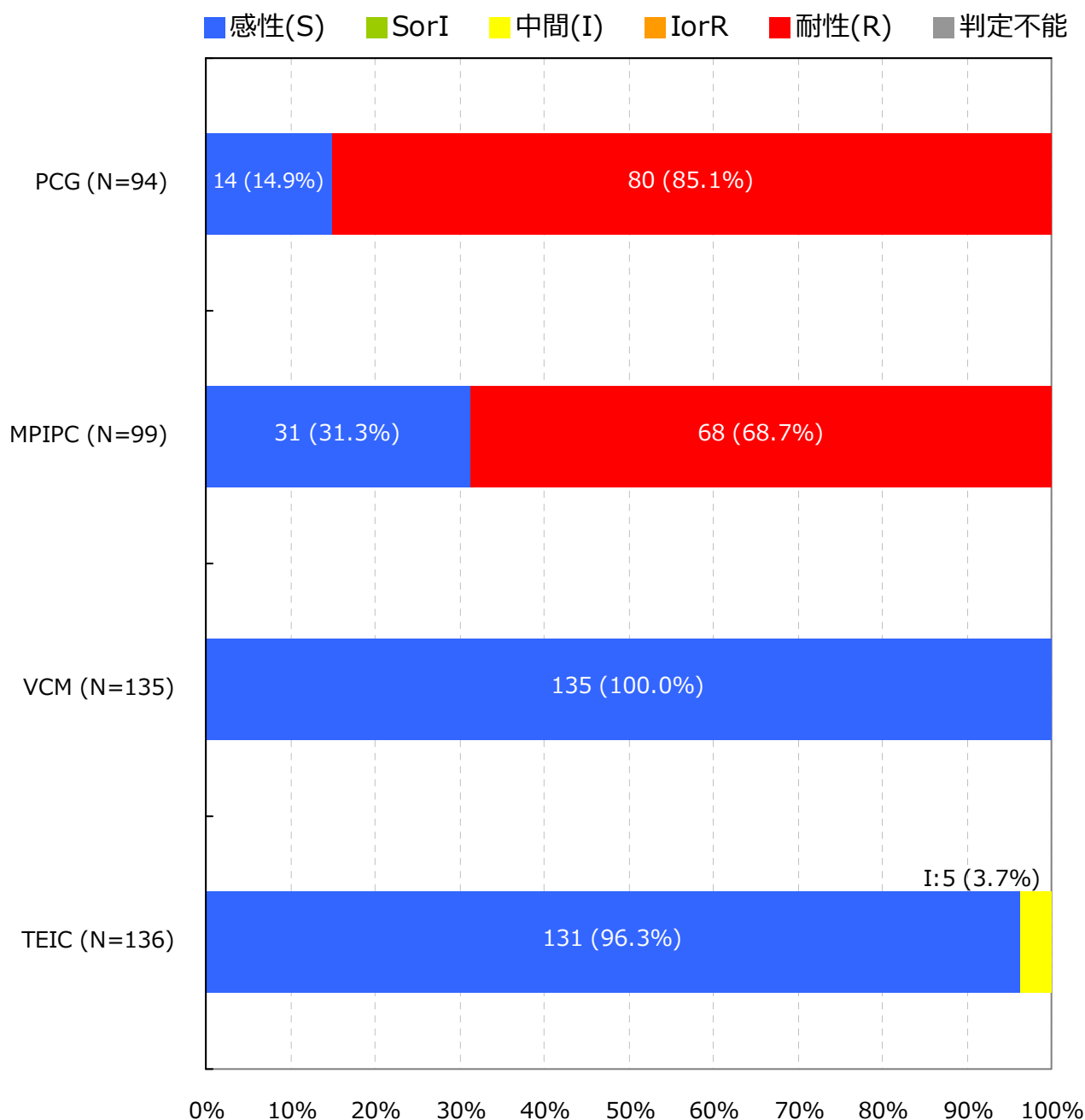
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



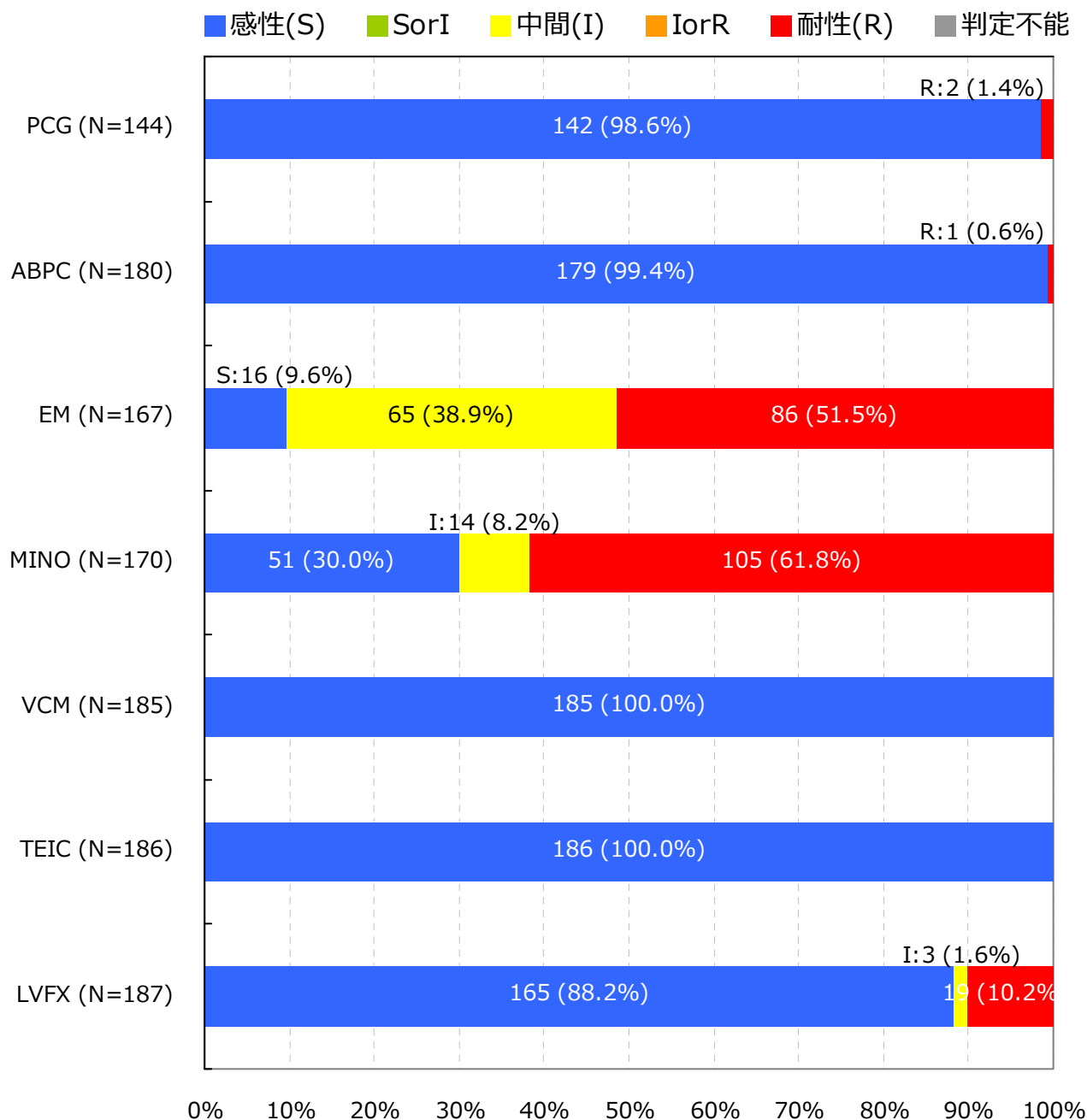
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

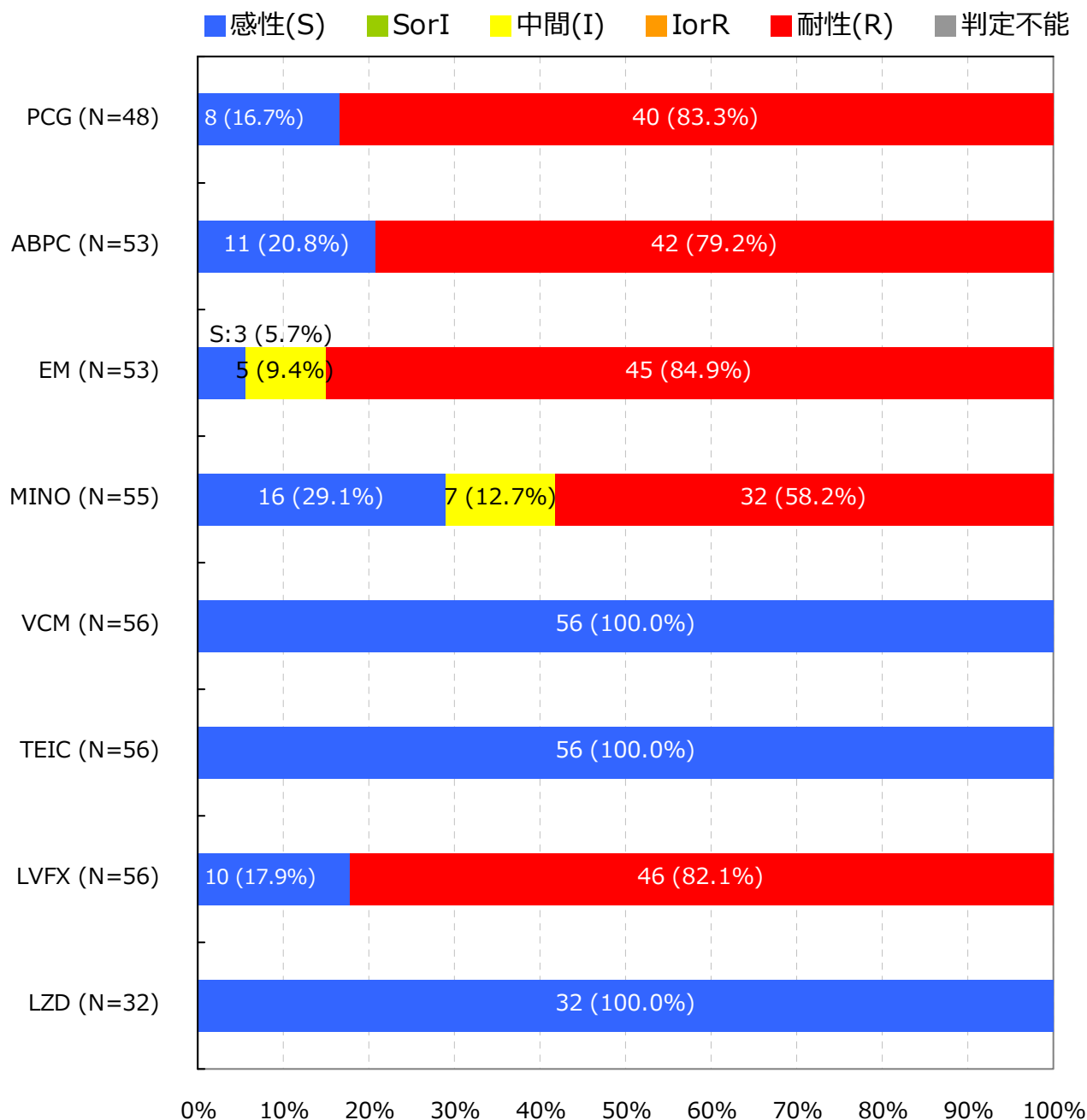
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

(愛媛県)

公開情報 2015年7月～9月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

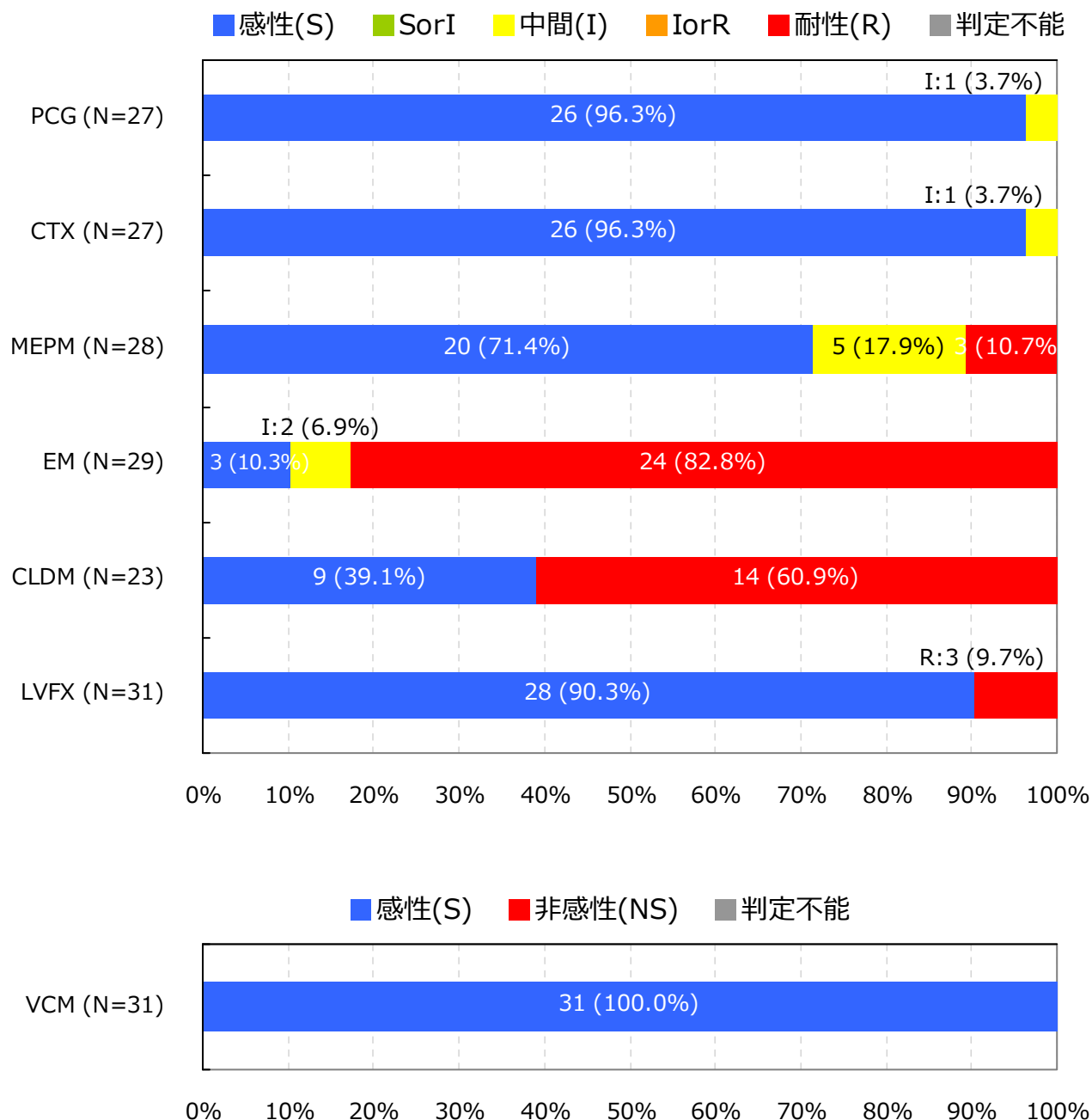
報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

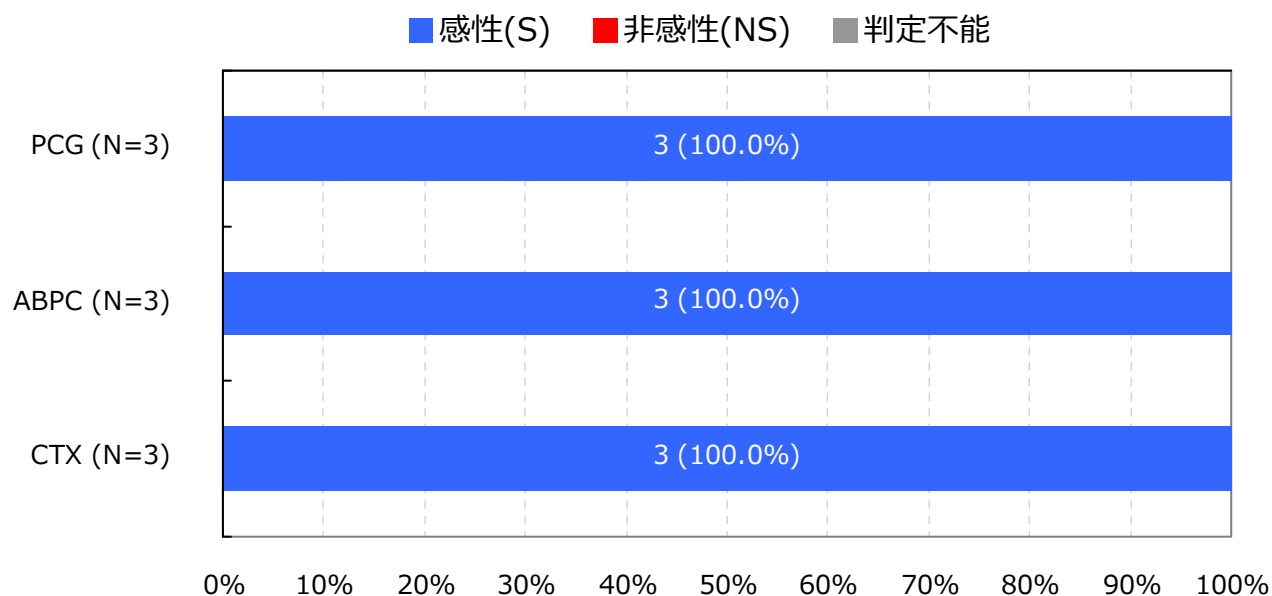
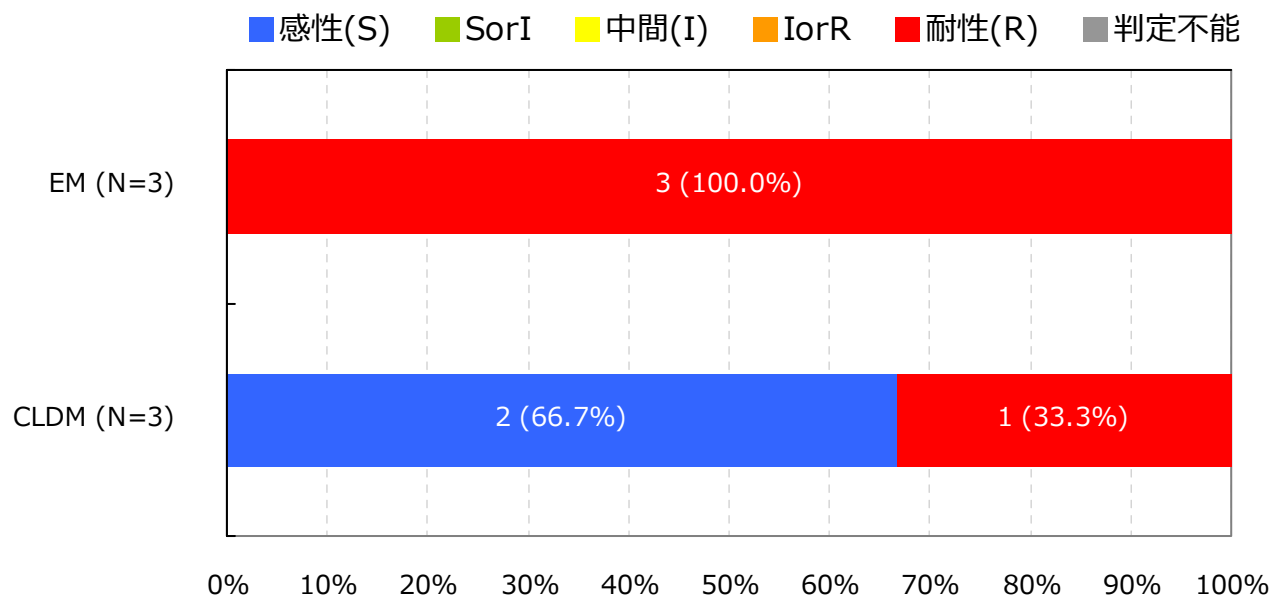
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

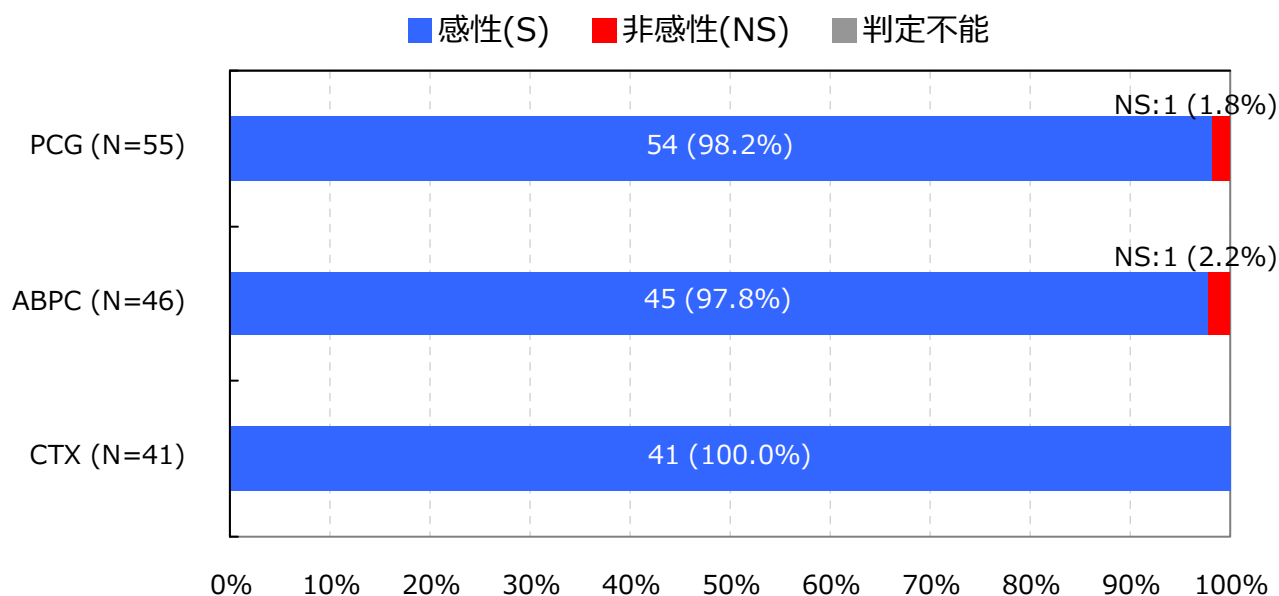
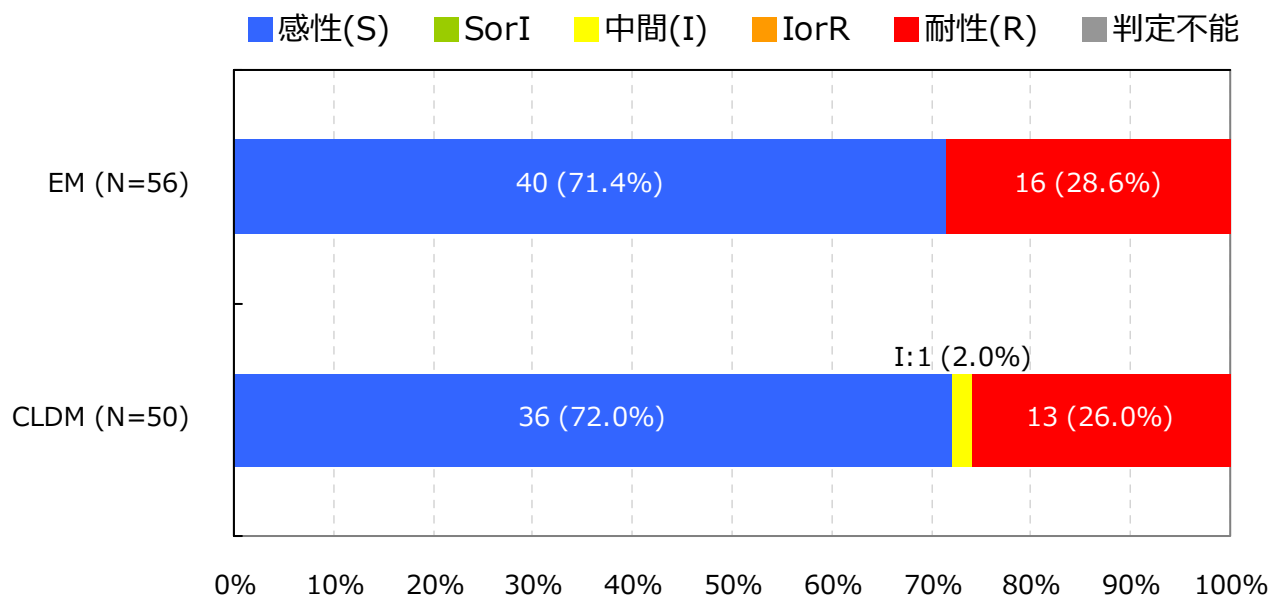
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

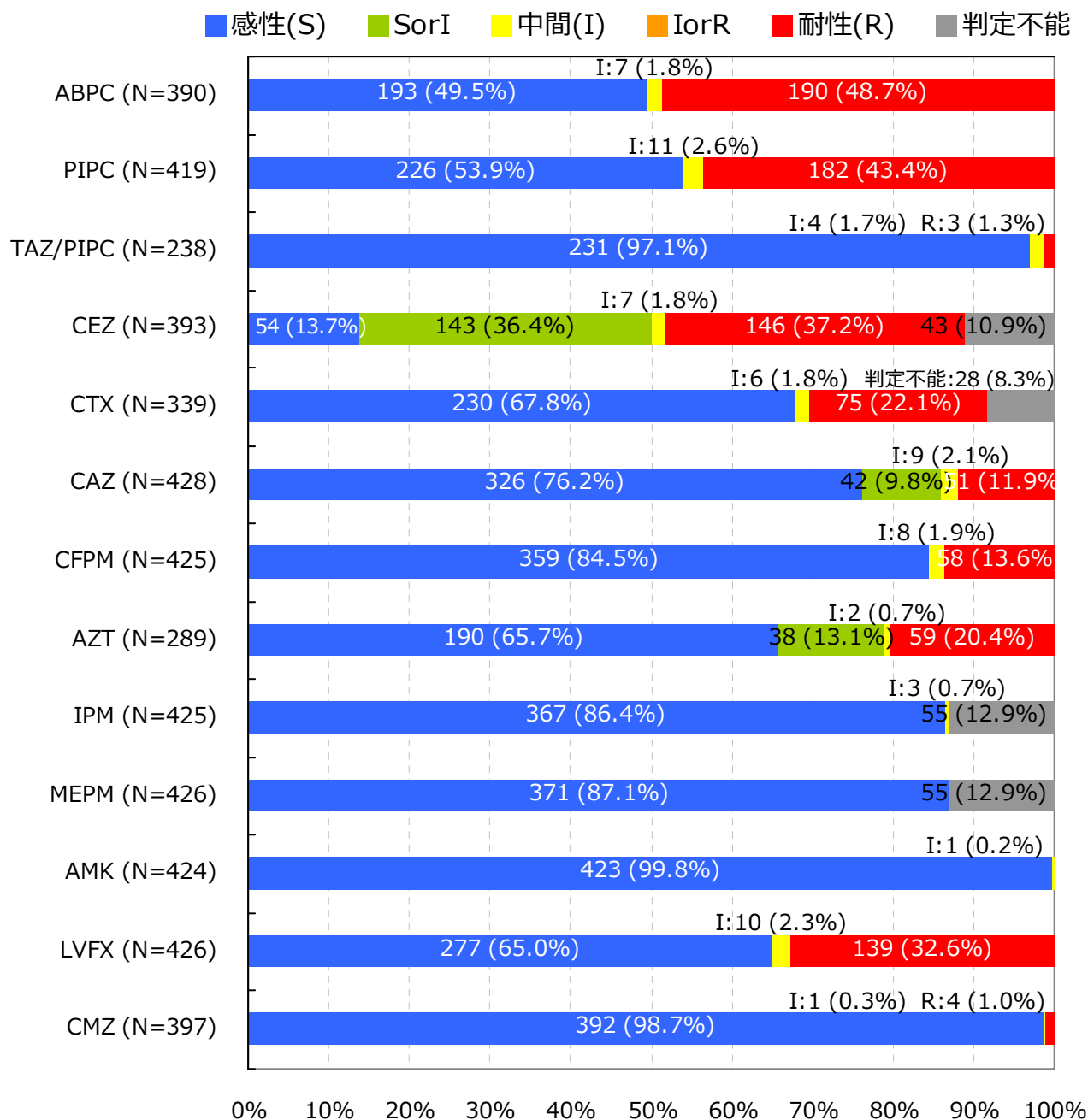
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

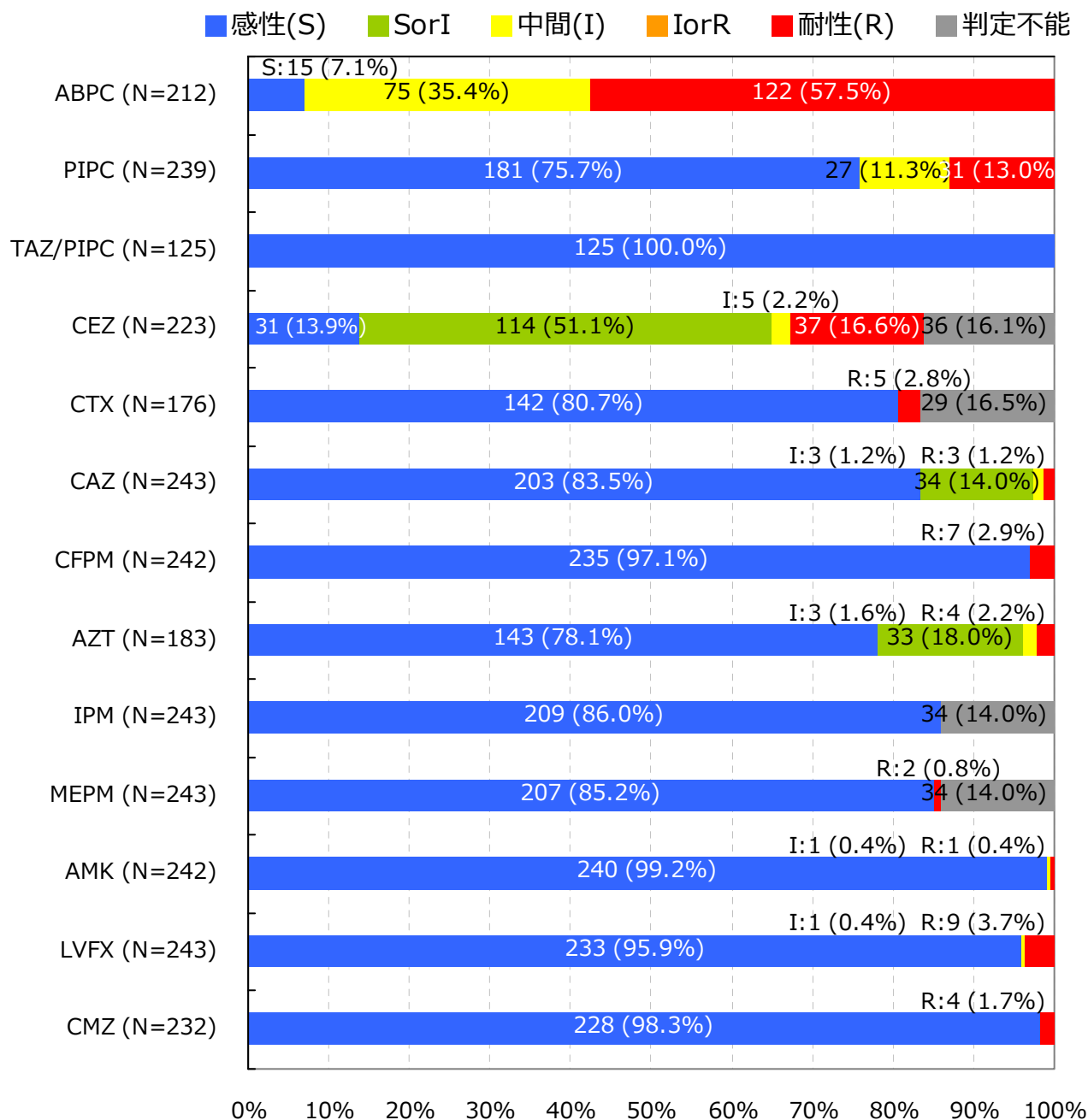
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

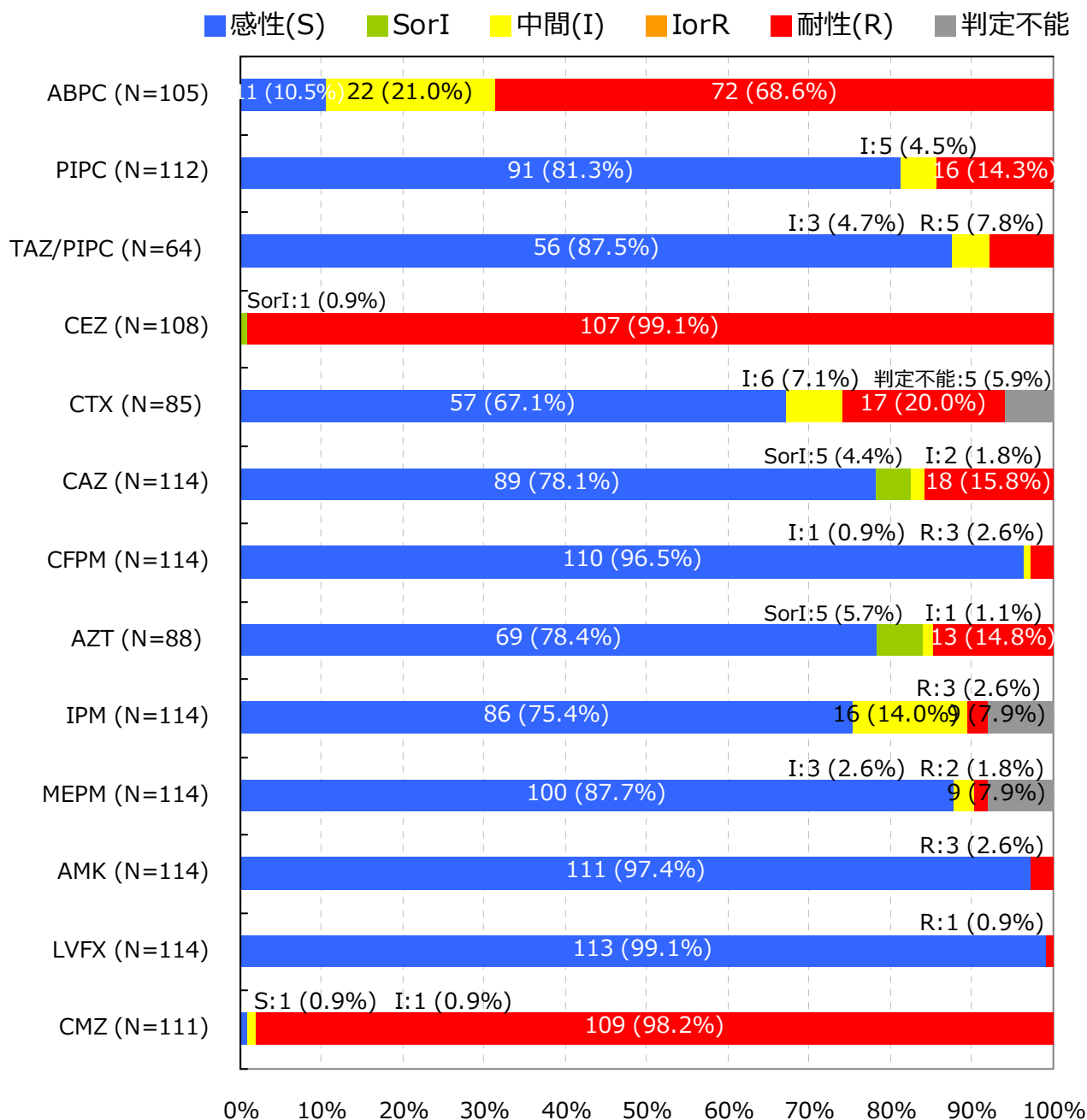
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

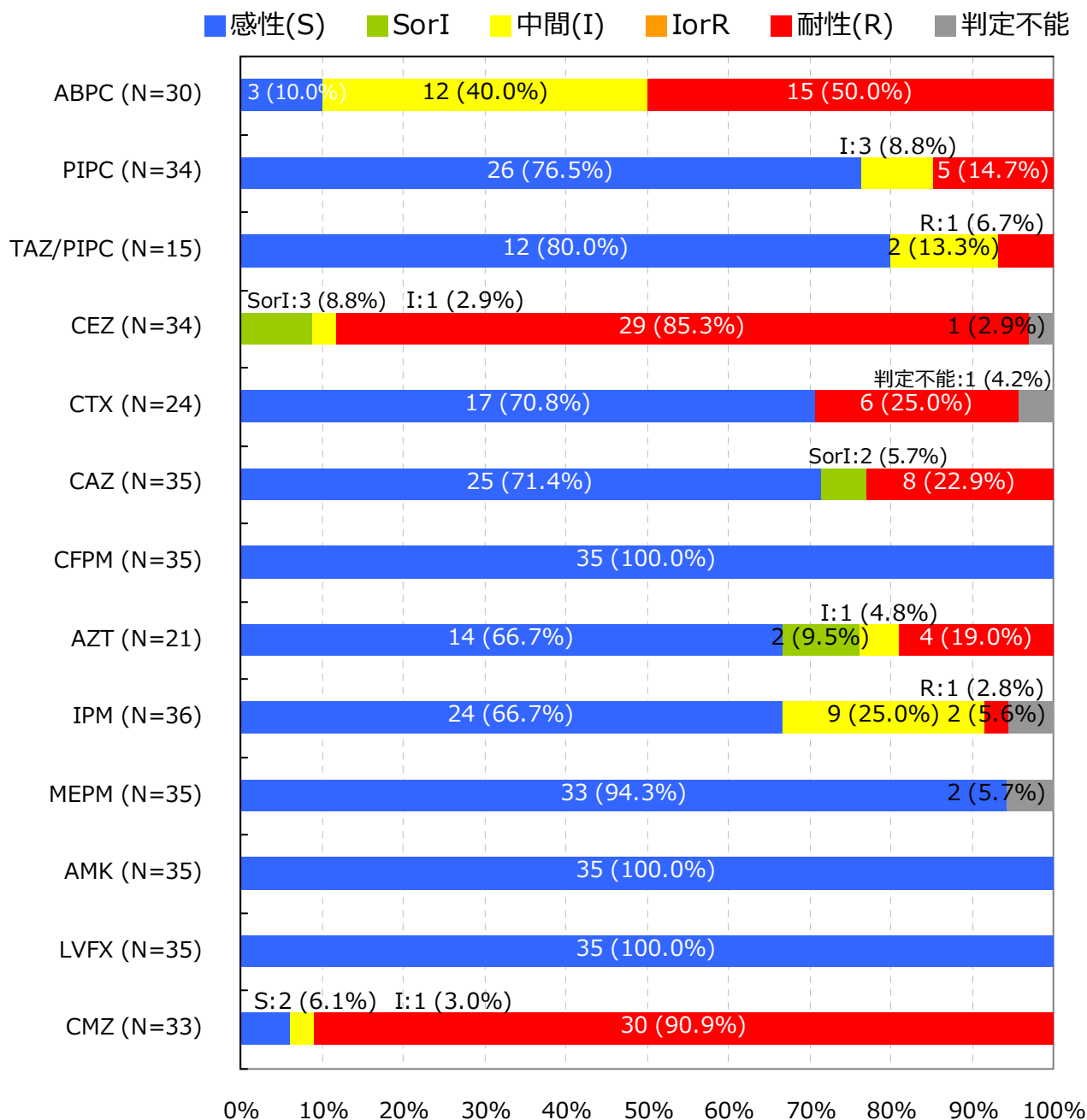
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

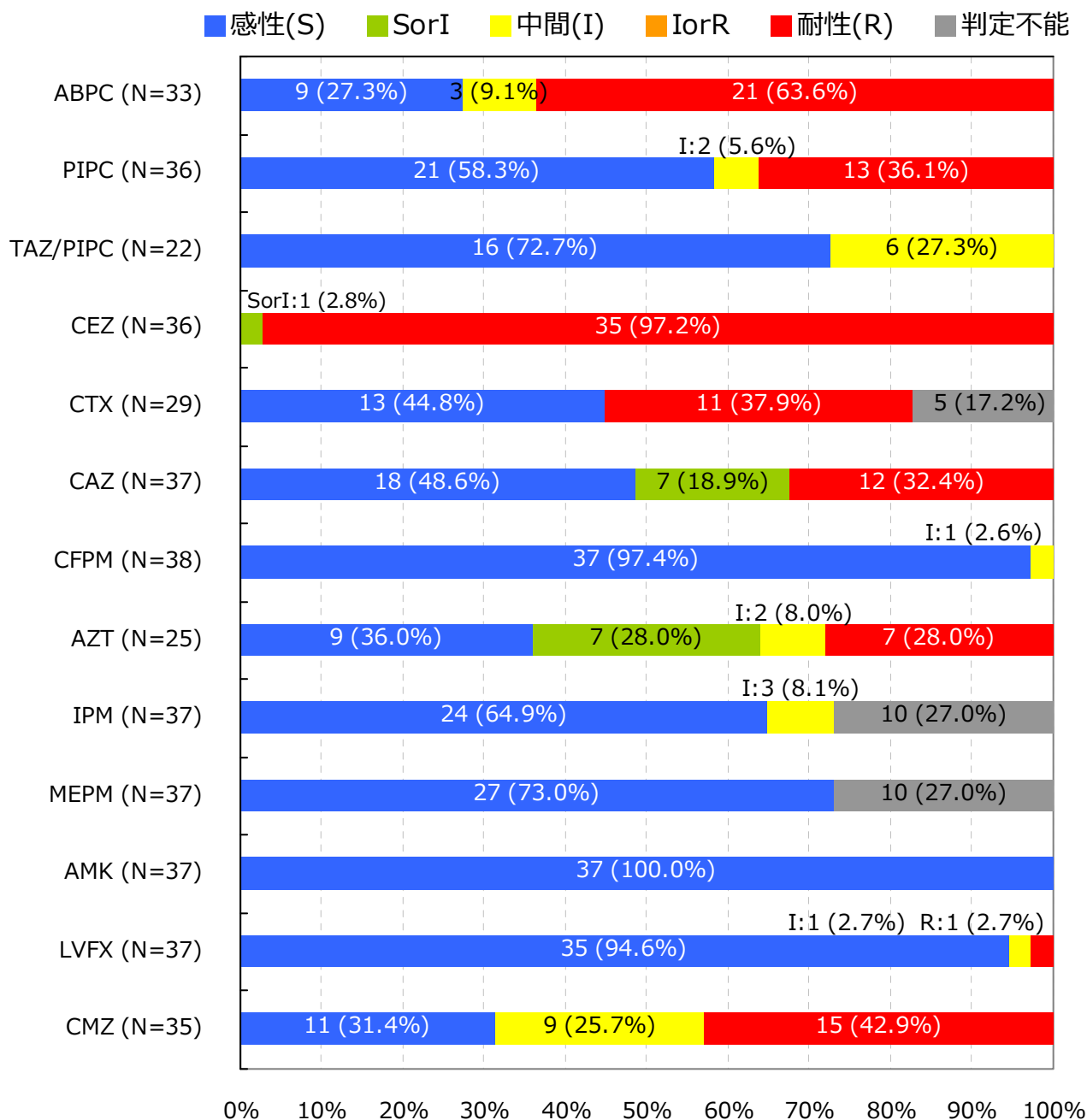
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

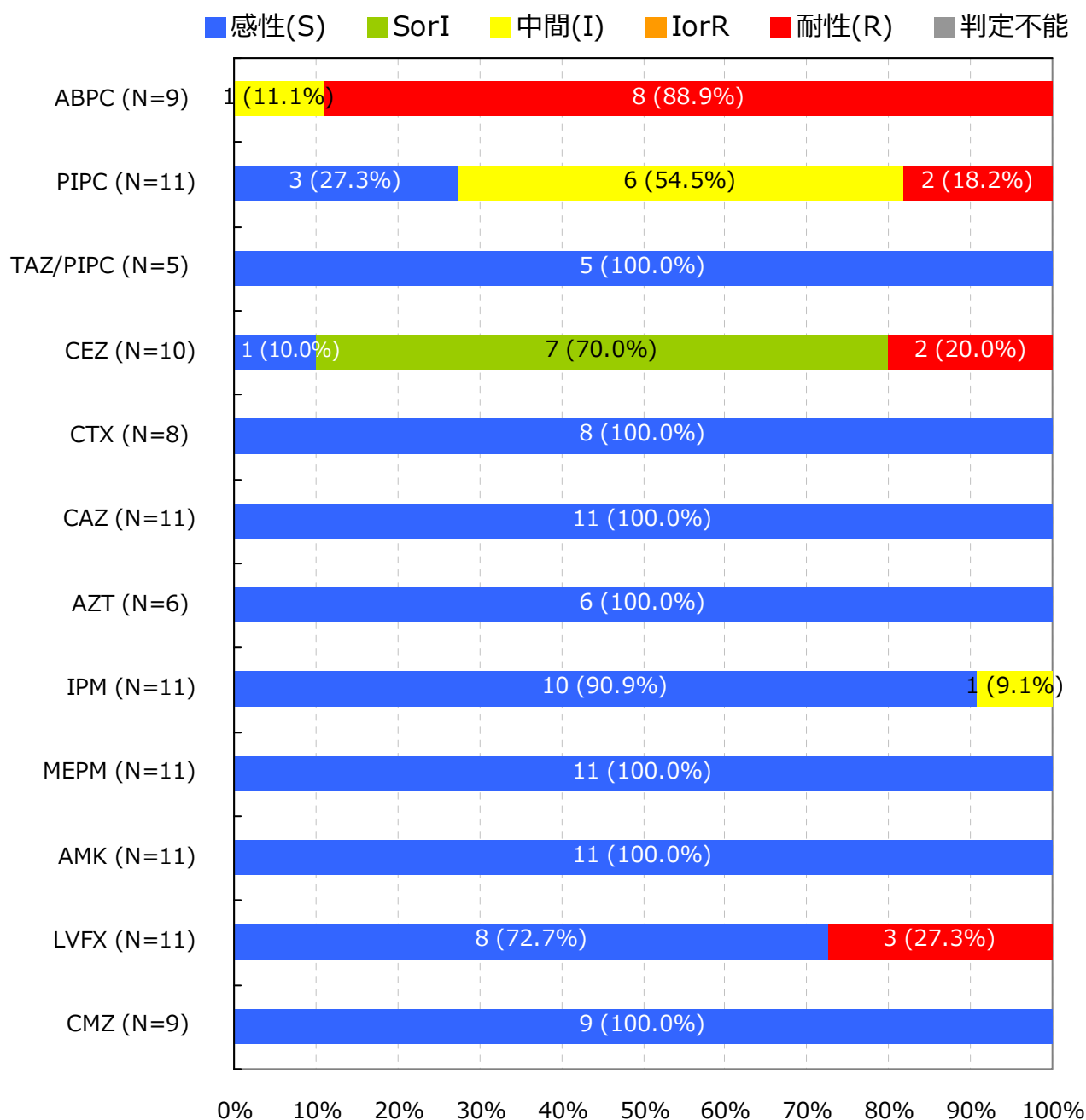
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

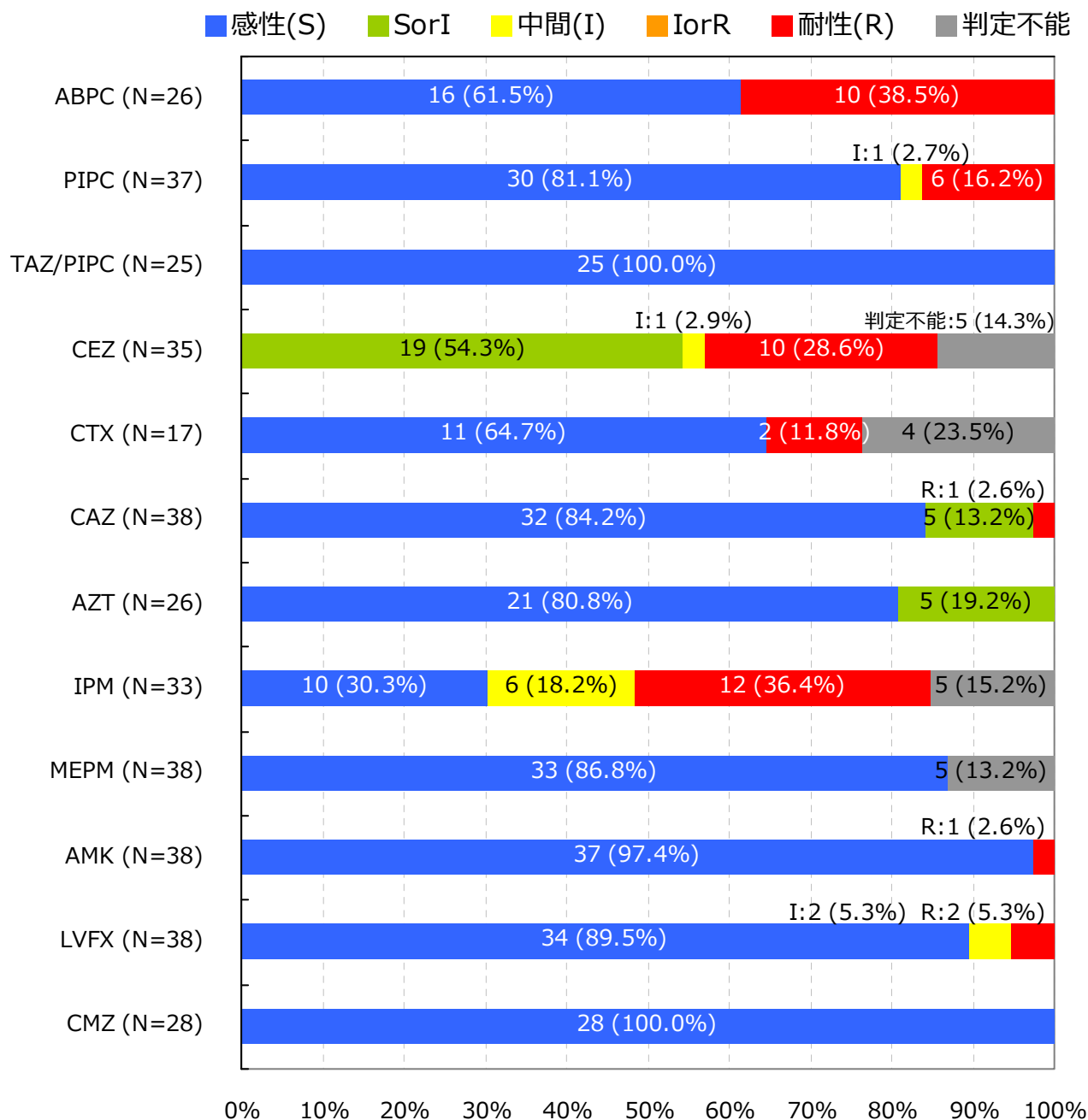
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

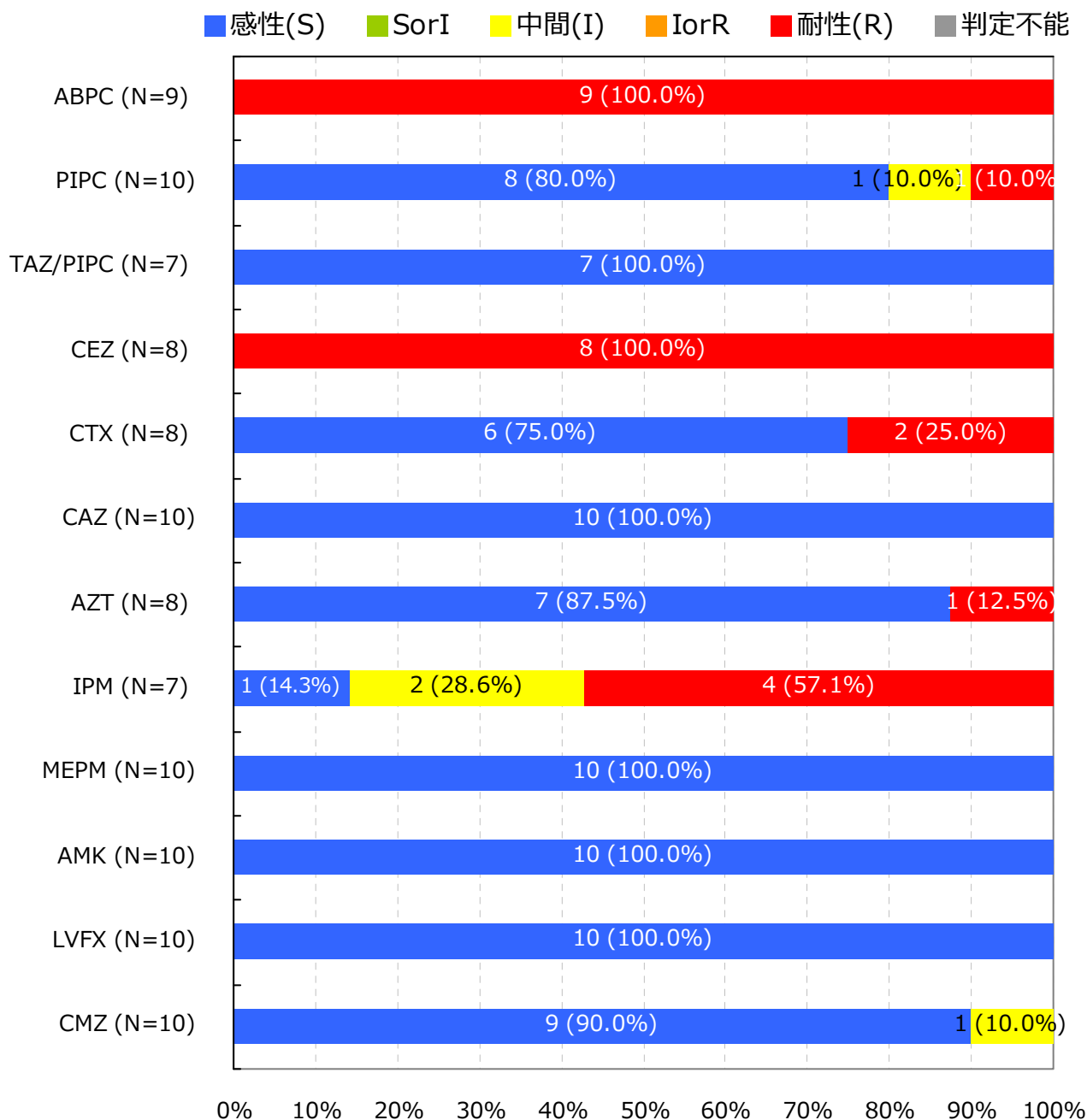
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

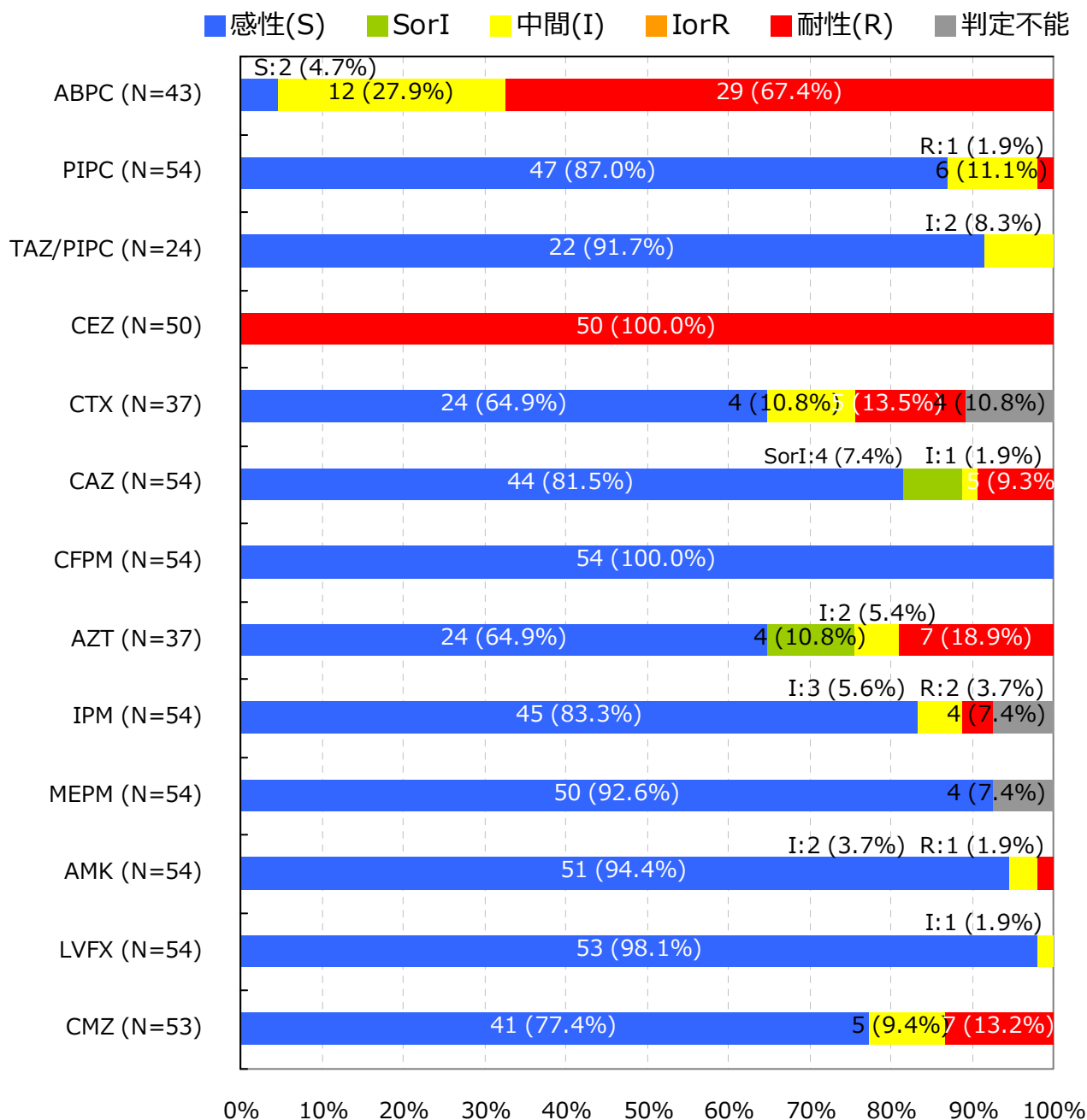
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

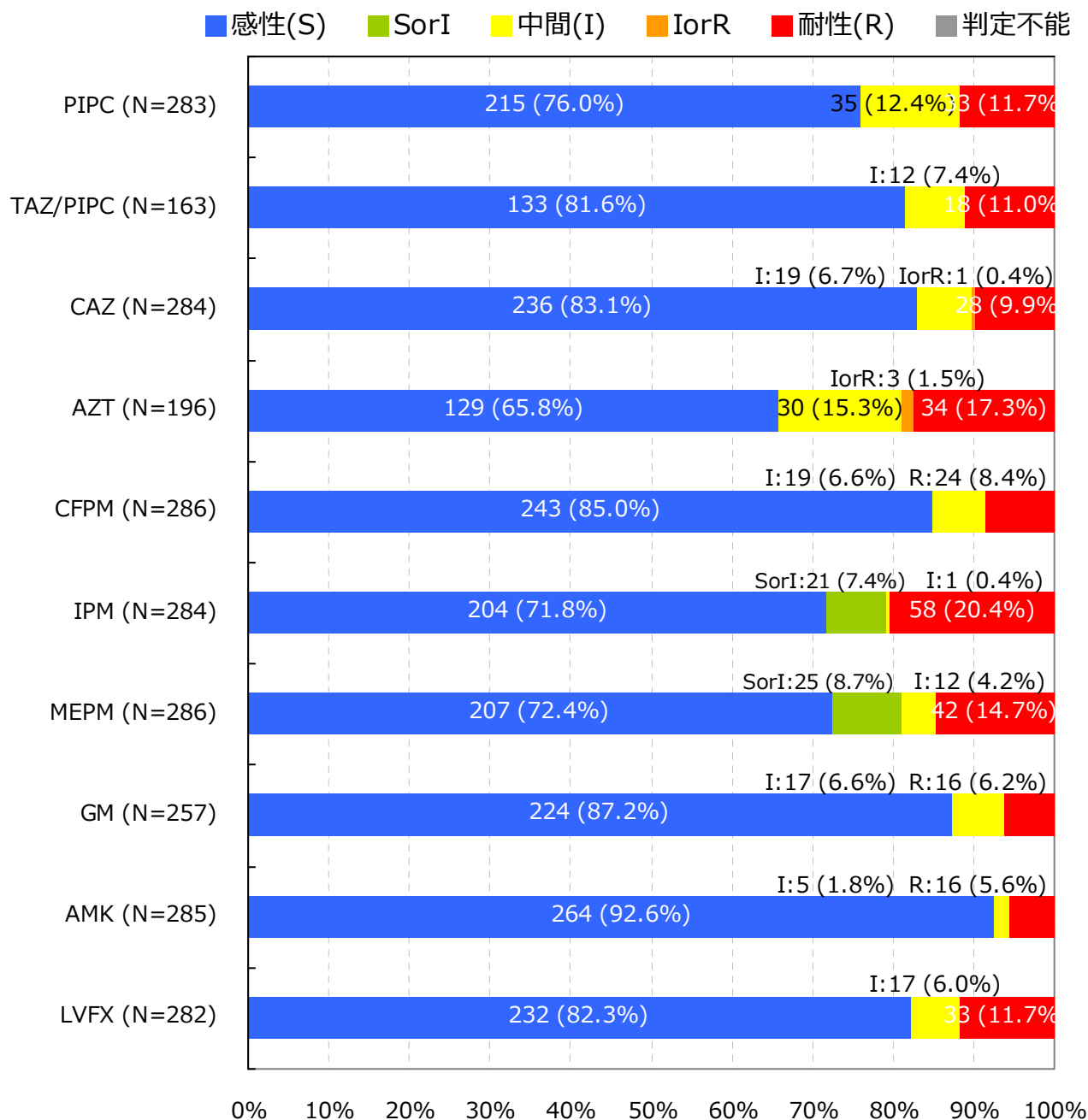
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

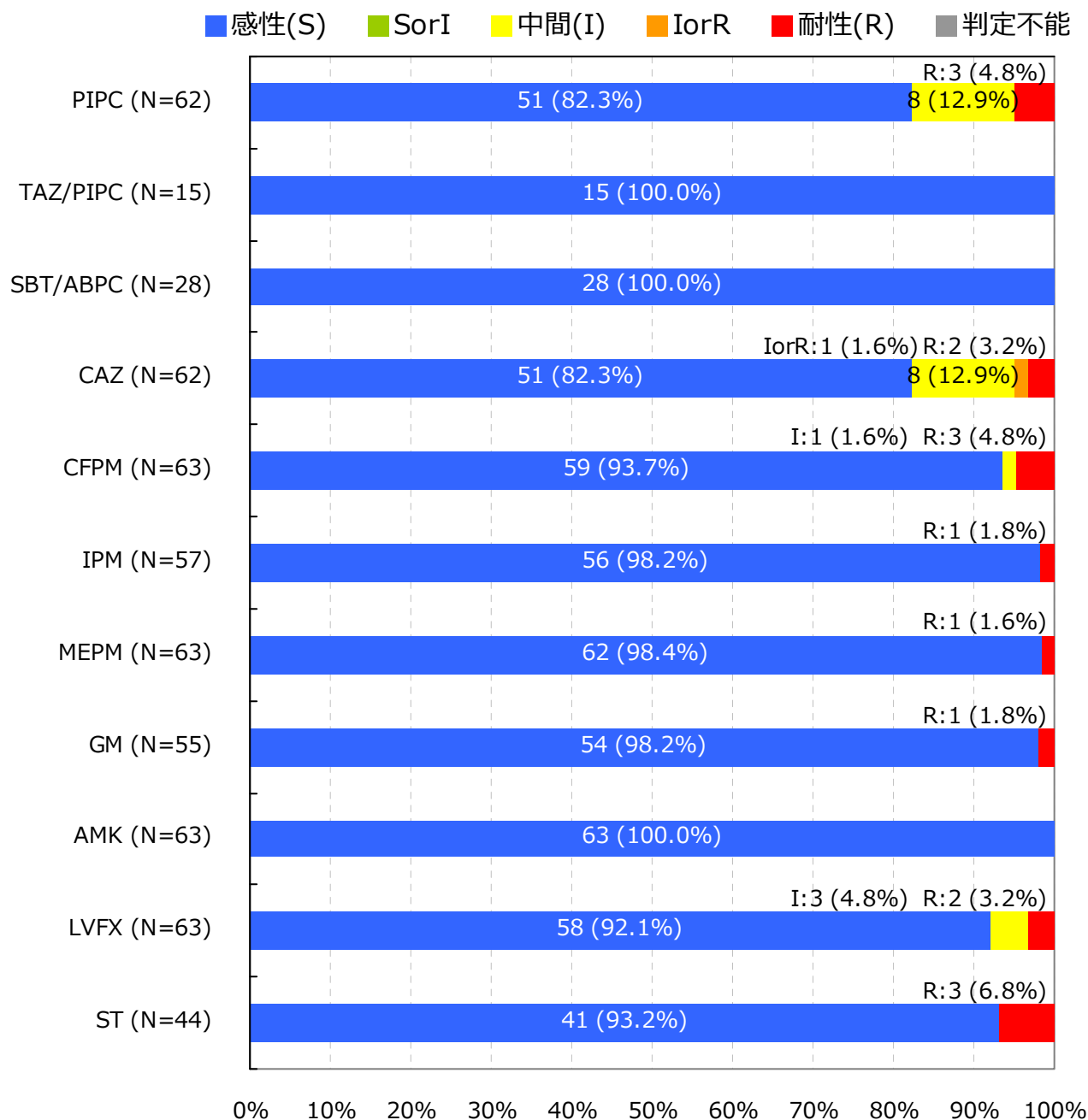
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

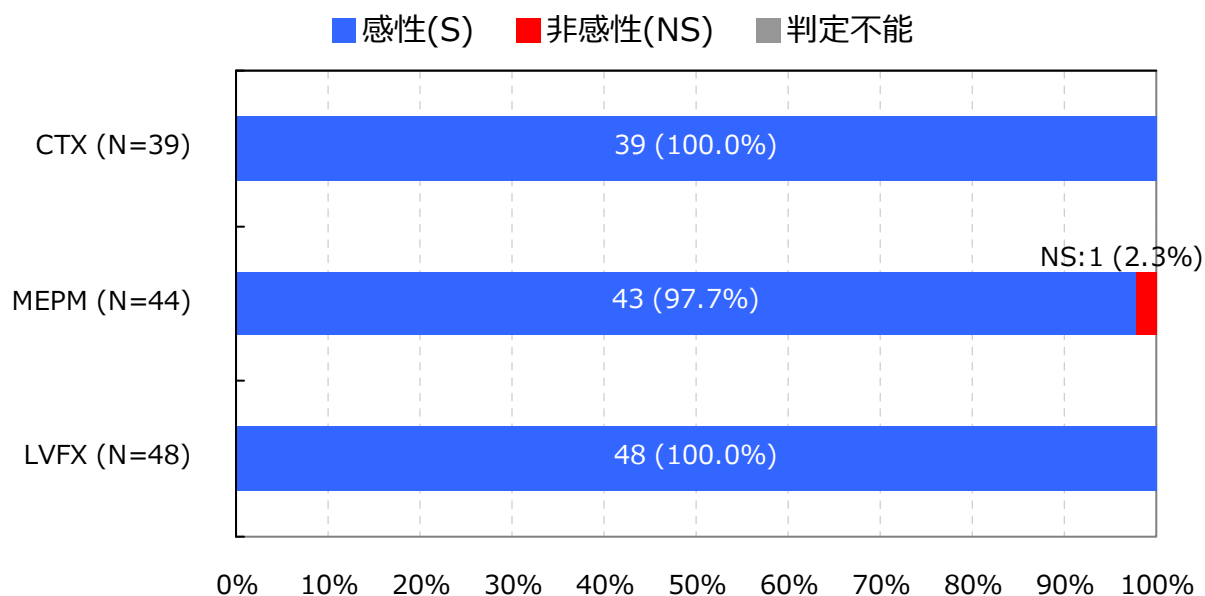
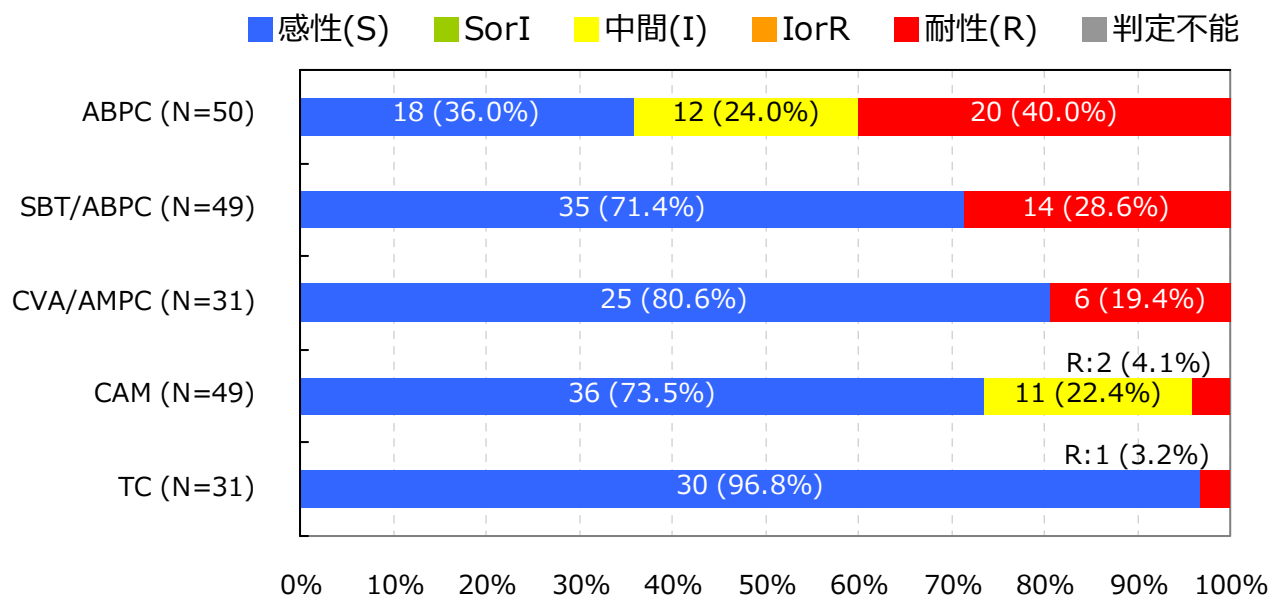
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

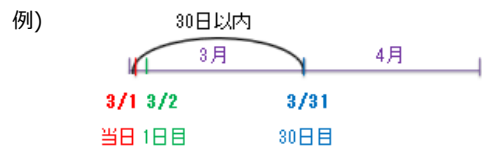
2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。

## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

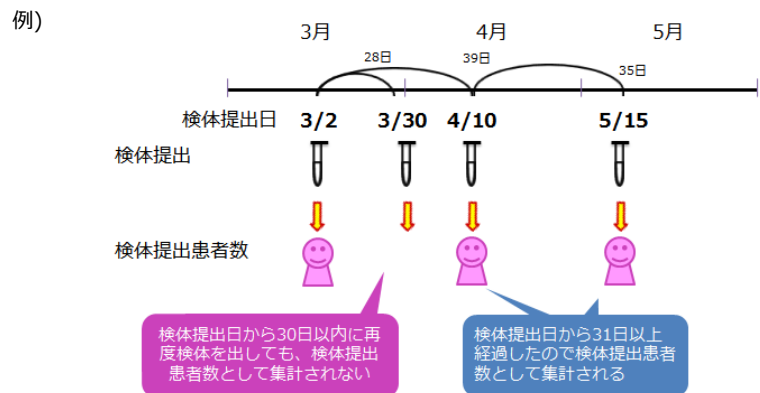
### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



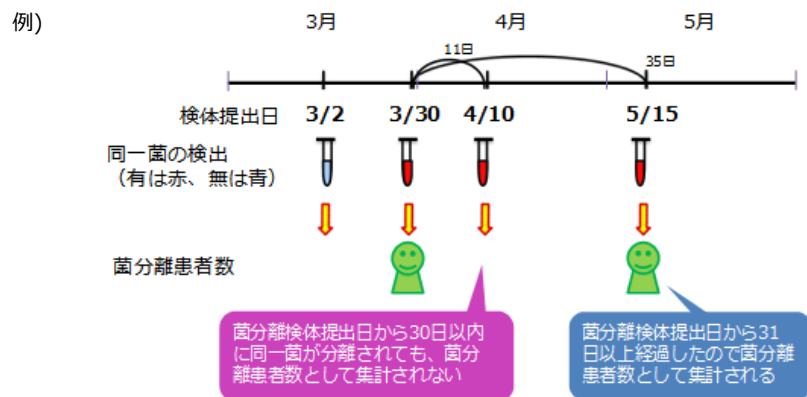
### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



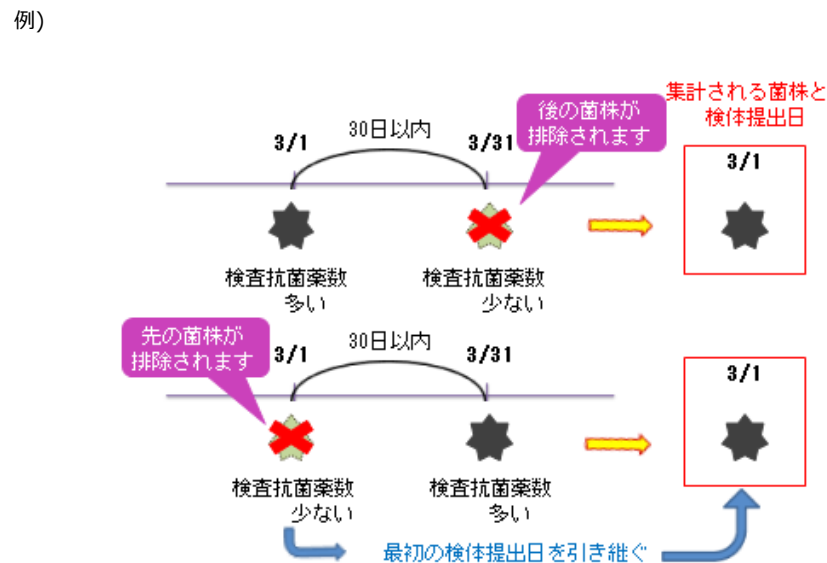
### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

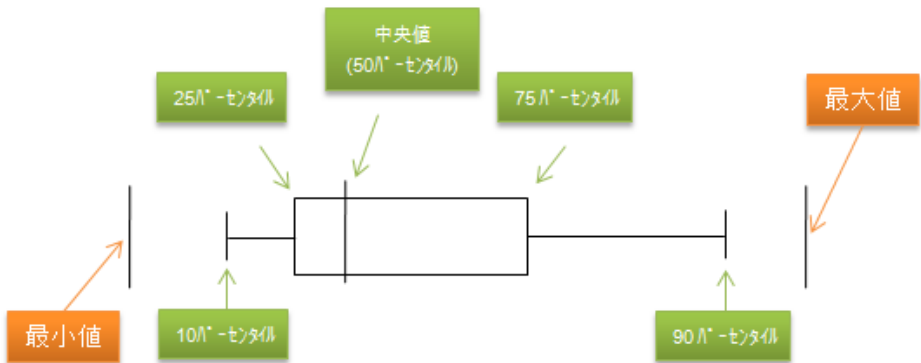
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

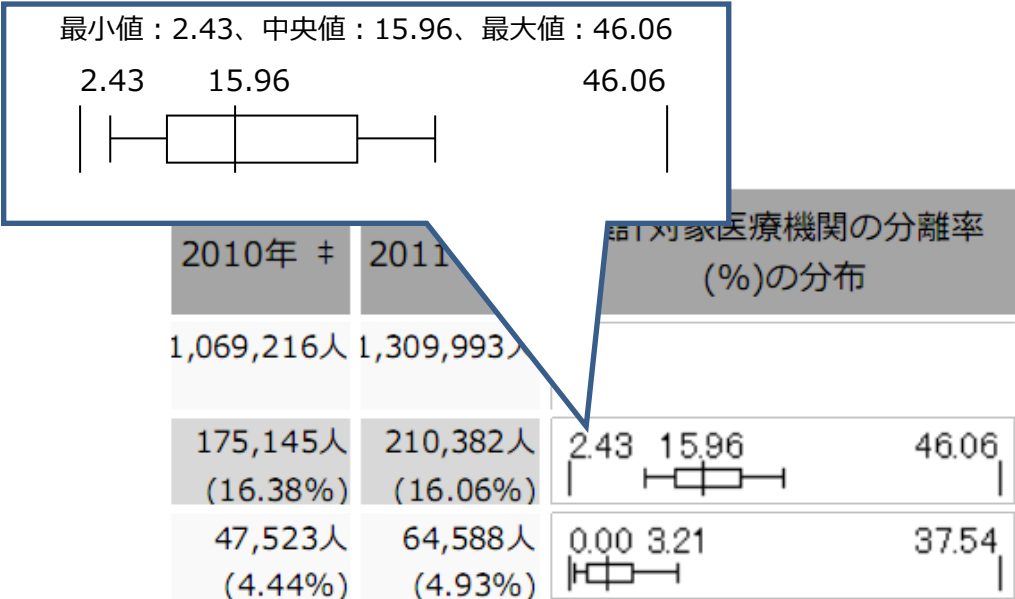
### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

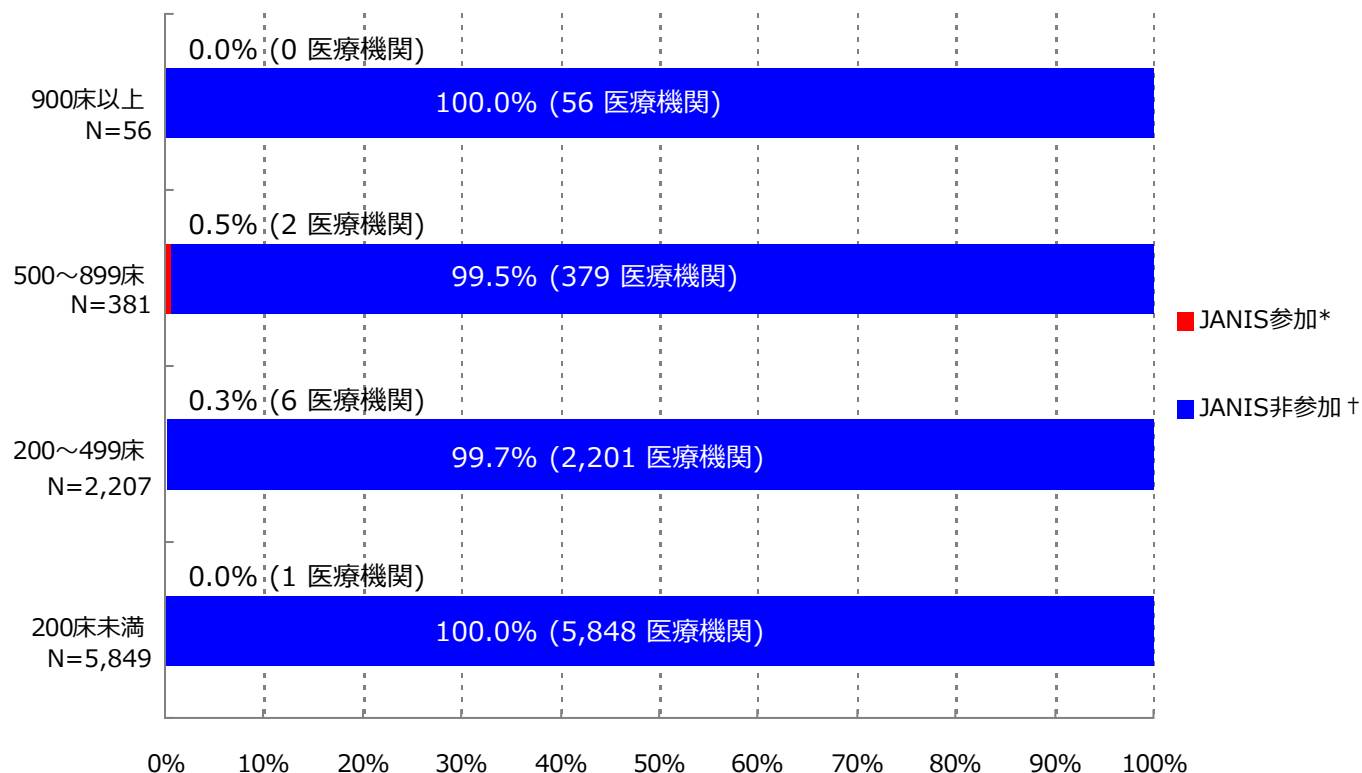


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図



## 1. 集計対象医療機関数(9医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年7～9月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2014年 全国医療機関数 ‡) - (2015年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 全国医療機関数 ‡	2015年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)
900床以上	56	0 ( 0.0% )
500～899床	381	2 ( 0.5% )
200～499床	2,207	6 ( 0.3% )
200床未満	5,849	1 ( 0.0% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	8,493	9 ( 0.1% )

‡ 平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	9	2,682	1,991 (3,918)
尿検体	9	1,168	683 (914)
便検体	9	624	478 (822)
血液検体	9	3,353	453 (503)
髄液検体	6	73	6 (6)
その他	9	2,539	1,118 (1,791)
合計	9	10,439	4,729 (7,954)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

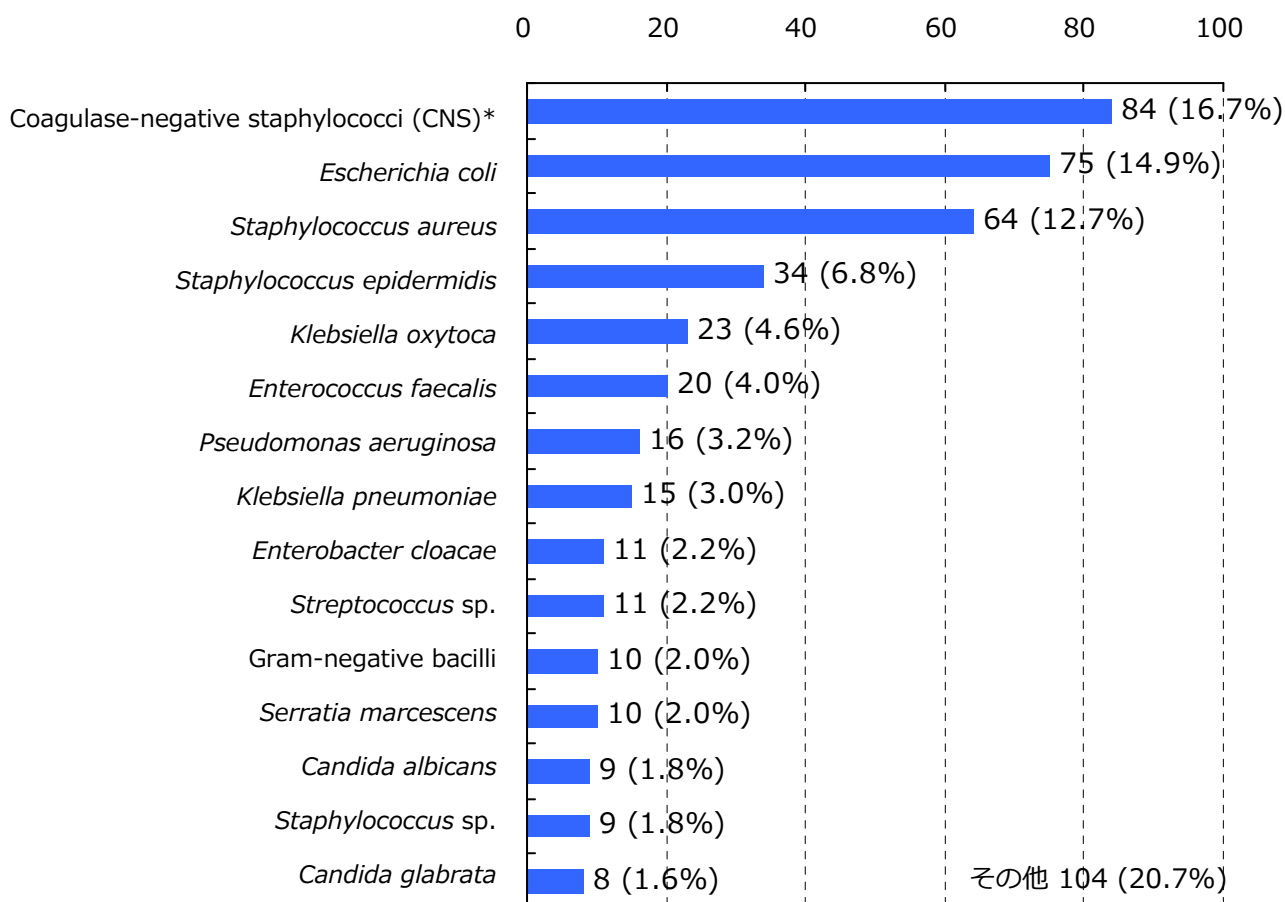
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 3. 検査材料別分離菌数割合

## 血液検体分離菌 (N=503)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

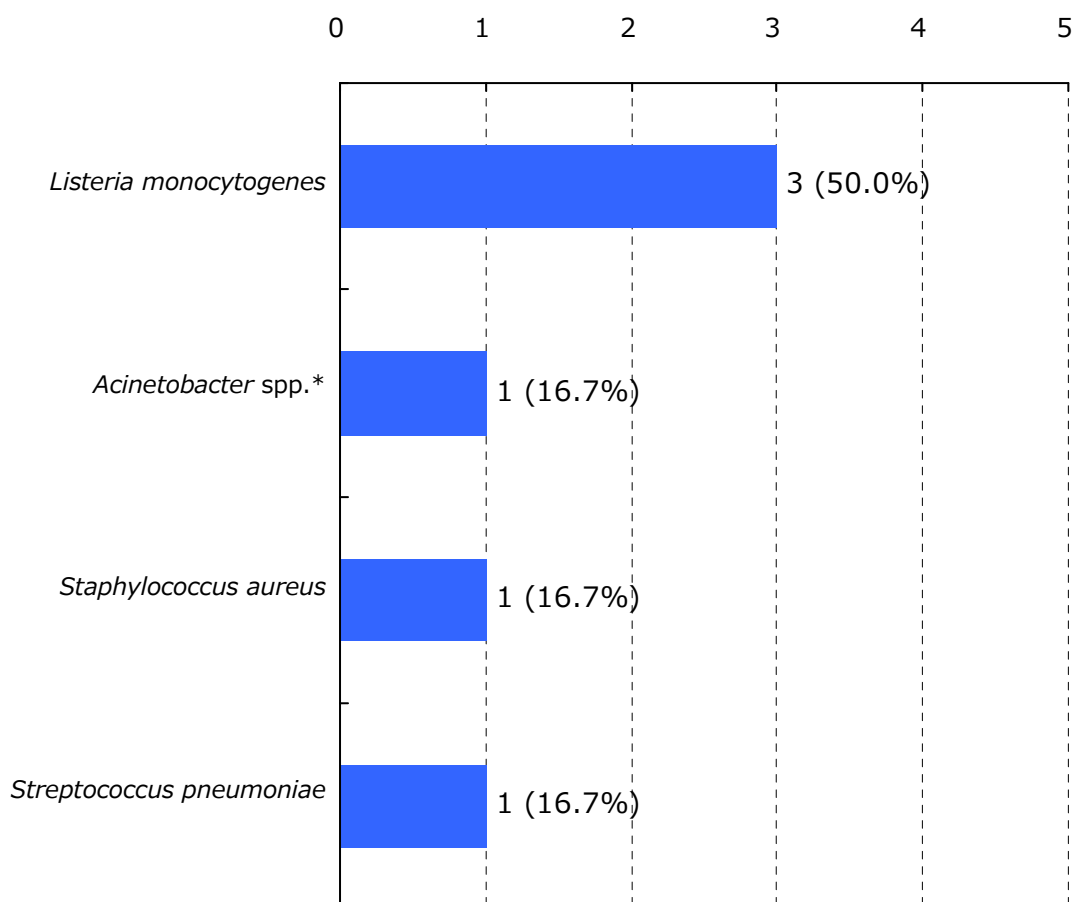
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=6)



\*菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

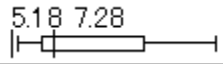


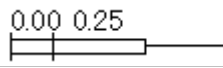
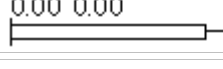

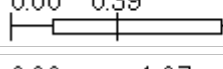
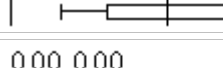
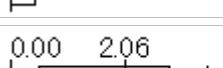
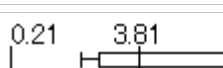

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 ‡	集計対象医療機関の 分離率 ¶(%)の分布
検体提出患者数	3,804人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	300人 (7.89%)	5.18 7.28 22.63 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	1人 (0.03%)	0.00 0.00 0.13 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	21人 (0.55%)	0.00 0.25 1.99 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	3人 (0.08%)	0.00 0.00 0.22 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	16人 (0.42%)	0.00 0.39 1.26 
カルバペネム耐性緑膿菌	40人 (1.05%)	0.00 1.07 2.33 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	9人 (0.24%)	0.00 0.00 1.89 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	66人 (1.74%)	0.00 2.06 6.20 
フルオロキノロン耐性大腸菌	153人 (4.02%)	0.21 3.81 9.76 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

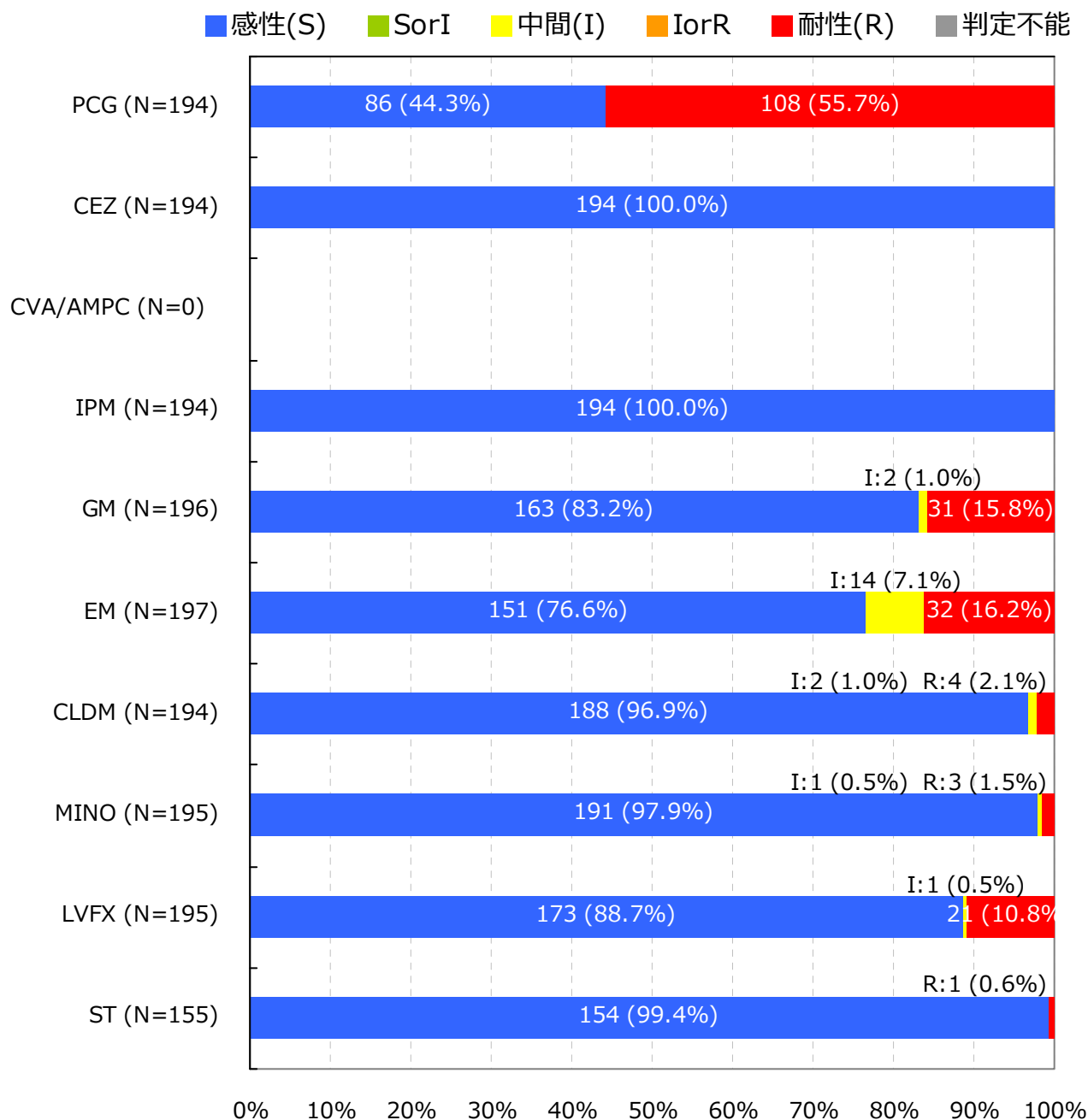
†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MSSA) †

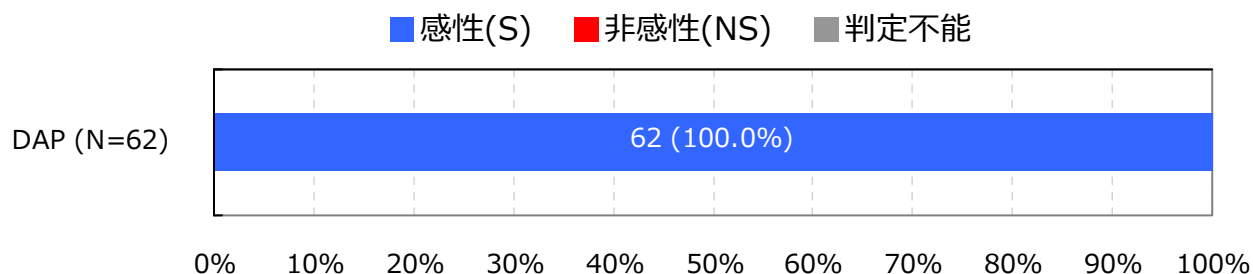
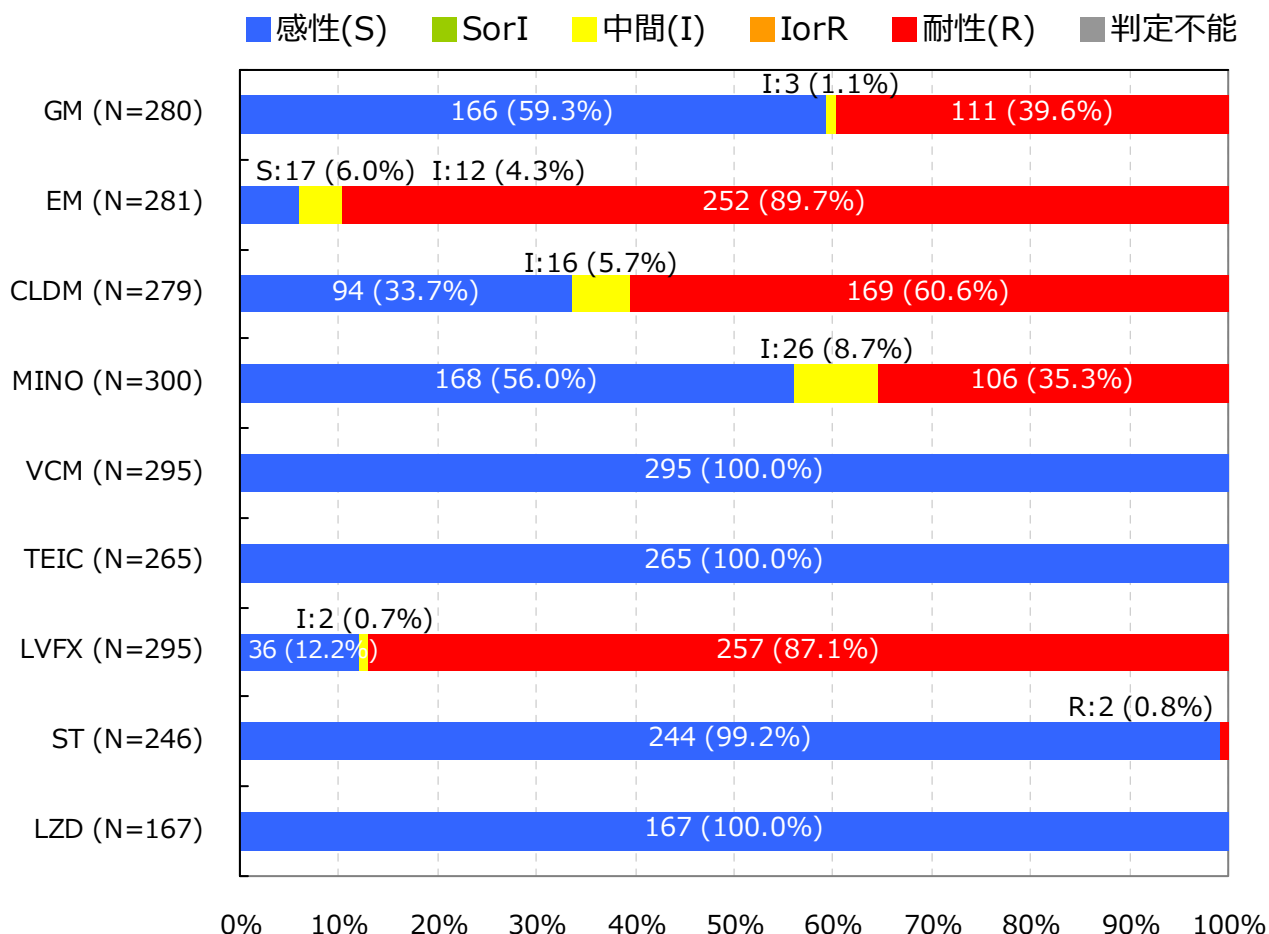
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus aureus* (MRSA) †

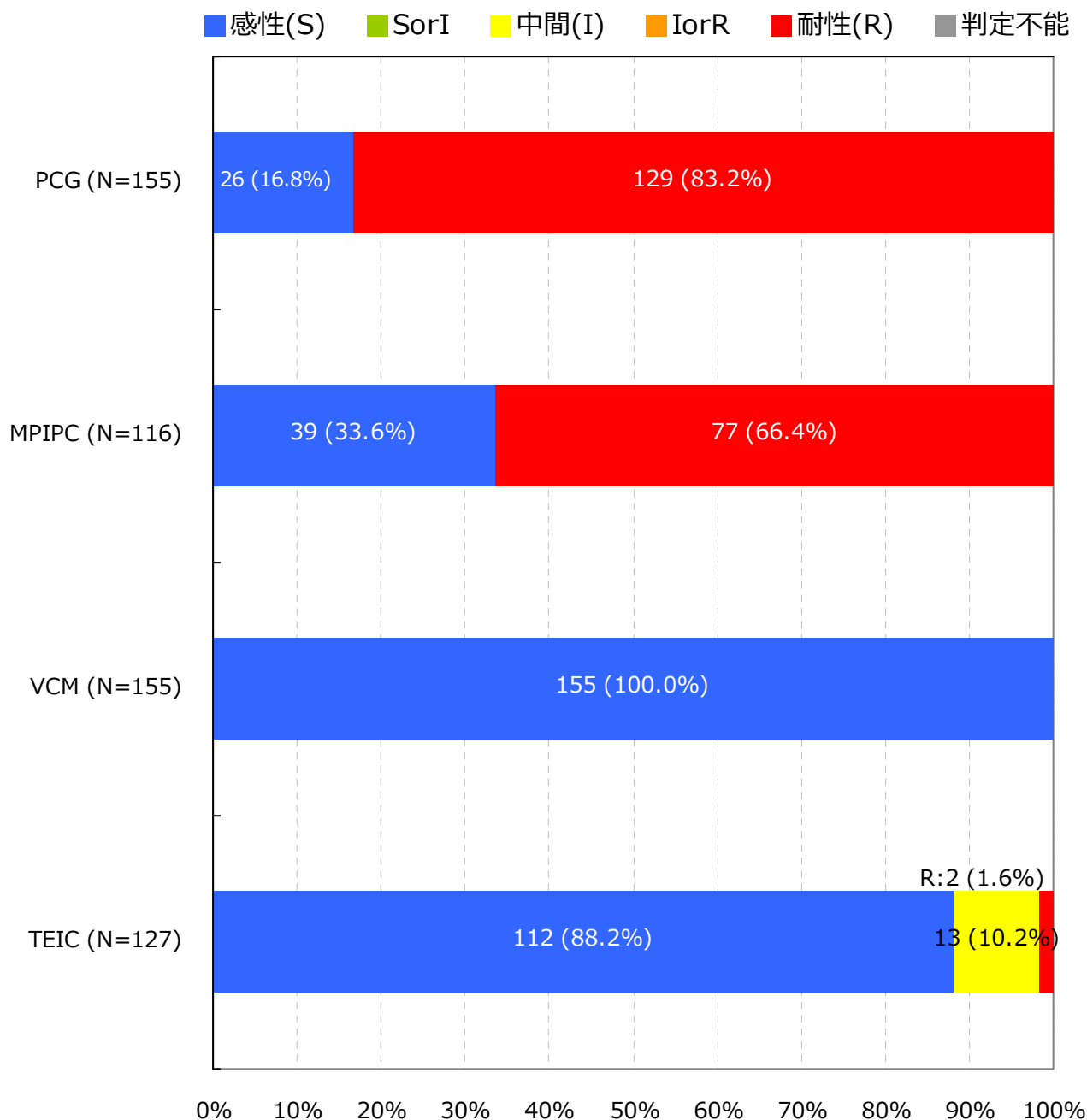
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Staphylococcus epidermidis* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

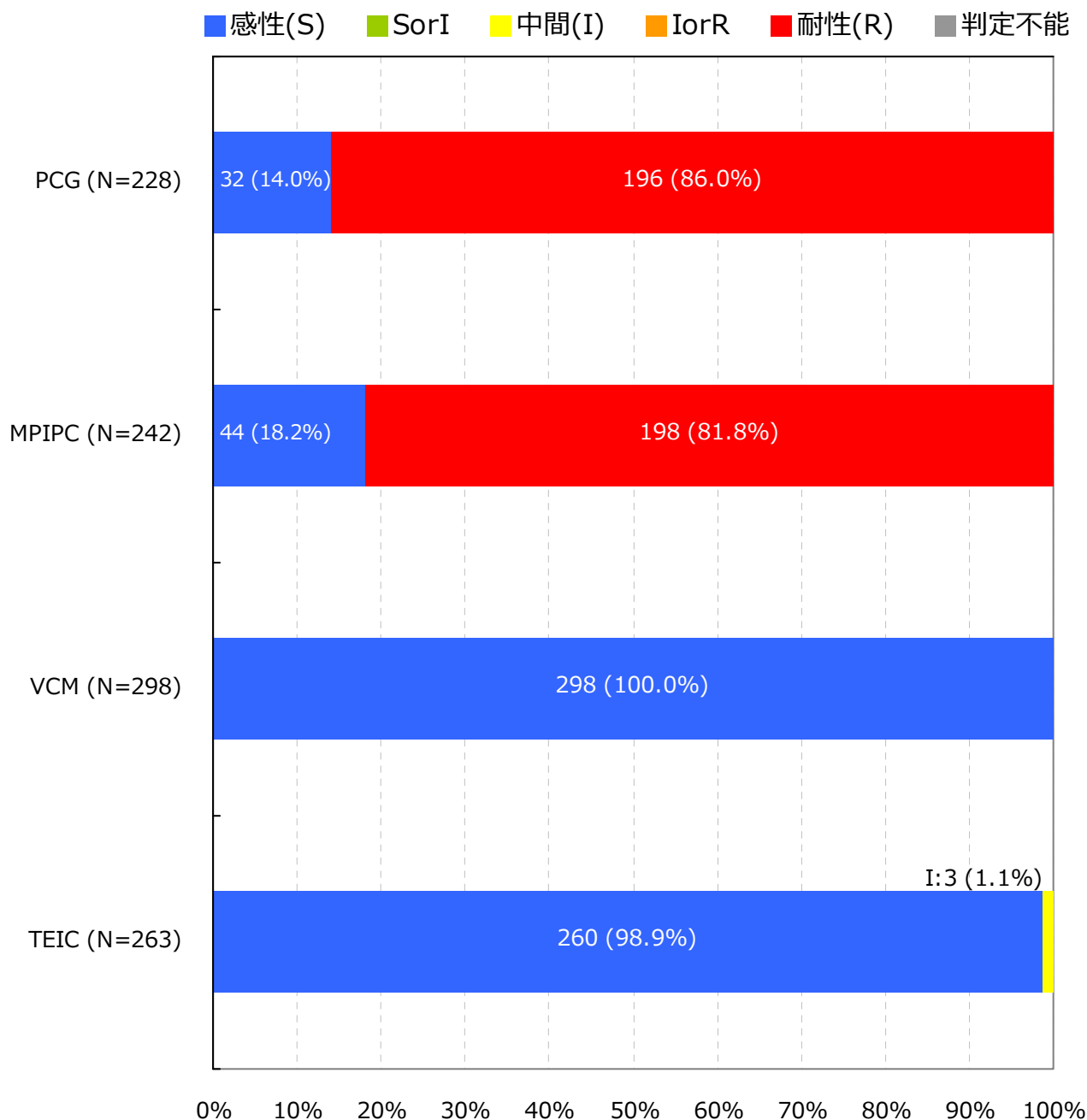
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

## Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



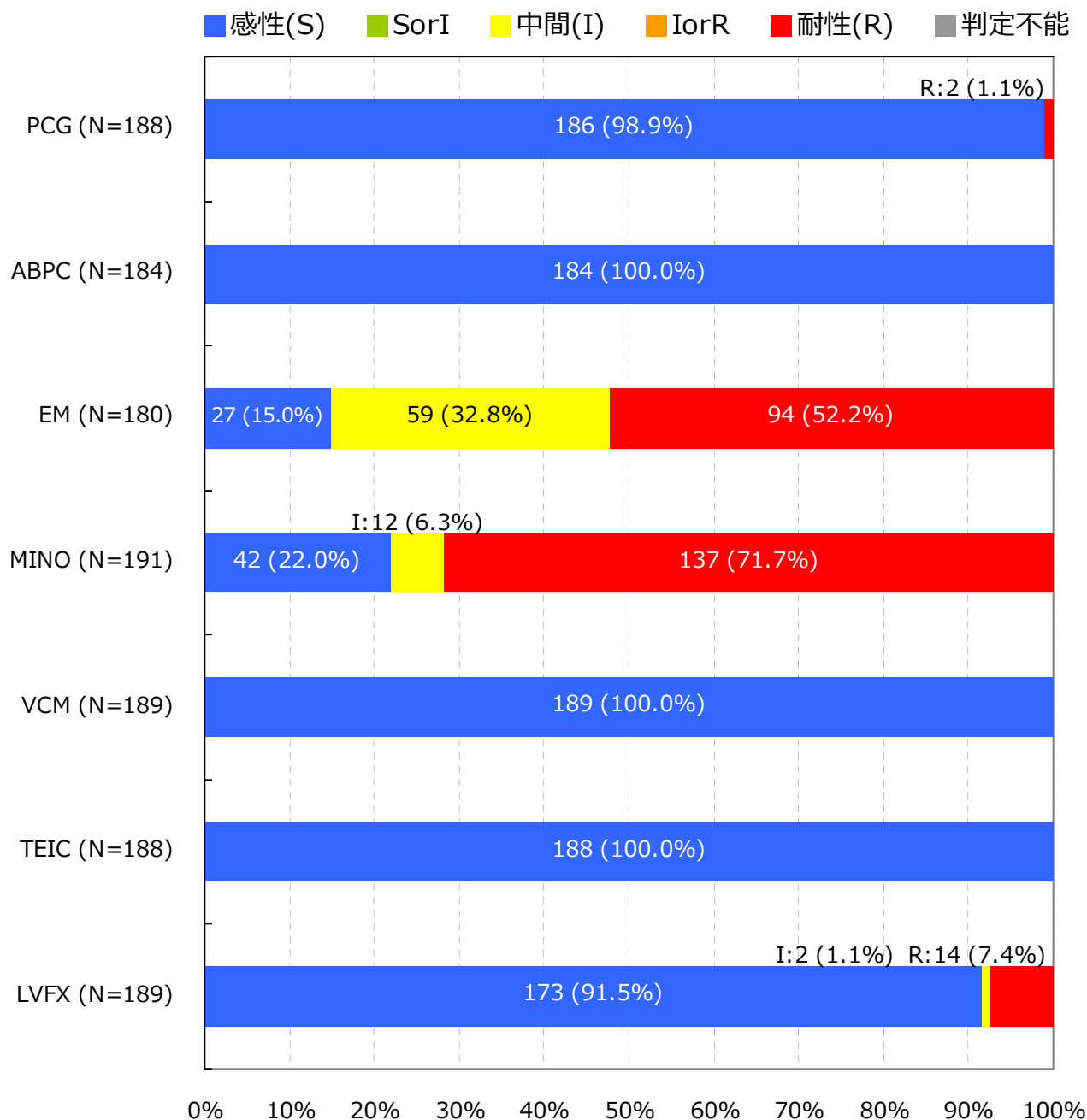
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecalis* †

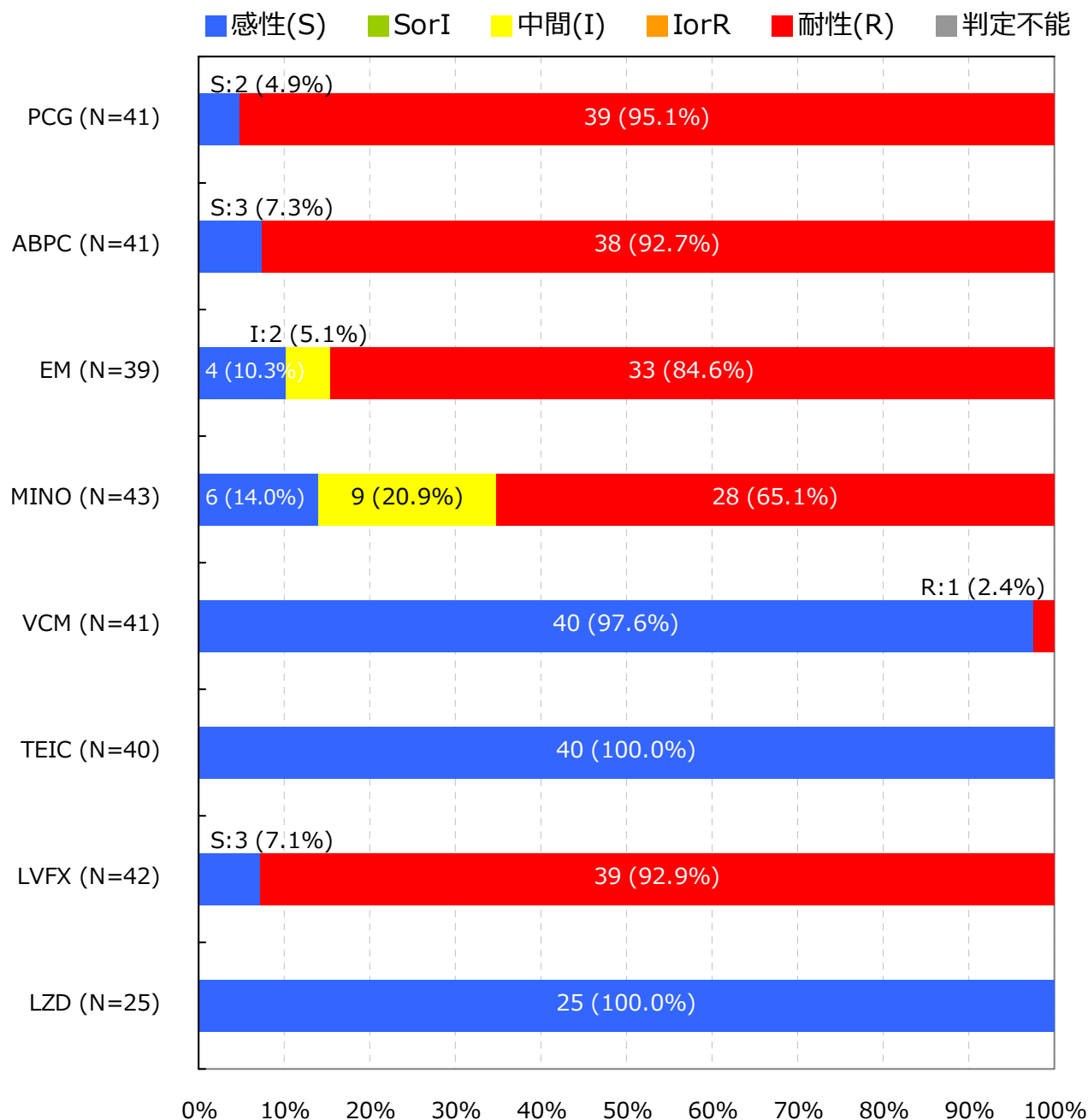
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterococcus faecium* †

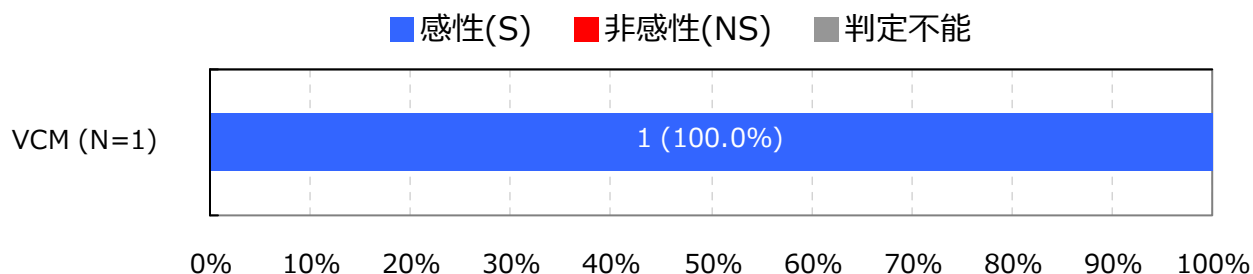
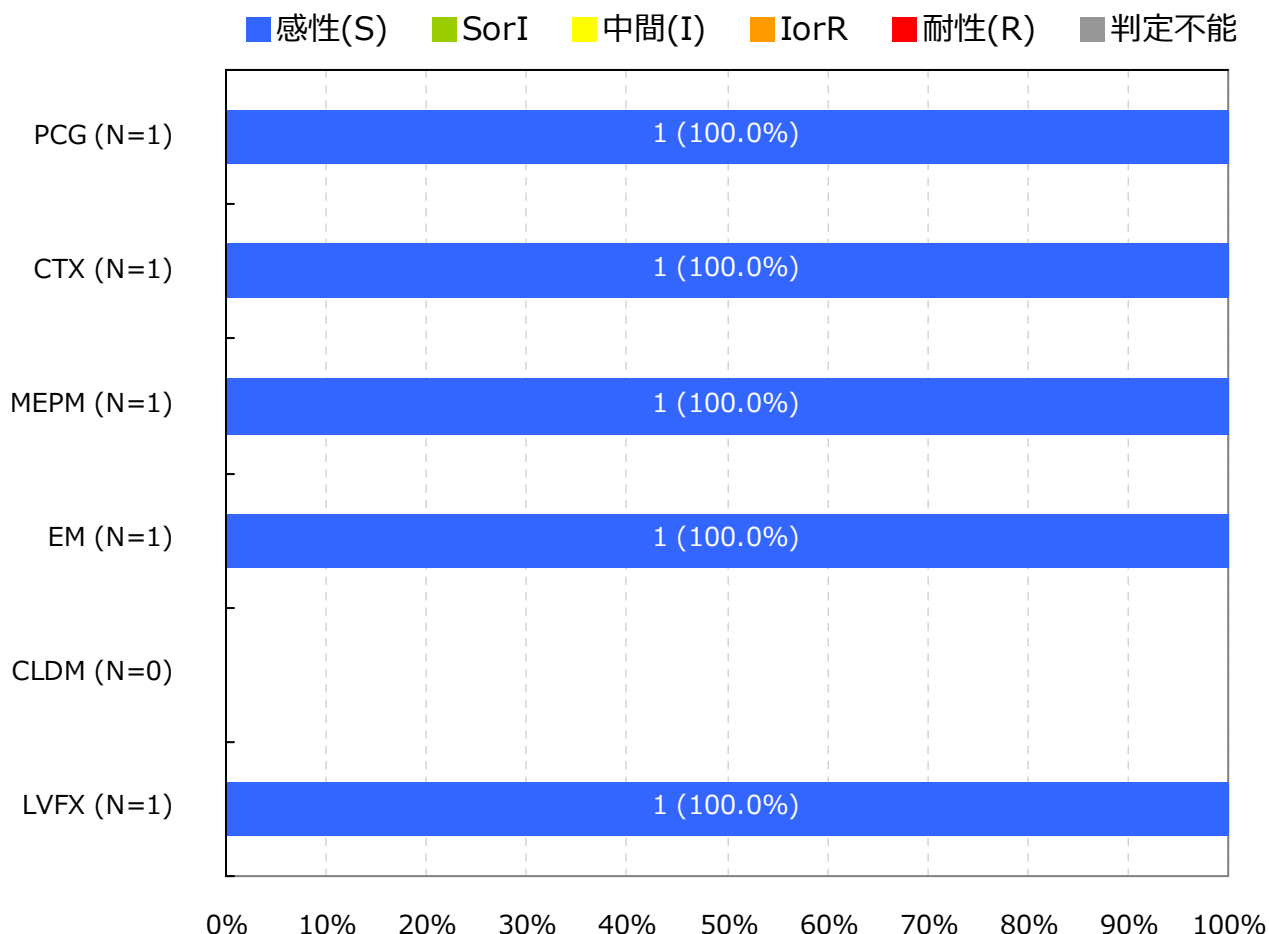
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1205, 1206と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体)†

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

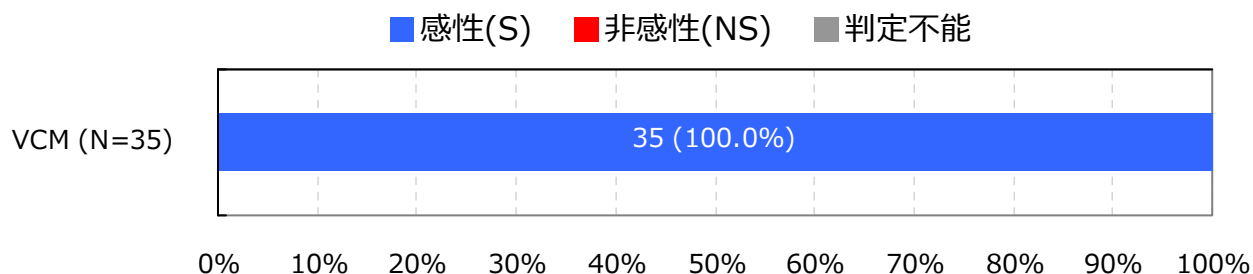
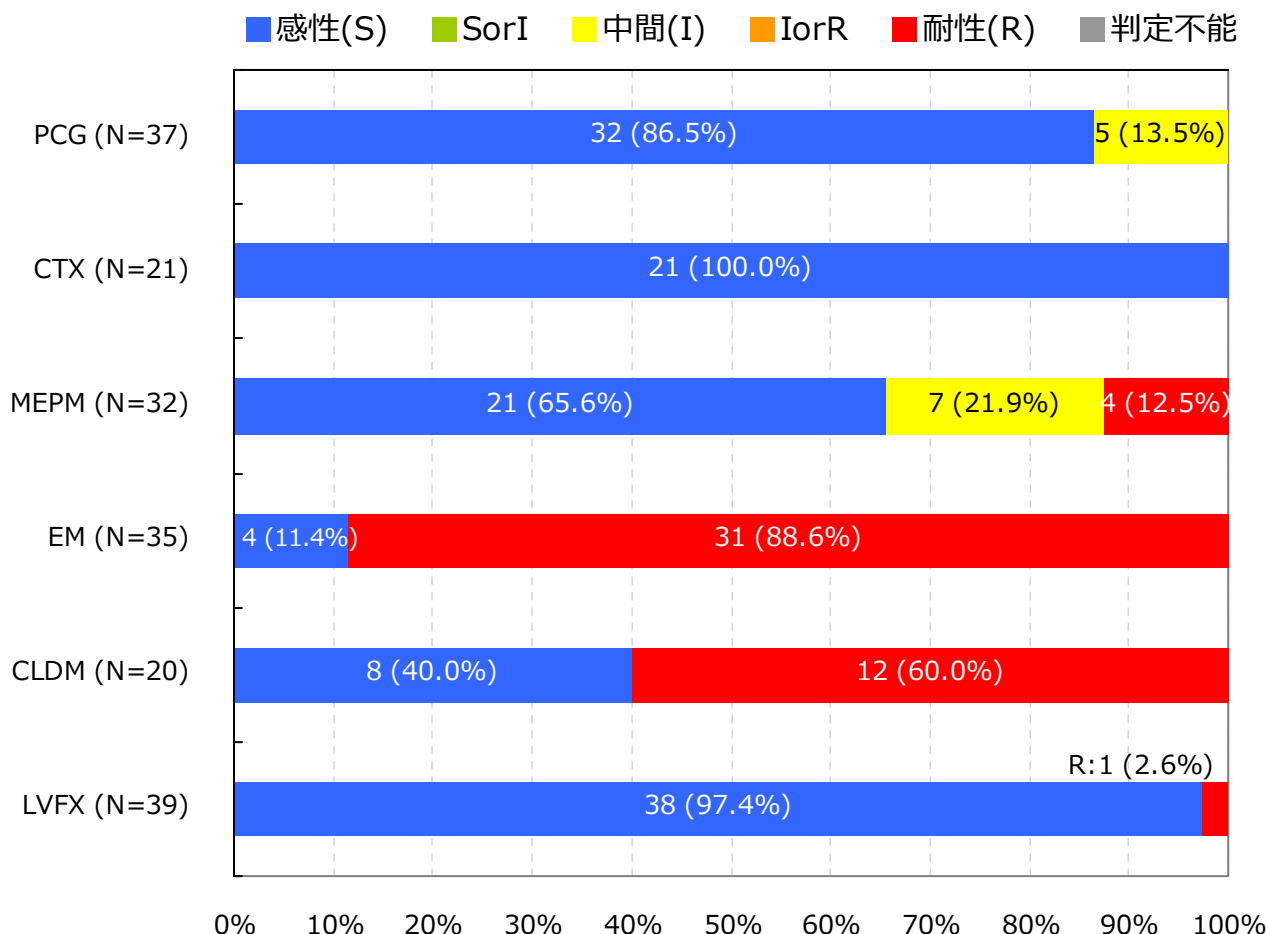
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外)†

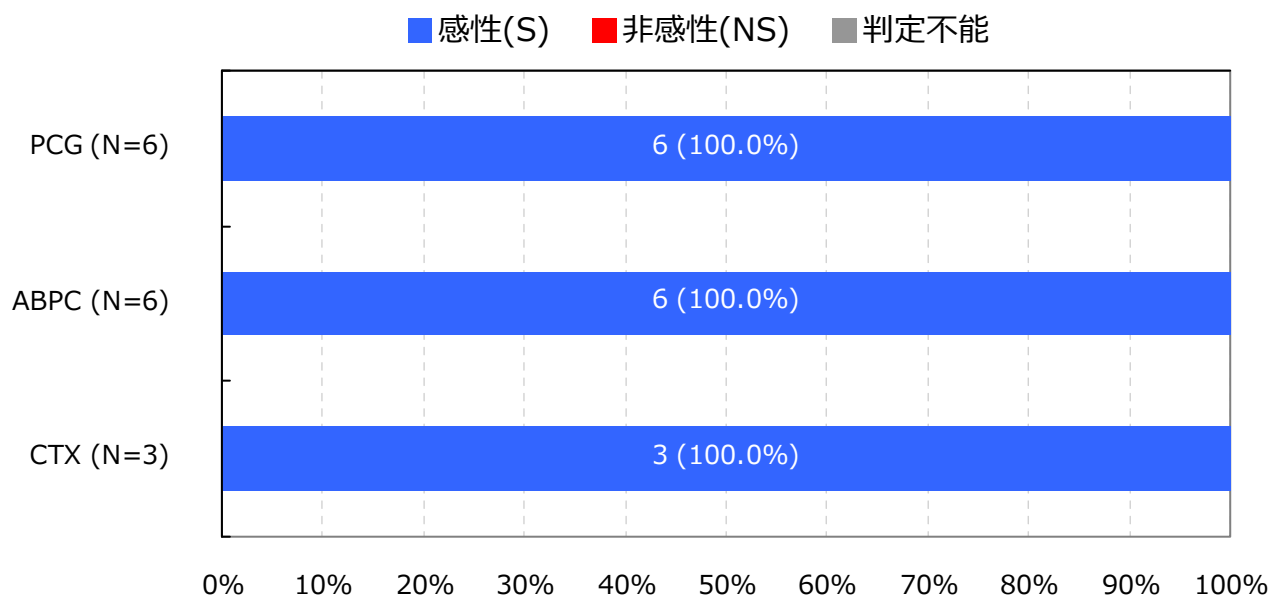
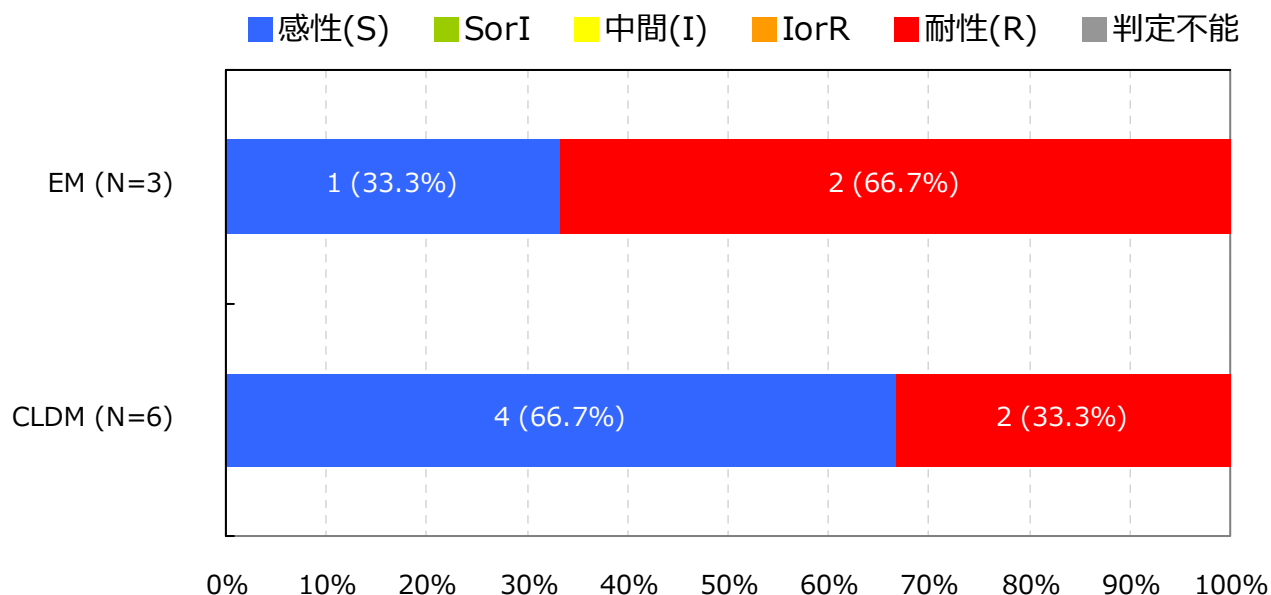
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pyogenes* †

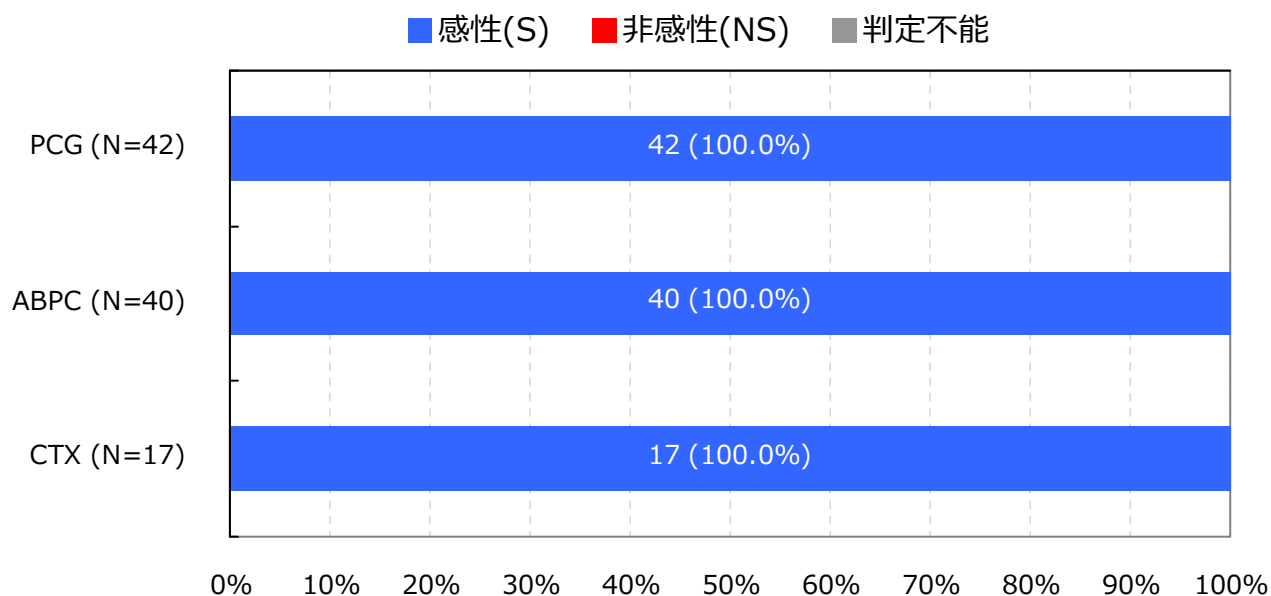
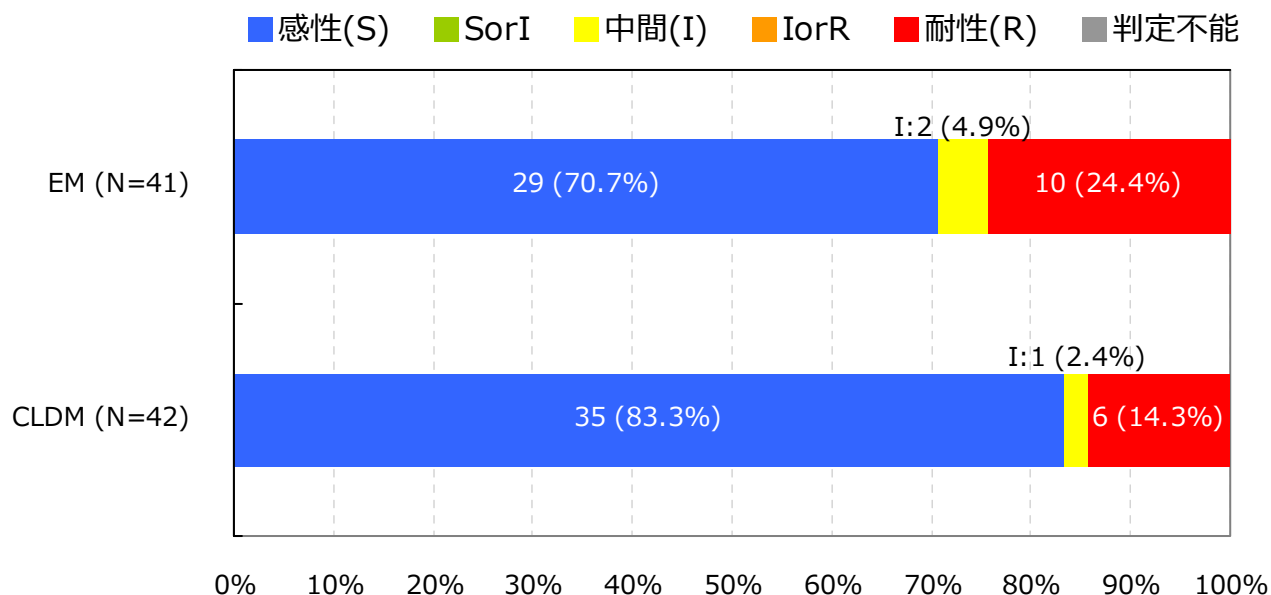
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus agalactiae* †

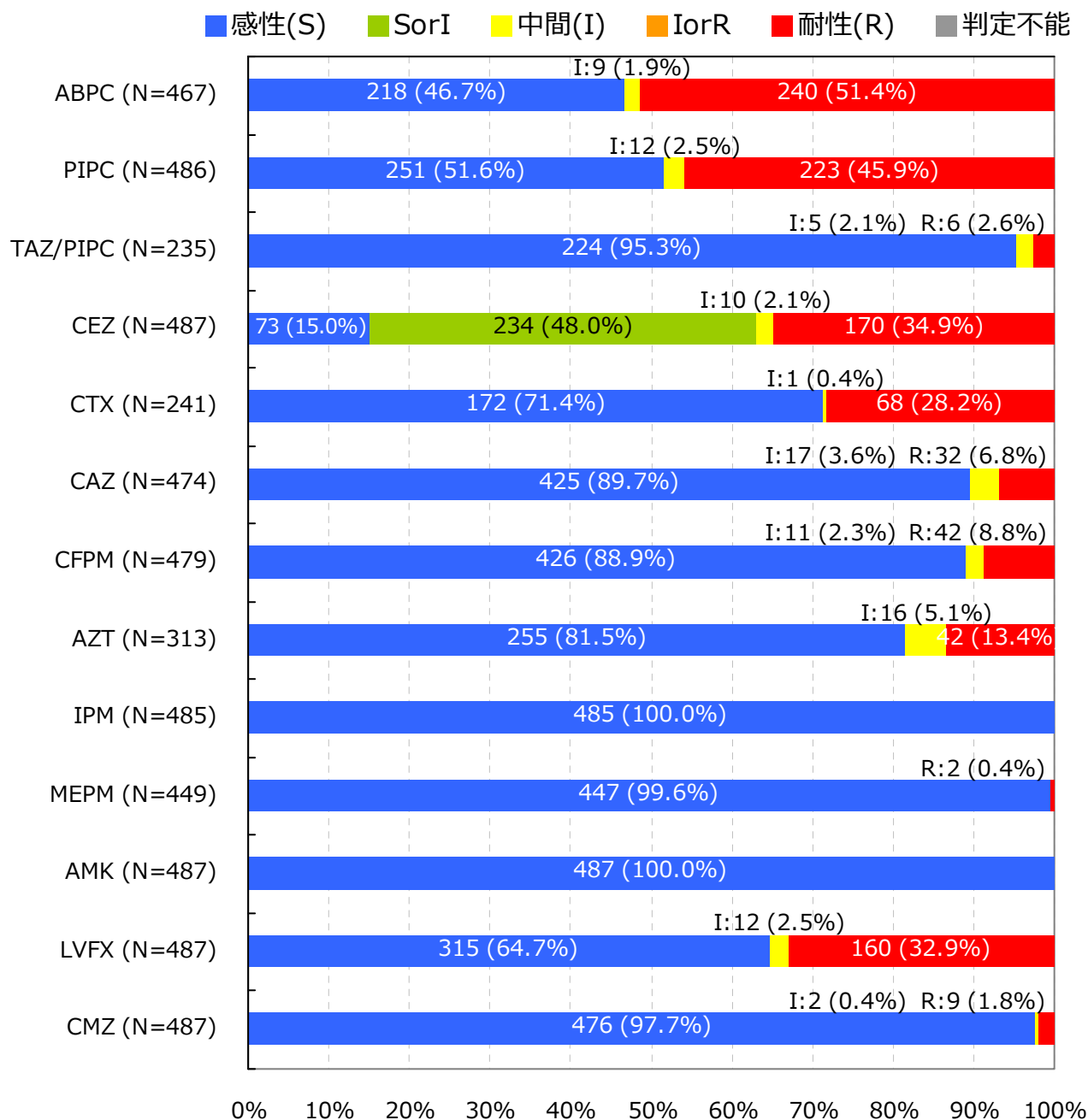
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Escherichia coli* †

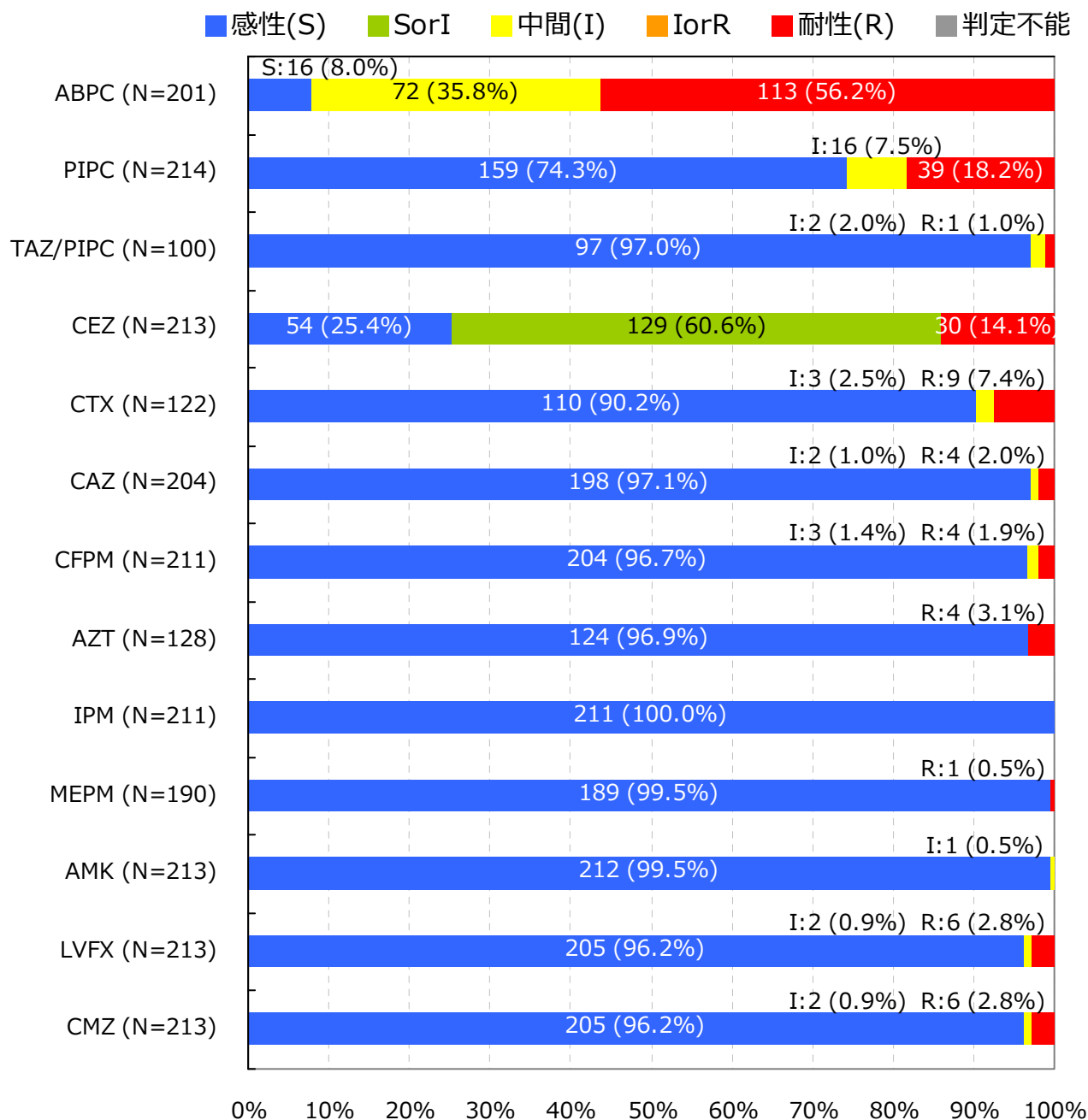
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †

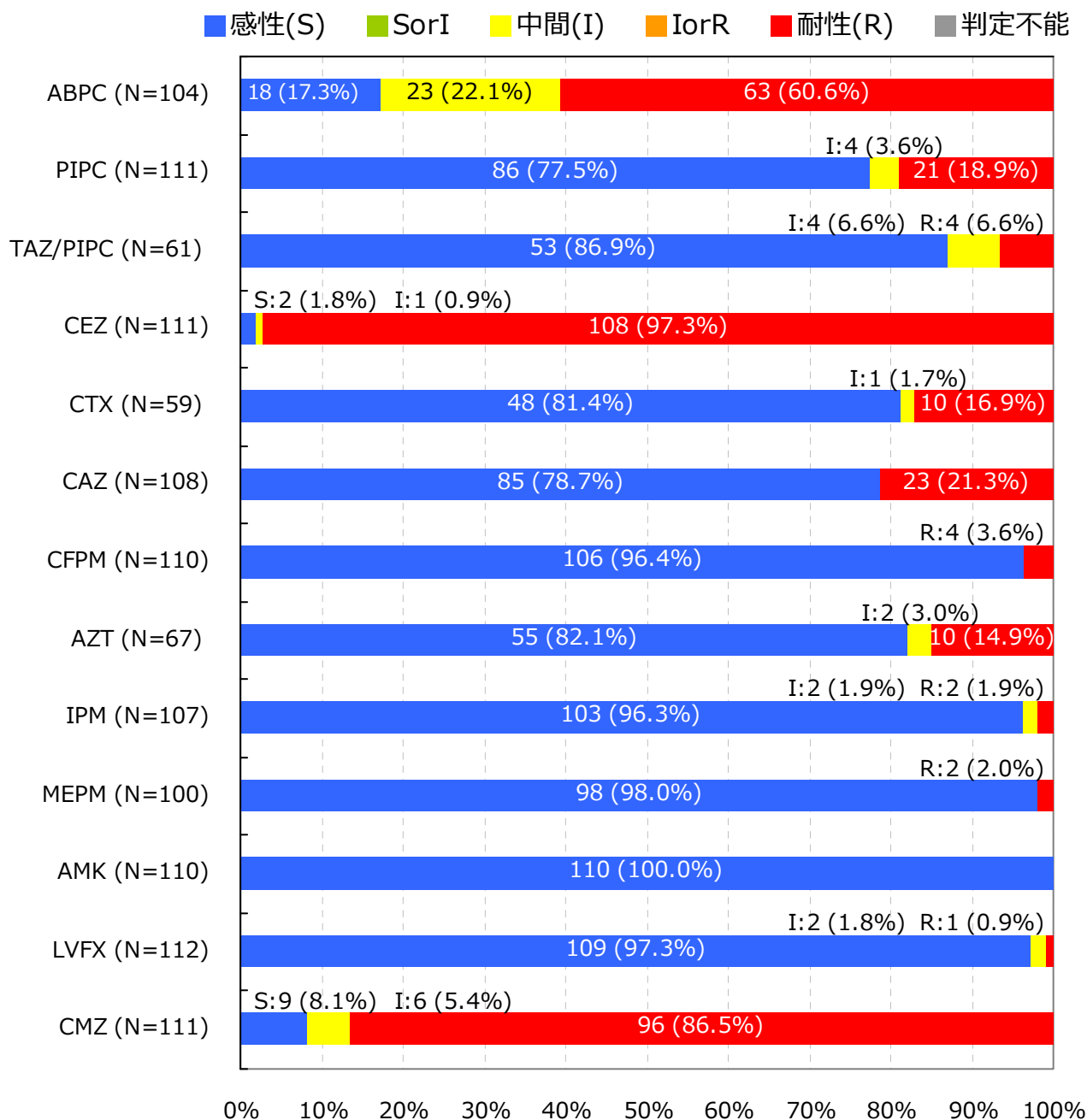
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2351と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter cloacae* †

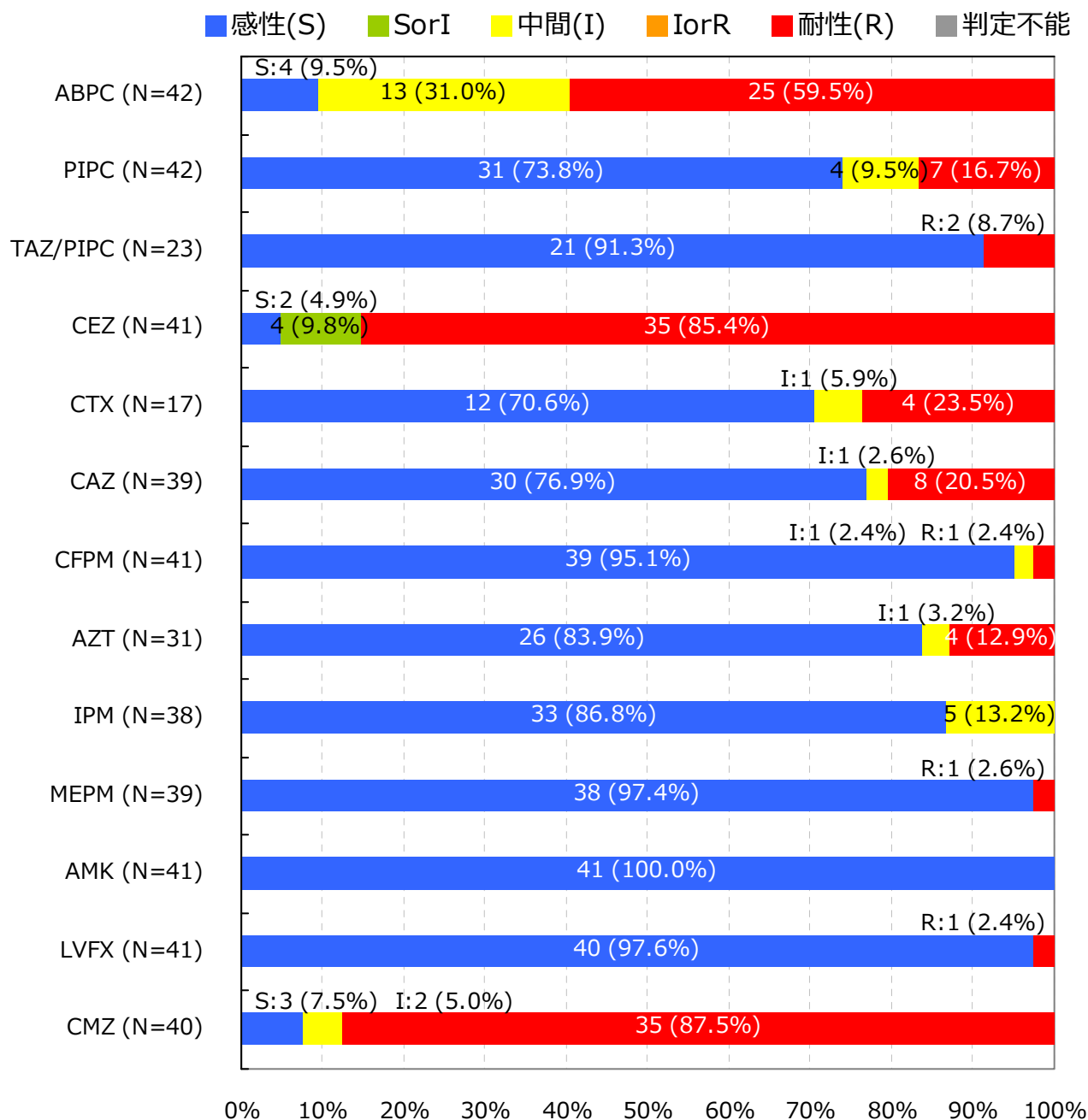
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2151と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Enterobacter aerogenes* †

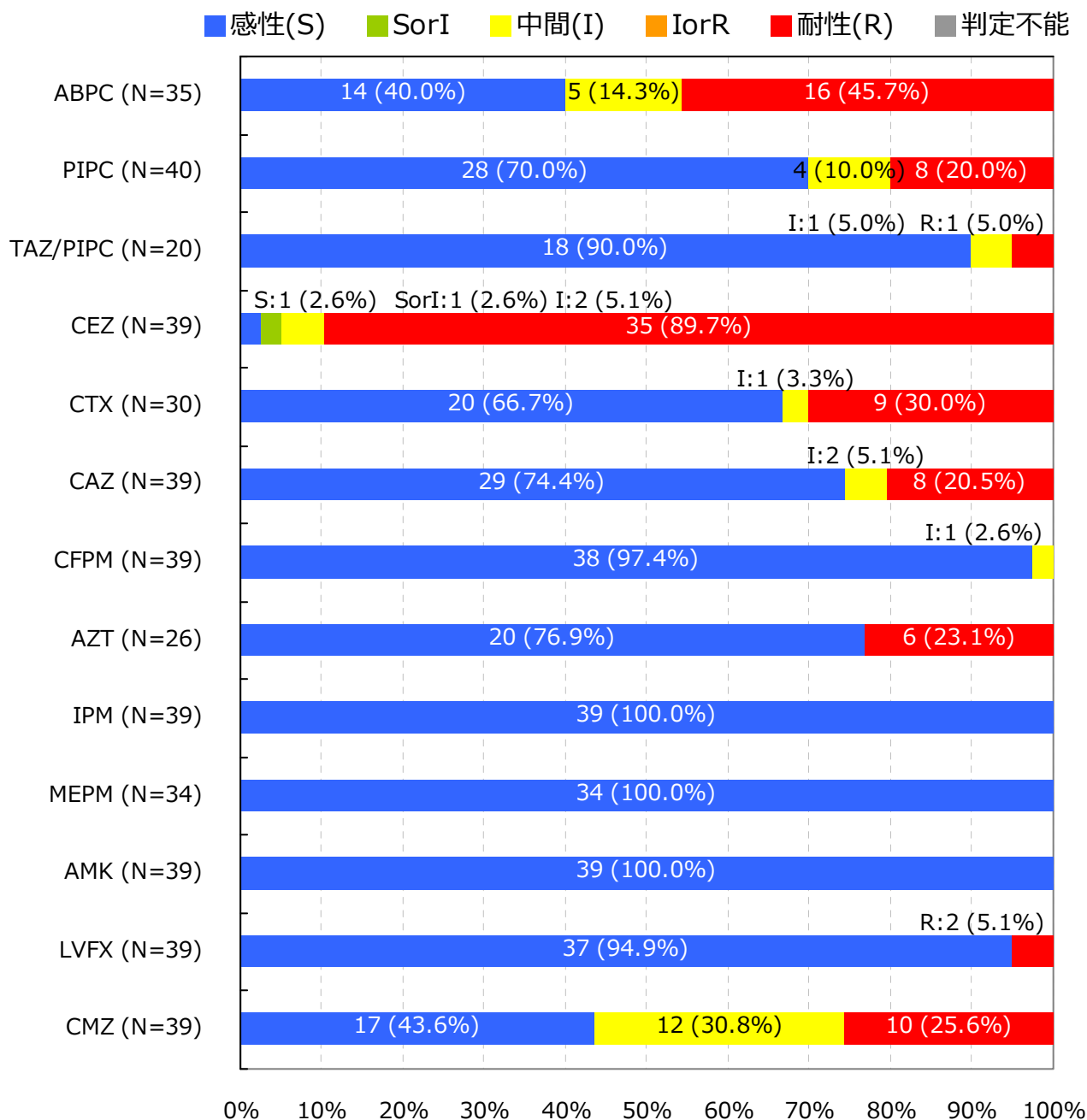
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter freundii* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

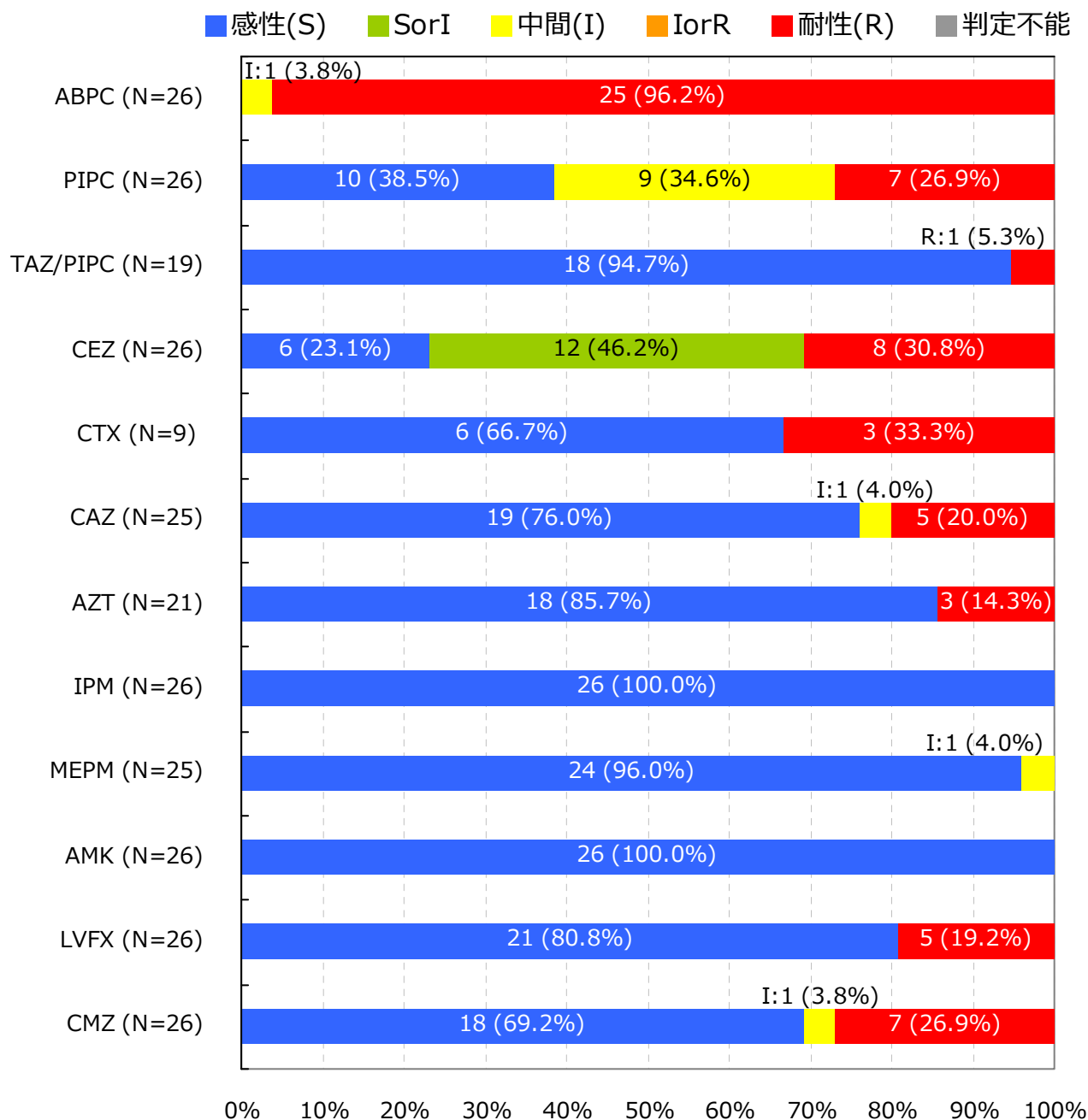
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2051と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Citrobacter koseri* †

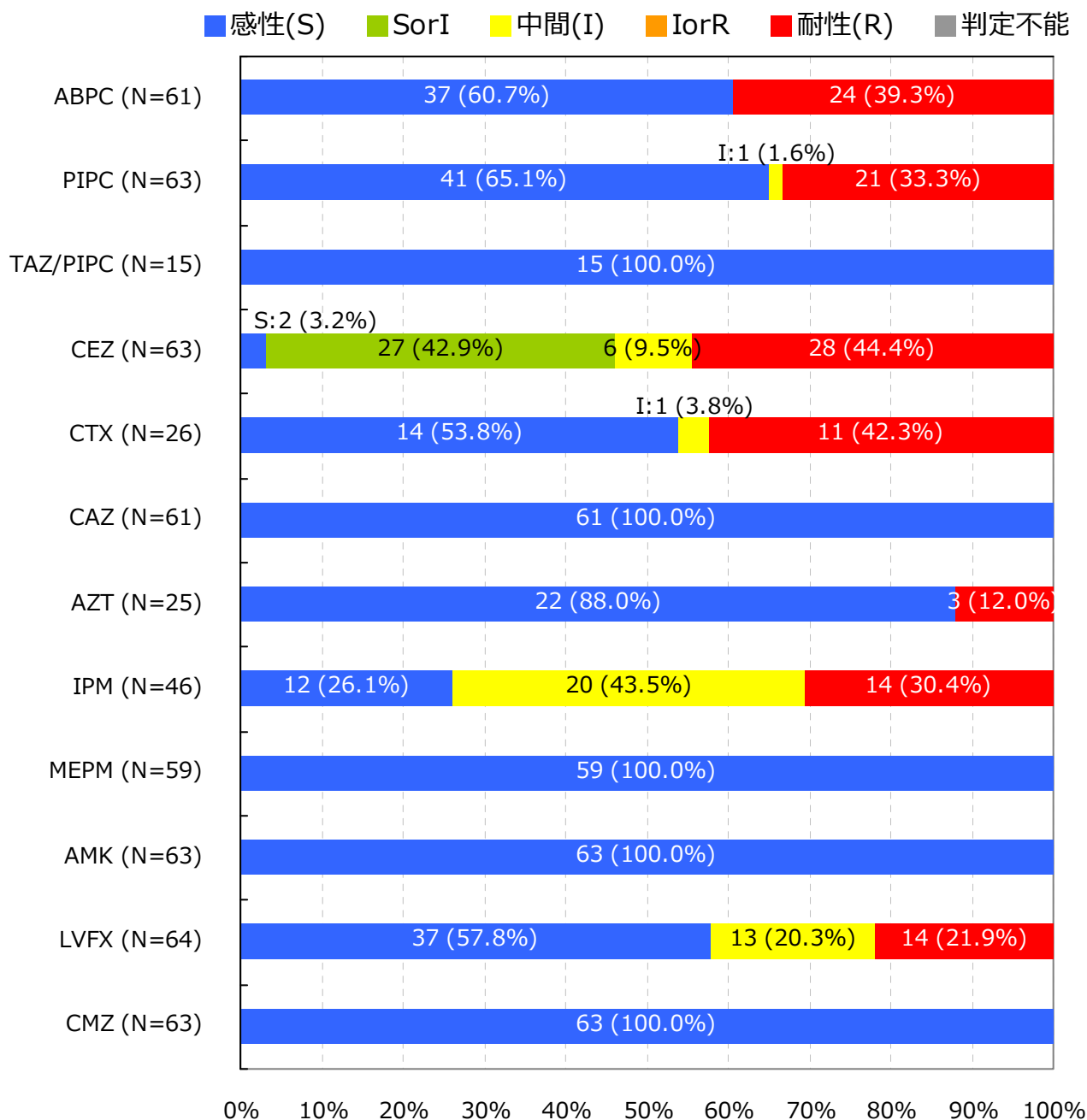
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus mirabilis* †

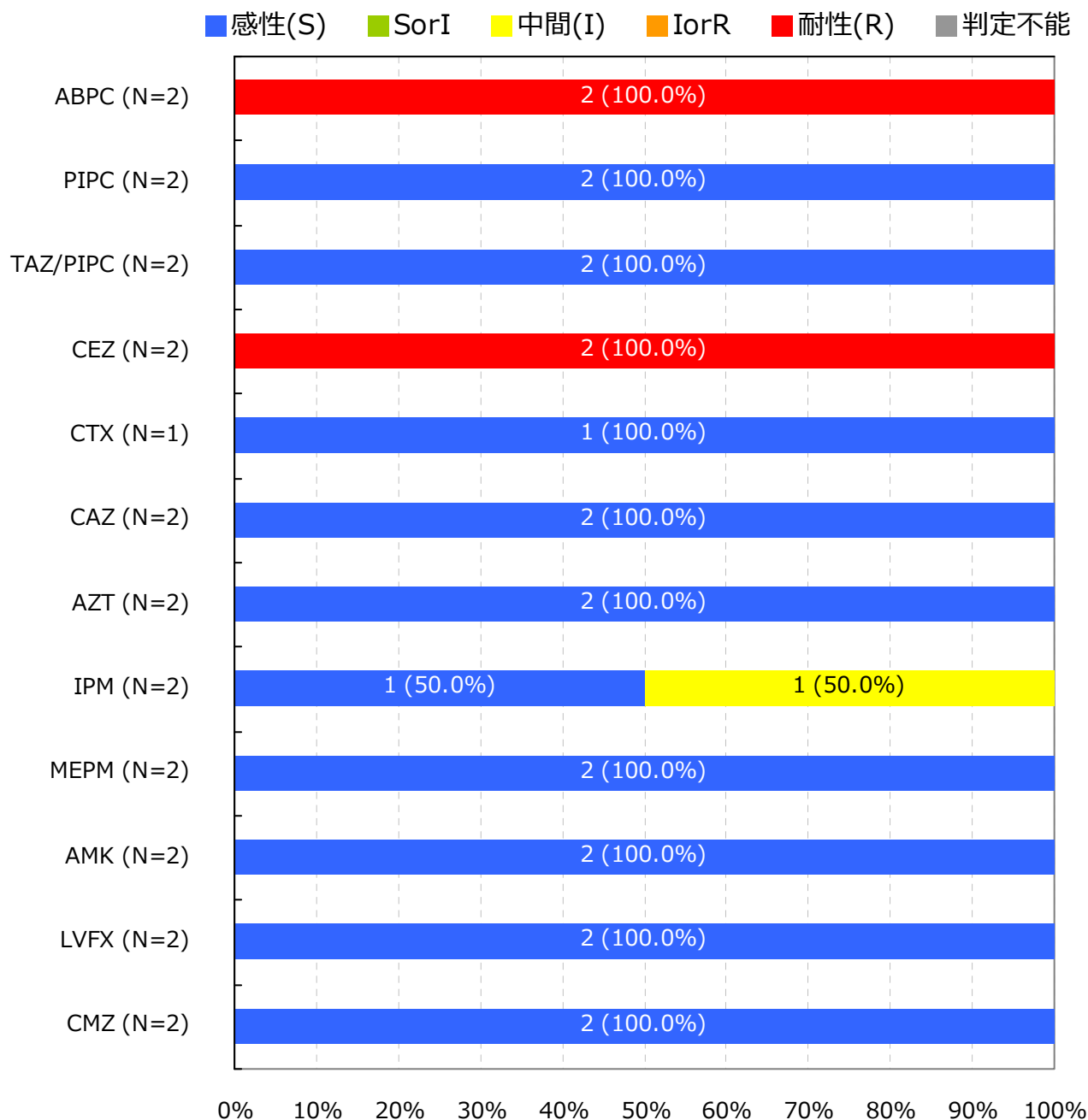
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Proteus vulgaris* †

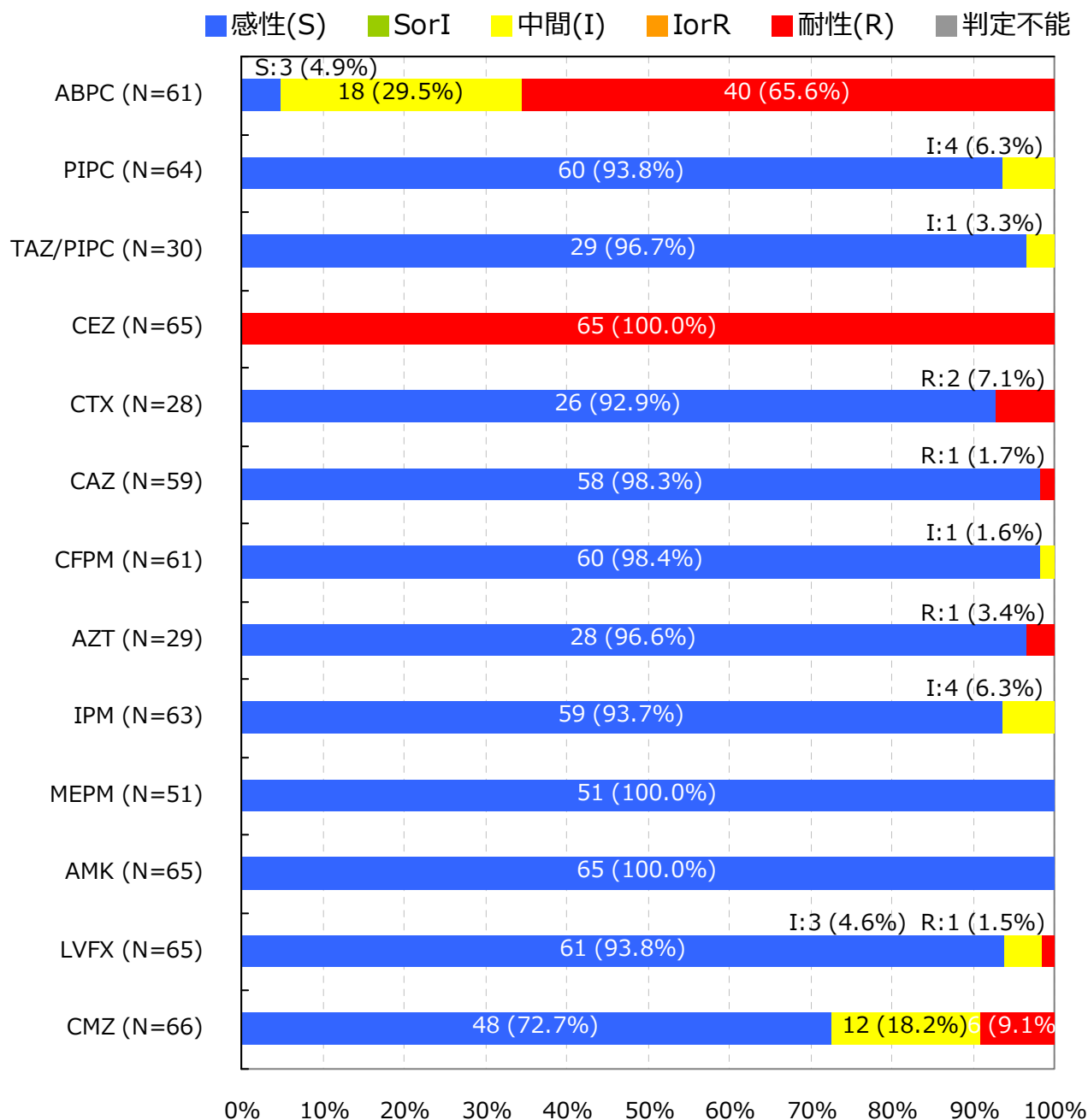
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †

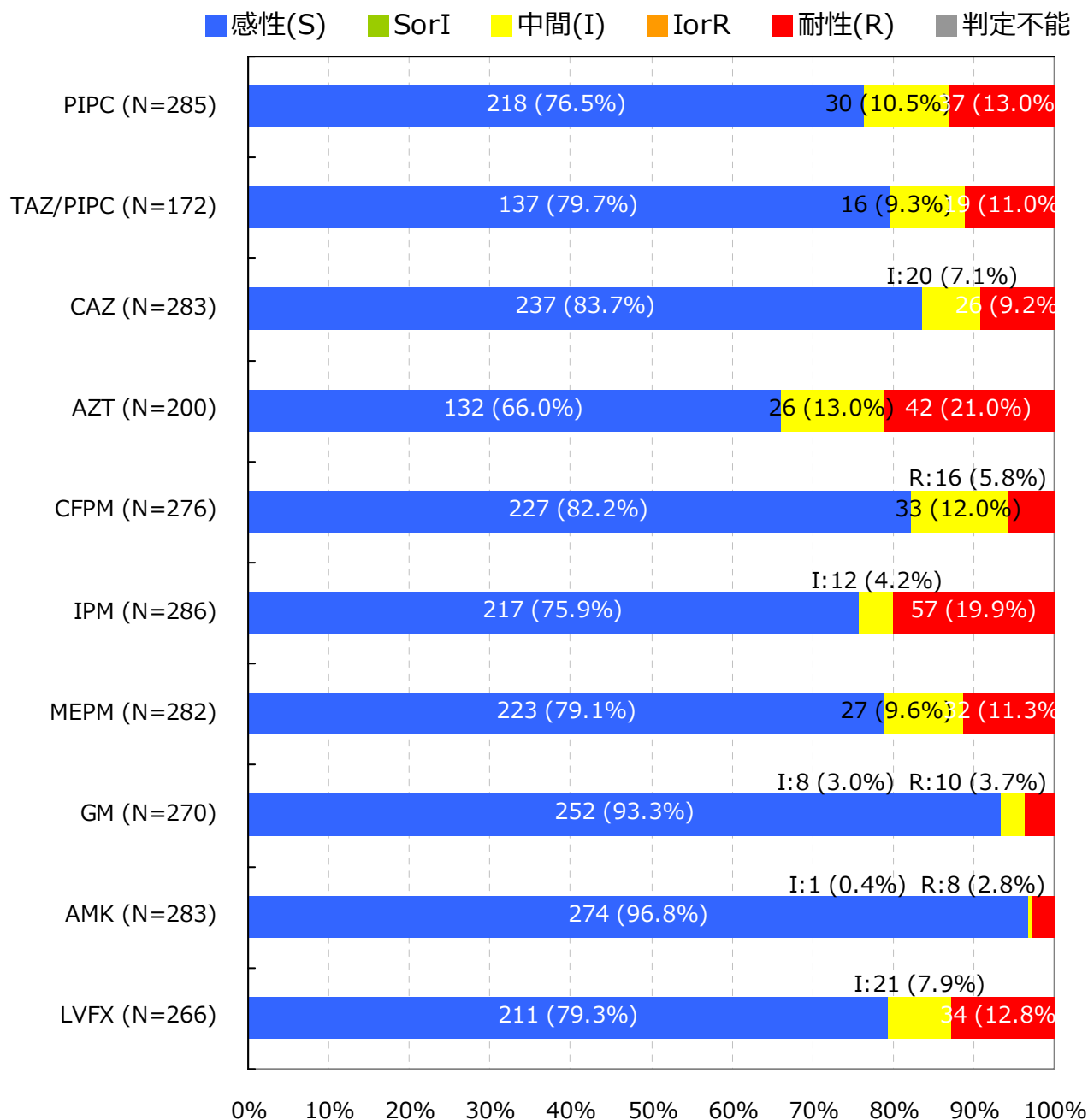
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Pseudomonas aeruginosa* †

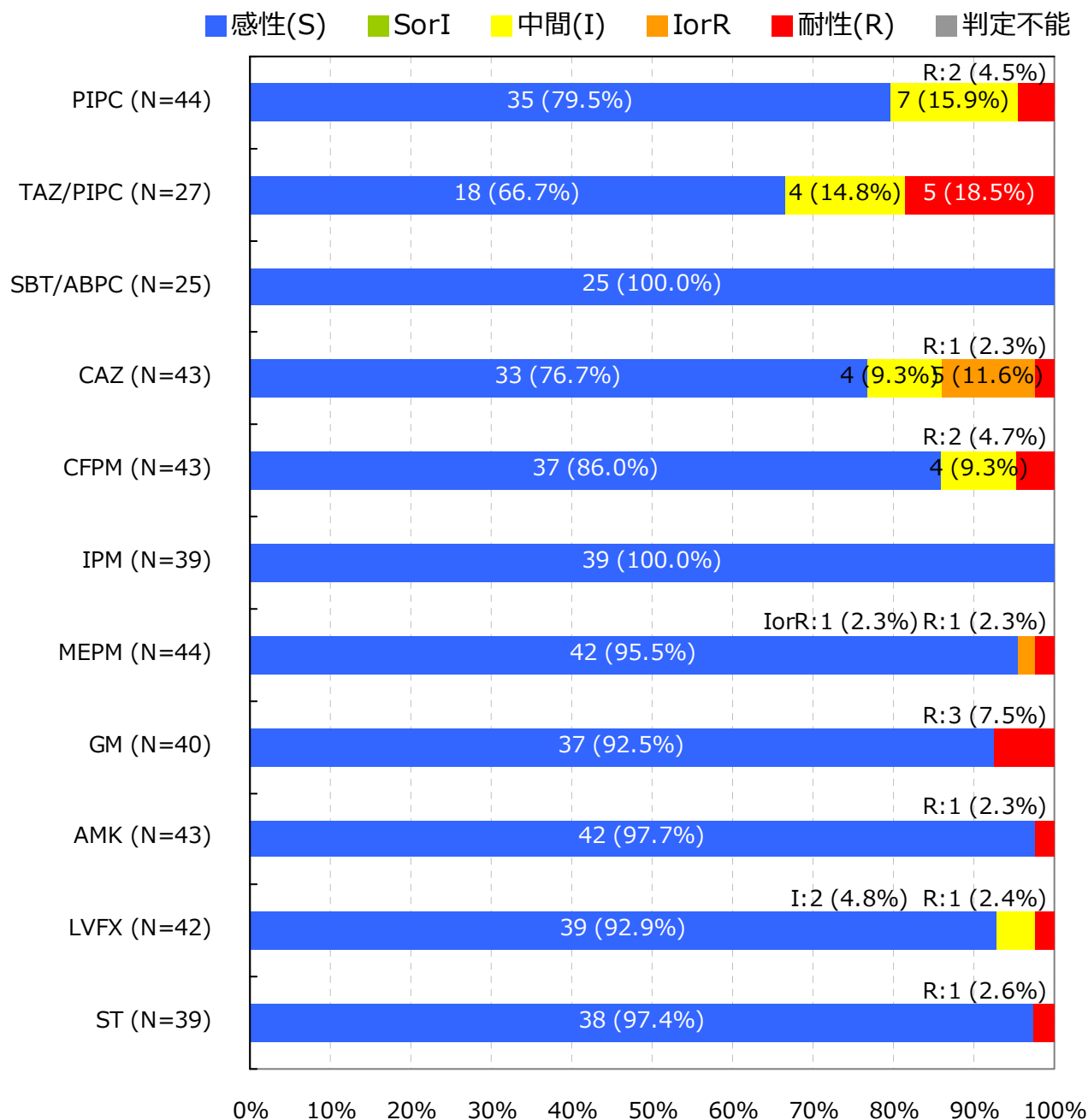
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Acinetobacter* spp. †

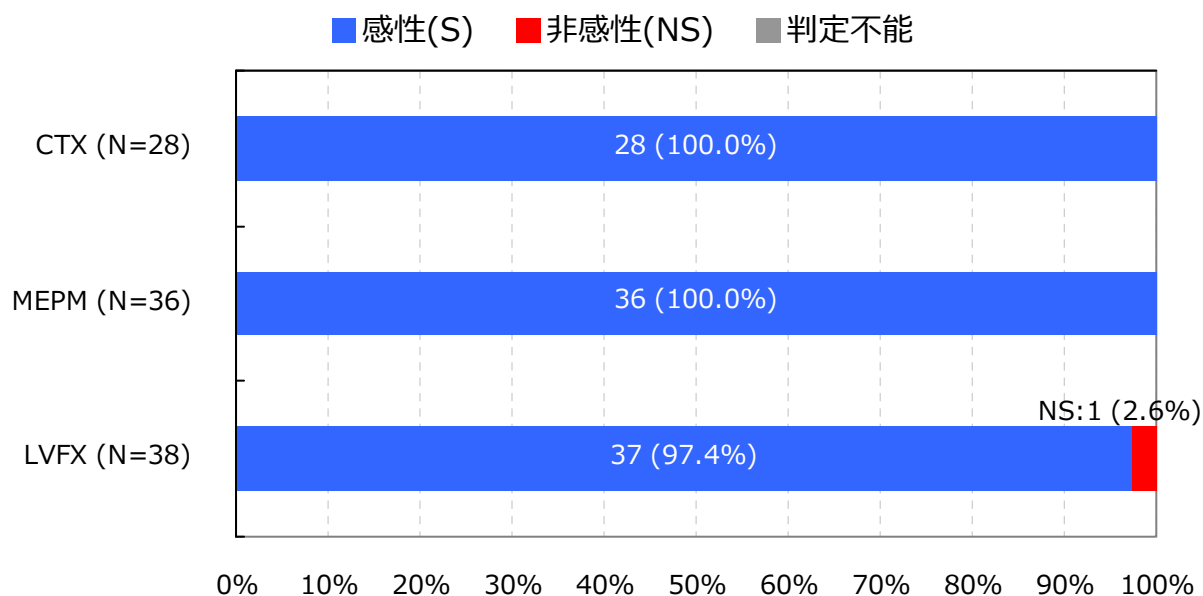
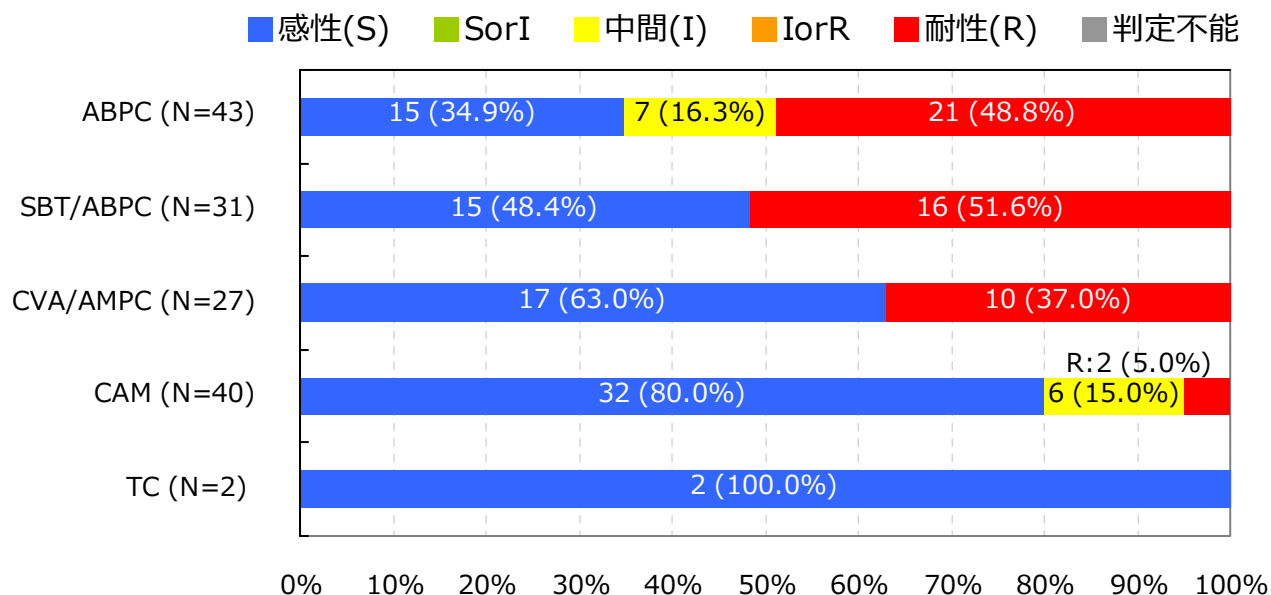
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Haemophilus influenzae* †

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC ≥4μg/ml	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で“R”の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM ≥16μg/ml	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・ VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・ 選択培地で VRE と確認された菌 注）種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp.は除く	VCM ≥16μg/ml †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG ≥0.125μg/ml †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系（IPM、MEPM の何れか）が“R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系（LVFX、CPFX、GFLX の何れか）が“R”	1.IPМ ≥16μg/ml †、 MEPM ≥16μg/ml † 2.AMK ≥32μg/ml † 3.LVFX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg /ml、 GFLX ≥8μg /ml	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が“R”	1.MEPM ≥2μg/ml † 2.IPМ ≥2μg/ml †かつ CMZ≥64μg/ml	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM ≥16μg/ml † MEPM ≥16μg/ml †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2351

菌名 ‡	概要 *	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が“R”の <i>Escherichia coli</i>	CTX ≥4μg/ml CAZ ≥16μg/ml	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系（NFLX、OFLX、LVFX、LFLX、GFLX、CPFX の何れか）が“R”の <i>E. coli</i>	NFLX ≥16μg/ml、 OFLX ≥8μg/ml、 LVFX ≥8μg/ml、 LFLX ≥8μg/ml、 GFLX ≥8μg/ml、 CPFX ≥4μg/ml	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012（M100-S22）に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA：Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA：Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE：Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP：Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP：Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA：Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE：Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（2015 年 1 月より集計開始）

2014 年 12 月分データまでは CLSI2007（M100-S17）、2015 年 1 月分データより CLSI2012（M100-S22）に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準（Ver.3.1）と 検査部門特定の耐性菌判定基準（Ver.4.1）を基に作成した。



## 【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。

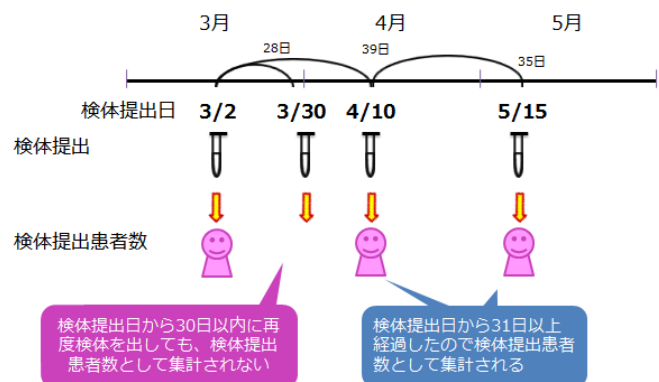
例)



### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。

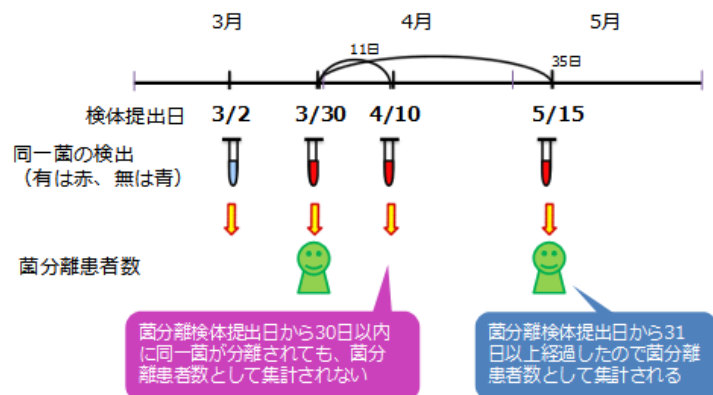
例)



### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

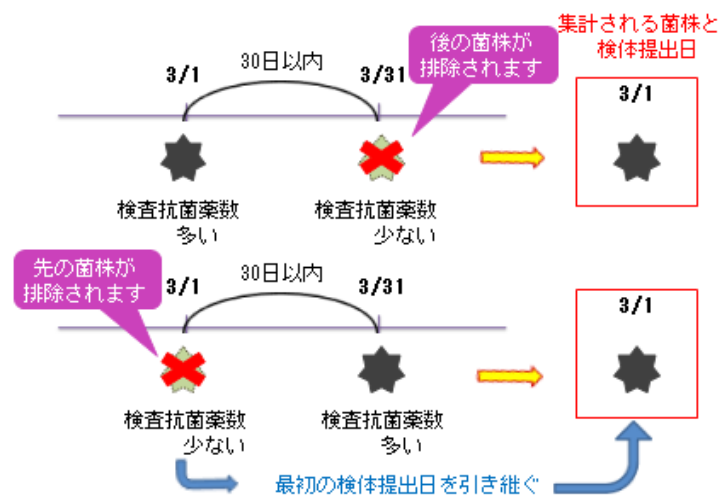
30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$  は  $MIC \geq 4$  と考え、判定時は  $MIC = 4$  として扱う  
また、 $MIC < 16$  は  $MIC \leq 16$  と考え、判定時は  $MIC = 16$  として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。

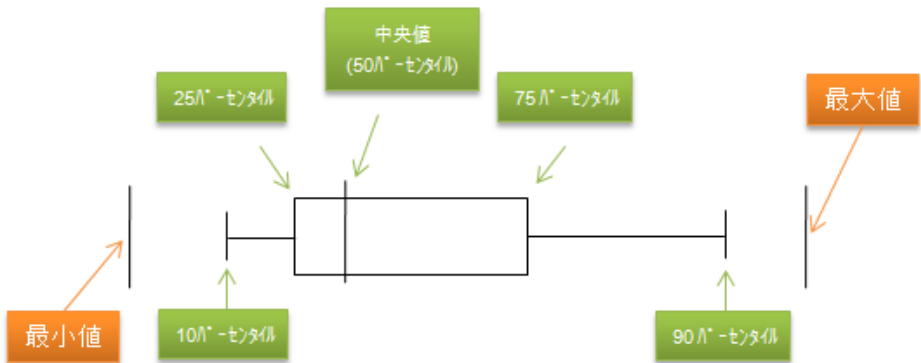
例)



## 【巻末資料 3 箱ひげ図について】

### 1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

### 2. 公開情報の箱ひげ図

